



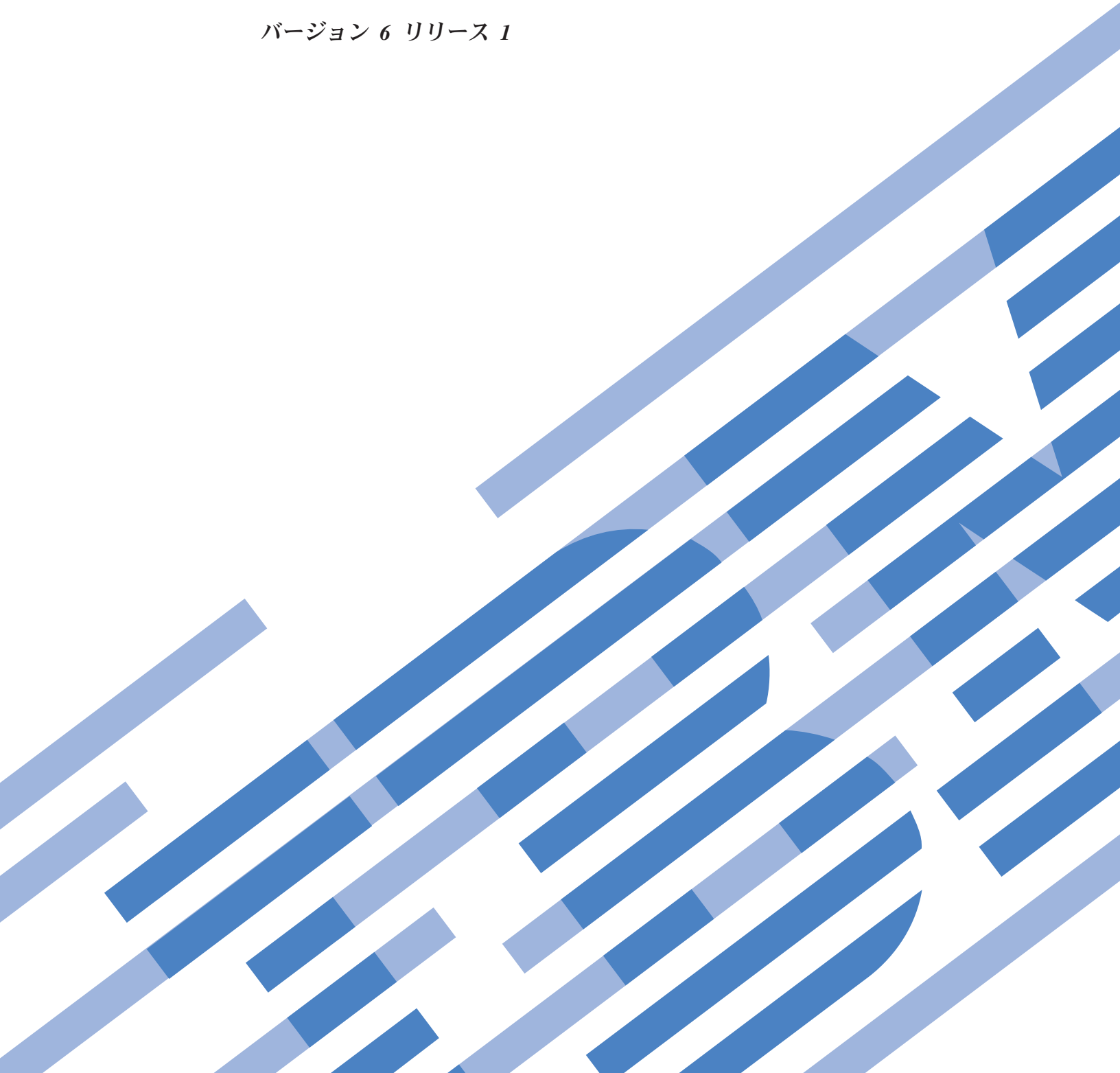
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、945 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
i5/OS commands
Starting with CHGDNSA (Change Domain Name System Server Attributes)
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

DNSサーバー属性の変更 (CHGDNSA) . . .	1
パラメーター	1
サーバー・インスタンス (DNSSVR)	1
自動開始サーバー (AUTOSTART)	1
デバッグ・レベル (DBGGLVL)	2
例	3
エラー・メッセージ	3
文書記述変更 (CHGDOCD)	5
パラメーター	5
文書 (DOC)	7
フォルダー (FLR)	7
ユーザー識別コード (USRID)	7
文書識別コード (DOCID)	8
機密性 (SENSITIV)	8
文書記述 (DOCD)	9
文書日付 (DOCDATE)	9
満了日 (EXPDATE)	9
処置期日 (ACTDATE)	9
完了日 (CMPDATE)	10
参照 (REFERENCE)	10
状況 (STATUS)	10
プロジェクト (PROJECT)	10
アクセス・コード (ACC)	11
権限リスト (AUTL)	11
ユーザー権限 (USRAUT)	12
オフラインのマーク (MARK)	13
置き換え可能 (ALWRPL)	13
検査 (CHKOUT)	14
作成者 (AUTHOR)	14
文書クラス (DOCCLS)	14
キーワード (KWD)	15
主題 (SUBJECT)	15
ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)	16
リスト・コピー (CPYLST)	16
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	16
文書文字識別コード (DOCCHRID)	17
言語識別コード (DOCLANGID)	17
国別または地域ID (DOCCNTRYID)	18
個人 (PERSONAL)	18
例	19
エラー・メッセージ	19
表示装置ファイル変更 (CHGDSPF)	21
パラメーター	21
ファイル (FILE)	22
表示装置 (DEV)	23
装置の最大数 (MAXDEV)	23
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	24
テキスト'記述' (TEXT)	24
拡張表示 (ENHDSP)	24

画面復元 (RSTDSP)	25
書き出し据え置き (DFRWRT)	25
文字識別コード (CHRID)	25
10進数形式 (DECfmt)	26
SFLENDテキスト (SFLENDTXT)	27
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	27
外字 (IGCEXNCHR)	27
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	28
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	28
データ待ち行列名 (DTAQ)	28
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	29
例	29
エラー・メッセージ	30
配布属性の変更 (CHGDSTA)	31
パラメーター	31
宛先の保存 (KEEPRCP)	31
ローカルMSFの使用 (USEMSFLCL)	32
SMTTPゲートウェイへの経路 (SMTPRTE)	32
例	32
エラー・メッセージ	33
配布記述変更 (CHGDSTD)	35
パラメーター	35
配布ID (DSTID)	36
配布IDエクステンション (DSTIDEXN)	37
注記 (COMMENT)	37
ユーザー識別コード (USRID)	37
機密性 (SENSITIV)	37
個人 (PERSONAL)	38
内容の重要性 (IMPORTANCE)	38
優先順位 (PTY)	39
文書記述 (DOCD)	39
文書日付 (DOCDATE)	39
満了日 (EXPDATE)	39
処置期日 (ACTDATE)	40
完了日 (CMPDATE)	40
参照 (REFERENCE)	40
状況 (STATUS)	40
プロジェクト (PROJECT)	41
言語識別コード (DOCLANGID)	41
国別または地域ID (DOCCNTRYID)	41
配布満了標識 (DSTEXPDATE)	42
作成者 (AUTHOR)	43
文書クラス (DOCCLS)	43
キーワード (KWD)	44
主題 (SUBJECT)	44
ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)	45
リスト・コピー (CPYLST)	45
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	45
文書文字識別コード (DOCCHRID)	46

例	46
エラー・メッセージ	47
配布リストの変更 (CHGDSTL)	49
パラメーター	49
リスト識別コード (LSTID)	49
リスト記述 (LSTD)	50
所有者 (OWNER)	50
例	50
エラー・メッセージ	50

IBM保守ツール・パスワード変更 (CHGDSTPWD) 53

パラメーター	53
パスワード (PASSWORD)	53
例	54
エラー・メッセージ	54

配布待ち行列の変更 (CHGDSTQ) 55

パラメーター	56
配布待ち行列 (DSTQ)	57
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	57
モード (MODE)	57
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	57
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	58
通常優先順位 (NRMPY)	58
高優先順位 (HIGHPTY)	59
再試行回数 (RTYNBR)	60
再試行間隔 (RTYITV)	60
受信中の送信 (SNDQ)	61
例	61
エラー・メッセージ	61

配布経路の変更 (CHGDSTRTE) 63

パラメーター	63
システム名 (SYSNAME)	64
高速サービス・レベル (FAST)	64
状況サービス・レベル (STATUS)	65
データ高サービス・レベル (DATAHIGH)	66
データ低サービス・レベル (DATALOW)	66
テキスト (TEXT)	67
例	67
エラー・メッセージ	67

データの変更 (CHGDTA) 69

エラー・メッセージ: CHGDTA	69
パラメーター	69
DFUプログラム (DFUPGM)	69
データベース・ファイル (FILE)	70
メンバー (MBR)	70
例	70
エラー・メッセージ	70

データ域変更 (CHGDTAARA) 73

パラメーター	74
データ域指定 (DTAARA)	74

新しい値 (VALUE)	75
例	75
エラー・メッセージ	76

構成項目変更 (CHGEMLCFGE) 79

パラメーター	79
構成項目 (EMLCFGE)	79
デバッグ・ジョブ (EMLDBGJOB)	80
信号の処理 (EMLSIG)	80
属性の処理 (EMLATR)	80
最大画面サイズ (EMLMAXSCR)	81
VLICトレース (EMLTRC)	81
印刷装置TRCJOBの開始 (EMLSTR)	81
初期画面 (EMLINLSCN)	82
罫線 (EMLGRDLIN)	82
グラフィックスDBCS (EMLDBCS)	82
印刷出力の形式設定 (EMLPRTFMT)	83
消去処理 (EMLSNACLR)	83
罫線バッファ (EMLBUF)	83
生成された条件付きVLOG (EMLVLG)	84
SCSコマンド・エラーの処理 (EMLSCS)	84
5250の数字ロックの強制 (EMLNML)	84
SNA アンバインド・メッセージの送信 (EMLMSG)	84
例	85
エラー・メッセージ	85

環境変数変更 (CHGENVVAR) 87

パラメーター	87
環境変数 (ENVVAR)	87
初期値 (VALUE)	87
コード化文字セットID (CCSID)	88
レベル (LEVEL)	88
例	88
エラー・メッセージ	89

EWCバーコード項目の変更 (CHGEWBCDE) 91

パラメーター	91
バーコード・グループ (BCDGRP)	92
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	92
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	92
バーコード・タイプ (BCDTYPE)	93
ラベルの長さ (LBLLEN)	94
最初のチェック・ディジット (CHK1DIGIT)	94
2番目のチェック・ディジット (CHK2DIGIT)	95
すべてゼロ (ALLZERO)	95
英字画面 (ALPHADSP)	95
追加 2 (ADDON2)	95
追加 5 (ADDON5)	96
システム1 UPC-E (SYS1UPCE)	96
システム0 UPC-E (SYS0UPCE)	96
UPC-E (UPCE)	97
EAN 13 (EAN13)	97
拡張文字セット (EXT3OF9)	97
追加 (ADDON)	98
ドロップ開始 (DROPBEGIN)	98

ドロップ終了 (DROPEND)	98
テキスト'記述' (TEXT)	98
例	99
エラー・メッセージ	99

無線CTLメンバー変更 (CHGEWCM) 101

パラメーター	101
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	102
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	102
宛先ID (TXPADR)	102
転送ポート (TXPPORT)	103
テキスト'記述' (TEXT)	103
キーボード再マップ・ソース・メンバー (KBDMAPMBR)	103
画面形式変換規則メンバー (SCNFMTMBR)	104
キーボード再マップ・ソース・ファイル (KBDMAPFILE)	104
画面再形式変換規則ファイル (SCNFMTFILE)	104
例	105
エラー・メッセージ	105

EWC PTC項目の変更 (CHGEWCPTCE) 107

パラメーター	107
PTCグループ (PTCGRP)	108
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	108
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	109
PTC IDの範囲 (PTCRANGE)	109
輝度 (INTENSITY)	110
状況表示行 (STSLINE)	110
カーソル・タイプ (CSRTYPE)	110
非活動タイマー (INACTTMR)	110
バックライト・タイマー (BCKLTTMR)	111
バックライト・キー (BCKLTKEY)	111
出口のう回 (BYPASSEXIT)	111
自動実行 (AUTORUN)	112
印刷装置 (PRINTER)	112
ワンド・タイプ (WANDTYPE)	112
ワンド・ペッキング速度 (PECKRATE)	113
レーザー読み取りタイマー (LASERTMR)	113
バーコード機能キー (BCDFKEY)	113
自動入力 (AUTOENTER)	113
カーソル位置 (CSRLOC)	114
短時間走査 (SHORTSCAN)	114
ファイルの終わりの走査 (SCANEOF)	114
高速ポーリング間隔 (POLL)	115
高速ポーリング遅延 (POLLDLY)	115
高速ポーリング減衰 (POLLDECAY)	115
低速ポーリング間隔 (SLOWPOLL)	116
宛先ホップ (DESTHOP)	116
バーコード・グループ (BCDGRP)	118
テキスト'記述' (TEXT)	118
キーボード再マップ使用可能 (ENBKBDMAP)	118
画面形式変更使用可能 (ENBSCNFMT)	119
装置名接頭部 (DEVVPFX)	119
例	119
エラー・メッセージ	119

無線回線メンバーの変更 (CHGEWLM) 121

パラメーター	121
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	121
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	122
アダプター構成 (ADPTCFG)	122
ホップID (HOPID)	122
ルート・セル (ROOT)	123
頻度 (FREQUENCY)	123
データ速度 (DATARATE)	124
無線システムID (SYSID)	124
テキスト'記述' (TEXT)	125
例	125
エラー・メッセージ	125

満了スケジュール項目の変更

(CHGEXPSCDE) 127

パラメーター	127
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	128
満了日 (EXPDATE)	128
処置 (ACTION)	128
所有オブジェクト・オプション (OWNOBJOPT)	128
1次グループ・オプション (PGPOPT)	129
例	130
エラー・メッセージ	130

機能使用法の変更 (CHGFCNUSG) . . . 131

パラメーター	131
機能ID (FCNID)	131
ユーザー (USER)	131
使用法 (USAGE)	132
省略時の権限 (DEFAULT)	132
*ALLOBJ特殊権限 (ALLOBJAUT)	132
例	133
エラー・メッセージ	133

フォント資源の変更 (CHGFNTRSC) 135

パラメーター	135
フォント資源 (FNTRSC)	136
印刷装置でのホスト・フォント取込 (FNTCAPTURE)	136
フォント資源データ (FNTRSCDTA)	136
例	137
エラー・メッセージ	137

フォント・テーブル項目の変更

(CHGFNTTBL) 139

パラメーター	140
フォント・テーブル (FNTTBL)	141
印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)	142
印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)	144
ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)	145
ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)	148
印刷装置相互間フォント (PPFCS)	148
例	150
エラー・メッセージ	151

フィルターの変更 (CHGFTR)	153
パラメーター	153
フィルター (FILTER)	153
テキスト'記述' (TEXT)	153
例	154
エラー・メッセージ	154
グループ属性変更 (CHGGRPA)	155
パラメーター	155
グループ・ジョブ (GRPJOB)	155
MSG 待ち行列 (MSGQ)	156
テキスト'記述' (TEXT)	156
例	157
エラー・メッセージ	157
HLLポインター変更 (CHGHLLPTR)	159
パラメーター	159
変更するポインター (PTR)	160
コピーするポインター (REFPTR)	160
指すアドレス (ADR)	161
プログラム (PGM)	162
反復レベル (RCRLVL)	162
例	163
エラー・メッセージ	163
ICF装置項目変更 (CHGICFDEVE)	165
パラメーター	165
ICF通信ファイル (FILE)	166
プログラム装置 (PGMDEV)	167
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	167
通信タイプ (CMNTYPE)	167
装置 (DEV)	168
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	168
モード (MODE)	168
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	169
様式選択 (FMTSLT)	169
適用業務識別コード (APPID)	170
バッチ活動 (BATCH)	170
ホスト・タイプ (HOST)	170
ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)	171
特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)	171
実行初期設定 (INZSELF)	171
ヘッダー処理 (HDRPROC)	172
メッセージ保護 (MSGPTC)	172
エミュレーション装置 (EMLDEV)	172
会話タイプ (CNVTYPE)	173
ブロック化のタイプ (BLOCK)	174
レコード長 (RCDLEN)	175
ブロックの長さ (BLKLEN)	175
透過モード伝送 (TRNSPY)	176
データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)	176
後書きブランクの切り捨て (TRUNC)	176
オーバーフロー・データ (OVRFLWDTA)	177
グループ区切りのタイプ (GRPSEP)	177
リモートBSCSEL (RMTBSCSEL)	177
初期接続 (INLCNN)	178

例	178
エラー・メッセージ	179

ICFファイル変更 (CHGICFF) 181

パラメーター	181
ICF通信ファイル (FILE)	181
獲得するプログラム装置 (ACQPGMDEV)	182
プログラム装置の最大数 (MAXPGMDEV)	182
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	182
テキスト'記述' (TEXT)	183
最大レコード長 (MAXRCDLEN)	183
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	183
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	184
データ待ち行列名 (DTAQ)	184
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	185
例	185
エラー・メッセージ	185

イメージ・カタログの変更

(CHGIMGCLG) 187

パラメーター	187
イメージ・カタログ (IMGCLG)	187
書き込み保護 (WRTPTC)	188
ディレクトリー (DIR)	188
イメージカタログのインポート (IMPORT)	188
カタログASPしきい値 (CLGASPTHLD)	188
記憶域サイズの割り振り (ALCSTG)	189
テキスト'記述' (TEXT)	189
例	190
エラー・メッセージ	190

イメージ・カタログ項目の変更

(CHGIMGCLGE) 191

パラメーター	191
イメージ・カタログ (IMGCLG)	191
イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)	192
イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)	192
新規カタログ索引 (NEWCLGIDX)	192
書き込み保護 (WRTPTC)	192
イメージ・サイズ (IMGSIZ)	193
記憶域サイズの割り振り (ALCSTG)	193
テキスト'記述' (TEXT)	193
例	194
エラー・メッセージ	194

IPL属性の変更 (CHGIPLA) 195

パラメーター	195
再始動タイプ (RESTART)	196
キーロック位置 (KEYLCKPOS)	196
ハードウェア診断 (HDWDIAG)	196
ジョブ・テーブルの圧縮 (CPRJOBTL)	197
ジョブ・テーブルの検査 (CHKJOBTL)	197
プロダクト・ディレクトリーの再作成 (RBDPRDDIR)	198
メール・サーバー・フレームワーク回復 (MSFRCY)	198
状況の表示 (DSPSTS)	198

TCP/IPの開始 (STRTCP)	199
スプール・ファイル回復 (SPLFRCY)	199
ジョブ待ち行列の消去 (CLRJOBQ)	199
出力待ち行列の消去 (CLRQOUTQ)	200
不完全なジョブ・ログの消去 (CLRINCJOB)	200
印刷装置書出プログラム開始 (STRPRTWTR)	200
制限状態へ開始 (STRRSTD)	201
例	201
エラー・メッセージ	201

IP OVER SNA インターフェースの変更 (CHGIPSIFC) 203

パラメーター	203
IPアドレス (INTNETADR)	203
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	204
例	204
エラー・メッセージ	204

IP OVER SNA ロケーションの変更 (CHGIPSLOC) 205

パラメーター	205
リモート宛先 (RMTDEST)	205
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	205
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	206
ロケーション・テンプレート (LOCTPL)	206
例	207
エラー・メッセージ	207

IP OVER SNA TOSの変更 (CHGIPSTOS) 209

パラメーター	209
TYPE OF SERVICE (TOS)	209
モード (MODE)	210
例	210
エラー・メッセージ	210

ジョブ変更 (CHGJOB) 211

パラメーター	213
ジョブ名 (JOB)	214
ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)	215
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	215
印刷装置 (PRTDEV)	215
出力待ち行列 (OUTQ)	216
実行優先順位 (RUNPTY)	217
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	217
印刷テキスト (PRTTXT)	218
メッセージのロギング (LOG)	218
CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)	219
ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)	220
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)	220
照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)	221
中断メッセージ処理 (BRKMSG)	221
状況メッセージ (STMSMSG)	222
DDM会話 (DDMCNV)	222

スケジュール日 (SCDDATE)	222
スケジュール時刻 (SCDTIME)	223
ジョブ日付 (DATE)	224
日付の形式 (DATFMT)	224
日付区切り記号 (DATSEP)	224
時刻区切り記号 (TIMSEP)	225
ジョブ・スイッチ (SWS)	225
タイム・スライス (TIMESLICE)	226
除去適格 (PURGE)	226
省略時の待ち時間 (DFTWAIT)	226
装置回復処置 (DEVRCYACN)	227
タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)	227
ページ印刷キー形式 (PRTKEYFMT)	228
分類順序 (SRTSEQ)	228
言語識別コード (LANGID)	229
国別または地域ID (CNTRYID)	229
コード化文字セットID (CCSID)	230
10進数形式 (DECFMT)	230
文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)	230
スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)	231
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	231
例	232
エラー・メッセージ	232

ジョブ記述変更 (CHGJOB) 235

パラメーター	235
ジョブ記述 (JOB)	236
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	237
ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)	238
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	238
印刷装置 (PRTDEV)	238
出力待ち行列 (OUTQ)	239
テキスト記述 (TEXT)	239
ユーザー (USER)	240
アカウント・コード (ACGCDE)	240
印刷テキスト (PRTTXT)	240
経路指定データ (RTGDTA)	241
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	241
初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)	242
初期ASPグループ (INLASPGRP)	242
メッセージのロギング (LOG)	243
CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)	244
ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)	244
ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)	245
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)	245
CL構文検査 (SYNTAX)	246
終了重大度 (ENDSEV)	246
照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)	247
ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)	247
ジョブ日付 (DATE)	247
ジョブ・スイッチ (SWS)	248
装置回復処置 (DEVRCYACN)	248
タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)	249
マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)	249

スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)	249
DDM会話 (DDMCNV)	250
例	250
エラー・メッセージ	251

ジョブMLB属性の変更 (CHGJOBMLBA) 253

パラメーター	253
ジョブ名 (JOB)	253
ライブラリー装置 (MLB)	254
資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)	254
初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)	254
ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)	255
例	255
エラー・メッセージ	256

ジョブ待ち行列の変更 (CHGJOBQ) . . . 257

パラメーター	257
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	257
テキスト'記述' (TEXT)	258
操作員制御 (OPRCTL)	258
検査権限 (AUTCHK)	258
例	258
エラー・メッセージ	259

ジョブ待ち行列項目変更 (CHGJOBQE) 261

パラメーター	261
サブシステム記述 (SBSD)	262
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	262
活動ジョブの最大数 (MAXACT)	263
順序番号 (SEQNBR)	263
最大活動優先順位 1 (MAXPTY1)	264
最大活動優先順位 2 (MAXPTY2)	264
最大活動優先順位 3 (MAXPTY3)	264
最大活動優先順位 4 (MAXPTY4)	264
最大活動優先順位 5 (MAXPTY5)	265
最大活動優先順位 6 (MAXPTY6)	265
最大活動優先順位 7 (MAXPTY7)	265
最大活動優先順位 8 (MAXPTY8)	266
最大活動優先順位 9 (MAXPTY9)	266
例	266
エラー・メッセージ	267

ジョブ・スケジュール項目変更 (CHGJOBSCDE) 269

パラメーター	270
ジョブ名 (JOB)	271
項目番号 (ENTRYNBR)	271
実行するコマンド (CMD)	271
頻度 (FRQ)	272
スケジュール日 (SCDDATE)	272
スケジュール曜日 (SCDDAY)	273
スケジュール時刻 (SCDTIME)	273
月の相対日 (RELDAYMON)	274
保管 (SAVE)	274
省略の日付 (OMITDATE)	275

回復処置 (RCYACN)	275
ジョブ記述 (JOBID)	276
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	276
ユーザー (USER)	277
MSG 待ち行列 (MSGQ)	277
テキスト'記述' (TEXT)	278
例	278
エラー・メッセージ	279

ジャーナル変更 (CHGJRN) 281

パラメーター	282
ジャーナル (JRN)	283
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	284
順序付けオプション (SEQOPT)	284
ジャーナル・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	285
レシーバーの管理 (MNGRCV)	286
レシーバーの削除 (DLTRCV)	287
レシーバー・サイズ・オプション (RCVSIZEOPT)	288
ジャーナル状態 (JRNSTATE)	289
項目固有のデータの最小化 (MINENTDTA)	290
ジャーナル・キャッシング (JRNCACHE)	291
受信側遅延時間の管理 (MNGRCVDLY)	291
受信側遅延時間の削除 (DLTRCVDLY)	292
固定長データ (FIXLENDTA)	292
ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)	293
ジャーナル・オブジェクト限界 (JRNOBJLMT)	294
ジャーナル回復カウント (JRNRCYCNT)	294
テキスト'記述' (TEXT)	295
例	295
エラー・メッセージ	296

ジャーナル属性の変更 (CHGJRNA) . . . 301

パラメーター	301
ジャーナル回復カウント (JRNRCYCNT)	301
キャッシュ待機時間 (CACHEWAIT)	302
例	303
エラー・メッセージ	303

ジャーナル処理済みオブジェクト変更 (CHGJRNOBJ) 305

パラメーター	306
オブジェクト (OBJ)	307
オブジェクト (OBJPATH)	308
ファイル識別コード (OBJFID)	308
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	309
名前パターン (PATTERN)	309
属性 (ATR)	310
イメージ (IMAGES)	310
ジャーナル項目の省略 (OMTJRNE)	311
新オブジェクト,ジャーナル処理継承 (INHERIT)	311
部分トランザクション (PLTNS)	312
継承規則 (INHRULES)	312
例	315
エラー・メッセージ	316

JAVAプログラムの変更 (CHGJVAPGM) 317

パラメーター	317
クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)	317
最適化 (OPTIMIZE)	318
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)	319
プロファイリング・データ (PRFDTA)	319
マージ (MERGE)	320
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	320
LICオプション (LICOPT)	320
例	321
エラー・メッセージ	321

キーボード・マップ変更 (CHGKBDMAP) 323

パラメーター	323
装置 (DEV)	331
PF1キーの値 (PF1)	332
PF2キーの値 (PF2)	333
PF3キーの値 (PF3)	334
PF4キーの値 (PF4)	335
PF5キーの値 (PF5)	337
PF6キーの値 (PF6)	338
PF7キーの値 (PF7)	339
PF8キーの値 (PF8)	340
PF9キーの値 (PF9)	342
PF10キーの値 (PF10)	343
PF11キーの値 (PF11)	344
PF12キーの値 (PF12)	345
PF13キーの値 (PF13)	347
PF14キーの値 (PF14)	348
PF15キーの値 (PF15)	349
PF16キーの値 (PF16)	350
PF17キーの値 (PF17)	352
PF18キーの値 (PF18)	353
PF19キーの値 (PF19)	354
PF20キーの値 (PF20)	355
PF21キーの値 (PF21)	357
PF22キーの値 (PF22)	358
PF23キーの値 (PF23)	359
PF24キーの値 (PF24)	360
PA1-PF1キーの値 (PA1PF1)	362
PA1-PF2キーの値 (PA1PF2)	363
PA1-PF3キーの値 (PA1PF3)	364
PA1-PF4キーの値 (PA1PF4)	365
PA1-PF5キーの値 (PA1PF5)	367
PA1-PF6キーの値 (PA1PF6)	368
PA1-PF7キーの値 (PA1PF7)	369
PA1-PF8キーの値 (PA1PF8)	370
PA1-PF9キーの値 (PA1PF9)	372
PA1-PF10キーの値 (PA1PF10)	373
PA1-PF11キーの値 (PA1PF11)	374
PA1-PF12キーの値 (PA1PF12)	375
PA2-PF1キーの値 (PA2PF1)	377
PA2-PF2キーの値 (PA2PF2)	378
PA2-PF3キーの値 (PA2PF3)	379
PA2-PF4キーの値 (PA2PF4)	380
PA2-PF5キーの値 (PA2PF5)	382

PA2-PF6キーの値 (PA2PF6)	383
PA2-PF7キーの値 (PA2PF7)	384
PA2-PF8キーの値 (PA2PF8)	385
PA2-PF9キーの値 (PA2PF9)	387
PA2-PF10キーの値 (PA2PF10)	388
PA2-PF11キーの値 (PA2PF11)	389
PA2-PF12キーの値 (PA2PF12)	390
例	392
エラー・メッセージ	392

Kerberosパスワードの変更 (CHGKRBPWD) 393

パラメーター	393
プリンシパル (PRINCIPAL)	393
現行パスワード (CURPWD)	394
新しいパスワード (NEWPWD)	394
確認パスワード (VFYPWD)	394
宛先リスト収容オブジェクト (ADRLST)	395
例	395
エラー・メッセージ	395

LANアダプター情報の変更 (CHGLANADPI) 397

パラメーター	397
アダプター (ADPTNAME)	397
アダプターアドレス (ADPTADR)	397
テキスト'記述' (TEXT)	398
例	398
エラー・メッセージ	398

論理ファイル変更 (CHGLF) 399

パラメーター	399
論理ファイル (FILE)	400
システム (SYSTEM)	400
アクセス・パスの強制再作成 (FRCRBDAP)	400
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	401
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	401
アクセス・パスの保守 (MAINT)	402
アクセス・パス回復 (RECOVER)	402
強制キー順アクセス・パス (FRCACPTH)	403
入れたい記憶装置 (UNIT)	403
レコード様式選択プログラム (FMTSLR)	403
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	404
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	404
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	405
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	405
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	406
テキスト'記述' (TEXT)	406
例	406
エラー・メッセージ	407

論理ファイル・メンバー変更 (CHGLFM) 409

パラメーター	409
論理ファイル (FILE)	409
論理ファイル・メンバー (MBR)	410
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	410

テキスト'記述' (TEXT)	410
例	410
エラー・メッセージ	411

ライブラリー変更 (CHGLIB) 413

パラメーター	413
ライブラリー (LIB)	414
ライブラリー・タイプ (TYPE)	414
テキスト'記述' (TEXT)	414
作成権限 (CRTAUT)	415
オブジェクト監査の作成 (CRTOBJAUD)	415
例	416
エラー・メッセージ	416

ライブラリー・リスト変更 (CHGLIBL) 419

パラメーター	419
現行スレッドのライブラリー (LIBL)	419
現行ライブラリー (CURLIB)	420
例	420
エラー・メッセージ	420

ライセンス情報の変更 (CHGLICINF) 421

パラメーター	421
プロダクト識別コード (PRDID)	422
ライセンス条件 (LICTRM)	422
機能 (FEATURE)	422
使用制限 (USGLMT)	422
代替使用状況制限 (ALTUSGLMT)	423
しきい値 (THRESHOLD)	423
MSG 待ち行列 (MSGQ)	424
ログ (LOG)	424
例	425
エラー・メッセージ	425

回線記述の変更 (非同期)

(CHGLINASC) 427

パラメーター	427
回線記述 (LIND)	429
資源名 (RSRCNAME)	429
IPL時のオンライン (ONLINE)	429
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	430
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	430
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	431
文字当たりのデータ・ビット数 (BITSCHAR)	431
パリティのタイプ (PARITY)	431
停止ビット (STOPBITS)	432
二重 (DUPLEX)	432
エコー・サポート (ECHO)	432
回線速度 (LINESPEED)	433
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	433
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	433
交換接続タイプ (SWTCNN)	434
自動返答 (AUTOANS)	434
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	434
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	434
モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)	435

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	436
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	437
呼び出し番号 (CALLNBR)	437
非活動タイマー (INACTTMR)	437
最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)	438
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	438
フロー制御 (FLOWCNTL)	438
XON文字 (XONCHAR)	439
XOFF文字 (XOFFCHAR)	439
レコードの終わりテーブル (EORTBL)	439
アイドル・タイマー (IDLTMR)	440
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	440
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	440
送信可タイマー (CTSTMR)	441
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	441
回復限界 (CMNRCYLMT)	441
テキスト'記述' (TEXT)	442
例	442
エラー・メッセージ	442

回線記述の変更(BSC) (CHGLINBSC) 443

パラメーター	443
回線記述 (LIND)	444
資源名 (RSRCNAME)	444
IPL時のオンライン (ONLINE)	445
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	445
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	445
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	446
端末アドレス (STNADR)	446
二重 (DUPLEX)	446
回線速度 (LINESPEED)	447
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	447
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	447
交換接続タイプ (SWTCNN)	448
自動返答 (AUTOANS)	448
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	448
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	449
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	449
呼び出し番号 (CALLNBR)	449
非活動タイマー (INACTTMR)	450
最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)	450
文字コード (CODE)	450
SYN同期文字 (SYNCCHARS)	450
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	451
LRCへのSTX文字の組み込み (STXLRC)	451
受信タイマー (RCVTMR)	451
続行タイマー (CONTTMR)	452
回線争奪状態再試行 (CTNRTY)	452
データ状態再試行 (DTASTRTY)	452
TTDまたはWACK送信再試行 (TMTRTY)	452
TTDまたはWACK受信再試行 (RCVRTY)	453
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	453
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	453

送信タイマー (CTSTMR)	454
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	454
回復限界 (CMNRCYLMT)	454
テキスト'記述' (TEXT)	455
例	455
エラー・メッセージ	455

回線記述の変更(DDI) (CHGLINDDI) . . . 457

パラメーター	457
回線記述 (LIND)	458
資源名 (RSRCNAME)	458
IPL時のオンライン (ONLINE)	459
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	459
最大制御装置数 (MAXCTL)	460
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	460
ロギング・レベル (LOGLVL)	461
ローカル管理機能モード (LCLMGRMODE)	461
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	461
交換識別コード (EXCHID)	462
SSAPリスト (SSAP)	462
グループ・アドレス (GRPADR)	463
トークン循環時間 (TKNRTTIME)	463
コスト/接続時間 (COSTCNN)	464
コスト/バイト (COSTBYTE)	464
回線の機密保護 (SECURITY)	464
伝搬遅延 (PRPDLY)	465
ユーザー定義1 (USRDFN1)	465
ユーザー定義2 (USRDFN2)	466
ユーザー定義3 (USRDFN3)	466
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	466
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	466
回復限界 (CMNRCYLMT)	467
MSG 待ち行列 (MSGQ)	467
テキスト'記述' (TEXT)	468
リンク速度 (LINKSPEED)	468
例	468
エラー・メッセージ	469

回線記述の変更(イーサネット)

(CHGLINETH) 471

パラメーター	471
回線記述 (LIND)	473
資源名 (RSRCNAME)	473
IPL時のオンライン (ONLINE)	473
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	473
関連したポート資源名 (ASSOCPORT)	474
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	474
グループ・アドレス (GRPADR)	475
最大制御装置数 (MAXCTL)	475
SSAPリスト (SSAP)	476
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	477
テスト・フレームの生成 (GENTSTFRM)	477
PVC識別コード (PVCID)	478
LECSアドレスの使用 (USELECSADR)	478
LES ATMアドレス (LESATMADR)	478
エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)	479

LEC切断タイムアウト (LECDSCTIMO)	479
リンク速度 (LINKSPEED)	480
回線速度 (LINESPEED)	480
二重 (DUPLEX)	480
保守容易性オプション (SRVOPT)	481
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	481
コスト/接続時間 (COSTCNN)	482
コスト/バイト (COSTBYTE)	482
回線の機密保護 (SECURITY)	482
伝搬遅延 (PRPDLY)	483
ユーザー定義1 (USRDFN1)	483
ユーザー定義2 (USRDFN2)	483
ユーザー定義3 (USRDFN3)	484
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	484
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	484
回復限界 (CMNRCYLMT)	485
MSG 待ち行列 (MSGQ)	485
テキスト'記述' (TEXT)	486
例	486
エラー・メッセージ	486

回線記述の変更(ファクシミリ)

(CHGLINFAX) 487

パラメーター	487
回線記述 (LIND)	487
資源名 (RSRCNAME)	487
IPL時のオンライン (ONLINE)	488
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	488
テキスト'記述' (TEXT)	489
例	489
エラー・メッセージ	489

回線記述の変更(フレーム・リレー)

(CHGLINFR) 491

パラメーター	491
回線記述 (LIND)	492
IPL時のオンライン (ONLINE)	492
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	493
最大制御装置数 (MAXCTL)	493
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	494
リンク速度 (LINKSPEED)	494
交換識別コード (EXCHID)	494
SSAPリスト (SSAP)	495
コスト/接続時間 (COSTCNN)	496
コスト/バイト (COSTBYTE)	496
回線の機密保護 (SECURITY)	496
伝搬遅延 (PRPDLY)	497
ユーザー定義1 (USRDFN1)	497
ユーザー定義2 (USRDFN2)	497
ユーザー定義3 (USRDFN3)	498
回復限界 (CMNRCYLMT)	498
MSG 待ち行列 (MSGQ)	498
テキスト'記述' (TEXT)	499
例	499
エラー・メッセージ	499

回線記述の変更(PPP) (CHGLINPPP) 501

パラメーター	501
回線記述 (LIND)	502
資源名 (RSRCNAME)	503
接続タイプ (CNN)	503
フレーム・タイプ (FRAMING)	503
物理インターフェース (INTERFACE)	504
交換NWIリスト (SWTNWLST)	504
IPL時のオンライン (ONLINE)	505
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	505
回線速度 (LINESPEED)	506
情報転送タイプ (INFTRFTYPE)	506
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	507
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	508
交換接続タイプ (SWTCNN)	508
交換NWI選択 (SWTNWISLCT)	508
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	509
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	509
着信接続リスト (CNNLSTIN)	509
刻時 (CLOCK)	510
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	510
モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)	511
呼び出し番号 (CALLNBR)	512
フロー制御 (FLOWCNTL)	512
送信可タイマー (CTSTMR)	512
非活動タイマー (INACTTMR)	513
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	513
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	513
テキスト'記述' (TEXT)	513
非同期制御文字マップ (ACCM)	514
LCP認証値 (LCPAUT)	514
LCP構成値 (LCPCFG)	515
圧縮 (COMPRESS)	516
回復限界 (CMNRCYLMT)	516
MSG 待ち行列 (MSGQ)	517
例	517
エラー・メッセージ	517

回線記述の変更(SDLC) (CHGLINS DLC) 519

パラメーター	519
回線記述 (LIND)	521
資源名 (RSRCNAME)	522
IPL時のオンライン (ONLINE)	522
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	522
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	522
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	523
最大制御装置数 (MAXCTL)	523
刻時 (CLOCK)	524
回線速度 (LINESPEED)	524
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	525
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	525
交換接続タイプ (SWTCNN)	525
自動返答 (AUTOANS)	526
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	526

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	526
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	527
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	528
SHM呼び出しタイマー (SHMCALLTMR)	528
SHM最大接続タイマー (SHMMAXCNN)	528
SHM返答遅延タイマー (SHMANSDLY)	529
SHM呼び出し形式 (SHMCALLFMT)	529
SHMアクセス・コード (SHMACC)	529
呼び出し番号 (CALLNBR)	530
端末アドレス (STNADR)	530
ポーリング接続再試行 (CNNPOLLRTY)	530
接続タイマー (CNNTTMR)	531
短時間タイマー (SHORTTMR)	531
長時間タイマー (LONGTMR)	531
短時間再試行 (SHORTRTY)	532
長時間再試行 (LONGRTY)	532
呼び出し進行中信号再試行 (CPSRTY)	533
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	533
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	533
二重 (DUPLEX)	534
モジュラス (MODULUS)	534
最大未処理フレーム数 (MAXOUT)	534
非活動タイマー (INACTTMR)	535
ポーリング応答遅延 (POLLRSPDLY)	535
非生産受信タイマー (NPRDRCVTMR)	535
アイドル・タイマー (IDLTMR)	535
接続ポーリング・タイマー (CNNPOLLTMR)	536
ポーリング・サイクル休止 (POLLPAUSE)	536
フレーム再試行 (FRAMERTY)	536
フェア・ポーリング・タイマー (FAIRPLLTMR)	536
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	537
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	537
送信可タイマー (CTSTMR)	537
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	537
リンク速度 (LINKSPEED)	538
コスト/接続時間 (COSTCNN)	538
コスト/バイト (COSTBYTE)	539
回線の機密保護 (SECURITY)	539
伝搬遅延 (PRPDLY)	539
ユーザー定義1 (USRDFN1)	540
ユーザー定義2 (USRDFN2)	540
ユーザー定義3 (USRDFN3)	540
回復限界 (CMNRCYLMT)	541
テキスト'記述' (TEXT)	541
例	541
エラー・メッセージ	542

回線記述の変更(TDLC) (CHGLINTDLC) 543

パラメーター	543
回線記述 (LIND)	543
IPL時のオンライン (ONLINE)	543
テキスト'記述' (TEXT)	544
例	544
エラー・メッセージ	544

回線記述の変更(トークンリング)

(CHGLINTRN)	545
パラメーター	545
回線記述 (LIND)	547
資源名 (RSRCNAME)	547
IPL時のオンライン (ONLINE)	548
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	548
最大制御装置数 (MAXCTL)	549
回線速度 (LINESPEED)	549
二重 (DUPLEX)	550
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	550
LECフレーム・サイズ (LECFRAME)	550
LAN管理機能の活動化 (ACTLANMGR)	551
TRLAN管理機能ロギング・レベル (TRNLOGLVL)	551
TRLAN管理機能モード (TRNMGRMODE)	551
構成変更ログ (LOGCFGCHG)	552
ビーコンのトークンリング通知 (TRNINFBCN)	552
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	552
機能分野アドレス (FCNADR)	553
SSAPリスト (SSAP)	554
トークン早期解放 (ELYTKNRLS)	555
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	555
PVC識別コード (PVCID)	556
LECSアドレスの使用 (USELECSADR)	556
LES ATMアドレス (LESATMADR)	556
エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)	557
LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)	557
リンク速度 (LINKSPEED)	558
コスト/接続時間 (COSTCNN)	558
コスト/バイト (COSTBYTE)	558
回線の機密保護 (SECURITY)	559
伝搬遅延 (PRPDLY)	559
ユーザー定義1 (USRDFN1)	560
ユーザー定義2 (USRDFN2)	560
ユーザー定義3 (USRDFN3)	560
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	561
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	561
回復限界 (CMNRCYLMT)	561
MSG 待ち行列 (MSGQ)	562
テキスト'記述' (TEXT)	562
例	562
エラー・メッセージ	562

回線記述の変更(無線) (CHGLINWLS) 565

パラメーター	565
回線記述 (LIND)	566
資源名 (RSRCNAME)	567
IPL時のオンライン (ONLINE)	567
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	567
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	568
グループ・アドレス (GRPADR)	568
最大制御装置数 (MAXCTL)	568
SSAPリスト (SSAP)	569
リンク速度 (LINKSPEED)	570
コスト/接続時間 (COSTCNN)	570
コスト/バイト (COSTBYTE)	570

回線の機密保護 (SECURITY)	571
伝搬遅延 (PRPDLY)	571
ユーザー定義1 (USRDFN1)	571
ユーザー定義2 (USRDFN2)	572
ユーザー定義3 (USRDFN3)	572
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	572
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	572
回復限界 (CMNRCYLMT)	573
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	573
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	574
初期設定プログラム (INZPGM)	574
テキスト'記述' (TEXT)	575
例	575
エラー・メッセージ	575

回線記述の変更(X.25) (CHGLINX25) 577

パラメーター	577
回線記述 (LIND)	580
資源名 (RSRCNAME)	580
論理チャンネル項目 (LGLCHLE)	581
ローカル・ネットワーク・アドレス (NETADR)	581
接続開始 (CNNINIT)	582
IPL時のオンライン (ONLINE)	582
交換NWIリスト (SWTNWILST)	582
X.25 DCEサポート (X25DCE)	583
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	583
回線速度 (LINESPEED)	584
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	584
パケット・モード (PKTMODE)	585
情報転送タイプ (INFTRFTYPE)	585
拡張ネットワーク・アドレス指定 (EXNNETADR)	586
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	586
省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	586
最大パケット・サイズ (MAXPKTSIZE)	587
モジュラス (MODULUS)	587
省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	588
パケットへネットワーク・アドレスの挿入 (ADRINSERT)	588
ネットワーク・ユーザー識別コード (NETUSRID)	588
アイドル・タイマー (IDLTMR)	589
フレーム再試行 (FRAMERTY)	589
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	589
接続番号 (CNNNBR)	590
呼び出し番号 (CALLNBR)	590
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	590
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	591
交換接続タイプ (SWTCNN)	591
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	591
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	592
着信接続リスト (CNNLSTIN)	592
自動返答 (AUTOANS)	592
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	593
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	593
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	593
即時呼び出し (CALLIMMED)	594

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	594
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	594
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	595
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTRY)	595
交換回線切断 (SWTDSC)	595
切断タイマー (SWTDSCTMR)	596
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	596
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	596
送信可タイマー (CTSTMR)	597
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	597
刻時 (CLOCK)	597
リンク速度 (LINKSPEED)	597
交換NWI選択 (SWTNWISLCT)	598
コスト/接続時間 (COSTCNN)	598
コスト/バイト (COSTBYTE)	599
回線の機密保護 (SECURITY)	599
伝搬遅延 (PRPDLY)	600
ユーザー定義1 (USRDFN1)	600
ユーザー定義2 (USRDFN2)	600
ユーザー定義3 (USRDFN3)	601
回復限界 (CMNRCYLMT)	601
MSG 待ち行列 (MSGQ)	601
テキスト'記述' (TEXT)	602
例	602
エラー・メッセージ	602

管理コレクションの変更

(CHGMGTCOL)	603
パラメーター	603
管理コレクション (MGTCOL)	603
満了日 (EXPDATE)	604
例	604
エラー・メッセージ	604

メニュー変更 (CHGMNU)

パラメーター	605
メニュー (MENU)	606
表示装置ファイル (DSPF)	606
メッセージ・ファイル (MSGF)	607
コマンド入力行 (CMDLIN)	607
機能キーの表示 (DSPKEY)	608
プログラム (PGM)	608
現行ライブラリー (CURLIB)	608
実行ライブラリー (PRDLIB)	609
テキスト'記述' (TEXT)	609
例	610
エラー・メッセージ	610

モジュールの変更 (CHGMOD)

パラメーター	611
モジュール (MODULE)	612
モジュールの最適化 (OPTIMIZE)	612
識別情報の除去 (RMVOBS)	613
プロファイリング・データ (PRFDTA)	613
モジュールの強制再作成 (FRCCRT)	614

テキスト'記述' (TEXT)	614
LICオプション (LICOPT)	614
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)	615
例	615
エラー・メッセージ	615

モード記述変更 (CHGMODD)

パラメーター	617
モード記述 (MODD)	617
サービス・クラス (COS)	618
最大セッション (MAXSSN)	618
会話の最大数 (MAXCNV)	618
ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)	619
事前結合セッション数 (PREESTSSN)	619
最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)	619
インバウンド・ペーシング値 (INPACING)	620
アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)	620
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	620
データ圧縮 (DTACPR)	621
インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)	621
アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)	622
セッション・レベル暗号 (SLE)	623
テキスト'記述' (TEXT)	623
例	624
エラー・メッセージ	624

メッセージ記述変更 (CHGMSGD)

パラメーター	625
メッセージ識別コード (MSGID)	627
メッセージ・ファイル (MSGF)	627
第1 レベル・メッセージ・テキスト (MSG)	627
第2 レベル・メッセージ・テキスト (SECLVL)	628
重大度コード (SEV)	629
メッセージ・データ・フィールド形式 (FMT)	629
応答タイプ (TYPE)	632
最大応答の長さ (LEN)	633
有効な応答値 (VALUES)	633
特殊応答値 (SPCVL)	634
応答値の範囲 (RANGE)	634
有効な応答の関係 (REL)	635
省略時応答値 (DFT)	636
呼び出す省略時プログラム (DFTPGM)	636
ダンプするデータ (DMPLST)	637
警報オプション (ALROPT)	637
問題ログ (LOGPRB)	638
コード化文字セットID (CCSID)	639
例	640
エラー・メッセージ	640

メッセージ・ファイルの変更

(CHGMSGF)

パラメーター	643
メッセージ・ファイル (MSGF)	643
テキスト'記述' (TEXT)	644
コード化文字セットID (CCSID)	645
例	646

エラー・メッセージ	646
メッセージ待ち行列変更 (CHGMSGQ)	647
パラメーター	647
MSG 待ち行列 (MSGQ)	648
配布 (DLVRY)	649
重大度コード・フィルター (SEV)	650
テキスト記述 (TEXT)	650
ハンドル属性の中断 (PGM)	651
古いメッセージのリセット (RESET)	652
補助記憶域への強制書き込み (FORCE)	652
警報可能 (ALWALR)	653
コード化文字セットID (CCSID)	653
メッセージ待ち行列満杯時処置 (MSGQFULL)	654
例	654
エラー・メッセージ	655

ニックネームの変更 (CHGNCK)	657
パラメーター	657
ニックネーム (NCK)	657
所有者 (OWNER)	658
新しいアクセス (NEWACCESS)	658
ニックネームの記述 (TEXT)	658
ユーザー識別コード (USRID)	659
リスト識別コード (LSTID)	659
例	660
エラー・メッセージ	660

ネットワーク属性変更 (CHGNETA)	661
パラメーター	661
システム名 (SYSNAME)	663
ローカル・ネットワークID (LCLNETID)	664
ローカル制御点名 (LCLCPNAME)	664
省略時ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)	664
省略時モード (DFTMODE)	664
ノード・タイプ (NODETYPE)	665
データ圧縮 (DTACPR)	665
中間データ圧縮 (DTACPRINM)	666
中間セッションの最大数 (MAXINTSSN)	666
経路追加抵抗 (RAR)	666
ネットワーク・ノード・サーバー (NETSERVER)	667
警報状況 (ALRSTS)	667
警報ログ状況 (ALRLOGSTS)	668
警報1次フォーカル・ポイント (ALRPRIFP)	668
省略時の警報フォーカル・ポイント (ALRDFTFP)	668
警報バックアップ・フォーカル・ポイント (ALRBCKFP)	669
要求する警報フォーカル・ポイント (ALRRQSFP)	669
警報制御装置記述 (ALRCTLD)	670
警報保留カウント (ALRHLCNT)	670
警報フィルター (ALRFTR)	671
MSG 待ち行列 (MSGQ)	671
出力待ち行列 (OUTQ)	672
ネットワーク・ジョブの処置 (JOBACN)	673
最大HOPカウント (MAXHOP)	673
DDM/DRDA 要求のアクセス (DDMACC)	674

クライアント要求アクセス (PCSACC)	675
省略時のISDN ネットワーク・タイプ (DFTNETTYPE)	676
省略時のISDN接続リスト (DFTCNNLST)	676
ANYNET可能サポート (ALWANYNET)	676
ネットワーク・サーバー・ドメイン (NWSDOMAIN)	677
APPN仮想サポート使用可能 (ALWVRTAPPN)	677
HPR トランスポート・タワー使用可能 (ALWHPRTWR)	677
仮想制御装置自動作成装置 (VRTAUTODEV)	677
HPRパス・スイッチ・タイマー (HPRPHTMR)	678
クラスターへの追加可能 (ALWADDCLU)	679
モデムの国別または地域ID (MDMCNTRYID)	679
例	680
エラー・メッセージ	680

ネットワーク・ジョブ項目変更 (CHGNETJOBE)	683
パラメーター	683
ユーザー識別コード (FROMUSRID)	684
ネットワーク・ジョブの処置 (ACTION)	684
ユーザー・プロファイル (SBMUSER)	685
MSG 待ち行列 (MSGQ)	685
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	685
例	686
エラー・メッセージ	686

NFSエクスポートの変更 (CHGNFSEXP)	687
パラメーター	688
NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)	688
ディレクトリー (DIR)	692
ホスト名 (HOSTOPT)	693
例	694
エラー・メッセージ	695

ノード・グループ属性の変更 (CHGNODGRPA)	697
パラメーター	697
ノード・グループ (NODGRP)	698
区画番号 (PTNNBR)	698
比較データ (CMPDTA)	698
ノード番号 (NODNBR)	699
例	699
エラー・メッセージ	699

NETBIOS記述の変更 (CHGNTBD)	701
パラメーター	701
NETBIOS記述 (NTBD)	701
フル・バッファ・データグラム (FULLBUFDTG)	702
最適ウィンドウ間隔 (ADPWDWITV)	702
最大ウィンドウ・エラー (MAXWDWERR)	702
最大受信データ・サイズ (MAXRCVDATA)	703
非活動タイマー (INACTTMR)	703
応答タイマー (RSPTMR)	703
肯定応答タイマー (ACKTMR)	703

最大未処理受信 (MAXIN)	704
最大未処理送信 (MAXOUT)	704
QUERYタイムアウト (QRYTMR)	704
NETBIOS再試行 (NTBRTY)	704
複数肯定応答可能 (ALWMULTACK)	704
メッセージ・パケット事前作成 (PREBLTPKT)	705
パケット再始動の確認 (PKTRESTART)	705
DLC再試行 (DLCRTY)	705
イーサネット標準 (ETHSTD)	706
テキスト'記述' (TEXT)	706
例	706
エラー・メッセージ	706

SNTP属性の変更 (CHGNTPA) 707

パラメーター	707
リモート・システム (RMTSYS)	708
クライアント自動始動 (AUTOSTART)	708
クライアント・ポーリング間隔 (POLLITV)	709
クライアント最小調整 (MINADJ)	709
クライアント最大調整 (MAXADJ)	709
クライアント調整しきい値 (ADJTHLD)	709
クライアント活動ログ (ACTLOG)	710
サーバー自動始動 (SVRAUTOSTR)	710
サーバー活動ログ (SVRACTLOG)	711
同期が必要 (SYNCRQD)	711
例	711
エラー・メッセージ	712

ネットワーク・インターフェース変更

(FR) (CHGNWIFR) 715

パラメーター	715
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	715
資源名 (RSRCNAME)	716
IPL時のオンライン (ONLINE)	716
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	716
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	717
刻時 (CLOCK)	717
回線速度 (LINESPEED)	718
LMIモード (LMIMODE)	718
ポーリング間隔 (POLLITV)	719
全面照会間隔 (FULLINQITV)	719
テキスト'記述' (TEXT)	719
回復限界 (CMNRCYLMT)	720
例	720
エラー・メッセージ	720

NWS属性の変更 (CHGNWSA) 721

パラメーター	721
プロンプト制御 (PMTCTL)	722
省略時のサーバー・タイプ (DFTSVRTYPE)	722
WINDOWS サーバー・ドメイン・リスト (WNTDMNLST)	722
WINDOWS ローカル・サーバー・リスト (WNTLCLSVRL)	723
例	724
エラー・メッセージ	724

NWS構成の変更 (CHGNWSCFG) 725

パラメーター	725
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	726
IPセキュリティ規則 (IPSECRULE)	727
サービス・プロセッサの初期設定 (INZSP)	727
ユニキャストの使用可能化 (ENBUNICAST)	728
サービス・プロセッサ名 (SPNAME)	729
SP IP アドレス (SPINTNETA)	729
SP証明書ID (SPCERTID)	729
格納装置ID (EID)	730
SP構成名 (SPNWSCFG)	731
リモート・システムID (RMTSYSID)	731
配布方式 (DELIVERY)	732
ターゲットCHAP認証 (CHAPAUT)	732
開始プログラムCHAP認証 (INRCHAPAUT)	733
ブート装置ID (BOOTDEVID)	735
動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)	735
リモート(開始プログラム)インターフェース (RMTIFC)	736
テキスト'記述' (TEXT)	738
例	738
エラー・メッセージ	739

ネットワーク・サーバー記述の変更

(CHGNWSD) 741

パラメーター	741
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	745
資源名 (RSRCNAME)	745
記憶域パス (STGPTH)	746
省略時IP セキュリティ規則 (DFTSECRULE)	747
マルチパス・グループ (MLTPTHGRP)	747
省略時記憶域パス (DFTSTGPTH)	748
取り外し可能媒体パス (RMVMEDPTH)	748
活動化タイマー (ACTTMR)	748
IPL時のオンライン (ONLINE)	749
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	749
シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)	750
区画 (PARTITION)	750
区画番号 (PTNNBR)	751
ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)	751
コード・ページ (CODEPAGE)	751
サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	752
イベント・ログ (EVTLOG)	753
通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)	754
構成ファイル (CFGFILE)	755
プール識別コード (POOL)	755
TCP/IPポート構成 (TCPPTCFG)	756
TCP/IP経路構成 (TCP RTE)	757
TCP/IPローカル・ホスト名 (TCPHOSTNAM)	759
TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)	759
TCP/IP ネーム・サーバー・システム (TCPNAMSVR)	760
仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)	760
制約された装置資源 (RSTDDEVRSRC)	762
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	762
仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)	763

日付および時刻の同期化 (SYNCTIME)	763
ユーザー・プロファイル無効 (DSBUSRPRF)	764
IPLソース (IPLSRC)	764
IPLストリーム・ファイル (IPLSTMF)	765
IPLパラメーター (IPLPARM)	765
電源制御 (PWRCTL)	766
保守容易性オプション (SRVOPT)	766
テキスト'記述' (TEXT)	766
例	767
エラー・メッセージ	767

NWS記憶スペースの変更 (CHGNWSSTG) 769

パラメーター	769
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	769
サイズ (NWSSIZE)	769
テキスト'記述' (TEXT)	770
例	770
エラー・メッセージ	770

NWSユーザー属性の変更 (CHGNWSUSRA) 771

パラメーター	771
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	772
プロファイル・タイプ (PRFATYPE)	773
プロンプト制御 (PMTCTL)	773
グループ・メンバーの伝搬 (PRPGRPMBR)	773
省略時のサーバー・タイプ (DFTSVRTYPE)	774
WINDOWS サーバー・ドメイン・リスト (WNTDMNLST)	774
WINDOWS ローカル・サーバー・リスト (WNTLCLSVRL)	775
例	776
エラー・メッセージ	777

オブジェクト監査の変更 (CHGOBJAUD) 779

パラメーター	779
オブジェクト (OBJ)	780
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	782
ASP装置 (ASPDEV)	782
オブジェクト監査値 (OBJAUD)	783
例	783
エラー・メッセージ	783

オブジェクト記述変更 (CHGOBJD) 785

パラメーター	785
オブジェクト (OBJ)	786
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	788
テキスト'記述' (TEXT)	788
使用日数カウント (USECOUNT)	788
例	789
エラー・メッセージ	789

オブジェクト所有者変更 (CHGOBJOWN) 791

パラメーター	792
オブジェクト (OBJ)	792
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	793
ASP装置 (ASPDEV)	793
新しい所有者 (NEWOWN)	794
現行の所有者権限 (CUROWNAUT)	794
例	794
エラー・メッセージ	794

オブジェクト1次グループの変更 (CHGOBJPGP) 797

パラメーター	797
オブジェクト (OBJ)	798
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	799
ASP装置 (ASPDEV)	799
新しい1次グループ (NEWPGP)	799
新しい1次グループ権限 (PGPAUT)	800
古い権限の取り消し (RVKOLDAUT)	800
例	800
エラー・メッセージ	801

光ディスク属性変更 (CHGOPTA) 803

パラメーター	803
属性コピー (CPYATR)	803
保留中のファイル属性 (HLDFATR)	804
差異文字許可 (ALWVRNT)	804
拡張媒体形式のサポート (EXTMEDFMT)	805
例	805
エラー・メッセージ	805

光ディスク・ボリューム変更 (CHGOPTVOL) 807

パラメーター	807
ボリューム識別コード (VOL)	807
ボリューム満杯しきい値 (THRESHOLD)	807
権限リスト (AUTL)	808
テキスト'記述' (TEXT)	808
例	808
エラー・メッセージ	809

OSPF属性の変更 (CHGOSPFA) 811

パラメーター	811
ルーターID (ROUTER)	811
比較タイプ (CMPTYPE)	811
境界ルーティング (BDYRTG)	812
サーバーの自動開始 (AUTOSTART)	812
サブエージェント・モニター (SUBAGTMON)	812
例	813
エラー・メッセージ	813

OSPF域変更 (CHGOSPFARA) 815

パラメーター	815
領域ID (AREA)	815

認証タイプ (AUTHTYPE)	815
スタブ領域 (STUB)	816
スタブ・コスト (STUBCOST)	816
インポート (IMPORT)	816
IPバージョン (IPVERSION)	817
例	817
エラー・メッセージ	817

OSPFインターフェースの変更 (CHGOSPFIFC) 819

パラメーター	819
インターフェースID (IFC)	820
接続プロファイル (PPCCNNPRF)	820
領域ID (AREA)	820
再伝送間隔 (RETMSITV)	821
伝送遅延 (TMSDLY)	821
ルーター優先順位 (RTRPTY)	821
helloの間隔 (ITVHELLO)	821
データベース交換タイムアウト (DBEXCHTIMO)	822
活動状態にないルーター・タイムアウト (INACTTIMO)	822
コスト (COST)	822
インターフェース使用法 (IFCUSG)	823
サブネット (SUBNET)	823
認証タイプ (AUTHTYPE)	823
認証値 (AUTHVAL)	824
回路の要求 (DMDCCCT)	824
Helloの抑制 (SUPHELLO)	825
Point-to-Pointポーリング間隔 (PTPPOLLITV)	825
非ブロードキャスト・リンク (NBCLNK)	825
非ブロードキャスト間隔 (NBCPOLLITV)	826
近隣ルーター・リスト (NGHRTRL)	826
インスタンス (INSTANCE)	827
例	827
エラー・メッセージ	827

OSPF仮想リンクの変更 (CHGOSPFLNK) 829

パラメーター	829
近隣ルーター (NGHRTR)	829
リンク伝送領域 (LNKTMASARA)	830
再伝送間隔 (RETMSITV)	830
伝送遅延 (TMSDLY)	830
helloの間隔 (ITVHELLO)	830
データベース交換タイムアウト (DBEXCHTIMO)	831
活動状態にないルーター・タイムアウト (INACTTIMO)	831
認証タイプ (AUTHTYPE)	831
認証値 (AUTHVAL)	832
例	832
エラー・メッセージ	833

OSPF範囲の変更 (CHGOSPFRNG) 835

パラメーター	835
領域ID (AREA)	835
IPアドレスの範囲 (IPADDRNG)	835

公示 (ADVERTISE)	836
例	836
エラー・メッセージ	836

出力待ち行列変更 (CHGOUTQ) 839

パラメーター	840
出力待ち行列 (OUTQ)	841
スプール・ファイル最大サイズ (MAXPAGES)	842
待ち行列上のファイルの順序 (SEQ)	842
リモート・システム (RMTSYS)	843
リモート印刷装置待ち行列 (RMTPRQ)	844
自動開始する書出プログラム (AUTOSTRWTR)	844
書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)	845
接続タイプ (CNNTYPE)	845
宛先タイプ (DESTTYPE)	846
SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)	847
データ変換プログラム (USRDTATFM)	847
製造タイプおよび型式 (MFRTYPMDL)	847
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	854
イメージ構成 (IMGCFG)	854
IPアドレス (INTNETADR)	857
VM/MVSクラス (CLASS)	857
用紙制御バッファ (FCB)	858
宛先オプション (DESTOPT)	858
区切りページの印刷 (SEPPAGE)	859
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	859
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	859
ユーザー定義ドライバ・プログラム (USRDRVPGM)	860
スプール・ファイルASP (SPLFASP)	861
テキスト記述 (TEXT)	861
ファイルの表示 (DSPDTA)	861
ジョブ区切り (JOBSEP)	862
操作員制御 (OPRCTL)	862
データ待ち行列名 (DTAQ)	862
検査権限 (AUTCHK)	863
例	863
エラー・メッセージ	863

所有者の変更 (CHGOWN) 865

パラメーター	866
オブジェクト (OBJ)	866
新しい所有者 (NEWOWN)	867
現行権限の取り消し (RVKOLDAUT)	867
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	867
シンボリック・リンク (SYMLNK)	868
例	868
エラー・メッセージ	870

オーガナイザー・プロファイルの変更 (CHGPCOPRF) 873

エラー・メッセージ: CHGPCOPRF	873
パラメーター	873
例	873
エラー・メッセージ	873

PDGプロファイル変更 (CHGPDGPRF) 875

パラメーター	875
ユーザー (USER)	875
記述子グループの印刷 (PDG)	875
印刷記述子 (PRTD)	876
例	876
エラー・メッセージ	876

PEX定義の変更 (CHGPEXDFN) 879

パラメーター	879
定義 (DFN)	887
タイプ (TYPE)	887
プロファイル・タイプ (PRFTYPE)	888
ジョブ名 (JOB)	888
タスク名 (TASK)	889
監視するプログラム (PGM)	890
データ編成 (DTAORG)	891
使用最大記憶域 (MAXSTG)	892
トレース・データ満杯時の処理 (TRCFULL)	892
ジョブ・データの組み合わせ (MRGJOB)	892
スレッド/タスク・オプションの追加 (ADDTHDOPT)	893
全ジョブ/タスクのリスト (LSTALLJOB)	893
サンプリング間隔 (INTERVAL)	893
PGMブラケット・イベント (PGMBKTEVT)	894
トレース・タイプ (TRCTYPE)	895
特定イベント (SLTEVT)	896
機械語命令 (MCHINST)	896
プログラム・イベント (PGMEVT)	897
基本イベント (BASEVT)	898
記憶域イベント (STGEVT)	899
ディスク・イベント (DSKEVT)	900
不在イベント (FAULTEVT)	901
ジョブ・イベント (JOBEVT)	902
ロック・イベント (LCKEVT)	903
SARイベント (SAREVT)	904
エキスパート・キャッシュ・イベント (EXPCCHEVT)	905
ディスク・サーバー・イベント (DSKSVREVT)	906
オペレーティング・システム・イベント (OSEVT)	907
JAVAイベント (JVAEVT)	908
通信イベント (CMNEVT)	909
アプリケーション・イベント (APPEVT)	910
PASEイベント (PASEEVT)	911
ファイル・サーバー・イベント (FILSVREVT)	912
同期化イベント (SYNCEVT)	913
ジャーナル・イベント (JRNEVT)	914
データベース・イベント (DBEVT)	915
資源の類縁性イベント (RSCAFNEVT)	916
仮想入出力イベント (VRTIOEVT)	917
テキスト'記述' (TEXT)	917
例	918
エラー・メッセージ	918

物理ファイル変更 (CHGPF) 919

パラメーター	919
--------	-----

物理ファイル (FILE)	920
システム (SYSTEM)	921
ソース・ファイル (SRCFILE)	921
ソース・メンバー (SRCMBR)	922
ソース・リスト・オプション (OPTION)	922
生成重大度レベル (GENLVL)	924
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	924
従属論理ファイル削除 (DLTDEPLF)	924
制約の除去 (RMVCST)	925
メンバーの満了日 (EXPDATE)	925
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	925
アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	926
アクセス・パスの保守 (MAINT)	926
アクセス・パス回復 (RECOVER)	927
強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)	927
メンバー・サイズ (SIZE)	928
記憶域割り振り (ALLOCATE)	929
入れたい記憶装置 (UNIT)	929
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	929
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	930
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	930
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	930
許される削除レコードの最大% (DLTPCT)	931
削除済みレコードの再使用 (REUSEDLT)	931
分類順序 (SRTSEQ)	931
言語識別コード (LANGID)	932
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	933
ノード・グループ (NODGRP)	933
区画キー (PTNKEY)	933
テキスト'記述' (TEXT)	934
コード化文字セットID (CCSID)	934
例	935
エラー・メッセージ	935

PF制約の変更 (CHGPF CST) 937

パラメーター	937
ファイル (FILE)	937
制約名 (CST)	938
制約状態 (STATE)	938
例	939
エラー・メッセージ	939

物理ファイル・メンバー変更 (CHGPFM) 941

パラメーター	941
物理ファイル (FILE)	941
メンバー (MBR)	942
ソース仕様タイプ (SRCTYPE)	942
メンバーの満了日 (EXPDATE)	942
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	943
テキスト'記述' (TEXT)	943
例	943
エラー・メッセージ	944

付録. 特記事項 945

プログラミング・インターフェース情報	946
商標	947

使用条件 948 コードに関するライセンス情報および特記事項 . . 948

DNSサーバー属性の変更 (CHGDNSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DNSサーバー属性の変更 (CHGDNSA)コマンドは、ドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバー属性を設定または変更するために使用できます。

複数のDNSサーバーが同じシステム上で構成されている場合には、属性をすべての構成済みDNSサーバー・インスタンスについて変更したいか、あるいは特定のDNSサーバーについてのみ変更したいかを指定することができます。

この変更は、DNSサーバーが次回開始されるまで有効となります。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DNSSVR	サーバー・インスタンス	文字値, *ALL	オプションル, キー, 定位置 1
AUTOSTART	自動開始サーバー	*SAME, *YES, *NO	オプションル
DBGLVL	デバッグ・レベル	0-11, *SAME, *DFT	オプションル

上

サーバー・インスタンス (DNSSVR)

属性を変更する必要があるDNSサーバーを指定します。

***ALL** 現在システム上に構成済みのすべてのDNSサーバー・インスタンスの属性値が、このコマンドの他のパラメーターに指定された属性値に変更されます。

文字値 属性値がこのコマンドの他のパラメーターに指定された属性値に変更されるDNSサーバー・インスタンスの名前を指定します。

上

自動開始サーバー (AUTOSTART)

TCP/IPの開始(STRTCP)コマンドが実行されるか、TCP/IPサーバーの開始(STRTCPSVR)コマンドがSERVER(*AUTOSTART)を指定して実行されて、TCP/IPが開始されたときに、DNSサーバーが自動的に始動するかどうかを指定します。

STRTCPSVRコマンドが、SERVER(*DNS)またはSERVER(*ALL)を指定して実行された場合には、DNSサーバーは、この属性に指定された値にかかわらず、始動されます。

***SAME**

自動始動属性は前の設定から変更されません。 *SAMEを指定した場合に、この値が前に設定されていなければ、値*NOが使用されます。

***YES** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、またはSTRTCPSVRコマンドにSERVER(*AUTOSTART)を指定してTCP/IPが開始されるたびに、DNSサーバーは自動的に始動します。

***NO** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、またはSTRTCPSVRコマンドにSERVER(*AUTOSTART)を指定してTCP/IPが開始されるたびに、DNSサーバーは自動的に始動しません。

*NOが指定されている場合、SERVER(*DNS)またはSERVER(*ALL)を指定したSTRTCPSVRコマンドによってのみ、DNSサーバーは始動されます。

DNSサーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

上

デバッグ・レベル (DBGLVL)

DNSサーバーがどれだけ診断（デバッグ）情報を収集してログ・ファイルに書き出すかを指定します。 デバッグ情報は、DNSの問題判別のためにIBMサービスによって使用されます。

通常は0のDBGLVL値でDNSサーバーを実行されるようお奨めします。 DBGLVL 0 は、デバッグ機能がオフで、デバッグ情報がログされないことを意味します。

解決できないDNSの問題があり、問題の解決に役立てるためにデバッグ情報が必要であることを弊社技術員が判断すると、弊社技術員がDBGLVL値の設定を手助けします。

デバッグ・レベルの値が1から11に増えると、DBGLVLログに書き出されるデバッグ情報の量も増えます。 値を高く設定しても、DNSサーバーは初期設定に長時間を必要とします。

デバッグ情報は、統合ファイル・システムのストリーム・ファイルに書き込まれます。このファイルの名前および位置は、システムでのDNSの構成方法により異なります。このファイルは、DNSサーバーが実行を続けるかぎり、大きくなり続け、大量のディスク記憶域スペースを使用する可能性があります。したがって、さらにデバッグ情報は必要でなくなると同時にこの値は必ず0に設定し戻してください。

すでに実行されているDNSサーバーのDBGLVLが変更された場合に、その新しい値を使用するには、DNSサーバーを停止し、再度開始する必要があります。

***SAME**

値は前に設定されていれば変更されません。 そうでない場合には、0（デバッグはオフ）の値が使用されます。

***DFT** デバッグ・レベル0（オフ）を使用します。

0から11

DNSサーバーにログさせたい診断情報の量を指定するためには、0から11の範囲の数値を指定してください。 DBGLVL値が増えると、デバッグ・ログに記憶されるデバッグ情報の量が増えます。0はデバッグ情報なしを意味します。 11は最大量のデバッグ情報です。

例

```
CHGDNSA  DNSSVR(*ALL)  AUTOSTART(*YES)
```

このコマンドは、次回にSTRTCPコマンドが出されてTCP/IPが開始され、TCP/IPアプリケーションが自動始動された時に、DNSサーバーが自動始動されることを指示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

DNS0013

コマンド・パラメーターの処理エラー。

DNS0016

サーバー・インスタンス&1を処理できませんでした。

DNS0017

BIND形式&1への構成マイグレーションが必要です。

DNS0019

導入済みサーバー・バージョンを判別できません。

DNS0058

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要です。

TCP7124

ライブラリー&2中のタイプ*PGMのプログラム&1が異常終了しました。

文書記述変更 (CHGDOCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書記述変更(CHGDOCD)コマンドにより、前もってファイルされた文書を記述する情報を変更することができます。

制約事項:

- 文書プロファイル値を変更するためには、少なくとも、その文書に対する変更(*CHANGE)権限、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいはその文書に対して認可されているユーザーの代行処理を行う場合でなければなりません。
- セキュリティ値 (例えば、ACC, USRAUT, PERSONAL, AUTL),チェックアウト・フラグ、および置き換え可能フラグを変更するためには、ユーザーはその文書の所有者であるか、オブジェクトに対して全(*ALL)権限または*ALLOBJ特殊権限をもっているか、あるいはその文書に対して認可されているユーザーの代理処理を行う場合でなければなりません。
- 他のユーザーの代行処理権限はユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって認可されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DOC	文書	文字値, *DOCID	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 3
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
SENSITIV	機密性	*SAME, *NONE, *PERSONAL, *PRIVATE, *CONFIDENTIAL	オプション
DOCD	文書記述	文字値, *SAME	オプション
DOCDATE	文書日付	日付, *SAME, *RMV	オプション
EXPDATE	満了日	日付, *SAME, *RMV	オプション
ACTDATE	処置期日	日付, *SAME, *RMV	オプション
CMPDATE	完了日	日付, *SAME, *RMV	オプション
REFERENCE	参照	文字値, *SAME, *RMV	オプション
STATUS	状況	文字値, *SAME, *RMV	オプション
PROJECT	プロジェクト	文字値, *SAME, *RMV	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ACC	アクセス・コード	単一値: *SAME, *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: アクセス・コード	1-2047	
	要素 2: アクセス・コードの追加または除去	*ADD, *RMV	
AUTL	権限リスト	名前, *SAME, *RMV	オプション
USRAUT	ユーザー権限	単一値: *SAME, *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前, *PUBLIC	
	要素 2: 権限レベル	*USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE, *AUTL, *RMV	
MARK	オフラインのマーク	単一値: *SAME, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オフラインのマーク	*YES	
	要素 2: オフラインのタイプ	*KEEP, *RMVTXT, *RMVALL	
ALWRPL	置き換え可能	*SAME, *NO	オプション
CHKOUT	検査	*SAME, *NO	オプション
AUTHOR	作成者	単一値: *SAME, *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成者	文字値	
	要素 2: 新しい作成者	文字値, *ADD, *RMV	
DOCCLS	文書クラス	文字値, *SAME, *RMV	オプション
KWD	キーワード	単一値: *SAME, *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: キーワード	文字値	
	要素 2: 新しいキーワード	文字値, *ADD, *RMV	
SUBJECT	主題	単一値: *SAME, *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 主題	文字値	
	要素 2: 新しい主題	文字値, *ADD, *RMV	
FILCAB	ファイル・キャビネット位置	文字値, *SAME, *RMV	オプション
CPYLST	リスト・コピー	単一値: *SAME, *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リスト・コピー	文字値	
	要素 2: 新しいコピー・リスト	文字値, *ADD, *RMV	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: *SAME, *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

キーワード	記述	選択項目	ノート
DOCLANGID	言語識別コード	文字値, *SAME, *JOB	オプション
DOCCNTRYID	国別または地域ID	文字値, *SAME, *JOB	オプション
PERSONAL	個人	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

文書 (DOC)

ローカル・システムで変更する記述情報と関連した文書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*DOCID

変更している文書は、**文書識別コード (DOCID)**パラメーターで指定されるライブラリー割り当て文書名によって識別されます。

名前 変更している文書のユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

上

フォルダー (FLR)

変更する文書が入っているフォルダーの名前を指定します。**文書 (DOC)**パラメーターにユーザー割り当て文書名を指定する場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

*NONE

文書が**文書識別コード (DOCID)**パラメーターで識別される時には、フォルダーは指定されません。

名前 変更する文書が入っているフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。当該文書が入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名(FLR1/FLR2/その他)から構成することができます。最大63桁を指定することができます。この値は、DOC(NAME)が指定されている場合に必要です。

上

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

単一値

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

要素1: ユーザー識別コード

文字 別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーの代行処理が許可されているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。

要素2: アドレス

文字 別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

上

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時
MN =分
SS =秒
HS =100分の1秒
SNSNSNSN =システム名

*NONE

文書が**文書 (DOC)**パラメーターで識別される時には、ライブラリー割り当て文書名は必要ありません。

名前 変更する文書のライブラリー割り当て文書名を指定してください。

上

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性のレベルを指定します。4つのレベルとは、機密性なし、個人用、私用、および会社機密です。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この文書には、機密上の制限はありません。

***PERSONAL**

この配布は、個人としてのユーザーに向けられたものです。

***PRIVATE**

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。

***CONFIDENTIAL**

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

上

文書記述 (DOCD)

変更する文書の記述を指定します。これは文書交換アーキテクチャー・プロファイル文書名フィールドです。

***SAME**

文書記述は変更されません。

記述 文書の新しい記述を指定してください。最大44文字を指定することができます。

上

文書日付 (DOCDATE)

ユーザーが文書に割り当てたい日付を指定します。

***SAME**

文書日付は変更されません。

***RMV** 文書日付はファイル済み文書から除去されます。

日付 追加または置き換える文書日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

満了日 (EXPDATE)

文書がもう必要でなくなる日付を指定します。

***SAME**

満了日は変更されません。

***RMV** 満了日はファイル済み文書から除去されます。

日付 置き換えまたは追加する文書の満了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

処置期日 (ACTDATE)

要求された処置の期日となる日付を指定します。

***SAME**

処置期日は変更されません。

***RMV** 処置期日はファイル済み文書から除去されます。

日付 置き換えまたは追加を行う処置の期日を指定します。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

上

完了日 (CMPDATE)

要求された処置が完了する日付を指定します。

***SAME**

完了日は変更されません。

***RMV** 完了日はファイル済み文書から除去されます。

日付 置き換えまたは追加する完了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

参照 (REFERENCE)

文書と関連した参照を指定します。

***SAME**

参照フィールドは変更されません。

***RMV** 文書参照はファイル済み文書から除去されます。

参照 置き換えるかまたは追加する文書参照を指定してください。最大60文字を使用することができます。

上

状況 (STATUS)

文書のユーザー定義状況を指定します。状況の例は、処理中、承認保留、または廃棄などです。

***SAME**

文書状況は変更されません。

***RMV** 文書状況はファイル済み文書の情報から除去されます。

状況 置き換えるかまたは追加する文書の状況を指定してください。最大20文字を指定することができます。

上

プロジェクト (PROJECT)

文書が関連付けられるプロジェクトの名前を指定します。

10 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

***SAME**

プロジェクト名は変更されません。

***RMV** 文書プロジェクト名はファイル済み文書の情報から除去されます。

名前 置き換えるかまたは追加する文書プロジェクト名を指定してください。最大10文字を指定することができます。

上

アクセス・コード (ACC)

アクセス・コードを追加または削除することを指定します。アクセス・コードの追加は、アクセス・コード追加(ADDACC)コマンドをもつシステムで行なわなければなりません。

単一値

***SAME**

アクセス・コードは変更されません。

***RMVALL**

すべてのアクセス・コードがファイル済み文書から除去されます。

要素1: アクセス・コード

1から2047

追加または削除されるアクセス・コードを指定します。

要素2: アクセス・コードの追加または除去

***ADD** 指定されたアクセス・コードが、変更するファイル済み文書のアクセス・コードに追加されます。

***RMV** 指定されたアクセス・コードが、変更するファイル済み文書のアクセス・コードから除去されます。

上

権限リスト (AUTL)

文書 (DOC)パラメーターまたは文書識別コード (DOCID)パラメーターで指定された文書に対する権限は権限リストから取られることを指定します。

***SAME**

権限リストは変更されません。

***RMV** 現行権限リストがファイル済み文書から除去されます。

名前 現行権限リストに置き換えるか、あるいは権限リストが現在存在していない場合に権限リストを追加する、権限が入っている権限リストの名前を指定してください。

上

ユーザー権限 (USRAUT)

文書にアクセスできるユーザーのユーザーIDおよびアドレスおよび各ユーザーがもっている権限を指定します。文書のユーザー権限を除去するか、あるいはユーザー権限を変更してこの文書に対する認可を変更するためには、このパラメーターを使用してください。

単一値

*SAME

この文書にアクセスできるユーザーのリストは変更されません。

*RMVALL

すべてのユーザーがファイル済み文書の権限リストから除去されます。

要素1: ユーザー・プロファイル

*PUBLIC

文書に対する特定権限をもっていないユーザーまたはユーザー・グループ、あるいは権限リスト上にないユーザーまたはユーザー・グループに与えられた権限が変更されます。

名前 特定のユーザー・アクセス・リストから削除したいユーザーまたはその権限を変更したいユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。

要素2: 権限レベル

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*AUTL

AUTLパラメーターの**権限リスト (AUTL)**パラメーターで指定された権限リストの権限が、文書に対して使用されます。*AUTLは、*PUBLICも指定した場合にだけ有効です。

***RMV** ファイル済み文書に対するユーザーの特定権限が除去されます。

上

オフラインのマーク (MARK)

文書をオフラインで保管するかどうかを指定します。マークは文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) コマンドの1機能であり、オフラインとしてマークされた (MARK(*YES)が指定された) 文書をディスク、ディスケット、またはテープに保管するものです。

単一値

*SAME

オフラインのマークの値は変更されません。

***NO** オフラインのマークがオフになり、文書はSAVDLOコマンドによってオフラインで保管されません。

要素1: オフラインのマーク

***YES** オフラインのマークがオンになり、文書はSAVDLOコマンドによってオフラインで保管されます。

要素2: オフラインのタイプ

***YES**と一緒に指定できる値は次の通りです。

*KEEP

文書がディスク、ディスケット、またはテープに保管される時、文書はオンラインでも使用できるように保たれます。

*RMVTEXT

文書がディスク、ディスケット、またはテープに保管される時、文書内容は削除されますが、文書プロファイルは文書ライブラリーの検索に備えてオンラインの状態に保たれます。

*RMVALL

文書がディスク、ディスケット、またはテープに保管される時、文書は削除されます。文書のトレースは、文書ライブラリーの検索に備えてオンライン状態のままにしておかれることはありません。

上

置き換え可能 (ALWRPL)

文書の内容が置き換え可能であるかどうかを指定します。文書が置き換え可能でないと変更された場合には、文書を置き換え可能に戻すことはできません。この変更を要求するためには、その文書に対する全 (*ALL)権限が必要です。

*SAME

文書内容の置き換えの値は変更されません。

***NO** この要求が完了した後に文書内容を変更することはできません。

上

検査 (CHKOUT)

検査値としての設定値を指定します。この値は、置き換え可能な文書の場合にだけ設定することができます。このパラメーターにより、文書検索 (RTVDOC) 要求によってすでにチェックアウト済みの文書のチェックアウト状況をリセットすることができます。このパラメーターで更新のために文書を検査することができません。置き換え不可能な文書の場合には、このパラメーターは無視されます。チェックアウト値をオフに設定するように要求できるのは、文書の所有者または全(*ALL)権限をもつユーザーだけです。

*SAME

検査フラグは変更されません。

***NO** 検査フラグはオフに設定されます。

上

作成者 (AUTHOR)

文書の作成者を指定します。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

単一値

*SAME

文書の作成者は変更されません。

***RMVALL**

すべての作成者名が除去されます。

要素1: 作成者

文字 除去または置き換えを行う現行作成者、あるいは追加する作成者の名前を指定してください。

要素2: 新しい作成者

文字 現行作成者名を置き換える新しい作成者名を指定してください。

***ADD** ユーザーはファイル済み文書の作成者として追加されます。

***RMV** ユーザーはファイル済み文書の作成者として除去されます。

上

文書クラス (DOCCLS)

この文書と関連したクラスを指定します。

*SAME

文書クラスは変更されません。

***RMV** ファイル済み文書の文書クラスは除去されます。

クラス 既存の文書クラスを置き換える文書クラスまたは追加する文書クラスを指定してください。最大16文字を指定することができます。

上

キーワード (KWD)

文書を記述するために使用できるキーワードを指定します。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

単一値

*SAME

キーワードは変更されません。

*RMVALL

ファイル済み文書のすべてのキーワードが除去されます。

要素1: キーワード

文字 除去または置き換えを行う現行キーワード、または追加するキーワードを指定します。

要素2: 新しいキーワード

文字 現行キーワードと置き換える新しいキーワードを指定してください。アポストロフィで囲んだ最大60文字を指定することができます。

*ADD ファイル済み文書のキーワードが追加されます。

*RMV ファイル済み文書のキーワードが除去されます。

上

主題 (SUBJECT)

文書の件名を指定します。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

単一値

*SAME

件名は変更されません。

*RMVALL

ファイル済み文書のすべての件名が除去されます。

要素1: 主題

文字 除去または置き換えを行う現行件名、または追加する件名を指定します。

要素2: 新しい主題

文字 現行件名を置き換える新しい件名を指定してください。

*ADD ファイル済み文書の件名が追加されます。

*RMV ファイル済み文書の件名が除去されます。

上

ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)

文書が保管される場所を指定します。このパラメーターは印刷文書用です。印刷文書を参照する交換文書プロファイル(IDP)が変わるだけです。

*SAME

ファイル・キャビネット参照は変更されません。

***RMV** ファイル済み文書のファイル・キャビネット参照は除去されます。

ファイリング・キャビネット参照

追加または置き換えるファイル・キャビネット参照を指定してください。最大60文字を指定することができます。

上

リスト・コピー (CPYLST)

この文書を受け取るユーザーの名前またはアドレスを指定します。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

単一値

*SAME

コピー・リストは変更されません。

***RMVALL**

すべてのコピー・リスト項目がファイル済み文書から除去されます。

要素1: リスト・コピー

文字 除去または置き換えを行う現行リスト・コピー項目、または追加する新しいコピー・リスト項目を指定します。

要素2: 新しいコピー・リスト

文字 現行コピー・リスト項目を置き換える新しいコピー・リスト項目を指定してください。

***ADD** ファイル済み文書のコピー・リスト項目が追加されます。

***RMV** ファイル済み文書のコピー・リスト項目が除去されます。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

***SAME**

文字IDは変更されません。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

言語識別コード (DOCLANGID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる言語IDを指定します。

このパラメーターを使用して、IDが前に指定されていない場合には言語IDを文書のIDPに追加するか、あるいは既存の言語IDの値を変更することができます。

注: このパラメーターに値を指定し、**国別または地域ID (DOCCNTRYID)**パラメーターにまだ値が指定されていない場合には、国別または地域のIDも指定しなければなりません。

***SAME**

言語IDは変更されません。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された言語IDが使用されます。

言語ID

言語IDを指定してください。有効なIDのリストを表示するには、**言語識別コード (DOCLANGID)**パラメーターからPF4キーを押してください。

上

国別または地域ID (DOCCNTRYID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる国別または地域のIDを指定します。

このパラメーターを使用して、IDが前に指定されていない場合には国別または地域のIDを文書のIDPに追加するか、あるいは既存の国別または地域のIDの値を変更することができます。

注: このパラメーターに値を指定し、**言語識別コード (DOCLANGID)**パラメーターにまだ値が指定されていない場合には、国別IDも指定しなければなりません。

***SAME**

国または地域IDは変更されません。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された国別または地域のIDが使用されます。

国別または地域ID

国別または地域IDを指定します。有効なIDのリストを表示するには、**国別または地域ID (DOCCNTRYID)**パラメーターからPF4キーを押してください。

上

個人 (PERSONAL)

変更する文書が個人用文書であるかどうかを指定します。そうである場合には、この文書にアクセスできるのは、所有者かまたは認可されたユーザーだけです。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 文書は共用文書に変更されます。この値はSENSITIV(*NONE)にマップされます。

***YES** 文書は個人用文書に変更されます。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

上

例

```
CHGDOCD  DOC(DOC1)  FLR(FLR1)  SENSITIV(*PRIVATE)
          AUTL(USERAUTL)  ALWRPL(*NO)  AUTHOR('AUTHOR1' *RMV)
```

このコマンドは、フォルダーFLR1内にある文書DOC1を私用文書に変更します。この文書は、もう置き換えることができる文書ではありません。AUTHOR1は作成者のリストから除去されます。権限リストがすでに存在している場合は、権限リストUSERAUTLによって置き換えられます。権限リストが存在していない場合は、USERAUTLが文書の権限リストとして追加されます。文書と関連した残りの情報は変更されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF902B

*AUTLの権限はUSRAUT(*PUBLIC)でしか使用することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF905E

USRAUT(*PUBLIC)を指定した時には、*RMVを指定することはできない。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVVD)、DOCCHRID(*DEVVD)を使用することはできない。

CPF9099

文書記述は変更されなかった。

上

表示装置ファイル変更 (CHGDSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置ファイル変更(CHGDSPF)コマンドは、指定した表示装置ファイルの属性を変更します。

このコマンドに指定された情報だけを変更することができます。ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)が変更された場合には、そのファイルで変更を行うために、表示装置ファイルを作成し直す必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL	
DEV	表示装置	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *REQUESTER	オプション, 定位置 2
MAXDEV	装置の最大数	1-256, *SAME	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
ENHDSP	拡張表示	*SAME, *YES, *NO	オプション
RSTDSP	画面復元	*SAME, *NO, *YES	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	*SAME, *YES, *NO	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *SAME, *DEVD, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECFMT	10進数形式	*SAME, *FILE, *JOB	オプション
SFLENDTXT	SFLENDテキスト	*SAME, *FILE, *MSG	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*SAME, *NO, *YES	オプション
IGCEXNCHR	外字	*SAME, *YES, *NO	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *SAME, *CLS, *IMMED	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *NOMAX	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション

ファイル (FILE)

変更する表示装置ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

***ALL** 指定したライブラリーのすべての表示装置ファイルが変更されます。

総称名 変更する表示装置ファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

名前 変更する表示装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。

2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

表示装置 (DEV)

表示装置のユーザーとそのジョブとの間でデータ・レコードの受け渡しを行うためにこの表示装置ファイルで使用される1つまたは複数の表示装置の名前を指定します。弊社提供の表示装置ファイルに指定されている装置名は*REQUESTERです。

単一値

***SAME**

この表示装置名は変更されません。

***NONE**

表示装置名は指定されません。表示装置の名前は、表示装置ファイル変更 (CHGDSPF)コマンドまたは表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンド、あるいはファイルをオープンする高水準言語プログラムに後から指定しなければなりません。

その他の値 (最大50個指定可能)

***REQUESTER**

プログラムが呼び出される表示装置は、ファイルのオープン時に割り当てられた装置です。

名前 1つまたは複数の表示装置の名前を指定してください。名前の1つとして*REQUESTERを指定することができます。最大50の装置名(*REQUESTERを含む)を指定できますが、合計数はファイルのオープン時に**装置の最大数 (MAXDEV)**パラメーターに指定された数を超えることはできません。

上

装置の最大数 (MAXDEV)

ファイルがオープンしている時に、表示装置ファイルに同時に接続できる表示装置の最大数を指定します。ただし、CLプログラムが、同じファイルを通して(プログラムの1回の実行によって)複数のワークステーションにアクセスするように書かれている場合には、このパラメーターには1より大きい値を指定しなければなりません。

装置の名前は、このコマンドのDEVパラメーター、後出のCHGDSPFまたはOVRDSPFコマンド、あるいはファイルをオープンするHLLプログラムの中に指定されます。

***SAME**

表示装置ファイルに接続できる表示装置の最大数は変更されません。

1から256

同時にこの表示装置ファイルに接続できる表示装置の最大数を指定してください。

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによってファイルがオープンされた時に、この装置ファイルのレコード様式のレベル識別名を検査するかどうかを指定します。検査する場合には、プログラム中のレコード様式IDは装置ファイル中のものと一致していなければなりません。複数のファイルに同じレコード様式名が存在できるため、各レコード様式にはその作成時に内部システムIDが指定されます。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ファイルのオープン時にレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて一致しない場合には、ファイルのオープンを要求したプログラムにエラー・メッセージが送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません (テキストがある場合)。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

拡張表示 (ENHDSP)

この表示装置ファイルによって表示装置に表示されるデータがその表示装置で使用可能な拡張機能を使用しているかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***YES** 表示装置ファイルのデータは、表示装置で使用可能な拡張機能を使用して表示されます。この機能には、略語、選択カーソル、および図形ウィンドウ枠を含めることができます。

***NO** この表示装置ファイルのデータは、5250表示装置上にある場合と同じように表示されます。略語、選択カーソル、または図形ウィンドウ枠など、この表示装置で使用可能な拡張機能は使用されません。この値は通常、すべての表示装置相互間の文字を基礎とした対話を維持するために使用されます。

画面復元 (RSTDSP)

この表示装置ファイルによって表示装置に表示されたデータは、別の表示装置ファイルが別のデータを同じ表示装置上に表示するために使用できるように、ファイルが保留されている（一時的に非活動状態にされている）ときに保管するかどうかを指定します。このファイルのデータを保管した場合には、そのファイルを再び使用する時に、そのデータが装置の画面に復元されます。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ファイルが保留されていると、このファイルによって表示中のデータは保管されません。

***YES** ファイルの保留時に表示されていたデータは、ファイルが再び使用された時に装置の画面に復元できるように、保管されます。

上

書き出し据え置き (DFRWRT)

読み取り要求が行われた時に、他のデータと一緒に表示できるようになるまでデータの書き出しを遅延することを指定します。データを受信した直後に制御権がプログラムに戻されます。これにより、パフォーマンスが向上することがあります。

*SAME

装置ファイルに指定された値は変更されません。

***NO** 書き出し操作の後で、入出力操作が完了するまで、ユーザー・プログラムに制御権が戻されません。

***YES** プログラムが書き出し要求を出すと、バッファが処理された後で、そのプログラムに制御権が戻されます。データはただちに表示されない可能性があります。データの実際の表示は、後で読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作が実行される時に実行されます。バッファは次の読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作に備えることができます。

上

文字識別コード (CHRID)

表示装置ファイルに対して行うことができる文字変換のタイプを指定します。必要な場合には、システムは装置との間で送受信する文字データを変換します。これにより、文字の正しい16進バイト値が装置に送信され、アプリケーション・プログラムに戻されます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***DEV D**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために装置のCHRIDが使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDは常に装置のCHRIDと同じなので、変換が行われることはありません。

***SYSVAL**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSID

を表すためにQCHRIDシステム値が使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行われます。

***JOBCCSID**

装置のCHRID,ジョブのCCSID,または表示装置ファイルのCCSID値の間に相違がある場合に、文字変換を行うことを指定してください。入力時に、必要な場合は、文字データが装置のCHRIDからジョブのCCSIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、文字データがジョブのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、表示装置ファイルの固定文字データが表示装置ファイルのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。

注: CHRIDコマンド・パラメーターに*CHRIDCTL特殊値が指定されているときにCHRIDコマンド・パラメーターまたはCHRIDCTLジョブ属性のいずれかで直接指定された*JOBCCSID特殊値は、ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されている場合には使用できません。V2R3M0より前に作成されたファイルにはCCSIDによるタグが付けられず、*JOBCCSIDサポートとの組み合わせで使用することはできません。

***CHRIDCTL**

この表示装置ファイルに対するCHRIDコマンド・パラメーターで特殊値*JOBCCSIDを使用するか*DEV Dを使用するかを判別するために、システムがCHRIDCTL ジョブ属性を検査することを指定します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 使用する図形文字セットの番号を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

要素2: コード・ページ

整数 使用するコード・ページの番号を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

注: 図形文字セットとコード・ページは、CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために使用される値を指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行われます。

上

10進数形式 (DECfmt)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

***SAME**

10進数形式値は変更されません。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECfmtジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

上

SFLENDテキスト (SFLENDTXT)

サブファイルを表示する場合に、「続く...」および「終わり」というテキストが検索される場所を指定します。「続く...」および「終わり」というテキストは、サブファイル制御レコードにSFLEND(*MORE) DDS キーワードが指定されている時にサブファイル中に表示されます。

*SAME

SFLENDテキスト値は変更されません。

***FILE** ファイルの作成時にファイルに格納された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。このテキストは、ファイルが作成された時にシステムの活動言語に存在するメッセージ CPX6AB1およびCPX6AB2から検索されます。

***MSG** ファイルのオープン時にシステムの現行活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。

上

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合

*SAME

値は変更されません。

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルはDBCSデータを処理します。

外部記述ファイルの場合

*SAME

値は変更されません。

***NO** ファイルのDBCS属性はデータ記述仕様(DDS)に定義されています。

***YES** DDSに定義されている以外のDBCS属性には、(1) DDSキーワードIGCALTTYPの有効化、および(2) DDSのフィールドまたはメッセージのDBCS属性の識別があります。

上

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字を処理するかどうかを指定します。DBCS外字を処理するときには、装置にはシステムの援助が必要です。システムが文字の外観を装置に指示しなければ、装置は文字を表示または印刷できません。外字は、DBCS装置ではなくDBCSフォント・テーブルに記憶されます。外字処理は、DBCS装置に使用可能なDBCSフォント・テーブルに記憶される文字を作成するために必要なオペレーティング・システムの機能です。

*SAME

値は変更されません。

***YES** システムはDBCS外字を処理します。

*NO システムは外字を処理しません。外字は未定義文字として表示されます。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にプログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

*SAME

待機時間は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

*CLS ジョブの省略待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれからでも指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

*SAME

待機レコード値は変更されません。

***NOMAX**

プログラムが「送信勧誘された装置からの読み取り」操作の完了を待つ時間に限界はありません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

1から32767

プログラムが「送信勧誘された装置からの読み取り」操作の完了を待機する秒数を指定してください。

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないため、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起こります。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

単一値

***SAME**

データ待ち行列名は変更されません。

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

例

例1: 複数の表示装置の指定

```
CHGDSPF FILE(ORDENT) DEV(WS1 WS2 WS3) MAXDEV(3)
```

このコマンドは、ORDENTという名前の表示装置ファイルの記述を変更します。このファイルはライブラリー・リストから見つけます。このファイルに使用する装置は、ワークステーションWS1、WS2、およびWS3です。この3つの装置全部を、同時にこの表示装置ファイルの処理に使用することができます。

例2: データ書き出しの遅延

```
CHGDSPF FILE(ACCREC/*ALL) DFRWRT(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーACCRECのすべての表示装置ファイルの記述を、読み取り要求が行われるまで、データの書き出しを遅延させるように変更します。

例3: DBCSデータ処理の指定

```
CHGDSPF FILE(IGCLIB/IGCDSP) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーIGCLIBに保管されている表示装置ファイルIGCDSPを、2バイト文字セット・データを処理するように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

CPF7308

&2の&1について&5個のファイルが変更されていません。&4個のファイルが変更された。

上

配布属性の変更 (CHGDSTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布属性変更(CHGDSTA)コマンドは、メール配布およびOFFICEVISION/400プログラムのメッセージ・サービス属性(X.400サポート)の内容を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
KEEPRCP	宛先の保存	*SAME, *BCC, *ALL, *NONE	オプション, 定位置 1
USEMSFLCL	ローカルMSFの使用	*SAME, *NO, *YES	オプション
SMTPRTE	SMTPゲートウェイへの経路	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	

上

宛先の保存 (KEEPRCP)

各メール配布内で記憶されて送られる宛先情報を指定します。1次宛先およびコピー宛先の情報を記憶して送ることができます。

保管される（それぞれのメール配布内で記憶され送信される）宛先の数に1000に制限されます。これは、メール項目を送信できる宛先の数に対する制限ではなく、保管される宛先の数にすぎません。

KEEPRCP(*BCC)が指定され、ブラインド・コピー・リストに1000を超える宛先が存在する場合には、それらの宛先は保存されません。

KEEPRCP(*ALL)が指定され、メール項目に1000を超える宛先が存在する場合には、それらの宛先は保管されません。

*SAME

値は変更されません。

***BCC** 各メール配布内で、配布の際に識別されないコピー宛先が記憶されて送られます。これは、システムの導入時における省略時の値です。

***ALL** 各メール配布内で、配布の際に宛先を識別するかどうかにかかわらず、配布のすべての宛先が記憶されて送られます。

***NONE**

メール配布内で、宛先は記憶されて送られません。

上

ローカルMSFの使用 (USEMSFLCL)

ローカル間メールの場合に、オフィス・メール・サービスがメール・サービス・フレームワーク(MSF)を使用するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ローカル間メールはメール・サービスによって直接配布され、メール・サービス・フレームワーク(MSF)を使用しません。これは、システムの導入時における省略時の値です。

***YES** ローカル間メールは、メールの配布にメール・サービス・フレームワーク(MSF)を使用します。

上

SMTPゲートウェイへの経路 (SMTPRTE)

宛先としてインターネット・アドレスをもつメールを、このシステムまたはSNADS ネットワーク内（あるいはその両方）でSMTP/MIMEゲートウェイに経路指定するために、メール・サービスが使用するユーザーIDおよびアドレスを指定します。SNADS ネットワーク内では、このユーザーIDおよびアドレスは、TCP/IP SMTP/MIMEゲートウェイが活動状態であるノード上にあるように見えるはずですが、ゲートウェイ・ノードでは、このユーザーIDおよびアドレスは、PREFADR(NETUSRID *IBM ATCONXTXT)という優先アドレスがシステム配布ディレクトリー項目になければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

このシステムで定義されているSMTP/MIMEゲートウェイへの経路はありません。これが指定された時には、SNDDSTコマンドまたはオフィス・プロダクト送信パネルでインターネット・アドレスを入力することはできません。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

SMTP/MIMEゲートウェイへの経路のユーザーIDを指定してください。

使用できるアドレス値は次の通りです。

アドレス

SMTP/MIMEゲートウェイへの経路のアドレスを指定してください。ユーザーIDが指定された場合には、このアドレスを指定しなければなりません。

上

例

```
CHGDSTA  KEEPSCP(*ALL)  SMTPRTE(INET USERS)
```

このコマンドは、配布のすべての宛先が保管され、各メール配布先内に送信されるように、配布属性を変更します。また、インターネット・アドレス経路をユーザー ID およびアドレス (INET USERS) に設定されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

配布記述変更 (CHGDSTD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布記述変更(CHGDSTD)コマンドは、メール・バスケット中の配布文書に関する記述情報（作成者、件名、キーワードなど）またはアクセス情報を変更します。パラメーターによっては、記述情報を削除または追加することができます。

制約事項: (1)他のユーザーの処理を代行するためには、ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによってそのユーザーの処理を代行する許可を受けなければなりません。(2)コマンドの要求元をシステム配布ディレクトリに登録しなければなりません。(3)他のユーザーの処理を代行する要求元が個人用メール配布を要求することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DSTID	配布ID	文字値	必須, 定位置 1
DSTIDEXN	配布IDエクステンション	1-99, *NONE	オプション
COMMENT	注記	文字値, *SAME, *RMV	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
SENSITIV	機密性	*SAME, *NONE, *PERSONAL, *PRIVATE, *CONFIDENTIAL	オプション
PERSONAL	個人	*SAME, *NO, *YES	オプション
IMPORTANCE	内容の重要性	*SAME, *NORMAL, *LOW, *HIGH	オプション
PTY	優先順位	*SAME, *NORMAL, *HIGH	オプション
DOCD	文書記述	文字値, *SAME	オプション
DOCDATE	文書日付	日付, *SAME, *RMV	オプション
EXPDATE	満了日	日付, *SAME, *RMV	オプション
ACTDATE	処置期日	日付, *SAME, *RMV	オプション
CMPDATE	完了日	日付, *SAME, *RMV	オプション
REFERENCE	参照	文字値, *SAME, *RMV	オプション
STATUS	状況	文字値, *SAME, *RMV	オプション
PROJECT	プロジェクト	文字値, *SAME, *RMV	オプション
DOCLANGID	言語識別コード	文字値, *JOB, *SAME	オプション
DOCCNTRYID	国別または地域ID	文字値, *JOB, *SAME	オプション
DSTEXPDATE	配布満了標識	要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付, *SAME, *CURRENT, *RMV	
	要素 2: 時刻	時刻, *SAME, *CURRENT, *ENDOFDAY	

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUTHOR	作成者	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成者	文字値	
	要素 2: 新しい作成者	文字値, *ADD, *RMV	
DOCCLS	文書クラス	文字値, <u>*SAME</u> , *RMV	オプション
KWD	キーワード	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: キーワード	文字値	
	要素 2: 新しいキーワード	文字値, *ADD, *RMV	
SUBJECT	主題	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 主題	文字値	
	要素 2: 新しい主題	文字値, *ADD, *RMV	
FILCAB	ファイル・キャビネット位置	文字値, <u>*SAME</u> , *RMV	オプション
CPYLST	リスト・コピー	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リスト・コピー	文字値	
	要素 2: 新しいコピー・リスト	文字値, *ADD, *RMV	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *DEVD, <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

配布ID (DSTID)

配布の固有の配布IDを指定します。このIDは、これを作成したシステムによって配布に割り当てられます。着信配布しか変更できません。IDが発信配布を表している場合には、エラー・メッセージが戻されません。

配布ID

配布IDは、送信元ユーザーIDの後半部分（右側に埋め込みをした8桁）、送信元ユーザーIDの前半部分（右側に埋め込みをした8桁）、および先行ゼロを含めて4桁のゾーン順序番号から構成されます。例えば、'NEWYORK SMITH 0204'などです。送信する情報プロンプト(TYPEパラメータ)に*DSTIDを指定した場合には、このパラメーターが必須です。

これは必須パラメーターです。

上

配布IDエクステンション (DSTIDEXN)

配布IDプロンプト(DSTIDパラメーター)で指定された配布IDのエクステンション(ある場合)を指定します。この2桁のエクステンションは、重複した配布を固有に識別する01から99の範囲の値です。省略時の値は01です。

*NONE

重複した配布はありません。*NONEは01のエクステンションと同等です。

配布IDエクステンション

配布と関連したエクステンションを指定してください。これは重複した配布を固有に識別するために使用されます。

上

注記 (COMMENT)

配布文書を記述する注釈を指定します。

*SAME

注釈は変更されません。

***RMV** 注釈は配布文書から除去されます。

注釈 最大256文字のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

上

ユーザー識別コード (USRID)

この要求と関連付けられるユーザーIDアドレスを指定します。

*CURRENT

変更する配布に対して権限が与えられるのはコマンドを現在実行中のユーザーです。

ユーザーIDアドレス

変更する配布に対して権限が与えられるユーザーIDアドレスを指定してください。指定したユーザーIDアドレスと現行ユーザーIDアドレスが異なる場合には、ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドまたはOFFICEVISION/400プログラムによって、指定したユーザーの処理を代行する権限を現行ユーザーに与えなければなりません。

上

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性のレベルを指定します。通常、個人用、私用、および会社機密の4レベルがあります。他のユーザーの代わりに作業しているユーザーは私用文書を見ることができません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この配布には、機密上の制限はありません。

***PERSONAL**

この配布は、個人あてに送られます。

***PRIVATE**

この配布には、受取人本人しかアクセスしてはならない情報が入っています。

***CONFIDENTIAL**

この配布には、会社の規定に従って取り扱わなければならない情報が入っています。

上

個人 (PERSONAL)

文書配布が私用であるかどうかを指定します。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

PERSONAL(*YES)を使用する場合には、SENSITIVパラメーターを省略するか、あるいはこれを値SENSITIV(*NONE)と一緒に使用しなければなりません。このパラメーターを指定しないでコマンドのプロンプトが出された場合には、このパラメーターは表示されません。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 機密でない配布にアクセスできるのは、その所有者か、あるいはその配布文書に対して認可されているユーザーだけです。この配布にアクセスできる他のユーザーの処理を代行する権限が与えられたユーザーは、機密でない文書にアクセスすることができます。この値はSENSITIV(*NONE)にマップされます。

***YES** 私用配布文書にアクセスできるのはその所有者だけです。この配布文書にアクセスできる他のユーザーの処理を代行する権限が与えられたユーザーは、配布にアクセスすることができません。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

上

内容の重要性 (IMPORTANCE)

重要度として低い、通常、または高いを指定してください。これは、配布の内容の重要度を宛先に指示するものです。これは、配布が送られた速度と関係のある優先順位とは異なります。

***SAME**

値は変更されません。

***NORMAL**

重要度が通常である配布。

***HIGH**

非常に重要な配布。

***LOW** 重要度が低い配布。

上

優先順位 (PTY)

配布が送られる速さを指定します。優先順位は配布がシステムに到着する速さと関係しているため、前のバージョンでの優先順位の目的はもはや有効ではありません。前のリリースからのアプリケーションとの互換性を確保するために、このパラメーターは残されます。このパラメーターを指定しないでコマンドのプロンプトが出された場合には、このパラメーターは表示されません。

*SAME

値は変更されません。

*NORMAL

配布文書は通常速度回線で到着しました。

*HIGH

配布文書は高速回線で到着しました。

上

文書記述 (DOCD)

変更する文書の記述を指定します。これは文書交換アーキテクチャー・プロファイル文書名フィールドです。

*SAME

文書記述は変更されません。

文書記述

文書の新しい記述を指定してください。最大44文字をアポストロフィで囲んで指定することができます。

上

文書日付 (DOCDATE)

ユーザーが配布文書に割り当てたい任意の日付を指定します。

*SAME

配布文書日付は変更されません。

***RMV** 配布文書日付は配布文書から除去されます。

文書日付

追加または変更する配布文書日付を指定してください。

上

満了日 (EXPDATE)

その日を超えると配布文書がすでに必要でなくなる文書満了日を指定します。

*SAME

満了日は変更されません。

***RMV** 満了日は配布文書から除去されます。

満了日 置き換えまたは追加する満了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

処置期日 (ACTDATE)

要求された処置の期日となる日付を指定します。

***SAME**

処置期日は変更されません。

***RMV** 処置期日は配布文書から除去されます。

処置期日

置き換えまたは追加を行う処置の期日を指定します。処置期日はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

完了日 (CMPDATE)

要求された処置が完了する日付を指定します。

***SAME**

完了日は変更されません。

***RMV** 完了日は配布文書から除去されます。

完了日 置き換えまたは追加する完了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

参照 (REFERENCE)

配布文書と関連した参照を指定します。

***SAME**

参照フィールドは変更されません。

***RMV** 参照は配布文書から除去されます。

参照 変更または追加する文書参照を指定してください。最大60文字を使用することができます。

上

状況 (STATUS)

配布文書のユーザー定義状況標識（処理中、承認保留、または廃棄）を指定します。

***SAME**

状況標識は変更されません。

***RMV** 状況標識は除去されます。

状況 変更または追加する文書状況標識を指定してください。最大20文字を指定することができます。

上

プロジェクト (PROJECT)

配布文書が関連付けられるプロジェクト名を指定します。

*SAME

プロジェクト名は変更されません。

***RMV** プロジェクト名は配布文書から除去されます。

プロジェクト

置き換えまたは追加する配布文書のプロジェクトを指定してください。最大10文字を指定することができます。

上

言語識別コード (DOCLANGID)

この配布文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる言語IDを指定します。

このパラメーターを使用して、IDが前に指定されていない場合には言語IDを文書のIDPに追加するか、あるいは既存の言語IDの値を変更することができます。

注: このパラメーターに値を指定し、**国別または地域ID**プロンプト(DOCCNTRYIDパラメーター)にまだ値が指定されていない場合には、国別または地域のIDも指定しなければなりません。

*SAME

言語IDは変更されません。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された言語IDが使用されます。

言語ID

言語IDを指定してください。有効なIDのリストを表示するためには、**言語識別コード**プロンプト(DOCLANGIDパラメーター)からF4キーを押してください。

上

国別または地域ID (DOCCNTRYID)

この配布文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる国別または地域のIDを指定します。

このパラメーターを使用して、IDが前に指定されていない場合には国別または地域のIDを文書のIDPに追加するか、あるいは既存の国別または地域のIDの値を変更することができます。

注: このパラメーターに値を指定し、**言語識別コード**プロンプト(DOCLANGIDパラメーター)にまだ値が指定されていない場合には、国別IDも指定しなければなりません。

*SAME

国または地域IDは変更されません。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された国別または地域のIDが使用されます。

国別または地域ID

国別または地域IDを指定します。有効なIDのリストを表示するためには、**国別または地域ID**プロンプト(DOCCNTRYIDパラメーター) からF4 キーを押してください。

上

配布満了標識 (DSTEXPDATE)

メール・ログ内に配布が必要でなくなる日付および時刻を指定します。

指定できる配布満了日の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

配布満了日と配布満了時刻の両方に*SAMEを指定した場合には、配布満了日および時刻は変更されません。

配布満了日に*SAMEを指定して、配布満了時刻に*SAME以外の値を指定した場合には、コマンドは配布満了日が存在しているかどうかを調べます。配布満了日が存在している場合には、日付はそのまま変わらず、時刻が指定通りに変更されます。配布満了日が存在していない場合には、その状態を示すエラー・メッセージが出され、ユーザーは*SAME以外の値を指定しなければなりません。

*CURRENT

配布満了日は現在日付に設定されます。

***RMV** 配布満了日および時刻が配布文書から除去されます。

配布満了日

満了日として使用する値を指定してください。日付の形式はシステム値QDATFMT で指定された形式でなければなりません。

指定できる配布満了時刻の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

配布満了日と配布満了時刻の両方に*SAMEを指定した場合には、配布満了日および時刻は変更されません。

配布満了時刻に*SAMEを指定して、配布満了日に*SAME以外の値を指定した場合には、システムは配布満了時刻が存在しているかどうかを調べます。配布満了時刻が存在している場合には、時刻はそのまま変わらず、日付が指定通りに変更されます。配布満了時刻が存在していない場合には、エラー・メッセージが出され、ユーザーは*SAME 以外の値を指定しなければなりません。

*CURRENT

配布満了時刻は現在時刻に設定されます。

*ENDOFDAY

満了時刻は指定された日付の終わりです。時刻は23:59:59に設定されます。

配布満了時刻

満了時刻として使用する値を指定してください。

この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。HHに有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSに有効な値の範囲は00から59です。

時刻区切り記号を付ける場合には、5または8桁のストリング（時および分、または時、分、および秒）を指定してください。システム値QTIMSEPで指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。コマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲んで入力しなければなりません。ジョブで使用した区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、コマンドは正常に実行されません。HHに有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSに有効な値の範囲は00から59です。

上

作成者 (AUTHOR)

配布文書の作成者（複数の場合もある）を指定します。最大20文字をアポストロフィで囲んで指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

可能な**作成者**の値は次の通りです。

*SAME

文書の作成者は変更されません。

作成者 変更または除去する現行作成者あるいは追加する作成者を指定してください。

可能な**新しい作成者**の値は次の通りです。

新しい作成者

配布文書と関連した現行作成者を置き換える新しい作成者を指定してください。

***ADD** 指定された値は配布文書に関する情報に追加されます。

***RMV** 指定された値は配布文書に関する情報から除去されます。

上

文書クラス (DOCCLS)

この配布文書と関連したクラスを指定します。

*SAME

文書クラスは変更されません。

***RMV** 配布文書の文書クラスは除去されます。

文書クラス

置き換えるかまたは追加する文書クラスを指定してください。最大16文字をアポストロフィで囲んで指定することができます。

上

キーワード (KWD)

配布文書を記述するために使用できるキーワードを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

可能な**キーワード**の値は次の通りです。

*SAME

キーワードは変更されません。

キーワード

変更または除去する現行キーワード、または追加するキーワードを指定してください。アポストロフィで囲んだ最大60文字を指定することができます。

可能な**新しいキーワード**の値は次の通りです。

新しいキーワード

現行キーワードと置き換える新しいキーワードを指定してください。アポストロフィで囲んだ最大60文字を指定することができます。

***ADD** 指定された値は配布文書に関する情報に追加されます。

***RMV** 指定された値は配布文書に関する情報から除去されます。

上

主題 (SUBJECT)

配布文書の件名を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

可能な**件名**の値は次の通りです。

*SAME

配布文書の件名は変更されません。

件名 変更または除去する現行件名あるいは追加する件名を指定してください。最大60文字を使用することができます。

可能な**新しい件名**の値は次の通りです。

新しい件名

現行件名を置き換える新しい件名を指定してください。最大60文字を使用することができます。

***ADD** 指定された文書件名は配布文書に関する情報に追加されます。

***RMV** 指定された文書件名は配布文書に関する情報から除去されます。

上

ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)

配布文書が保管されている物理的な位置を指定します。このパラメーター印刷配布文書用です。このパラメーターは、印刷文書を参照する文書交換アーキテクチャー・プロファイル・フィールドだけを変更します。

*SAME

ファイル・キャビネット位置は変更されません。

***RMV** ファイル・キャビネット位置は配布文書から除去されます。

ファイル・キャビネット位置

追加または変更するファイル・キャビネット位置を指定してください。

上

リスト・コピー (CPYLST)

この配布文書を受け取るユーザーの名前またはアドレスを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。

可能なコピー・リストの値は次の通りです。

*SAME

コピー・リストは変更されません。

コピー・リスト

変更または除去する現行コピー・リスト項目、あるいは追加する新しいコピー・リスト項目を指定してください。

可能な新しいコピー・リストの値は次の通りです。

新しいコピー・リスト

現行コピー・リスト項目を置き換える新しいコピー・リスト項目を指定してください。

***ADD** 指定したコピー・リスト項目が、配布リストに関する情報に追加されます。

***RMV** 指定したコピー・リスト項目が、配布リストに関する情報から取り除かれます。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

*SAME

文字IDは変更されません。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

図形文字セットコード・ページ

データを作成するために使用される図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。

注: 両部分ともその長さは最大5桁とすることができます。

上

例

例1: 作成者の削除

```
CHGDSTD DSTID('NEWYORK SMITH 0201') DSTIDEXN(01)
AUTHOR('JOHN W. BAKER' *DLT)
KWD('P C 接続のスキナー' *ADD)
```

このコマンドは、配布文書と関連付けられた作成者の1つを削除し、新規キーワードを配布文書に追加します。

例2: ユーザー定義文書名の変更

```
CHGDSTD DSTID('NEWYORK SMITH 0201') DSTIDEXN(02)
DOCD('S/38 1984セールス') USRID(JACOBSON RCHJACOB)
```

この例では、JACOBSONの代行処理を認可された担当者が、ユーザーに送信された2番目の配布の文書と関連付けられたユーザー定義の文書名を変更しようとしています。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90D5

配布記述は変更されなかった。

CPF900B

ユーザー I D およびアドレス &1 &2 はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブでは CMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D) を使用することはできない。

配布リストの変更 (CHGDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト変更(CHGDSTL)コマンドは、既存の配布リストに関する情報を変更するために使用されます。

配布リストは、配布ディレクトリーからの項目のリストです。配布リストは、ローカル、リモート、間接、および独立であるワークステーションのユーザーの項目を含むことができます。配布リストはまた、リモート配布リストを含むことはできますが、ローカル配布リストを含むことはできません。配布リストの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない配布リストを変更するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。
2. 所有している配布リストを変更するには特殊権限は不要です。ただし、所有している配布リストの所有権を変更するためには、新しい所有者として指定するユーザーのユーザー・プロファイルに対して少なくとも変更(*CHANGE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
LSTD	リスト記述	文字値, *SAME	オプション
OWNER	所有者	名前, *SAME	オプション, 定位置 2

上

リスト識別コード (LSTID)

変更される配布リストの2部分から成るリストIDを指定します。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

これは必須パラメーターです。

上

リスト記述 (LSTD)

配布リストの記述を指定します。この記述は配布リストをさらに詳しく識別します。

*SAME

値は変更されません。

リスト記述

配布リストの変更済み記述を指定してください。最大50桁を指定できますが、アポストロフィで囲まなければなりません。

上

所有者 (OWNER)

配布リストを所有するユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。指定されたユーザー・プロファイルはシステムに存在していなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー・プロファイル名

配布リストの割り当て先のユーザーのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

例

```
CHGDSTL  LSTD(DEPTABC DLIST)
          LSTD('部門ABC配布リスト')
          OWNER(SECABC)
```

このコマンドは、部門ABCのメンバーが入っている配布リストを変更します。配布リストの記述および所有者は両方とも変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9A8A

配布リスト&1 &2は変更されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

IBM保守ツール・パスワード変更 (CHGDSTPWD)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

IBM保守ツール・パスワード変更(CHGDSTPWD)コマンドは、IBM提供省略時値に対する保守ツール機密保護特権(QSECOFR)をもつIBM提供保守ツール・ユーザーIDのパスワードを変更するために使用されます。パスワードが即時に変更され、システムで監査が活動状態であれば、監査レコードが送られます。

注: IBM提供のものを含め、どの保守ツール・ユーザーIDでも名前変更できます。IBMは、これをユーザー側で行うことをお勧めしません。QSECOFRが名前変更され、パスワード・パラメーターに値*DEFAULTが指定されている場合には、CHGDSTPWDコマンドは、保守ツール・ユーザーID名を変更してQSECOFRに戻し、パスワードをIBM提供の省略時値に設定します。

制約事項:

- このコマンドは共通*USE権限で出荷されますが、これを使用するためにはQSECOFRとしてサインオンしなければなりません。他のユーザーにこのコマンドを認可することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PASSWORD	パスワード	*SAME, *DEFAULT	オプション、定位置 1

上

パスワード (PASSWORD)

保守ツール機密保護特権をもつIBM提供の保守ツール・ユーザーIDを指定します。

*SAME

保守ツール機密保護特権パスワード値をもつIBM提供保守ツール・ユーザーIDは変更されません。

*DEFAULT

保守ツール機密保護特権パスワードをもつIBM提供保守ツール・ユーザーIDは、システム出荷時の省略時値にリセットされます。

注: 保守ツール機密保護特権をもつIBM提供保守ツール・ユーザーIDが名前変更された場合には、ID名がQSECOFRに戻されます。

上

例

例1:省略時のDSTパスワードに変更

```
CHGDSTPWD PASSWORD(*DEFAULT)
```

このコマンドは、DSTパスワードをシステム出荷時の省略時の値に変更します。

例2: DSTパスワードの未変更のままにする

```
CHGDSTPWD PASSWORD(*SAME)
```

このコマンドはDSTパスワードを変更しません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2275

IBM提供の保守ツール・ユーザーIDのパスワードの変更は許可されていません。

上

配布待ち行列の変更 (CHGDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列変更(CHGDSTQ)コマンドによって、配布サービス待ち行列テーブル中の項目を変更することができます。配布待ち行列は、他のシステムに送信または転送される前の配布を記憶するために使用されません。

CHGDSTQコマンドは、対話式表示サポートを提供しません。これは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス(SD88-5031)を参照してください。

接続情報(リモート・ロケーション名、モード、リモート・ネットワークID、およびローカル・ロケーション名)が変更され、SNADS(SNA配布サービス)送信機能のジョブが活動状態である(ただし送信中ではない)場合には、SNADS送信機能のジョブは終了され、ジョブ名が常にリモート・ロケーション名を反映することを確認するために、新しいジョブが開始されます。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セットID(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロフィールには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- リモート・ロケーション名、モード、リモート・ネットワークID、およびローカル・ロケーション名の組み合わせは、配布待ち行列のタイプの中で固有としなければなりません。この組み合わせは、システムの中、配布サービス待ち行列テーブルにおけるSNA配布サービス(SNADS)配布待ち行列(SNADSタイプの配布待ち行列)の場合、およびSYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)配布待ち行列(SVDSタイプの配布待ち行列)の場合には、固有とする必要はありません。同じタイプの別のSNADSまたはSVDS配布待ち行列用にまだ構成されていないとシステムが判別した、使用できるすべての値は、RMTNETIDパラメーターおよびLCLLOCNAMEパラメーターに指定することができる省略時の値の*LOC、およびMODEパラメーターに指定することができる省略時の値の*NETATRによって表わされます。
- 待ち行列テーブル中の各RPDSタイプの配布待ち行列ごとに、固有のリモート・ロケーション名を指定しなければなりません。RPDS待ち行列は、モード、リモート・ネットワークID、またはローカル・ロケーション名を使用しません。
- SVDSタイプの配布待ち行列の場合には、経路指定テーブルの構成は不要です。SVDS待ち行列は、SNADS経路指定テーブルの中に任意に構成することができます。しかし、通常のSNADSメールを変更管理機能待ち行列に経路指定することもできなければ、変更管理機能の接続によって受信することもできません。また、変更管理機能の接続をSNADS待ち行列に経路指定することもできなければ、SNADSの接続によって受信することもできません。
- SVDSタイプの配布待ち行列では、単一の待ち行列ビューのみをサポートすることができます(待ち行列が通常部分と優先順位部分とに2等分されることはありません)。構成および操作上の目的から、通常待ち行列のみが指定されます。

- 待ち行列が「送信中」の状況にある時、あるいは待ち行列項目が「延期」または「保留」の状況にある時には、接続情報を変更することはできません。待ち行列または待ち行列項目の状況が活動状態でなくなるのを待機するか、あるいは待機する代わりに配布待ち行列初期設定(INZDSTQ)コマンドを使用して、この条件をリセットしてください。
- 受信先が活動状態である時、あるいは配布が受信され、送信元で確認を受信した旨の肯定応答が得られていない時には、SVDSタイプの配布待ち行列を変更することはできません。リモート・システムでの送信が完了するのを待機するか、あるいは待機する代わりに配布待ち行列初期設定(INZDSTQ)コマンドを使用して、この条件をリセットしてください。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたものの配布待ち行列の内部値とも一致しない(大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須、定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *SAME	オプション
MODE	モード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *SAME, *LOC, *NONE	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME, *LOC	オプション
NRMPY	通常優先順位	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信時刻	単一値: *SAME, *ALWAYS その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 開始時刻(HHMM)	0000-2359, ' '	
	要素 2: 終了時刻(HHMM)	0000-2359, ' '	
	要素 2: 強制時刻(HHMM)	0000-2359, *SAME, *NONE	
	要素 3: 送信項目数	1-999, *SAME, *MANUAL	
HIGHPTY	高優先順位	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信時刻	単一値: *SAME, *ALWAYS その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 開始時刻(HHMM)	0000-2359, ' '	
	要素 2: 終了時刻(HHMM)	0000-2359, ' '	
	要素 2: 強制時刻(HHMM)	0000-2359, *SAME, *NONE	
	要素 3: 送信項目数	1-999, *SAME, *MANUAL	
RTYNBR	再試行回数	0-9999, *SAME	オプション
RTYITV	再試行間隔	0-9999, *SAME	オプション
SNDQ	受信中の送信	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

配布待ち行列 (DSTQ)

変更する配布待ち行列項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

この配布待ち行列から送信される配布の送信先のリモート・ロケーションの名前を指定します。このリモート・ロケーション名は、配布をこの配布待ち行列から別のシステムに送信する時に使用される装置の装置記述に指定されているリモート・ロケーション名と同じでなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

リモート・ロケーション名は変更されません。

リモート・ロケーション

最大8文字のリモート・ロケーション名を指定してください。

上

モード (MODE)

配布待ち行列によって使用される装置上のセッションを定義するモードの名前を指定します。RPDSタイプの配布待ち行列項目を変更する場合には、このパラメーターは適用できません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

モード名は変更されません。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

最大8文字のモード名を指定してください。CPSVCMGまたはSNASVCMGは使用しないでください；これらは、システムが使用するために予約されたモード名です。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

この配布待ち行列から送られる配布の送信先のリモート・ネットワークのリモート・ネットワークIDを指定します。RPDSタイプの配布待ち行列項目を変更する場合には、このパラメーターは適用できません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

リモート・ネットワークIDは変更されません。

***LOC** この配布待ち行列によって使用される装置記述の中に定義されているリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは指定されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ネットワーク中のリモート・システムに対してユーザーのシステムを識別するために使用する名前を指定します。システム名と同じ名前を使用するようにお奨めします。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

ローカル・ロケーション名は変更されません。

***LOC** ローカル・ロケーション名は、この配布待ち行列によって使用される装置記述の中に定義されている名前となります。

ローカル・ロケーション名

最大8文字のローカル・ロケーション名を指定してください。

上

通常優先順位 (NRMPY)

データ低のサービス・レベルをもつ配布のための待ち行列送信条件を指定します。このパラメーターには、次の3つの要素があります。

送信時刻

この優先順位の待機中の配布がこの配布待ち行列から送信される時刻。この時刻を入力しない場合には、送信は送信項目数によって制御され、時刻との関連はなくなります。

強制時刻

この優先順位の配布が待ち行列内の項目数に関係なく送信される特定の時刻。送信時刻に***ALWAYS**を指定した場合には、強制時刻は任意の時刻に設定することができます。送信時刻として特定の終了時刻および開始時刻を指定した場合には、強制時刻はその期間中に入っているものでなければなりません。

送信項目数

システムが自動的に送信を開始するために、待ち行列上に必要なこの優先順位の配布の数。

指定できる**送信時刻**の値は次の通りです。

***SAME**

送信時刻は変更されません。

***ALWAYS**

時刻に関係なく、この優先順位の配布はこの配布待ち行列から送信されます。

開始時刻 終了時刻

この優先順位の配布をこの配布待ち行列から送信することができる時刻を指定してください。開始時刻および終了時刻は24時間形式HHMMで指定しなければなりません。ここで、**H** =時、**M** =分です。開始時刻および終了時刻の両方を指定しなければなりません。

指定できる**強制時刻**の値は次の通りです。

*SAME

強制時刻は変更されません。

*NONE

強制時刻は指定されません。

強制時刻

強制時刻を24時間形式HHMMで指定してください。ここで、**H** =時、**M** =分です。

使用できる**送信項目数**の値は次の通りです。

*SAME

送信項目数は変更されません。

*MANUAL

配布は、操作員が配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドまたは配布待ち行列送信(SNDDSTQ)コマンドを使用して手動で送信した時にだけ送信されます。

送信項目数

送信される前にこの配布待ち行列に入っていないなければならないこの優先順位の配布の数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 999です。

上

高優先順位 (HIGHPTY)

高速、状況、またはデータ高のサービス・レベルをもつ配布のための待ち行列送信条件を指定します。このパラメーターには、次の3つの要素があります。

送信時刻

この優先順位の待機中の配布がこの配布待ち行列から送信される時刻。この時刻を入力しない場合には、送信は送信項目数によって制御され、時刻との関連はなくなります。

強制時刻

この優先順位の配布が待ち行列内の項目数に関係なく送信される特定の時刻。送信時刻に***ALWAYS**を指定した場合には、強制時刻は任意の時刻に設定することができます。送信時刻として特定の終了時刻および開始時刻を指定した場合には、強制時刻はその期間中に入っているものでなければなりません。

送信項目数

システムが自動的に送信を開始するために、待ち行列上に必要なこの優先順位の配布の数。

指定できる**送信時刻**の値は次の通りです。

*SAME

送信時刻は変更されません。

*ALWAYS

時刻に関係なく、この優先順位の配布はこの配布待ち行列から送信されます。

開始時刻 終了時刻

この優先順位の配布をこの配布待ち行列から送信することができる時刻を指定してください。開始時刻および終了時刻は24時間形式HHMMで指定しなければなりません。ここで、**H** =時、**M** =分です。開始時刻および終了時刻の両方を指定しなければなりません。

指定できる**強制時刻**の値は次の通りです。

*SAME

強制時刻は変更されません。

*NONE

強制時刻は指定されません。

強制時刻

強制時刻を24時間形式HHMMで指定してください。ここで、**H** =時、**M** =分です。

使用できる**送信項目数**の値は次の通りです。

*SAME

送信項目数は変更されません。

*MANUAL

配布は、操作員が配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドまたは配布待ち行列送信(SNDDSTQ)コマンドを使用して手動で送信した時にだけ送信されます。

送信項目数

送信される前にこの配布待ち行列に入っていないなければならないこの優先順位の配布の数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 999です。

上

再試行回数 (RTYNBR)

障害が起こった後でシステムがこの配布待ち行列から配布の再送を試みる最大回数を指定します。このパラメーターは、リモート・システムにおける通信回線障害および回復可能な配布障害に適用されます。この配布待ち行列をサービスしているSNADSジョブは、試行回数が限界を超えた時に終了します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

最大再送回数は変更されません。

回数 障害の後でシステムが配布の再送を試みることのできる最大回数を指定してください。有効な値の範囲は0-9999です。

上

再試行間隔 (RTYITV)

再試行の間隔（分数）を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

再試行の間隔（分数）は変更されません。

分数 再試行の間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-9999です。

上

受信中の送信 (SNDQ)

この配布待ち行列が、通常優先順位プロンプト（NRMPYパラメーター）および高優先順位プロンプト（HIGHPTYパラメーター）で指定された送信時刻および項目数の値を無視して、待ち行列からの配布の送信先であるSNADSシステムから配布を受信した時に送信を開始するかどうかを指定します。

このパラメーターは、SNADSタイプの配布待ち行列項目を変更する場合にだけ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

送信待ち行列の値は変更されません。

***NO** 待ち行列の送信条件が満たされている時、あるいは配布待ち行列送信(SNDDSTQ) コマンドまたは配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドを使用して配布を送信する時にだけ、この待ち行列から配布が送信されます。

***YES** この配布待ち行列は、待ち行列の送信条件に関係なく、待ち行列からの配布の送信先であるSNADSシステムから配布を受信した時に送信を開始します。手操作待ち行列（項目数変数が指定されていない待ち行列）の場合には、配布が自動的に送信されます。

上

例

```
CHGDSTQ DSTQ(CHICAGO) RMTLOCNAME(NEWLU) MODE(*NETATR)
```

このコマンドは、CHICAGOという名前の配布待ち行列を変更します。リモート・ロケーション名がNEWLUに変更され、モードがシステム・ネットワーク属性で指定されたモードに変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF881A

配布待ち行列&1の接続情報をこの時点で変更することはできない。

CPF881B

配布待ち行列&1の配布が受信されている。

CPF881D

*SVDS配布待ち行列に高優先順位データを使用することはできない。

CPF8826

配布待ち行列&1の配布待ち行列項目が存在している。

CPF8827

配布待ち行列&1の経路指定テーブル項目が存在している。

CPF8828

*DLS配布待ち行列&1にリモート文書ライブラリー項目が存在している。

CPF8833

配布待ち行列&1はすでに存在している。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

配布経路の変更 (CHGDSTRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布経路変更(CHGDSTRTE)コマンドによって、配布サービス経路指定テーブル中の項目を変更することができます。各経路指定テーブル項目ごとに、1つまたは複数のサービス・レベルを指定しなければなりません。

対話式表示サポートは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワークの構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)の解説書を参照してください。

システム名、グループ名、および配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セットID(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 次のパラメーターのうちの少なくとも1つに値を指定しなければなりません。すなわち、FAST、STATUS、DATAHIGH、またはDATALOW。この4つのパラメーターのいずれの値も、*NONEに変更することはできません。
- SYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)タイプの配布待ち行列を指定する配布の経路指定が、別のタイプの配布待ち行列 (SNA配布サービス(SNADS)またはVM/MVS ブリッジ(RPDS)など) を組み込むように変更された場合には、エラーが起きます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSNAME	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY	
	要素 2: システム・グループ	文字値, *ANY	
FAST	高速サービス・レベル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 配布待ち行列名	文字値	
	要素 2: HOPカウント	1-255, *NETATR	
STATUS	状況サービス・レベル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 配布待ち行列名	文字値	
	要素 2: HOPカウント	1-255, *NETATR	

キーワード	記述	選択項目	ノート
DATAHIGH	データ高サービス・レベル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 配布待ち行列名	文字値	
	要素 2: HOPカウント	1-255, *NETATR	
DATALOW	データ低サービス・レベル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 配布待ち行列名	文字値	
	要素 2: HOPカウント	1-255, *NETATR	
TEXT	テキスト	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

システム名 (SYSNAME)

変更したい経路指定テーブル項目があるリモート・システムのシステム名およびグループ名を指定します。

最大ホップ・カウントは、配布をSNADSレベルでシステム間に経路指定（ホップ）することのできるSNADSネットワーク中における最大回数です（最終宛先システムに対するホップも含む）。この最大ホップ・カウントには、拡張対等ネットワーク機能(APPN)の経路指定によって指定されたホップは含まれません。ホップの最大回数を超えた場合には、配布が終了し、最初に配布を送信したユーザーにエラー・メッセージが送られます。最大ホップ・カウントによって、配布がシステム間で無限にループされることを防ぐことができます。

最大8文字のシステム名および最大8文字のグループ名を指定することができます。

システム名として*ANYを指定することができます。SYSNAME(*ANYグループ)を指定するのは、特定のシステム名とは一致していないがグループ名と一致している配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を変更する場合です。経路指定テーブル中の各グループごとに*ANYを1つだけ使用することができます。

システム名にも*ANYが指定されている場合に限り、グループ名に*ANYを指定することができます。SYSNAME(*ANY *ANY)を指定するのは、他のどの経路指定テーブル項目とも一致しない配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を変更する場合です。経路指定テーブル中では、SYSNAME(*ANY *ANY)を1つだけ使用することができます。

これは必須パラメーターです。

上

高速サービス・レベル (FAST)

高速サービス・レベル配布に、配布待ち行列および宛先システムに対する最大ホップ・カウントを指定します。高速サービス・レベルは、最高優先順位のサービス・レベルです。

指定できる配布待ち行列の値は次の通りです。

*SAME

配布待ち行列および最大ホップ・カウントは変更されません。

***NONE**

高速サービス・レベルを必要とする配布に、配布待ち行列は指定されません。高速サービスを必要とする配布は、この経路指定テーブル項目を使用して経路指定することはできません。

配布待ち行列名

このサービス・レベルおよび経路指定項目を使用する配布が送信される配布待ち行列の名前を指定してください。この配布待ち行列は、すでに存在しているものでなければならず、DLS（文書ライブラリーサービス）タイプの待ち行列であってははいけません。

指定できる**最大ホップ・カウント**の値は次の通りです。

***NETATR**

最大ホップ・カウント用のシステム・ネットワーク属性の値が使用されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用することによって、現行のシステム値を表示することができます。

ホップ・カウント

最大ホップ・カウントを指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

上

状況サービス・レベル (STATUS)

状況サービス・レベルの配布に、配布待ち行列および宛先システムに対する最大ホップ・カウントを指定します。状況サービス・レベルは、ネットワークの状況用および他のフィードバック情報用に使用されません。

指定できる**配布待ち行列**の値は次の通りです。

***SAME**

配布待ち行列および最大ホップ・カウントは変更されません。

***NONE**

状況サービス・レベルを必要とする配布に、配布待ち行列は指定されません。状況サービスを必要とする配布は、この経路指定テーブル項目を使用して経路指定することはできません。

配布待ち行列名

このサービス・レベルおよび経路指定項目を使用する配布が送信される配布待ち行列の名前を指定してください。この配布待ち行列は、すでに存在しているものでなければならず、DLS（文書ライブラリーサービス）タイプの待ち行列であってははいけません。

指定できる**最大ホップ・カウント**の値は次の通りです。

***NETATR**

最大ホップ・カウント用のシステム・ネットワーク属性の値が使用されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用することによって、現行のシステム値を表示することができます。

ホップ・カウント

最大ホップ・カウントを指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

上

データ高サービス・レベル (DATAHIGH)

データ高サービス・レベルの配布に、配布待ち行列および宛先システムに対する最大ホップ・カウントを指定します。データ高サービス・レベルは、高優先順位のデータ・トラフィック用に使用されます。

指定できる**配布待ち行列**の値は次の通りです。

*SAME

配布待ち行列および最大ホップ・カウントは変更されません。

*NONE

データ高サービス・レベルを必要とする配布に、配布待ち行列は指定されません。データ高サービスを必要とする配布は、この経路指定テーブル項目を使用して経路指定することはできません。

配布待ち行列名

このサービス・レベルおよび経路指定項目を使用する配布が送信される配布待ち行列の名前を指定してください。この配布待ち行列は、すでに存在しているものでなければならず、DLS（文書ライブラリーサービス）タイプの待ち行列であってははいけません。

指定できる**最大ホップ・カウント**の値は次の通りです。

*NETATR

最大ホップ・カウント用のシステム・ネットワーク属性の値が使用されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用することによって、現行のシステム値を表示することができます。

ホップ・カウント

最大ホップ・カウントを指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

上

データ低サービス・レベル (DATALOW)

データ低サービス・レベルの配布に、配布待ち行列および宛先システムに対する最大ホップ・カウントを指定します。データ低サービス・レベルは、ほとんどのデータ・トラフィック用に使用されます。

指定できる**配布待ち行列**の値は次の通りです。

*SAME

配布待ち行列および最大ホップ・カウントは変更されません。

*NONE

データ低サービス・レベルを必要とする配布に、配布待ち行列は指定されません。データ低サービスを必要とする配布は、この経路指定テーブル項目を使用して経路指定することはできません。

配布待ち行列名

このサービス・レベルおよび経路指定項目を使用する配布が送信される配布待ち行列の名前を指定してください。この配布待ち行列は、すでに存在しているものでなければならず、DLS（文書ライブラリーサービス）タイプの待ち行列であってははいけません。

指定できる**最大ホップ・カウント**の値は次の通りです。

*NETATR

最大ホップ・カウント用のシステム・ネットワーク属性の値が使用されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用することによって、現行のシステム値を表示することができます。

ホップ・カウント

最大ホップ・カウントを指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

上

テキスト (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

テキストはブランクに変更されます。

'記述' 最大50文字のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDSTRTE  SYSNAME(SYSTEMA)  DATAHIGH(SYSTEMAFAST 2)
```

このコマンドは、サービス・レベルの高いデータを持つSYSTEMAに送られる配布用の配布待ち行列を変更します。新しい配布待ち行列は、ホップ・カウントが2のSYSTEMAFASTです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8801

文書ライブラリー・サービス(*DLS)待ち行列&1は経路指定テーブルで許されていない。

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF881E

配布経路に使用できない配布待ち行列の組み合わせが入っている。

CPF8815

経路指定テーブル項目&1 &2が見つからない。

CPF8831

経路指定テーブルに項目&1 &2がすでに存在している。

CPF8837

システム名/グループ&1 &2は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

データの変更 (CHGDTA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語(CL)コマンドCHGDTAによって、既存のデータベース・ファイルのレコードを追加、変更、または削除することができます。

エラー・メッセージ: CHGDTA

*ESCAPEメッセージ

IDU0120

重要なテーブルが存在していない。コマンドは打ち切られました。

IDU0141

重要なテーブルが矛盾している。コマンドは打ち切られました。

IDU0167

&1.&2 に対して権限がありません。

IDU1205

プログラム &1.&2 が見つからなかった。

IDU9001

&1 コマンドでエラーが見つかった。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFUPGM	DFUプログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DFUプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 3

上

DFUプログラム (DFUPGM)

データの対話式更新を制御するDFUプログラムの修飾名を指定します。

*LIBL DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

上

データベース・ファイル (FILE)

処理したいデータベース・ファイルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

DFUはプログラムを定義するために使用されたファイルを使用します。

ファイル名

DFUに処理させたいデータ・ファイルの修飾名を入力します。ファイルには、プログラムの定義に使用されるファイルと同様に、少なくとも1つのレコード様式名がなければなりません。

***LIBL** DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

上

メンバー (MBR)

処理したいファイル中のメンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

DFUはファイルの最初のメンバーを使用します。

メンバー名

DFUに処理させたいメンバーの名前を入力します。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

IDU0120

重要なテーブルが存在していない。コマンドは打ち切られました。

IDU0141

重要なテーブルが矛盾している。コマンドは打ち切られました。

IDU0167

&1.&2 に対して権限がありません。

IDU1205

プログラム &1.&2 が見つからなかった。

IDU9001

&1 コマンドでエラーが見つかった。

上

データ域変更 (CHGDTAARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域変更 (CHGDTAARA)コマンドは、ローカル・データ域(*LDA)、グループ・データ域(*GDA)、プログラム初期設定パラメーター・データ域(*PDA)、またはライブラリーに記憶される指定のデータ域の値を変更します。新しい値は、同じタイプで、データ域の長さまたは指定されたサブストリングの長さより小さいか等しい長さでなければなりません。

グループ・ジョブでは、指定するデータ域をグループ・データ域(*GDA)とすることができます。このデータ域は自動的にグループと関連付けられ、そのグループの外部のジョブからアクセスすることはできません。この文字データ域の長さは512バイトです。グループ・ジョブの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

ローカル・データ域(*LDA)は、長さ1024バイトの文字データ域です。これは、ユーザー・ジョブと自動的に関連付けられ、他のジョブがアクセスすることはできません。

事前開始ジョブでは、指定するデータ域を、プログラム初期設定パラメーター・データ(*PDA)を含むデータ域とすることができます。このデータ域は自動的にユーザーの事前開始ジョブと関連付けられ、他のジョブがアクセスすることはできません。この文字データ域の長さは2000バイトです。事前開始ジョブの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。を参照してください。

文字データ域の場合には、データ域の残りに影響することなくデータ域のサブストリングを変更することができます。このサブストリングは、サブストリングの開始桁と長さを指定することによって定義されます。この場合には、新しい値の長さはサブストリングの長さ以下としなければなりません。

このコマンドを実行して、ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域以外のデータ域を変更する時には、そのデータ域は、操作が完了するまで、他のジョブのコマンドがそれを変更または削除できないように、変更操作の間はジョブまたはスレッドによってロックされます。データ域が他のジョブと共用されていて、ジョブ中の複数のコマンドからなるステップで更新される場合には、そのデータ域は、すべてのステップが実行されるまで、そのジョブに明示的に割り当てられなければならない。グループ・データ域、ローカル・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域以外のデータ域は、オブジェクト割り振り (ALCOBJ)コマンドで明示的に割り振ることができます。グループ・データ域、ローカル・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域を指定するCHGDTAARAコマンドを実行する時には、割り振りは必要ありません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、変更するデータ域に対する変更(*CHANGE)権限、およびそのデータ域が保管されるライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域に必要な特定権限はありません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - マルチスレッドを使用できるジョブのDDMデータ域の変更はスレッド・セーフではありません。
 - DDMデータ域の変更は、ジョブで複数のスレッドが活動状態の時には正常に実行されません。

- c. 特殊なデータ域(*LDA, *GDA,および*PDA)を変更できるのは初期スレッドからだけであり、2次スレッドから試みると正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DTAARA	データ域指定	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: データ域	単一値: *LDA, *GDA, *PDA その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: サブstring仕様	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	
	要素 1: サブstring開始位置	1-2000	
	要素 2: サブstringの長さ	1-2000	
VALUE	新しい値	無制限	必須, 定位置 2

上

データ域指定 (DTAARA)

値が変更されるデータ域の名前およびライブラリーを指定します。文字データ域の場合にだけ、データ域中で変更する文字stringの開始位置および長さを任意で指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: データ域

単一値

- *LDA ジョブに関連したローカル・データ域が変更されます。この文字データ域の長さは1024 バイトです。
- *GDA グループ・ジョブに関連したグループ・データ域が変更されます。この文字データ域の長さは512 バイトです。
- *PDA 事前開始ジョブに関連したプログラム初期設定パラメーター・データ域が変更されます。この文字データ域の長さは2000バイトです。

修飾子1: データ域

名前 変更するデータ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ域があるライブラリーを指定してください。

要素2: サブストリング仕様

単一値

***ALL** データ域全体が変更されます。

要素1: サブストリング開始位置

1から2000

変更するデータ域の開始桁を指定してください。

要素2: サブストリングの長さ

1から2000

変更するデータ域サブストリングの長さを指定してください。

上

新しい値 (VALUE)

データ域に記憶される新しい値を指定します。データ域の記述に指定されたデータ属性に有効な値を指定してください。データ域が作成された時にデータ域作成 (CRTDTAARA)コマンドの**タイプ (TYPE)**パラメーターに*CHARまたは*LGLが指定され、ここに指定する値が数値である場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。CRTDTAARAコマンドの**タイプ (TYPE)**パラメーターに*DECが指定されていた場合には、その値をアポストロフィで囲む必要はありません。

これは必須パラメーターです。

非制限値

データ域の値を指定します。

上

例

例1: データ域値の変更

CHGDTAARA DTAARA(MYLIB/MYDATA) VALUE(GOODNIGHT)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのMYDATAという名前のデータ域の値をGOODNIGHTに変更します。このデータ域は、文字データ用で、9桁以上の長さが必要です。

例2:データ域の論理値の変更

```
CHGDTAARA DTAARA(PAYROLLSW) VALUE('0')
```

このコマンドは、PAYROLLSWという名前のデータ域の論理値をゼロ(0)に変更します。データ域を見つけるためにライブラリー検索リストが使用されます。

例3:論理データ域の特定の文字の変更

```
CHGDTAARA DTAARA(*LDA (5 4)) VALUE('TWO')
```

このコマンドは、ユーザーのローカル・データ域の5から8文字を変更します。新しい値はサブストリングより短いので、空白が埋め込まれます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF101A

&2のDDMデータ域&1に対する操作が正常に実行されなかった。

CPF1015

&2にデータ域&1が見つからない。

CPF1018

データ域を変更する権限がない。

CPF1019

VALUEパラメーターが正しくない。

CPF1020

VALUEパラメーターが長すぎる。

CPF1021

データ域&2のライブラリー&1が見つからない。

CPF1022

ライブラリー&1データ域&2に対する権限がない。

CPF1026

VALUEパラメーターは'0'または'1'でなければならない。

CPF1043

データ域の境界位置合わせが正しくない。

CPF1044

データ域のAREAパラメーターが正しくない。

CPF1045

データ域のCPYPTRパラメーターが正しくない。

CPF1046

ジョブがグループ・ジョブでないので、DTAARA(*GDA)は正しくない。

CPF1062

文字値として、ヌル・ストリングは正しくない。

CPF1063

ライブラリー&2のデータ域&1を割り振ることができない。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF1072

ジョブが事前開始ジョブでないので、DTAARA(*PDA)は正しくない。

CPF1087

1 0 進または論理データ域にサブストリングを使用することはできない。

CPF1088

開始位置がデータ域の範囲外になっている。

CPF1089

データ域に指定したサブストリングが正しくない。

CPF1138

データ域&1のVALUEパラメーターのタイプが正しくない。

CPF1155

データ域&1のVALUEパラメーターが長すぎる。

CPF1162

データ域&1の境界位置合わせが正しくない。

CPF1163

データ域&1のAREAパラメーターが正しくない。

CPF1168

データ域&1のCPYPTRパラメーターが正しくない。

CPF1170

開始位置がデータ域&1の範囲外になっている。

CPF1192

データ域&1に指定したサブストリングが正しくない。

CPF180B

機能&1は使用できない。

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF18BE

項目がジャーナル処理されないので、データ域&1が変更されない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

構成項目変更 (CHGEMLCFGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エミュレーション構成項目変更(CHGEMLCFGE)コマンドは、構成ファイルの既存の構成項目を変更することによって3270エミュレーション・セッションについてのオプションを変更するために使用されます。

変更を行わずにエミュレーション・セッションについての既存の値を表示するために、このコマンドのプロンプトを表示することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
EMLCFGE	構成項目	名前, QEMDFTCFGE	必須, キー, 定位置 1
EMLDBGJOB	デバッグ・ジョブ	<u>*SAME</u> , *NOTRACE, *TRACE	オプション
EMLSIG	信号の処理	<u>*SAME</u> , *SAVE, *IGNORE	オプション
EMLATR	属性の処理	<u>*SAME</u> , *IGNORE, *REJECT	オプション
EMLMAXSCR	最大画面サイズ	<u>*SAME</u> , *DEVD, *MOD2, *MOD5	オプション
EMLTRC	VLICトレース	<u>*SAME</u> , *NOTRACE, *TRACE	オプション
EMLSTR	印刷装置TRCJOBの開始	<u>*SAME</u> , *NOTRACE, *TRACE	オプション
EMLINLSCN	初期画面	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
EMLGRDLIN	罫線	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
EMLDBCS	グラフィックスDBCS	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
EMLPRTFMFT	印刷出力の形式設定	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
EMLSNACLR	消去処理	<u>*SAME</u> , *RETRY, *IGNORE	オプション
EMLBUF	罫線バッファ	<u>*SAME</u> , *FRONT, *BACK	オプション
EMLVLG	生成された条件付きVLOG	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
EMLSCS	SCSコマンド・エラーの処理	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
EMLNML	5250の数字ロックの強制	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
EMLMSG	SNA アンバインド・メッセージの送信	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション

上

構成項目 (EMLCFGE)

変更中の既存のエミュレーション構成項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

QEMDFTCFGE

3270エミュレーション・セッションについての省略時の構成項目が変更されます。

構成項目名

変更する構成項目の名前を指定してください。

上

デバッグ・ジョブ (EMLDBGJOB)

ジョブ・トレース(TRCJOB)コマンドによって印刷装置エミュレーションを使用中のジョブをデバッグ中に、印刷装置機能管理機能に渡す印刷装置データ・ストリームをトレースするかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOTRACE

印刷装置データ・ストリームはTRCJOB出力でトレースされません。

*TRACE

印刷装置データ・ストリームはTRCJOB出力でトレースされます。

上

信号の処理 (EMLSIG)

送信モードになっていないエミュレーション・ジョブが、データ送信許可(信号)に対するシステム・ネットワーク体系(SNA)要求応答する方法を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SAVE

エミュレーション・ジョブはSNA信号を記憶し、適切な場合には、その方向変更標識(CD)によってデータの一部を受信した時に送信するためのホスト許可を認可します。

*IGNORE

エミュレーション・ジョブは送信するためのホスト許可を認可しません。

上

属性の処理 (EMLATR)

3270エミュレーション・ジョブが、1バイト文字セット(SBCS)セッション中に受信した間違った文字属性または属性値に応答する方法を指定します。3270データ・ストリームの用語では、**文字属性**は属性設定命令(SA副指令)で、**属性値**は命令が操作する値(VALUE)です。

*SAME

値は変更されません。

*IGNORE

エミュレーション・ジョブは間違った値を無視します。

*REJECT

エミュレーション・ジョブは間違った文字属性または属性値を含んでいるデータ・ストリームに否定応答を送信します。

最大画面サイズ (EMLMAXSCR)

表示画面に表示する最大イメージ・サイズを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***DEV D**

最大サイズは装置がサポートできる範囲の値です。

***MOD 2**

最大サイズは24行X 80桁です。

***MOD 5**

最大サイズは27行X 132桁です。

注: 装置が27行X 132桁をサポートしていない場合には、最大サイズの省略時の値として24行X 80桁が使用されます。

上

VLICトレース (EMLTRC)

次の項目が真の時に、ライセンス内部コード(LIC)データ・ストリーム変換トレース・ポイントを実行するかどうかを指定します。

- ジョブがデータ・ストリーム変換API (アプリケーション・プログラム・インターフェース) を使用中です。
- データ・ストリーム変換APIを使用するジョブでジョブ・トレース(TRCJOB)コマンドが実行中です。
- LICソース/シンク・トレースも実行中です。

*SAME

値は変更されません。

***NOTRACE**

データ・ストリーム変換トレース・ポイントは実行されません。

***TRACE**

データ・ストリーム変換トレース・ポイントが実行されます。

上

印刷装置TRCJOBの開始 (EMLSTR)

印刷装置エミュレーション・ジョブを開始する時にジョブ・トレース(TRCJOB)コマンドを呼び出すかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NOTRACE**

TRCJOBコマンドを呼び出しません。

***TRACE**

TRCJOBコマンドを呼び出します。

上

初期画面 (EMLINLSCN)

3270エミュレーション・セッションを開始する時に、エミュレーション初期設定進行中画面を表示するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 画面が表示されます。

***NO** 画面は表示されません。

上

罫線 (EMLGRDLIN)

画面でフィールドの概要を抑制するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** フィールドの概要を抑制しません。

***YES** フィールドの概要を抑制します。

上

グラフィックスDBCS (EMLDBCS)

入力フィールドのDBCS図形文字ストリングをサポートするかどうかを指定します。

注: このパラメーターを使用できるのは、入力フィールド全体にフィールド属性または文字属性を指定する顧客のアプリケーションの場合だけです。フィールドの一部だけがDBCS図形属性によって定義されている場合には、予測できない結果となります。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** DBCS図形文字ストリングをサポートしません。

***YES** DBCS図形文字ストリングをサポートします。

上

印刷出力の形式設定 (EMLPRTFMT)

印刷出力ファイルで提供された値を使用する代わりに、行数(NUMLIN)パラメーターおよび欄数(NUMCOL)パラメーターをSTRPRTEMLコマンドによって指定する値を使用するかどうかを指定します。

注: このパラメーターを使用できるのは、SNA文字ストリング(SCS)印刷装置セッションの場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 行および欄にSTRPRTEMLコマンド値は使用されません。

***YES** 行および欄にSTRPRTEMLコマンド値が使用されます。

注: ホストから横方向の様式設定または縦方向の様式設定コマンドを受け取るまで、STRPRTEMLコマンド値は有効となっています。

上

消去処理 (EMLSNACLR)

SNA CLEARコマンドを受け取った後、ホスト・システムによって送信されたデータ読み取りの試みが正常に実行されなかった場合、3270エミュレーション・ジョブでの回復の方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、表示装置エミュレーション・セッションの場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***RETRY**

エミュレーション・ジョブはデータの読み取りを再び試みます。

***IGNORE**

エミュレーション・ジョブはデータの読み取りを再び試みません。

上

罫線バッファ (EMLBUF)

基本格子線が表示される時に、前景バッファが使用されるのか、それとも背景バッファが使用されるのかを指定します。戦略格子線が使用される時には、このパラメーターは適用されません。

*SAME

値は変更されません。

***FRONT**

前景バッファが使用されます。

***BACK**

背景バッファが使用されます。

上

生成された条件付きVLOG (EMLVLG)

コマンドまたは命令が正しくないために、データ・ストリーム変換ルーチンがホストに否定応答を送った時に、VLICログを生成するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO

VLICログは生成されません。

*YES

VLICログは生成されます。 エミュレーション・セッションは続行されます。

上

SCSコマンド・エラーの処理 (EMLSCS)

SCS印刷装置セッションの場合のみ、このパラメーターは、不良な横形式設定(SHF)または不良な縦形式設定(SVF)を受け取ったときに、アーキテクチャーに従って、省略時のページ・サイズまたは1行のページ幅を使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO

アーキテクチャーが続きます。 ページ・サイズは1行です。

*YES

アーキテクチャーは従わず、ページ・サイズおよび幅の省略時の値として印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドに入力された値を使用します。

上

5250の数字ロックの強制 (EMLNML)

ジョブがデータ・ストリーム変換API (アプリケーション・プログラム・インターフェース) を使用する時に、ライセンス内部コード(LIC)のデータ・ストリーム変換構成要素によって5250数値ロックを強制的に行うかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO

5250数値ロックを強制的に行ないません。

*YES

5250数値ロックを強制的に行ないます。

上

SNA アンバインド・メッセージの送信 (EMLMSG)

アンバインドが受け取られた時に画面上にメッセージを表示するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO

メッセージは表示されません。

*YES

メッセージが表示されます。

例

```
CHGEMLCFGE  EMLCFGE(ARTSDEPT)  EMLMAXSCR(*DEVD)
              EMLGRDLIN(*NO)
```

このコマンドは、ARTSDEPTエミュレーション構成の最大画面サイズ・オプションを画面装置の最大サイズに変更します。フィールド外形線は、画面に表示されるよう変更されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF853E

エミュレーション構成項目&1が見つからない。

CPF854B

エミュレーション構成ルーチンに内部エラーが見つかった。

環境変数変更 (CHGENVVAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

環境変数変更(CHGENVVAR)コマンドは、既存の環境変数の値を変更します。

制約事項: このコマンドを使用してシステム・レベルの環境変数を変更するためには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ENVVAR	環境変数	文字値	必須, 定位置 1
VALUE	新しい値	文字値, *SAME, *NULL	オプション, 定位置 2
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *JOB, *HEX, *SAME	オプション, 定位置 3
LEVEL	レベル	*JOB, *SYS	オプション

上

環境変数 (ENVVAR)

変更する環境変数の名前を指定します。この名前の環境変数が指定されたレベル(LEVELパラメーター)に存在しない場合には、エラー・メッセージCPFA981が出されます。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

アポストロフィを使用したい場合には、2つのアポストロフィ('')を使用しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

初期値 (VALUE)

環境変数値を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NULL**

環境変数の値は空白文字(X'00')です。この値は、現行の環境変数値と指定された環境変数名の関連を停止させるために使用することができます。

環境変数値

環境変数の値を指定してください。CHGENVVARは、値の長さを最大1024バイトに制限します。有効な値は、すべてのEBCDIC文字です。値に英数字以外の文字またはブランクが含まれる場合には、値をアポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィを使用したい場合には、2つのアポストロフィ('')を使用しなければなりません。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

上

コード化文字セットID (CCSID)

ENVVARおよびVALUEパラメーターに指定されるテキストのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。この値は環境変数と一緒に記憶されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***JOB** テキストのCCSIDは、このコマンドを実行中のジョブのCCSIDとみなされます。

***HEX** この環境変数と一緒に65535のCCSIDが記憶されます。

コード化文字セットID

環境変数と一緒に記憶されるCCSIDを指定してください。有効な値の範囲は1から65535です。

上

レベル (LEVEL)

環境変数のレベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** これはジョブ・レベルの環境変数です。

***SYS** これはシステム・レベルの環境変数です。

注: このフィールドは、変更している環境変数のレベルを指定するためにだけ使用されるもので、環境変数のレベルを変更するために使用することはできません。

上

例

例1:ジョブ・レベル環境変数の変更

```
CHGENVVAR ENVVAR(ALTDIR) VALUE('/MYDIR/TEST')
```

このコマンドは、ALTDIRという名前のジョブ・レベル環境変数の値を、値/MYDIR/TESTに変更します。環境変数とともに保管されるCCSIDは、変更されません。

例2:環境変数のCCSIDの変更

```
CHGENVVAR  ENVVAR(ALTDIR)  CCSID(273)
```

このコマンドは、ALTDIRという名前のジョブ・レベル環境変数のCCSIDを273に変更します。環境変数値は変更されません。

例3:環境変数のNULLへの設定

```
CHGENVVAR  ENVVAR(LIBPATH)  VALUE(*NULL)
```

このコマンドは、LIBPATHという名前のジョブ・レベル環境変数の値をヌル(X'00')文字に変更します。

例4:システム・レベル環境変数の変更

```
CHGENVVAR  ENVVAR(HOME)  VALUE('/USR/HOME')  LEVEL(*SYS)
```

このコマンドは、HOMEという名前のシステム・レベル環境変数の値を/USR/HOMEに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA981

この環境変数は存在していない。

CPFA982

ENVVAR文字が正しくない。

CPFA983

予期しないエラーが起きました。

CPFA984

最大数の環境変数が存在している。

CPFA98E

システム・レベルの環境変数を更新するには*JOBCTL特殊権限が必要です。

CPF3BCA

CCSID &1はサポートされていない。

上

EWCバーコード項目の変更 (CHGEWCBCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置バーコード項目変更(CHGEWCBCDE)コマンドは、拡張無線制御装置ソース・ファイル・メンバーのバーコード・グループ・パラメーターのセットを変更します。バーコード・グループは特定のバーコード・ラベルをスキャンするためのパラメーターを定義します。ポータブル・トランザクション・コンピュータ(PTC)グループは、バーコード・スキャナーを構成するために使用されるバーコード・グループを指定します。

制約事項: このコマンドのINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値が無線制御装置記述の対応するパラメーターに指定された値と一致しない場合には、拡張無線制御装置構成データは無線アダプターにダウンロードされません。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

注: 制御装置記述変更 (ローカル・ワークステーション) (CHGCTLLWS)コマンドを使用して、無線制御装置記述のINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値を表示または変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
BCDGRP	バーコード・グループ	名前	必須, キー, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, キー, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, キー, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
BCDTYPE	バーコード・タイプ	* <u>SAME</u> , *UPC, *EAN, *PLESSEY, *ALPHAPLESSEY, *ISBNPLESSEY, *PUREPLESSEY, *SAINPLESSEY, *UPCA, *UPCE, *EAN8, *EAN13, *CODABAR, *CODE3OF9, *CODE2OF5, *DISCR2OF5, *INTERL2OF5, *INDUST2OF5, *CODE11, *CODE128, *CODE93	オプション
LBLLEN	ラベルの長さ	0-64, * <u>SAME</u>	オプション
CHK1DIGIT	最初のチェック・ディジット	* <u>SAME</u> , *NO, *YES	オプション
CHK2DIGIT	2番目のチェック・ディジット	* <u>SAME</u> , *NO, *YES	オプション
ALLZERO	すべてゼロ	* <u>SAME</u> , *NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ALPHADSP	英字画面	*SAME, *NO, *YES	オプション
ADDON2	追加 2	*SAME, *NO, *YES	オプション
ADDON5	追加 5	*SAME, *NO, *YES	オプション
SYS1UPCE	システム1 UPC-E	*SAME, *NO, *YES	オプション
SYS0UPCE	システム0 UPC-E	*SAME, *NO, *YES	オプション
UPCE	UPC-E	*SAME, *NO, *YES	オプション
EAN13	EAN 13	*SAME, *NO, *YES	オプション
EXT3OF9	拡張文字セット	*SAME, *NO, *YES	オプション
ADDON	追加	*SAME, *BIDIRECTIONAL, *FORWARD	オプション
DROPBEGIN	ドロップ開始	0-64, *SAME	オプション
DROPEND	ドロップ終了	0-64, *SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

バーコード・グループ (BCDGRP)

変更する既存のバーコード・グループの名前を指定します。この名前を使用してバーコード・グループと関連した構成データを識別します。バーコード・グループ名は、長さが最大16文字の固有の英数字文字ストリングです。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

バーコード・グループの拡張無線制御装置のソース・ファイル・メンバーを指定します。このメンバーには、変更するバーコード構成データが入っています。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

拡張無線制御装置ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

バーコード・タイプ (BCDTYPE)

このバーコード・グループによって定義されたバーコード・タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***UPC** UPCバーコードが使用されます。

***EAN** EANバーコードが使用されます。

***PLESSEY**

PLESSEYバーコードが使用されます。

***ALPHAPLESSEY**

ALPHA PLESSEYバーコードが使用されます。

***ISBNPLESSEY**

ISBN PLESSEYバーコードが使用されます。

***PUREPLESSEY**

PURE PLESSEYバーコードが使用されます。

***SAINPLESSEY**

SAINSBURY PLESSEYバーコードが使用されます。

***UPCA**

UPC-Aバーコードが使用されます。

***UPCE**

UPC-Eバーコードが使用されます。

***EAN8**

EAN-8バーコードが使用されます。

***EAN13**

EAN-13バーコードが使用されます。

***CODABAR**

CODABARバーコードが使用されます。

***CODE3OF9**

CODE 3-OF-9バーコードが使用されます。

***CODE2OF5**

CODE 2-OF-5バーコードが使用されます。

***DISCR2OF5**

DISCRETE 2-OF-5バーコードが使用されます。

***INTERL2OF5**

INTERLEAVED 2-OF-5バーコードが使用されます。

***INDUST2OF5**

INDUSTRIAL 2-OF-5バーコードが使用されます。

***CODE11**

コード11バーコードが使用されます。

***CODE128**

コード128バーコードが使用されます。

***CODE93**

コード93バーコードが使用されます。

上

ラベルの長さ (LBLLEN)

指定されたバーコード・グループのバーコード・ラベルのラベル長を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

ラベルの長さ

バーコード・グループのバーコード・ラベルの文字長を指定してください。ラベルの長さが00の場合には、ラベルの長さは1-64の可変です。値の有効範囲は0-64です。

上

最初のチェック・ディジット (CHK1DIGIT)

バーコード・ラベルの検査数字または最初の検査数字が検査されるかどうかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*PLESSEY、*CODE3OF9、*EXTCODE3OF9、*CODE11、または*CODE2OF5が指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** 検査数字または最初の検査数字は無視されます。

***YES** 有効な読み取りの場合に、検査数字または最初の検査数字が検査されます。

上

2番目のチェック・ディジット (CHK2DIGIT)

バーコード・ラベルの2番目の検査数字が検査されるかどうかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*PLESSEYまたは*CODE11が指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***NO** 2番目の検査数字は無視されます。

***YES** 有効な読み取りの場合には、2番目の検査数字が検査されます。

上

すべてゼロ (ALLZERO)

すべて0のバーコード・ラベルが有効なスキャンであるかどうかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPE(*PLESSEY)が指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***NO** すべて0のバーコード・ラベルは有効なスキャンではありません。

***YES** すべて0のバーコード・ラベルは有効なスキャンです。

上

英字画面 (ALPHADSP)

バーコード・ラベル文字: ; < = > および?をそれぞれ英字A, B, C, D, E, およびFとして表示するかどうかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPE(*PLESSEY)が指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***NO** 文字を通常通りに表示します。

***YES** 文字を英字として表示します。

上

追加 2 (ADDON2)

2ディジット・アドオンが有効であるか、あるいは無視されるかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*UPCまたは*EANが指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** 2ディジット・アドオンは無視されます。

***YES** 2ディジット・アドオンが有効です。

上

追加5 (ADDON5)

5ディジット・アドオンが有効であるか、あるいは無視されるかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*UPCまたは*EANが指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** 5ディジット・アドオンは無視されます。

***YES** 5ディジット・アドオンが有効です。

上

システム1 UPC-E (SYS1UPCE)

システム1 UPC-Eが有効であるか、あるいは無視されるかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*UPCまたは*EANが指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** システム1 UPC-Eは無視されます。

***YES** システム1 UPC-Eは有効です。

上

システム0 UPC-E (SYS0UPCE)

システム0 UPC-Eが有効であるか、あるいは無視されるかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*UPCまたは*EANが指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** システム0 UPC-Eは無視されます。

***YES** システム0 UPC-Eは有効です。

上

UPC-E (UPCE)

UPC-EをUPC-Aに拡張するかどうかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*UPCまたは*EANが指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** UPC-Eバーコードは影響を受けません。

***YES** UPC-EバーコードはUPC-Aに拡張されます。

上

EAN 13 (EAN13)

UPCおよびEANバーコードがEAN-13に拡張されるかどうかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*UPCまたは*EANが指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** UPCおよびEANバーコードは影響を受けません。

***YES** UPCおよびEANバーコードはEAN-13に拡張されます。

上

拡張文字セット (EXT3OF9)

CODE 3-OF-9バーコードが拡張文字セットを使用するかどうかを指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*CODE3OF9が指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** CODE 3-OF-9バーコードは影響を受けません。

***YES** CODE 3-OF-9バーコードは拡張文字セットを使用します。

上

追加 (ADDON)

アドオン・ディジットの方向を指定します。これが有効なのは、BCDTYPEパラメーターによって*UPCまたは*EANが指定された時だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

*BIDIRECTIONAL

アドオン・ディジットは両方向に有効です。

*FORWARD

アドオン・ディジットは正方向にだけ有効です。

上

ドロップ開始 (DROPBEGIN)

バーコード・ラベルの始めから除去する文字数を指定します。値の有効範囲は0-64です。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

始めから除去

バーコード・ラベルの始めから除去する文字数を指定してください。値の有効範囲は0-64です。

上

ドロップ終了 (DROPEND)

バーコード・ラベルの終わりから除去する文字数を指定します。値の有効範囲は0-64です。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

終わりから除去

バーコード・ラベルの終わりから除去する文字数を指定してください。値の有効範囲は0-64です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

PTC項目を簡単に説明するテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGEWCBCDE BCDGRP(BCD01) INZMBR(EWC01) ADDON2(*YES)
```

このコマンドは、BCD01という名前のバーコード・グループを変更して、ADDON2をライブラリー・リストのソース物理ファイルQEWCSRCのEWC01 という名前の拡張無線制御装置構成ソース・ファイル・メンバーで使用できるようにします。

上

エラー・メッセージ

なし

上

無線CTLメンバー変更 (CHGEWCM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置メンバー変更(CHGEWCM)コマンドは、指定されたソース・ファイル・メンバーの拡張無線制御装置パラメーターを変更します。このメンバーの特定のポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC)およびバーコード構成は、拡張無線制御装置PTC項目変更(CHGEWCPTCE)コマンドおよび拡張無線制御装置バーコード項目変更(CHGEWCBCDE)コマンドを使用して変更されます。

制約事項: このコマンドのINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値が無線制御装置記述の対応するパラメーターに指定された値と一致しない場合には、拡張無線制御装置構成データは無線アダプターにダウンロードされません。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

注: 制御装置記述変更 (ローカル・ワークステーション) (CHGCTLLWS)コマンドを使用して、無線制御装置記述のINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値を表示または変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, キー, 定位置 1
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, キー, 定位置 2
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWC SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TXPADR	宛先ID	4001-4FFE, <u>*SAME</u>	オプション
TXPPORT	転送ポート	0-15, <u>*SAME</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
KBDMAPMBR	キーボード再マップ・ソース・メンバー	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SCNFMTMBR	画面形式変換規則メンバー	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
KBDMAPFILE	キーボード再マップ・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: キーボード再マップ・ソース・ファイル	名前, <u>*SAME</u> , QEWC KBDMAP	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*SAME</u> , QGPL	
SCNFMTFILE	画面再形式変換規則ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 画面再形式変換規則ファイル	名前, <u>*SAME</u> , QEWC SCNFMT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*SAME</u> , QGPL	

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

変更するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーには、無線制御装置構成データが入っています。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

変更するソース・ファイル・メンバーのソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

変更するソース・メンバーのソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

宛先ID (TXPADR)

PTCがエミュレーションの始動時に接続を試みるローカル宛先ID（転送アドレス）を指定します。これは、有効な値の範囲4001-4FFEを持つ4バイトの16進数です。宛先IDは、PTCで使用される宛先IDと一致しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は同じままです。

宛先ID（転送アドレス）

ローカル宛先ID（転送アドレス）を指定してください。

上

転送ポート (TXPPORT)

制御装置のローカル転送ポート接続番号を指定します。有効な範囲は0-15です。PTCによって使用される値は0です。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は同じままです。

転送ポート

ローカル転送ポート接続番号を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

プログラムおよびその機能を簡単に説明するテキストを指定します。このパラメーターの詳細はAS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の付録Aにあります。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

テキストは同じままになっています。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

キーボード再マップ・ソース・メンバー (KBDMAPMBR)

キーボード・マップ情報が入っているソース物理ファイル・メンバーを指定します。

注：2668 機能番号では、キーボード・マッピング機能はサポートされていません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

ファイル・メンバーは同じままとなります。

*NONE

キーボード・マッピング・ファイル・メンバーは使用されません。

ソース・ファイル・メンバー

キーボード・マップ情報を指定するファイル・メンバーの名前。

上

画面形式変換規則メンバー (SCNFMTMBR)

画面リフォーマッター情報が入っているソース物理ファイルメンバーを指定します。

注：2668 機能番号では、画面リフォーマッター機能はサポートされていません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

ファイル・メンバーは同じままとなります。

*NONE

画面リフォーマッター・ファイル・メンバーは使用されません。

ソース・ファイル・メンバー

画面リフォーマッター情報を指定するファイル・メンバーの名前。

上

キーボード再マップ・ソース・ファイル (KBDMAPFILE)

キーボード・マップ・ソース・ファイル・メンバーを入れるソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCKBDMAP

ソース・ファイル名QEWCKBDMAPが使用されます。

ソース・ファイル名

メンバーを追加する先の既存のソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

画面再形式変換規則ファイル (SCNFMTFILE)

画面リフォーマッター・ソース・ファイル・メンバーを入れるソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSNFMT

ソース・ファイル名QEWCSNFMTが使用されます。

ソース・ファイル名

メンバーを追加する先の既存のソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

例

```
CHGEWCM INZMBR(EWC01) INZFILE(MYLIB/QEWCSRC) TXPPORT(2)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのソース物理ファイルQEWCSRCの拡張無線制御装置メンバーEWC01を変更します。送信ポートの接続番号は2に変更されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

EWC PTC項目の変更 (CHGEWCPTCE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置PTC項目変更(CHGEWCPTCE)コマンドは、指定されたソース・ファイル・メンバーの指定されたPTCグループの構成可能ポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC) 5250エミュレーションの操作パラメーターを変更します。

制約事項: このコマンドのINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値が無線制御装置記述の対応するパラメーターに指定された値と一致しない場合には、拡張無線制御装置構成データは無線アダプターにダウンロードされません。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

注:

1. 制御装置記述変更 (ローカル・ワークステーション) (CHGCTLLWS)コマンドを使用して、無線制御装置記述のINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値を表示または変更することができます。
2. パラメーターによって指定された値*DEVは装置特定の省略時の値を示します。このような値を装置から送ることはできないので、これらのパラメーターの現在値を表示することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PTCGRP	PTCグループ	名前	必須, キー, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, キー, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, キー, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWC SRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	
PTCRANGE	PTC IDの範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ID	0001-1022, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 終了ID	0001-1022, <u>*SAME</u>	
INTENSITY	輝度	<u>*SAME</u> , *NORMAL, *INVERSE	オプション
STSLINE	状況表示行	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
CSRTYPE	カーソル・タイプ	<u>*SAME</u> , *UNDERLINE, *BLOCK	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	0-9999, <u>*SAME</u> , *DEV	オプション
BCKLT TMR	バックライト・タイマー	0-9999, <u>*SAME</u> , *DEV	オプション
BCKLTKEY	バックライト・キー	<u>*SAME</u> , *ON, *OFF	オプション
BYPASSEEXIT	出口のう回	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUTORUN	自動実行	*SAME, *YES, *NO	オプション
PRINTER	印刷装置	*SAME, *SYSTEM, *PTC	オプション
WANDTYPE	ワンド・タイプ	*SAME, *NONE, *PENCIL, *LASER, *RS232	オプション
PECKRATE	ワンド・バック速度	*SAME, *DEV, 2, 4, 8, 16, 32, 48	オプション
LASERTMR	レーザー読み取りタイマー	*SAME, *DEV, 1440, 2880, 4320, 5760	オプション
BCDFKEY	バーコード機能キー	*SAME, *OFF, *ON	オプション
AUTOENTER	自動入力	*SAME, *OFF, *ON	オプション
CSRLOC	カーソル位置	*SAME, *HOLD, *FIRST	オプション
SHORTSCAN	短時間走査	*SAME, *YES, *NO	オプション
SCANEOF	ファイルの終わりの走査	*SAME, *YES, *NO	オプション
POLL	高速ポーリング間隔	0-9999, *SAME, *DEV	オプション
POLLDLY	高速ポーリング遅延	0-9999, *SAME, *DEV	オプション
POLLDECAY	高速ポーリング減衰	0-255, *SAME, *DEV	オプション
SLOWPOLL	低速ポーリング間隔	0-99999, *SAME, *DEV	オプション
DESTHOP	宛先ホップ	値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 宛先ID	4001-4FFE, 4001 , *REMOVE	
	要素 2: 頻度	1 , 2, 3, 4, 5, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, 911	
	要素 3: データ速度	*NONE, 1M, 2M	
	要素 4: 無線システムID	000002-FFFFFE, 000002	
BCDGRP	バーコード・グループ	値 (最大 6 回の繰り返し): 名前, *SAME, *REMOVE	オプション
TEXT	テキスト・記述	文字値, *SAME, *REMOVE	オプション
ENBKBDMAP	キーボード再マップ使用可能	*SAME, *NO, *YES	オプション
ENBSCNFMT	画面形式変更使用可能	*SAME, *NO, *YES	オプション
DEVVPFX	装置名接頭部	単純名, *SAME	オプション

上

PTCグループ (PTCGRP)

変更するPTCグループ名を指定します。この名前を使用してPTCRANGEパラメーターによってバインドされたPTCのグループと関連した構成データを識別します。PTCグループ名は、長さが最大16文字の英数字文字ストリングです。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

変更するPTC項目が入っている拡張無線制御装置ソース・ファイル・メンバーを指定します。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

拡張無線制御装置ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

変更するソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

PTC IDの範囲 (PTCRANGE)

このPTCグループに使用する開始および終了の4文字の10進PTC IDを指定します。定義済み構成データはこの範囲内で検出された任意のPTCにダウンロードされます。1つのPTCのPTCグループは、開始および終了のPTC IDを同じ値に設定することによって指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

指定できる開始ID値は次の通りです。

0001 値0001がPTCグループの開始PTC IDとして使用されます。

開始ID

PTCグループの開始PTC IDを指定してください。有効な値の範囲は0001-1022です。

指定できる終了ID値は次の通りです。

1022 値1022がPTCグループの終了PTC IDとして使用されます。

終了ID

PTCグループの終了PTC IDを指定してください。有効な値の範囲は0001-1022です。

上

輝度 (INTENSITY)

PTCでエミュレーション画面が輝度属性セットを持つフィールドを処理する方法を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NORMAL**

フィールドは通常通りに表示されます。

***INVERSE**

フィールドは反転イメージとして表示されます。

上

状況表示行 (STSLINE)

PTCに状況表示行を表示するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***YES** 状況表示行は表示されます。

***NO** 状況表示行は表示されません。

上

カーソル・タイプ (CSRTYPE)

PTCで使用するカーソルのタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***UNDERLINE**

カーソルは下線カーソルです。

***BLOCK**

カーソルはブロック・カーソルです。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

PTCの非活動タイマーの値（秒数）を指定します。PTCは、この時間内にPTC上で活動が起こらない場合に電源を遮断します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置非活動タイマーの値が使用されます。

非活動タイマー

非活動タイマーの値（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は0-9999 です。

上

バックライト・タイマー (BCKLTTMR)

PTCのバックライト非活動タイマーの値（秒数）を指定します。PTCは、この時間内にPTC上で活動が起こらない場合にバックライトをオフにします。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置バックライト非活動タイマーの値が使用されます。

バックライト・タイマー

バックライト非活動タイマーの値（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は0-9999 です。

上

バックライト・キー (BCKLTKEY)

PTCでキーが押された時にバックライトをオンにするかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***ON** キーが押された時にバックライトをオンにします。

***OFF** キーが押された時にバックライトをオンにしません。

上

出口のう回 (BYPASSEEXIT)

PTCでエミュレーションを終了する時に終了処理をう回するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** 終了処理が実行されます。

***YES** 終了処理は実行されません。

上

自動実行 (AUTORUN)

システムIPL時にPTCでエミュレーション・ソフトウェアを自動的に実行するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NO** システムIPL時にエミュレーション・ソフトウェアを自動的に実行しません。

***YES** システムIPL時にエミュレーション・ソフトウェアを自動的に実行します。

上

印刷装置 (PRINTER)

PTC用の印刷装置をシステム印刷装置とするか、あるいはPTCにローカル接続された印刷装置とするかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***SYSTEM**

システム印刷装置が使用されます。

***PTC** PTCにローカル接続された印刷装置が使用されます。

上

ワンド・タイプ (WANDTYPE)

使用されるワンド・スキャナーのタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***NONE**

ワンド・スキャナーを使用しません。

***PENCIL**

鉛筆型ワンド・スキャナーが使用されます。

***LASER**

レーザー・ワンド・スキャナーが使用されます。

***RS232**

ワンド・スキャナーはPTCのRS-232コネクタに接続されます。

上

ワンド・ペッキング速度 (PECKRATE)

ワンド・ペック速度（ミリ秒数）を指定します。この値はラベルが存在しているかどうかを検出するために使用されるワンド電源オン状態と電源オフ状態の間の時間間隔を設定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置ワンド・ペック速度が使用されます。

ペック速度

ワンド・ペック速度（ミリ秒数）を指定してください。有効な値は2, 4, 8, 16, 32,および48です。

上

レーザー読み取りタイマー (LASERTMR)

レーザー読み取りタイマーの値（ミリ秒数）を指定します。指定のタイマー値の前に良好なスキャンが行なわれない場合には、レーザーはオフになります。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置レーザー読み取りタイマーの値が使用されます。

レーザー読み取りタイマー

レーザー読み取りタイマーの値（ミリ秒数）を指定してください。有効な値は1440, 2880, 4320,および5760です。

上

バーコード機能キー (BCDFKEY)

バーコード・ラベルによって機能キーを入力するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***NO** バーコードによる機能キー入力を使用不可です。

***YES** バーコードによる機能キー入力を使用可能です。

上

自動入力 (AUTOENTER)

PTC自動入力機能がオンまたはオフのいずれであるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***OFF** 自動入力機能は使用不能です。

***ON** 自動入力機能は使用可能です。

上

カーソル位置 (CSRLOC)

カーソルの省略時の位置がチャンクの中の最初の入力フィールドになっているか、あるいはウィンドウの相対位置を保持する場合に、あるウィンドウ・チャンクから別のウィンドウ・チャンクにカーソルを移動する時点を指定します。チャンクはPTC表示画面のサイズと等しい5250エミュレーション画面の一部として定義されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***HOLD**

1つのウィンドウ・チャンクから別のウィンドウ・チャンクに移動する時にカーソルはその位置を保持します。

***FIRST**

1つのウィンドウ・チャンクから別のウィンドウ・チャンクに移動する時にカーソルは最初の活動フィールドに移動します。

上

短時間走査 (SHORTSCAN)

入力フィールドが完全に埋め込まれていないバーコード・ラベルを、そのフィールドが埋め込まれたかのように処理するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***YES** 入力フィールドが完全に埋め込まれていないバーコード・ラベルを、そのフィールドが埋め込まれたかのように処理します。

***NO** 処理する前にバーコード・ラベルは入力フィールドを埋め込まなければなりません。

上

ファイルの終わりの走査 (SCANEOF)

バーコード・ラベルが入力フィールドより短い時にフィールドの終りまで消去を行なうかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***YES** バーコード・スキャンの後でフィールドの終りまで消去を行ないます。

***NO** バーコード・スキャンの後でフィールドの終りまで消去を行ないません。

上

高速ポーリング間隔 (POLL)

PTC上のラジオ・モジュールの高速ポーリング間隔（ミリ秒数）を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置高速ポーリング間隔の値が使用されます。

ポーリング間隔

高速ポーリング間隔（ミリ秒数）を指定してください。有効な値の範囲は0-9999 です。

上

高速ポーリング遅延 (POLLDELAY)

PTCラジオ・モジュールの高速ポーリング遅延パラメーター（ミリ秒数）を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置高速ポーリング遅延の値が使用されます。

ポーリング遅延

高速ポーリング遅延の値（ミリ秒数）を指定してください。有効な値の範囲は0-9999 です。

上

高速ポーリング減衰 (POLLDECAY)

PTCラジオ・モジュールの高速ポーリング減衰を指定します。有効な値の範囲は0-255 です。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置高速ポーリング減衰の値が使用されます。

ポーリング減衰

高速ポーリング減衰の値を指定してください。有効な値の範囲は0-255 です。

上

低速ポーリング間隔 (SLOWPOLL)

PTC上のラジオ・モジュールの低速ポーリング間隔（ミリ秒数）を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***DEV** 省略時の装置低速ポーリング間隔の値が使用されます。

低速ポーリング

低速ポーリング間隔（ミリ秒数）を指定してください。有効な値の範囲は0-99999 です。

上

宛先ホップ (DESTHOP)

PTCがエミュレーションの始動時に接続を試みる代替宛先ID（転送アドレス）を指定します。これは4つの要素からなるフィールドで、最高8つの宛先ホップを指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

***REMOVE**

この宛先ホップの4つの要素が除去されます。

指定できる宛先ID（転送アドレス）の値は次の通りです。

宛先ID

無線制御装置の4バイトの16進宛先IDを指定してください。有効な値の範囲は4001-4FFEです。

ラジオ・チャンネル・セットに基づいてラジオで使用するセンター周波数を指定します。ラジオ・チャンネル・セットは、ラジオ国別コードによって決定されます。

有効な値は、2.4ギガヘルツの範囲内で動作するPTCの場合には1-5で、900メガヘルツの範囲内で動作するPTCの場合には900-911です。900-911の範囲内の値が使用された場合には、データ速度を指定することはできません(900メガヘルツのデータ速度は周波数チャンネル番号によって決定されます)。

2.4ギガヘルツの範囲の場合に指定できる周波数の値は次の通りです。

チャンネル・セット9の場合には、5つのセンター周波数があります。

- 1 センター周波数2.412ギガヘルツが使用されます。
- 2 センター周波数2.427ギガヘルツが使用されます。
- 3 センター周波数2.442ギガヘルツが使用されます。
- 4 センター周波数2.457ギガヘルツが使用されます。
- 5 2.465ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット10の場合には、5つのセンター周波数があります。チャンネル・セット10はETSI（欧州遠隔通信および規格協会）諸国で使用されます。

- 1 センター周波数2.412ギガヘルツが使用されます。
- 2 センター周波数2.427ギガヘルツが使用されます。
- 3 センター周波数2.442ギガヘルツが使用されます。
- 4 センター周波数2.457ギガヘルツが使用されます。
- 5 2.472ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット11の場合には、1つのセンター周波数があります。

- 1 2.484ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット12の場合には、3つのセンター周波数があります。

- 1 センター周波数2.457ギガヘルツが使用されます。
- 2 2.465ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。
- 3 2.472ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット13の場合には、3つのセンター周波数があります。

- 1 2.411ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。
- 2 2.425ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。
- 3 2.439ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

900メガヘルツの範囲の場合に指定できる周波数の値は、900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, および911です。

指定できるデータ速度の値は次の通りです。

無線LANデータ速度を指定します。

- 2M 2メガビット/秒の無線LANデータ速度が使用されます。
- 1M 1メガビット/秒の無線LANデータ速度が使用されます。

指定できるシステム識別コードの値は次の通りです。

使用する6文字の16進数のラジオ・システム識別コードを指定します。

000002 値000002が使用されます。

システム識別コード

使用するシステム識別コードを指定してください。有効な値の範囲は16進数形式の000002-FFFFFEで、最後の桁は偶数（たとえば、0, 2, 4, 6, 8, A, C, E）でなければなりません。

上

バーコード・グループ (BCDGRP)

PTCグループのバーコード・スキャン機能を定義するために使用されるバーコード・グループ名を指定します。バーコード・グループ名はADDEWCBCDEおよびCHGEWCBCDEコマンドによって定義および変更されます。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

*REMOVE

指定されたバーコード・グループが除去されます。

バーコード・グループ

PTCに必要なバーコード・スキャン機能と対応するバーコード・グループ名を指定してください。最大6つまで指定することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

PTC項目を簡単に説明するテキストを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

*REMOVE

テキストが除去されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

キーボード再マップ使用可能 (ENBKBDMAP)

キーボード・マッピング機能を使用可能または使用不能にします。

注：2668 機能番号では、キーボード・マッピング機能はサポートされていません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

*NO キーボード・マッピング機能を使用不能にします。

*YES キーボード・マッピング機能を使用可能にします。

上

画面形式変更使用可能 (ENBSCNFMT)

画面リフォーマッター機能を使用可能または使用不能にします。

注：2668 機能番号では、画面リフォーマッター機能はサポートされていません。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変わりません。

*NO 画面リフォーマッター機能を使用不能にします。

*YES 画面リフォーマッター機能を使用可能にします。

上

装置名接頭部 (DEVAFX)

PTC装置名接頭部を指定します。これは、6文字の英数字ストリングであり、PTC表示装置を個別に識別するために使用することができます。これは、PPPPPPXXXXの形式で使用されます。PPPPPPは6文字の接頭部で、XXXXはPTC ID範囲です。

上

例

```
CHGEWCPTCE  PTCGRP(PTC01)  INZMBR(EWC01)  INZFILE(QGPL/QEWCSRC)
              PTCRANGE(0001 0032)
```

このコマンドは、QGPLのソース物理ファイルQEWCSRCの拡張無線制御装置ソース・ファイル・メンバーEWC01にアドレスが1から32のPTCを使用するようにPTC01という名前のPTCグループを変更します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

無線回線メンバーの変更 (CHGEWLM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線回線メンバー変更(CHGEWLM)コマンドは、指定されたソース・ファイル・メンバーの拡張無線回線パラメーターを変更します。

制約事項: このコマンドのINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値が無線回線記述の対応するパラメーターに指定された値と一致しない場合には、拡張無線回線構成データは無線アダプターにダウンロードされません。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

注: 回線記述の変更（無線）(CHGLINWLS)コマンドを使用して、無線回線記述のINZFILEおよびINZMBRパラメーターに指定された値を表示または変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, キー, 定位置 1
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, キー, 定位置 2
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWLSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ADPTCFG	アダプター構成	*SAME, *ALL, *RADIO, *WIRED	オプション
HOPID	ホップID	020000000000-FEFFFFFFF, *SAME, *ADPT	オプション
ROOT	ルート・セル	*SAME, *YES, *NO	オプション
FREQUENCY	頻度	*SAME, 1, 2, 3, 4, 5	オプション
DATARATE	データ速度	*SAME, 2M, 1M	オプション
SYSID	無線システムID	000002-FFFFFE, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

変更する拡張無線回線構成データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

拡張構成ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWSLRC

ソース・ファイル名QEWSLRCが使用されます。

ソース・ファイル名

変更中のソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

アダプター構成 (ADPTCFG)

無線ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)アダプター構成を指定します。無線LANアダプターは2つの通信方式、すなわちラジオおよびワイヤー・バックボーンを持っています。ラジオは無線通信に使用できる直接手順スプレッド・スペクトル・ラジオです。ワイヤー・バックボーンはアクセス・ポイントを無線LANアダプターと接続するために使用されます。これらのアクセス・ポイントは直接手順スプレッド・スペクトル・ラジオも持ち、ワイヤレス・ネットワークのラジオ範囲を拡張するために使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** 無線LANアダプターはラジオおよびワイヤー・バックボーン通信の両方を使用します。

***RADIO**

無線LANアダプターはラジオ通信だけを使用します。

***WIRED**

無線LANアダプターはワイヤー・バックボーン通信だけを使用します。

上

ホップID (HOPID)

無線LANアダプター上の12文字の16進数のラジオ識別コードを指定します。これは、ネットワーク上の次のホップ中にデータ・パケットの宛先を判別するために使用される内部識別コードです。

注: HOPIDパラメーターに指定された値は無線LANアダプターによって使用される2つの異なる12文字の16進数の識別コードです。その他はイーサネットまたはトークンリング・ネットワークで使用されるIDと同等のエンドポイントIDです。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***ADPT**

事前設定されている無線入出力アダプター(IOA)アドレスが使用されます。

ホップ識別コード

事前設定されたアドレスを一時変更する無線LANアダプター・ホップ・アドレスを指定してください。ホップ・アドレスは個別アドレスでなければなりません (グループ・アドレスとすることはできません)。有効な値の範囲は16進数形式の020000000000-FEFFFFFFFFFです。アドレスの左から2桁目は2, 6,A,またはEでなければなりません。

上

ルート・セル (ROOT)

無線LANアダプターのラジオがルート・セルにあるかどうかを指定します。

無線ネットワークは、論理スパン・ツリーの形式で相互接続される無線アクセス・ポイントのグループから成ります。これらの無線アクセス・ポイントの1つはネットワークのルート・ノードとして指定されていなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 無線LANアダプター上のラジオはルート・セルにあります。

***NO** 無線LANアダプター上のラジオはルート・セルにありません。

上

頻度 (FREQUENCY)

ラジオ・チャンネル・セットに基づいてラジオで使用するセンター周波数を指定します。ラジオ・チャンネル・セットは、ラジオ国別コードによって決定されます。

指定できる周波数の値は次の通りです。

***SAME**

チャンネル・セット9の場合には、5つのセンター周波数があります。

- 1 センター周波数2.412ギガヘルツが使用されます。
- 2 センター周波数2.427ギガヘルツが使用されます。
- 3 センター周波数2.442ギガヘルツが使用されます。

- 4 センター周波数2.457ギガヘルツが使用されます。
- 5 2.465ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット10の場合には、5つのセンター周波数があります。チャンネル・セット10はETSI（欧州遠隔通信および規格協会）諸国で使用されます。

- 1 センター周波数2.412ギガヘルツが使用されます。
- 2 センター周波数2.427ギガヘルツが使用されます。
- 3 センター周波数2.442ギガヘルツが使用されます。
- 4 センター周波数2.457ギガヘルツが使用されます。
- 5 2.472ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット11の場合には、1つのセンター周波数があります。

- 1 2.484ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット12の場合には、3つのセンター周波数があります。

- 1 センター周波数2.457ギガヘルツが使用されます。
- 2 2.465ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。
- 3 2.472ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

チャンネル・セット13の場合には、3つのセンター周波数があります。

- 1 2.411ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。
- 2 2.425ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。
- 3 2.439ギガヘルツのセンター周波数が使用されます。

上

データ速度 (DATARATE)

無線LANデータ速度を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

- 2M 2メガビット/秒の無線LANデータ速度が使用されます。
- 1M 1メガビット/秒の無線LANデータ速度が使用されます。

上

無線システムID (SYSID)

使用する6文字の16進数のラジオ・システム識別コードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

システム識別コード

使用するシステム識別コードを指定してください。有効な値の範囲は16進数形式の000002-FFFFFFEで、最後の桁は偶数（たとえば、0, 2, 4, 6, 8, A, C, E）でなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

使用される回線接続タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGEWLM  INZMBR(EWL01) INZFILE(*CURLIB/QEWLSRC)
          FREQUENCY(*A2)
```

このコマンドは、現行ライブラリーのソース物理ファイルQEWLSRC の拡張無線基線ソース・メンバー EWL01のパラメーターFREQUENCYを値*A2 (2.442ギガヘルツ) に変更します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

満了スケジュール項目の変更 (CHGEXPSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

満了スケジュール項目変更(CHGEXPSCDE)コマンドによって、特定の日付でユーザー・プロファイルを満了にすることができます。満了したユーザー・プロファイルは使用不可にするか、あるいは削除することができます。

プロファイルが使用不可または削除された時には、CHGEXPSCDEコマンドを出したユーザーのメッセージ待ち行列にメッセージが送信されます。

ユーザー・プロファイルが満了しないように、それをファイルから除去するには、EXPDATE(*NONE)を指定してください。

この情報は、満了スケジュール表示(DSPEXPSCD)コマンドを使用して表示することができます。

プロファイルの使用不可または削除がスケジュールされた場合には、CHGEXPSCDE ジョブは夜間に行われます。ジョブを実行する時間を変更したい場合には、ジョブ・スケジュール項目変更(CHGJOBSCDE)コマンドを使用して、QSECEXP1ジョブを変更してください。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJ, *SECADM,および*JOBCTLの特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
EXPDATE	満了日	日付, *NONE	必須, 定位置 2
ACTION	処置	*DISABLE, *DELETE	オプション
OWNOBJOPT	所有オブジェクト・オプション	単一値: *NODLT, *DLT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 所有オブジェクト値	*CHGOWN	
	要素 2: ユーザー・プロファイル名 (*CHGOWN)	名前	
PGPOPT	1次グループ・オプション	単一値: *NOCHG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 1次グループ値	*CHGPGP	
	要素 2: 新しい1次グループ	名前, *NONE	
	要素 3: 新しい1次グループ権限	*OLDPGP, *PRIVATE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

満了となるユーザー・プロファイルの名前。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

上

満了日 (EXPDATE)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・プロファイルを満了にする必要がある日付。

*NONE

このプロファイルは、満了となるユーザー・プロファイルのリストから除去する必要があります。

満了日 プロファイルが満了する日付。

上

処置 (ACTION)

満了したユーザー・プロファイルに対して取る処置。

*DISABLE

プロファイルは使用不可になります。

*DELETE

プロファイルは削除されます。

上

所有オブジェクト・オプション (OWNOBJOPT)

削除しているユーザー・プロファイルの所有オブジェクトで実行される操作のタイプ。

要素1:所有オブジェクト・オプション

*NODLT

ユーザーがオブジェクトを所有している場合には、このユーザー・プロファイルの所有オブジェクトは変更されず、ユーザー・プロファイルは削除されません。

***DLT** ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトは削除されます。所有のすべてのオブジェクトの削除、および基本グループのすべてのオブジェクトの転送が正常に行われた場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されます。

*CHGOWN

ユーザー・プロファイルの所有オブジェクトの所有権が、指定されたユーザー・プロファイルに転送されます。すべての所有オブジェクトの転送が正常に完了した場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されます。

*CHGOWNを指定した場合には、新規ユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル名を指定する必要があります。この新規ユーザー・プロファイルが、USRPRFパラメーターによって指定されたユーザー・プロファイルが所有していたすべてのオブジェクトを所有します。

要素2:新規所有者のユーザー・プロファイル

ユーザー・プロファイル名

ユーザー・プロファイル名。

上

1 次グループ・オプション (PGPOPT)

ユーザー・プロファイルがその1次グループとして削除されているオブジェクトに対して実行する操作のタイプ。

*NOCHG

ユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトは変更されません。また、ユーザーがいずれかのオブジェクトの1次グループである場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されません。

要素1:オブジェクトの1次グループの変更

*CHGPGP

ユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトは、指定されたユーザー・プロファイルに転送されます。すべてのオブジェクトの転送が正常に完了した場合には、そのユーザー・プロファイルは削除されます。

*CHGPGPが指定された場合には、ユーザー・プロファイル名または*NONEを指定しなければなりません。ユーザー・プロファイル名が指定された場合には、USRPRFパラメーターによって指定されたユーザー・プロファイルが基本グループである、そのすべてのオブジェクトでは、そのユーザーが基本グループとなります。*NONEが指定された場合には、(USRPRFパラメーターによって指定された)ユーザー・プロファイルが1次グループであるオブジェクトは、すべて1次グループを持たなくなります。

要素2:新規1次グループのユーザー・プロファイル

ユーザー・プロファイル名

ユーザー・プロファイルの名前指定されたユーザー・プロファイルには、グループID番号(GID)がなければなりません。

*NONE

このオブジェクトには、1次グループはありません。

要素3:新規1次グループの権限

*OLDPGP

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して旧1次グループが持っていたものと同じ権限を持ちます。

*PRIVATE

新しい1次グループがそのオブジェクトに対して専用権限を持っている場合には、これがそのオブジェクトの1次グループとなり、1次グループの権限はその専用権限であった内容となります。新し

い1次グループがオブジェクトに対する専用権限を持っていない場合には、それが1次グループになりますが、オブジェクトに対するどんな権限も持ちません。

***ALL** 新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*ALL権限を持ちます。

***CHANGE**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*CHANGE権限を持ちます。

***USE** 新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*USE権限を持ちます。

***EXCLUDE**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*EXCLUDE権限を持ちます。

上

例

```
CHGEXPCDE  USRPRF(GARRY)  EXPDATE('07/01/1996')  ACTION(*DELETE)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルGARRYの満了スケジュール項目を変更します。ユーザー・プロファイルGARRYは1996年7月1日に削除されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

上

機能使用法の変更 (CHGFCNUSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機能使用変更(CHGFCNUSG)コマンドは、登録済み機能の許可された使用情報を変更します。機能は、機能登録(QSYRGFN) APIを使用することによって登録することができます。

一部の機能は、その機能に対してユーザーを認可する他の手段を提供します。例えば、保守トレース(QIBM_SERVICE_TRACE)機能の使用を許可されていないユーザーは、保守(*SERVICE)特殊権限がある場合は、内部トレース(TRCINT)コマンドの使用はまだ許可されません。

制約事項: このコマンドを使用するには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FCNID	機能ID	単純名	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	単純名	オプション
USAGE	使用法	*ALLOWED, *DENIED, *NONE	オプション
DEFAULT	省略時の権限	*SAME, *ALLOWED, *DENIED	オプション
ALLOBJAUT	*ALLOBJ特殊権限	*SAME, *USED, *NOTUSED	オプション

上

機能ID (FCNID)

使用情報を変更する機能IDを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 使用情報を変更する機能IDの名前を指定してください。

上

ユーザー (USER)

機能使用情報を変更するユーザー・プロファイルの名前を指定します。

名前 機能使用情報を変更するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

使用法 (USAGE)

ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルに許可される使用を指定します。

*ALLOWED

ユーザー・プロファイルは、その機能を使用することが許可されます。

*DENIED

機能がユーザーに認可する何らかの他の方法を提供しない限り、ユーザー・プロファイルはその機能の使用を許可されません。

*NONE

ユーザー・プロファイルは、その機能の使用を明示的には許可も拒否もされません。

上

省略時の権限 (DEFAULT)

機能に対して省略時の使用を指定します。省略時の使用は、ユーザーまたはそのグループの1つが特定の使用設定値をもっていない場合に使用されます。

*SAME

値は変更されません。

*ALLOWED

機能に対して使用設定が指定されていないユーザー・プロファイルは、その機能の使用を許可されません。

*DENIED

機能がユーザーに認可する何らかの他の方法を提供しない限り、機能に対して使用設定が指定されていないユーザー・プロファイルはその機能の使用を許可されません。

上

*ALLOBJ特殊権限 (ALLOBJAUT)

全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限は機能へのアクセスをユーザーに付与するために使用できるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*USED

*ALLOBJ特殊権限をもつユーザーは機能の使用を常時許可されます。

*NOTUSED

機能を使用する*ALLOBJ特殊権限をもつユーザーの場合、その機能に指定される使用情報には、ユーザーが以下の理由の1つによりその機能の使用を許可されることが指示されていなければなりません。

- ユーザーが使用を許可されています。
- そのグループの1つが使用を許可されています。あるいは、
- 省略時設定で使用が許可されるようになっています。

例

```
CHGFCNUSG FCNID(QIBM_SERVICE_TRACE) DEFAULT(*DENIED)
           USER(QSRVBAS) USAGE(*ALLOWED)
```

このコマンドは、省略時ユーザーのQIBM_SERVICE_TRACE機能へのアクセスを否認します。また、QSRVBASユーザー・プロファイルが、この機能を使用することもできます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF228A

機能&1が登録されていない。

CPF229B

この操作は機能&1では使用できない。

CPF229D

ユーザー・プロファイル&1で操作はできない。

CPF3CD9

この時点で要求した機能を実行することはできない。

CPF3CDA

登録機能リポジトリを使用することができない。

フォント資源の変更 (CHGFNTRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源の変更(CHGFNTRSC)コマンドによって、取り込みに適合するフォント文字セットおよびコード・ページをマーク付けすることができます。FNTCAPTURE(*YES) でマーク付けされたフォントおよびコード・ページは、フォントの取り込みをサポートする印刷装置でダウンロードした後で取り込みに適合されます。これにより、フォント取り込みをサポートするIPDS印刷装置が、フォント取り込み*YESでマーク付けされたホスト・ダウンロード・フォントの 取り込み またはキャッシュを動的に行うことができます。すると、電源をオフしてから再びオンにした後でも、取り込まれたフォントが印刷装置常駐フォントのように印刷サービス機能(PSF)に発生して印刷装置に存続します。印刷パフォーマンスは、印刷装置への後続のフォント・ダウンロードを除去することによって改善されます。

機密保護感知可能フォントをFNTCAPTURE(*YES)としてマーク付けする時には、注意をします。印刷装置がLANに接続されている場合には、同じシステム上の別の印刷ジョブまたは異なるシステム上の別の印刷ジョブから、印刷装置の取り込みフォントをアクセスすることができます。

印刷ジョブで参照されたホスト・フォントを使用するには、取り込みに適合するようにマーク付けされているかどうかにかかわらず、システムのフォント・オブジェクトおよびそのライブラリーに対する権限が必要です。

また、フォント文字セットおよびコード・ページのマーク付けの他に、使用している印刷装置でフォント取り込みを活動化させる必要があります。IPDS印刷装置でフォント取り込みを活動化するには、CRTPSFCFGまたはCHGPSFCFGコマンドのFNTCAPTURE(*YES)を指定しなければなりません。

注:

- 取り込みに適合するようにマーク付けされているフォント文字セットおよびコード・ページの対は、フォント取り込みをサポートしない印刷装置にダウンロードされます。
- コード化フォントのマーク付けがサポートされていません。コード化フォントをマーク付けしようとしても、変更は有効となりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須、キー、定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FNTCAPTURE	印刷装置でのホスト・フォント取込	*SAME, *NO, *YES	オプション
FNTRSCDTA	フォント資源データ	要素リスト	オプション
	要素 1: 図形文字セット	1-65535, *DFT	
	要素 2: 識別コード	1-65535, *DFT	

フォント資源 (FNTRSC)

マーク付けするフォント文字セットまたはコード・ページを指定します。コード化フォントのマーク付けがサポートされていません。コード化フォントをマーク付けしようとしても、変更は有効となりません。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 マーク付けするフォント文字セットまたはコード・ページの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーだけを検索します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合には、QGPLが使用されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

印刷装置でのホスト・フォント取込 (FNTCAPTURE)

フォント文字セットまたはコード・ページをフォント取り込みに適合するようにマーク付けするかどうかを指定します。

***SAME**

このパラメーターの値は、変更されないままです。

***YES** フォント文字セットまたはコード・ページが、印刷装置にダウンロードした後で取り込みに適合されます。印刷装置がフォント取り込みをサポートしていない場合には、この情報は無視されてフォントがダウンロードされます。

***NO** フォント文字セットまたはコード・ページが、フォント取り込みに適合しません。また、これも印刷装置にダウンロードされます。

フォント資源データ (FNTRSCDTA)

フォント資源データ（フォントをマークする図形文字セットおよびID）を指定します。フォント文字セットでは、IDはフォントID（例えばCOURIERフォントが011）です。コード・ページでは、IDはコード・ページID（例えば国別コード・ページが500）です。

要素1: 図形文字セット

***DFT** フォントに保管された図形文字セットがフォント取り込みに使用されます。

I-65535

フォント文字セットまたはコード・ページに図形文字セットを指定します。

要素2: 識別コード

***DFT** フォントに保管されたIDがフォント取り込みに使用されます。

I-65535

フォント文字セットまたはコード・ページにIDを指定します。

上

例

```
CHGFNTRSC FNRSC(QFNT61/X0G16F) FNTCAPTURE(*YES)
```

この例では、フォント収集に適格であるとしてライブラリーQFNT61中のフォント文字セットX0G16Fにマークを付けます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

PQT0109

ライブラリー&2のフォント資源&1は変更されませんでした。

PQT0110

ライブラリー&2のコード化フォント&1はフォント・キャプチャーの対象ではありません。

PQT0111

フォント資源&1はキャプチャーする対象ではありません。

上

フォント・テーブル項目の変更 (CHGFNTTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル項目の変更(CHGFNTTBLE)コマンドは、指定されたフォント・テーブルの項目を変更します。このコマンドは、以下の制御を行う印刷サービス機能(PSF)によって使用されるユーザー・フォント、またはコード・ページ・テーブルの既存の項目を変更します。

1. ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング
2. 印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのマッピング
3. ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング
4. 印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング
5. 印刷装置常駐から印刷装置常駐フォント置き換えへのマッピング

はじめに項目をADDFNTTBLE（フォント・テーブル項目の追加）コマンドによってユーザー・テーブルに追加しておかなければなりません。

印刷装置からホストへのフォント・マッピングおよびホストから印刷装置へのフォント・マッピング（上記の最初の4つのテーブル）の実行では、ユーザー・テーブルが最初に一致を検索されます。一致が見つからない場合には、次にシステム・フォント・テーブルまたはコード・ページ・テーブルが検索されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つからない場合、または指定された置き換えフォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FNTTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプションナル, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
PHFCS	印刷装置からホスト・フォント へ	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 印刷装置フォント	要素リスト	
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: 幅	1-32767, *NONE, *PTSIZE	
	要素 3: 属性	*NONE, *BOLD, *ITALIC, *BOLDITC, *DBLWIDE, *ITCDBLWIDE	
	要素 4: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
	要素 5: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *WIDTH, *NONE	
	要素 2: ホスト・フォント	要素リスト	
	要素 1: フォント文字セット	名前, *SAME	
	要素 2: タイプ	*SAME, *RASTER, *OUTLINE	
PHCP	印刷装置からホスト・コード・ ページ	要素リスト	オプションナル
	要素 1: 印刷装置コード・ペー ジ	要素リスト	
	要素 1: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
	要素 2: コード・ページ	整数	
	要素 2: ホスト・コード・ペー ジ	要素リスト	
	要素 1: コード・ページ	名前, *SAME	
HPFCS	ホストから印刷装置フォントへ	要素リスト	オプションナル
	要素 1: ホスト・フォント	要素リスト	
	要素 1: フォント文字セット	名前	
	要素 2: タイプ	*RASTER, *OUTLINE	
	要素 2: 印刷装置フォント	要素リスト	
	要素 1: 識別コード	1-65535, *SAME, *NONE	
	要素 2: 幅	1-32767, *SAME, *NONE, *PTSIZE	
	要素 3: 属性	*SAME, *NONE, *BOLD, *ITALIC, *BOLDITC, *DBLWIDE, *ITCDBLWIDE	
	要素 4: 図形文字セット	整数, *SAME, *SYSVAL	
	要素 5: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *SAME, *WIDTH, *NONE	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
HPCP	ホストから印刷装置コード・ページ	要素リスト	オプション
	要素 1: ホスト・コード・ページ	要素リスト	
	要素 1: コード・ページ	名前	
	要素 2: 印刷装置コード・ページ	要素リスト	
	要素 1: 図形文字セット	整数, *SYSVAL, *SAME	
	要素 2: コード・ページ	整数, *SAME	
PPFCS	印刷装置相互間フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 印刷装置からのフォント	要素リスト	
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *ALL, *NONE	
	要素 2: 印刷装置へのフォント	要素リスト	
	要素 1: 識別コード	1-65535, *SAME	
	要素 2: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *ALL, *NONE, *SAME	

上

フォント・テーブル (FNTTBL)

変更するフォント・テーブルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが変更（項目が追加）されます。

このテーブルは、アプリケーション(DDSなど)が印刷装置常駐フォントを参照し、印刷装置が常駐フォントをサポートしていない時に使用されます。常駐フォントをサポートしていない印刷装置の例は、3827, 3825, 3820, および3900-1型です。印刷サービス機能(PSF)は、印刷装置常駐フォントからホスト常駐フォントに参照をマップしてそれをダウンロードしなければなりません。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが変更（項目が追加）されます。

このテーブルはQPHFCSテーブルのように、アプリケーションが印刷装置常駐コード・ページを参照し、使用される印刷装置が印刷装置常駐コード・ページをサポートしていない時に使用されます。印刷装置常駐コード・ページがホスト常駐コード・ページにマップされて、PSFによって印刷装置にダウンロードされなければなりません。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが変更（項目が追加）されます。

このテーブルは、アプリケーションがホスト常駐フォント（フォント文字セットおよびコード・ページ）を参照し、印刷装置(4224, 4234, 4230,および64XXなど）がホスト常駐フォントのダウンロードをサポートしていない時に使用されます。PSFは、ホスト常駐フォントから印刷装置常駐フォントへの参照をマップしなければなりません。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが変更（項目が追加）されます。

このテーブルはQHPFCSのように、アプリケーションがホスト常駐コード・ページを参照し、使用される印刷装置がホスト常駐コード・ページをサポートしていない時に使用されます。ホスト常駐コード・ページが印刷装置常駐コード・ページにマップされて、PSFによって印刷装置にダウンロードされなければなりません。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 変更するフォント・テーブルの名前を指定します。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを変更する時には、名前を指定しなければなりません。この印刷装置常駐フォント置き換えテーブルは、次の3つの条件がすべて終了している時に使用してください。

1. PSF接続印刷装置に印刷している。
2. 使用している印刷装置によってサポートされていない印刷装置常駐フォントを、アプリケーションが指定している。
3. システムによって選択されたものと異なる置き換え印刷装置常駐フォントを指定したい。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを特定のPSF印刷装置で使用するには、PSF構成の作成(CRTPSF CFG)コマンドまたはPSF構成の変更(CHGPSFCFG)コマンドのFNNTBLパラメーターでフォント・テーブルの名前を指定する必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを検索します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

上

印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのマッピングを指定します。印刷装置常駐フォントは、指定した属性と一緒にホスト常駐フォント文字セットにマップされます。

要素1: 印刷装置フォント

要素1: 識別コード

I-65535

ホスト常駐フォントにマップする印刷装置常駐フォントIDを指定します。

要素2: 幅

***NONE**

このフォントIDには幅は指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

***PTSIZE**

このフォントIDの幅は、指定されたポイント・サイズから計算されます。幅に*PTSIZEを指定した場合には、ポイント・サイズ・パラメーターを*NONEまたは*WIDTHにすることはできません。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。幅の値は*PTSIZEにするか、あるいは値を指定することができます。

1-32767

フォントIDの幅を指定します。固定ピッチ・ラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅を指定しなければなりません。ポイント・サイズの値は*WIDTHにするか、あるいは値を指定することができます。印刷装置常駐フォントのフォント幅の詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素3: 属性

***NONE**

このフォントには特別のフォントの属性は指定されません。

***BOLD**

印刷装置常駐フォントは太字体のフォントです。

***ITALIC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体のフォントです。

***BOLDITC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の太字フォントです。

***DBLWIDE**

印刷装置常駐フォントは横倍角フォントです。

***ITCDBLWIDE**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の横倍角フォントです。

要素4: 図形文字セット

***SYSVAL**

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。

図形文字ID

フォントの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。

要素5: ポイント・サイズ

*WIDTH

フォントのポイント・サイズは指定されたフォントの幅の値から計算されます。固定ピッチのラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅の値を指定してポイント・サイズの値を*WIDTHにすることをお奨めします。

*NONE

このフォントIDにはポイント・サイズは指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

要素2: ホスト・フォント

要素1: フォント文字セット

*SAME

このパラメーターの値は、変更されないままです。

名前 フォント文字セットを指定します。

要素2: タイプ

*SAME

このパラメーターの値は、変更されないままです。

*RASTER

ホスト常駐フォントはラスター・フォントです。

*OUTLINE

ホスト常駐フォントはアウトライン・フォントです。

上

印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピングを指定します。印刷装置常駐ホスト・コード・ページは、ホスト常駐コード・ページにマップされます。

要素1: 印刷装置コード・ページ

要素1: 図形文字セット

***SYSVAL**

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。このシステム値の変更が有効となるのは、印刷書き出しプログラムが開始される時のフォント・マッピング・テーブルだけです。QCHRIDが変更され、印刷装置が現在活動状態である場合には、この印刷装置書き出しプログラムを終了して再度開始しなければなりません。

整数 印刷装置常駐コード・ページの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。例えば、図形文字ID 697 500の場合には、697が図形文字セットで、500がコード・ページとなります。この例では、図形文字セットに697を指定します。

要素2: コード・ページ

整数 印刷装置常駐コード・ページの値を指定します。

要素2: ホスト・コード・ページ

要素1: コード・ページ

***SAME**

このパラメーターの値は、変更されないままです。

名前 ホスト常駐コード・ページの名前を指定します。

上

ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピングを指定します。ホスト常駐フォントは、指定した属性と一緒に印刷装置常駐フォントにマップされます。

要素1: ホスト・フォント

要素1: フォント文字セット

名前 フォント文字セットを指定します。

要素2: タイプ

***RASTER**

ホスト常駐フォントはラスター・フォントです。

***OUTLINE**

ホスト常駐フォントはアウトライン・フォントです。

要素2: 印刷装置フォント

要素1: 識別コード

*SAME

このパラメーターの値は、変更されないままです。

I-65535

ホスト常駐フォントからマップする印刷装置常駐フォントIDを指定します。

***NONE**

ホスト常駐から印刷装置常駐フォントへのマッピングを使用不能にするためには、フォントIDに***NONE**を指定してください。ホスト常駐から印刷装置常駐フォントへのマッピングを使用不能にする詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素2: 幅

*SAME

このパラメーターの値は、変更されないままです。

***NONE**

このフォントIDには幅は指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、***NONE**を指定しなければなりません。

***PTSIZE**

このフォントIDの幅は、指定されたポイント・サイズから計算されます。幅に***PTSIZE**を指定した場合には、ポイント・サイズ・パラメーターを***NONE**または***WIDTH**にすることはできません。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマップする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。幅の値は***PTSIZE**にするか、あるいは値を指定することができます。

I-32767

フォントIDの幅を指定します。固定ピッチ・ラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマップする場合には、幅を指定しなければなりません。ポイント・サイズの値は***WIDTH**にするか、あるいは値を指定することができます。印刷装置常駐フォントのフォント幅の詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素3: 属性

*SAME

このパラメーターの値は、変更されないままです。

***NONE**

このフォントには特別のフォントの属性は指定されません。

***BOLD**

印刷装置常駐フォントは太字体のフォントです。

***ITALIC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体のフォントです。

***BOLDITC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の太字フォントです。

***DBLWIDE**

印刷装置常駐フォントは横倍角フォントです。

***ITCDBLWIDE**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の横倍角フォントです。

要素4: 図形文字セット

***SAME**

このパラメーターの値は、変更されないままです。

***SYSVAL**

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。

図形文字ID

フォントの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。

要素5: ポイント・サイズ

***SAME**

このパラメーターの値は、変更されないままです。

***WIDTH**

フォントのポイント・サイズは指定されたフォントの幅の値から計算されます。固定ピッチのラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅の値を指定してポイント・サイズの値を*WIDTHにすることをお奨めします。

***NONE**

このフォントIDにはポイント・サイズは指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

上

ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)

ホスト常駐コード・ページから印刷装置常駐コード・ページにマップします。ホスト常駐コード・ページは印刷装置常駐コード・ページにマップされます。

要素1: ホスト・コード・ページ

要素1: コード・ページ

名前 ホスト常駐コード・ページの名前を指定します。

要素2: 印刷装置コード・ページ

要素1: 図形文字セット

*SAME

このパラメーターの値は、変更されないままです。

*SYSVAL

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。このシステム値の変更が有効となるのは、印刷書き出しプログラムが開始される時のフォント・マッピング・テーブルだけです。QCHRIDが変更され、印刷装置が現在活動状態である場合には、この印刷装置書き出しプログラムを終了して再度開始しなければなりません。

整数 印刷装置常駐コード・ページの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。例えば、図形文字ID 697 500の場合には、697が図形文字セットで、500がコード・ページとなります。この例では、図形文字セットに697を指定します。

要素2: コード・ページ

*SAME

このパラメーターの値は、変更されないままです。

整数 印刷装置常駐コード・ページの値を指定します。

上

印刷装置相互間フォント (PPFCS)

印刷装置常駐フォント置き換えマッピングを指定します。印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、システムによって選択された置き換え印刷装置常駐フォントの代わりに使用する置き換え印刷装置常駐フォントを指定することができます。次のマッピングのタイプを実行すると望ましくない結果が起こる可能性がある時には、注意が必要です。

- モノスペース・フォントから活字フォントへのマッピング。または、活字フォントからモノスペース・フォントへのマッピング。

- 異なるポイント・サイズでのアウトライン（スケーラブル）・フォントからアウトライン（スケーラブル）・フォントへのマッピング。

要素1: 印刷装置からのフォント

要素1: 識別コード

1-65535

置き換え印刷装置常駐フォントが変更される印刷装置常駐フォントIDを指定します。サポートされている印刷装置常駐フォントや、スケーラブル（ポイント・サイズが必要）かスケーラブルでない（ポイント・サイズ*NONEを指定）かの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素2: ポイント・サイズ

***NONE**

フォント・ポイント・サイズは指定されません。これはすべての非スケーラブル・フォントに指定してください。

***ALL** アウトライン（スケーラブル）・フォントのすべてのポイント・サイズがマップされることを指定します。フォントがスケーラブルでない場合には、これは*NONEと同じに扱われます。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

要素2: 印刷装置へのフォント

要素1: 識別コード

***SAME**

このパラメーターの値は、変更されないままです。

1-65535

置き換え印刷装置常駐フォントを指定します。

要素2: ポイント・サイズ

***SAME**

このパラメーターの値は、変更されないままです。

***NONE**

フォント・ポイント・サイズは指定されません。これはすべての非スケーラブル・フォントに指定してください。

***ALL** アウトライン（スケラブル）・フォントのすべてのポイント・サイズがマップされることを指定します。フォントがスケラブルでない場合には、これは*NONEと同じに扱われます。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

上

例

例1:フォント項目の変更

```
CHGFNTTBLE FNTTBL(*PHFCS)
            PHFCS((254 84 *NONE 2039 7.0) (C0D0GT18 *RASTER))
```

このコマンドは、QPHFCSテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブル）中の項目を変更します。ADDFNTTBLE（フォント・テーブル項目の追加）コマンドを使用して、前もって項目をテーブルに追加しておかなければなりません。この例では、ユーザー・フォント・テーブル(QPHFCS)のフォントID 254,幅84, およびポイント・サイズ7.0が変更されることとなります。項目は特殊属性をもたず(*NONE), 図形文字セット2039が使用されます。

フォント・マッピングの実行において、印刷アプリケーションに指定された常駐フォントの属性は、フォント・テーブルQPHFCSのものと比較されます。一致が見つかった場合には、指定したホスト常駐フォント(C0D0GT18)が印刷装置にダウンロードされます。一致が見つからない場合には、システム印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブルが検索されます。

印刷アプリケーションが通常図形文字セットを指定できること（例えば、QCHRIDシステム値で指定した697 500の697)に注意してください。697は2039にマップされ、この項目で一致することとなります。

例2:フォント記号項目の変更

```
CHGFNTTBLE FNTTBL(*PHFCS)
            PHFCS((254 84 *NONE 1275 7.0) (C0SYMBOL *RASTER))
```

このコマンドは、特殊記号コード・ページ（コード・ページ259)の使用時に使用するQPHFCSテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブル）中の項目を変更します。例1で示したように、ADDFNTTBLE（フォント・テーブル項目の追加）コマンドを使用して、前もって項目を追加しておかなければなりません。前の例のように、ユーザー・フォント・テーブル(QPHFCS)のフォントID 254,幅84, およびポイント・サイズ7.0が変更されることとなります。幅84およびポイント・サイズ7.0は、システム・テーブルから取得されます。項目は特殊属性をもたず(*NONE), 図形文字セット1275が使用されます。

印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブルには現在項目が2個あります。両方の項目は、同じフォントID, 幅, およびポイント・サイズをもちます。標準コード・ページおよび図形セットがアプリケーションで使用される時（この例では、697 500)には、最初の項目が使用されます。2番目の項目は、印刷アプリケーションが特殊記号(340 259)を指定している時に使用されます。

例3:コード・ページ項目の変更

```
CHGFNTTBLE FNTTBL(*PHCP) PHCP((*SYSVAL 38) (T1V00038))
```

このコマンドは、QPHCPテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのコード・ページ・テーブル）中の項目を変更します。上記の例では、コード・ページ38のマッピングが変更されます。

フォント・マッピングの実行において、印刷アプリケーションに指定された常駐コード・ページの属性は、コード・ページ・テーブル(QPHCP)のものと比較されます。一致が見つかった場合には、指定したホスト常駐コード・ページ(T1V00038)が印刷装置にダウンロードされます。一致が見つからない場合には、システム印刷装置常駐からホスト常駐へのコード・ページ・テーブルが検索されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF88D2

ライブラリー&2のフォント・テーブル&1は変更されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

上

フィルターの変更 (CHGFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルターの変更(CHGFTR)コマンドによって、フィルター・オブジェクトのテキスト記述を変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

フィルター (FILTER)

記述が変更されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

変更するフィルターの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明するテキストを指定します。このパラメーターについては、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の付録A「詳細なパラメーターの説明」に詳細な説明があります。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGFTR FILTER(MYLIB/MYFILTER) TEXT('NEW TEXT HERE')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のMYFILTERという名前のフィルターの記述を変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF812D

フィルター&4に&8の損傷があります。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

グループ属性変更 (CHGGRPA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グループ属性変更 (CHGGRPA)コマンドは、対話式ジョブのグループ属性を変更します。CHGGRPAコマンドを使用して対話式ジョブをグループ・ジョブに変更しなければ、グループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)コマンドを使用することはできません。次の属性を変更することができます。

- 対話式ジョブをグループ・ジョブに変更することができます。
- グループ・ジョブは、非グループの対話式ジョブに変更することができます。
- メッセージ待ち行列をグループに関連付けることができます。
- メッセージ待ち行列をグループから切り離すことができます。
- グループ・ジョブの記述テキストを変更することができます。

グループ・ジョブの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、メッセージ待ち行列(MSGQ)に対する使用(*USE)権限、およびそのメッセージ待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GRPJOB	グループ・ジョブ	名前, *SAME, *NONE	オプションル, 定位置 1
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル, 定位置 2
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプションル

上

グループ・ジョブ (GRPJOB)

このジョブに割り当てられたグループ・ジョブ名を指定します。

*SAME

グループ・ジョブ名は変更されません。

*NONE

グループ中の活動ジョブだけが非グループの対話式ジョブに変更され、グループ・データ域(*GDA)

が削除され、そしてグループ・メッセージ待ち行列（存在する場合）がグループから切り離されます。ただし、グループ・メッセージ待ち行列のモードは変更されません。

名前 このコマンドを出している対話式ジョブに割り当てられるグループ・ジョブ名を指定します。これによってジョブがグループ・ジョブとなり、グループ・データ域(*GDA)が作成されます。この文字タイプ・データ域は長さが512バイトで、最初は空白が充てんされています。グループ・ジョブ名の指定は、ジョブがグループ・ジョブでない場合にだけ行なうことができます。いったんグループ・ジョブ名をジョブに割り当てると、その名前を変更することはできません（グループ内の唯一の活動ジョブについて *NONEを設定する場合を除く）。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

グループと関連したメッセージ待ち行列の名前を指定します。このメッセージ待ち行列は存在するものでなければなりません、必ずしもこのコマンドが出される時点でこのジョブに割り振られている必要はありません。

単一値

*SAME

当該グループと関連したメッセージ待ち行列は変更されません。

*NONE

グループと関連のあるメッセージ待ち行列はありません。グループと関連のあるメッセージ待ち行列がある場合には、そのメッセージ待ち行列はグループから切り離されます（ただし、モードは変更されません）。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 当該グループと関連したメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

グループ・ジョブを記述する最高50文字までのテキストを指定します。このテキストは、グループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)コマンドのグループ・ジョブ選択画面に表示されます。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1:対話式ジョブをグループ・ジョブに変更する

```
CHGGRPA GRPJOB(GROUPJ1) MSGQ(QGPL/GRPMSGQ)
```

対話式ジョブはまずグループ・ジョブに変更され、その後、ワークステーションから他のグループ・ジョブを作成できるようになります。このコマンドは、ワークステーション・ジョブを、GROUPJ1というグループ・ジョブ名をもつグループ・ジョブに変更します。そのグループとメッセージ待ち行列が関連付けられ、そのメッセージ待ち行列が(TFRGRPJOBまたはグループ・ジョブ終了(ENDGRPJOB)コマンドを出すジョブで中断モードまたは通知モードであれば) そのグループ内の活動ジョブに割り振られます。グループ・データ域(*GDA)も作成されます。

例2:グループ・ジョブを非グループ・ジョブに変更する

```
CHGGRPA GRPJOB(*NONE)
```

前の例のジョブがこのコマンドを出すとしてします。また、そのジョブがグループ内の唯一の活動ジョブであるとしてします。グループ・ジョブGROUPJ1は、非グループの対話式ジョブに変更されます。グループ・ジョブ名が除去され、グループ・データ域(*GDA)が削除されます。グループ・ジョブから非グループ・ジョブへの変更が行われるのは、そのジョブがグループ内の唯一の活動ジョブである場合のみです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1305

グループ・ジョブ名の変更は認められていない。

CPF1306

この時点でGRPJOB(*NONE)の指定は認められていない。

CPF1307

グループ・ジョブ&1は、すでにこのグループに属している。

CPF1308

矛盾するパラメーターが見つかった。

CPF1309

サブシステムは&1コマンドを完了することができない。

CPF1312

グループ属性変更要求が正しくない。ジョブがグループ・ジョブではありません。

CPF1313

パラメーター&2の値&1は、使用できない名前である。

CPF1316

グループ・メッセージ待ち行列として&2の&1を使用することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1328

&3の待ち行列&2の使用権限がない。

CPF1329

メッセージ待ち行列&1が&2に見つからない。

CPF1330

&2のメッセージ待ち行列&1を使用することができない。

CPF1331

グループ・メッセージ待ち行列として&2の&1を使用することはできない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

上

HLLポインター変更 (CHGHLLPTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

高水準言語ポインター変更(CHGHLLPTR)コマンドを使用して、高水準言語プログラムの中で宣言されているポインター変数を変更またはコピーすることができます。次の機能を要求することができます。

- HLLポインターの値を他のHLLポインター変数にコピーすること。
- プログラム内の変数を指すようにHLLポインター変数をセットすること。
- HLLポインター変数の値をヌル・ポインターにセットすること。

HLLポインターは、HLLプログラムのソース仕様に宣言されるポインター変数です。これらは、内部コンパイラ作成ポインターと対比されます。コンパイラ作成ポインターは、各種の処理機能をサポートするために、コンパイラによってマシン・インターフェース(MI)プログラムの中で宣言されるポインター変数です。すべての言語でユーザーがHLLポインターを宣言できるわけではありません。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムの変数を変更することはできません。
- ユーザーにサービス(*SERVICE)特殊権限がない場合には、このコマンドを使用して、書き込み保護されているか、あるいはシステム・ドメイン内にある変数を変更することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PTR	変更するポインター	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: プログラム変数	文字値	
	要素 2: 基底ポインター変数	値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値	
REFPTR	コピーするポインター	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: プログラム変数	文字値	
	要素 2: 基底ポインター変数	値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値	
ADR	指すアドレス	単一値: *NULL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム変数	文字値	
	要素 2: 基底ポインター変数	値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値	
PGM	プログラム	名前, *DFTPGM	オプション
RCRLVL	反復レベル	整数, *LAST	オプション

変更するポインター (PTR)

値を変更して別のアドレスを示せるようにしたいポインター（プログラム変数）の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: プログラム変数

文字値 値が変更されるポインター変数の名前を指定してください。ポインター変数は、HLLポインター (HLLPTR)でなければなりません。MI ODV番号は、それによって定義される変数がHLLポインターであっても、ここで変数名として指定することはできません。特殊文字が入っている場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。

変更されるポインターが配列内にある場合には、配列内の変更される要素を表わす添え字を指定しなければなりません。このポインター（プログラム変数）項目には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。テスト中のプログラム変数の変更の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションを参照してください。

要素2: 基底ポインター変数

文字値 基底ポインター変数の名前を指定してください。言語によっては、変更されるポインターがポインター変数に基づいている場合があります。この値の組み合わせを使用することによって、変更されるポインターについて基底ポインターを5つまで明示的に指定することができます。基底ポインターはHLLポインター(HLLPTR)でなければなりません。MI ODV番号は、それによって定義されるポインターがHLLポインターであったとしても、ここでポインター名として指定することはできません。特殊文字を含む基底ポインター名の場合には、各基底ポインター名はアポストロフィで囲まなければなりません。基底ポインターが配列である場合には、配列内の要素を表わす添え字を指定しなければなりません。基底ポインター名には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの中の「CL概念と参照」の「テストとデバッグに使用されるパラメーター値」を参照してください。

コピーするポインター (REFPTR)

変更するポインター (PTR)パラメーターに指定したポインターに値がコピーされるポインター変数を指定します。

要素1: プログラム変数

文字値 指定したポインターに値をコピーしたいポインター変数の名前を指定してください。ポインター変数は、HLLポインター(HLLPTR)でなければなりません。MI ODV番号は、それによって定義される

変数がHLLポインターであったとしても、ここで変数名として指定することはできません。特殊文字が入っている場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。コピーされるポインターが配列内にある場合には、配列内のコピーされる要素を表わす添え字を指定しなければなりません。このポインター変数には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

要素2: 基底ポインター変数

文字値 基底ポインター変数の名前を指定してください。ポインター（プログラム変数）はポインター変数を基礎とすることができます。この値の組み合わせを使用することによって、コピーされるポインターについて基底ポインターを5つまで明示的に指定することができます。基底ポインターは、HLLポインター(HLLPTR)でなければなりません。MI ODV番号は、それによって定義されるポインターがHLLポインターであったとしても、ここでポインター名として指定することはできません。特殊文字を含む基底ポインター名の場合には、各基底ポインター名はアポストロフィで囲まなければなりません。基底ポインターが配列である場合には、配列内の要素を表わす添え字を指定しなければなりません。基底ポインター名には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの中の「CL概念と参照」の「テストとデバッグに使用されるパラメーター値」を参照してください。

上

指すアドレス (ADR)

指定したHLLポインターが示すプログラム変数を指定します（ある場合）。

単一値

*NULL

HLLポインターはヌルにセットされます。すなわち、そのポインターは、もはやどのようなスペース・オブジェクトのアドレスも指し示さず、また、スペース・ポインターも、どのようなタイプのポインター値も含まれていません。

要素1: プログラム変数

文字値 HLLポインターのコピー先とする変数の名前を指定してください。HLL変数名を入力しなければなりません。MI ODV番号を使用することはできません。特殊文字が入っている場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。配列を指定し、添え字を指定しなかった場合には、ポインターは、配列内の最初の要素のアドレスにセットされます。このプログラム変数には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの中の「CL概念と参照」の「テストとデバッグに使用されるパラメーター値」を参照してください。

要素2: 基底ポインター変数

文字値 基底ポインター変数の名前を指定してください。言語によっては、変更されるプログラム変数がポインター変数に基づいている場合があります。この値の組み合わせを使用することによって、アドレス指定される変数について基底ポインターを5つまで明示的に指定することができます。基底ポインターはHLLポインター(HLLPTR)でなければなりません。MI ODV番号は、それによって定義されるポインターがHLLポインターであったとしても、ここでポインター名として指定することはできません。特殊文字を含む基底ポインター名の場合には、各基底ポインター名はアポストロフィで囲まなければなりません。基底ポインターが配列である場合には、配列内の要素を表わす添え字を指定しなければなりません。基底ポインター名には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの中の「CL概念と参照」の「テストとデバッグに使用されるパラメーター値」を参照してください。

上

プログラム (PGM)

値が変更されるポインターの入っているプログラムの名前を指定します。

***DFTPGM**

値を変更したいポインターは、前に省略時のプログラムとして指定されているプログラムの中にあります。

名前 値が変更されるポインターの入っているプログラムの名前を指定してください。この名前は、デバッグ開始(STRDBG)コマンドまたはプログラム追加(ADDPGM)コマンドですでに指定されているものでなければなりません。

上

反復レベル (RCRLVL)

値が変更される変数が、プログラムのどの反復レベルに入っているかを指定します。静的変数に対して行った変更は、すべての反復レベルに対して自動的に作用します。反復レベル1はプログラムの最初の（最も早い）呼び出しであり、反復レベル2はプログラムの2番目の呼び出しです。同様に、スタック内の最後の（最新の）反復レベルまで番号が付けられます。たとえば、プログラムAがプログラムBを呼び出し、プログラムBが再びプログラムAを呼び出すとすれば、プログラムAの新しい反復レベルが形成されます。変更される変数がプログラムAの最初の呼び出しに含まれているのであれば、**反復レベル (RCRLVL)**パラメーターには1の値を指定しなければなりません。高水準言語によっては、再帰的プロシーチャーが使用できるものもあります。この種のプログラムの詳細については、該当の高水準言語の解説書を参照してください。

***LAST**

変更したい変数は、指定したプログラムの最後の（最新の）呼び出しに含まれています。

整数 変更される変数の入っているプログラムの反復レベルを指定してください。

上

例

例1:変数アドレスに対するポインタの設定

```
CHGHLLPTR PTR(STACKPTR) ADR(FIRSTELEM)
```

このコマンドは、変数FIRSTELEMのアドレスに対するポインタSTACKPTRを設定します。

例2:ポインタの値のコピー

```
CHGHLLPTR PTR(NEXT@) REFPTR(CURRENT@)
```

このコマンドは、ポインタCURRENT@の値をポインタNEXT@にコピーします。コピーされる値はヌル・ポインタである場合があります。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ICF装置項目変更 (CHGICFDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能装置項目変更(CHGICFDEVE)コマンドは、指定されたICFファイルのプログラム装置項目の属性を変更します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ICF通信ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ICF通信ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PGMDEV	プログラム装置	文字値	必須, キー, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *SAME, *REQUESTER	オプション, 定位置 3
CMNTYPE	通信タイプ	*ALL, *APPC, *ASYNCR, *BSCCL, *FINANCE, *INTRA, *RETAIL, *SNUF	オプション, 定位置 4
DEV	装置	名前, *SAME, *LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
FMTSLT	様式選択	*SAME, *PGM, *RECID, *RMTFMT	オプション
APPID	適用業務識別コード	名前, *SAME, *DEV, *USER	オプション
BATCH	バッチ活動	*SAME, *NO, *YES	オプション
HOST	ホスト・タイプ	*SAME, *DEV, *CICS, *IMS, *IMSRTR	オプション
ENDSSNHOST	ホストとのセッション終了	*SAME, *RSHUTD, *TERMSELF	オプション
SPCHOSTAPP	特別なホスト適用業務	*SAME, *DEV, *NONE, *FLASH	オプション
INZSELF	実行初期設定	*SAME, *NO, *YES	オプション
HDRPROC	ヘッダー処理	*SAME, *SYS, *USER	オプション
MSGPTC	メッセージ保護	*SAME, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
EMLDEV	エミュレーション装置	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置タイプ	*SAME, 3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	
	要素 2: データ形式	*SAME, *UNFORMAT, *FIELD, *EXTFIELD, *NOFIELD	
CNVTYPE	会話タイプ	*SAME, *SYS, *USER, *SRCPGM	オプション
BLOCK	ブロック化のタイプ	要素リスト	オプション
	要素 1: ブロック化のタイプ	*SAME, *DEVD, *NONE, *ITB, *IRS, *NOSEP, *USER, *SEP	
	要素 2: *SEPの場合のレコード 分離文字	16 進値, X'1E', *SAME	
RCDLEN	レコード長	1-32767, *SAME, *DEVD	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-32767, *SAME, *DEVD	オプション
TRNSPY	透過モード伝送	*SAME, *DEVD, *NO, *YES	オプション
DTACPR	データの圧縮と圧縮解除	*SAME, *DEVD, *NO, *YES	オプション
TRUNC	後書きブランクの切り捨て	*SAME, *DEVD, *NO, *YES	オプション
OVRFLWDTA	オーバーフロー・データ	*SAME, *DISCARD, *RETAIN	オプション
GRPSEP	グループ区切りのタイプ	*SAME, *DEVD, *EOT, *DEV3740, *OFCSYS	オプション
RMTBSCCL	リモートBSCCL	*SAME, *DEVD, *NO, *YES	オプション
INLCNN	初期接続	*SAME, *CTLD, *DIAL, *ANS	オプション

上

ICF通信ファイル (FILE)

変更するICFプログラム装置項目が入っているシステム間通信機能(ICF)ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ICF通信ファイル

名前 ICFファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ICFファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ICFファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

プログラム装置 (PGMDEV)

属性を変更中のICFファイルのプログラム装置項目名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 属性を変更するICFファイルのプログラム装置項目の名前を指定してください。プログラム装置項目は、指定されたICFファイルに存在しなければなりません。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

プログラムが通信するリモート・ロケーション名を指定します。

*SAME

リモート・ロケーション名は変更されません。

通信名 プログラムの通信先のリモート・ロケーションの名前を指定してください。プログラムを実行中の場合には、ある一時点に、各非同期(ASYNC)、2進データ同期通信同等リンク(BSCEL)、またはシステム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)リモート・ロケーションと対応する1つのプログラム装置名しか、ファイルを獲得することはできません。

*REQUESTER

プログラムを開始する通信装置を参照するために使用される名前が使用されます。ターゲット・プログラムは常に、ソース・プログラムがEVOKE要求を送信するために使用するセッションと接続するために、ICFファイルのリモート・ロケーション名として*REQUESTERを使用します。

*REQUESTERは、1つのプログラム装置項目にしか指定することはできません。

*REQUESTERを使用できるのは、ターゲット・システム通信ジョブの場合だけです。その他のジョブのタイプで指定した場合には、プログラム装置がアクセスされる時にエスケープ・メッセージが送られます。

上

通信タイプ (CMNTYPE)

プロンプトに現れる通信タイプを指定します。

***ALL** すべてのパラメーターがプロンプトに現れます。

*APPC

拡張プログラム間通信(APPC)パラメーターだけがプログラムに現れます。

*ASYNC

非同期通信(ASYNC)パラメーターだけがプロンプトに現れます。

*BSCEL

2進データ同期通信同等リンク(BSCEL)パラメーターだけがプロンプトに現れます。

*FINANCE

FINANCEパラメーターだけがプロンプトに現れます。

*INTRA

INTRAパラメーターだけがプロンプトに現れます。

*RETAIL

RETAILパラメーターだけがプロンプトに現れます。

*SNUF

システム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)パラメーターしかプロンプトに現れません。

上

装置 (DEV)

使用される通信装置を指定します。DEVパラメーターが適用されるのは、拡張プログラム間通信機能 (APPC)およびシステム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF) 通信に対してだけです。

*SAME

この装置名は変更されません。

*LOC リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。 リモート・ロケーションの装置名が正しくない場合には、プログラム装置の獲得時にエスケープ・メッセージが送られます。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

*SAME

ローカル・ロケーション名は変更されません。

*LOC ローカル・ロケーション名はリモート・ロケーション名と同じです。

*NETATR

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

通信名 プログラム装置と関連したローカル・ロケーション名を指定してください。ローカル・ロケーション名が指定されるのは、リモート・ロケーションに別の特定のローカル・ロケーション名を指示したい場合だけです。ローカル・ロケーション名が正しくない場合には、プログラム装置の獲得時にエスケープ・メッセージが送られます。

上

モード (MODE)

使用するモード名を指定します。このパラメーターが適用されるのは、APPC通信に対してだけです。

*SAME

モード名は変更されません。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

通信名 APPC通信装置のモード名を指定してください。モードがリモート・ロケーション装置、ローカル・ロケーション、およびリモート・ネットワークIDのどのような組み合わせにも有効でない場合には、プログラム装置を獲得する時点でエスケープ・メッセージが送信されます。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークIDを指定します。このパラメーターが適用されるのは、APPC通信に対してだけです。

*SAME

リモート・ネットワークIDは変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションの任意のリモート・ネットワークIDを使用することができます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

通信名 リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

様式選択 (FMSTLT)

すべての装置の入力操作に使用されるレコード様式選択のタイプを指定します。

*SAME

レコード様式選択値は変更されません。

***PGM** プログラムはレコード様式の選択項目を判別します。レコード様式名のある入力（読み取り）操作が指定された場合には、その様式が常に選択されます。入力操作にレコード様式名が指定されていない場合には、省略時の様式（ファイルの最初のレコード様式）が常に選択されます。

***RECID**

レコードの選択には、ファイルのDDSで指定されたRECIDキーワードが使用されます。ファイルにRECIDキーワードがない場合には、エラー・メッセージが送られて、プログラム装置の獲得操作は終了し、装置は獲得されません。

***RMTFMT**

レコード選択を行うために、送信元システムから受け取ったリモート様式名が使用されます。装置がAPPC装置でなく、かつ*RMTFMTが指定されている場合には、プログラム装置を獲得する時点で実行時エラーが起きます。

上

適用業務識別コード (APPID)

サインオン・メッセージと一緒に送信される顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)または情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)ホスト・サブシステムの仮想記憶通信アクセス方式(VTAM) ID (文字で) を指定します。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信に対してだけです。

*SAME

アプリケーションIDは変更されません。

***DEV**

装置記述に指定されたアプリケーションIDが使用されます。

***USER**

アプリケーション・プログラムは、ホストにメッセージまたはログオンを送ることができます。これは、3270プログラム・インターフェースの使用時にだけ有効です。

名前 アプリケーションIDを指定します。指定されたアプリケーションIDは、サインオン・メッセージと一緒に送信されます。

上

バッチ活動 (BATCH)

顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)および情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)の場合には、バッチ・ジョブでこのセッションを使用するかどうかを指定します。このパラメーターは、SNUF, INTRA,およびRETAIL通信に適用されます。

*SAME

値は変更されません。

***NO** バッチ・ジョブは使用されません。

***YES** バッチ・ジョブが発生し、SNUFは物理レコードを論理レコードに組み立てません。*YESが指定されている場合には、**メッセージ保護 (MSGPTC)**パラメーターに*NOを指定しなければなりません。

上

ホスト・タイプ (HOST)

このセッションが通信するホストまたはリモート・サブシステムを指定します。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信に対してだけです。

*SAME

値は変更されません。

***DEV**

装置記述に指定されたホスト・システムが使用されます。

***CICS** このセッションは、顧客情報管理システム／仮想記憶と通信します。

***IMS** このセッションは、IMS/VS (情報管理システム) と通信します。

***IMSRTR**

セッションは、受信可能オプションを使用してIMS/VSと通信します。

ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)

システム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)が、ホストとのセッションを終了する方法を指定します。

*SAME

ホストとのセッション終了の値は変更されません。

***RSHUTD**

SNUFがオフへの切り替え要求コマンドをホストに送信します。

***TERMSELF**

SNUFがセッション終了コマンドをホストに送信します。値*RSHUTDが弊社以外のホストとのセッションを正常に終了しなかった場合には、この値を使用する必要がある場合があります。

上

特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)

SNUFがCICSまたはIMSアプリケーション層の外側の特殊なホスト・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズするかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***DEV D**

装置記述で指定された特殊なホスト・アプリケーションが使用されます。

***NONE**

SNUFは、特殊なホスト・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしていません。

***FLASH**

SNUFは、連邦準備フラッシュ・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしています。

上

実行初期設定 (INZSELF)

SNUFがホストに正常に送った不定様式サインオンの代わりに定様式INIT-SELFを組み込むかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** SNUFによって指定された不定様式の省略時のサインオンが使用されます。

***YES** SNUFによって指定された定様式INIT-SELFが使用されます。

上

ヘッダー処理 (HDRPROC)

顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)および情報管理システム／仮想記憶 (IMS/VS)の両方の場合には、受け取った機能管理ヘッダーをアプリケーション・プログラムに渡すかどうかを指定します。このパラメーターはSNUF通信タイプにだけ適用されます。

*SAME

値は変更されません。

***SYS** SNUFはデータをプログラムに渡す前に機能管理ヘッダーを除去します。

***USER**

機能管理ヘッダーがプログラムに渡されます。

上

メッセージ保護 (MSGPTC)

顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)および情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)の両方の場合には、このセッションでメッセージ保護を使用するかどうかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信に対してだけです。

*SAME

値は変更されません。

YES** メッセージ保護が使用されます。 SNUFは、ユーザーがメッセージに応答するまでメッセージを保管し、さらにエラーが起こった場合には、再び同期化を試みます。YES**が有効なのは、**バッチ活動 (BATCH)**パラメーターに***NO**が指定されている場合だけです。

***NO** メッセージ保護を使用しません。

上

エミュレーション装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値(要素)のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

単一値

***NONE**

このプログラム装置項目は、3270データ・ストリームの送信および受信には使用されません。

要素1: 装置タイプ

*SAME

エミュレーション装置は変更されません。

***NONE**

- 3278** データ・ストリームは3278または3277表示装置用です。
- 3284** データ・ストリームは3284印刷装置用です。
- 3286** データ・ストリームは3286印刷装置用です。
- 3287** データ・ストリームは3287印刷装置用です。
- 3288** データ・ストリームは3288印刷装置用です。
- 3289** データ・ストリームは3289印刷装置用です。

要素2: データ形式

*SAME

エミュレーション装置データ形式は変更されません。

***UNFORMAT**

不定様式の3270データ・ストリームが送信または受信されます。ユーザーのアプリケーション・プログラムは、データ・ストリームを画面イメージまたは印刷装置イメージに変換しなければなりません。

***FIELD**

定様式3270データ・ストリームが送信または受信されます。定様式の3270データ・ストリームには、フィールド定義を含む画面イメージまたは印刷装置イメージが入っています。フィールド定義は、フィールドのロケーションおよび特性を示します。***FIELD**が有効なのは、**バッチ活動 (BATCH)**パラメーターに***NO**が指定されている場合だけです。

***NOFIELD**

定様式3270データ・ストリームが送信または受信されます。定様式3270データ・ストリームには、フィールド定義のない表示画面イメージまたは印刷装置イメージが入っています。***NOFIELD**が有効なのは、**BATCH**パラメーターに***NO**が指定されている場合だけです。

***EXTFIELD**

定様式3270データ・ストリームが送信または受信されます。定様式3270データ・ストリームには、フィールド定義が後に続く表示画面イメージまたは印刷装置イメージが入っています。フィールド定義は、フィールドのロケーションおよび特性を示します。***EXTFIELD**が有効なのは、**BBATCH**パラメーターに***NO**が指定され、このパラメーターで装置タイプに3278が指定されている場合だけです。

上

会話タイプ (CNVTYPE)

アプリケーション・プログラムを設計するための会話タイプを指定します。このパラメーターは、拡張プログラム間通信(APPC)通信でのみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

- *SYS** APPC装置プロトコル中でユーザー・データの各セクションの前につく長さおよび一般データ・ストリームIDの値をシステムが与えます。LU 6.2アーキテクチャーの場合には、これはマップ式会話サポートです。

*USER

APPC装置プロトコル中でユーザー・データの各セクションの前につく長さおよび一般データ・ストリームIDの値をアプリケーション・プログラムが与えます。LU 6.2アーキテクチャーの場合には、これは基本会話サポートです。

*SRCPGM

ターゲット・プログラムはソース・プログラムで指定された会話タイプを受け入れます。

上

ブロック化のタイプ (BLOCK)

送信時にレコードをブロックに結合する方法はシステムまたはユーザーのいずれが制御するかを指定します。このパラメーターはBSCCEL通信だけに使用されます。このパラメーターを使用して、次のレコード様式条件のいずれかを指定することができます。

- ブロック化または非ブロック化なし
- ユーザーによるブロック化または非ブロック化
- システムがレコード分離文字を使ってブロック化を行う
- システムが固定長レコードのブロック化を行う

*NONEまたは*USER以外のパラメーター値を指定した場合には、レコードは必要に応じてシステムにより出力でブロック化され、入力時に非ブロック化されます。

要素1: ブロック化のタイプ

*SAME

値は変更されません。

*DEV D

装置記述に指定されているブロック・オプションが使用されます。

*NONE

システムによるブロック化または非ブロック化は行われません。

*ITB レコードは、中間テキスト・ブロック(ITB)制御文字の位置に基づいて、ブロック化または非ブロック化されます。

*IRS レコードは、レコード間分離文字(IRS)の位置に基づいて、ブロック化または非ブロック化されます。入力ファイルの場合には、レコードは次のIRS文字を見つけることによって区切られます。出力ファイルの場合には、レコードの後にIRS文字が追加されます。

*NOSEP

装置に送信または装置から受信する伝送ブロックにはレコード分離文字が含まれません。システムは、DDS様式仕様の指定に従って、固定長レコードを使用してレコードのブロック化または非ブロック化を行います。

*USER

プログラムが、レコード分離文字、BSCCELフレーム指示文字、透過伝送文字、およびその他のレコードの送信に必要なすべての制御文字を与えます。

*SEP レコードは、ユーザーによって指定されるレコード分離文字の位置によって、ブロック化または非

ブロック化されます。入力ファイルの場合には、レコードは次のレコード分離文字を見つけることによって区切られます。出力ファイルの場合には、レコードの後にレコード分離文字が追加されます。

要素2: *SEPの場合のレコード分離文字

X'1E' レコード分離文字は16進数の1Eです。

***SAME**

値は変更されません。

16進値 固有の1バイトのレコード分離文字を指定してください。レコード分離文字は、BLOCK(*SEP FD)のように2つの16進文字として指定できます。X'FD'は分離文字です。

注: レコード分離文字として使用できないBSC制御文字の詳細については、ADDICFDEVEコマンドの説明の中の表を参照してください。

上

レコード長 (RCDLEN)

送受信されるデータの最大レコード長を (バイト数で) 指定します。このパラメーターが適用されるのは、SNUFおよびBSCCEL通信に対してだけです。

***SAME**

値は変更されません。

***DEVD**

装置記述に指定されたレコード長が使用されます。指定されたレコード長よりレコードが長い場合には、レコードの送受信時に実行時エラーが発生します。

1から32767

この装置ファイルが使用される時に使用可能な最大レコード長を指定してください。指定されたレコード長よりレコードが長い場合には、レコードの送受信時に実行時エラーが起こります。SNUF通信の場合の有効な値の範囲は1から32767バイトです。BSCCEL通信の場合には、最大レコード長は8192バイトです。

上

ブロックの長さ (BLKLEN)

送信されるデータの最大ブロック長 (バイト数) を指定します。このパラメーターが適用されるのは、BSCCELおよびSNUF通信に対してだけです。

***SAME**

ブロックの長さは変更されません。

***DEVD**

装置記述に指定されたブロック長が使用されます。

1から32767

この装置ファイルが使用される時に送信されるレコードの最大ブロック長を指定します。この値は、少なくとも送信される最大レコード・サイズでなければなりません。SNUF通信の有効な値は1から32767バイトの範囲です。BSCCEL通信の場合には、最大ブロック長は8192バイトです。

透過モード伝送 (TRNSPY)

データを透過テキスト・モードで送信するかどうかを指定します。透過テキスト・モードでは、256個の拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードをすべて送信することができます。パックまたは2進データ・フィールドを送信するためには、この機能を使用してください。このパラメーターは、BSCSEL通信に限り適用されます。

*SAME

値は変更されません。

*DEV D

装置記述に指定されたテキスト透過伝送オプションが使用されます。

***NO** テキスト透過伝送を使用しません。

***YES** テキスト透過伝送を使用し、256のEBCDIC文字コードすべての送信が可能となります。*YESが有効なのは、**ブロック化のタイプ (BLOCK)**パラメーターに*NONE, *NOSEP,または*USERが指定されている場合だけです。

注: 受信データの透過伝送はデータ・ストリームによって決められます。したがって、このパラメーターは受信データの場合には適用されません。BLOCK(*USER)と一緒にTRNSPY(*YES)が指定されている場合には、BSCSEL通信タイプは書き込み操作中は透過伝送標識を無視します。データの透過伝送を行うためには、データに正しい制御を指定しなければなりません。例えば、最初にデータ・リンク・エスケープ(DLE)およびテキスト開始(STX)制御文字を指定しなければなりません。データの透過伝送に必要な残りの制御文字はシステムが提供します。

データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)

データ圧縮を実行するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*DEV D

装置記述に指定されているデータ圧縮オプションが使用されます。

***NO** データの圧縮または圧縮解除は行われません。

***YES** データは出力の場合には圧縮され、入力の場合には圧縮解除されます。

後書きブランクの切り捨て (TRUNC)

後書きブランクを出力レコードから除去するかどうかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、BSCSEL通信に対してだけです。

*SAME

値は変更されません。

***DEV**

装置記述に指定されている後書きブランクが使用されます。

***NO** 後書きブランクは出力レコードから除去されません。

***YES** 後書きブランクは出力レコードから除去されます。

注: BLOCK(*NOSEP)またはBLOCK(*ITB)が指定されている場合には、TRUNC(*YES)を指定することはできません。DTACPR(*YES)またはBLOCK(*USER)が指定されている時にTRUNC(*YES)を指定した場合には、切り捨ては無視されます。

上

オーバーフロー・データ (OVRFLWDTA)

オーバーフロー・データを破棄するかまたは保存するかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***DISCARD**

オーバーフロー・データは保管されません。

***RETAIN**

オーバーフロー・データは保管されます。

上

グループ区切りのタイプ (GRPSEP)

データ・グループ (例えば、データ・セットおよび文書) の区切り記号を指定します。このパラメーターが適用されるのは、BSCSEL通信に対してだけです。

***SAME**

値は変更されません。

***DEV**

装置記述に指定されているグループ区切り文字オプションが使用されます。

***DEV3740**

ヌル・レコード(STXETX)がデータ・グループ区切り記号として使用されます。

***EOT** データ・グループ区切り記号として使用されるBSCSEL伝送終結(EOT)制御文字で終るブロックが送信されます。

***OFCSYS**

データ・グループ区切り記号として使用されるBSCSEL情報終結(ETX)制御文字で終了するブロックが送信されます。

上

リモートBSCSEL (RMTBSCSEL)

リモート・システムとのBSCSELセッションのタイプを指定します。このパラメーターが適用されるのは、BSCSEL通信に対してだけです。

***SAME**

値は変更されません。

***DEV D**

装置記述に指定されているRMTBSCCELオプションが使用されます。

NO** リモート・システムは、BSCCELコマンドまたはメッセージを認識することができません。ほとんどの場合には、3741データ入力端末、オフィス・システム6、5230データ収集システム、またはシステム/38などのリモート・システムと通信する場合にNO**が使用されます。

YES** リモート・システムは、BSCCELトランザクション開始コマンド、トランザクション終了コマンド、およびオンライン・メッセージを認識します。ほとんどの場合、YES**は、リモート・システムが別のSystem i5か、またはBSCCELサポートのあるシステム/38、システム/36、あるいはシステム/34であることを示しています。

上

初期接続 (INLCNN)

アクセス中のセッション用に回線で接続するための方式を指定します。このパラメーターが適用されるのは、2進データ同期通信同等リンク(BSCCEL)通信の場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***CTLD**

制御装置記述に指定された初期接続オプションが使用されます。

***ANS** リモート・システムが呼び出しを開始し、ローカル・システムが呼び出しに応答します。

***DIAL** ローカル・システムが呼び出しを開始します。

上

例

例1: レコード様式選択の変更

```
CHGICFDEVE FILE(ICFTEST) PGMDEV(BSCCEL2)
            RMTLOCNAME(BSCNYC) FMTSLT(*RECID)
```

このコマンドは、ICFファイルICFTESTのBSCCEL2という名前のプログラム装置項目を変更します。このプログラム装置はFMTSLT(*RECID)の属性に変更されます。リモート・ロケーション名はBSCNYCに変更されます。

例2: 会話タイプの変更

```
CHGICFDEVE FILE(QGPL/ICF1) PGMDEV(APPC1)
            RMTLOCNAME(*REQUESTER)
            FMTSLT(*RMTFMT) CNVTYPE(*SYS)
```

このコマンドは、ICFファイルICF1のAPPC1という名前のプログラム装置項目を、リモート・ロケーション名*REQUESTERを持つように変更します。このプログラム装置項目は、FMTSLT(*RMTFMT)およびCNVTYPE(*SYS)属性に変更されます。

例3: 通信装置の変更


```
CHGICFDEVE FILE(ICFLIB/ICFAPPL1) PGMDEV(APPC)
RMTLOCNAME(APPCMPLS) DEV(MPLSLINE2)
```

このコマンドは、ファイルICFAPPL1のAPPCという名前のプログラム装置項目を変更します。リモート・ロケーション名はAPPCMPLSに変更され、装置はMPLSLINE2に変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7367

&2のファイル&1の装置は変更されなかった。

上

ICFファイル変更 (CHGICFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能ファイル変更(CHGICFF)コマンドは、ICFファイルの属性を変更します。

このコマンドに指定された情報しか変更することはできません。ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)を変更する場合には、ファイルで行う変更のためにICFファイルを再作成しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ICF通信ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ICF通信ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACQPGMDEV	獲得するプログラム装置	文字値, *SAME, *NONE	オプション
MAXPGMDEV	プログラム装置の最大数	1-256, *SAME	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
MAXRCLEN	最大レコード長	1-32767, *SAME, *CALC	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	1-32767, *SAME, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	1-32767, *SAME, *NOMAX, *IMMED	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

ICF通信ファイル (FILE)

変更するシステム間通信機能(ICF)ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ICF通信ファイル

名前 ICFファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ICFファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ICFファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

獲得するプログラム装置 (ACQPGMDEV)

ファイルのオープン時に獲得されるプログラム装置を指定します。

***SAME**

獲得されるプログラム装置の名前は変更されません。

***NONE**

プログラム装置が獲得されずにファイルがオープンされます。このファイルで使用されるすべてのプログラム装置は、これらを使用して入出力操作を開始する前に明示的に獲得しなければなりません。

文字値 ファイルのオープン時に獲得される最初のプログラム装置の名前を指定してください。

上

プログラム装置の最大数 (MAXPGMDEV)

システム間通信機能(ICF)ファイルに追加できるプログラム装置項目の最大数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

1から256

プログラム装置項目の最大数を指定してください。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによってファイルがオープンされた時に、この装置ファイルのレコード様式のレベル識別名を検査するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ファイルのオープン時にレコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて同じでないか、あるいはプログラムに指定されていない場合には、ファイルをオープンしようとしたプログラムに対してオープン・エラー・メッセージが送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレコード様式のレベルIDの検査は行われません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません (テキストがある場合)。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

最大レコード長 (MAXRCLEN)

ファイルのオープン時に使用する最大レコード長を指定します。

*SAME

最大レコード長は変更されません。

***CALC**

ファイル中の最大のレコードについて計算した長さが、ファイルのオープン時に使用されます。

1から32767

最大レコード長を指定してください。レコード長がファイルの最大レコード長用に計算された長さより小さい場合には、計算された値が使用されます。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にプログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*SAME

待機時間は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれからも指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

*SAME

待機レコード値は変更されません。

*NOMAX

プログラムが「送信勧誘された装置からの読み取り」操作の完了を待つ時間に限界はありません。

*IMMED

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

1から32767

プログラムが「送信勧誘された装置からの読み取り」操作の完了を待機する秒数を指定してください。

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないため、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起こります。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

単一値

*SAME

データ待ち行列名は変更されません。

*NONE

データ待ち行列は指定されません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データ待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

*SAME

ファイルに指定された値は変更されません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

例

```
CHGICFF FILE(ICFHIST) MAXPGMDEV(10)
```

このコマンドは、ICFファイルICFHISTに追加できるプログラム装置の最大数を変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

上

イメージ・カタログの変更 (CHGIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ変更(CHGIMGCLG)コマンドは、ライブラリーQUSRSYSのイメージ・カタログ・オブジェクト(*IMGCLG)の属性を変更するために使用します。

制約事項:

- イメージ・カタログを変更するには、次の権限が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - イメージ・カタログに対する変更(*CHANGE)権限。
 - イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
- ディレクトリー(DIR)パラメーターが指定された場合には、さらに次の権限が必要です。
 - DIRパラメーターに指定された各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 - イメージ・カタログに項目がある、指定されたディレクトリー内の各イメージ・ファイルに対する読み取り(*R)権限およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限。
- IMPORT(*YES)が指定された場合には、ディレクトリー(DIR)パラメーターで指定されたディレクトリー内のイメージ・カタログ・オブジェクトに対する読み取り(*R)およびオブジェクト管理 (*OBJMGT)権限が必要になります。
- ディレクトリーと関連付けることができるイメージ・カタログは1つだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, キー, 定位置 1
WRTPTC	書き込み保護	*SAME, *ALL, *NONE	オプション
DIR	ディレクトリー	パス名, *SAME	オプション
IMPORT	イメージカタログのインポート	*NO, *YES	オプション
CLGASPTHLD	カタログASPしきい値	1-99, *SAME, *CALC, *MAX	オプション
ALCSTG	記憶域サイズの割り振り	*SAME, *IMGSIZ, *MIN	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

イメージ・カタログ (IMGCLG)

変更するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

上

書き込み保護 (WRTPTC)

強制的にすべてのカタログ項目を書き込み保護するか、あるいはすべての項目を保護しないかを指定します。IMGCLGパラメーターに指定したイメージ・カタログは作動可能な状況であってはけません。

*SAME

書き込み保護の値は変更されません。

***ALL** すべてのイメージに対して書き込み保護値がオンに設定されます。

***NONE**

すべてのイメージに対して書き込み保護値がオフに設定されます。

上

ディレクトリー (DIR)

このイメージ・カタログと関連したディレクトリーを指定します。

*SAME

ディレクトリーは変更されません。

パス名 このイメージ・カタログと関連したディレクトリーのパス名を指定します。

上

イメージカタログのインポート (IMPORT)

ディレクトリー (DIR)パラメーターに指定されたパスのイメージ・カタログからデータをインポートして、カタログを変更するかどうかを指定します。

***NO** データをインポートしてカタログを変更することはしません。

***YES** ディレクトリー(DIR)パラメーターで指定されたディレクトリーにあるイメージ・カタログ・オブジェクト(QIMGCLG)からデータをインポートして、イメージ・カタログを変更します。

注: イメージ・カタログの変更(CHGIMGCLG)コマンドに指定されたイメージ・カタログ(IMGCLG),ディレクトリー(DIR),およびテキスト記述(TEXT)パラメーターがこのイメージ・カタログ用に使用されます。その他の値はすべて、イメージ・カタログ・オブジェクトQIMGCLGからインポートされます。

上

カタログASPしきい値 (CLGASPTHLD)

このイメージ・カタログの補助記憶域プール(ASP)しきい値を指定します。

*SAME

ASPしきい値は変更されません。

*CALC

最大記憶域のしきい値が計算されます。 イメージ・カタログ仮想ボリュームによって使用されるASPスペースは、ASPの残りスペースの95%または5GBより大きくなります。 仮想ボリュームの最大記憶域のしきい値に達すると、テープ操作が停止し、媒体の終わりエラーとなります。 ALCSTG(*IMGSIZ)が指定されると、仮想ボリュームの追加でもこの制限が調べられます。

*MAX イメージ・カタログ・ディレクトリーが存在するASPで使用可能な最大記憶域が仮想ボリュームによって使用されます。

1から99

仮想ボリュームによって使用されるイメージ・カタログ・ディレクトリーのASPスペースのパーセントを指定してください。

上

記憶域サイズの割り振り (ALCSTG)

テープ・イメージ・カタログの場合に、イメージ・ファイルの記憶域割り振りを変更するかどうかを指定します。

*SAME

テープ・イメージ・カタログに関連したイメージ・ファイルの記憶域割り振りは変更されません。

*MIN テープ・イメージ・カタログに関連したイメージ・ファイルの記憶域割り振りは、イメージ・ファイルのデータを収めるのに必要なサイズに変更されます。

*IMGSIZ

テープ・イメージ・カタログに関連したイメージ・ファイルの記憶域割り振りは、イメージ・ファイルのサイズと一致するように変更されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

イメージ・カタログを簡単に記述するテキストを指定します。

*SAME

テキスト記述は変更されません。

*BLANK

テキスト記述はブランクとなります。

文字値 このイメージ・カタログの最大50文字までのテキストを指定します。

上

例

例1:イメージ・カタログと関連したテキストを変更

```
CHGIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) TEXT('NEW TEXT')
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**と関連したテキストを変更します。

例2:イメージ・カタログと関連したディレクトリーを変更

```
CHGIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) DIR('/MYDIR2')
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**と関連したディレクトリーを**/MYDIR2**に変更します。

例3:イメージ・カタログ・ディレクトリーからのインポートによるイメージ・カタログの変更

```
CHGIMGCLG  IMGCLG(MYCLG) DIR('/MyDir') IMPORT(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリー**QUSRSYS**内のイメージ・カタログ**MYCLG**を変更し、カタログおよび項目情報をディレクトリー**/MyDir**内のイメージ・カタログ・オブジェクトから更新します。

例4:テープ・イメージ・カタログ内のすべてのイメージ・ファイルの割り振りサイズの変更

```
CHGIMGCLG  IMGCLG(TAPECLG) ALCSTG(*MIN)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**TAPECLG**と関連した各イメージ・ファイルのサイズを、データを収めるのに必要な割り振りサイズに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC08

イメージ・カタログ&1が変更されなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

イメージ・カタログ項目の変更 (CHGIMGCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ項目変更(CHGIMGCLGE)コマンドは、イメージ・カタログ項目の属性を変更するために使用します。

制約事項:

- イメージ・カタログ項目を変更するには、次の権限が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - イメージ・カタログに対する変更(*CHANGE)権限。
 - イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 - 仮想装置記述に対する*USE権限。
- 次のパラメーターは、テープ・イメージ・カタログの場合にのみサポートされます。
 - イメージ・サイズ(IMGSIJZ)
 - 割り振り記憶域サイズ(ALCSTG)

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, キー, 定位置 1
IMGCLGIDX	イメージ・カタログ索引	1-256, *VOL	必須, キー, 定位置 2
VOL	イメージ・カタログ・ボリューム	文字値	オプション, キー, 定位置 3
NEWCLGIDX	新規カタログ索引	1-256, *SAME	オプション
WRTPTC	書き込み保護	*SAME, *YES, *NO	オプション
IMGSIJZ	イメージ・サイズ	48-1000000, *SAME	オプション
ALCSTG	記憶域サイズの割り振り	*SAME, *MIN, *IMGSIJZ	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME	オプション

上

イメージ・カタログ (IMGCLG)

変更するイメージを含むイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

上

イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)

変更するイメージ・カタログ項目の索引番号を指定します。

これは必須パラメーターです。

***VOL** ボリューム名を指定して項目を変更します。

1から256

使用したいイメージ・カタログ索引番号を指定します。

上

イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)

変更する項目のボリューム名を指定します。

名前 変更する項目のボリューム名を指定します。光ディスク・イメージ・カタログの場合、指定されたボリュームと一致する最初のボリュームが変更されます。

上

新規カタログ索引 (NEWCLGIDX)

イメージ・カタログ項目に使用する新しい索引番号を指定します。現在、指定された索引の場所に項目が存在する場合には、新規の項目が挿入されて、指定された索引番号とその後のすべての項目が1だけ増分されます。

***SAME**

索引番号は変更されません。

1から256

使用したいイメージ・カタログ索引番号を指定します。

上

書き込み保護 (WRTPTC)

このカタログ項目を書き込み保護する必要があるかどうかを指定します。このカタログ項目を書き込み保護すると、これに対する書き込み操作は許可されなくなります。このパラメーターは、参照または従属イメージ・カタログでは使用できません。

***SAME**

書き込み保護の値は変更されません。

***YES** このカタログ項目が書き込み保護されることを指定します。これは、この項目に対する書き込み操作を防止します。

***NO** このカタログ項目が書き込み保護されないことを指定します。これによって、このカタログ項目に対する書き込み操作が可能になります。

イメージ・サイズ (IMGSIZ)

このテープ・イメージ・ファイルで使用できる最大サイズを指定します。

指定されたイメージ・サイズが現行ファイル・サイズより大きい場合には、新規の最大サイズが設定されて、ファイル・サイズが増やされます。

指定されたサイズが現行の最大イメージ・サイズより小さく、イメージ・ファイルに保管されるデータが指定された値より小さい場合には、そのファイルは指定されたサイズに減らされます。そうでない場合には、コマンドは失敗します。

このパラメーターを使用できるのは、テープ・イメージ・カタログの場合だけです。

このパラメーターは、参照または従属イメージ・カタログでは使用できません。

*SAME

このイメージ・ファイルの最大サイズは変更されません。

48から1000000

このテープ・イメージ・ファイルで使用できるメガバイトの最大数を指定します。

記憶域サイズの割り振り (ALCSTG)

テープ・イメージ・ファイルの場合に、イメージ・サイズ(IMGSIZ)パラメーターに指定された記憶域全体の容量を割り振るかどうかを指定します。

このパラメーターを使用できるのは、テープ・イメージ・カタログの場合だけです。

このパラメーターは、参照または従属イメージ・カタログでは使用できません。

*SAME

イメージ・ファイルの記憶域割り振りは変更されません。

***MIN** 既存のイメージ・ファイル・データを入れるのに必要な記憶域を満たすように、記憶域割り振りが変更されます。

***IMGSIZ**

記憶域割り振りは、このイメージ・ファイルの記憶域全体の容量となります。これは、ADDIMGCLGEコマンドのイメージ・サイズ (IMGSIZ)パラメーターに指定された値です。

テキスト'記述' (TEXT)

変更しているイメージ・カタログ項目を簡単に記述するテキストを指定します。

*SAME

テキスト記述は変更されません。

文字値 このイメージ・カタログ項目の最大50文字までのテキストを指定します。

上

例

例1:カタログ索引番号を変更

```
CHGIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(5)  NEWCLGIDX(2)
```

このコマンドは、選択したイメージ・カタログ項目と関連した索引番号を**5**から**2**に変更します。

例2:カタログ項目テキストを変更

```
CHGIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(5)  TEXT('MYTEXT')
```

このコマンドは、イメージ・カタログ項目**5**と関連したテキストを**MYTEXT**に変更します。

例3: カタログ項目書き込み保護の変更

```
CHGIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(5)  WRTPTC(*YES)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ項目**5**と関連したイメージ・ファイルを書き込み保護します。

例4:テープ・イメージ・ファイルの最大サイズの変更

```
CHGIMGCLGE  IMGCLG(TAPECLG)  IMGCLGIDX(*VOL)  VOL(VOL002)
              IMGSIZ(10000)  ALCSTG(*IMGSIZ)
```

このコマンドは、イメージ・ファイル**VOL002**の最大許容サイズを10000メガバイトに変更し、10000メガバイトの記憶域を割り振ります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC0B

イメージ・カタログ&1のカタログ項目&2が変更されていません。

CPFBC0C

イメージ・カタログ&1のカタログ項目&2が変更されていません。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

IPL属性の変更 (CHGIPLA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPL属性の変更 (CHGIPLA)コマンドによって、初期プログラム・ロード(IPL)時に使用される属性の設定値を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、機密保護管理者(*SECADM)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がユーザーに必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RESTART	再始動タイプ	*SAME, *SYS, *FULL	オプション
KEYLCKPOS	キーロック位置	*SAME, *NORMAL, *AUTO, *SECURE	オプション
HDWDIAG	ハードウェア診断	*SAME, *MIN, *ALL	オプション
CPRJOBTL	ジョブ・テーブルの圧縮	*SAME, *NONE, *NEXT, *NORMAL, *ABNORMAL, *ALL	オプション
CHKJOBTL	ジョブ・テーブルの検査	*SAME, *ABNORMAL, *ALL, *SYNC	オプション
RBDPRDDIR	プロダクト・ディレクトリーの再作成	*SAME, *NONE, *NORMAL, *ABNORMAL, *ALL	オプション
MSFRCY	メール・サーバー・フレームワーク回復	*SAME, *NONE, *ABNORMAL	オプション
DSPSTS	状況の表示	*SAME, *SYS, *NONE, *ATTEND, *ABNORMAL, *ALL	オプション
STRTCP	TCP/IPの開始	*SAME, *YES, *NO	オプション
SPLFRCY	スプール・ファイル回復	*SAME, *DETACH, *REMOVE	オプション
CLRJOBQ	ジョブ待ち行列の消去	*SAME, *YES, *NO	オプション
CLROUTQ	出力待ち行列の消去	*SAME, *YES, *NO	オプション
CLRINCJOB	不完全なジョブ・ログの消去	*SAME, *YES, *NO	オプション
STRPRTWR	印刷装置書出プログラム開始	*SAME, *YES, *NO	オプション
STRSTD	制限状態へ開始	*SAME, *YES, *NO	オプション

上

再始動タイプ (RESTART)

システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドにRESTART(*YES)またはRESTART((*YES *IPLA))が指定された場合に、初期プログラム・ロード(IPL)を再始動する点を指定します。 *FULLよりも*SYSを指定した方が、システムの再始動に必要な時間を短くすることができます。このパラメーターの初期値 (出荷時の値) は*SYSです。

*SAME

値は変更されません。

***SYS** オペレーティング・システムが再始動されます。 ハードウェアは、ハードウェアの再始動に必要なPTFを適用した場合にのみ再始動されます。

***FULL**

ハードウェアを含めて、システムのすべての部分が再始動されます。

上

キーロック位置 (KEYLCKPOS)

キーロック位置を指定します。この属性に対する変更は、即時に有効になります。キーロック位置が変更される場合には、次の制約事項が適用されます。

- キーロック位置を機密保護上の理由から「手動」に設定することはできません。
- キーロック位置が現在「保護」になっている場合には、キーロック位置を変更することはできません。
- システムにキーロックが備わり、キーが挿入されていない場合には、キーロック位置を変更することはできません。

*SAME

値は変更されません。

***NORMAL**

キーロック位置は「通常」に変更されます。

***AUTO**

キーロック位置は「自動」に変更されます。

***SECURE**

キーロック位置は「保護」に変更されます。

上

ハードウェア診断 (HDWDIAG)

IPL時に一定のハードウェア診断を実行するかどうかを指定します。診断のリストは、システムによって事前に決められており、ユーザーが変更することはできません。

区画に分割されたAS/400 7XXおよびISERIES 8XXサーバーでは、このIPL属性を変更できるのは1次区画からだけです。

区画に分割されたeServer i5サーバーおよびSystem iでは、このIPL属性はサービス・プロセッサのAdvanced System Management (ASM)インターフェースから変更する必要があります。

区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「論理区画」トピックを参照してください。この属性の初期（出荷時）値は*MINです。

***SAME**

値は変更されません。

***MIN** ハードウェア診断の最小セットが実行されます。

***ALL** すべてのハードウェア診断が実行されます。

上

ジョブ・テーブルの圧縮 (CPRJOBTBL)

余分な未使用の項目を除去するためにジョブ・テーブルを圧縮する必要がある時期を指定します。ジョブ・テーブル内の未使用の項目数を判別するには、ジョブ・テーブルの表示 (DSPJOBTBL) コマンドを使用することができます。未使用の項目数が過剰であると、ジョブ・テーブルの圧縮が必要であることが指示される可能性があります。しかし、圧縮にはIPL中のかかなりの時間を要する場合があります。この属性の初期値（出荷時の値）は*NONEです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ジョブ・テーブルはどのIPL時にも圧縮されません。

***NEXT**

ジョブ・テーブルは次のIPL時に圧縮されます。この値は、ジョブ・テーブル圧縮の開始後に*NONEにリセットされます。

***NORMAL**

ジョブ・テーブルは通常IPL時にのみ圧縮されます。

***ABNORMAL**

ジョブ・テーブルは異常IPL時にのみ圧縮されます。

***ALL** ジョブ・テーブルはすべてのIPL時に圧縮されます。

上

ジョブ・テーブルの検査 (CHKJOBTBL)

ジョブ・テーブルについて特定の損傷検査を実行する必要がある時期を指定します。この属性の初期値（出荷時の値）は*ABNORMALです。

***SAME**

値は変更されません。

***ABNORMAL**

ジョブ・テーブルの検査は異常IPL時にのみ実行されます。

***ALL** ジョブ・テーブルの検査はすべてのIPL時に実行されます。

***SYNC**

ジョブ・テーブルの検査はすべてのIPL中に同期実行されます。

プロダクト・ディレクトリーの再作成 (RBDPRDDIR)

プロダクト・ディレクトリー情報を完全に再作成する必要がある時期を指定します。完全な再作成は、オペレーティング・システムの導入に続くIPL時に必要です。この属性は、そのIPL時に一時変更されます。この属性の初期値（出荷時の値）は*NONEです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

プロダクト・ディレクトリー情報は完全には再作成されません。

*NORMAL

プロダクト・ディレクトリー情報は通常IPL時にのみ完全に再作成されます。

*ABNORMAL

プロダクト・ディレクトリー情報は異常IPL時にのみ完全に再作成されます。

***ALL** プロダクト・ディレクトリー情報はすべてのIPL時に完全に再作成されます。

メール・サーバー・フレームワーク回復 (MSFRCY)

異常IPLの時にメール・サーバー・フレームワーク回復が行われるかどうかを指定します。この属性の初期値（出荷時の値）は*NONEです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

メール・サーバー・フレームワークの回復はIPL中に実行されません。この回復はメール・サーバー・フレームワークの開始時に実行されます。

*ABNORMAL

メール・サーバー・フレームワークの回復は異常IPL中に実行されます。

状況の表示 (DSPSTS)

IPL時にオペレーティング・システムIPLステップの状況がコンソールに表示されるかどうかを指定します。状況は、導入IPL時またはコンソールの電源がオンになっていない時には表示されません。この属性の初期値（出荷時の値）は*ALLです。

*SAME

値は変更されません。

***SYS** オペレーティング・システムIPLステップの状況は在席IPLおよび異常IPL時に表示されます。

*NONE

オペレーティング・システムIPLステップの状況はIPL時に表示されません。

***ATTEND**

オペレーティング・システムIPLステップの状況は在席IPL時に表示されます。

***ABNORMAL**

オペレーティング・システムIPLステップの状況は異常IPL時に表示されます。

***ALL** オペレーティング・システムIPLステップの状況は、上記以外のすべてのIPL時に表示されます。

上

TCP/IPの開始 (STRTCP)

TCP/IPの開始 (STRTCP)コマンドをIPLの完了時に自動的に投入するかどうかと、システムを制限状態から出すために制御サブシステムを再始動する時期を指定します。 IPLの導入時、または制御サブシステムを制限状態に開始する時に、STRTCPコマンドを投入しません。 詳細については、STRTCPコマンド・ヘルプを参照してください。この属性の初期値（出荷時の値）は*YESです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** STRTCPコマンドが自動的に投入されます。

***NO** STRTCPコマンドは自動的に投入されません。

上

スプール・ファイル回復 (SPLFRCY)

ジョブ・テーブルが損傷していることを検出された時、またはIPL属性ジョブ待ち行列の消去 (CLRJOBQ), 出力待ち行列の消去 (CLROUTQ),および不完全なジョブ・ログの消去 (CLRINCJOB)に*YESが設定されている場合には、IPL時にすべてのスプール・ファイルで実行する必要がある内容を指定します。この属性の初期値（出荷時の値）は*DETACHです。

***SAME**

値は変更されません。

***DETACH**

スプール・ファイルは、ジョブから切り離されてシステム上に残されます。

***REMOVE**

スプール・ファイルは、システムから除去されます。

上

ジョブ待ち行列の消去 (CLRJOBQ)

ジョブをすべてのジョブ待ち行列から消去するかどうかを指定します。この属性の初期値（出荷時の値）は*NOです。この属性は、各IPLの後にその初期値にリセットされます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ジョブ待ち行列はIPL時に消去されます。この属性は、その後で*NOにリセットされます。

***NO** ジョブ待ち行列は消去されません。

出力待ち行列の消去 (CLRROUTQ)

システム補助記憶域プール(ASP番号1)または基本ユーザー補助記憶域プール(ASP番号2から32)にあるライブラリーのすべての出力待ち行列を消去して、その出力待ち行列からすべてのスプール出力を除去するかどうかを指定します。この属性の初期値（出荷時の値）は*NOです。この属性は、各IPLの後にその初期値にリセットされます。

注:この属性に*YESが指定され、ジョブ待ち行列の消去 (CLRJOBQ)および不完全なジョブ・ログの消去 (CLRINCJOB)の両IPL属性にも*YESが指定されている場合は、スプール・ファイルが除去されるのは、スプール・ファイル回復 (SPLFRCY) IPL属性に*REMOVEを指定する時だけです。

*SAME

値は変更されません。

***YES** CLRJOBQおよびCLRINCJOB IPL属性に*YESが指定されて、SPLFRCY IPL属性に*DETACHが指定されない限り、IPL時に出力待ち行列は消去されます。その場合には、スプール・ファイルはジョブから切り離されますが、出力待ち行列から除去されません。この属性は、その後で*NOにリセットされます。

***NO** 出力待ち行列は消去されません。

上

不完全なジョブ・ログの消去 (CLRINCJOB)

まだ書き込みされていないジョブ・ログを削除するかどうかを指定します。これはすべての保留ジョブ・ログを削除します。これは、最後のシステム電源遮断時に活動状態だったジョブ、ジョブ・ログ・サーバーによってまだ書き込みされていないジョブ・ログがあるジョブ、およびジョブ・ログ出力(LOGOUTPUT)ジョブ属性に*PNDの値を指定するジョブに影響します。

IPLを実行せずに不完全なジョブ・ログを消去するには、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIを使用してください。

この属性の初期値（出荷時の値）は*NOです。この属性は、各IPLの後にその初期値にリセットされます。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ジョブ・ログはIPL時に削除されます。この属性は、その後で*NOにリセットされます。

***NO** ジョブ・ログは削除されません。

上

印刷装置書出プログラム開始 (STRPRTWTR)

IPL時に印刷書き出しプログラムを開始する必要があるかどうかを指定します。この属性の初期値（出荷時の値）は*YESです。この属性は、各IPLの後にその初期値にリセットされます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 印刷書き出しプログラムはIPL時に開始されます。

NO** 印刷書き出しプログラムはIPL時に開始されません。この属性は、その後でYES** にリセットされません。

上

制限状態へ開始 (STRRSTD)

システム・コンソールだけが活動状態となることを意味する制限状態でシステムを開始する必要があるかどうかを指定します。この属性の初期値（出荷時の値）は***NO**です。この属性は、各IPLの後にその初期値にリセットされます。

***SAME**

値は変更されません。

YES** システムは制限状態で開始されます。この属性は、その後でNO**にリセットされます。

***NO** システムは制限状態で開始されません。

上

例

CHGIPLA DSPSTS(*ATTEND)

このコマンドによって、在席IPL時にオペレーティング・システムIPLステップの状況が表示されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1886

ユーザーにはIPL属性の変更は認可されていない。

CPF1887

IPL属性の変更でエラーが起こった。

上

IP OVER SNA インターフェースの変更 (CHGIPSIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNAインターフェースの変更(CHGIPSIFC)コマンドは、既存のAF_INET SOCKETS OVER SNAインターフェース(SNAの転送でこのローカル・ホストが認識されるIP アドレス) を変更します。このコマンドはサブネット・マスクだけを変更します。インターネット・アドレスは変更しません。インターネット・アドレスは変更されるインターフェースを識別します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG権限が必要です。
2. このコマンドを投入する場合には、インターフェースが活動状態であってはなりません。IP OVER SNAインターフェースの終了(ENDIPSIFC) CLコマンドを使用して、インターフェースを非活動化してください。
3. 変更されるIP OVER SNAインターフェースに対応するネットワークを介さなければそのNEXTHOPインターネット・アドレスに到達できない構成済みの経路があってはなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, キー, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *SAME	オプション, 定位置 2

上

IPアドレス (INTNETADR)

前にIP OVER SNAインターフェースの追加(ADDIPSIFC) CLコマンドでSNA構成に追加されているインターフェースのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。

これは必須パラメーターです。

上

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

このインターフェースを接続するネットワークの部分を定義するビット・マスクであるサブネット・マスクを指定します。マスクは、特定のサブネットワークを判別するためにIPアドレスと論理AND結合した32ビットの組み合わせです。値1に設定されたマスクのビットは、アドレスのネットワークおよびサブネットワーク部分を決定します。値ゼロ(0)に設定されたビットは、アドレスのホスト部分を決定します。

注:

1. ネットワーク部分はサブネット・マスクの1ビットに等しくなければなりません。アドレスのホスト部分とサブネット・マスク部分の幅は両方とも最低2ビットでなければなりません。
2. サブネットワークを識別するビットはアドレスで隣接している必要はありません。しかし、サブネット・ビットが連続していて、ホスト・アドレスの最上位ビットに配置することを強くお奨めします。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

サブネット・マスクの値は変更されません。

サブネット・マスク

サブネットワークを定義するIPアドレスのネットワーク・サブネット・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドに対するマスクを指定してください。サブネットワーク・マスクは *NNN.NNN.NNN.NNN* の形式になっています。ここで *NNN* は0から255の範囲の10進数です。サブネット・マスクは、IPアドレスのネットワーク・クラスのネットワークIDのすべてのビットをオフでマスクしなければなりません。サブネット・マスクの詳細な説明および例については、IP OVER SNA インターフェースの追加(ADDIPSIFC) CLコマンドを参照してください。

上

例

```
CHGIPSIFC INTNETADR('9.5.1.248') SUBNETMASK('255.255.0.0')
```

このコマンドは、IPアドレス9.5.1.248を持つインターフェースのサブネット・マスクを255.255.0.0に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

IP OVER SNA ロケーションの変更 (CHGIPSLOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNAロケーションの変更(CHGIPSLOC)コマンドは、既存のAF_INET SOCKETS OVER SNAロケーション項目を変更するために使用します。このコマンドはリモート・ネットワークID (RMTNETID)とロケーション名テンプレート(LOCTPL)を変更するだけです。リモート経路宛先およびサブネット・マスクは、変更されるロケーション項目を識別します。

制約事項: このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTDEST	リモート宛先	文字値	必須, キー, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *HOST	必須, キー, 定位置 2
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション
LOCTPL	ロケーション・テンプレート	文字値, *SAME	オプション

上

リモート宛先 (RMTDEST)

変更されるロケーション項目のリモート経路宛先を指定します。リモート経路宛先はNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。

これは必須パラメーターです。

上

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

変更されるロケーション項目のサブネット・マスクを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*HOST

リモート経路宛先フィールドに指定されたインターネット・アドレスの値がホスト・アドレスの場合には、この値を指定してください。

サブネット・マスク

サブネット・マスクをNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定してください。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。

上

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

リモート経路宛先で指定されたIPネットワークまたはIPアドレスに対応するリモートSNAネットワークの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

SNAリモート・ネットワークIDの値は変更されません。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

リモート・ネットワークID

長さが最大8文字のリモート・ネットワークIDを指定してください。最初の文字は大文字または小文字のAからZか、特殊文字¥, #,または@でなければならず、その後には0から9,大文字または小文字のAからZ, ¥, #,または@が続けられます。

上

ロケーション・テンプレート (LOCTPL)

リモート経路宛先で指定されたIPネットワークまたはサブネットワークに対応するSNAロケーション名、またはリモート経路宛先が単一のホストの場合には単一のロケーション名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SAME

SNAロケーション名テンプレートまたはロケーション名の値は変更されません。

ロケーション名テンプレート

ソケット・システム呼び出しに指定されたリモートIPアドレスに基づいてリモート・ロケーション名を生成する場合にシステムが使用する8文字のテンプレートを指定してください。最初の文字は大文字または小文字のAからZか、特殊文字¥, #,または@でなければならず、その後には0から9,大文字または小文字のAからZ, ¥, #, @,または?が続けられます。テンプレートにはロケーション名の文字のいくつかを指定しなければなりません。システムはIPアドレスのクラスに基づいて残りの文字を生成します。

RMTDESTがホストのグループ用のものである場合には、ロケーション名テンプレートが指定されていなければなりません。単一のロケーション名は処理されません。

ロケーション名テンプレートの詳細については、IP OVER SNAロケーションの追加(ADDIPSLOC) CLコマンドを参照してください。

ロケーション名

リモート・ロケーション名を指定してください。この名前の長さは1から8文字とすることができま

す。最初の文字は大文字または小文字のAからZか、特殊文字¥, #,または@でなければならず、その後0から9,大文字または小文字のAからZ, ¥, #,または@が続けられます。

RMTDESTが単一のホストの場合には、単一のロケーション名を指定しなければなりません。ロケーション・テンプレートは機能しません。

上

例

```
CHGIPSLOC  RMTDEST('128.2.0.0') SUBNETMASK('255.255.255.128')
           LOCTPL('ABCD????')
```

このコマンドは、ネットワーク128.2と255.255.255.128のサブネット・マスクを持つサブネットワークのSNAロケーション項目上のAF_INETソケットと関連したロケーション名テンプレートを変更します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

IP OVER SNA TOSの変更 (CHGIPSTOS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNA TOSの変更(CHGIPSTOS)コマンドは、それぞれのIP TYPE OF SERVICE (TOS)に対応するSNAモードを変更するために使用します。

注:

- AF_INET SOCKETS OVER SNAの場合には、ソケット・アプリケーションは接続が確立される前に必要なIP TYPE OF SERVICEを選択しなければなりません。接続の確立後にソケット・アプリケーションはIP TYPE OF SERVICEを変更することができますが、ソケットの接続を行った基礎になっているAPPCの会話に関連付けられたSNAモードには影響を与えません。APPCの会話は、その会話が確立された時に有効であったSNAモードを引き続き使用します。
- モード記述変更(CHGMODD) CLコマンドで行われたSNAモードの変更は、APPC 装置に対して再びモードが開始されるまで、現在そのモードを使用しているAPPC装置には有効となりません。

制約事項: このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TOS	TYPE OF SERVICE	*MINDELAY, *MAXTHRPUT, *MAXRLB, *MINCOST, *NORMAL	必須, キー, 定位置 1
MODE	モード	通信名, *NETATR	必須, 定位置 2

上

TYPE OF SERVICE (TOS)

変更されるIP TYPE OF SERVICEを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*MINDELAY

遅延の最小化は、この接続ではプロンプト配送が重要であることを意味します。

*MAXTHRPUT

スループット最大化は、この接続でデータに対する高いデータ速度が重要であることを意味します。

*MAXRLB

信頼性最大化は、この接続でデータに対する配布を確実にするための高水準の取り組みが重要であることを意味します。

*MINCOST

金銭上のコストの最小化は、この接続ではデータのコストの低下が重要であることを意味します。

*NORMAL

データの転送に通常のサービスが使用されます。

上

モード (MODE)

このサービスのタイプによって使用されるSNAモード記述を指定します。モードは1から8文字の長さにすることができます。最初の文字は大文字または小文字のAからZか、特殊文字¥, #,または@でなければならず、その後0から9,大文字または小文字のAからZ, ¥, #,または@が続けられます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*NETATR

ネットワーク属性で定義された省略時のモード名が使用されます。

モード SNAモード記述の名前を指定してください。

制約事項 : SNASVCMGモードとCPSVCMGモードはシステム用に予約されているので、MODEパラメーターで指定することはできません。

上

例

```
CHGIPSTOS TOS(*MINDELAY) MODE(MODE1)
```

このコマンドは、サービス*MINDELAYのIPタイプのSNAモードをMODE1に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA112

IP OVER SNAのTYPE OF SERVICEは変更されなかった。

上

ジョブ変更 (CHGJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ変更 (CHGJOB) コマンドは、ジョブの属性の一部を変更します。ジョブ待ち行列の変更を除けば、ジョブはジョブ待ち行列または出力待ち行列に存在できるか、サブシステム内で活動できます。ジョブ待ち行列を変更できるのは、ジョブがバッチ・ジョブであって、ジョブ待ち行列に入っている時だけです。ジョブが出力待ち行列に入っている場合は、変更できるのは出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)、ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)、およびスプール・ファイル・アクション (SPLFACN) だけです。クラス属性を除けば、新しい属性は、別のCHGJOBコマンドによって変更されない限り、ジョブの継続時間の間は有効です。クラス属性は、現在活動中のルーティング・ステップが終了するまで有効です。変更が行われた時、活動中のルーティング・ステップがないと、変更は次に開始されるルーティング・ステップに適用されます。ジョブに対してはもう影響を及ぼさない属性が変更されると、そのコマンドのユーザーにメッセージが送られます。例えば、ジョブがすでに実行を完了している場合は、出力待ち行列 (OUTQ) およびジョブ優先順位 (JOBQでの) (JOBPTY) パラメーターを変更するのは遅すぎます。しかし、出力ファイルがまだ出力待ち行列に残っている場合は、OUTPTYパラメーターを変更すると、その出力優先順位が変更されます。

制約事項:

1. このコマンドを変更するジョブ内部から出すか、このコマンド発行側が変更するジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しているか、あるいはこのコマンド発行側がジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルのもとで実行していなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、実行管理機能の手引きに詳細な説明があります。

2. このコマンドを使用するためには、以下の権限が必要です。
 - ジョブ待ち行列(JOBQ)を変更するためには、ジョブの変更先のジョブ待ち行列に対する使用(*USE)権限、およびそのジョブ待ち行列を含むライブラリーに対する実行 (*EXECUTE) 権限が必要です。
 - 出力待ち行列(OUTQ)を変更するには、ジョブに現在割り振られている出力待ち行列に対する読み取り(*READ)権限と、この出力待ち行列が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。この権限は借用権限から生じることがあります。ジョブ自身が変わる時は、そのジョブに現在割り振られているOUTQに対するいかなる権限も不要です。また、使用のためにジョブを変更している出力待ち行列に対する読み取り(*READ)権限と、その出力待ち行列が入っているライブラリーに対する実行 (*EXECUTE)権限も必要です。この権限は借用権限から生じることができません。
 - RUNPTY, TIMESLICE, PURGE, DFTWAIT, または TSEPOOL 値を変更するには、ジョブ制御 (*JOBCTL) 特殊権限が必要です。
 - 分類順序テーブル(SRTSEQ)を変更するためには、新しい分類順序テーブルに対する使用(*USE)権限、およびその分類順序テーブルを含むライブラリーに対する実行 (*EXECUTE) 権限が必要です。
3. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。詳細については、属性スレッド・セーフティに関する考慮事項を参照してください。

属性スレッド・セーフティに関する考慮事項:

このコマンドは、ジョブのジョブ属性を変更するために使用することを意図されています。このジョブのすべての属性が有効範囲となります。

次の表の「スレッド・セーフ」欄は、属性をスレッド・セーフである方法で変更できるかどうかを示しています。

YES: -この値が示されている属性は、スレッド・セーフであると見なされます。これらの属性は、初期スレッドまたは2次スレッドからこのコマンドを出すことによって、安全に変更することができます。ターゲット・ジョブも、単一スレッドまたはマルチスレッドとすることができます。

NO: -この値が示されている属性は、スレッド・セーフではありません。これらの属性を変更しようとする、このコマンドを出すジョブまたはターゲット・ジョブで複数のスレッドが活動している場合は、変更が拒否されます。

属性およびスレッド・セーフティの表：

属性	スレッド・セーフティ
中断メッセージ処理(BRKMSG)	YES
文字ID制御(CHRIDCTL)	YES
コード化文字セットID (CCSID)	YES
国別または地域別ID (CNTRYID)	YES
日付形式(DATFMT)	YES
日付区切り記号(DATSEP)	YES
DDM会話(DDMCNV)	NO
10進形式(DECfmt)	YES
省略待ち時間(DFTWAIT)	YES
装置回復処置(DEVRCYACN)	YES
ページ適格(PURGE)	YES
照会メッセージ応答(INQMSGRPY)	YES
ジョブ日付(DATE)	YES
ジョブ・ログ出力(LOGOUTPUT)	YES
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置(JOBMSGQFL)	YES
ジョブ優先順位(JOBQ上)(JOBPTY)	YES
ジョブ待ち行列(JOBQ)	YES
ジョブ・スイッチ(SWS)	YES
言語ID (LANGID)	YES
CLプログラム・コマンドのログ(LOGCLPGM)	YES
メッセージ・ロギング(LOG)	YES
出力優先順位(OUTQ上)(OUTPTY)	YES
出力待ち行列(OUTQ)	YES
印刷キー形式(PRTKEYFMT)	YES
印刷テキスト(PRTTXT)	YES
印刷装置(PRTDEV)	YES
実行優先順位(RUNPTY)	YES
スケジュール日付(SCDDATE)	NO
スケジュール時刻(SCDTIME)	NO
分類順序(SRTSEQ)	YES
スプール・ファイルの処置(SPLFACN)	YES
状況メッセージ(STSMMSG)	YES
時刻区切り記号(TIMSEP)	YES
タイム・スライス(TIMESLICE)	YES
タイム・スライス終了プール(TSEPOOL)	YES

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQでの)	0-9, *SAME	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	1-9, *SAME	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME, *USRPRF, *SYSVAL, *WRKSTN	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME, *USRPRF, *DEV, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RUNPTY	実行優先順位	1-99, *SAME	オプション
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SAME, *SYSVAL, *BLANK	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *SAME	
	要素 2: 重大度	0-99, *SAME	
	要素 3: テキスト	*SAME, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CL プログラム・コマンドのロ グ	*SAME, *NO, *YES	オプション
LOGOUTPUT	ジョブ・ログ出力	*SAME, *SYSVAL, *JOBLOGSVR, *JOBEND, *PND	オプション
JOBMSGQFL	ジョブ・メッセージ待ち行列満 杯処置	*SAME, *SYSVAL, *NOWRAP, *WRAP, *PRTWRAP	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージ応答	*SAME, *RQD, *DFT, *SYSRPYL	オプション
BRKMSG	中断メッセージ処理	*SAME, *NORMAL, *NOTIFY, *HOLD	オプション
STSMMSG	状況メッセージ	*SAME, *USRPRF, *SYSVAL, *NONE, *NORMAL	オプション
DDMCNV	DDM会話	*SAME, *KEEP, *DROP	オプション
SCDDATE	スケジュール日	日付, *SAME, *CURRENT, *MONTHSTR, *MONTHEND, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SCDTIME	スケジュール時刻	時刻, *SAME, *CURRENT	オプション
DATE	ジョブ日付	日付, *SAME	オプション
DATFMT	日付の形式	*SAME, *SYSVAL, *YMD, *MDY, *DMY, *JUL	オプション
DATSEP	日付区切り記号	*SAME, *SYSVAL, *BLANK, '/', '-', ':', ' ', ',', ''	オプション
TIMSEP	時刻区切り記号	*SAME, *SYSVAL, *BLANK, ::, ::, ' ', ''	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *SAME	オプション
TIMESLICE	タイム・スライス	1-9999999, *SAME	オプション
PURGE	除去適格	*SAME, *YES, *NO	オプション
DFTWAIT	省略時の待ち時間	1-9999999, *SAME, *NOMAX	オプション
DEVRCYACN	装置回復処置	*SAME, *SYSVAL, *MSG, *DSCMSG, *DSCENDRQS, *ENDJOB, *ENDJOBNO LIST	オプション
TSEPOOL	タイム・スライス終了プール	*SAME, *SYSVAL, *NONE, *BASE	オプション
PRTKEYFMT	ページ印刷キー形式	*SAME, *SYSVAL, *NONE, *PRTBDR, *PRTHDR, *PRTALL	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *SAME, *USRPRF, *SYSVAL, *HEX, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *SAME, *USRPRF, *SYSVAL	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, *SAME, *USRPRF, *SYSVAL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *SAME, *USRPRF, *SYSVAL, *HEX	オプション
DECfmt	10進数形式	*SAME, *SYSVAL, *BLANK, I, J	オプション
CHRIDCTL	文字識別コードの制御	*SAME, *USRPRF, *SYSVAL, *DEVD, *JOBCCSID	オプション
SPLFACN	スプール・ファイル・アクション	*SAME, *SYSVAL, *KEEP, *DETACH	オプション
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

上

ジョブ名 (JOB)

属性が変更されるジョブの名前を指定します。

* このコマンドを出すジョブの属性が変更されます。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 ジョブの実行に使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

ジョブ修飾子が指定されていない場合には、ジョブ名を見つけるために、システムに現在あるすべてのジョブが検索されます。指定した名前が複数見つかる場合には、ジョブ修飾子を指定しなければなりません。

上

ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)

変更されるジョブに使用されるスケジューリング優先順位を指定します。有効な値の範囲は0から9で、0が最高の優先順位であり、9が最低の優先順位です。

*SAME

スケジューリング優先順位は変更されません。

0から9 ジョブのスケジューリング優先順位を指定します。ジョブが現在ジョブ待ち行列上にある場合には、待ち行列上の他のジョブとの関係における位置を変更することができます。指定するスケジューリング優先順位は、このコマンドを入力したジョブが実行されるユーザー・プロファイルに指定されている優先順位より高位にはできません。

上

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*SAME

ジョブのスプール出力の優先順位は変更されません。

1から9 ジョブの出力ファイルの優先順位を指定してください。指定する出力優先順位は、このコマンドが入力されたジョブが実行されるユーザー・プロファイルに指定されている優先順位より高位とすることはできません。このコマンドを出すスレッドのライブラリー名スペース内の出力待ち行列にあるスプール出力ファイルのみが変更されます。

上

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時印刷装置を指定します。

注: これは、印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに省略時の値が指定されていることを前提としています。

***SAME**

省略時の印刷装置は変更されません。

***USRPRF**

このジョブを最初に実行したユーザー・プロファイルに指定された印刷装置が使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTDEVの値は印刷装置として使用されます。

***WRKSTN**

このジョブで使用される省略時の印刷装置は、そのジョブと関連したワークステーションに割り当てられた印刷装置です。

名前 このジョブで使用される印刷装置の名前を指定してください。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

OUTQ(*JOB)を指定するスプール・ファイル用に使用する出力待ち行列を指定します。このパラメーターが適用されるのは、OUTQパラメーターに*JOBが指定されている印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値

***SAME**

省略時の出力待ち行列は変更されません。

***USRPRF**

このジョブを最初に実行したユーザー・プロファイルに指定された出力待ち行列が使用されます。

***DEV** DEVパラメーターは、印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)、印刷装置ファイル変更(CHGPRTF)、または印刷装置ファイル一時変更(OVRPRTF)という印刷装置ファイル・コマンドの1つによって決定されます。

注: これは、印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに省略時の値が指定されていることを前提としています。

***WRKSTN**

このジョブで使用される省略時の出力待ち行列は、ジョブの開始時にジョブと関連づけられるワークステーションに割り当てられている出力待ち行列です。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 ジョブで使用される省略時の出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

省略時の出力待ち行列を見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブで使用される省略時の出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

実行優先順位 (RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）の範囲の値であり、ジョブが同時に活動状態となっている他のジョブに関連した処理装置を競合する優先順位を表します。この値はジョブの相対的な（絶対的ではない）重要性を表します。例えば、実行優先順位が25のジョブは実行優先順位が50のジョブの2倍重要であるということではありません。この値は、ジョブ内のすべてのスレッドについて許される最高の実行優先順位です。ジョブ内の個々のスレッドはこれより低い優先順位をもつことができます。ジョブの実行優先順位を変更すると、ジョブ内のすべてのスレッドの実行優先順位に影響します。例えば、ジョブが優先順位10で実行されていて、そのジョブ内のスレッドAが優先順位10で実行され、ジョブ内のスレッドBが優先順位15で実行されているとします。ジョブの優先順位を20に変更すると、スレッドAの優先順位は20に調整され、スレッドBの優先順位は25に調整されます。

ジョブが複数のルーティング・ステップから構成されている場合には、ルーティング・ステップ時のこの属性に対する変更は後続のルーティング・ステップには適用されません。

*SAME

実行優先順位は変更されません。

1から99

ジョブの実行優先順位を指定してください。

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

*SAME

ジョブ待ち行列は変更されません。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページの下部および分離ページに印刷されるテキストを指定します。

*SAME

PRTTXTパラメーターの現行値は変更されません。

*SYSVAL

システム値QPRTTXTが使用されます。

*BLANK

印刷出力として印刷されるテキストはありません。

文字値 各ページの最後に印刷する文字ストリングを指定してください。最大30文字までをアポストロフで囲んで入力することができます。

上

メッセージのロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用されるメッセージのロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。このパラメーターに値を指定しなかった場合には、値は変更されます。

要素1: レベル

*SAME

ジョブのメッセージ・ロギング・レベルは変わりません。

0から4 ジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定してください。使用できるロギング・レベルは次の通りです。

- 0** メッセージは記録されません。
- 1** ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られる、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージが記録されます。これには、ジョブ開始、ジョブ終了、およびジョブ完了状況の指示が含まれます。
- 2** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報
 - このメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度コードの高レベル・メッセージを出す結果となる要求メッセージです。要求メッセージと、関連したすべてのメッセージの両方が記録されます。

注: 高レベル・メッセージとは、要求メッセージを受け取るプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージのことです。例えば、QCMDは、要求メッセージを受け取るIBM提供の要求処理プログラムです。

- 3** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1と2の情報
 - すべての要求メッセージ
 - CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

- 4 次の情報が記録されます。
- すべての要求メッセージと、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージ（トレース・メッセージを含む）。
 - CLプログラムで実行されるコマンド（CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合）。

要素2: 重大度

*SAME

メッセージ・ロギング重大度は変わりません。

0から99

ジョブ・ログに記録されるエラー・メッセージを決定するために、ロギング・レベルと一緒に使用されるメッセージ・ロギング重大度を指定してください。

要素3: テキスト

*SAME

メッセージ・テキストのレベルは変わりません。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き出されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプ(原因と回復)の両方がジョブ・ログに書き出されます。

***NOLIST**

ジョブが異常終了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブ終了コードが20以上である場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに表示されるメッセージには、メッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方が含まれていません。

上

CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムの中で実行されるコマンドがそのCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。制御言語(CL)プログラム作成(CRTCLPGM)コマンドで**メッセージのロギング (LOG)**パラメーターに対して***JOB**が指定された場合には、**CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)**パラメーターで設定されたフラグが使用されます。**メッセージのロギング (LOG)**パラメーターに対するその他の値は**CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)**パラメーターを一時変更します。コマンドは要求通りの方法で記録されます。

*SAME

ジョブのロギング・フラグの現在の状態は変更されません。

***NO** CLプログラムの後のほうのコマンドはジョブ・ログに書き込まれません。

***YES** CLプログラムの後のほうのコマンドは、書き込み可能であれば、ジョブ・ログに書き込まれます。

上

ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)

ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

ジョブ・ログ出力値は、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で変更できます。ジョブのジョブ・ログ出力値を変更するには、ジョブの変更(QWTCHGJB) APIまたはジョブの変更(CHGJOB)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で表示できます。ジョブ・ログを表示するには、ジョブ・ログの表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブが完了して、ジョブ・ログがまだ作成または除去されていない時に除去できます。ジョブ・ログを除去するには、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIまたはジョブの終了(ENDJOB)コマンドを使用してください。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QLOGOUTPUTに指定された値が使用されます。

***JOBLOGSVR**

ジョブ・ログは、ジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。ジョブ・ログ・サーバーの詳細については、ジョブ・ログ・サーバーの開始(STRLOGSVR)コマンドを参照してください。

***JOBEND**

ジョブ・ログは、ジョブそのものによって作成されます。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。例えば、システムがシステムの電源遮断(PWRDWN SYS)コマンドを処理している時には、ジョブはその固有のジョブ・ログを作成しません。

***PND** ジョブ・ログは作成されません。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

上

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時取る処置を指定します。

***SAME**

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになったときのオプションは変更されません。

***SYSVAL**

QJOBMSGQFLシステム値に指定された値が使用されます。

***NOWRAP**

いっぱいになった時にメッセージ待ち行列は折り返しません。この処置でジョブが終了します。

***WRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、メッセージ待ち行列の始めに折り返し、再びメッセージが入れ始められます。

***PRTWRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、ジョブ・メッセージ待ち行列を折り返し、折り返しのためにオーバーレイされることになるメッセージを印刷します。

上

照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージに対する応答方法を指定します。ジョブ記述から照会メッセージ応答制御が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要であること、省略時の応答が出されること、あるいは事前定義照会メッセージが送られるたびにシステム応答リストで一致する応答が調べられることを指定することができます。

***SAME**

照会メッセージ応答に使用する方法は変更されません。

***RQD** このジョブの実行中に送られる照会メッセージに対しては照会メッセージの受信側による応答が必要とされます。

***DFT** このジョブの実行中に送られるすべての照会メッセージに応答するために、省略時のメッセージ応答が使用されます。

***SYSRPYL**

システム応答リストを検査して、このジョブの実行の結果として出された照会メッセージの項目があるかどうかを調べます。一致するものがある場合には、その項目の応答値が使用されます。その照会メッセージに関する項目がない場合には、応答が必要です。

上

中断メッセージ処理 (BRKMSG)

このジョブについての中断メッセージの処理方法を指定します。この指定は、メッセージ待ち行列の状況、メッセージ待ち行列重大度、およびこの値の設定によって決定されます。

***SAME**

中断メッセージ処理は変更されません。

***NORMAL**

中断メッセージ処理はメッセージ待ち行列の状況によって決定されます。

***NOTIFY**

音響アラームでメッセージがあることを知らせます。***NOTIFY**は対話式ジョブの場合だけに指定できます。

***HOLD**

中断メッセージも、あるいは中断メッセージ送信(SNDBRKMSG)コマンドによってサインオンされたワークステーションに送られるメッセージも、メッセージ待ち行列上に***BREAK**転送モードで表示されることはありません。***NOTIFY**配信モードのメッセージ待ち行列に送信されるメッセージに対してアラームは鳴りません。ユーザーの中断メッセージ処理プログラムは開始されません。

上

状況メッセージ (STSMMSG)

ジョブで状況メッセージがどのように処理されるかを指定します。

*SAME

状況メッセージの処理は変更されません。

*USRPRF

状況メッセージは、このジョブを最初に実行したユーザー・プロファイルで指定されたように表示または非表示されます。

*SYSVAL

QSTSMMSGシステム値に指定されている値によって、状況メッセージが表示されたり、あるいは表示されなかったりします。

*NONE

状況メッセージは表示されません。

*NORMAL

状況メッセージが表示されます。画面の最後の行にあるテキストが失われます。

上

DDM会話 (DDMCNV)

分散データ管理機能(DDM)プロトコルを使用する接続が、使用中でない時に活動状態のままであるかどうかを指定します。この接続には、APPCの会話、活動TCP/IPの会話、またはOPTICONNECT接続が含まれます。DDMプロトコルは、分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー(DRDA)アプリケーション、DDMアプリケーション、またはDB2マルチシステム・アプリケーションで使用されます。

*SAME

ジョブのDDM会話属性の現在の状態は変更されません。

*KEEP

次の場合を除いて、システムはユーザーがいない時でもDDM会話の接続を活動状態に保ちます。

- ルーティング・ステップがジョブの開始時、あるいはジョブが別のジョブの再経路指定を開始した時にソース・システムで終了する。
- DDM会話再利用 (RCLDDMCNV)コマンドまたは資源再利用 (RCLRSC)コマンドを使用して、会話を切り離す明示的な要求がある。
- 通信障害または内部的な障害がある。
- System iで実行されていないアプリケーション・サーバーに対するDRDA接続が終了する。

*DROP

ユーザーがいない時には、システムはDDM割り振り会話を終了します。例えば、アプリケーションがDDMファイルをクローズする時、あるいはDRDAアプリケーションがSQL DISCONNECTステートメントを実行する時などです。

上

スケジュール日 (SCDDATE)

投入されたジョブが実行に適格となる日付を指定してください。

システムまたはジョブが年間通算日形式を使用するように構成されている場合には、システムまたはジョブが年間通算日形式を使用しない場合の時のように、*MONTHSTRおよび*MONTHENDが計算されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***CURRENT**

投入されたジョブは現行日付で実行に適格となります。

***MONTHSTR**

投入されたジョブは月の最初の日付に実行に適格となります。*MONTHSTRを指定した場合で、しかも今日が月の最初の日付であり、SCDTIMEパラメーターに指定した時刻を過ぎていない場合には、ジョブは今日実行に適格となります。そうでない場合には、ジョブは次の月の最初の日に適格となります。

***MONTHEND**

投入されたジョブは月の最後の日付に実行に適格となります。*MONTHENDを指定した場合で、しかも今日が月の最後の日付であり、SCDTIMEパラメーターに指定した時刻を過ぎていない場合には、ジョブは今日実行に適格となります。そうでない場合には、ジョブは次の月の最後の日に適格となります。

***MON** ジョブは、月曜日に実行適格となります。

***TUE** ジョブは、火曜日に実行適格となります。

***WED** ジョブは、水曜日に実行適格となります。

***THU** ジョブは、木曜日に実行適格となります。

***FRI** ジョブは、金曜日に実行適格となります。

***SAT** ジョブは、土曜日に実行適格となります。

***SUN** ジョブは、日曜日に実行適格となります。

日付 区切り記号付きまたは区切り記号なしのジョブ日付の形式で日付を指定してください。

上

スケジュール時刻 (SCDTIME)

ジョブが実行適格となるスケジュール日付の時刻を指定します。

注: この時刻は秒で指定することができますが、システムへのロードにより、そのジョブの実行が適格となる正確な時刻が影響されることがあります。

***SAME**

この値は変更されません。

***CURRENT**

ジョブは現在の時刻に投入されます。

時刻 ジョブを開始したい時刻を指定してください。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。HHの有効な値の範囲は00から23です。MMおよびSSの有効な値の範囲は00から59です。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

ジョブ日付 (DATE)

ジョブに割り当てられた日付を指定します。ジョブ日付は、ユーザーによって変更されない限り、ジョブの継続中同じです。

*SAME

ジョブ日付は変更されません。

日付 ジョブのジョブ日付として使用される値を指定してください。日付は、現行ジョブの日付形式で入力しなければなりません。ジョブのジョブ日付を指定しない場合には、ジョブ日付を必要とする機能では、システム日付が省略時の値として使用されます。このパラメーターで指定した日付は、ジョブの実行の間だけ、システム日付に優先します。

上

日付の形式 (DATFMT)

日付に使用する形式を指定します。

*SAME

使用する日付の形式は変更されません。

*SYSVAL

システム値QDATFMTが使用されます。

***YMD** 年、月、および日という日付の形式が使用されます。

***MDY** 月、日、および年という日付の形式が使用されます。

***DMY** 日、月、および年という日付の形式が使用されます。

***JUL** 日付の形式として年間通算日を使用します。

上

日付区切り記号 (DATSEP)

日付に使用する日付区切り記号を指定します。

*SAME

日付区切り記号は変更されません。

*SYSVAL

日付区切り記号としてシステム値が使用されます。

*BLANK

日付区切り記号として空白が使用されます。

- ’/’ スラッシュ(/)が日付区切り記号として使用されます。
- ’-’ ダッシュ(-)が日付区切り記号として使用されます。
- ’.’ ピリオド(.)が日付区切り記号として使用されます。
- ’ ’ 日付区切り記号として空白が使用されます。
- ’,’ コンマ(,)が日付区切り記号として使用されます。

上

時刻区切り記号 (TIMSEP)

ジョブに使用する時刻区切り記号を指定します。

注: 他のコマンド上に時刻を指定する時には、このパラメーターに指定した時刻区切り記号を使用するか、あるいは時刻区切り記号なしで指定しなければなりません。ここに指定された時刻区切り記号と異なる時刻区切り記号を使用して、他のコマンドに時刻を指定する場合には、そのコマンドは正常に実行されません。

*SAME

時刻区切り記号は変更されません。

*SYSVAL

システム値QTIMSEPに指定された時刻区切り記号が使用されます。

*BLANK

時刻区切り記号として空白が使用されます。

- ’:’ コロン(:)が時刻区切り記号用に使用されます。
- ’.’ ピリオド(.)が時刻区切り記号用に使用されます。
- ’ ’ 時刻区切り記号として空白が使用されます。
- ’,’ コンマ(,)が時刻区切り記号用に使用されます。

上

ジョブ・スイッチ (SWS)

ジョブで使用される8個のジョブ・スイッチのグループのスイッチ設定値を指定します。これらのスイッチはCLプログラムの中で設定またはテストすることができ、これらのスイッチを使用してプログラムの流れを制御することができます。各1桁スイッチに有効な値は0 (オフ), 1(オン), またはXだけです。Xは、スイッチ値が変更されないことを示します。

*SAME

8個のジョブ・スイッチの値は変更されません。

文字値 ジョブ・スイッチの設定値を変更するには、8個の0, 1,またはXの任意の組み合わせ（引用符で囲んでも囲まなくてもよい）を指定してください。スイッチの値を変更しない場合には、そのスイッチを表す桁にXを入力してください。

上

タイム・スライス (TIMESLICE)

このジョブおよび他のジョブの中の他のスレッドに実行の機会が与えられる前に、ジョブ内の各スレッドに与えられる最大プロセッサ時間（ミリ秒）を指定します。十分な量の処理を行なうためにジョブ中のスレッドによって必要とされる時間数は、タイム・スライスによって設定されます。タイム・スライスの終わりにスレッドを非活動状態にすると、他のスレッドを記憶域プール内で活動状態にできます。

ジョブが複数のルーティング・ステップから構成されている場合には、ルーティング・ステップ時のこの属性に対する変更は後続のルーティング・ステップには適用されません。

*SAME

タイム・スライスに指定された値は変更されません。

1から9999999

ジョブ内の各スレッドが処理時間を与えられた時に実行できる時間の量（ミリ秒）を指定してください。

注: 1ミリ秒は1秒の1/1000です。したがって、9,999,999ミリ秒は9999.999秒となります。8より小さい値を指定することができますが、システムは処理を実行するのに最小でも8ミリ秒を要します。ジョブの実行属性を表示する場合には、タイム・スライス値が8以下になることはありません。

上

除去適格 (PURGE)

タイム・スライスの終わりに達した時、あるいは長時間待ちに入った時（例えばワークステーション・ユーザーの応答を待っている時）にジョブを主記憶域から取り出して、補助記憶域に入れることが適格であるかどうかを指定します。ジョブ内で複数のスレッドが活動状態である時には、この属性は無視されます。

ジョブが複数のルーティング・ステップから構成されている場合には、ルーティング・ステップ時のこの属性に対する変更は後続のルーティング・ステップには適用されません。

*SAME

除去オプションに指定された値は変更されません。

***YES** このジョブは、主記憶装置から取り出して補助記憶装置に入れることが適しています。ただし、複数のスレッドをもつジョブが主記憶域から除去されることはありません。

***NO** ジョブは主記憶域から取り出して補助記憶域に入れるには適格ではありません。ただし、主記憶域が必要な時には、このジョブ内のスレッドに属するページを補助記憶域に移動できます。その後、このジョブ内のスレッドが再び実行される時に、そのページは必要に応じて主記憶域に戻されます。

上

省略時の待ち時間 (DFTWAIT)

ジョブ中のスレッドが資源を獲得するためにシステム命令(LOCKマシン・インターフェース(MI)命令など)を待機する省略時の最大時間（秒数）を指定します。この省略時の待機時間は、与えられた状況下で他に待機時間が指定されていない時に使用されます。通常は、これは資源が終了する前にシステムがシステムを待機する時間の長さです。このパラメーターに指定された待ち時間は、データベース・ファイルに対する読み取り操作では無視されます。

ジョブが複数のルーティング・ステップから構成されている場合には、ルーティング・ステップ時のこの属性に対する変更は後続のルーティング・ステップには適用されません。

***SAME**

省略時の最大待機時間は変更されません。

***NOMAX**

最大待ち時間はありません。

1から9999999

命令が資源を獲得するまでシステムが待機する最大時間を、秒数で指定してください。

上

装置回復処置 (DEVRCYACN)

対話式ジョブの*REQUESTER装置で入出力エラーが起こった時、そのジョブで取る回復処置を指定します。このパラメーターを指定できるのは、対話式ジョブに対してだけです。

***SAME**

ワークステーション回復処置は変更されません。

***SYSVAL**

このジョブの装置回復処置として、システム値QDEVRCYACNの値が使用されます。

***MSG** 入出力操作を要求したアプリケーション・プログラムは、入出力操作が正常に実行されていないことを示すエラー・メッセージ受け取ります。

***DSCMSG**

ジョブは自動的に切断されます。ジョブが再接続されると、そのジョブは入出力エラーが起こったが装置が回復したことを示すエラー・メッセージを受け取ります。装置は回復しましたが、エラーの発生前の画面の内容を再表示しなければなりません。

***DSCENDRQS**

ジョブは自動的に切断されます。ジョブが再接続されると、前の要求処理プログラムを指定するENDRQSコマンドが出されます。要求処理プログラムがない場合には、エラー・メッセージが出されます。

***ENDJOB**

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログが作成されます。

***ENDJOBNO LIST**

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログは作成されません。

上

タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)

対話式ジョブのスレッドがタイム・スライスの終わりに達した時に、これを別の主記憶域プールに移動するかどうかを指定します。長時間待ちが起こった場合には、ジョブは最初に行われていたプールに戻されます。これによって、他の対話式ジョブの対話式応答時間に対する影響を最小限におさえることができます。このパラメーターを指定できるのは、対話式ジョブに対してだけです。

***SAME**

タイム・スライス終了プールの値は変更されません。

***SYSVAL**

CHGJOBコマンドが出された時のシステム値QTSEPOOLの値が、このジョブのタイム・スライス終了時のプールの処置として使用されます。

***NONE**

ジョブ中のスレッドは、タイム・スライスの終わりに達しても移動されません。

***BASE**

ジョブ中のスレッドは、タイム・スライスの終わりに達すると基本プールに移動されます。

上

ページ印刷キー形式 (PRTKEYFMT)

ページ印刷キーを押した時に枠および見出し情報を印刷するかどうかを指定します。

***SAME**

このパラメーターに指定された値は変更されません。

***SYSVAL**

見出し情報または枠情報を印刷するかどうかは、システム値QPRTKEYFMTで指定された値によって決まります。

***NONE**

枠情報も見出し情報も印刷されません。

***PRTBDR**

枠情報が印刷されます。

***PRTHDR**

見出し情報が印刷されます。

***PRTALL**

枠情報と見出し情報が印刷されます。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このジョブのストリング比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

単一値

***SAME**

この値は変更されません。

***USRPRF**

このジョブを最初に実行したユーザー・プロファイルに指定された分類テーブルが使用されます。

***SYSVAL**

システム値QSRTSEQが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。 分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

***LANGIDUNQ**

固有の重み分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重み分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 このジョブで使用する分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 分類順序テーブルが入っているライブラリーを指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

このジョブと関連した言語IDを指定します。言語IDが使用されるのは、**分類順序 (SRTSEQ)**パラメーターに***LANGIDUNQ**または***LANGIDSHR**が指定されている時です。ジョブのCCSIDが65535である場合には、このパラメーターを使用して、ジョブの省略時の値CCSID (DFTCCSID)も判別します。

***SAME**

値は変更されません。

***USRPRF**

このジョブを最初に実行したユーザー・プロファイルに指定された言語ID が使用されます。

***SYSVAL**

システム値QLANGIDが使用されます。

文字値 ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

上

国別または地域ID (CNTRYID)

ジョブによって使用される国別または地域別のIDを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***USRPRF**

このジョブを最初に実行したユーザー・プロファイルに指定された国別または地域別のIDが使用されます。

***SYSVAL**

システム値QCNTYIDが使用されます。

文字値 ジョブによって使用される国別または地域別のIDを指定します。

コード化文字セットID (CCSID)

このジョブに使用されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

*SAME

CCSID値は変更されません。

***USRPRF**

このジョブを最初に実行したユーザー・プロファイルに指定されたCCSIDが使用されます。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドの文字データがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

1から65535

CCSIDを指定してください。

10進数形式 (DECfmt)

ジョブで使用される10進数形式を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***SYSVAL**

QDECfmtシステム値に指定された値が使用されます。

***BLANK**

10進数形式、ゼロ消去でピリオド(.)が使用されます。

I 10進数形式、ゼロ消去でコンマ(,)が使用されます。

J 10進数形式、1つの先行ゼロでコンマ(,)が使用されます。

文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)

ジョブに使用される文字ID制御を指定します。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループについて行われるCCSID変換のタイプを制御します。この属性が使用される前に、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対する作成、変更、または一時変更コマンドのCHRIDコマンド・パラメーターに*CHRIDCTL特殊値を指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

***USRPRF**

このジョブを最初に実行していたユーザー・プロファイルに指定された文字ID制御が使用されません。

***SYSVAL**

QCHRIDCTLシステム値に指定された値が使用されます。

***DEV D**

*DEV D特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

***JOBCCSID**

*JOBCCSID特殊値は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対するCHRIDコマンド・パラメーターと同じ機能を実行します。

上

スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)

ジョブの終了後にジョブ・インターフェースを介してスプール・ファイルにアクセスするかどうかを指定します。スプール・ファイルをジョブとともに保管することによって、ジョブの終了後に、投入されたジョブの処理(WRKSBMJOB)などのジョブ・コマンドをスプール・ファイルで処理することができます。ジョブからスプール・ファイルを切り離すと、ジョブの終了時にジョブ構造のリサイクルが可能になるためにシステム資源の使用が削減されます。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QSPLFACNに指定された値が使用されます。

***KEEP**

ジョブが終了すると、ジョブのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に存在している限り、スプール・ファイルはジョブと一緒に保存され、ジョブの状況はジョブが完了したことを示すように更新されます。ジョブの残りのスプール・ファイルがすべて独立ASP (ASP 33から255)に入っていると、それらのスプール・ファイルはジョブから切り離され、ジョブはシステムから除去されます。

***DETACH**

ジョブが終了すると、スプール・ファイルはジョブから切り離されて、そのジョブはシステムから除去されます。ジョブがすでに終了している場合には、この変更はスプール・ファイルをジョブから即時切り離して、システムからジョブを除去します。

上

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

上

例

例1:メッセージ・ロギング値を変更する

```
CHGJOB JOB(123581/DEPT2/WS1) LOG(2 40 *SECLVL)
```

このコマンドはジョブWS1を変更します。このジョブは、ユーザー・プロファイルDEPT2と関連付けられており、ジョブ番号123581をもっています。このジョブがコマンドと関連診断メッセージ（ヘルプ・テキスト）を受け取るのは、メッセージの重大度レベルが40以上の場合だけです。メッセージ・テキストのほかに、ヘルプ・テキストがジョブ・ログに記録されます。

例2:スケジューリング優先順位とジョブ・スイッチを変更する

```
CHGJOB JOB(PAYROLL) JOBPTY(4) OUTPTY(3) SWS(10XXXX00)
```

このコマンドは、ジョブPAYROLLのスケジューリング優先順位を4に変更し、出力優先順位を3に変更します。また、8個のジョブ・スイッチのうち4個が変更されます。すなわち、スイッチ1と2はそれぞれ1と0に設定され、スイッチ3から6は変わりなく、スイッチ7と8は両方とも0に設定されます。このジョブは単純名しか指定されていないので、PAYROLLという名前のジョブはシステムに1つしか存在できません。

例3:ジョブを別の待ち行列に移動する

```
CHGJOB JOB(MYJOB) JOBQ(MYLIB/MYJOBQ) INQMSGRPY(*SYSRPYL)
```

このコマンドは、ジョブを、現在それが入っているジョブ待ち行列からライブラリーMYLIB内のジョブ待ち行列MYJOBQに移動します。この変更を行うためには、ジョブが実行を開始していないこと、およびバッチ・ジョブであることが必要です。また、このジョブは、このジョブに代わって出される、システム自動応答リストに項目がある照会メッセージに、そのシステム応答リスト項目内の応答に従って答えるように変更されます。システム応答リストに表されていない照会メッセージの場合は、応答が必要です。

例4:実行優先順位と省略時待ち時間を変更する

```
CHGJOB JOB(MYJOB) RUNPTY(10) DFTWAIT(150)
```

このコマンドは、ジョブMYJOBの実行優先順位を10に変更し、省略時待ち時間を150秒に変更します。ただし、このコマンドの発行者にはジョブ制御権限が必要です。ジョブが活動中であれば、この変更は即時に有効となります。ジョブがジョブ待ち行列に入っている場合は、このジョブの次のルーティング・ステップが開始されると、実行優先順位と省略時待ち時間はこれらの値になり、そのステップを開始するために使用されるルーティング項目と関連したクラスに指定されたものにはなりません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1334

要求した変更の場合には、対話式ジョブでなければならない。

CPF1336

ジョブ&3/&2/&1に対するCHGJOBコマンドにエラーがある。

CPF1337

&3/&2/&1には、パラメーターの変更が認可されていない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF1634

指定された日付または時刻を過ぎた。

CPF1635

要求された変更はもう使用できない。

CPF1642

スケジュール日&1は正しくない。

CPF1644

スケジュールされた日付および時刻が変更されていない。

CPF1650

スケジュールされた日付および時刻は両方とも変更しなければならない。

CPF1651

ソート順序テーブルがアクセスされていない。

CPF180E

&4は変更されていない。

CPF1846

要求は完了していない。システム値が使用可能でない。

CPF1854

CCSIDの値&1が正しくない。

上

ジョブ記述変更 (CHGJOBDD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述変更 (CHGJOBDD)コマンドは、ジョブ記述オブジェクトに含まれているジョブ関連属性を変更します。権限属性を除いて、任意の属性を変更できます。オブジェクト権限の変更の詳細については、オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT)コマンドおよびオブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT)コマンドを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。
- アカウント・コード (ACGCDE)パラメーターを*USRPRF以外の値に変更するには、アカウント・コード変更 (CHGACGCDE)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOBDD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQでの)	1-9, *SAME	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	1-9, *SAME	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME, *USRPRF, *SYSVAL, *WRKSTN	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME, *USRPRF, *DEV, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
USER	ユーザー	名前, *SAME, *RQD	オプション, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	ノート
ACGCDE	アカウント・コード	文字値, *SAME, *USRPRF, *BLANK	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SAME, *SYSVAL, *BLANK	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, *SAME, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, *SAME, *NONE, *RTGDTA	オプション
INLLIBL	初期ライブラリー・リスト	単一値: *SAME, *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 250 回の繰り返し): 名前	オプション
INLASGRP	初期ASPグループ	名前, *SAME, *NONE	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *SAME	
	要素 2: 重大度	0-99, *SAME	
	要素 3: テキスト	*SAME, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CL プログラム・コマンドのログ	*SAME, *NO, *YES	オプション
LOGOUTPUT	ジョブ・ログ出力	*SAME, *SYSVAL, *JOBLOGSVR, *JOBEND, *PND	オプション
JOBMSGQMX	ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ	2-64, *SAME, *SYSVAL	オプション
JOBMSGQFL	ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置	*SAME, *SYSVAL, *NOWRAP, *WRAP, *PRTWRAP	オプション
SYNTAX	CL構文検査	0-99, *SAME, *NOCHK	オプション
ENDSEV	終了重大度	0-99, *SAME	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージ応答	*SAME, *RQD, *DFT, *SYSRPYL	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*SAME, *NO, *YES	オプション
DATE	ジョブ日付	日付, *SAME, *SYSVAL	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *SAME	オプション
DEVRCYACN	装置回復処置	*SAME, *SYSVAL, *MSG, *DSCMSG, *DSCENDRQS, *ENDJOB, *ENDJOBNO LIST	オプション
TSEPOOL	タイム・スライス終了プール	*SAME, *SYSVAL, *NONE, *BASE	オプション
ALWMLTTHD	マルチスレッド使用可能	*SAME, *NO, *YES	オプション
SPLFACN	スプール・ファイル・アクション	*SAME, *SYSVAL, *KEEP, *DETACH	オプション
DDMCNV	DDM会話	*SAME, *KEEP, *DROP	オプション

上

ジョブ記述 (JOB D)

変更するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。

注: このパラメーターにジョブ記述QSYSJOBIDを指定することはできません。このジョブ記述はシステム用のバックアップ・ジョブ記述であり、ユーザーが変更することはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定してください。

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブ記述を使用する投入ジョブが入れられる省略時のジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

単一値

***SAME**

ジョブ待ち行列は変更されません。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

注: ジョブ記述には修飾ジョブ待ち行列名が保持されるので、ジョブ記述を変更する時にジョブ待ち行列が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

上

ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)

このジョブ記述を使用するジョブに使用されるジョブ待ち行列スケジューリング優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*SAME

スケジューリング優先順位は変更されません。

1から9 このジョブ記述を使用するジョブのスケジューリング優先順位を指定します。

上

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブ記述を使用するジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*SAME

スプール出力の出力優先順位は変更されません。

1から9 このジョブ記述を使用するジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位の値を1から9の範囲で指定してください。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

上

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時の印刷装置の修飾名を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターに指定されているものとみなしています。

*SAME

省略時の印刷装置は変更されません。

*USRPRF

ジョブが開始された時点でジョブに関連したユーザー・プロファイルに指定された印刷装置が使用されます。

*SYSVAL

ジョブが開始された時のシステム値QPRTDEVの値が印刷装置として使用されます。

*WRKSTN

ジョブが開始される時点でジョブに関連したワークステーションに割り当てられた印刷装置が使用されます。

名前 このジョブ記述を使用するジョブによって使用される印刷装置を指定します。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

このジョブ記述を使用するジョブの省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。このパラメーターは、出力待ち行列に*JOBを指定するスプール印刷装置ファイルに対してのみ適用されます。

単一値

*SAME

省略時の出力待ち行列は変更されません。

*USRPRF

このジョブ記述を使用するジョブの出力待ち行列名は、ジョブを開始した時にジョブと関連したユーザー・プロファイルから取られます。

***DEV** 印刷装置ファイルの**装置 (DEV)**パラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。この出力待ち行列の名前は印刷装置と同じです。印刷装置ファイルのDEVパラメーターは、印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF)、印刷装置ファイル変更 (CHGPRTF)、または印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF)コマンドによって決定されます。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの**出力待ち行列 (OUTQ)**パラメーターに指定されているものとみなしています。

*WRKSTN

このジョブ記述で使用される出力待ち行列は、ジョブが開始された時のジョブに対応したワークステーションに割り当てられている出力待ち行列です。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

注: ジョブ記述には修飾出力待ち行列名が保持されるので、ジョブ記述を変更する時に出力待ち行列が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されていません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ユーザー (USER)

このジョブ記述に関連したユーザー・プロファイルの名前を指定します。名前QSECOFR, QSPL, QDOC, QDBSHR, QRJE, QSYS, QLPAUTO, QLPINSTALL, QTSTRQS,およびQDFTOWNは、このパラメーターに有効な項目ではありません。

*SAME

ユーザー・プロファイルの名前は変更されません。

***RQD** ジョブ記述を使用するためには、ユーザー名が必要です。ワークステーション項目の場合には、ワークステーションでサインオンする時にユーザー名を入力しなければなりません。関連するユーザー名がジョブに使用される名前となります。自動始動ジョブ項目またはバッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドによって使用される項目に指定されるジョブ記述の場合には、*RQDは有効ではありません。これがジョブ投入 (SBMJOB)コマンドで有効なのは、*CURRENTがユーザー (USER)パラメーターに指定されている場合だけです。

名前 このジョブ記述を使用するバッチ・ジョブに対応したユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。対話式ジョブの場合には、これは、ユーザー名を入力せずにシステムにサインオンするために使用する省略時のユーザー名となります。

上

アカウント・コード (ACGCDE)

この記述を使用するジョブのシステム資源の使用状況を記録する時に使用される会計コードを指定します。*USRPRF以外の会計コードを指定するには、アカウント・コード変更 (CHGACGCDE)コマンドが許可されていないければなりません。

*SAME

会計コードは変更されません。

***USRPRF**

このジョブ記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブと関連したユーザー・プロファイルから獲得されます。

***BLANK**

このジョブ記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

文字値 このジョブ記述を使用して、その会計統計がシステム会計ジャーナルQACGJRNに記録されるジョブの会計コードを指定します。15文字未満を入力した場合には、ストリングの右側にブランクが埋め込まれます。

上

印刷テキスト (PRTTXT)

各ページの最後での1行のテキストの印刷を指定します。

***SAME**

印刷テキストは変更されません。

***SYSVAL**

システム値QPRTTXT中の値が使用されます。

***BLANK**

テキストは印刷されません。

文字値 各ページの最後に印刷する文字ストリングを指定してください。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力することができます。

上

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブを開始するためにこのジョブ記述で使用するルーティング・データを指定します。

***SAME**

ルーティング・データは変更されません。

***RQSDTA**

要求データまたはコマンド (RQSDTA)パラメーターに指定された最初の80文字までの要求データがジョブのルーティング・データとして使用されます。

文字値 このジョブ記述を使用するジョブのルーティング・データを指定します。最大80文字を（必要であればアポストロフィで囲んで）入力することができます。

上

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブ記述を使用するジョブのジョブ・メッセージ待ち行列の最後の項目として入れられる要求データを指定します。

***SAME**

要求データは変更されません。

***NONE**

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

***RTGDTA**

経路指定データ (RTGDTA)パラメーターに指定されたルーティング・データがジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目として入れられます。

文字値 単一の要求としてジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目として入れられる文字ストリングを指定してください。最大256文字を入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。CLコマンドを入力する場合には、これを単一アポストロフィで囲まなければならない、アポストロフィが通常使用されるコマンドの中では、アポストロフィを2重にしなければなりません。

上

初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)

このジョブ記述を使用するジョブに使用されるライブラリー・リストの初期ユーザー部分を指定します。

注: ライブラリー・リスト内でのライブラリー名の重複は許されません。

*SAME

ライブラリー・リストの初期ユーザー部分は変更されません。

*SYSVAL

このジョブ記述を使用するジョブにシステムの省略時のライブラリー・リストが使用されます。この省略時のライブラリー・リストには、このジョブ記述を使用するジョブが開始される時点でシステム値QUSRLIBLに指定されたライブラリー名が入っています。

*NONE

ライブラリー・リストのユーザー部分は空です。システム部分だけが使用されます。

その他の値 (最大250個指定可能)

名前 このジョブ記述を使用するジョブに使用されるライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーを指定します。

注: ライブラリーは、ここにリストされたのと同じ順序で検索されます。

上

初期ASPグループ (INLASPGRP)

このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドに、補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドは、ASPグループの設定 (SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更できます。ASPグループがスレッドと関連付けられた場合は、それらのASPグループの独立ASP中のすべてのライブラリーがアクセス可能となり、これらのライブラリー中のオブジェクトは正規のライブラリー修飾オブジェクト名の構文を使用して参照することができます。指定されたASPグループの独立ASPのライブラリーと、システムASP (ASP番号1)および基本ユーザーASP (ASP番号2から32)とをプラスしたものが、そのスレッドのライブラリー・ネーム・スペースを形成します。

制約事項:

1. ジョブ記述QGPL/QDFTJOBIDおよびQGPL/QDFTSVRは、ASPグループ名を指定するために変更できません。これらのジョブ記述の場合は、INLASPGRPは*NONEでなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドがASPグループなしで開始されることを指定します。ライブラリー・ネームスペースには、どのASPグループからのライブラリーも入れられません。ライブラリー・ネーム・スペースに入れられるのは、システムASPおよび基本ユーザーASPのライブラリーだけです。

名前 このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドに、ASPグループの名前が設定されることを指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASP装置の名前です。このASPグループ中のすべてのASPからのすべてのライブラリーがライブラリー・ネーム・スペースに入れられます。

メッセージのロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用されるメッセージのロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。

要素1: レベル

*SAME

メッセージ・ロギング・レベルは変更されません。

0から4 ジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定します。

- 0** メッセージは記録されません。
- 1** ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られる、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージが記録されます。これには、ジョブ開始、ジョブ終了、およびジョブ完了状況の指示が含まれます。
- 2** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報
 - このメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度コードの高レベル・メッセージを出す結果となる要求メッセージです。要求メッセージと、関連したすべてのメッセージの両方が記録されます。

注: 高レベル・メッセージとは、要求メッセージを受け取るプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージのことです。例えば、QCMDは、要求メッセージを受け取るIBM提供の要求処理プログラムです。
- 3** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1と2の情報
 - すべての要求メッセージ
 - CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。
- 4** 次の情報が記録されます。
 - すべての要求メッセージと、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージ（トレース・メッセージを含む）。
 - CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

要素2: 重大度

*SAME

メッセージ重大度レベルは変更されません。

0から99

ジョブ・ログに記録されるエラー・メッセージを決定するために、ロギング・レベルと一緒に使用されるメッセージ重大度レベルを指定します。

要素3: テキスト

*SAME

メッセージ・テキスト・レベルの値は変更されません。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き出されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプ(原因と回復)の両方がジョブ・ログに書き出されます。

***NOLIST**

ジョブが異常終了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合(ジョブ終了コードが20以上である場合)には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに表示されるメッセージには、メッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方が含まれていません。

上

CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されたコマンドの中で、記録することのできるコマンドを、CLプログラムのメッセージ待ち行列を経由してジョブ・ログに記録するかどうかを指定します。このパラメーターは、ジョブのロギング・フラグの状況をセットします。*NOを指定した場合には、ロギング・フラグ状況はオフとなり、CLコマンドは記録されません。ここで*YESを指定し、CLプログラム作成 (CRTCLPGM)コマンドのメッセージのロギング (LOG)パラメーターに*JOBを指定した場合には、CLプログラム中の記録可能なすべてのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

*SAME

値は変更されません。

***NO** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されません。

***YES** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されます。

上

ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)

ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

ジョブ・ログ出力値は、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で変更できます。ジョブのジョブ・ログ出力値を変更するには、ジョブの変更(QWTCHGJB) APIまたはジョブの変更(CHGJOB)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で表示できます。ジョブ・ログを表示するには、ジョブ・ログの表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブが完了して、ジョブ・ログがまだ作成または除去されていない時に除去できます。ジョブ・ログを除去するには、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIまたはジョブの終了(ENDJOB)コマンドを使用してください。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QLOGOUTPUTに指定された値が使用されます。

***JOBLOGSVR**

ジョブ・ログは、ジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。ジョブ・ログ・サーバーの詳細については、ジョブ・ログ・サーバーの開始(STRLOGSVR)コマンドを参照してください。

***JOBEND**

ジョブ・ログは、ジョブそのものによって作成されます。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。例えば、システムがシステムの電源遮断(PWRDWSYS)コマンドを処理している時には、ジョブはその固有のジョブ・ログを作成しません。

***PND** ジョブ・ログは作成されません。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

上

ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを指定します。

***SAME**

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズは変更されません。

***SYSVAL**

ジョブ開始時のQJOBMSGQMX (システム値) の値がジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズとして使用されます。

2から64

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ (メガバイト数) を指定します。

上

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時に取る処置を指定します。

***SAME**

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時のオプションは変更されません。

***SYSVAL**

QJOBMSGQFLシステム値に指定された値が使用されます。

***NOWRAP**

いっぱいになった時にメッセージ待ち行列は折り返しません。この処置でジョブが終了します。

***WRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、メッセージ待ち行列の始めに折り返し、再びメッセージが入れ始められます。

***PRTWRAP**

メッセージ待ち行列がいっぱいになった時には、ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しが行われ、折り返しによってオーバーレイされたメッセージが印刷されます。

上

CL構文検査 (SYNTAX)

(このジョブ記述を使用するジョブの場合) ジョブ・メッセージ待ち行列に入れられた要求をCLコマンドとして構文検査するかどうかを指定します。構文検査が指定された時には、ジョブの実行時にはなくコマンド投入時にコマンドの構文が検査されます。これによって、構文エラーをより早く診断できるようになります。検査が指定されている場合には、構文エラーのためにジョブの処理が終了するメッセージ重大度も指定することができます。

***SAME**

構文検査は変更されません。

***NOCHK**

要求データはCLコマンドとして構文検査されません。

0から99

ジョブの実行を終了させることができる最低のメッセージ重大度を指定します。要求データはCLコマンドとして構文検査されます。ここで指定するエラー・メッセージ重大度より大きいか等しい構文エラーが発生した場合には、エラーのあるコマンドが入っているジョブの実行が禁止されます。

上

終了重大度 (ENDSEV)

バッチ・ジョブ終了の原因となるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度レベルを指定します。バッチ入力ストリーム中の要求が、要求処理プログラムQCMDまたはQCLに送られ、その結果としてエスケープ・メッセージが出され、その重大度がここで指定したレベルより大きいか等しい時に、バッチ・ジョブが終了します。このパラメーター値が比較される重大度は、バッチ・ジョブ中の非コンパイルCLコマンドの結果として出され、モニターされないエスケープ・メッセージの重大度です。

***SAME**

このパラメーターの現行値は変更されません。

0から99

バッチ入力ストリーム中の要求の結果として出される、このジョブ記述を使用するジョブを終了させるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度を指定します。エスケープ・メッセージは特徴として最大重大度レベル50を持つので、エスケープ・メッセージの結果としてジョブを終了させるためには、50またはそれ以下の値を指定しなければなりません。指定された値より大きいか等しい重大度レベルを持つ、ここでは扱われていないエスケープ・メッセージが出されると、ジョブが終了します。

上

照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)

このジョブ記述を使用するジョブで照会メッセージに回答する方法を指定します。通常の方法で照会メッセージに回答するか、省略時の回答を出すか、あるいは一定の条件が満たされた場合に、その条件に基づいて照会メッセージに回答を出すように指定することができます。満たされた条件は、システム応答リスト項目追加 (ADDRPYLE)コマンドのシステム応答リスト項目にリストされます。

*SAME

照会メッセージ応答に使用する方法は変更されません。

***RQD** このジョブ記述を使用するジョブによって出される事前定義の照会メッセージに回答が必要です。

***DFT** このジョブ記述を使用するジョブの実行中に出される事前定義の照会メッセージに省略時の回答が使用されます。省略時の回答は、メッセージ記述に定義されるか、あるいは省略時のシステムの回答です。

*SYSRPYL

項目がこのジョブ記述を使用するジョブによって出された照会メッセージのメッセージIDおよび任意の比較値に一致するかどうかを判別するためには、システム応答リストが検査されます。一致があった場合には、その応答リスト項目の応答値が使用されます。そのメッセージに項目が存在していない場合には、回答が必要です。

上

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

このジョブ記述を使用するジョブが保留状態でジョブ待ち行列に入れられるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドによって解放されるか、あるいはジョブ終了 (ENDJOB)コマンドかジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ)コマンドのいずれかによってそれが終了されるまで、保留されます。

*SAME

ジョブの保留条件は変更されません。

***NO** このジョブ記述を使用するジョブは、ジョブ待ち行列に入れられる時に保留されません。

***YES** このジョブ記述を使用するジョブは、ジョブ待ち行列に入れられる時に保留されます。

上

ジョブ日付 (DATE)

ジョブ開始時にこのジョブ記述を使用するジョブに割り当てられる日付を指定します。

*SAME

ジョブ日付は変更されません。

*SYSVAL

ジョブの開始時のQDATEシステム値の値が、ジョブ日付として使用されます。

日付 開始するジョブのジョブ日付を指定します。DATFMTジョブ属性に現在指定されている形式を使用しなければなりません。

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブ記述を使用するジョブで使用される8個のジョブ・スイッチの初期設定値を指定します。これらのスイッチはCLプログラムの中で設定またはテストすることができ、これらのスイッチを使用してプログラムの流れを制御することができます。各単一桁スイッチに有効な値は、0 (オフ) または1 (オン) だけです。

*SAME

8個のジョブ・スイッチの値は変更されません。

文字値 ジョブ・スイッチの設定値を変更するための8個の0と1の組み合わせを（必要であればアポストロフィで囲んで）指定してください。

装置回復処置 (DEVRCYACN)

このジョブ記述を使用する対話式ジョブの*REQUESTOR装置で入出力エラーが見つかった時にそのジョブに対して取られる回復処置を指定します。非対話式ジョブの場合には、この属性は無視されます。

*SAME

ワークステーション回復処置は変更されません。

*SYSVAL

ジョブの開始時のシステム値QDEVRCYACNの値が、このジョブに対する装置回復処置として使用されます。

***MSG** 入出力操作を要求したアプリケーション・プログラムが、入出力操作が正常に実行されなかったことを示すエラー・メッセージを受け取ります。

*DSCMSG

ジョブは自動的に切断されます。ジョブは、再接続されると、入出力エラーが起こったが、装置が回復されていることを示すエラー・メッセージを受け取ります。装置は回復されていますが、エラーが起こった時の画面の内容を再表示しなければなりません。

*DSCENDRQS

ジョブは自動的に切断されます。ジョブが一度再接続されると、前の要求を出した処理プログラムを指定する要求終了 (ENDRQS)コマンドが出されます。使用可能な要求処理プログラムがない場合には、ENDRQSコマンドは正常に実行されず、エラー・メッセージが出されます。

*ENDJOB

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログが作成されます。

*ENDJOBNO LIST

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログは作成されません。

タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)

タイム・スライスの終わりに達した時に対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを指定します。長時間待ちが起こった場合には、ジョブは初めに実行されていたプールに戻されます。これは、対話式応答時間に対する影響を最小限にするのに役立ちます。

*SAME

タイム・スライス終了プールの値は変更されません。

*SYSVAL

ジョブの開始時のQTSEPOOLのシステム値が、このジョブ記述のタイム・スライス終了時のプールの処置として使用されることになります。

*NONE

タイム・スライスの終わりに達した時に、ジョブは移動されません。

*BASE

タイム・スライス終了プールに達した時に、ジョブは基本プールに移されます。

上

マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)

ジョブを複数のユーザー・スレッドで実行できるかどうかを指定します。この属性によって、オペレーティング・システムがジョブの中でシステム・スレッドを作成することが妨げられることはありません。ジョブを開始してからは、このジョブ属性を変更することはできません。この属性は、自動始動ジョブ、事前開始ジョブ、ジョブ・スケジュール項目から投入されたバッチ・ジョブ、そしてジョブ投入 (SBMJOB)およびバッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドを使用して開始されたジョブに適用されます。他のすべてのタイプのジョブを開始する時には、この属性は無視されます。この属性を*YESに設定する必要があるのは、複数のユーザー・スレッドを作成する機能で排他的に使用するジョブ記述の場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** このジョブは、複数のユーザー・スレッドで実行することはできません。

***YES** このジョブは、複数のユーザー・スレッドで実行することができます。

上

スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)

ジョブの終了後にジョブ・インターフェースを介してスプール・ファイルにアクセスするかどうかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。ジョブからスプール・ファイルを切り離すと、ジョブの終了時にジョブ構造のリサイクルが可能になるためにシステム資源の使用が削減されます。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

システム値QSPLFACNに指定された値が使用されます。

***KEEP**

ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に存在している場合には、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されます。ジョブの残りのスプール・ファイルがすべて独立ASP (ASP 33から255)に入っていると、それらのスプール・ファイルはジョブから切り離され、ジョブはシステムから除去されます。

***DETACH**

ジョブが終了すると、スプール・ファイルはジョブから切り離されて、そのジョブはシステムから除去されます。

上

DDM会話 (DDMCNV)

分散データ管理機能(DDM)プロトコルを使用する接続が、使用中でない時に活動状態のままかどうかを指定します。この接続には、APPCの会話、活動TCP/IPの会話、またはOPTICONNECT接続が含まれます。DDMプロトコルは、分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー(DRDA)アプリケーション、DDMアプリケーション、またはDB2マルチシステム・アプリケーションで使用されます。分散データ管理機能の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

***KEEP**

システムは、次の場合を除いて、もはや使用されていない場合であってもDDM会話の接続を活動状態に保ちます。

- ルーティング・ステップがソース・システムで終了した。
- DDM会話再利用 (RCLDDMCNV)コマンドまたは資源再利用 (RCLRSC)コマンドを使用して、会話を切り離す明示的な要求がある。
- 通信障害または内部的な障害がある。
- System iで実行されていないアプリケーション・サーバーに対するDRDA接続が終了する。

***DROP**

システムは、DDM割り振り会話がもはや使用されなければ、それを終了します。例えば、アプリケーションがDDMファイルをクローズする時、あるいはDRDAアプリケーションがSQL DISCONNECTステートメントを実行する時などです。

上

例

例1:ジョブ実行および出力優先順位の設定

```
CHGJOB  JOB(QGPL/QPGMR)  JOBPTY(2)  OUTPTY(2)
```

このコマンドによって、QGPLライブラリーのIBM提供のジョブ記述QPGMRを使用するジョブでは、QPGMRに当初指定されたものより高いジョブおよび出力優先順位で処理を行うことができます。QPGMRでは、当初ジョブ実行および出力優先順位はレベル5で設定されます。IBM提供のジョブ記述パラメータ値の詳細は、「CLプログラミング」の資料にあります。

例2:優先順位限界の変更

ユーザー・プロファイルは次のように作成されているものとします:

パート 1:

```
CRTUSRPRF  USRPRF(JLRAY)  PASSWORD(GAMMA)  SPCAUT(*JOBCTL)
           PTYLMT(4)  AUT(*NONE)
```

次に、ジョブ記述BATCH5の優先順位限界の変更を以下のコマンドによって試みます:

パート 2:

```
CHGJOBDB  JOBD(BATCH5)  USER(JLRAY)  JOBPTY(1)  OUTPTY(1)
```

ユーザー・プロファイルに指定された優先順位限界はジョブ記述に指定されたどの限界よりも優先するので、エラー・メッセージが送られ、優先順位はジョブと出力の両方の優先順位レベルについて4とみなされます。

例3:ワークステーションでサインオンするためのパスワードの要求

```
CHGJOBDB  JOBD(INT4)  USER(*RQD)  RTGDTA(QCMDI)  LOG(*SAME)
           ACGCDE('USERXYZ CODE123')  TEXT(*BLANK)
```

USERパラメーターは、ジョブ記述INT4のユーザーはワークステーションでサインオンするためにパスワードを入力する必要があることを示しています。ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルと比較される経路指定データとして、文字QCMDIが使用されます。LOGパラメーター・リストの値はすべて変更されません。このジョブ記述を使用するジョブには、ジョブの会計が活動状態である時に会計コード 'USERXYZ CODE123'の下に記録される会計データがあります。このジョブ記述のテキストはすべてブランクに変更されます。

例4:特定のジョブ待ち行列へのこのシステムを使用するジョブの送信

```
CHGJOBDB  JOBD(BATCH3)  JOBQ(NIGHTQ)  JOBPTY(4)  OUTPTY(4)
           RTGDTA(QCMDB)  INQMSGRPY(*DFT)
           TEXT('BATCH #3 JOBD FOR HIGH PRIORITY NIGHT WORK')
```

このコマンドは、ライブラリー検索リストにあるBATCH3という名前のジョブ記述を変更します。この記述を使用するジョブはジョブ待ち行列NIGHTQに入れられることとなります。この記述とそのスプール・ファイルを使用するジョブの優先順位は4です。QCMDBは、ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルの項目と比較される経路指定データです。テキストは、このジョブ記述は高優先順位の夜間作業(HIGH PRIORITY NIGHT WORK)用であることを示すように変更されます。INQMSGRPYパラメーターは、このジョブ記述を使用しているジョブから出されたタイプ*INQのすべてのメッセージによって、省略時の応答メッセージが自動的に出されることを指定しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1618

ライブラリー&2のジョブ記述&1に損傷がある。

CPF1625

ライブラリー&2のジョブ記述&1は変更されなかった。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

上

ジョブMLB属性の変更 (CHGJOBMLBA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブMLB属性の変更(CHGJOBMLBA)コマンドによって、ジョブの媒体ライブラリー資源割り振り属性を変更することができます。

制約事項:

1. 変更されているジョブがコマンドを出したユーザーと同じユーザー・プロファイルを使用しているか、あるいは投入者がジョブ制御特殊権限(*JOBCTL)を持っていないとなりません。
2. 資源割り振り優先順位を変更することができるのは、ジョブ制御特殊権限(*JOBCTL) があるユーザーだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
MLB	ライブラリー装置	名前, *ALL	オプション, キー, 定位置 2
RSCALCPTY	資源割り振り優先順位	1-99, *SAME, *DEV, *JOB	オプション
INLMNTWAIT	初期マウント待機時間	1-600, *SAME, *DEV, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション
EOVMNTWAIT	ボリューム・マウント終了待機時間	1-600, *SAME, *DEV, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション

上

ジョブ名 (JOB)

属性が変更されるジョブの名前を指定します。

単一値

* 情報が変更されているジョブは、このコマンドが入力されたジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 属性が変更されるジョブのジョブ名を指定してください。

ジョブ修飾子が指定されていない場合には、ジョブ名を見つけるために、システムに現在あるすべてのジョブが検索されます。指定した名前が複数見つかる場合には、ジョブ修飾子を指定しなければなりません。

修飾子2: ユーザー

名前 属性が変更されるジョブのユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

属性が変更されるジョブのジョブ番号を指定してください。

上

ライブラリー装置 (MLB)

属性を変更するテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定します。この装置名は、装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドを使用して、システム上に前に作成されていなければなりません。

***ALL** 属性変更をすべての媒体ライブラリー装置に適用します。

名前 属性が変更されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

上

資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)

このジョブの媒体ライブラリー装置の資源割り振り優先順位を指定します。ジョブの媒体ライブラリー装置の資源割り振り優先順位が変更されていない場合には、*DEVが使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DEV** 資源割り振り優先順位は装置記述から検索します。

***JOB** ジョブの優先順位が資源割り振り優先順位として使用されます。

1から99

資源を要求する際のこのジョブの優先順位を指定してください。1（最高）から99（最低）までです。

上

初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)

初期マウントの場合に要求がテープ資源の割り振りを待機する最大時間量を指定します。ジョブの媒体ライブラリー装置の初期マウント待機時間が変更されていない場合には、*DEVが使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DEV** 初期マウント待機時間は装置記述から検索します。

***JOB** 初期マウント待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性を、次に大きい分数に丸めることによって決められます。

***IMMED**

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

***NOMAX**

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

1から600

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。

上

ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)

次のボリュームをマウントするテープ資源の割り振りを要求が待機する最大時間量を指定します。ジョブの媒体ライブラリー装置のボリューム・マウントの終わり待機時間が変更されていない場合には、*DEVが使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DEV** ボリューム・マウントの終わり待機時間は装置記述から検索します。

***JOB** ボリューム・マウントの終わり待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性を次に大きい分数に丸めることによって決定されます。

***IMMED**

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

***NOMAX**

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

1から600

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。

上

例

例1:現行ジョブの資源割り振り優先順位の変更

```
CHGJOBMLBA RSCALCPTY(50)
```

このコマンドは、現行ジョブのすべてのテープ媒体ライブラリー装置の資源割り振り優先順位を50に変更します。

例2:特定のジョブの初期マウント待機時間の変更

```
CHGJOBMLBA JOB(002345/USERX/QDFTJOB) INLMNTWAIT(2)
```

このコマンドは、指定されたジョブのすべてのテープ媒体ライブラリー装置の初期マウント待機時間を2分に変更します。

例3:現行ジョブによって使用されるすべてのテープ媒体ライブラリーの資源割り振り優先順位の変更

CHGJOBMLBA MLB(*ALL) RSCALCPTY(50)

このコマンドは、現行ジョブのすべてのテープ媒体ライブラリー装置の資源割り振り優先順位を50に変更します。

例4:現行ジョブによって使用される特定のテープ媒体ライブラリーの資源割り振り優先順位の変更

CHGJOBMLBA MLB(TAPMLB01) RSCALCPTY(50)

このコマンドは、現行ジョブのTAPMLB01の資源割り振り優先順位を50に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF67B5

&3/&2/&1は属性の変更を認可されていない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

ジョブ待ち行列の変更 (CHGJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列変更(CHGOUTQ)コマンドによって、ユーザーは指定したジョブ待ち行列の属性を変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
OPRCTL	操作員制御	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 2
AUTCHK	検査権限	*SAME, *OWNER, *DTAAUT	オプション

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

属性を変更したいジョブ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 変更するジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストが指定されている場合、変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

操作員制御 (OPRCTL)

ジョブ制御権限を持つユーザーが、このジョブ待ち行列上に項目のあるジョブを制御および変更することができるかどうかを指定します。

*SAME

ジョブ待ち行列の操作員制御属性に指定された現在の値は変更されません。

***YES** ジョブ制御権限を持つユーザーは待ち行列を制御することができ、その待ち行列上の項目に変更を加えることができます。

***NO** ジョブ制御権限を持つユーザーは、他にも特殊権限を持っている場合を除いて、この待ち行列およびその項目を操作したり変更したりすることはできません。

上

検査権限 (AUTCHK)

ジョブ待ち行列に対してどのタイプの権限を持っているユーザーが待ち行列上のすべてのジョブを制御することができるかを指定します。ある種の特殊権限を持つユーザーもジョブを制御できる場合があります。

*SAME

ジョブ待ち行列に指定されている検査権限属性の現行の値は変更されません。

***OWNER**

ジョブ待ち行列権限テストを通過するためには、要求元はジョブ待ち行列に対する所有権限を必要とします。要求元は、ジョブ待ち行列の所有者となるか、グループ・プロファイルを待ち行列の所有者と共用するか、あるいは所有者の権限に合うプログラムを実行することで所有権限を持つことができます。

***DTAAUT**

ジョブ待ち行列に対して追加、読み取り、および削除の権限を持っているユーザーが、待ち行列上のすべてのジョブを制御することができます。

上

例

CHGJOBQ JOBQ(QBATCH) OPRCTL(*NO)

このコマンドは、ジョブ制御特殊権限を持ったユーザーに対して、そのユーザーが他の特殊権限を持っていない限り、ジョブ待ち行列QBATCHのジョブを制御または管理する権限を剥奪します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

上

ジョブ待ち行列項目変更 (CHGJOBQE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列項目変更 (CHGJOBQE)コマンドは、指定されたサブシステム記述中の既存のジョブ待ち行列項目を変更します。このコマンドは、サブシステムが活動状態であっても非活動状態であっても出すことができます。ジョブ待ち行列項目は、サブシステムでの実行のためにどのジョブ待ち行列からジョブを選択するかを指定します。ジョブは、スプーリング読み取りプログラムによって、あるいは次のコマンドを使用することによってジョブ待ち行列に入れることができます。

- ジョブ投入 (SBMJOB)
- データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB)
- ディスケット・ジョブ投入 (SBMDKTJOB)
- ジョブ転送 (TFRJOB)
- バッチ・ジョブ転送 (TFRBCHJOB)

サブシステムでは、順序番号の小さいジョブ待ち行列が最初に処理されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)、オブジェクト管理(*OBJMGT)、および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須、定位置 2
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXACT	活動ジョブの最大数	0-1000, *SAME, *NOMAX	オプション、定位置 3
SEQNBR	順序番号	1-9999, *SAME	オプション
MAXPTY1	最大活動優先順位 1	0-99, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXPTY2	最大活動優先順位 2	0-99, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXPTY3	最大活動優先順位 3	0-99, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXPTY4	最大活動優先順位 4	0-99, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXPTY5	最大活動優先順位 5	0-99, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXPTY6	最大活動優先順位 6	0-99, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXPTY7	最大活動優先順位 7	0-99, *SAME, *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MAXPTY8	最大活動優先順位 8	0-99, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
MAXPTY9	最大活動優先順位 9	0-99, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション

上

サブシステム記述 (SBSD)

変更しようとしているジョブ待ち行列項目の入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ジョブ待ち行列項目が変更されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:IBM提供オブジェクトQSYSSBSDはこのパラメーターには正しくありません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

サブシステムによって開始されるバッチ・ジョブの送信元であるジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。ジョブ待ち行列名がサブシステム記述で保持されるので、項目の追加または変更時にジョブ待ち行列が存在していない場合には、*LIBL以外のライブラリー修飾子を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 サブシステムによって開始されるバッチ・ジョブのソースであるジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

上

活動ジョブの最大数 (MAXACT)

このジョブ待ち行列を介して同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定します。

***SAME**

同時に活動状態にできるジョブの最大数は変更されません。

***NOMAX**

このジョブ待ち行列項目を介して同時に開始できるジョブの最大数には制限がありません。しかし、ルーティング項目の最大活動レベル、サブシステム、または特定のジョブ優先順位レベルによって、ジョブの開始が妨げられる場合があります。*NOMAXを指定した場合には、使用中の記憶域プールの活動レベルのためにジョブが同時に実行できない可能性があっても、ジョブ待ち行列上のすべてのジョブが開始されます。

0から1000

このジョブ待ち行列項目を介して同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

このジョブ待ち行列の順序番号を指定します。これは、ジョブ待ち行列が処理される順序を決定するためにサブシステムによって使用されます。

サブシステムは、まず最低の順序番号を持つジョブ待ち行列からジョブを選択します。その待ち行列上のすべてのジョブが処理されるか、あるいは**活動ジョブの最大数 (MAXACT)**パラメーターに指定されたジョブの数に達すると、サブシステムは、次に高い順序番号を持つ待ち行列上のジョブを処理します。この手順は、すべてのジョブ待ち行列項目が処理されるか、あるいはサブシステムが一般最大ジョブ数の限界に達するまで続けられます。場合によっては、この順序が中断され、サブシステムはより低い優先順位のジョブ待ち行列を処理します。このサブシステムでこれが起こるのは、次のいずれかの条件が起こった場合です。

- 保留されていたジョブまたはジョブ待ち行列が解放された。
- ジョブがジョブ待ち行列に入れられたか、あるいは転送された。
- 新規の待ち行列が割り振られた。
- ジョブが終了した。

***SAME**

このジョブ待ち行列に割り当てられた順序番号は変更されません。

1から9999

このジョブ待ち行列に割り当てられた順序番号を指定してください。順序番号はサブシステム記述内で固有としなければなりません。

最大活動優先順位 1 (MAXPTY1)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

*SAME

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

*NOMAX

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数に制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。 0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

最大活動優先順位 2 (MAXPTY2)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

*SAME

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

*NOMAX

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数に制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。 0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

最大活動優先順位 3 (MAXPTY3)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

*SAME

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

*NOMAX

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数に制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。 0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

最大活動優先順位 4 (MAXPTY4)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

***SAME**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

***NOMAX**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数の制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

上

最大活動優先順位 5 (MAXPTY5)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

***SAME**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

***NOMAX**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数の制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

上

最大活動優先順位 6 (MAXPTY6)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

***SAME**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

***NOMAX**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数の制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

上

最大活動優先順位 7 (MAXPTY7)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

***SAME**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

***NOMAX**

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数の制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

上

最大活動優先順位 8 (MAXPTY8)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

*SAME

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

*NOMAX

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数に制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

上

最大活動優先順位 9 (MAXPTY9)

指定されたジョブ優先順位レベルで開始できるジョブの数を指定します。

*SAME

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数は変更されません。

*NOMAX

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数に制限を設けません。

0から99

特定の優先順位レベルで開始されるジョブの数を指定してください。0の値は、特定の優先順位レベルから開始されるジョブはないことを示します。

上

例

```
CHGJOBQE  SBS(D(QGPL/QBATCH) JOBQ(QGPL/QBATCH) MAXACT(4)
           MAXPTY1(1) MAXPTY2(*NOMAX)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのジョブ待ち行列QBATCHから同時に活動状態にできるジョブの最大数を変更します。ジョブ待ち行列項目の順序番号は変更されません。QBATCHジョブ待ち行列からの最大4個のジョブを同時に活動状態とすることができます。優先順位レベル1から活動状態にできるのは1個のジョブだけです。優先順位レベル2から同時に活動状態にできるジョブの最大数に制限はありません。優先順位レベル3から9は変更されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

ジョブ・スケジュール項目変更 (CHGJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目変更 (CHGJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュールの項目を変更することができます。

ジョブ・スケジュール項目には、バッチ・ジョブを自動的に投入するために必要なすべての情報が入っています。次を変更するために、このコマンドを使用することができます。

- ジョブが実行するコマンド
- ジョブの実行をスケジュールする日付および時刻
- ジョブをスケジュール時刻に投入できない場合にシステムが取る回復処置
- これによってジョブを実行するジョブ記述およびユーザー・プロファイル
- 投入時にジョブを入れるジョブ待ち行列
- メッセージを送るメッセージ待ち行列

各ジョブ・スケジュール項目は、このコマンドのJOBパラメーターに指定されるジョブ名と、その項目の追加時にシステムによって割り当てられる項目番号によって識別されます。項目の追加時に送られるメッセージには、この項目番号が入っています。同じジョブ名の項目が複数ある場合には、このコマンドを使用して項目を変更し、ジョブ・スケジュール項目除去 (RMVJOBSCDE)コマンドを使用して項目を除去する時、あるいはジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE)またはジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)コマンドを使用して項目を保留または解放する時に、この番号を指定することが必要な場合があります。項目の表示または印刷には、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用することができます。

詳細な情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

制約事項:

1. このコマンドの発行側は、変更しているジョブ・スケジュール項目のジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。あるいはコマンドの発行側は、ジョブ制御 (*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。ジョブ・ユーザー識別の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

2. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 実行するコマンド (CMD)パラメーターによって指定されたコマンドに対する使用(*USE)権限、およびそのコマンドが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ジョブ記述(JOBD)に対する使用(*USE)権限、およびそのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

- ジョブ待ち行列(JOBQ)に対する使用(*USE)権限, およびそのジョブ待ち行列が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。 ジョブ待ち行列に対する権限は, 借用権限から取ることはできません。
- ジョブが実行されるユーザー・プロファイル(USER)に対する使用(*USE)権限。
- メッセージ待ち行列(MSGQ)に対する使用(*USE)および追加(*ADD)権限, およびそのメッセージ待ち行列が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。 メッセージ待ち行列に対する権限は, 借用権限から取ることはできません。
- ライブラリーQUSRSYS中のオブジェクトQDFTJOBSCD,タイプ*JOBSCDに対する変更(*CHANGE)権限, およびライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOB	ジョブ名	名前	必須, キー, 定位置 1
ENTRYNBR	項目番号	000001-999999, <u>*ONLY</u>	オプション, キー
CMD	実行するコマンド	コマンド・ストリング	オプション
FRQ	頻度	<u>*SAME</u> , *ONCE, *WEEKLY, *MONTHLY	オプション
SCDDATE	スケジュール日	日付, <u>*SAME</u> , *CURRENT, *MONTHSTR, *MONTHEND, *NONE	オプション
SCDDAY	スケジュール曜日	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
SCDTIME	スケジュール時刻	時刻, <u>*SAME</u> , *CURRENT	オプション
RELDAYMON	月の相対日	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *LAST, 1, 2, 3, 4, 5	オプション
SAVE	保管	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
OMITDATE	省略の日付	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 日付	オプション
RCYACN	回復処置	<u>*SAME</u> , *SBMRLS, *SBMHLD, *NOSBM	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: <u>*SAME</u> , *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *JOBQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USER	ユーザー	名前, *SAME, *JOBID, *CURRENT	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変更したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

上

項目番号 (ENTRYNBR)

変更したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。項目が正常に追加された時に送信されるメッセージには、この項目番号が入っています。また、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用して項目番号を判別することもできます。選択した項目の項目番号を表示するためには、ジョブ・スケジュール項目の処理画面でF11キーを押してください。

*ONLY

ジョブ・スケジュールの1つの項目だけがJOBパラメーターに指定されたジョブ名を持ちます。

*ONLYが指定され、複数の項目が指定されたジョブ名を持つ場合には、項目は変更されずに、エラー・メッセージも送信されません。

000001から999999

変更したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。

上

実行するコマンド (CMD)

投入済みジョブで実行されるコマンドを指定します。ジョブを開始する時には、IBM提供の省略時のルーティング・プログラムQCMDを使用しなければなりません。そうしないと、ジョブは実行されません。指定したコマンドが要求データに対して使用されるので、ジョブ記述のRQSDTAパラメーターに指定された値は無視されます。指定するコマンドは、項目の追加時に構文検査されます。

コマンド・ストリング

最大512文字を指定します。

頻度 (FRQ)

実行するジョブの投入回数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*ONCE

ジョブは1回投入されます。

*WEEKLY

ジョブは毎週同じ曜日のスケジュール時刻に投入されます。

*MONTHLY

ジョブは毎月同じ日のスケジュール時刻に投入されます。

*MONTHLYを指定し、その月にSCDDATEパラメーターで指定された日付が入っていない場合には、ジョブはその月には実行されません。例えば、SCDDATE(01/31/93)およびFRQ(*MONTHLY)が指定された場合には、ジョブは01/31, 03/31, 5/31, 7/31, 8/31, 10/31, および12/31に実行されますが、2月, 4月, 6月, 9月, および11月には実行されません。毎月の最後の日にジョブを投入するためには、SCDDATE(*MONTHEND)を指定してください。

*MONTHLYが指定されて、システムまたはジョブが年間通算日形式を使用するように構成されている場合には、システムまたはジョブが年間通算日形式を使用しない場合に実行される日付にジョブが投入されます。

スケジュール日 (SCDDATE)

実行するジョブの投入日を指定します。

システムまたはジョブが年間通算日形式を使用するように構成されている場合には、システムまたはジョブが年間通算日形式を使用しない場合の時のように、*MONTHSTRおよび*MONTHENDが計算されます。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

ジョブは現行日付に投入されます。

*MONTHSTR

ジョブは月の最初の日付に投入されます。*MONTHSTRが指定され、今日がSCDDTIME パラメーターに指定した月の最初の日付および時刻を過ぎていない場合には、ジョブは今日投入されます。そうでない場合には、ジョブは次の月の最初の日に投入されます。

*MONTHEND

ジョブは月の最後の日付に投入されます。*MONTHENDが指定され、今日がSCDDTIME パラメーターに指定した月の最後の日付および時刻を過ぎていない場合には、ジョブは今日投入されます。そうでない場合には、ジョブは次の月の最後の日に投入されます。

***NONE**

ジョブが投入される日付は指定されません。SCDDATE(*NONE)が指定された場合には、SCDDAYに対して*NONE以外の値を指定しなければなりません。

日付 ジョブ日付の形式で日付を指定します。

上

スケジュール曜日 (SCDDAY)

ジョブが投入される曜日を指定します。

SCDDATEとSCDDAYのパラメーターは一緒に使用することはできません。

今日がこのパラメーターに指定された曜日で、SCDTIMEパラメーターに指定された時刻を過ぎていない場合には、ジョブは今日投入されます。そうでない場合には、ジョブは次の指定された曜日に投入されます。例えば、SCDDAY(*FRI)およびSCDTIME(12:00:00)が指定され、このジョブ・スケジュール項目を金曜日の11:00 A.M. に追加している場合には、そのジョブはその日に投入されます。この項目を金曜日の4:00 P.M.または月曜日の11:00 A.M.に追加している場合には、そのジョブは次の金曜日に投入されます。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ジョブの投入日は指定されません。SCDDATE(*NONE)が指定された場合には、SCDDAY(*NONE)は無効です。

***ALL** ジョブは毎日投入されます。

その他の値 (最大7個指定可能)

***MON** ジョブは月曜日に投入されます。

***TUE** ジョブは火曜日に投入されます。

***WED** ジョブ是水曜日に投入されます。

***THU** ジョブは木曜日に投入されます。

***FRI** ジョブは金曜日に投入されます。

***SAT** ジョブは土曜日に投入されます。

***SUN** ジョブは日曜日に投入されます。

上

スケジュール時刻 (SCDTIME)

ジョブが実行のために投入されるスケジュール日付の時刻を指定します。

注: 時刻は秒単位まで指定できますが、ジョブの投入に関係する活動およびシステム上の負荷が、ジョブの投入される正確な時刻に影響することがあります。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

ジョブは現在の時刻に投入されます。SCDTIME(*CURRENT)およびSCDDATE(*CURRENT)を指定した場合には、ジョブは指定されたジョブ待ち行列に即時に投入されます。

時刻 ジョブを投入したい時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH** =時、**MM** =分、**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、このストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

月の相対日 (RELDAYMON)

ジョブが実行のために投入される相対日付を指定します。

このパラメーターが有効なのは、SCDDAYパラメーターに値が指定され、FRQ(*MONTHLY)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

その他の値 (最大5個指定可能)

- 1 ジョブは、その月の最初の指定された曜日に投入されます。例えば、SCDDAY(*TUE)、FRQ(*MONTHLY)、およびRELDAYMON(1)が指定された場合には、ジョブは毎月第1火曜日に投入されます。
- 2 ジョブは、その月の2回目の指定された曜日に投入されます。
- 3 ジョブは、その月の3回目の指定された曜日に投入されます。
- 4 ジョブは、その月の4回目の指定された曜日に投入されます。
- 5 ジョブは、その月の5回目の指定された曜日に投入されます。

***LAST**

ジョブは、その月の最後の指定された曜日に投入されます。

上

保管 (SAVE)

1回だけ投入されるジョブの項目をジョブの投入後に保管するかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、FRQ(*ONCE)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 項目はジョブの投入後に保管されません。

***YES** 項目はジョブの投入後に保管されます。 *YESを指定した場合には、ジョブは一度だけ投入されます。 ジョブ・スケジュール項目変更 (CHGJOBSCDE)コマンドを使用して、新しい日付および時刻を指定するまで、ジョブは実行されません。

上

省略の日付 (OMITDATE)

ジョブを投入しない日付を最大20までを指定します。例えば、このパラメーターを使用して、休日にジョブが実行されないようにすることができます。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ジョブが投入されない日付はありません。

その他の値 (最大20個指定可能)

日付 ジョブが投入されない日付を指定します。

上

回復処置 (RCYACN)

システムの電源オフまたは制限状態にあるために、指定された時刻にジョブを投入できない場合に取られる回復処置を指定します。 次回のIPL時、あるいはシステムが制限状態から出た時に、このパラメーターに指定された処置が取られます。

IPL時にまたはシステムが制限状態から出た時に投入されるジョブは、ジョブ・スケジュール項目に指定された時点でジョブが投入されたのと同じ順序で投入されます。 複数回繰り返し投入されるジョブが脱落した場合には、そのジョブは1回だけしか投入されません。 複数回繰り返しの最初の脱落したジョブがジョブの順序付けに使用されます。 繰り返し投入される次のジョブは現行日付から計算されます。

IPLのスケジューラー部分は、システムのIPLの完了の場合に完了する必要がないので、すべてのジョブを投入する前に、その他のジョブをシステム上で開始することができます。

このパラメーターは次の場合に適用されません。

- ジョブが投入された日付および時刻に保留中であった後にジョブを解放する時
- 終了日付および時刻のシステム値の変更のために、ジョブの投入の日付および時刻が過ぎた時

***SAME**

値は変更されません。

***SBMRLS**

ジョブは解放された状態(RLS)で投入されます。

*SBMHL D

ジョブは保留状態(HLD)で投入されます。

*NOSBM

ジョブは投入されません。

*NOSBMを指定すると、脱落した繰り返しジョブだけに影響します。ジョブ・スケジュール項目が繰り返し投入ジョブの場合には、その後の繰り返し投入には影響しません。

上

ジョブ記述 (JOB D)

ジョブの投入時に使用されるジョブ記述の修飾名を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*USRPRF

これで投入されたジョブを実行する、ユーザー・プロファイルに指定されたジョブ記述が使用されます。USERパラメーターがユーザー・プロファイルを指定します。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入っているジョブ待ち行列の修飾名を指定します。

このパラメーターに名前を指定するためには、その待ち行列に対する権限が必要です。待ち行列に対する権限は、借用権限から取ることはできません。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*JOB

投入済みジョブはジョブ記述に指定されたジョブ待ち行列に入れられます。JOBパラメーターがジョブ記述を指定します。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ユーザー (USER)

ジョブを投入するユーザー・プロファイルの名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

ジョブは、項目を変更するユーザーのユーザー・プロファイルで投入されます。

*JOB

ジョブ記述のUSERパラメーターに指定されたユーザー・プロファイルが使用されます。このコマンドのJOBパラメーターがジョブ記述を指定します。USER(*RQD)がジョブ記述に指定された場合には、この値は正しくありません。

名前 使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定します。ユーザーはそのユーザー・プロファイルに対して認可されていなければなりません。ユーザー・プロファイルは、このコマンドに指定されたジョブ待ち行列、ジョブ記述、およびメッセージ待ち行列に対して認可されていなければなりません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

メッセージの送り先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。

メッセージは、ジョブが投入された時および投入済みジョブの実行が完了した時に送信されます。次の場合には、このパラメーターに指定された値に関係なく、重大エラーを示すメッセージがQSYSOPRメッセージ待ち行列へ送られます。

- このパラメーターに指定されたメッセージ待ち行列に損傷がある。
- MSGQ(*NONE)が指定される。

- MSGQ(*USRPRF)およびUSER(*JOBQ)が指定され、JOBQパラメーターに指定されたジョブ記述が項目の追加後にUSER(*RQD)に変更される。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*USRPRF

投入済みジョブが実行される、ユーザー・プロファイルに指定されたメッセージ待ち行列が使用されます。USERパラメーターがユーザー・プロファイルを指定します。

*NONE

完了メッセージは送信されません。エラー・メッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送信されます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 メッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1:ジョブ・スケジュール項目の変更

```
CHGJOBSCDE JOB(BACKUP) ENRYNBR(001584) JOBQ(QGPL/QBATCH)
```

このコマンドは、そのジョブがライブラリーQGPLのジョブ待ち行列QBATCHに投入されるように、ジョブ・スケジュール項目BACKUP番号001584を変更します。

例2:ジョブ・スケジュール項目の変更

```
CHGJOBSCDE JOB(EXAMPLE) ENRYNBR(*ONLY) CMD(CALL PGM(A))  
FRQ(*WEEKLY) SCDDATE(121503) SCDTIME(110000)
```

このコマンドは、バッチ・ジョブが12/15/03と毎週その同じ日の11 A.MにプログラムAを実行するようにスケジュールします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1620

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4は変更されなかった。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

上

ジャーナル変更 (CHGJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル変更(CHGJRN)コマンドは、ジャーナル・レシーバー、ジャーナル・メッセージ待ち行列、レシーバー管理属性、レシーバー削除属性、レシーバー・サイズ・オプション、ジャーナル状態を変更して、最小化された項目特有のデータ、ジャーナル・キャッシュ、ジャーナル・レシーバーしきい値、ジャーナル・オブジェクト限界、ジャーナル回復カウント、または指定されたジャーナルに関連したテキストを使用できるようにします。このコマンドによって、1つのジャーナル・レシーバーを、指定したジャーナルに接続することができます。これで、以前に接続済みのジャーナル・レシーバーが置き換えられます。新しく接続されたジャーナル・レシーバーは、ジャーナルのためにジャーナル項目の受け取りを即時に開始します。

ジャーナル項目の順序番号付けは、レシーバーが変更された時にリセットすることができます。順序付けがリセットされない場合には、新しく接続されたレシーバーの最初の順序番号が示されている通知メッセージが送信されます。RCVSIZEOPT (*MAXOPT1または*MAXOPT2)がジャーナルに有効になっている場合は、最初の順序番号が9,500,000,000より大きいと、順序番号をリセットするように勧める通知メッセージ(CPF7019)がシステム操作員に送信されます。RCVSIZEOPT (*MAXOPT3)がジャーナルに有効になっている場合は、最初の順序番号が18,446,600,000,000,000より大きいと、順序番号をリセットするように勧める通知メッセージ(CPF7019)がシステム操作員に送信されます。有効になっていない場合は、最初の順序番号が2,000,000,000より大きい場合に、CPF7019が送信されます。

JRNRCVパラメーターに*SAMEが指定されている場合には、現在接続されているジャーナル・レシーバーが接続されたままになります。

イメージの比較、ジャーナルの表示、ジャーナル項目の受け取りまたは検索、ジャーナル変更の適用または除去、ジャーナル属性の処理、ジャーナル・レシーバーの復元、またはジャーナル・レシーバー属性の表示といったジャーナル機能が進行中であっても、ジャーナル・レシーバーは変更できます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、ユーザーがQPQGM、QSYSOPR、またはQSRVとしてサインオンしているか、あるいは*ALLOBJ権限を持っていない限りなりません。
- 指定するレシーバーはこのコマンドを出す前に作成されたもので、空でなければなりません（つまり以前にジャーナルに接続されたことがないレシーバーか、あるいはジャーナルへの接続を処理中のレシーバーでなければなりません）。
- 特定の任意の時点で、ジャーナルに複数のジャーナル・レシーバーを接続できません。
- JRNRCV(*SAME)が指定されている場合に、ジャーナル処理されているオブジェクトに、補助記憶装置にまだ強制書き出しされていない変更を含んでいる場合、またはジャーナルと関連した変更のコミット制御が保留されている場合には、順序番号のリセットは無効です。最大順序番号に達した場合には、エラー・メッセージが送信されて（項目はジャーナル処理されない）、ジャーナル処理を必要とする後続のすべての操作が失敗します。
- RCVSIZEOPTパラメーターからの*MAXOPTの値の1つがジャーナルに対して有効でない場合には、接続されているジャーナル・レシーバーに指定できる最大しきい値は1,919,999キロバイトです。

- ジャーナルで現在RCVSIZEOPTパラメーターの*MAXOPTの値の1つが有効になっていて、CHGJRN要求の一部として*MAXOPTの値が指定されていない場合には、SEQOPT(*RESET)を指定する必要があります。
- ジャーナルが入っているライブラリーが独立ASP上にある場合には、指定するジャーナル・レシーバーはジャーナルのライブラリーと同じASPグループ内の独立ASP上になければなりません。同様に、ジャーナルが入っているライブラリーが独立ASP上にない場合には、指定するジャーナル・レシーバーを独立ASP上に置くことはできません。
- RCVSIZEOPT(*MINFIXLEN)およびFIXLENDTAをシステム機密保護監査ジャーナルQSYS/QAUDJRNに使用することはできません。機密保護監査ジャーナルのジャーナル項目は、監査目的に使用できるすべてのデータを入れるために必要です。
- ジャーナルで現在RCVSIZEOPT(*MAXOPT3)が有効になっていて、*MAXOPT3がCHGJRN要求の一部として指定されない場合には、SEQOPT(*RESET)を指定しなければなりません。
- JRNOBJLMT(*MAX10M)が有効なのは、RCVSIZEOPTパラメーターに*MAXOPTの値の1つが指定されている場合だけです。
- JRNOBJLMT(*MAX10M)は、ジャーナルに指定されると、変更することができません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジャーナル・レシーバー	単一値: *GEN その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: ジャーナル・レシーバー	単一値: *GEN その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQOPT	順序付けオプション	*CONT, *RESET	オプション
MSGQ	ジャーナル・メッセージ待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジャーナル・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MNGRCV	レシーバーの管理	*SAME, *SYSTEM, *USER	オプション
DLTRCV	レシーバーの削除	*SAME, *NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
RCVSIZEOPT	レシーバー・サイズ・オプション	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSDFT, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *RMVINTENT, *MINFIXLEN, *MAXOPT1, *MAXOPT2, *MAXOPT3	オプション
JRNSTATE	ジャーナル状態	<u>*SAME</u> , *ACTIVE, *INACTIVE, *STANDBY	オプション
MINENTDTA	項目固有のデータの最小化	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *FILE, *FLDBDY, *DTAARA	オプション
JRNCACHE	ジャーナル・キャッシング	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
MNGRCVDLY	受信側遅延時間の管理	1-1440, <u>*SAME</u>	オプション
DLTRCVDLY	受信側遅延時間の削除	1-1440, <u>*SAME</u>	オプション
FIXLENDTA	固定長データ	単一値: <u>*SAME</u> , *JOBUSRPGM その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *JOB, *USR, *PGM, *PGMLIB, *SYSSEQ, *RMTADR, *THD, *LUW, *XID	オプション
THRESHOLD	ジャーナル・レシーバーしきい値	100000-1000000000, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
JRNOBJLMT	ジャーナル・オブジェクト限界	<u>*SAME</u> , *MAX10M	オプション
JRNRCYCNT	ジャーナル回復カウント	10000-2000000000, <u>*SAME</u> , *SYSDFT	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK, <u>*SAME</u>	オプション

上

ジャーナル (JRN)

ジャーナル・レシーバーまたは操作属性が変更されるジャーナル名およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

ジャーナル名

ジャーナル・レシーバーまたは運用属性を変更しようとしているジャーナルを指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

指定したジャーナルに接続するジャーナル・レシーバーを指定します。

注: このパラメーターをリモート・ジャーナルに指定することはできません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***GEN** ジャーナル・レシーバーは、システムによって作成されてから指定されたジャーナルに接続されません。ジャーナル・レシーバーは、現在接続されているジャーナル・レシーバーと同じ属性、同じ所有者、同じ権限、同じ監査レベルで、同じライブラリーに作成されます。新しいジャーナル・レシーバーの名前は、現行レシーバーの名前の部分に4桁の番号を付加するか、あるいは現行ジャーナル・レシーバーの名前の番号に1を追加することによって命名されます。作成および接続されたジャーナル・レシーバーの名前は通知メッセージの中に戻されます。生成されたジャーナル・レシーバー名の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

要素1: ジャーナル・レシーバー

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

レシーバー名

識別されたジャーナルに接続するジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。このジャーナル・レシーバーは、指定したライブラリーに既に作成されていて、まだジャーナルに接続されたことがないか、あるいはジャーナルに接続する処理中ではないものでなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: ジャーナル・レシーバー

2番目のジャーナル・レシーバー（指定された場合）は無視されます。

上

順序付けオプション (SEQOPT)

ジャーナル順序番号が現在接続されているジャーナル・レシーバーから続けられるか、あるいはジャーナル順序番号が新しく接続されるジャーナル・レシーバーで1にリセットされるかを指定します。

注: このパラメーターをリモート・ジャーナルに指定することはできません。

*CONT

次に作成されるジャーナル項目のジャーナル順序番号は、現在接続されているジャーナル・レシーバーの最後のジャーナル項目の順序番号より1つ大きくなります。

*RESET

新しく接続された各ジャーナル・レシーバーの最初のジャーナル項目のジャーナル順序番号は1にリセットされます。ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)パラメーターで*SAMEが指定された場合、ジャーナル処理されるオブジェクトにまだ補助記憶域に対して強制されていない変更が含まれている場合、あるいはジャーナルに関連付けられたコミットメント制御変更が保留されている場合には、*RESETは有効ではありません。

上

ジャーナル・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

ジャーナルに対応したメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。次の1つが起こった時に、この待ち行列にメッセージが送信されます。

- 接続されたジャーナル・レシーバーのしきい値を超えた時に、ジャーナルの属性がMNGRCV(*USER)である場合はメッセージCPF7099が送信されます。
- 接続されたジャーナル・レシーバーのしきい値を超えた時に、ジャーナルの属性がMNGRCV(*SYSTEM)である場合には、システムは新しいレシーバーの作成および接続を試みます。古いレシーバーが切り離された時には、メッセージCPF7020が送信されます。ロックの競合のためにこの試みが失敗した場合には、システムはメッセージCPI70E5を送って、ジャーナル操作が成功するまで10分ごとに（あるいはMNGRCVDLYパラメーターを介して要求した回数だけ）やり直します。
- RCVSIZOPT(*MAXOPT1または*MAXOPT2)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されている場合には、順序番号が9,900,000,000を超えるとメッセージCPI70E7が送信されます。RCVSIZOPT(*MAXOPT3)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されていた場合で、順序番号が18,446,644,000,000,000を超えるとメッセージCPI70E7が送信されます。そうでない場合には、ジャーナル・レシーバーの順序番号が2,147,000,000を超えるとメッセージCPI70E7が送信されます。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っているかどうか、あるいはロックの競合以外の理由で新しいジャーナル・レシーバーの作成および接続が失敗するかどうかをシステムが判別できない場合には、メッセージCPI70E3が送信されます。
- リモート・ジャーナル操作を実行する場合には、詳細についてi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。
- システムがロックの競合のためにレシーバーを削除できないか、出口プログラムがレシーバーを削除できないことを示しているか、あるいはレシーバーがすべてのリモート・ジャーナルに対して完全に複製されていない場合には、CPI70E6が送られて、操作は10分ごとに（あるいはDLTRCVDLYパラメーターを介して要求された回数だけ）やり直されます。削除がその他のなんらかの理由で正常に実行されない場合には、CPI70E1が送られます。

しきい値を設定するには、ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)パラメーターまたはジャーナル・レシーバー作成(CRTJRNRCV)コマンドの説明を参照してください。

注: このパラメーターには、ライブラリーQTEMPの中にあるメッセージ待ち行列を指定することはできません。

注: ジャーナル・メッセージ待ち行列に送られる一部のメッセージも、QSYSOPRメッセージ待ち行列およびQHSTに送られます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

修飾子1: ジャーナル・メッセージ待ち行列

ジャーナル・メッセージ待ち行列名

前に指定されたメッセージ待ち行列を置き換え、ジャーナル・メッセージの送信先となるジャーナル・メッセージ待ち行列の名前を指定してください。メッセージを送る時に、このメッセージ待ち行列が使用可能でない場合には、そのメッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナルのメッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナルのメッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

レシーバーの管理 (MNGRCV)

ジャーナル・レシーバーの変更を管理する（現在接続されているジャーナル・レシーバーを切り離して新しいジャーナル・レシーバーを接続する）方法を指定します。

注: このパラメーターをリモート・ジャーナルに指定することはできません。

*SAME

値は変更されません。

*SYSTEM

システムがジャーナル・レシーバーの変更を管理します（この機能はシステムのジャーナル変更管理と呼ばれる）。接続されたジャーナル・レシーバーがそのサイズのしきい値に達すると、システムは接続されたジャーナル・レシーバーを切り離し、新規ジャーナル・レシーバーを作成して接続します。ジャーナル・レシーバーが切り離されると、メッセージCPF7020がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。*SYSTEMおよび*GENに対する変更がジャーナル・レシーバー(JRNRCV)パラメーターに指定され、現在接続されているレシーバーにしきい値が指定されていない場合には、新規レシーバーには1500000KBのしきい値が与えられます。ジャーナル・レシーバー(JRNRCV)パラメーターに*SAMEが指定されている場合は、*SYSTEMは無効です。

また、RCVSIZEOPT(*MAXOPT1または*MAXOPT2)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されている場合には、ジャーナル・レシーバーの順序番号が9,900,000,000を超えるとシステムはCHGJRNコマンドを実行してその順序番号をリセットします。

RCVSIZEOPT(*MAXOPT3)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続され

ていた場合で、ジャーナル・レシーバーの順序番号が18,446,644,000,000,000を超えると、システムはCHGJRNコマンドを実行して順序番号をリセットしようとします。その他のすべてのジャーナル・レシーバーの場合は、順序番号が2,147,000,000を超えるとシステムはこのCHGJRNを試みません。

さらに、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更中には、システムは、RCVSIZEOPTが*MAXOPT3でなければ、CHGJRNコマンドを実行して新しいジャーナル・レシーバーを作成および接続し、そのIPLまたはオンへの構成変更に対するコミットメント制御回復の必要のないジャーナルのジャーナル順序番号をリセットします。RCVSIZEOPTが*MAXOPT3の場合には、順序番号が18,446,600,000,000,000,000の順序番号のしきい値を超えない限り、この順序番号はリセットされず、新しいジャーナル・レシーバーは接続されません。

注:

1. MNGRCV(*SYSTEM)を指定するためには、ジャーナル・レシーバーのしきい値はゼロ以外でなければなりません。ジャーナル・レシーバーのしきい値は、このコマンドのTHRESHOLDパラメーターで指定するか、またはジャーナル・レシーバー作成(CRTJRNRCV)コマンドでしきい値を指定することによって指定できます。
2. MNGRCV(*SYSTEM)を指定しても、このコマンドを使用してジャーナル・レシーバーを管理することは妨げられません。
3. また、少数のジャーナル項目しかない場合も、順序番号はリセットされません。

*USER

ユーザーは、新規レシーバーを接続して古いレシーバーを切り離すためにCHGJRN コマンドを出すことによって、ジャーナル・レシーバーの変更を管理します。

上

レシーバーの削除 (DLTRCV)

ジャーナル・レシーバーが必要でなくなった時にシステムがこれらを削除するか、あるいはシステムのジャーナル変更管理またはユーザーの出したCHGJRNコマンドによってこれらのジャーナル・レシーバーが切り離された後でユーザーがこれらを削除するために、システム上に残しておくかどうかを指定します。

注: このパラメーターを指定できるのは、MNGRCV(*SYSTEM)が指定されているか、ジャーナルの現在の属性がMNGRCV(*SYSTEM)であるか、またはジャーナルがリモート・ジャーナルである場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NO システムはジャーナル・レシーバーを削除しません。

*YES ジャーナル・レシーバーはシステムによって削除されます。この値を指定するためには、レシーバー・ディレクトリーに現在接続されているレシーバー以外のレシーバーがあってはなりません。

注: レシーバー・ディレクトリーの中にどんなジャーナル・レシーバーがあるかを調べるためには、レシーバー・ディレクトリーの処理画面を表示することができます。この画面はジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドを使用してアクセスすることができます。

ジャーナルがDLTRCV(*YES)属性を持っている場合には、次の条件のためにシステムがレシーバーを削除できないことがあります。これらの条件の1つが起こった場合には、システムはメッセージCPI70E6を送って、操作が成功するまで削除操作を10分ごとに（あるいはDLTRCVLDLYパラメーターを介して要求された回数だけ）やり直します。

- ジャーナル・レシーバーまたはそのジャーナルに対するロックの競合が起こっています。
- QIBM_QJO_DLT_JRNRCV出口点の方法によって登録済みの出口プログラムは、レシーバーが削除に適格でないことを示しています。
- ジャーナルがそれと対応したりリモート・ジャーナルを持っていて、対応したりリモート・ジャーナルの1つまたは複数はまだこのレシーバーの完全なコピーを持っていません。

上

レシーバー・サイズ・オプション (RCVSIZOPT)

ジャーナルに接続されたレシーバーのサイズに影響を与えるオプションを指定します。

注: レシーバーのサイズ・オプションを除去するためには、保存したいすべてのレシーバー・サイズ・オプションを指定して、除去したいサイズ・オプションは指定しないでください。

注: ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)パラメーターで*SAMEが指定されている場合には、*SYSDFT, *NONE, *RMVINTENT, *MINFIXLEN, *MAXOPT1, *MAXOPT2,および*MAXOPT3は有効ではありません。

注: このパラメーターをリモート・ジャーナルに指定することはできません。

注: *MAXOPT1, *MAXOPT2,および*MAXOPT3の3つの選択項目の1つだけを指定することができます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*SYSDFT

システムは現在の推奨値を使用します。現在この値を指定することは、*MAXOPT2および*RMVINTENTを指定することと同じです。

*NONE

レシーバーに接続されたジャーナル項目のサイズに影響を与えるオプションはありません。レシーバーに入れられたジャーナル項目はすべて永続的です。FIXLENDTAで定義された固定長データは、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるすべてのジャーナル項目に含められます。これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約2 GB (2,147,483,647)に、最大順序番号は2,147,483,136にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは15,761,440バイトです。

その他の値 (最大3回までの繰り返し)

*RMVINTENT

ジャーナルに接続されたレシーバーのサイズは、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更回復のみに必要な内部項目が (以後必要なくなったときに) 自動的に除去されることによって減少されます。

*MINFIXLEN

接続されているジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目のサイズは、回復目的に必要とみなされない固定長データの自動除去によって削減されます。このオプションは、FIXLENDTAも指定されている場合には無効です。

*MAXOPT1

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は9,999,999,999にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは15,761,440バイトです。

*MAXOPT2または*MAXOPT3が指定された場合には、この値を指定することはできません。

*MAXOPT2

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は9,999,999,999にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは4,000,000,000バイトです。

*MAXOPT1または*MAXOPT3が指定された場合には、この値を指定することはできません。

*MAXOPT3

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は18,446,744,073,709,551,600にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは4,000,000,000バイトです。これらのジャーナル・レシーバーは、V5R3M0より前のリリースに保管および復元することも、V5R3M0より前のリリースではどのシステムのどのリモート・ジャーナルにも複製することもできません。また、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更中には、MNGRCV(*SYSTEM)が指定されていると、システムは、順序番号が18,446,600,000,000,000,000の順序番号のしきい値を超えていない限り、新しいジャーナル・レシーバーを作成および接続し、ジャーナル順序番号をリセットするためのCHGJRNコマンドを自動的に実行しません。

*MAXOPT1または*MAXOPT2が指定された場合には、この値を指定することはできません。

上

ジャーナル状態 (JRNSTATE)

ジャーナル項目がジャーナルに入れることを許されるかどうかを指定します。

注: 値*ACTIVE, *INACTIVE,および*STANDBYが有効なのは、JRNRCV(*SAME)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*ACTIVE

すべてのジャーナル項目をジャーナルに保管することができます。

注: この値をリモート・ジャーナルに指定することはできません。

*INACTIVE

この状態は、リモート・ジャーナルにのみ適用されます。リモート・ジャーナルが*INACTIVEであると、項目はソース・システムから受け取られません。ジャーナルの状態が*ACTIVEに変更された時に、未解決の項目がソース・システムから送られます。

注: この値を指定した場合には、JRNを除く残りのパラメーターで*SAMEを指定しなければなりません。

*STANDBY

ほとんどのジャーナル項目はジャーナルに保管されません。項目をジャーナルに保管しようとしても、項目が保管されなかったことを示すエラーは出されません。*STANDBY状態で、ジャーナル処理を開始または停止することができます。しかし、*STANDBY状態でコミットメント制御を使用

することはできません。コミットメント制御が許可されないので、システムが内部的にコミットメント制御を使用する機能も許可されません。同様に、*STANDBY状態でジャーナルにジャーナル処理されたファイル上で構築されたアクセス・パスは、システム管理アクセス・パス保護(SMAPP)の対象にはなりません。これにより、システムが指定されたアクセス・パス回復時間に到達しようとする際に、システム・パフォーマンス、システムIPL、または独立補助記憶域プール(IASP)のオンへの構成変更時間に影響する場合があります。あるいは、システム・パフォーマンスとIPL（またはオンへの構成変更時間）の両方に影響する場合があります。

注: この値をリモート・ジャーナルに指定することはできません。

注: これらの状態で保管できるジャーナル項目については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。その場合、「ジャーナル項目ファインダー」で検索してください。

上

項目固有のデータの最小化 (MINENTDTA)

ジャーナル項目が最小化された特定のデータを持つことができるオブジェクト・タイプを指定します。

項目特有のデータを最小化するために*FLDBDYオプションを使用しているジャーナル・レシーバーは、V5R4M0より前のリリースに保管および復元することはできず、V5R4M0より前のリリースのシステムのリモート・ジャーナルに複製することもできません。最小化された項目特定データを持つジャーナル項目の制約事項と使用法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

注: ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)パラメーターで*SAMEが指定されている場合には、*NONE、*FILE、FLDBDY、および*DTAARAは有効ではありません。

注: このパラメーターをリモート・ジャーナルに指定することはできません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

オブジェクト・タイプは最小化された項目特定データを持つジャーナル項目を使用できません。すべてのジャーナル処理済みオブジェクトのジャーナル項目は、完全な項目特定データを持つジャーナルに入れられます。

***FILE** ジャーナル処理されたファイルに、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。最小化はフィールド境界では行われません。したがって、この項目特有のデータは表示可能でなく、監査目的に使用することはできません。*FLDBDYが指定されている場合には、この値を指定することはできません。

***FLDBDY**

ジャーナル処理されたファイルに、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。ジャーナル処理済みファイルの最小化は、フィールド境界で行われます。したがって、この項目特有のデータは表示可能で、監査目的に使用することができます。

***DTAARA**

ジャーナル処理されたデータ域に、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。

ジャーナル・キャッシング (JRNCACHE)

ディスクに書き出される前にジャーナル項目がキャッシュされるかどうかを指定します。

注: このパラメーターをリモート・ジャーナルに指定することはできません。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 単一システムの回復に必要な場合には、ジャーナル項目はただちにディスクに書き込まれます。

***YES** ジャーナル項目はメイン・メモリーに書き込まれます。メイン・メモリーに複数のジャーナル項目がある場合には、そのジャーナル項目はメイン・メモリーからディスクへ書き込まれます。アプリケーションが多数の変更を実行した場合には、同期ディスク書き込みが少なくなって、パフォーマンスが改善されることとなります。しかし、メイン・メモリーの内容が保存されていないシステム障害の際に最後の1つの変更でも失うことが受け入れられない場合には、このオプションの使用はお奨めできません。このタイプのジャーナル処理は主としてバッチ・ジョブに向けられていて、単一のシステム回復がジャーナル処理の主要な理由である対話式アプリケーションの場合には適していません。

注: コミットメント制御を使用するアプリケーションでは、コミットメント制御で一部のジャーナル・キャッシングが実行されるので、パフォーマンスの改善は少ない傾向があります。

注: キャッシュ内にある項目は、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンド、ジャーナル項目受信(RCVJRNE)コマンド、ジャーナル項目検索(RTVJRNE)コマンド、または QJORETRIEVEJOURNALENTRIES APIを使用して表示することはできません。また、キャッシュ内の項目も、リモート・ジャーナルを持つターゲット・システムには送られません。ただし、これらのジャーナル項目は、ジャーナル・レシーバー属性表示(DSPJRNRCVA)コマンドまたは QJORTVJRNERECEIVERINFORMATION APIを介して戻されたジャーナル・レシーバーの最後の順序番号に含まれています。

注: この値は、ライブラリーがQGPLでない限り、ジャーナル名がQで始まっていたり、ジャーナル・ライブラリーがQで始まっている場合は指定することができません。

受信側遅延時間の管理 (MNGRCVDLY)

ジャーナルがシステム管理(MNGRCV(*SYSTEM))の場合に、このジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続しようとする次の試みを遅延させるために使用する時間(分数)を指定します。

注: このパラメーターをリモート・ジャーナルに指定することはできません。

*SAME

値は変更されません。

1から1440

システムがこのジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続するために必要なオブジェクトを割り振れない場合には、指定された時間(分数)だけ待機してから再度試みます。

受信側遅延時間の削除 (DLTRCVDLY)

システムがこのジャーナルに関連付けられたジャーナル・レシーバーを削除するために必要なオブジェクトを割り振ることができず、ジャーナルにDLTRCV(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターが、ジャーナル・レシーバーを削除する次の試みを遅延させるために使用する時間（分数）を指定します。

*SAME

値は変更されません。

1から1440

システムは、指定された分数だけ待ってやり直します。

上

固定長データ (FIXLENDTA)

接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目の固定長部分に含められるデータを指定します。このパラメーターは、RCVSIPOPT(*MINFIXLEN)も指定された場合には無効です。

*SAME

値は変更されません。

*JOBURPGM

ジョブ名、ユーザー名、およびプログラム名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***JOB** ジョブ名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***USR** 有効なユーザー・プロファイル名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***PGM** プログラム名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められません。

*PGMLIB

プログラム・ライブラリー名およびプログラム・ライブラリーが入っている補助記憶域プール装置名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

*SYSSEQ

システム・シーケンス番号は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。システム・シーケンス番号は、システム上のすべてのジャーナル・レシーバーのすべてのジャーナル項目に相対順序を与えます。

*RMTADR

該当する場合に、リモート・アドレス、アドレス・ファミリー、およびリモート・ポートは、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***THD** スレッドIDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。スレッドIDは、同じジョブで実行中の複数のスレッド間での識別を助けます。

***LUW** 該当する場合に、作業論理単位IDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。作業論理単位IDは、特定のコミット・サイクルに関連した作業を識別します。

***XID** 該当する場合に、トランザクションIDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。トランザクションIDは、特定のコミット・サイクルに関連したトランザクションを識別します。

FIXLENDTAをリモート・ジャーナルに指定することはできず、JRNRCV(*SAME)が指定されている場合はFIXLENDTAは無効です。

上

ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)

ジャーナル・レシーバーの記憶スペースしきい値(KB)を指定します。

注: ジャーナルにRCVSIPOPT(*RMVINTENT)が指定されていると、そのジャーナル項目によって占められている内部スペースはレシーバーのしきい値に向けて適用されます。ジャーナル・レシーバーが切り離されると、この内部項目用のスペースが解放されることがあります。そのときには、ジャーナル・レシーバーのサイズは指定されたしきい値より小さくなります。

注: *SAME以外のしきい値を指定するためには、JRNRCV(*GEN)も指定する必要があります。

ジャーナル処理時にしきい値を超えた場合には、次の1つが起こります。

- ジャーナルがMNGRCV(*USER)属性を持っている場合は、メッセージCPF7099がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っている場合は、システムは新しいレシーバーの作成および接続を試みます。古いレシーバーが切り離された時に、メッセージCPF7020がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。ロックの競合のためにこの試みが失敗した場合には、システムはメッセージCPI70E5を送り、ジャーナル変更操作が成功するまで、10分ごとに（あるいはMNGRCVDLYパラメーターを介して要求した回数だけ）やり直します。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っているかどうか、あるいはロックの競合以外の理由で新しいジャーナル・レシーバーの作成および接続が失敗するかどうかをシステムが判別できない場合には、メッセージCPI70E3が送信されます。

ジャーナル・メッセージ待ち行列は、このコマンドのMSGQパラメーターまたはCRTJRN（ジャーナル作成）コマンドで指定します。

注: MNGRCVパラメーターの値は、このコマンドのMNGRCVパラメーターまたはCRTJRNコマンドでジャーナルに対して指定します。MNGRCV(*SYSTEM)を指定していないで、しきい値を超えた場合には、CHGJRNコマンドを出すなどの処置を行うことができます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

しきい値は指定されません。MNGRCV(*SYSTEM)が指定されている場合には、この値を指定することはできません。

100000から1000000000

ジャーナル・レシーバーのしきい値を、記憶域のキロバイト数(KB)で指定します。各1000 KBは1,024,000バイトの記憶スペースを指定します。ジャーナル・レシーバーのスペースのサイズがこの値によって指定されたサイズより大きい場合には、該当すれば、指定されたメッセージ待ち行列にメッセージが送信され、ジャーナル処理は続行されます。

注:

1. 指定されたRCVSIZEOPTパラメーターからの*MAXOPT値の1つを持たないジャーナルにジャーナル・レシーバーを生成しようとしている場合には、指定する必要がある最大しきい値は1,919,999キロバイトです。

上

ジャーナル・オブジェクト限界 (JRNOBJLMT)

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数に影響を与えるオプションを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*MAX10M

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数は10,000,000です。このようなジャーナルに関連付けられたジャーナル・レシーバーは、V5R4M0より前のリリースに保管または復元することができず、V5R4M0より前のリリースにリモート・ジャーナル処理を介して複製することもできません。

この値をジャーナルに指定すると、JRNOBJLMTに下限を設定することはできません。

この値を変更すると同時に新しいレシーバーを接続する必要があります。

このオプションを選択する場合には、関係するランタイム・パフォーマンスに考慮する必要があります。この新しい属性では、1つのジャーナルに多数のオブジェクトをジャーナル処理する機会があります。要するに、より多くのオブジェクトをアクティブに同時に変更できて、ジャーナルのランタイム・パフォーマンスに影響する潜在的な機会があることとなります。したがって、この1つのジャーナルにジャーナル項目を入れる頻度がランタイム・パフォーマンス問題を引き起こすのであれば、ジャーナル処理されるオブジェクトを複数のジャーナルに分割することが優れた代替案となります。

単一のジャーナルに関連付けられたオブジェクトの量を増やすと、IPL時間、独立ASPのオンへの構成変更時間、または災害時回復時間が増えることに留意してください。一般的な、大ざっぱな実際に即した方法としては、アクティブに変更するオブジェクトの数が5,000より大きくなりそうな場合には、それらのオブジェクトの一部を別のジャーナルでジャーナル処理することを検討してみてください。システムの終了時に、所定のジャーナルでアクティブに変更するオブジェクトの数が大きくなればなるほど、IPLまたは独立ASPのオンへの構成変更時にジャーナルの回復に要する時間は長くなります。

上

ジャーナル回復カウント (JRNRCCYCNT)

ジャーナルの回復カウントによって、ユーザーは異常IPLまたは独立ASPのオンへの構成変更の迅速な回復と、ランタイム処理の低下の間で選択することができます。指定した値は、オブジェクトが変更されるときにジャーナル処理済みオブジェクトが強制的に補助記憶域に入れられる頻度に影響します。指定されたジャーナル回復カウントは、異常IPLまたはオンへの構成変更の際に、このジャーナルのジャーナル同期化中に回復する必要があるジャーナル処理された変更の概算数を示します。より小さい値を指定すると、変更されたオブジェクトの強制頻度が大きくなることによって、異常IPLまたはオンへの構成変更中にこのジャーナルから回復する必要がある変更の数が減少します。より大きい値を指定すると、変更されたオブジェクトの強制頻度が小さくなることによって、異常IPLまたはオンへの構成変更中にこのジャーナルで回復する必要

がある変更の数が増えます。この値を変更すると、補助記憶装置の使用効率に影響するので、全体的なシステム・パフォーマンスに影響が及ぶ場合があります。

すべてのジャーナルが、システムの省略時ジャーナル回復カウントで作成されます。システムの省略時(*SYSDFT)以外の値が指定されていると、システムの省略時ジャーナル回復カウントは、以後このジャーナルに対して有効ではなくなります。

注: オペレーティング・システムは、システムの省略時の回復カウント250,000で出荷されます。新しく作成したすべてのジャーナルおよびそのジャーナル回復カウントにシステムの省略時値(*SYSDFT)を指定している既存のすべてのジャーナルで、システムの省略時のジャーナル回復カウントを変更する必要がある場合には、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるAPIトピック・コレクションのジャーナル回復カウントの変更(QJOCHRVC) APIを参照してください。

注: 値*SYSDFTおよび10000から2000000000が有効なのは、JRNRCV(*SAME)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSDFT**

値は、システムの省略時のジャーナル回復カウントに設定されます。

10000から2000000000

異常IPLまたはオンへの構成変更の際に、このジャーナルからの回復処理が必要と思われるジャーナル項目の数を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ジャーナルを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません。

***BLANK**

テキストはブランクで置き換えられます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。指定された変数は、このジャーナルと関連した新しいテキストとなります。

上

例

例1: ジャーナル・レシーバーの切り離しおよび順序番号のリセット

```
CHGJRN  JRN(JRNLA)  JRNRCV(RCV10)  SEQOPT(*RESET)
```

このコマンドは、現在ジャーナルJRNLAに接続されているジャーナル・レシーバーを切り離します(JRNLAはライブラリー検索リスト*LIBLを使用して検索されます)。ジャーナル・レシーバーRCV10がジャーナル

JRNLAに接続されています（ライブラリー検索リスト*LIBLを使用して検索されました）。SEQOPT(*RESET)が指定されているので、ジャーナル・レシーバーRCV10の最初のジャーナル項目が1の順序番号を持ちます。

例2:新規ジャーナル・レシーバーの作成および接続

```
CHGJRN  JRN(JRNLA)  JRNRCV(*GEN) THRESHOLD(1500000)
```

このコマンドは、現在ジャーナルJRNLAに接続されているジャーナル・レシーバーを切り離します。新規ジャーナル・レシーバーが作成されて、ジャーナルJRNLAに接続されます。新規ジャーナル・レシーバーのライブラリー、所有者、権限、および監査レベルは、切り離されたレシーバーのものと同じです。新規レシーバーの名前は、切り離されたレシーバーの名前によって異なります。（例えば、レシーバーがRCVJRNAという名前であったとすると、新規レシーバーの名前はRCVJRN0001となります。レシーバーがRCVJRN0001という名前であれば、新規レシーバーはRCVJRN0002という名前になります。）新規ジャーナル・レシーバーの最初のジャーナル項目は、切り離されたレシーバーの最後の順序番号より1つだけ大きい順序番号を持ちます。新規レシーバーは、約1500000キロバイトのレシーバー・サイズしきい値を持つこととなります。

例3:システム・レシーバー管理を使用するための変更

```
CHGJRN  JRN(LIBY/JRN) JRNRCV(LIBX/RCV0001)
        MNGRCV(*SYSTEM) DLTRCV(*YES)
        RCVSIZOPT(*MAXOPT2) MNGRCVDLY(10) DLTRCVDLY(30)
```

このコマンドは、現在ジャーナルJRNに接続されているジャーナル・レシーバーを切り離します。ユーザーは、前にライブラリーLIBXの中にジャーナル・レシーバーRCV0001を作成しています。この指定されたジャーナル・レシーバーがジャーナルJRNに接続されています。この新規ジャーナル・レシーバーの最大サイズは約1 TBとなります。これにより、順序番号は9,999,999,999までとすることができ、ジャーナル・レシーバーに保管できるジャーナル項目の最大サイズは4,000,000,000バイトとなります。新規ジャーナル・レシーバーの最初のジャーナル項目は、切り離されたレシーバーの最後の順序番号より1つだけ大きい順序番号を持ちます。システムでは、この時点からジャーナル・レシーバーの接続と切り離しが管理されます。システムがこの処理中にオブジェクトを割り振れない場合には、10分待機して、やり直します。システムは、また、この時点から切り離されたレシーバーの削除を管理します。システムがジャーナル・レシーバーを削除しようとしている間にオブジェクトを割り振れない場合には、30分待機して、やり直します。

例4:より大きいオブジェクト限界の許可へ変更

```
CHGJRN  JRN(QGPL/DBJRN) JRNRCV(*GEN)
        JRNBJLMT(*MAX10M)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのジャーナルDBJRNを、10,000,000オブジェクトをそこにジャーナル処理できるように変更します。新規レシーバーがこのジャーナルに接続されます。新規ジャーナル・レシーバーの最初の項目は、切り離されたレシーバーの最後の順序番号より1だけ大きい順序番号を持ちます。この変更後に、250,000以上のオブジェクトをこのジャーナルにジャーナル処理することができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF69A9

内部エラーが検出されました。エラー・コードは&2です。

CPF70A0

FIXLENDTAパラメーターは使用できない。

CPF70A1

FIXLENDTAパラメーターはRCVSIZOPT(*MINFIXLEN)と一緒に使用できない。

CPF70A2

JRNRCV(*SAME)は使用できない。

CPF70A5

指定されたRCVSIZOPT値は使用できない。

CPF70B4

RCVSIZOPT(&1)は除去できません。

CPF70B5

JRNOBJLMT(&1)は使用できません。

CPF70B6

レシーバー&1のしきい値が小さすぎます。

CPF70B8

指定されたMINENTDTA値は使用できません。

CPF70C9

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF70CF

指定のパラメーターではリモート・ジャーナルを非活動化することはできない。

CPF70DB

ライブラリー&2のジャーナル&1でリモート・ジャーナル環境が終了しました。

CPF70DD

2重レシーバーをジャーナル&1に接続できない。

CPF70DE

&2のジャーナル&1の状態は変更されていない。

CPF70DF

リモート・ジャーナルの属性は変更できない。

CPF70D1

CHGJRNコマンドによってリモート・ジャーナルを活動化することはできない。

CPF70D2

ジャーナル・レシーバー&3を切り離すことができない。

CPF70D9

ジャーナル状態の変更は許されない。理由コードは&3です。

CPF70E0

&1での操作は実行できない。

CPF70E2

DLTRCV(*YES)は使用できない。

CPF70E3

レシーバー・ディレクトリーには接続されたレシーバーしかあってはならない。

CPF70E4

MNGRCV(*SYSTEM)は使用できない。

CPF70E5

指定されたRCVSIZEOPT値は許されない。

CPF70E7

JRNRCV(*SAME)と一緒にMINENTDTA値を使用することはできない。

CPF70F1

ジャーナル・レシーバーしきい値がジャーナルに対して大きすぎる。

CPF70F5

レシーバーのしきい値が正しくない

CPF70F6

指定されたRCVSIZEOPT値は使用できない。

CPF70F8

RCVSIZEOPT, FIXLENDTA,およびJRNOBJLMT値は, JRNRCV(*SAME)と一緒に使用できません。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7004

最大数のオブジェクトがジャーナル&1にジャーナル処理された。

CPF701A

ジャーナル・レシーバーが操作に適格でない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF7011

記憶域または資源が十分でない。

CPF7013

ジャーナル・レシーバーが作成されなかった。

CPF7015

JRNRCVの指定にエラーがある。

CPF7017

メッセージ待ち行列パラメーターにはライブラリーQTEMPは正しくない。

CPF7018

順序番号のリセットは認められていない。理由コードは&3です。

CPF704E

RCVSIZEOPT(*MINFIXLEN)は使用できない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF708E

*MAXOPT1, *MAXOPT2,または*MAXOPT3を指定したジャーナル・レシーバーは許可されない。

CPF708F

リモート・ジャーナルを待機状態にできない。

CPF709F

ジャーナル・キャッシングを開始できない。理由コードは&3です。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

上

ジャーナル属性の変更 (CHGJRNA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル属性の変更(CHGJRNA)コマンドは、システム上のすべてのジャーナル環境におけるシステム全体の属性を変更するために使用されます。

システム全体のジャーナル属性が変更されると、その変更属性はシステム上のすべての適用可能なジャーナル環境に即時に反映されます。ただし、システム全体のジャーナル属性への変更がすべてのジャーナル環境に反映されるわけではありません。例えば、あるローカル・ジャーナルのキャッシュが使用可能になっていない場合、キャッシュ待機時間はそのジャーナル環境には影響しません。また、あるローカル・ジャーナルのジャーナル回復カウントが*SYSDFTに設定されていない場合、システム全体のジャーナル回復カウントはそのジャーナル環境には影響しません。

制約事項:

- JRNRCYCNTまたはCACHEWAITパラメーターを変更するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する専用権限を持ちます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRNRCYCNT	ジャーナル回復カウント	10000-2000000000, *SAME, *SYSDFT	オプション
CACHEWAIT	キャッシュ待機時間	1-600, *SAME, *SYSDFT	オプション

上

ジャーナル回復カウント (JRNRCYCNT)

システムの省略時のジャーナル回復カウントを指定します。ジャーナル回復カウントを使用すると、ジャーナル処理されたオブジェクトへの変更の迅速なランタイム処理を行うか、異常シャットダウン後のIPLまたはオンへの構成変更の迅速な回復処理を行うかの選択が可能になります。指定した値は、オブジェクトが変更されるときにジャーナル処理済みオブジェクトが強制的に補助記憶域に入れられる頻度に影響します。異常シャットダウン後のIPLまたはオンへの構成変更の場合には、指定したジャーナル回復カウントは、このジャーナルのジャーナル同期化中に回復することが必要なジャーナル処理された変更の概算数を示します。より小さい値を指定すると、変更されたオブジェクトが強制的にディスクに入れられる頻度が大きくなり、このジャーナルから回復する必要がある変更の数が減少します。より大きい値を指定すると、変更されたオブジェクトが強制的にディスクに入れられる頻度が小さくなり、ジャーナル処理されたオブジェクトに

対する変更のランタイム処理が増加します。この値を変更すると、補助記憶装置の使用効率に影響するので、全体的なシステム・パフォーマンスに影響が及ぶ場合があります。

注: このパラメーターは、システム上で新しく作成したすべてのジャーナルと、ジャーナル回復カウントにシステムの省略時値(*SYSDFT)を指定している既存のすべてのジャーナルで、システムの省略時のジャーナル回復カウントを変更します。特定のジャーナルのジャーナル回復カウントをシステムの省略時値以外の値に設定する場合は、ジャーナル変更(CHGJRN)コマンドのジャーナル回復カウント(JRNRCYCNT)パラメーターを参照してください。

***SAME**

この値は変更されません。

***SYSDFT**

システム全体のジャーナル回復カウントは省略時の値250,000に設定されます。

10000から2000000000

システム全体のジャーナル回復カウントを指定します。

上

キャッシュ待機時間 (CACHEWAIT)

キャッシュが使用可能なジャーナル環境でのキャッシュ待機時間を指定します。キャッシュ待機時間は、残存するジャーナル項目を主記憶域からディスクに書き込むまでシステムが待機する最大秒数です。

ジャーナル環境のジャーナル・キャッシュが使用可能になっている場合、システムは、すべてのジャーナル項目の合計数が1回のディスク書き込みで書き込むことができるデータの最大数と等しくなるまで、ジャーナル項目を主記憶域に保管します。それから、すべてのジャーナル項目がまとめてディスクに書き込まれます。これにより、ジャーナルが使用中の場合に最適なジャーナル・パフォーマンスが可能になります。ただし、ジャーナルが使用中でない場合、システムは、主記憶域内のジャーナル項目が1回のディスク書き込みの最大サイズと等しくなるまで累積されるのを待機します。このパラメーターは、システムが主記憶域に残存するジャーナル項目をディスクに書き込むまでの指定秒数しか待機しないことを確実にするものです。

注: このパラメーターは、キャッシュが使用可能なジャーナルに限り適用されます。ジャーナル・キャッシュを使用可能または使用不可にするには、ジャーナル作成(CRTJRN)またはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドのジャーナル・キャッシュ(JRNCACHE)パラメーターを参照してください。

***SAME**

この値は変更されません。

***SYSDFT**

キャッシュ待機時間はシステムの省略時値30秒に設定されます。

1から600

キャッシュ待機時間を秒数で指定します。

上

例

例1:システム全体のジャーナル回復カウントの変更

```
CHGJRNA    JRNRCYCNT(500000)
```

このコマンドは、システム全体のジャーナル回復カウントを500,000に変更します。

例2:システム全体のキャッシュ待機時間の変更

```
CHGJRNA    CACHEWAIT(60)
```

このコマンドは、システム全体のキャッシュ待機時間を60秒に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90FF

要求された操作を実行するためには、*JOBCTL特殊権限が必要である。

上

ジャーナル処理済みオブジェクト変更 (CHGJRNOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理済みオブジェクトの変更(CHGJRNOBJ)コマンドは、オブジェクトのジャーナル処理を終了および再始動する必要なしに、ジャーナル処理済みオブジェクトのジャーナル処理属性を変更します。

このコマンドは、オブジェクトのジャーナル処理を終了および再始動する必要なしに、データベース・ファイル(*FILE)またはデータ域(*DTAARA)オブジェクトのイメージ (IMAGES)値を変更するために使用することができます。そうでない場合には、物理ファイル・ジャーナル処理開始(STRJRNPf)コマンドを使用して、データベース・ファイルにこの値を設定することができます。データ域の場合のこの値の設定には、ジャーナル処理開始(STRJRn)コマンドまたはオブジェクト・ジャーナル処理開始(STRJRNOBJ)コマンドを使用することができます。

このコマンドは、オブジェクトのジャーナル処理を終了および再始動する必要なしに、データベース・ファイル(*FILE)、統合ファイル・システム・ストリーム・ファイル(*STMF)、またはディレクトリー(*DIR)オブジェクトのジャーナル項目の省略 (OMTJRNE)値を変更するために使用することができます。そうでない場合には、物理ファイル・ジャーナル処理開始(STRJRNPf)コマンドを使用して、データベース・ファイルにこの値を設定することができます。統合ファイル・システム・オブジェクトの場合のこの値の設定には、ジャーナル処理開始(STRJRn)コマンドを使用することができます。

このコマンドは、オブジェクトのジャーナル処理を終了および再始動する必要なしに、統合ファイル・システム・ディレクトリー(*DIR)オブジェクトの新オブジェクト、ジャーナル処理継承 (INHERIT)値を変更するために使用することができます。その他の方法として、統合ファイル・システム・オブジェクトのこの値はジャーナル処理開始(STRJRn)コマンドを使用して設定することができます。

このコマンドは、また、部分トランザクションに対する変更を含むデータベース・ファイル(*FILE)を使用できるようにするためにも使用することができます。部分トランザクションは、コミットメント制御の下で変更できるオブジェクトについてのみ存在させることができます。データベース・ファイル・オブジェクト(*FILE)は、コミットメント制御を使用してオープンすることができる唯一のオブジェクトです。

部分トランザクションは、次の2つの理由で存在する可能性があります。

1. オブジェクトが部分トランザクションを持つ可能性がある最も共通した理由は、オブジェクトがそのトランザクションの中間にある時に保管され、この保管バージョンが復元された場合です。この場合、すべての部分トランザクションを完了するための望ましい方法は、ジャーナル処理済み変更の適用 (APYJRnCHG)コマンドまたはジャーナル処理済み変更の除去(RMVJRnCHG)コマンドを使用することです。APYJRnCHGまたはRMVJRnCHGに必要なジャーナル・レシーバーが使用できない場合には、最後の手段として部分トランザクション (PTLTNS)パラメーターを使用し、トランザクションを完了しないままデータベース・ファイルをオープンおよび使用できるようにすることができます。
2. 部分トランザクションが存在する可能性がある他の理由として、オブジェクトが中断された長時間実行ロールバック操作に含まれていた場合があります。この場合には、APYJRnCHGおよびRMVJRnCHGを使用して、部分トランザクションを完了することはできません。復元するファイルの保管バージョンがない場合には、最後の手段として部分トランザクション (PTLTNS)パラメーターを使用し、トランザクションを完了しないままファイルをオープンおよび使用できるようにすることができます。

このコマンドは、ライブラリーのジャーナル処理を終了および再始動する必要なしに、ライブラリー(*LIB)の継承規則(INHRULES)値を変更する際に使用できます。その他の方法としては、ライブラリーのジャーナル処理の開始(STRJRNLIB)コマンドを使用してライブラリーにこの値を設定できます。ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドは、ライブラリーの現行の継承規則を参照する場合に使用します。

変更がオブジェクト・タイプに適用されない場合には、そのタイプのオブジェクトは無視され、処理は次のオブジェクトで続行されます。また、すでにオブジェクトが変更されている属性に対し正しい値を持っている場合には、エラーは戻されません。

制約事項:

- 一度に変更することができるジャーナル処理属性は1つだけです。
- 指定されたオブジェクトが現在ジャーナル処理されている場合には、IMAGES, OMTJRNE, INHERIT, またはINHRULESパラメーターの変更だけを行うことができます。
- PTLTNS(*ALWUSE)を指定する場合は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
- ロック処理

変更されるオブジェクトは、読み取り排他ロック(*EXCLRD)によってロックされます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*FILE, *DTAARA, *LIB	
OBJPATH	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
OBJFID	ファイル識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, _	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
ATR	属性	*IMAGES, *OMTJRNE, *INHERIT, *PTLTNS, *INHRULES	オプション
IMAGES	イメージ	*SAME, *AFTER, *BOTH	オプション
OMTJRNE	ジャーナル項目の省略	*SAME, *NONE, *OPNCLOSYN	オプション
INHERIT	新オブジェクト,ジャーナル処理継承	*SAME, *NO, *YES	オプション
PTLTNS	部分トランザクション	*SAME, *ALWUSE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
INHRULES	継承規則	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・タイプ	<u>*ALL</u> , *FILE, *DTAARA, *DTAQ	
	要素 2: 操作	* <u>ALLOPR</u> , *CREATE, *MOVE, *RESTORE, *RSTOVRJRN	
	要素 3: 規則の処置	* <u>INCLUDE</u> , *OMIT	
	要素 4: イメージ	* <u>OBJDFT</u> , *AFTER, *BOTH	
	要素 5: ジャーナル項目の省略	* <u>OBJDFT</u> , *NONE, *OPNCLO	

上

オブジェクト (OBJ)

ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトまたはオブジェクトのリストを指定します。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 現在ジャーナル処理されている指定のタイプの指定のライブラリーにあるすべてのオブジェクトの、ジャーナル処理属性が変更されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。*ALLを指定しても、ユーザーがライブラリーにあるすべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていない場合には、メッセージが送信され、処理は次のオブジェクトで続行されます。ライブラリー名に*LIBLが指定されている場合、*ALLは許可されません。

総称名 変更をジャーナル処理するオブジェクトの総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合は、総称名と同じ接頭部の付いた名前を持つ、指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトの変更がジャーナル処理されます。ライブラリー名に*LIBLが指定されている場合、総称名は許可されません。

名前 ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

*DTAARA

データ域のジャーナル処理属性が変更されます。

***FILE** データベース・ファイル・メンバーのジャーナル処理属性が変更されます。

***LIB** ライブラリーのジャーナル処理属性が変更されます。

オブジェクト (OBJPATH)

ジャーナル処理属性を変更する最大300のオブジェクトを指定します。「ルート」(/), QOpenSys,またはユーザー定義ファイル・システムに入っているタイプ*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトか,あるいはタイプ*FILE, *DTAARA,または*LIBのオブジェクトを識別するパス名を持つオブジェクトのみがサポートされます。指定の選択基準と一致することが検出されたが,現在ジャーナル処理されていないオブジェクトは,無視されます。

要素1: 名前

パス名 ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトの名前を指定してください。

パス名内の記号リンクはその限りではありません。

パス名パターンの詳細は, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL)トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は, パス名またはパターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に, 相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り, オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは, ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトのリストに組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは, ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトのリストには組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を指定変更するもので, 前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることになります。

ファイル識別コード (OBJFID)

ジャーナル処理属性を変更する最大300のファイルID (FID)を指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けされている固有のIDです。このフィールドは16進形式で入力されます。「ルート」(/), QOpenSys,またはユーザー定義ファイル・システムに入っているタイプ*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトか,あるいはタイプ*DTAARA, *FILE,または*LIBのオブジェクトを識別するFIDを持つオブジェクトのみがサポートされます。

ファイルID

FIDによって識別されたオブジェクトの属性が変更されます。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトの決定にディレクトリー・サブツリーを組み込むかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、**オブジェクト (OBJPATH)**パラメーターに1つ以上のパス名が指定された場合にのみ有効です。

*NONE

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

***ALL** 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内のオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用する、最大20のパターンを指定します。

注: このパラメーターは、**オブジェクト (OBJPATH)**パラメーターに1つ以上のパス名が指定された場合にのみ有効です。

注: このパラメーターは、ジャーナル・オブジェクトの変更コマンドの処理時に存在するオブジェクトに適用されます。このパラメーターは、新しいオブジェクトがジャーナル処理を継承するジャーナル処理済みディレクトリーで後から作成されるオブジェクトには適用されません。

要素1: パターン

'*' OBJPATHパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが組み込まれます。

名前パターン

ジャーナル処理属性を変更するオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用するパターンを指定します。名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。

パス名パターンの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが操作に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは操作に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を指定変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

上

属性 (ATR)

変更するために選択される属性を指定します。

***IMAGES**

イメージ (IMAGES)パラメーターによって制御される属性を変更します。

***OMTJRNE**

ジャーナル項目の省略 (OMTJRNE)パラメーターによって制御される属性を変更します。

***INHERIT**

新オブジェクト、ジャーナル処理継承 (INHERIT)パラメーターによって制御される属性を変更します。

***PTLTNS**

部分トランザクション (PTLTNS)パラメーターによって制御される属性を変更します。

***INHRULES**

継承規則(INHRULES)パラメーターによって制御される属性を変更します。

上

イメージ (IMAGES)

オブジェクトに対する変更用のジャーナル・レシーバーに書き込むイメージの種類を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***AFTER**

変更後イメージだけがオブジェクトに対する変更用に生成されます。

***BOTH**

システムは、オブジェクトに対する変更用に変更前イメージと変更後イメージの両方を生成します。

注: 値***BOTH**は、データ域(***DTAARA**)およびデータベース・ファイル(***FILE**)オブジェクトを除くすべてのオブジェクト・タイプで無視されます。

上

ジャーナル項目の省略 (OMTJRNE)

除外されるジャーナル項目を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

項目は除外されません。

***OPNCLOSYN**

FILE**オブジェクトのオープンおよびクローズ項目が除外されます。DIR**および***STMF**オブジェクトのオープン、クローズ、および強制操作項目が除外されます。指定するオブジェクト上でのオープン、クローズ、および強制操作は、ジャーナル項目のオープン、クローズ、および強制を生成しません。これは、ジャーナル処理済み変更の適用(**APYJRNCHG**)コマンドで**TOJOB0**および**TOJOB0C**項目を使用できなくしますが、ジャーナル・レシーバーの一部の記憶域スペースを節約します。

注: 値***OPNCLOSYN**は、***FILE**、***DIR**、および***STMF**オブジェクトを除くすべてのオブジェクト・タイプで無視されます。

注: 値***OPNCLOSYN**は、***FILE**オブジェクトの場合の物理ファイルのジャーナル処理開始(**STRJRNPF**)コマンドの**OMTJRNE(*OPNCLO)**と同じです。

上

新オブジェクト,ジャーナル処理継承 (INHERIT)

ジャーナル処理済みディレクトリー内部で作成された、ジャーナル処理済みディレクトリーに移動された、あるいはジャーナル処理済みディレクトリーに復元された新規オブジェクトが、親ディレクトリーのジャーナル状態を継承するかどうかを指定します。

注: **INHERIT**パラメーターは、***DIR**オブジェクトを除くすべてのオブジェクト・タイプで無視されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO** ディレクトリー内部で作成された新規オブジェクトは、親ディレクトリーのジャーナル状態を継承しません。

***YES** ディレクトリー内部で作成された新規オブジェクトは、親ディレクトリーのジャーナル状態を継承します。

部分トランザクション (PTLTNS)

部分トランザクションに対する変更を含むオブジェクトを使用できるかどうかを指定します。

注: PTLTNSパラメーターは、*FILEオブジェクトを除くすべてのオブジェクト・タイプで無視されます。

*SAME

この値は変更されません。

*ALWUSE

部分トランザクションに対する変更を含むオブジェクトは、それが使用できるように変更されますが、部分トランザクション自体は完了されません。部分トランザクションのために保留中になっているオブジェクトに対するすべての変更は、オブジェクトの中に残されます。

注: *ALWUSEを指定する場合は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

継承規則 (INHRULES)

ジャーナル処理済みライブラリー内部で作成された、ジャーナル処理済みライブラリーに移動された、あるいはジャーナル処理済みライブラリーに復元されたオブジェクトの内、ライブラリーのジャーナル状態を継承するオブジェクトとそれらのオブジェクトのジャーナル処理属性を指定します。

各規則ごとに、その規則が適用するオブジェクト・タイプと操作を定義します。同じセットのオブジェクトで複数の規則を定義できます。同じオブジェクトと操作に対して複数の規則が定義されている場合は、そのオブジェクトに定義された最後の規則が適用されます。

注: QDFTJRNという名前のデータ域がライブラリー内に存在する場合、ライブラリー内に作成、移動、または復元されたオブジェクトはライブラリーのジャーナル状態を継承しません。この場合、ライブラリー内に作成、移動、および復元されたオブジェクトは、データ域情報に基づいて自動的にジャーナル処理を開始します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

要素1: オブジェクト・タイプ

この規則で特定されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

***ALL** この規則は、ジャーナル処理できるすべてのオブジェクト・タイプに適用されます。

***DTAARA**

この規則は、データ域に適用されます。

***DTAQ**

この規則は、データ待ち行列に適用されます。

***FILE** この規則は、データベース物理ファイルに適用されます。

要素2: 操作

この規則で特定される操作（複数可）を指定します。

***ALLOPR**

この規則は、ライブラリー内に作成、移動、または復元されたすべてのオブジェクトに適用されます。これは、値*CREATE, *MOVE,および*RESTOREを組み合わせたものです。詳細については、各値の説明を参照してください。

***CREATE**

この規則は、ライブラリー内に作成されたすべてのオブジェクトに適用されます。

***MOVE**

この規則は、ライブラリー内に移動されたすべてのオブジェクトに適用されます（これらがまだジャーナル処理されていない場合）。

***RESTORE**

この規則は、ライブラリー内に復元されたすべてのオブジェクトに適用されます。あるオブジェクトが現存するオブジェクト上で復元された場合、復元されたオブジェクトは、このオブジェクトの復元前に存在していたオブジェクトと同じジャーナル状態およびジャーナル処理属性を保持します。あるオブジェクトが保管の際にまったくジャーナル処理されなかった場合は、ライブラリー内に復元される際にそのオブジェクトのジャーナル処理が開始されます。一方、オブジェクトが保管の際にジャーナル処理されていた場合、このオブジェクトはまず最初に、保管時にジャーナル処理されたジャーナルへのジャーナル処理を開始しようと試みます。これは、保管時に保持していたジャーナル処理属性を使用して行われます。そのジャーナルが存在しない場合、オブジェクトは、この規則で定義されたジャーナル処理属性を使用してライブラリーをジャーナル処理するのと同じジャーナルにジャーナル処理を開始します。*RESTOREが指定された規則は、*RSTOVRJRNが指定された同じオブジェクト・タイプの直前の規則をオーバーライドします。

付随する規則処置が*OMITに設定され、オブジェクトが既存のオブジェクト上で復元されていない場合、復元されたオブジェクトは、このオブジェクトの保管時に保持していたものと同じジャーナル状態およびジャーナル処理属性を保持します。この場合、ライブラリーのジャーナル状態は無視されます。

***RSTOVRJRN**

この規則は、ライブラリー内に復元されたすべてのオブジェクトに適用されます。あるオブジェクトが現存するオブジェクト上で復元された場合、復元されたオブジェクトは、このオブジェクトの復元前に存在していたオブジェクトと同じジャーナル状態およびジャーナル処理属性を保持します。そうでない場合、オブジェクトはこの規則で定義されたジャーナル処理属性を使用して、ライブラリーをジャーナル処理するのと同じジャーナルにジャーナル処理を開始します。*RSTOVRJRNが指定された規則は、*RESTOREが指定された同じオブジェクト・タイプの直前の規則をオーバーライドします。

付随する規則処置が*OMITに設定され、オブジェクトが既存のオブジェクト上で復元されていない場合、復元されたオブジェクトは、このオブジェクトの保管時に保持していたものと同じジャーナル状態およびジャーナル処理属性を保持します。この場合、ライブラリーのジャーナル状態は無視されます。

要素3: 規則の処置

この規則のオブジェクト・タイプと操作に一致したオブジェクトをライブラリーのジャーナル状態を継承するオブジェクトのリストに組み込むか、あるいはこのリストから除外するかどうかを指定します。

***INCLUDE**

オブジェクト・タイプと操作に一致したすべてのオブジェクトがライブラリーのジャーナル状態を継承し、この規則で定義されたジャーナル処理属性を使用します。

***OMIT**

オブジェクト・タイプと操作に一致したすべてのオブジェクトはライブラリーのジャーナル状態を継承しません。これは*INCLUDEの指定を指定変更するもので、前に定義された規則のサブセットを除外するために使用されることになります。

要素4: イメージ

ライブラリーのジャーナル状態を継承するオブジェクトへの変更用のジャーナル・レシーバーに書き込むイメージの種類を指定します。

注: この要素は、規則処置に*OMITが指定されている場合は無視されます。

***OBJDFT**

オブジェクトがライブラリーのジャーナル状態を継承する際に、各オブジェクト・タイプごとの省略時の値がこのジャーナル処理属性に使用されます。データベース・ファイル(*FILE)では、システム(*BOTH)によって変更前イメージと変更後イメージの両方が生成されます。それ以外のすべてのオブジェクト・タイプでは、システム(*AFTER)によって変更後イメージのみが生成されます。

***AFTER**

変更後イメージのみがライブラリーのジャーナル状態を継承するオブジェクト用に生成されます。

***BOTH**

変更前イメージと変更後イメージの両方がライブラリーのジャーナル状態を継承するオブジェクト用に生成されます。

注: 値*BOTHが有効なのは、データ域(*DTAARA)およびデータベース・ファイル(*FILE)オブジェクトの場合だけです。*BOTHが指定され、さらにオブジェクト・タイプで*ALLが指定されている場合、システムは、データ域とデータベース・ファイルで変更前イメージと変更後イメージの両方を生成します。それ以外のすべてのオブジェクト・タイプは、変更後イメージのみを生成します。

要素5: ジャーナル項目の省略

ライブラリーのジャーナル状態を継承するオブジェクトで除外されるジャーナル項目を指定します。

注: この要素は、規則処置に*OMITが指定されている場合は無視されます。

***OBJDFT**

オブジェクトがライブラリーのジャーナル状態を継承する際に、各オブジェクト・タイプごとの省略時の値がこのジャーナル処理属性に使用されます。データベース・ファイル(*FILE)は、オープン項目とクローズ項目を除外します。それ以外のオブジェクト・タイプはジャーナル項目を除外しません。

***NONE**

ライブラリーのジャーナル状態を継承するオブジェクトのジャーナル項目は除外されません。

***OPNCLO**

ライブラリーのジャーナル状態を継承するデータベース・ファイル(*FILE)オブジェクトのオープンおよびクローズ項目が除外されます。これは、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドでTOJOB0およびTOJOB0C項目を使用できないようにしますが、ジャーナル・レシーバーの一部の記憶スペースを節約します。

注: 値*OPNCLOは、データベース・ファイル(*FILE)に限り有効です。 *OPNCLOが指定され、さらにオブジェクト・タイプで*ALLが指定されている場合、データベース・ファイルはオープンおよびクローズ項目を除外します。それ以外のすべてのオブジェクト・タイプはジャーナル項目を除外しません。

上

例

例1: ファイルのジャーナル処理属性IMAGESの変更

```
CHGJRNOBJ OBJ((LIBA/FILEA *FILE)) ATR(*IMAGES) IMAGES(*BOTH)
```

このコマンドは、ファイルのジャーナル処理を終了してから開始する必要なしに、ライブラリーLIBAのファイルFILEAの属性を、今後そのファイルの変更前イメージと変更後イメージの両方をジャーナル処理するように変更します。

例2: ファイルのジャーナル処理属性OMTJRNEの変更

```
CHGJRNOBJ OBJ((LIBB/FILEB *FILE)) ATR(*OMTJRNE) OMTJRNE(*OPNCLOSYN)
```

このコマンドは、今後オープンおよびクローズ項目を除外するように、ライブラリーLIBBのファイルFILEBの属性を変更します。

例3: オブジェクトのジャーナル処理属性OMTJRNEの変更

```
CHGJRNOBJ OBJFID(000000000000000007E09BDB000000009)
          ATR(*OMTJRNE) OMTJRNE(*OPNCLOSYN)
```

このコマンドは、今後オープン、クローズ、および強制操作項目を除外するように、指定されたファイルIDによって表されるオブジェクトの属性を変更します。このオブジェクトは、タイプ*DIRまたは*STMFのオブジェクトとすることができます。

例4: ファイル属性PTLTNSの変更

```
CHGJRNOBJ OBJ((LIBC/FILEC *FILE)) ATR(*PTLTNS) PTLTNS(*ALWUSE)
```

このコマンドは、ファイルを再度使用できるが、部分トランザクション自体は完了しないように、ファイルを変更します。この方式を使用する必要があるのは、ジャーナル処理済み変更の適用または除去によってはファイルを回復できないようなまれな環境の場合だけであるはずです。

例5: ライブラリーのジャーナル処理属性INHRULESの変更

```
CHGJRNOBJ OBJ((LIBD *LIB)) ATR(*INHRULES)
          INHRULES((*FILE *CREATE *INCLUDE *BOTH *NONE))
```

このコマンドは、ライブラリーの継承規則を変更して、ライブラリーLIBDに作成されたすべてのデータベース・ファイルのジャーナル処理が、LIBDをジャーナル処理する場合と同じジャーナルに自動的に開始されるようにします。これらのファイルは、IMAGES(*BOTH)およびOMTJRNE(*NONE)を使用してジャーナル処理されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7057

*LIBLでは*ALL, *ALLLIB,または総称名は使用できません。

CPF70B1

&2個のオブジェクトのうち&1個が変更された。

CPF70B2

&2をATR(*&1)と一緒に指定することはできない。

CPF70B3

PTLTNSパラメーターの使用は認可されていない。

上

JAVAプログラムの変更 (CHGJVAPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVAプログラム変更(CHGJVAPGM)コマンドは、JAVAクラス、ZIP、またはJARファイルに接続されるJAVAプログラムの属性を変更します。このコマンドはまた、オペレーティング・システムの現行レベルの日付になるようにJavaプログラムを再作成します。

CHGJVAPGMは既存のJAVAプログラムだけを置き換えます。実行時にJAVAプログラムが暗黙に作成されるので、JAVAプログラムでZIPまたはJARファイルの一部のクラスだけを表すことが可能です。このコマンドはすでに存在するプログラムを変更するだけです。ZIPまたはJARファイルのすべてのクラスのプログラムを作成する場合は、CRTJVAPGMコマンドを使用することができます。

制約事項:ファイルは次のファイル・システムの1つに入っていないければなりません: QOPENSYS,"ROOT", またはユーザー定義ファイル・システム。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CLSF	クラス・ファイルまたはJARファイル	パス名	必須、定位置 1
OPTIMIZE	最適化	10, *INTERPRET, 20, 30, 40, *SAME	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能	*NONE, *ENTRYEXIT, *FULL, *SAME	オプション
PRFDTA	プロファイリング・データ	*SAME, *NOCOL, *COL, *CLR, *APY	オプション
MERGE	マージ	*YES, *RPL	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
LICOPT	LICオプション	文字値, *OPTIMIZE, *SAME	オプション

上

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)

JAVAプログラムを変更する元になるクラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイルの名前を指定します。ファイル名は1つまたは複数のディレクトリー名によって修飾することができます。

クラス・ファイル名

使用するクラス・ファイル (1つまたは複数) を識別するクラス・ファイルの名前またはパターンを指定してください。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたクラス・ファイル名の例は、'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASSNAME.CLASS'です。パターンの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASS*.CLASS'です。

JARファイル名

使用するJARまたはZIPファイル（1つまたは複数）を識別するJAVAアーカイブ(JAR)ファイルの名前またはパターンを指定してください。ファイル名が'.JAR'または'.ZIP'で終わっていると、ファイルはJARファイルであると見なされます。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたJARファイル名の例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPPNAME.JAR'です。パターンの例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPP*.ZIP'です。

上

最適化 (OPTIMIZE)

JAVAプログラムの最適化レベルを指定します。

バージョン6リリース1モディフィケーション0のオペレーティング・システムの場合、このパラメーターの値は無視され、OPTIMIZE(*INTERPRET)が使用されます。

V6R1M0以降のJavaプログラムには、マシン・インストラクションは含まれません。Javaプログラムには、事前検証済みの内部形式の1つまたは複数のJAVAクラスが含まれます。実行時、Javaプログラムはバイトコードから解釈されるか、さもなければJust In Time (JIT)コンパイラーによって実行されます。

V6R1M0以前のターゲット・リリースに作成されたJavaプログラムの場合、OPTIMIZEパラメーターは、Javaプログラムのカプセル化された最適化レベルを変更するために使用できます。OPTIMIZEパラメーターのカプセル化された値は、ターゲット・リリースのオペレーティング・システムでのJavaプログラムの再変換のときに使用されます。

*SAME

プログラム最適化属性は変更されません。

- 10 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入りますが、最小限の追加コンパイラー最適化しか行われません。変数は、デバッグ中に表示および変更することができます。

*INTERPRET

作成されたJAVAプログラムには、機械固有の命令は入っていません。Javaプログラムは、その開始時にバイトコードから解釈されるか、JITコンパイラーによって実行されます。変数は、デバッグ中に表示および変更することができます。

- 20 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入り、一部の追加コンパイラー最適化が行われます。変数は、デバッグ中に表示できますが、変更することはできません。
- 30 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入り、最適化レベル20より多くのコンパイラー最適化が行われます。デバッグ・セッション中に、ユーザー変数を変更することはできませんが、表示することはできます。表示される値は、その変数の現在の値でない可能性があります。
- 40 Javaプログラムには、クラス・バイトコードのコンパイルされたバージョンが入り、最適化レベル30より多くのコンパイラー最適化が行われます。プログラム呼び出しおよび命令トレースはすべて使用不可になります。

上

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)

パフォーマンス・データの収集を使用可能にするかどうかを指定します。

V6R1M0以降のターゲット・リリースに作成されたJavaプログラムの場合、この値は無視され、ENDPFCOL(*NONE)が使用されます。

V6R1M0以前のターゲット・リリースに作成されたJavaプログラムの場合、次の値を指定できますが、値*ENTRYEXITおよび*FULLは、Javaプログラムがターゲット・リリースのオペレーティング・システムで再変換されるまで効力をもちません。

*SAME

パフォーマンス・データ収集属性は変更されません。

*NONE

パフォーマンス・データの収集は使用可能にされません。パフォーマンス・データは収集されません。

*ENTRYEXIT

プロシージャーの入り口および出口に関するパフォーマンス・データが収集されます。

*FULL

プロシージャーの入り口および出口に関するパフォーマンス・データが収集されます。パフォーマンス・データは、外部プロシージャーへの呼び出し前後にも収集されます。

上

プロファイリング・データ (PRFDTA)

PRFDTAパラメーターが範囲外の日付になっています。パラメーター値は無視され、PRFDTA(*NOCOL)が使用されます。

*SAME

*SAMEは、以前のバージョンオペレーティング・システムとの互換性を保つためにのみ提供されるものです。無視され、*NOCOLが使用されます。

*NOCOL

JAVAプログラムはプロファイル作成データを収集できません。

***COL** *COLは、以前のバージョンオペレーティング・システムとの互換性を保つためにのみ提供されるものです。無視され、*NOCOLが使用されます。

***CLR** *CLRは、以前のバージョンオペレーティング・システムとの互換性を保つためにのみ提供されるものです。無視され、*NOCOLが使用されます。

***APY** *APYは、以前のバージョンオペレーティング・システムとの互換性を保つためにのみ提供されるものです。無視され、*NOCOLが使用されます。

上

マージ (MERGE)

JAVAアーカイブ(JAR)ファイルに接続されたJAVAプログラムを可能な最少数のJAVA プログラムとマージするかどうかを指定します。JAVAクラス・ファイルを処理する場合には、このパラメーターは無視されません。

***RPL** JARファイルに接続されたJAVAプログラムを、他の属性が変更されるので、JAVAプログラムを再作成して置き換える必要がある場合にだけ組み合わせるように指定します。属性が変更されず、JAVAプログラムを再作成して置き換える必要がない場合には、JAVAプログラムの組み合わせは行われません。

***YES** JARファイルに接続されたすべてのJAVAプログラムを、可能な最少数のJAVAプログラムと組み合わせます。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

CLSFPキーワードと一致するファイルを探そうとするときにディレクトリー・サブツリーを処理するかどうかを指定します。

***NONE**

オブジェクト名のパターンと一致するファイルのみを処理します。サブツリーは処理されません。ディレクトリーにサブディレクトリーが含まれている場合には、サブディレクトリーもサブディレクトリー内のオブジェクトも処理されません。

***ALL** CLSFPパラメーターに指定された名前と一致するファイル用のJAVAプログラムを変更するために、CLSFPに指定されたパスのサブツリー全体が処理されます。

上

LICオプション (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターによって、個々のコンパイル時オプションを選択することができます。これは、選択された各タイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解している上級プログラマー用です。

有効な値は次の通りです。

***SAME**

再作成が不要の場合には、ライセンス内部コード・オプションは変更されません。その他のパラメーター値によってオブジェクトが再作成される場合には、既存ライセンス内部コード・オプションが、再作成への入力として使用されます。その他のパラメーター値と条件に依存している、入力LICOPT値のすべてが有効になるわけではありません。

***OPTIMIZE**

OPTIMIZEパラメーターで指定された最適化レベルと暗黙に関連づけられているコンパイル時オプションの設定を使用します。OPTIMIZE(*INTERPRET)が指定された場合には、コンパイル時最適化は実行されません。

☒ライセンス内部コード・オプション・ストリング☒

JAVAプログラム・オブジェクトの作成時には、選択されたライセンス内部コード・コンパイル時最適化オプションが使用されます。ある種のオプションでは、作成されたJAVAプログラムのデバッグ能力が低下する場合があります。

注: LICOPTオプションに関する追加情報はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「Java 開発キット (JDK)」トピック・コレクションに記載されています。

上

例

例1:Javaプログラムの再作成

```
CHGJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')
           OPTIMIZE(*INTERPRET)
```

このコマンドは、クラス・ファイルmyJavaclassnameに関連したJavaプログラムを再作成し、オペレーティング・システムの現行レベルと一致させます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB524

&1 JAVA PGMが作成され、&4個はエラーがあった。&2 JAVA PGMが現行のものでした。&3 JAVA PGMは作成されませんでした。

JVAB532

"&1"についてJAVAプログラムを作成することができません。

JVAB535

監視されていない例外を受け取った。

上

キーボード・マップ変更 (CHGKBDMAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

キーボード・マップ変更(CHGKBDMAP)コマンドによって、ユーザーはPA（プログラム・アテンション）およびPF（プログラム機能）キーの割り当ての省略時の値を変更することができます。このコマンドは、指定されたF-PFマップを、コマンドを入力した装置に（3270ワークステーション装置の場合）、あるいは指定された3270ワークステーションの権限がユーザーにある場合にはその装置に変更します。ユーザー割り当て可能キーボード・マッピングの詳細は、REMOTE WORK STATION SUPPORT (SC41-5402)ブックにあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	名前, *REQUESTER	オプション, 定位置 1
PF1	PF1キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF2	PF2キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF3	PF3キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PF4	PF4キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PF5	PF5キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PF6	PF6キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PF7	PF7キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PF8	PF8キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PF9	PF9キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PF10	PF10キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF11	PF11キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF12	PF12キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF13	PF13キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF14	PF14キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF15	PF15キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PF16	PF16キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプションナル
PF17	PF17キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプションナル
PF18	PF18キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプションナル
PF19	PF19キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプションナル
PF20	PF20キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプションナル
PF21	PF21キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PF22	PF22キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF23	PF23キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PF24	PF24キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA1PF1	PA1-PF1キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA1PF2	PA1-PF2キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA1PF3	PA1-PF3キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PA1PF4	PA1-PF4キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA1PF5	PA1-PF5キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA1PF6	PA1-PF6キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA1PF7	PA1-PF7キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA1PF8	PA1-PF8キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA1PF9	PA1-PF9キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PA1PF10	PA1-PF10キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA1PF11	PA1-PF11キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA1PF12	PA1-PF12キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA2PF1	PA2-PF1キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA2PF2	PA2-PF2キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション
PA2PF3	PA2-PF3キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PA2PF4	PA2-PF4キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA2PF5	PA2-PF5キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA2PF6	PA2-PF6キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA2PF7	PA2-PF7キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA2PF8	PA2-PF8キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル
PA2PF9	PA2-PF9キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	ノート
PA2PF10	PA2-PF10キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプション
PA2PF11	PA2-PF11キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプション
PA2PF12	PA2-PF12キーの値	*ATTN, *HELP, *HLP3270, *CLEAR, *PRINT, *DSPATR, *TEST, *DOWN, *UP, *NONE, *RESET, *SYSREQ, *BCKSPC, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, <u>*SAME</u>	オプション

上

装置 (DEV)

キーボード・マッピング・コマンドを使用してキーボードの変更を割り当てる有効な3270表示装置を指定します。コマンドを入力する前に、指定の装置に対する割り振り権限が必要です。プログラム環境で、このコマンドを入力する前に、ユーザーは指定の装置を獲得するか、あるいは割り振るかいずれかの必要があります。

考えられる値は、次の通りです。

*REQUESTER

これらのPFキーの変更は、コマンドを入力した装置に割り当てられます。

装置名 新しいキーボード・マッピングを適用する装置の名前を指定します。指定する装置に対して割り振り権限をもっていなければなりません。

上

PF1キーの値 (PF1)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

F1-F24****

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF2キーの値 (PF2)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF3キーの値 (PF3)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF4キーの値 (PF4)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF5キーの値 (PF5)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF6キーの値 (PF6)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF7キーの値 (PF7)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF8キーの値 (PF8)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF9キーの値 (PF9)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF10キーの値 (PF10)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF11キーの値 (PF11)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF12キーの値 (PF12)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF13キーの値 (PF13)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF14キーの値 (PF14)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF15キーの値 (PF15)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF16キーの値 (PF16)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF17キーの値 (PF17)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF18キーの値 (PF18)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF19キーの値 (PF19)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF20キーの値 (PF20)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PF21キーの値 (PF21)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF22キーの値 (PF22)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF23キーの値 (PF23)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PF24キーの値 (PF24)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA1-PF1キーの値 (PA1PF1)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF2キーの値 (PA1PF2)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

*DOWN

前ページ

*UP 次ページ

*NONE

割り当てなし

*RESET

エラー・リセット

*SYSREQ

システム要求

*BCKSPC

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-*F24

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF3キーの値 (PA1PF3)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF4キーの値 (PA1PF4)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA1-PF5キーの値 (PA1PF5)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF6キーの値 (PA1PF6)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF7キーの値 (PA1PF7)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF8キーの値 (PA1PF8)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA1-PF9キーの値 (PA1PF9)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF10キーの値 (PA1PF10)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-***F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした**3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて**、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF11キーの値 (PA1PF11)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA1-PF12キーの値 (PA1PF12)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA2-PF1キーの値 (PA2PF1)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF2キーの値 (PA2PF2)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF3キーの値 (PA2PF3)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF4キーの値 (PA2PF4)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA2-PF5キーの値 (PA2PF5)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF6キーの値 (PA2PF6)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

*ATTN

アテンション

*F1-*F24

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF7キーの値 (PA2PF7)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

*HELP

5250ヘルプ

*HLP3270

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

*CLEAR

画面消去

*PRINT

画面印刷

*DSPATR

組み込み表示属性

*TEST

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF8キーの値 (PA2PF8)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-.*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

PA2-PF9キーの値 (PA2PF9)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

UP** 次ページNONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー

- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP、*HLP3270、*RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP、*HLP3270、*RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当ててはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF10キーの値 (PA2PF10)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることができる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF11キーの値 (PA2PF11)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-*F24**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

上

PA2-PF12キーの値 (PA2PF12)

有効な各キーまたはキー順は、注釈された制約事項を除いて、任意の機能を割り当てることのできる独立したパラメーターです。個々のキーまたはキー順に機能を指定しない場合には、現在そのキーまたはキー順に割り当てられている機能が変わりません。

割り当て可能な機能は次の通りです。

***HELP**

5250ヘルプ

***HLP3270**

3270ヘルプ・テキスト（活動状態のキーボード・マップの表示）

***CLEAR**

画面消去

***PRINT**

画面印刷

***DSPATR**

組み込み表示属性

***TEST**

テスト要求

***DOWN**

前ページ

***UP** 次ページ

***NONE**

割り当てなし

***RESET**

エラー・リセット

***SYSREQ**

システム要求

***BCKSPC**

レコード後退

***ATTN**

アテンション

***F1-~~*F24~~**

F1キーからF24キーまでの機能キー

制約事項:

*HELP, *HLP3270, *RESETは、次の機能キーの12個のキーのセットのいずれかに割り当てなければなりません。

- PF1キーからPF12キー
- PA1/PF1キーからPF12キー
- PA2/PF1キーからPF12キー

3270表示装置サポートを正しく機能させるためには、*HELP, *HLP3270, *RESETの各機能は必須です。3270のキーボードには24個のPFキーがないものもあるため、*HELP, *HLP3270, *RESETは、前にリストした3つのセットのいずれかに割り当てられている場合を除いて、PF13キーからPF24キーまでのキーに割り当てないようにします。

また、3つのセットの1つに*F1および*SYSREQの両方を割り当てるようお奨めします。

値*ATTNは、リモート接続の3270表示装置に明示的に割り当てることはできません。省略時の値*ATTNがとられると、値*NONEに置き換えられます。しかし、値*ATTNを明示的に選択した場合は診断メッセージが送られます。

例

CHGKBDMAP PF1(*F1) PA1PF1(*HELP)

このコマンドは、1つまたは2つのPFキー割り当てを除いて、ユーザーが一般的にキーボード・マッピング（省略時マッピングまたはユーザー定義マッピングのいずれか）に満足している場合に使用することになります。他のPFキー・シーケンスはこのコマンドの影響を受けません。また、上記のコマンドはアプリケーションを開始したプログラム中で開始する（アプリケーションの実行のためにワークステーションを調整する）こともできます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8701

指定された装置&1が3270装置タイプでない。

CPF8702

&1機能キーが正しく定義されていない。

CPF8703

装置&1の準備ができていない。

Kerberosパスワードの変更 (CHGKRBPWD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

Kerberosパスワードの変更(CHGKRBPWD)コマンドは、指定されたKerberosプリンシパルのパスワードを変更します。

制約事項:

- プリンシパルが新しいパスワードに必要な文字長または文字数などの規則を示すポリシーで管理されている場合、新しいパスワードはそのポリシーに適合する必要があります。
- CHGKRBPWDコマンドを使用して発券サービスのプリンシパルのパスワードを変更することはできません。

ネットワーク認証サービスのコマンドおよびAPIは、大部分のEBCDIC CCSIDのジョブ環境に対応しています。CCSID 290および5026については、小文字aからzが一致しないため、サポートされません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRINCIPAL	プリンシパル	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	文字値	
	要素 2: レルム	文字値, *DFT	
CURPWD	現行パスワード	文字値	必須, 定位置 2
NEWPWD	新しいパスワード	文字値	必須, 定位置 3
VFYPWD	確認パスワード	文字値	必須, 定位置 4
ADRLST	宛先リスト収容オブジェクト	*YES , *NO	オプション

上

プリンシパル (PRINCIPAL)

Kerberosネットワークにおけるホスト名のユーザーまたはサービス・プリンシパルのプリンシパル名を指定します。keytabファイルのプリンシパルと鍵のペアを使用すると、ホスト上で実行するサービスが鍵配布センター(KDC)で認証されるようにすることができます。この場合、Kerberosレルム内のすべてのユーザーおよびサービスのデータベースを保守するKerberosサーバーにすべてのプリンシパルが追加されます。

これは必須パラメーターです。

要素1: 名前

指定されたホスト名のプリンシパル名またはサービス・プリンシパルを指定します。

文字値 Kerberosプリンシパルのユーザー名を指定します。

Kerberosプリンシパルの最小長は1文字、最大長は256文字です。有効文字には大／小文字の区別があり、すべての英数字(a-z, A-Z, 0-9)および印刷可能なASCII文字が含まれます。プリンシパル名の形式は、Kerberos 5 GSS-APIメカニズム(RFC 1964)から引き出されたものです。

使用できる特殊文字は次のとおりです。

/一名前の構成要素を区切ります。

要素2: レルム

Kerberosユーザーが登録されていて、初期の認証が行われたレルムを指定します。

***DFT** ローカル・システムの省略時のレルムが使用されます。通常、省略時のレルムとそのレルムのKDCは、Kerberos krb5.conf構成ファイルに示されます。省略時のレルムが設定されていない場合は、Kerberos構成ファイルの「libdefaults」セクションにあるdefault_realm項目から取得されます。

文字値 このパラメーターの最初の要素に指定されたユーザーが登録されているKerberosレルムの名前を指定します。

この名前の最小長は1文字、最大長は256文字です。有効文字には大／小文字の区別があり、すべての英数字(a-z, A-Z, 0-9)および印刷可能なASCII文字が含まれます。プリンシパル名の形式は、Kerberos 5 GSS-APIメカニズム(RFC 1964)から引き出されたものです。

使用できる特殊文字は次のとおりです。

@-レルムを開始します。

上

現行パスワード(CURPWD)

指定されたプリンシパルの現行パスワードを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 パスワード値を指定します。

上

新しいパスワード(NEWPWD)

指定されたプリンシパルの新しいパスワードを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 新しいパスワード値を指定します。

上

確認パスワード(VFYPWD)

新しいパスワードを再度指定します。

このパラメーターに指定する値が新しいパスワード (NEWPWD)パラメーターに指定した値と異なる場合、コマンドは失敗し、パスワードは変更されません。

これは必須パラメーターです。

文字値 新しいパスワード値を再度指定します。

上

宛先リスト収容オブジェクト (ADRLST)

このコマンドで 사용되는初期チケットにローカル・ホスト・アドレスをアドレス指定するクライアントのリストを含めるかどうかを指定します。初期チケットにアドレス・リストを含めると、このチケットは、そのアドレス・リストに記載されたいずれかのアドレスからの使用に限定されます。

***YES** チケットにアドレス・リストが含まれます。

***NO** チケットにはローカル・ホスト・アドレスのみが含まれます。

上

例

例1:Kerberosプリンシパルのパスワードの変更

```
CHGKRBPWD PRINCIPAL('jday' myco.com) CURPWD('myoldpwd')
           NEWPWD('mynewpwd') VFYPWD('mynewpwd')
```

このコマンドは、レルムmyco.comにあるユーザー名jdayのKerberosプリンシパルのパスワードを'myoldpwd'から'mynewpwd'に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFC60B

初期信任状を獲得できません。

CPFC60E

パスワードがプリンシパルに正しくありません。

CPFC610

省略時の信任状キャッシュが見つかりません。

CPFC615

パスワードを読み取ることができません。

CPFC616

プリンシパル&1が無効です。

CPFC617

パスワード変更要求が取り消されました。

CPFC618

パスワード変更要求が失敗しました。

上

LANアダプター情報の変更 (CHGLANADPI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター情報変更(CHGLANADPI)コマンドは、アダプター・ファイルのアダプター名項目を変更します。

省略時の名前が変更されるアドレスと関連付けられている場合には、その省略時の名前も新しいアドレスを反映するように変更されます。省略時の名前は、アダプター・アドレスの最後の9桁に接頭部として文字Dをつけたものです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ADPTNAME	アダプター	名前	必須、定位置 1
ADPTADR	アダプター アドレス	000000000001-7FFFFFFFFF, *SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

アダプター (ADPTNAME)

アダプター・ファイルの変更するアダプターの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

アダプターアドレス (ADPTADR)

12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

アダプター・アドレス

変更するアダプター・アドレスを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLANADPI ADPTNAME (ACCOUNTING) ADPTADR (00000000110F)
```

このコマンドは、アダプターACCOUNTINGのアドレスを0000000110Fに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B71

変更が正常に実行されなかった。アダプター&29はネットワーク・アダプター・ファイルにすでに存在しています。

CPF8B72

変更が正常に実行されなかった。ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター&29が見つかりません。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

上

論理ファイル変更 (CHGLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

論理ファイル変更(CHGLF)コマンドは、論理ファイルおよびそのメンバーの属性を変更します。追加操作にその他の値が指定されるか省略時値に設定されない限り、それ以後にファイルに追加されたすべてのメンバーに対して、変更された属性が使用されます。特定のメンバーの属性を変更するためには、論理ファイル・メンバー変更(CHGLFM)コマンドを使用してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	論理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 論理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション, キー
FRCRBDAP	アクセス・パスの強制再作成	*NO, *YES	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, *SAME, *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	*SAME, *MAX4GB, *MAX1TB	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	*SAME, *IMMED, *REBLD, *DLY	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*SAME, *NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACCPH	強制キー順アクセス・パス	*SAME, *NO, *YES	オプション
UNIT	入りたい記憶装置	1-255, *SAME, *ANY	オプション
FMISLR	レコード様式選択プログラム	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: レコード様式選択プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, *SAME, *NONE	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

論理ファイル (FILE)

変更される論理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: 分散データ管理機能(DDM)ファイルが指定された場合には、論理ファイルおよびリモート・システムはそのDDMファイルに入っています。詳細については、システム(SYSTEM)パラメーターの説明を参照してください。

修飾子1: 論理ファイル

名前 論理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

システム (SYSTEM)

論理ファイルをローカル・システムで変更するかあるいはリモート・システムで変更するか、そのいずれかを指定します。

***LCL** 論理ファイルはローカル・システムで変更されます。

***RMT** 論理ファイルは分散データ管理機能(DDM)を使用しているリモート・システムで変更されます。論理ファイル(FILE)パラメーターに指定する論理ファイル名は、DDMファイル(CRTDDMFコマンドで作成)の名前でなければなりません。このDDMファイルには、変更する論理ファイルの名前およびそのファイルを変更するリモート・システムの名前が入っています。

*FILETYPE

FILEパラメーターで指定された名前がDDMファイルである場合には、DDMファイルのCRTDDMFコマンドのリモート・ロケーション(RMTLOCNAME)パラメーターで指定されたリモート・システム上の論理ファイルが変更されます。FILEパラメーターで指定された名前がDDMファイルでない場合には、ローカル・システムの論理ファイルが変更されます。

上

アクセス・パスの強制再作成 (FRCRBDAP)

結合論理ファイルまたはキー順アクセス・パスをもつファイルに関連したアクセス・パスの再作成を強制するかどうかを指定します。

注: 結合論理ファイルの場合には、結合論理ファイルがキー付きファイルでなくても、このパラメーターはすべての結合2次アクセス・パスに適用されます。

***NO** アクセス・パスは、再作成しなければならないものとして明示的にマークされることはありません。

***YES** アクセス・パスは無効としてマークされ、データベース・サーバー・ジョブとは非同期的に再作成されます。

上

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

論理ファイルが任意の時点でもつことのできるメンバーの最大数を指定します。指定するメンバーの最大数は、ファイルのメンバーの現在数より大きいか等しくなければなりません。

***SAME**

メンバーの最大数は変更されません。

***NOMAX**

メンバーの数に最大数は指定されません。ファイル当たり32767個のメンバーというシステムの最大値が使用されます。

整数 論理ファイルがもつことのできるメンバーの最大数を示す値を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

上

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

次の種類のアクセス・パスで占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。

- キー順アクセス・パスをもつデータベース・ファイルと対応したアクセス・パス。
- 参照制約または固有制約のために作成され、物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドによってこのファイルに追加できるアクセス・パス。

このファイルの値を変更すると、そのファイルによって所有されているアクセス・パスが再作成されることになります。

注: このパラメーターは、ファイル中のデータを参照する照会用に作成されているアクセス・パスには適用されません。

パフォーマンスのヒント

最適なパフォーマンスのためには、このパラメーターを選択する時に、アクセス・パスのキーの競合が頻発するかどうかを考慮してください。

- キーの競合が少ない、または起きない場合には、*MAX4GBを指定すると良好なパフォーマンスが得られます。
- キーの競合が頻発する場合には、一般には*MAX1TB値を指定すると良好なパフォーマンスが得られません。

***SAME**

値は変更されません。

***MAX4GB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助

記憶域を占有することができます。この値はオペレーティング・システムのバージョン3リリース6
モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を提供します。

***MAX1TB**

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

上

アクセス・パスの保守 (MAINT)

論理ファイルのすべてのメンバーに対して使用されるアクセス・パスのメンテナンスのタイプを指定します。このパラメーターはキー付きファイルまたは結合ファイルの場合にだけ有効です。

注: 結合論理ファイルの場合には、このパラメーターは、結合ファイルがキー付きファイルでない場合であってもすべての結合2次アクセス・パスに適用されます。

***SAME**

ファイルのアクセス・パスのメンテナンスは変更されません。

***IMMED**

アクセス・パスは、各論理ファイル・メンバーごとに連続して(ただちに)保守されます。アクセス・パスは、レコードが変更、追加、またはメンバーから削除されるたびに変更されます。論理ファイルがオープンされているか、クローズされているかに関係なく、データを含む物理ファイル・メンバーを使用する論理ファイルを介してレコードが変更されます。すべての挿入および更新操作の固有性を保証するには、固有キーの必要なすべてのファイルに*IMMEDを指定します。

***REBLD**

ファイル・メンバーがオープンされる時に、アクセス・パスが再作成されます。アクセス・パスの保守は、メンバーがクローズされるまで、継続的に行われます。メンバーがクローズされると、アクセス・パスの保守も終了します。*REBLDは、固有キー値を含むアクセス・パスには有効ではありません。

***DLY** アクセス・パスの保守は、使用するためにメンバーがオープンされるまで遅延されます。ファイルが最後にクローズされてから追加、削除、または変更されたレコードのアクセス・パスだけが変更されます。*DLYは固有のキー値が必要なアクセス・パスには正しくありません。

上

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パスに即時メンテナンスまたは遅延メンテナンスをもつファイルについて、アクセス・パスの変更中にシステム障害が起こった場合にファイルの回復処理がいつ行われるかを指定します。このパラメーターは、キー順アクセス・パスが使用される場合にだけ有効です。

***SAME**

ファイルの回復属性は変更されません。

***NO** ファイルのアクセス・パスは再作成されません。ファイルのアクセス・パスが正しくない場合には、ファイルのオープン時に再作成されます。

***AFTIPL**

IPL操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションにより、このファイルを使用しない他のジョブはIPLの完了後直ちに処理を開始することができます。

- *IPL** IPL操作時にファイルのアクセス・パスが再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがこのファイルのアクセス・パスの使用を試みる前にこのファイルのアクセス・パスが再作成されますが、*IPLを指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでジョブは開始されません。

上

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

キー順アクセス・パスをもつファイルの場合のみ、アクセス・パスの変更がファイル中の関連レコードとともに補助記憶域に強制的に書き出されるかどうかを指定します。*YESを指定すると、異常終了によってアクセス・パスが損傷し、そのためにその後でアクセス・パスを再作成しなければならない公算が最小限に抑えられます（ただし、除去はされません）。

***SAME**

ファイルの強制アクセス・パス属性は変更されません。

- *NO** アクセス・パスが変更されても、変更済みアクセス・パスおよび変更済みレコードは補助記憶装置には強制書き出しされません。
- *YES** アクセス・パスが変更されるたびに、変更済みアクセス・パスおよび変更済みレコードが補助記憶装置に強制書き出しされます。この値が指定された場合には、**アクセス・パスの保守 (MAINT)**パラメーターで*REBLDを指定してはなりません。

上

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

上

レコード様式選択プログラム (FMTSLR)

論理ファイル・メンバーに複数の論理レコード様式が入っている時に呼び出されるレコード様式選択プログラムを指定します。レコードをデータベース・ファイルに挿入する時、およびレコード様式名が高水準言語プログラムに含まれていない時に、ユーザー作成選択プログラムが呼び出されます。このパラメーターは、論理ファイルにレコード様式が1つしかない場合には正しくありません。

単一値

***SAME**

呼び出される選択プログラムは変更されません。

***NONE**

この論理ファイル用のセレクターはありません。ファイルは、複数の論理レコード様式を持つことはできません。また、高水準言語プログラム自体にレコード様式名が指定されていなければなりません。

修飾子1: レコード様式選択プログラム

名前 レコードが複数の様式をもつメンバーに挿入される時に呼び出される様式選択プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助（永続）記憶域に強制書き出しする前に処理する挿入、変更、または削除済みレコードの数を指定します。論理ファイルに対して指定する強制書き出し率は、その物理ファイルの最小強制書き出し率より小さいか等しくなります。これより大きい強制書き出し率を指定した場合には、それが無視され、処置を通知するメッセージが出されます。この論理ファイルと関連した物理ファイルをジャーナルに記録する場合には、もっと大きい強制書き出し率または*NONEを指定するようお奨めします。

***SAME**

ファイルの強制書き出し率は変更されません。

***NONE**

強制書き出し率はありません。レコードが補助記憶装置にいつ書き出されるかは、システムが決定します。

整数 補助記憶装置に強制的に書き出される前に処理される新しいレコードまたは変更されたレコードの数を指定してください。

上

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源およびセッション資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源が割り振られなかった場合には、プログラムにエラー・メッセージが送られます。

注: ファイルに対する獲得操作の実行時には、装置資源による装置の即時割り振りが必要です。

***SAME**

ファイルの待機属性は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** クラス記述に指定された省略時の待機時間が、割り振られるファイル資源の待機時間として使用されます。

1から32767

プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。

上

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムが変更または削除されるレコードを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内に当該レコードが割り振られない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***SAME**

ファイルのレコード待機属性は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。レコードがロックされた時には、レコードの即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムによって許容された最大値(32,767秒)です。

1から32767

プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***SAME**

メンバーのODP共用値は変更されません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

ファイルのオープン時にプログラム内のレコード様式レベルIDが論理ファイルのものに対して検査されるかどうかを指定します。検査される場合には、プログラム内のレコード様式IDが論理ファイルのものと一致していなければなりません。この値は、実行時にデータベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドによって一時変更することができます。

*SAME

メンバーのレベル検査の値は変更されません。

***YES** ファイルのオープン時にレコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDが一致しない場合には、オープン操作を要求したプログラムにエラー・メッセージが送られ、ファイルはオープンされません。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

ファイルを記述するテキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1:様式選択プログラムの変更

```
CHGLF FILE(QGPL/INV) FMTSLR(INVFMTS)
```

このコマンドは、QGPL中にある論理ファイルINVを変更します。結果は論理ファイルで使用されている新しい様式選択プログラムINVFMTSとなります。様式選択プログラムを見つけるには、*LIBLが使用されません。

例2:リモート・システムにあるファイルの変更

```
CHGLF FILE(QGPL/DDMF) FMTSLR(INVFMTS) SYSTEM(*RMT)
```

このコマンドは、リモート・システム上のQGPLライブラリーにあるファイルINVの様式選択プログラムを変更します。このコマンドを指定する場合には、その前にこのユーザーがコマンドCRTDDMF FILE(QGPL/DDMF) RMTFI LE(QGPL/INV) RMTLOCNAME(AS400)を指定してDDMFファイルを作成しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF326A

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF327F

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

上

論理ファイル・メンバー変更 (CHGLFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

論理ファイル・メンバー変更(CHGLFM)コマンドは、論理ファイル・メンバーの属性を変更します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	論理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 論理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	論理ファイル・メンバー	名前, *FIRST	必須, キー, 定位置 2
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

論理ファイル (FILE)

変更されるメンバーが入っている論理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 論理ファイル

名前 論理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

論理ファイル・メンバー (MBR)

変更するメンバーの名前を指定します。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 変更される論理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***SAME**

メンバーのODP共用値は変更されません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

メンバーを記述したテキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLFM FILE(*CURLIB/INV) MBR(FEB)
        TEXT('LOGICAL FILE MEMBER FOR FEB')
```

コマンドは、指定された現行ライブラリーにある論理ファイルINV中のFEBという名前のメンバーのテキストを変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3288

&2のファイル&1のメンバー&3は変更されなかった。

上

ライブラリー変更 (CHGLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドでは、ライブラリーのタイプ属性、テキスト記述、省略時の作成権限値、または省略オブジェクト監査値を変更できます。

変更しているライブラリーを現在ジャーナル処理している場合には、変更を記録するジャーナルに項目が書き込まれます。

ライブラリー記述の表示(DSPLIBD)コマンドを使用して、ライブラリーのジャーナル情報を表示してください。ライブラリーのジャーナル処理の詳細については、ライブラリーのジャーナル開始(STRJRNLIB)コマンドを参照してください。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

1. オブジェクト監査の作成(CRTOBJAUD)に*SAME以外の値を指定するには、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
2. CRTOBJAUDパラメーターのみの変更を指定するには、*AUDIT特殊権限だけで十分です。他のいずれかのパラメーターの変更を指定するには、変更されるライブラリーに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。

注: ライブラリー・タイプ(TYPE)、テキスト'記述'(TEXT)、作成権限(CRTAUT)、またはオブジェクト監査の作成(CRTOBJAUD)のパラメーターのうち最低1つを指定しない場合には、ライブラリーが変更されなかったことを示す完了メッセージCPC2105が送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前, *CURLIB	必須, キー, 定位置 1
TYPE	ライブラリー・タイプ	*SAME, *PROD, *TEST	オプション, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
CRTAUT	作成権限	名前, *SAME, *SYSVAL, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクト監査の作成	*SAME, *SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション

上

ライブラリー (LIB)

変更されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*CURLIB

変更されるライブラリーは、スレッドの現行ライブラリーです。現行スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLライブラリーが変更されます。

名前 変更されるライブラリーの名前を指定してください。

上

ライブラリー・タイプ (TYPE)

新しいライブラリー・タイプを指定します。

*SAME

ライブラリーのタイプ属性は同じで変わりません。

*PROD

これはプロダクション・ライブラリーです。ユーザーがデバッグ・モードで、プロダクション・ライブラリーの保護を要求した場合には、プロダクション・ライブラリー中のデータベース・ファイルは更新用にオープンされません。ユーザーは、テストを始めるためのデバッグ開始(STRDBG)コマンドの**実動ファイルの更新(UPDPROD)**パラメーターに*NOを指定することによって、プロダクション・ライブラリーのすべてのデータベース・ファイルを更新から保護できます。ただし、この保護では、プログラムがデータベース・ファイルを削除することや、ライブラリー内の他のオブジェクト（データ域など）を変更することは防止できません。

*TEST

これはテスト・ライブラリーです。テスト・ライブラリー中のオブジェクトは、たとえ特殊な保護がプロダクション・ライブラリーに対して要求されていても、すべてテスト中に更新されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません（存在している場合）。

*BLANK

テキストはブランクに設定されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

作成権限 (CRTAUT)

このライブラリーに作成されるオブジェクトの省略時の共通権限を指定します。これは、オブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザー、オブジェクトに指定された権限リスト上にないユーザー、および所属するユーザー・グループがオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限です。

ユーザーがオブジェクトをこのライブラリーに作成する時には、オブジェクトの作成コマンドの権限(AUT)パラメーターによってオブジェクトに対する共通権限が決定されます。オブジェクトの作成コマンドのAUT値が*LIBCRTAUTである場合には、オブジェクトの共通権限はライブラリーのCRTAUT値に設定されます。

*SAME

省略時の共通権限値は変更されません。

*SYSVAL

オブジェクトがこのライブラリーに作成される時の省略時の共通権限は、QCRTAUTシステム値の値によって決定されます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

オブジェクトに対する権限が使用される権限リストの名前を指定してください。

上

オブジェクト監査の作成 (CRTOBJAUD)

このライブラリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

オブジェクトがこのライブラリーに作成される時の監査値は、QCRTOBJAUDシステム値の値によって決定されます。

***NONE**

このオブジェクトを使用または変更しても、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることにはなりません。

***USRPRF**

監査レコードがアクセス用に機密保護ジャーナルに送られるかどうかを決定するために、このオブジェクトにアクセスしているユーザーのユーザー・プロファイルが使用されます。特定ユーザーの監査をオンにするには、ユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドの**オブジェクト監査値 (OBJAUD)**パラメーターが使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトに対する全変更アクセスでは、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることとなります。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトに対する全変更または読み取りアクセスでは、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることとなります。

上

例

```
CHGLIB LIB(LIB1) TYPE(*TEST) TEXT('NEW TEXT FOR LIB1')
```

このコマンドは、LIB1という名前のライブラリーのTYPE属性を*TESTに変更し、テキスト記述をTEXTパラメーターによって指定された値に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF21A0

ライブラリーを作成または変更するためには*AUDITが必要である。

CPF210C

ライブラリー&1は変更されません。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

ライブラリー・リスト変更 (CHGLIBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト変更(CHGLIBL)コマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分をユーザーによって指定されたライブラリーのリストで変更します。このコマンドは、ライブラリー・リストのシステム部分にも、他のスレッドのライブラリー・リストにも影響を及ぼすことはありません。

制約事項:ライブラリー・リストを変更するには、指定したすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。1つまたは複数のライブラリーが認可されていない場合には、ライブラリー・リストは変更されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIBL	現行スレッドのライブラリー	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 250 回の繰返し): 名前	オプション、定位置 1
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME, *CRTDFT	オプション、定位置 2

上

現行スレッドのライブラリー (LIBL)

現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分に配置されるライブラリーを指定します。このパラメーターは、単一値として指定することも、1つまたは複数の名前のリストとして指定することもできます。

単一値

*SAME

現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーは変更されません。

*NONE

現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分にはライブラリーがありません。

その他の値

名前 現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分に追加されるライブラリーの名前を検索される順序で指定してください。最大250の名前を指定することができます。

上

現行ライブラリー (CURLIB)

現行スレッドのライブラリー・リストにある現行ライブラリーを置き換えるライブラリーを指定します。

*SAME

現行スレッドのライブラリー・リストの中の現行ライブラリーは変更されません。

*CRTDFT

現行スレッドのライブラリー・リストの現行項目にはライブラリーがあってはなりません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、QGPLライブラリーが省略時の現行ライブラリーとして使用されます。

名前 現行スレッドのライブラリー・リスト中の現行ライブラリー項目を置き換えるライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
CHGLIBL LIBL(ULIB10 ULIB15 QGPL)
```

このコマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分を変更します。新しいライブラリー・リストにはライブラリーULIB10, ULIB15,およびQGPLが含まれます。ライブラリーはこの順序で検索されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2106

ライブラリー・リストが使用可能でない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2184

ライブラリー・リストは置き換えられなかった。

上

ライセンス情報の変更 (CHGLICINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス情報変更(CHGLICINF)コマンドによって、ユーザーはプロダクトまたは機能の次のライセンス情報を変更することができます。

- キーによる承諾を持っていないプロダクトの使用限界（キーによる承諾では、ライセンス情報の使用限界を変更するために、ソフトウェア販売会社からのソフトウェア・ライセンス・キーが必要です。）
- しきい値
- しきい値を超えた時、使用限界を超える試みがなされた時、あるいは使用限界を変更した時に通知するユーザー
- 使用状況要求のログ

制約事項：このコマンドは、共通*EXCLUDE認可で出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRDID	プロダクト識別コード	文字値	必須, キー, 定位置 1
LICTRM	ライセンス条件	文字値, <u>*ONLY</u>	オプション, キー, 定位置 2
FEATURE	機能	文字値, <u>5001</u>	オプション, キー, 定位置 3
USGLMT	使用制限	0-999999, <u>*SAME</u> , *NOMAX, *ALTUSGLMT	オプション
ALTUSGLMT	代替使用状況制限	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別された使用状況	0-999999, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 識別されない使用状況	0-999999, <u>*SAME</u>	
THRESHOLD	しきい値	0-999999, <u>*SAME</u> , *CALC, *USGLMT	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *OPSYS その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LOG	ログ	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション

上

プロダクト識別コード (PRDID)

ライセンス情報が変更されるプロダクトの7桁のID (ID)を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ライセンス条件 (LICTRM)

ライセンス情報が変更されるライセンス条項を指定します。

*ONLY

プロダクトのライセンス条項はシステム上には1つしかなく、そのライセンス条項が変更されるプロダクトを識別します。

ライセンス条件

ライセンス条件はVX, VXRY,またはVXRYMZの形式で指定してください。この場合に、XとYは0から9の数字、Zは0から9の数字またはAからZの英字とすることができます。ライセンス情報処理(WRKLICINF)コマンドを使用して、ライセンス条件を判別してください。

上

機能 (FEATURE)

プロダクト識別コード(PRID)パラメーターに指定され、ライセンス情報が変更されるプロダクトの機能を指定します。プロダクトの機能番号を判別するためには、ライセンス情報処理(WRKLICINF)コマンドを使用することができます。

5001 機能5001のライセンス情報が変更されます。

機能 ライセンス情報が変更される機能を指定してください。有効な値の範囲は5001から9999です。

上

使用制限 (USGLMT)

このプロダクトまたは機能のユーザーの最大数（使用限界）を指定します。使用限界はソフトウェア販売会社によって認可されます。並行使用限界の場合には、これは所定の時間にプロダクトまたは機能をアクセスできるジョブの最大数です。登録使用限界の場合には、これはこのプロダクトまたは機能の使用を登録できるライセンス・ユーザーの最大数です。

注：キーによる承諾を使用してプロダクトの使用限界を変更するためには、ライセンス・キー情報追加(ADDLICKEY)コマンドを使用しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

ユーザーの数は制限されません。

*ALTUSGLMT

使用限界は、代替使用状況制限(ALTUSGLMT)パラメーターで指定された確認された使用状況と確認されなかった使用状況の合計です。

使用限界

このプロダクトまたは機能のユーザーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は0から999999です。

上

代替使用状況制限 (ALTUSGLMT)

代替使用状況限界は、このプロダクトまたは機能の確認された使用状況と確認されなかった使用状況を指定します。この使用状況限界は、確認された使用状況と確認されなかった使用状況の合計となります。

指定できる確認された使用状況値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

確認された使用状況

このプロダクトまたは機能がカウントできるユーザーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は0から999999です。

指定できる確認されなかった使用状況値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

確認されなかった使用状況

このプロダクトまたは機能がカウントできないユーザーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は0から999999です。

注: 確認されなかった使用状況に指定されたユーザー数は、常にこのプロダクトまたは機能の現行使用状況の一部として存在することになります。

上

しきい値 (THRESHOLD)

このプロダクトまたは機能のしきい値を指定します。このプロダクトのユーザーの数がしきい値を超えた時には、システム操作員のメッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)およびMSG 待ち行列(MSGQ)パラメーターに指定されているメッセージ待ち行列にメッセージが送られます。

注: 使用限界と等しい値を指定した場合には、しきい値メッセージは送られません。メッセージは、使用限界を超える試みがなされた時、または使用限界が変更された時にだけ送られます。

*SAME

値は変更されません。

*CALC

システムがこのプロダクトまたは機能のしきい値を計算します。計算されるしきい値は、使用限界(使用制限(USGLMT)パラメーターに指定されているユーザーの最大数)の90%と等しくなります。使用限界が1または*NOMAXである場合には、しきい値は使用限界と等しくなります。

***USGLMT**

このプロダクトまたは機能のしきい値はその使用限界と等しくなります。

しきい値

このプロダクトまたは機能のしきい値を指定してください。有効な値の範囲は0から999999です。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

(1)しきい値を超えた場合、(2)使用限界を超える試みがなされた場合、あるいは(3)使用限界が変更された場合に、メッセージが送られる最大5つのメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。これらのメッセージはシステム操作員のメッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)にも送られます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

メッセージは、システム操作員のメッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)にしか送られません。

***OPSYS**

メッセージは、オペレーティング・システムのライセンス情報に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

次のライブラリー値の1つによってメッセージ待ち行列の名前を修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

メッセージ待ち行列名

メッセージ送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

上

ログ (LOG)

使用カウントが使用限界と等しくなった時に、プロダクトまたは機能の使用要求を記録するかどうかを指定します。要求を記録する場合には、それらはQUSRSYSのQLZALOGに記録されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 使用カウントが使用限界と等しくなった時に出力された要求は記録されません。

***YES** 使用カウントが使用限界と等しくなった時に出力された要求は記録されます。ライセンス要求が出されて、使用カウントが使用限界と等しくなった時には、ライセンスを要求しているユーザーおよびすべての現行ライセンス・ユーザーがQUSRSYSのQLZALOG に記録されます。

例

例1:システムでの1つのライセンス条件をもつプロダクトの使用限界の変更

```
CHGLICINF  PRDID(1MYPROD) LICTRM(*ONLY)
           USGLMT(35) THRESHOLD(30)
           MSGQ(MYLIB/MYMSGQ) LOG(*NO)
```

このコマンドによって、1つのライセンス条件しかこのシステムに導入されていないプロダクトID 1MYPRODのプロダクトの使用限界を変更できます。このコマンドが実行されると、35人のユーザーがこのプロダクトの使用を許可されます。ユーザー・カウントが31に達すると、しきい値を超えたことを知らせるメッセージがシステム操作員のメッセージ待ち行列およびライブラリーMYLIB中のメッセージ待ち行列MYMSGQに送られます。ユーザー・カウントが使用限界に等しくなった時のライセンスに対する要求は記録されません。しかし、使用限界に対する変更は、QUSRSYS中のQLZALOGジャーナルに記録されます。

例2:システムでの複数のライセンス条件をもつプロダクトの使用限界の変更

```
CHGLICINF  PRDID(2MYPROD) LICTRM(V2)
           USGLMT(50) THRESHOLD(*USGLMT)
           MSGQ(*NONE) LOG(*YES)
```

このコマンドによって、プロダクトID 2MYPRODおよびライセンス条件バージョン2のプロダクトの使用限界を変更できます。このコマンドが実行されると、50人のユーザーがこのプロダクトの使用を許可されます。しきい値に関するメッセージは送られません。(しかし使用限界が変更されるか、ユーザー・カウントが使用限界に達するか、それを超えると、システム操作員にメッセージが送られます。)ユーザー・カウントが使用限界に等しくなった時のライセンスに対する要求はQUSRSYS中のQLZALOGジャーナルに記録されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9E2C

LICTRM(*ONLY)を指定することはできない。

CPF9E2D

使用制限を現行使用状況より小さくすることはできない。

CPF9E27

*KEYED承諾プロダクトに対する使用制限を変更することはできない。

CPF9E28

メッセージ待ち行列*OPSYSはオペレーティング・システムには使用できない。

CPF9E30

ライセンス情報は変更されなかった。

CPF9E88

代替の使用限度を現行の使用より少なくすることはできない。

回線記述の変更（非同期）(CHGLINASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の変更（非同期）(CHGLINASC)コマンドにより、非同期回線の回線記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	単一値: *SAME その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
BITSCHAR	文字当たりのデータ・ビット数	*SAME, 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	*SAME, *NONE, *ODD, *EVEN	オプション
STOPBITS	停止ビット	*SAME, 1, 2	オプション
DUPLEX	二重	*SAME, *FULL, *HALF	オプション
ECHO	エコー・サポート	*SAME, *NONE, *ALL, *CNTL	オプション
LINESPEED	回線速度	*SAME, 50, 75, 110, 150, 300, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800, 115200	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*SAME, *NORMAL, *V54, *IBMWRAP	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	*SAME, *FULL, *HALF	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*SAME, *BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*SAME, *YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*SAME, *YES, *NO	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*SAME, *NONE, *V25BIS, *OTHER	オプション
SETMDMASC	モデムASYNC設定コマンド	文字値, *SAME, END, *NONE	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *SAME, *NONE	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
MAXBUFFER	最大バッファ・サイズ	128-4096, <u>*SAME</u>	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*SAME</u> , *OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
FLOWCNTL	フロー制御	<u>*SAME</u> , *YES, *NO, *HARDWARE	オプション
XONCHAR	XON文字	01-FF, <u>*SAME</u>	オプション
XOFFCHAR	XOFF文字	01-FF, <u>*SAME</u>	オプション
EORTBL	レコードの終わりテーブル	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: レコード終結文字	<u>00</u> , 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	
	要素 2: 後書き文字	0-4, <u>0</u>	
IDLTMR	アイドル・タイマー	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>*SAME</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	<u>*SAME</u> , *DTR, *CDSTL	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-120, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMSTANSTMR	リモート返答タイマー	<u>*SAME</u> , 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続(非交換回線)をバイパスすることができます。

*SAME

この値は、回線記述の作成でコマンドのこのパラメーターまたはSNBUパラメーターのいずれかに以前に指定した値から変わりません。

*NO SNBU機能は使用されません。

*YES SNBU機能が活動化されます。制御装置の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESの値も指定する必要があります。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

この交換回線との接続を確立できる最大64台までの交換制御装置の名前を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効なのは、回線が交換回線であるか、あるいは非交換回線が交換網バックアップ(SNBU)機能をもっている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

交換制御装置リスト

交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

上

文字当たりのデータ・ビット数 (BITSCHAR)

文字当たりのデータ・ビット数を指定します (パリティ・ビットがある場合はこれを除きます)。

*SAME

値は変更されません。

8 文字当たりのデータ・ビット数に8が使用されます。

注: 8ビット (パリティ付き) は特定の入出力プロセッサでは使用できません。

7 文字当たりのデータ・ビット数に7が使用されます。

上

パリティのタイプ (PARITY)

エラー検査に使用されるパリティのタイプを指定します (パリティ・ビットは、そのパリティ・ビットを含めて、すべての数字の算術合計を出すためにデータの各バイトに挿入される2進数字で、常に奇数か、あるいは常に偶数です)。

注: リモート・システムは同じパリティを使用しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

パリティ・ビットはデータ・バイトに挿入されません。

***ODD** パリティ・ビットも含めて、すべての桁数の算術合計は奇数です。

*EVEN

パリティ・ビットも含めて、すべての桁数の算術合計は偶数です。

上

停止ビット (STOPBITS)

各文字の終わりに追加するビット数を指定します。これらのビットは、回線のローカル終端とリモート終端の同期化を維持するために使用されます。

注: リモート・システムはローカル・システムと同じ数の停止ビットを使用しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

- 1 ビットのストップ・ビットが各文字に追加されます。
- 2 ビットのストップ・ビットが各文字に追加されます。

注: 300 BPSまたはそれ以下の回線速度では、2ビットのストップ・ビットをお奨めします。

上

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン (全二重モデムの場合) であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる (半二重モデムの場合) かどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*HALF

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

*FULL

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

上

エコー・サポート (ECHO)

システムが受信したすべての文字をリモート・システムに送り返す (エコー) か、レコード終結文字以外のすべての文字を送り返すか、あるいはエコーが使用禁止であるかどうかを指定します。

注: この回線がエコーを必要とするリモート・システムとの通信をサポートする場合には、*ALLまたは*CNTLを指定してください。*ALLまたは*CNTLを指定した場合には、二重 (DUPLEX)パラメーターにも*FULLを指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

受信した文字はリモート・システムに対してエコーされません。

*ALL 受信したすべての文字はリモート・システムに対してエコーされます。

*CNTL

レコード終結文字の前に受信したすべての文字はリモート・システムに対してエコーされます。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

1200 1200 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な回線速度は50, 75, 110, 150, 300 600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800,または115200 ビット/秒です。

上

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*SAME

値は変更されません。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストの実行は試みられません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された通り)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3 (ローカル折り返し) およびループ2 (リモート折り返し) をサポートします。

*IBMWRAP

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

上

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換（非同期、BSC、SDLC、またはIDLC）回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ（非同期、BSC、またはSDLC）回線を使用するかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BOTH

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

*ANS 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

*DIAL 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

*SAME

値は変更されません。

*YES 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

*NO 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

上

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

*YES 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

上

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

***V25BIS**

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

***OTHER**

IBMコマンド・セットは、非同期プロトコルで使用されるこの他のコマンド・タイプの1つの例です。ダイヤル呼び出しの数字およびその他のすべての呼び出し関連データは、アプリケーション・プログラムによってデータ・ストリームに直接入れられます。

上

モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)

モデムをASYNCモードに設定するためにモデムに送信するV25BISコマンド・ストリングを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

V25BISコマンド・ストリングはモデムに送信されません。

END ENDコマンド・ストリングは通常、ほとんどのモデムをASYNCモードに設定するためのコマンドとして使用されます。ENDコマンド・ストリングを使用しない場合には、モデムをASYNCモードに設定するために、適切なコマンド・ストリングをユーザーが入力しなければなりません。

コマンド・ストリング

出されるコマンドを表す文字を最大40文字まで指定します。有効な文字は大文字のAからZ、小文字のAからZ、数字0から9、および次の特殊文字です。

- ． ピリオド
- < 小なり記号
- (左括弧
- + プラス符号
- & アンパーサンド
- * アスタリスク
-) 右括弧
- ; セミコロン
- マイナス符号
- / スラッシュ
- , コンマ
- _ 下線
- > 大なり記号

? 疑問符
: コロン
= 等号

上

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: 有効であるのは、INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンバーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロン
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

値は変更されません。

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された(接続)番号(CNNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

システムが回線を切り離す前に交換回線上で活動を待機する時間(1/10秒単位)を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

システムは活動を無期限に待機します。

非活動タイマー

150から4200の単位を指定します。各単位は0.1秒を表し、これは0.3から9.9秒の時間の範囲を示します。

上

最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)

インバウンドおよびアウトバウンドのデータ・バッファの最大サイズを指定します。

*SAME

値は変更されません。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

*SAME

値は変更されません。

***OFF** しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

***MAX** エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

上

フロー制御 (FLOWCNTL)

ハードウェアがデータ・フローを制御するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ハードウェアがフロー制御文字を生成または認識できないようにして、さらに、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用できないようにします。

***YES** システムは非同期プロトコルのフロー制御機能を使用します。*YESが指定されている場合は、ハードウェアはフロー制御文字を認識します。これは、XOFF文字が受信されると、XON文字が受信されるまで、ハードウェアが送信を停止することを意味します。また、文字の受信ができない時にハードウェアがリモート・ロケーションにXOFF文字を送信することも意味します。ハードウェアが再び文字を受信可能な時に、XON文字をリモート・システムに送信します。

***HARDWARE**

このオプションが指定された場合には、ハードウェアは、文字の受信が可能でない時にRTS信号を除去することによってデータの送信を停止する信号をモデムに送ります。文字の受信が再び可能な場合には、ハードウェアはそのモデムに対してRTS信号を出します。また、ハードウェアはCTSおよびRTS信号をモデムからモニターして、これがオフになった時にデータの送信を停止します。

注:

1. *YESまたは*HARDWAREを指定した場合には、DUPLEX(*FULL)を指定しなければなりません。

- ハードウェア・フロー制御は、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用して実行されま
す。

上

XON文字 (XONCHAR)

16進値のフロー制御文字XONを指定します。システムは、データを送信中にXOFF文字を受信した場合には、自動的に送信を中止し、XON文字を受信した後でのみデータの送信を再開します。

*SAME

値は変更されません。

XON文字

XON文字は16進数01からFFの任意の値とすることができますが、XOFF文字とは異なった文字で、さらに、16進数の20 (ASCIIブランク) などのユーザーの通常のデータ・ストリームには現れない文字を指定する必要があります。

上

XOFF文字 (XOFFCHAR)

16進値のフロー制御文字XOFFを指定します。システムは、データを送信中にXOFF文字を受信した場合には、自動的に送信を中止し、XON文字を受信した後でのみデータの送信を再開します。

*SAME

値は変更されません。

XOFF文字

16進数XOFF文字を指定します。XOFF文字は16進数01からFFの任意の値とすることができますが、XON文字とは異なった文字で、さらに、16進数の20 (ASCIIブランク) などのユーザーの通常のデータ・ストリームには現れない文字を指定する必要があります。

上

レコードの終わりテーブル (EORTBL)

データを受信したときにハードウェアが論理レコードを認識できるようにするテーブルを指定します。データ・ストリームにレコード終結文字(EOR)として行送り(LF)を定義し、データ・ストリーム内でLF文字が検出されたときに、ハードウェアがデータを戻すようにすることができます。

EORテーブルは1組の対の要素として指定され、この対の最初の要素はEOR文字で、2番目の文字はEOR文字の後に続く文字数を指定します。最大8項目まで指定することができます。00の値はレコード終結文字が定義されないことを表します。

*SAME

値は変更されません。

EOR文字

レコード終結文字を指定します。有効なレコード終結文字は16進数の01から7F (7ビット/文字の場合) または01からFF (8ビット/文字の場合) の範囲内です。レコード終結文字は非同期通信サポートによる変換の後にその行に現れた通りに指定されます。

後書き文字

レコード終結文字が検出された後に受信した追加の文字数を指定します。後書き文字数は0から4です。

上

アイドル・タイマー (IDLTMR)

アダプターが受信バッファをシステムへ転送する前の文字間でシステムが待機する時間(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

値は変更されません。

遊休タイマー

1から254の値を0.5秒間隔で指定するか、あるいはタイマーなしを表す0を指定します。

注: また、遊休タイマーは文字間タイマーとも呼ばれます。

上

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

上

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

CTSタイマー

10から120秒の範囲の値を指定します。

上

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINASC LIND(CHICAGO) LINESPEED(4800)
```

このコマンドは、回線記述CHICAGOの回線速度を4800ビット/秒に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(BSC) (CHGLINBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC回線記述の変更(CHGLINBSC)コマンドにより、BSC回線の回線記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	単一値: *SAME その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
STNADR	端末アドレス	04-FE, *SAME	オプション
DUPLEX	二重	*SAME, *HALF, *FULL	オプション
LINESPEED	回線速度	*SAME, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*SAME, *NORMAL, *V54, *IBMWRAP	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	*SAME, *FULL, *HALF	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*SAME, *BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*SAME, *YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*SAME, *YES, *NO	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*SAME, *NONE, *V25BIS	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前, *SAME	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *SAME, *NONE	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXBUFFER	最大バッファ・サイズ	8-8192, *SAME	オプション
CODE	文字コード	*SAME, *EBCDIC, *ASCII	オプション
SYNCCHARS	SYN同期文字	*SAME, 2, 4	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	*SAME, *OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
STXLRC	LRCへのSTX文字の組み込み	*SAME, *YES, *NO	オプション
RCVTMR	受信タイマー	30-254, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CONTMR	続行タイマー	16-24, <u>*SAME</u>	オプション
CTNRTY	回線争奪状態再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
DTASTTRTY	データ状態再試行	0-255, <u>*SAME</u>	オプション
TMTRTY	TTDまたはWACK送信再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
RCVRTY	TTDまたはWACK受信再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>*SAME</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	<u>*SAME</u> , *DTR, *CDSTL	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>*SAME</u>	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	<u>*SAME</u> , 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

自動呼び出し装置ポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

*SAME

値は変更されません。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続(非交換回線)をバイパスすることができます。

*SAME

この値は、回線記述の作成でコマンドのこのパラメーターまたはSNBUパラメーターのいずれかに以前に指定した値から変わりません。

***NO** SNBU機能は使用されません。

***YES** SNBU機能が活動化されます。制御装置の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに *YESの値も指定する必要があります。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。

2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。

- 回線の管理のために適所にタスクを配置する
- 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

この交換回線との接続を確立できる最大64台までの交換制御装置の名前を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効なのは、回線が交換回線であるか、あるいは非交換回線が交換網バックアップ(SNBU)機能をもっている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

交換制御装置リスト

交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

上

端末アドレス (STNADR)

マルチポイント従属回線の場合に、16進数アドレスを指定します（このアドレスによってローカル・システムがリモート・システムに認識されます）。16進数アドレスはこのシステムに割り当てられたポーリング・アドレスです。

*SAME

値は変更されません。

*ASCIIの文字コードが指定された場合には、6ビットがオンにセットされたどのアドレスも使用できません。*EBCDICの文字コードが指定された場合には、2ビットがオンにセットされたどのアドレスも使用できません。

端末アドレス

04からFEの16進数値を指定します。BSC制御文字を指定することはできません。

上

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン（全二重モデムの場合）であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる（半二重モデムの場合）かどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***HALF**

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

***FULL**

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

***SAME**

値は変更されません。

1200 1200 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な回線速度は50, 75, 110, 150, 300 600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800,または115200 ビット/秒です。

上

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

***NORMAL**

ユーザー・モデムに対する診断テストの実行は試みられません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された通り)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3 (ローカル折り返し) およびループ2 (リモート折り返し) をサポートします。

***IBMWRAP**

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

上

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FULL**

回線はそのモデムの全速度で作動します。

***HALF**

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換（非同期、BSC、SDLC、またはIDLC）回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ（非同期、BSC、またはSDLC）回線を使用するかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

***NO** 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

上

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

***YES** 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

上

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

値は変更されません。

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された(接続)番号(CNNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

システムが回線を切り離す前に交換回線上で活動を待機する時間(1/10秒単位) を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

システムは活動を無期限に待機します。

非活動タイマー

150から4200の単位を指定します。各単位は0.1秒を表し、これは0.3から9.9 秒の時間の範囲を示します。

上

最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)

インバウンドおよびアウトバウンドのデータ・バッファの最大サイズを指定します。

*SAME

値は変更されません。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*EBCDIC

EBCDIC文字セット・コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

SYN同期文字 (SYNCCHARS)

伝送中に送信するBSC SYN (同期) 制御文字の数を指定します。 SYN制御文字は、同期を確立し、維持するために使用され、データまたは他の制御文字がない時の埋め合わせとしても使用されます。

*SAME

値は変更されません。

- 2 同期パターンは連続した2文字のSYN文字で構成されています。
- 4 同期パターンは連続した4文字のSYN文字で構成されています。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。 永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。 これらを個別に指定することはできません。

*SAME

値は変更されません。

***OFF** しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

***MAX** エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

上

LRCへのSTX文字の組み込み (STXLRC)

テキストの開始(STX)制御文字が、水平冗長検査(LRC)の計算に含まれるかどうかを指定します。 これは、ASCII文字コードを使用する回線にのみ適用されます。

*SAME

値は変更されません。

***NO** STX制御文字はLRCの計算に含まれていません。

***YES** STX制御文字はLRCの計算に含まれています。

上

受信タイマー (RCVTMR)

受信時間切れが起きる前にシステムがリモート・システムからのデータを待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

受信タイマー

30から254の値を0.1秒間隔で指定します。

上

続行タイマー (CONTTMR)

システムでデータの送信または受信の準備ができていない時に、回線が作動不能にならないようする制御文字を送信する前にシステムが待機している時間を指定します。このパラメーターはRJEのアプリケーション・タイプでは無効です。

*SAME

値は変更されません。

続行タイマー

16から24の値を0.1秒間隔で指定します。

上

回線争奪状態再試行 (CTNRTY)

エラーを表示し、回線を作動不能にする前に行う回線争奪状態における再試行の回数を指定します。

BSCの場合、回線争奪とは伝送終結(EOT)文字が受信または送信されてから、開始順序(ENQ)が肯定応答(ACK0)されるまで存在する状態です。

データ通信では、回線またはリンクが使用可能なときにはいつでも、どちらのユーザーからでも伝送することのできる、ある種の半二重回線またはリンクの制御方法です。両方のユーザーが同時に要求を伝送しようとした場合には、回線を獲得するユーザーはプロトコルまたはハードウェアによって決定されます。

*SAME

値は変更されません。

回線争奪状態再試行

回線争奪状態再試行の回数に対して0から21の値を指定します。

上

データ状態再試行 (DTASTRTY)

エラーを示し、セッションを終了する前に行うデータ状態再試行回数を指定します。

BSCの場合、データ状態とはBSCが通信回線で文字を送信または受信している状態です。

*SAME

値は変更されません。

データ状態再試行

データ状態再試行の回数に対して0から255の値を指定します。

上

TTDまたはWACK送信再試行 (TMTRTY)

一時テキスト遅延(TTD)を送信する再試行回数、またはセッション障害を示す前の送信前待機を指定します。このパラメーターはRJEのアプリケーション・タイプでは無効です。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

再試行は無制限に実行されます。

TTDまたはWACK再試行の送信

再試行の回数に対して0から65534の値を指定します。

上

TTDまたはWACK受信再試行 (RCVRTY)

セッション障害を示す前の、一時テキスト遅延(TTD)または送信待機要求(WACK) の受信の再試行回数を指定します。このパラメーターは、アプリケーション・タイプがプログラム相互間の場合にのみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

再試行は無制限に実行されます。

TTDまたはWACK再試行の受信

再試行の回数に対して0から65534の値を指定します。

上

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

上

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINBSC LIND(BSCLIN1) INACTTMR(300)
```

このコマンドは、回線記述BSCLIN1の非活動タイマーを300 (30.0秒) に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(DDI) (CHGLINDDI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の変更 (分散データ・インターフェース) (CHGLINDDI)コマンドは、FDDI (ファイバー分散データ・インターフェース) などの分散データ・インターフェース回線について、その回線記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NWID	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, *SAME, 40	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-4444, *SAME, 4105	オプション
LOGLVL	ロギング・レベル	*SAME, *OFF, *ERRORS, *ALL	オプション
LCLMGRMODE	ローカル管理機能モード	*SAME, *OBSERVING, *NONE	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	400000000000-7FFFFFFF, *SAME, *ADPT	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFF, *SYSGEN, *SAME	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SAME, *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-4444, *MAXFRAME	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA	
GRPADR	グループ・アドレス	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 800000000000- FFFFFFFFFE	オプション
TKNRTTIME	トークン循環時間	4-167, *SAME, *CALC	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, *SAME, 0	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, *SAME, 0	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SECURITY	回線の機密保護	*SAME, *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*SAME, *PKTSWTNET, *LAN, *MIN, *TELEPHONE, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *SAME, 128	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *SAME, 128	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *SAME, 128	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*SAME, *NO, *YES	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, *SAME, 1440, *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
LINKSPEED	リンク速度	*SAME, *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

458 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCNAMEパラメーターに指定された値は、*NWIDからその他の値に、あるいはその他の値から*NWIDに変更することはできません。

これは必須パラメーターです。

***SAME**

値は変更されません。

***NWID**

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

名前 資源名を指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

40 回線は40台の制御装置をサポートします。

制御装置の最大数

このネットワークに対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数字を指定します。有効な値の範囲は1から256です。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送信または受信できる最大フレーム（経路情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は要求単位(RU)サイズの計算に使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはシステムIDが交換される時に取り決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

注: MAXFRAME値は電話キャリアによって提供され、そのヘッダーのサイズのための44バイトを差し引く必要があります。

*SAME

値は変更されません。

4105 最大フレーム・サイズは4105バイトです。

注: RSRNAME(*NWID)が指定された場合には、この値は1556に変わります。

最大フレーム・サイズ

最大フレーム・サイズを指定します。有効な値の範囲は265から4444バイトです。

上

ロギング・レベル (LOGLVL)

DDIローカル・エリア・ネットワーク(LAN)管理機能によって使用されるエラー・ロギング・レベルを指定します。このパラメーターを使用して、非送信請求LANエラーがログに記録されるかどうかを判別されます。これらのメッセージは、QHSTメッセージ待ち行列またはQSYSOPRメッセージ待ち行列のいずれかに記録されます。

注: RSRCTYPE(*NWID)を指定した場合には、LOGLVLパラメーターは使用されません。

*SAME

値は変更されません。

***OFF** エラーはモニターされません。

***ERRORS**

LANマネージャー・エラー・メッセージだけをログに記録します。

***ALL** LANマネージャー・エラー・メッセージおよび通知メッセージをログに記録します。

上

ローカル管理機能モード (LCLMGRMODE)

この端末が監視ネットワーク管理機能であるかどうかを指定します。監視ネットワーク管理機能は、リング上のこの端末およびその他の端末のネットワーク・エラー・メッセージおよび通知メッセージをログに記録します。これらのメッセージは、QHSTメッセージ待ち行列またはQSYSOPRメッセージ待ち行列のいずれかに記録されます。

監視モードでだけ使用可能な情報の例としては、一般的なリング操作には影響しないリモート端末でのエラー、またはリングを結合または終了している端末に関する情報などがあります。

注: RSRCTYPE(*NWID)またはLOGLVL(*OFF)が指定された場合には、LCLMGRMODEは使用されません。

*SAME

値は変更されません。

***OBSERVING**

この端末のLANマネージャー機能はすべてのアダプターによって生成された情報を検索します。

***NONE**

この端末のLANマネージャー機能はローカル・アダプターによって生成された情報だけを検索します。

注: ローカル・エリア・ネットワーク・マネージャーはこの端末と関連したメッセージ、および *NONEを指定した場合にリングにアクセスするその機能をログに記録します。

上

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)を指定した場合には、ADPTADR(*ADPT)を指定することはできません。

***SAME**

値は変更されません。

***ADPT**

この値はユーザーに対してこのDDIアダプター・カードの事前設定のDDI省略時アドレスを提供します。ユーザーは、正常にオンに構成変更した後この回線記述でDSPLINDを実行することによってこれを表示することができます。

ローカル・アダプター・アドレス

DDIネットワーク中のこのシステムのアドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数の400000000000から7FFFFFFFFFFFです。

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSGEN**

オペレーティング・システムは交換IDを生成します。

交換ID

056から始まる8桁の16進数からなる交換IDを指定します。

上

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、バスから適切なユーザーに着信データを経路指定するために使用する16進数論理アドレスです。各SSAPに、最大フレーム・サイズを指定することができます。有効なSSAP値はAA (TCP/IPの場合)、および4で割り切れる04から9Cの値(SNAの場合)です。

リモート制御装置で指定される宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)は、通信のために指定されたSSAPの1つと一致しなければなりません。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSGEN**

システムは自動的に3つのSSAP、16進数04 (SNAの場合) および16進数の06 (TCP/IPアプリケーションの場合) を作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

有効なSSAP値を使用して、最大24のSSAPを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なSSAPのフレーム・サイズ値は次の通りです。

***MAXFRAME**

MAXFRAMEパラメーターに指定されたフレーム・サイズが使用されます。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ（送信または受信できるデータ・フィールドの最大サイズ）を指定します。このパラメーターの有効な値の範囲は265から4444バイトですが、MAXFRAMEパラメーターの値を超えてはいけません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

***CALC**

システムは、次の値に基づいてSSAPタイプを判別します。

- 4の倍数の04から9C（SNAの場合）
- 2の倍数の02からFE（非SNAの場合）

***SNA** SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は04から9Cで、4で割りきれられる値でなければなりません。

***NONSNA**

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は02からFEで、2で割りきれられる値でなければなりません。

上

グループ・アドレス (GRPADR)

使用される分散データ・インターフェース・グループ・アドレスを指定します。グループ・アドレスはおのおの12桁の16進数として指定しなければなりません。有効な値の範囲は800000000000からFFFFFFFFFEEです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

グループ・アドレスは指定されません。

グループ・アドレス

使用されるグループ・アドレスを指定します。

上

トークン循環時間 (TKNRTTIME)

要求されたトークン回転時間を指定します。この値は端末がネットワークでの送信権を要求する時に使用されます。リングが使用する値は、そのリング上にあるすべての接続端末のうち最も小さい値によって決まります。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された時には、TKNRTTIME(*CALC)を指定しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムは制御装置にリンクされる回線のタイプに基づいて値を計算します。

トークン回転時間

4から167ミリ秒の範囲の値を指定します。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

***SAME**

値は変更されません。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

***SAME**

値は変更されません。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONSECURE**

通常の優先順位が使用されます。

***PKTSWTNET**

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

***UNDGRDCBL**

地下ケーブルが使用されます。

***SECURECND**

安全だが、防護されない配管（例えば、与圧パイプ）が使用されます。

***GUARDCND**

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

***ENCRYPTED**

回線上を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。最短から最長遅延への値の順序は、*MIN、*LAN、*TELEPHONE、*PKTSWTNET、および*SATELLITEです。

***SAME**

値は変更されません。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

***PKTSWTNET**

パケット交換網伝搬遅延が使用されます。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***TELEPHONE**

電話伝搬遅延が使用されます。

***SATELLITE**

衛星通信伝搬遅延が使用されます。

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上の隣接システムから呼び出しを受け取った時にシステムが自動的に制御装置記述を作成するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 着信呼び出しを受信した時に、システムは制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** 着信呼び出しを受信した時に、システムが制御装置記述を自動的に作成します。

上

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

自動的に作成された制御装置がアイドル状態（オンに構成変更された状態からオンへの構成変更保留状態に切り替えられた状態）のままでいられる時間（分数）を指定します。この時間が過ぎると、回線記述および接続されている装置記述がオフに構成変更されて削除されます。

***SAME**

値は変更されません。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間) 遊休にすることができます。

***NONE**

システムは、自動的に構成された遊休制御装置記述を自動的に削除したり、オフに構成変更したりすることはありません。

待機時間

この回線の自動的に構成された遊休制御装置記述を削除する前に待機する分数を指定します。有効な値の範囲は1から10,000分です。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間(分数)も指定します。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

5 15秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔(分数)を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合、値0は時間無制限の回復を指定します。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 16M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M,および16Mです。

上

例

```
CHGLINDDI LIND(DDI1) AUTODLTCTL(600) TEXT('NEW TEXT HERE')
```

このコマンドは、DDI回線DDI1を600秒(10分)を経過したのち制御装置を自動的に削除するように変更し、テキストを'NEW TEXT HERE'に変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

回線記述の変更(イーサネット) (CHGLINETH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述変更 (イーサネット) (CHGLINETH)コマンドは、イーサネット回線の回線記述を変更します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NWID, *NWSID	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYPWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT, *SAME	オプション
ASSOCPORT	関連したポート資源名	名前, *SAME, *NONE	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	文字値, *SAME, *ADPT	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 010000000000-FDFFFFFFF	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, *SAME	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SAME, *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-8996, *MAXFRAME, 265, 521, 1033, 1466, 1493, 1496, 8996	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA, *HPR	
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	*SAME, *OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
GENTSTFRM	テスト・フレームの生成	*SAME, *YES, *NO	オプション
PVCID	PVC識別コード	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 仮想経路識別コード	0-7	
	要素 2: 仮想回線識別コード	32-4095	
USELECSADR	LECSアドレスの使用	*SAME, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LESATMADR	LES ATMアドレス	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク接頭部	16 進値	
	要素 2: 末端システム識別コード	16 進値	
	要素 3: セレクター・バイト	16 進値	
EMLLANNAME	エミュレートLAN名	文字値, *SAME, *NONE	オプション
LECDSTIMO	LEC切断タイムアウト	1-30, *SAME, *NOMAX	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200-603979776000, *MIN, *SAME, 4M, 10M, 16M, 100M, *MAX	オプション
LINESPEED	回線速度	*SAME, 10M, 100M, 1G, 10G, *AUTO	オプション
DUPLEX	二重	文字値, *SAME, *HALF, *FULL, *AUTO	オプション
SRVOPT	保守容易性オプション	文字値, *SAME, *NONE	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	1496-8996, *SAME, 1496, 8996	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, *SAME	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, *SAME	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*SAME, *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*SAME, *LAN, *MIN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *SAME	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *SAME	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *SAME	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, *NO, *SAME	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, *NONE, *SAME	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, 2	
	要素 2: 時間間隔	0-120, 5	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

通信ポートを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCNAMEパラメーターで指定された値は、*NWSDから別の値に、あるいは別の値から*NWSDに変更することはできません。

*SAME

値は変更されません。

***NWID**

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

***NWSD**

資源名は使用されるネットワーク・サーバーによって判別されます。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

関連したポート資源名 (ASSOCPORT)

WINDOWSネットワーク・サーバーとネットワークの間の接続を確立するために使用されるポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: ASSOCPORTパラメーターが有効なのは、RSRCNAME(*NWSA)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

関連付けられたポート資源名は回線と関連付けられていません。

名前 資源名を指定してください。

上

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*ADPT

このイーサネット・アダプター・カードの事前設定の省略時アドレスが使用されます。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合には、この値は無効です。

注: NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、*ADPTを指定する必要があります。

ローカル・アダプター・アドレス

イーサネット・ネットワーク中でこのシステムを記述する選択項目のアダプター・アドレスを指定します。指定される値はローカルに管理される個別のアドレスでなければなりません。有効な値は、*ADPTまたは16進数の020000000000からFFFFFFFFFFFFです。2桁目は2, 6, A,またはEでなければなりません。

上

グループ・アドレス (GRPADR)

グループ・アドレスとは、そのローカル・アダプター・アドレスの他に、イーサネット回線上のノードのサブセットが応答するアドレスのことです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

グループ・アドレスは定義されません。

グループ・アドレス

イーサネット・ネットワーク中でこのシステムを記述する選択項目のグループ・アドレスを指定します。有効な値は16進数の010000000000からFDFDFDFDFDFDFです。指定される値の2桁目は1, 3, 5, 7, 9, B, D,またはFでなければなりません。最大12のアドレスを指定することができます。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

40 制御装置の数は40です。

制御装置の最大数

1から256の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべてのSNA制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさでなければなりません。

上

SSAPリスト (SSAP)

SSAP値、最大フレーム・サイズ、およびSSAPタイプが入っているソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)情報を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なソース・サービス・アクセス・ポイント値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSGEN

システムがソース・サービス・アクセス・ポイントを判別します。

- ETHSTD(*ALL)またはETHSTD(*IEEE8023)が指定された場合には、システムがSSAP 04, 12, AA, およびC8を生成します。
- ETHSTD(*ETHV2)が指定された場合には、システムがSSAP 04および08を生成します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のサービス・アクセス・ポイントを指定します。ETHSTDが*ALLまたは*IEEE8023の場合には、TCP/IPアプリケーションではSSAPは16進数の06またはAAでなければなりません(ETHSTDが*ETHV2の場合には、06およびAAは使用できませんが、TCP/IPはまだ実行可能です)。SNAアプリケーションでは、4の倍数で04から9Cの範囲の値を指定します。例えば、7Cは有効な選択項目です。非SNAアプリケーションでは、2の倍数の02からFEの範囲の値を指定します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- 伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。

注: ETHSTD(*ETHV2)を指定した場合には、AAを指定することはできません。ただし、TCP/IPを実行することは可能です。

システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。

- ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。
- LAN印刷アプリケーションでは、*NONSNAのSSAPタイプの12のSSAP値を指定します。
-

可能なSSAP最大フレーム・サイズの値は次の通りです。

*MAXFRAME

システムが送受信できる最大フレーム・サイズ(データ・フィールド・サイズ)を判別します。ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)が指定されている場合には、*CALCはTCP/IPおよびSNA SSAP用に1496のフレーム・サイズを作成します。ETHSTD(*ETHV2)が指定されている場合には、*CALCはSNA SSAP用に1493のフレーム・サイズを作成します。

SSAP最大フレーム

このSSAPの最大フレーム・サイズを指定します。有効な値の範囲は265から8996 (イーサネット標準 (ETHSTD)パラメーターで*ETHV2が指定された場合には、SNA SSAPで265から1493)です。

注: 資源名 (RSRCNAME)パラメーターで*NWIDが指定され、ETHSTDパラメーターで*ETHV2が指定されている場合には、このパラメーターに有効な値の範囲は265から1486バイトです。RSRCNAMEパラメーターで*NWIDが指定され、ETHSTDパラメーターで*ALLまたは*IEEE8023が指定されている場合には、このパラメーターに有効な値の範囲は265から1489バイトです。1486または1489より大きい最大フレーム・サイズが有効となるのは、TCP/IP用にAA SSAPが指定された場合だけです。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは、指定されたSSAP値に基づいてSSAPタイプを判別します。

*SNA システムは通信用にIBMのシステム・ネットワーク体系を使用します。4の倍数の04から9CのSSAP値だけがサポートされます。

*NONSNA

システムはSNA通信を使用しません。2の倍数の02からFEのSSAP値だけがサポートされます。

*HPR SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

このパラメーターおよびその値*SAME, *OFF, *MIN, *MED,および*MAXを指定することができますが、リリースV2R3M0で開始するシステムでは使用されません。このパラメーターは以降のリリースでは除去されます。

*SAME

値は変更されません。

上

テスト・フレームの生成 (GENTSTFRM)

システムが、ネットワークの使用可能性を判別するために、自動的にテスト・フレームを生成するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES システムがテスト・フレームを生成します。

*NO システムはテスト・フレームを生成しません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

PVC識別コード (PVCID)

このパーマネント・バーチャル・サーキットと関連した仮想パスIDと仮想回線IDの対を指定します。

*SAME

値は変更されません。

可能な仮想パスID値は次の通りです。

仮想パスID

仮想パスIDを表す番号を指定します。この番号は0から7の範囲内でなければなりません。

可能なバーチャル・サーキットIDの値は次の通りです。

バーチャル・サーキットID

バーチャル・サーキットIDを表す番号を指定します。この番号は32から4095の範囲内でなければなりません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECSアドレスの使用 (USELECSADR)

LANエミュレーション構成サーバー(LECS)を接続するリモートLANエミュレーション・サーバー(LES)アドレスを要求するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES LECSアドレスが使用されます。

*NO LECSアドレスは使用されません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LES ATMアドレス (LESATMADR)

リモートLANエミュレーション・サーバーのATMネットワーク・アドレスを指定します。

注: USELECSADR(*NO)を指定した場合には、このパラメーターを*NONEにすることはできません。

*SAME

値は変更されません。

可能な単一値は次の通りです。

*NONE

ATMネットワーク・アドレスは使用されません。

可能なネットワーク接頭部の値は次の通りです。

ネットワーク接頭部

リモート・サーバーのATMアドレスのネットワーク接頭部を指定します。これは26桁の16進数値です。

可能な末端システムIDの値は次の通りです。

末端システムID

リモート・サーバーの末端システムIDを指定します。これは12桁の16進数値です。

可能なセレクター・バイト値は次の通りです。

セレクター・バイト

リモート・サーバーのセレクター・バイトを指定します。これは2桁の16進数値です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)

エミュレートされたLAN名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

エミュレートされたLAN名は使用されません。

エミュレートされたLAN名

エミュレートされたLAN名を指定します。最大32文字まで指定できます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)

LANエミュレーション(LE)クライアントが別のクライアントへの遊休仮想回線接続を切断する前に待機する時間の長さ(分数)を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

LEクライアントは無制限に待機します。

LEC切断タイムアウト

別のクライアントとの遊休仮想回線接続を切り離す前に、LEクライアントが待機する分数を指定します。この値は1から30分の範囲内でなければなりません。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

10M リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

4M リンク速度は秒当たり400万ビットです。

16M リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M リンク速度は秒当たり1億ビットです。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は1200から603979776000 BPSです。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

***AUTO**

回線速度の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

10M 回線速度は秒当たり1000万ビットです。

100M 回線速度は秒当たり1億ビットです。

1G 回線速度は秒当たり1ギガ・ビット(10億ビット/秒)です。

10G 回線速度は秒当たり10ギガビット(100億ビット/秒)です。

注: 値1Gと10Gは、ギガビット・イーサネットを指定します。ギガビット・イーサネットが使用可能となるのは、厳密にTCP/IPプロトコルを実行しているときだけです。NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、1Gまたは10Gを指定する必要があります。

上

二重 (DUPLEX)

ハードウェアがデータの送信と受信を同時に行うことができるかどうかを指定します。半二重モードでは、ハードウェアがデータの送信と受信を交互に切り替えなければなりません。全二重モードでは、データの送信と受信を同時に行うことができます。

注: 最適なパフォーマンスを得るためには、この設定はこの回線が接続しているスイッチまたはハブの設定と一致している必要があります。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

***AUTO**

二重の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

***HALF**

回線は半二重モードを使用して通信します。

***FULL**

回線は全二重モードを使用して通信します。

注: NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、*FULLを指定する必要があります。

上

保守容易性オプション (SRVOPT)

保守容易性オプションを指定します。このパラメーターを使用すると、保守容易性オプションが、サービス・プロバイダーの指示の下で使用されるものとして提供されるようになります。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

保守容易性オプションは提供されません。

文字値 サービス・プロバイダーによって指示された値を指定します。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

1496 最大フレーム・サイズは1496バイトです。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。有効なフレーム・サイズ (バイト数) の範囲は1496から8996です。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された場合には、このパラメーターに有効な値は1496バイトだけです。最大フレーム・サイズが1496バイトより大きい場合には、LINESPEED(1G)またはLINSPEED(*AUTO)とDUPLEX(*FULL)またはDUPLEX(*AUTO)を使用する必要があります。NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)が指定されている場合には、8996を推奨します。

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

*SAME

値は変更されません。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

*SAME

値は変更されません。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

*MAX 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

*SAME

値は変更されません。

*LAN ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

*TELEPHONE

電話回線を使用する伝搬遅延

*PKTSWTNET

パケット交換網を使用する伝搬遅延

*SATELLITE

衛星通信を使用する伝搬遅延

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

着信の拡張対等通信ネットワーク(APPN)呼び出しをローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の周辺システムから受信する時に、システムが拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述を自動的に作成するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** この回線の制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** この回線の制御装置記述を自動的に作成します。

上

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

構成変更が自動的にオフになり、アイドル状態になっていた、自動的に作成された拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述(この回線と関連した)を削除する前に、システムが待機する分数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この回線の制御装置記述は自動的に削除されません。

制御装置の自動削除

1から10000分の範囲の値を指定します。 値1440は24時間です。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1:イーサネット回線記述の変更

```
CHGLINETH LIND(BOSTON) RSRNAME(LIN041)
```

このコマンドは、BOSTONという名前のイーサネット回線記述の資源名をLIN041に変更します。

例2:イーサネット回線記述の変更

```
CHGLINETH LIND(LINETH) MAXFRAME(1496)
```

このコマンドは、イーサネット回線記述の最大フレーム・サイズを1496バイトに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(ファクシミリ) (CHGLINFAX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の変更 (ファックス) (CHGLINFAX)コマンドは、ファクシミリ (ファックス) 回線の回線記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	単一値: *SAME その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

ファクシミリ・ポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

資源名は、入出力アダプター(IOA)資源名とIOA上のポート番号から構成されます。例えば、IOAの資源名がLIN01である場合には、ポート1および2の資源名は、LIN011およびLIN012となります。

ファクシミリIOAの両方のポートの資源名を指定しなければなりません。指定されたすべての回線は同じ入出力プロセッサに接続されていなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

RSRCNAME-1

ファクシミリ・ポートを記述するために使用される最初の資源名を指定します。

RSRCNAME-2

ファクシミリ・ポートを記述するために使用される2番目の資源名を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINFAX LIND(FAXLINE) RSRNAME(LIN031 LIN032)
```

このコマンドは、FAX回線記述FAXLINEの資源名をLIN041およびLIN042に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(フレーム・リレー) (CHGLINFR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述 (フレーム・リレー・ネットワーク) 変更(CHGLINFR)コマンドは、フレーム・リレー・ネットワーク(FR)回線の回線記述を変更します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, *SAME, 40	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-8182, *SAME, 1590	オプション
LINKSPEED	リンク速度	*SAME, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFF, *SAME, *SYSGEN	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SAME, *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-8182, *MAXFRAME, 265, 502, 1014, 2038, 4086, 8182	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA, *HPR	
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, *SAME, 0	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, *SAME, 0	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SECURITY	回線の機密保護	*SAME, *PKTSWTNET, *NONSECURE, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*SAME, *PKTSWTNET, *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *SAME, 128	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *SAME, 128	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *SAME, 128	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG) コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線によってサポートされる制御装置の最大数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

- 40** 回線は40台の制御装置をサポートします。

制御装置の最大数

このネットワークに対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数字を指定します。有効な値の範囲は1から256です。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送信または受信できる最大フレーム（経路情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は要求単位(RU)サイズの計算に使用されます。制御装置が送受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズが異なっている場合があります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。MAXFRAMEの推奨値は次の通りです。502, 1014, 1590, 2038, 4086,および8182バイト。

*SAME

値は変更されません。

1590 最大フレーム・サイズは1590バイトです。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。有効な値の範囲は265から8182 です。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000です。

上

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSGEN

オペレーティング・システムは交換IDを生成します。

交換ID

(*SYSGEN値が指定されない場合) 056で始まる8桁の16進数の交換IDを指定します。

上

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。最も一般に使用されるSNA SSAPは16進数の04です。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*SYSGEN

システムは自動的に3つのSSAPを作成します。すなわち、システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションの場合の16進数04、ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーション用の16進数のC8、および伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションの場合の16進数のAAを作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- TCP/IPアプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。
- SNAアプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。
- HPRアプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。

SSAP値に可能なフレーム・サイズは次の通りです。

*MAXFRAME

MAXFRAMEパラメーターに指定されたフレーム・サイズが使用されます。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ(送受信できるデータ・フィールドの最大サイズ)を指定します。このパラメーターの有効な値は265から8182バイトです。

注: この値は、MAXFRAMEパラメーターに指定された値より大きくすることはできません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは、次の16進数の値に基づいてSSAPタイプを判別します。

- 4の倍数の04から9C (SNAの場合)
- C8 (HPRの場合)
- 2の倍数の02からFE (非SNAの場合)

***SNA** SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)です。

*NONSNA

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は2の倍数の02からFEの16進数(02, 04, 06, など)です。

***HPR** SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

*SAME

値は変更されません。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

*SAME

値は変更されません。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

*UNDGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管（例えば、与圧パイプ）が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

***ENCRYPTED**

回線上を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。最短から最長遅延への値の順序は、*MIN、*LAN、*TELEPHONE、*PKTSWTNET、および*SATELLITEです。

***SAME**

値は変更されません。

***PKTSWTNET**

パケット交換網伝搬遅延が使用されます。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***TELEPHONE**

電話伝搬遅延が使用されます。

***SATELLITE**

衛星通信伝搬遅延が使用されます。

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

***SAME**

値は変更されません。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

5 15秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合、値0は時間無制限の回復を指定します。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

498 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINFR  LIND(FR2)  ONLINE(*NO)  MAXFRAME(4444)
           LINKSPEED(1536000)
```

このコマンドは、フレーム・リレー回線FR2を、初期プログラム・ロード(IPL)時に自動的にオンに構成変更されないように変更します。最大フレーム・サイズは4444バイトに設定され、リンク速度は1536000ビット／秒(BPS)に設定されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(PPP) (CHGLINPPP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述変更(POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)) (CHGLINPPP)コマンドは、PPP回線の回線記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
CNN	接続タイプ	*SAME, *SWTPP, *NONSWTPP, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション
FRAMING	フレーム・タイプ	*SAME, *ASYNC, *SYNC	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	文字値, *SAME, *RS232V24, *RS449V36, *V35, *X21, *INTMODEM	オプション
SWTNWILST	交換NWIリスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: NWI記述	名前	
	要素 2: NWIチャネル・タイプ	*B	
	要素 3: NWIチャネル番号	*CALC, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30	
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
LINESPEED	回線速度	文字値, *SAME	オプション
INFTRFTYPE	情報転送タイプ	文字値, *SAME, *UNRESTRICTED, *V110, *DOV, *ASYNCMODEM, *SYNCMODEM	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *SAME, *NONE	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	文字値, *SAME	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*SAME, *BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
SWTNWISLCT	交換NWI選択	文字値, *SAME, *FIRST, *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTOUE	接続リスト項目	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTIN	着信接続リスト	名前, <u>*SAME</u> , *NETATR	オプション
CLOCK	刻時	<u>*SAME</u> , *MODEM, *LOOP, *INVERT	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	文字値, <u>*SAME</u> , *ATCMD, *V25BIS	オプション
SETMDMASC	モデムASYNC設定コマンド	文字値, <u>*SAME</u> , END	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
FLOWCNTL	フロー制御	<u>*SAME</u> , *NO, *HARDWARE	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>*SAME</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	文字値, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
NRZI	NRZIデータ・エンコード	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション
ACCM	非同期制御文字マップ	000000000-00FFFFFFF, <u>*SAME</u>	オプション
LCPAUT	LCP認証値	要素リスト	オプション
	要素 1: リモート対等チャレンジ・タイマー	整数, *NONE, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最大認証試行回数	1-255, <u>*SAME</u>	
LCPCFG	LCP構成値	要素リスト	オプション
	要素 1: 構成再試行タイマー	0.1-60.0, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最大構成障害回数	1-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大構成要求回数	1-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: 最大終了要求回数	1-255, <u>*SAME</u>	
COMPRESS	圧縮	文字値, <u>*SAME</u> , *STACLZS, *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために, TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

*SAME

値は変更されません。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

接続タイプ (CNN)

使用される回線接続のタイプを指定します。

注: *NONSWTCALおよび*NONSWTANSが有効となるのは, INTERFACE(*INTMODEM),あるいはINFTRFTYPE *ASYNCMODEMまたは*SYNCMODEMの場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***SWTPP**

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***NONSWTPP**

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***NONSWTCAL**

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

***NONSWTANS**

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

フレーム・タイプ (FRAMING)

回線が非同期フレームを使用するか, あるいは同期フレームを使用するかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***ASYNC**

非同期フレームが使用されます。

***SYNC**

同期フレームが使用されます。

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)の時には有効ではありません。

*SAME

値は変更されません。

***RS232V24**

RS232/V.24インターフェースが使用されます。

***RS449V36**

RS449/V.36インターフェースが使用されます。

***X35** X.35インターフェースが使用されます。

***X21** X.21インターフェースが使用されます。

***INTMODEM**

統合モデム・インターフェースが使用されます。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWIリスト (SWTNWILST)

ISDN/T1交換接続では、この回線を接続できるネットワーク・インターフェース記述のリストを指定します。ネットワーク・インターフェース記述は、着信または発信の呼び出しの処理の時に交換NWI選択パラメーター(SWTNWISLCT)によって指定された値に基づいてリストから選択されます。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

可能なネットワーク・インターフェース記述名値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク・インターフェース記述は指定されません。

名前 交換接続では、この回線を接続する先のネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル・タイプ値は次の通りです。

***B** Bチャンネルが使用されます。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル番号の値は次の通りです。

*CALC

システムは、着信または発信呼び出しを処理する時に、ネットワーク・インターフェース記述に定義された30のチャンネル番号の1つを（可用性質に基づいて）選択します。

NWIチャンネル番号

回線記述を制限するチャンネル番号(1から30)を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメータは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなる場合があります。

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

回線速度

回線速度(BPS)を指定します。回線速度の有効な値の範囲は、FRAMING(*SYNC)では9600から2048000ビット/秒です。FRAMING(*ASYNC)では、有効な値は9600, 19200, 38400, 57600, および115200です。FRAMING(*ASYNC)および*V35または*RS449V36のインターフェースでは、157600および230400の回線速度を指定することができます。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

情報転送タイプ (INFTRFTYPE)

情報転送タイプを指定します。情報転送タイプは層1プロトコルを判別します。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*UNRESTRICTED

データ・チャネル・トラフィックはデジタル情報として示されます。すなわち、物理変換は不要です。Bチャネルはそれぞれ64K BPSの容量で作動します。

*V110 転送タイプはVシリーズの推奨事項110です。各Bチャネルは56K BPSで作動します。

*DOV DATA OVER VOICE (DOV) デジタル・データをISDN音声呼び出しによって転送することができます。また、これは、DATA OVER VOICE BEARER SERVICE (DOVBS), DATA OVER SPEECH BEARER SERVICE (DOSBS), TOLLSAVER, または TOLLMIZER とも呼ばれます。このオプションは、ISDN音声呼び出しがISDNデータ呼び出しより安価の場合、またはデータのベアラー・サービスが使用可能でない場合にだけ使用してください。また、リモート・ロケーションもこの機能をサポートしている必要があります。データは、各方向で56KBPSで転送されます。

*ASYNCMODEM

統合非同期モデムからのデータをISDN音声呼び出しを介して転送することができます。このオプションは、アナログ電話回線上で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するために使用してください。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

*SYNCMODEM

統合同期モデムからのデータをISDN音声呼び出しを介して転送することができます。アナログ電話回線で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するためには、このオプション

を使用する必要があります。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

上

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*ASYNCMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)を指定した場合にかぎり有効です。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のaからz,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンバーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロンの
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

PPPフレームの情報フィールドの最大長（埋め込みは含まれるが、プロトコル・フィールドは含まれない）を指定します。また、これは、最大受信単位(MRU)とも呼ばれます。折衝によってPPPの実現に同意すると、MRUの他の値を使用することができます。

*SAME

値は変更されません。

最大フレーム・サイズ

最大フレーム・サイズ（バイト数）を指定します。有効な値の範囲は1500から4096バイトです。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

交換回線で、回線を着信呼び出し、発信呼び出し、あるいは着信および発信両方の呼び出しに使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BOTH

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

*ANS 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

*DIAL 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWI選択 (SWTNWISLCT)

交換網インターフェース・リストからネットワーク・インターフェースを選択するために使用される方式を指定します。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*FIRST

選択は、交換網インターフェース・リストに指定された最初のネットワーク・インターフェースから開始します。

*CALC

選択されるネットワーク・インターフェースをシステムが計算します。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN/T1交換接続用に、ISDN/T1へのダイヤルアウト操作のISDN/T1割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

名前 ダイヤルアウト操作のための接続リストの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN/T1交換接続用に、ISDN/T1への呼び出しを行うために使用される接続リストから項目名を指定します。接続リストはCNLSTOUTパラメーターに指定しなければなりません。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

名前 接続リストから項目名を指定します。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

着信接続リスト (CNLSTIN)

ISDN/T1交換接続では、許可された着信呼び出しの識別用のすべての情報（または接続）を検索するために使用される接続リストの名前を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

この回線記述で使用される接続リストは、IPL（初期プログラム・ロード）時に識別したシステムの省略時ネットワーク属性のリストから取り出されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用して、接続リストの名前を調べることができます。

名前 この回線記述に使用される接続リストの名前を指定してください。

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

注: RSRNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*SAME

値は変更されません。

*MODEM

モデムが刻時機能を提供します。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時にループバックされます。モデム(DCE)がこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を改善することができます。*LOOPで有効なインターフェースは*V35、*X21BISV35,および*RS449V36です。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されます。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERT で有効なインターフェースは*V35、*X21、*X21BISV35,および*RS449V36です。

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

注: RSRNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*SAME

値は変更されません。

*ATCMD

アテンション(AT)コマンド・セット(HAYESコマンド・セットと呼ばれることもある)は、モデム・コマンドの1つのグループであり、これによって非同期で作動中にアプリケーション・プログラムがモデムを制御できます。アプリケーション・プログラムはすべてのATコマンドをそのデータ・ストリームに直接入れる必要があります。サポートされるATコマンドは使用されている特定のモデムによって異なります。

*V25BIS

逐次自動呼び出し用の国際電気通信連合-電気通信(ITU-T) (前はCCITTと呼ばれた) V.25 BIS標準を使用します。

モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)

モデムをASYNCモードに設定するためにそのモデムに送信するASCII V.25 BISコマンド・ストリングを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)の時には有効ではありません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

V.25 BISコマンド・ストリングはモデムに送信されません。

***END** ENDコマンド・ストリングは通常、ほとんどのモデムをASYNCモードに設定するためのコマンドとして使用されます。ENDコマンド・ストリングを使用しない場合には、モデムをASYNCモードに設定するために、適切なコマンド・ストリングをユーザーが入力しなければなりません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大40文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- . ピリオド
- < 小なり記号
- (左括弧
- + プラス符号
- & アンパーサンド
- * アスタリスク
-) 右括弧
- ; セミコロン
- マイナス符号
- / スラッシュ
- , コンマ
- _ 下線
- > 大なり記号
- ? 疑問符
- : コロン
- = 等号

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用する回線のローカル電話番号を指定します。このパラメーターは、CRI機能がV.25 BISに必要な時に使用されます。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムは制御装置記述のCNNNBRパラメーターから呼び出された（接続）番号を使用し、区切り文字(;)を追加し、呼び出し元番号を最後に連結します。モデムとネットワークの両方がCRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートする場合だけは、呼び出し元番号を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)の時には有効ではありません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)ダイヤル・コマンドがV.25 BIS回線で使われます。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRI自動ダイヤル呼び出しのローカル電話番号を表す最大32文字を指定します。

上

フロー制御 (FLOWCNTL)

システムがデータ・フローを制御するかどうかを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)の時には有効ではありません。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ハードウェアがフロー制御文字を生成または認識できないようにして、さらに、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用できないようにします。

*HARDWARE

ハードウェア・フロー制御は、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用して実行されます。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

交換回線での作業を切断するまでにシステムが待つ時間（秒数）を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

非活動タイマーは使用不能にされます。

タイマー値

15から65535秒の範囲の値を指定します。

上

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰逆転記録方式(NRZI)データ・エンコードを使用するかどうかを指定します。これによって、信号が長時間の間同じまま残っていないようにします。デジタル電話回線では,*NOにすることを推奨します。

注:

1. 回線上のすべてのデータ通信装置は同じデータ伝送コーディング・メソッドを使用しなければなりません。
2. NRZIデータ・エンコードを使用するには、フレーム指示(FRAMINGパラメーター)は*SYNCでなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

***YES** NRZIデータ・エンコードが使用されます。

***NO** NRZIデータ・エンコードは使用されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

非同期制御文字マップ (ACCM)

回線のデータ通信装置により除去または導入された可能性がある伝送データに制御文字のマッピングを指定します。

注: FRAMING(*ASYNC)を指定しない限り、ACCM(00000000)を指定しなければなりません。

ホスト・システムは、このマップで指定されたすべての文字を2バイト・エスケープ・シーケンスとしてリモート・ピアに送信します。さらに、このマップで指定されたすべての文字は、リモート・ピアによって2バイト・エスケープ・シーケンスとしてホスト・システムに送信されなければなりません。このマップに指定されたエスケープ以外の文字は、ホスト・システムによって破棄されます。

重要

このパラメーターの省略時の値は、通常は変更する必要がありません。変更の影響がはっきりと分からない限りは、このパラメーターに別の値を指定しないでください。

***SAME**

値は変更されません。

制御文字マップ

32ビットの値を8桁の16進数として指定します。この32ビットの値の各ビットは、文字をエスケープするかしないかを指示します。ビット値を1に設定すると、対応する文字がエスケープされます。ビットを0に設定すると、制御文字はエスケープされません。

32ビット値のビットの序数は影響を受ける文字を判別します。左端のビット（番号0）は文字'00'Xと対応します。右端のビット（番号31）は文字'1F'Xと対応します。例えば、

- ACCM(80000000)を指定すると、文字'00'Xは2バイトのエスケープ・シーケンス'7D20'Xとして送受信する必要があります。文字'01'Xから'1F'Xまではマップされません。
- ACCM(00000001)を指定すると、文字'1F'Xは2バイトのエスケープ・シーケンス'7D3F'Xとして送受信する必要があります。文字'00'Xから'1E'Xまではマップされません。
- ACCM(0000A000)を指定すると、文字'11'Xおよび'13'Xはそれぞれ、2バイトのエスケープ・シーケンス'7D31'Xおよび'7D33'Xとして送受信する必要があります。

上

LCP認証値 (LCPAUT)

ホストPPPのリンク制御プロトコル層がリモート・ピアを認証する方法を制御する値を指定します。

リモート・ピア・チャレンジ・タイマー値は、定期的にリモート・ピアに認証チャレンジを出す間隔を分で指定します。

***SAME**

値は変更されません。

チャレンジ間隔

リモート・ピアの認証が再検査するための間隔（分数）を指定します。

最大認証試行回数の値は、リモート・ピアに送信される無応答認証チャレンジの最大回数を指定し、その後でピアは応答できないと見なされます。

注:

1. ホスト・システムが構成再試行タイマー（パラメーターLCPCFGの要素1）によって指定された間隔内に応答を受け取らない場合には、チャレンジは無応答とみなされます。
2. この値は、ピアが認証に失敗したときにホスト・システムが応答する方法には影響を与えません。リモート・ピアからの応答が認証に失敗した場合には、ホスト・システムは常に再試行せずに通信を終了します。

***SAME**

値は変更されません。

最大試行回数

通信を打ち切る前に、リモート・ピアに送信される無応答チャレンジの最大数を指定します。

上

LCP構成値 (LCPCFG)

ホストPPPのリンク制御プロトコル層がリモート・ピアと相互に受け入れ可能なリンク構成値を折衝する方法を制御する値を指定します。

重要:

このパラメーターの省略時の値は通常変更する必要はありません。これを変更した場合の影響を完全に把握している場合以外は、このパラメーターに異なった値を指定しないでください。

構成再試行タイマーの値は、ホスト・システムがリモート・ピアに無応答の構成、終了、または認証チャレンジ要求を再送信するまで待機する間隔（秒数）を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

再試行間隔

未確認の要求が再送信される時間間隔を指定してください。

最大構成障害回数値は、リモート・ピアとの間で相互に受け入れ可能な構成を折衝するために行なわれる最大試行回数を指定し、その後で構成が集中していないと見なされます。

***SAME**

値は変更されません。

最大試行回数

相互に受け入れ可能な構成を折衝するために行なわれる最大試行回数を指定します。

最大構成要求値は、リモート・ピアに送信される無応答構成要求の最大数を指定し、その後でピアが応答できないと見なされます。

***SAME**

値は変更されません。

最大試行回数

ホスト・システムが通信を終了するまでに行う最大構成試行回数を指定します。

最大打ち切り要求数値は、リモート・ピアに送信される無応答打ち切り要求パケット数の最大数を指定し、その後でピアが応答できないと見なされます。

***SAME**

値は変更されません。

最大試行回数

通信を打ち切ることをリモート・ピアに通知するために、実行される最大試行回数を指定します。

上

圧縮 (COMPRESS)

圧縮機能が提供されることを指定します。

注: このパラメーターによって圧縮プロトコルを使用可能にすることができますが、圧縮が使用されることを保証するものではありません。データ圧縮は、ローカル・システムとリモート・ピア・システム接続の両方が指定された圧縮プロトコルの使用に同意しない限り活動化されません。

***SAME**

値は変更されません。

***STACLZS**

ホスト・システムは、STAC LZSデータ圧縮の使用を折衝することができます。

***NONE**

ホスト・システムは、POINT-TO-POINT圧縮プロトコルの折衝または使用を許可されません。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システム値QIGCCDEFNTに指定されたDBCSコード化フォントが使用されます。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は無限の回復を指定します。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
CHGLINPPP LIND(CHICAGO) LINESPEED(115200)
```

このコマンドは、回線記述CHICAGOの回線速度を115200ビット／秒に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(SDLC) (CHGLNSDLC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SDLC回線記述の変更(CHGLNSDLC)コマンドにより、SDLC回線の回線記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	単一値: *SAME その他の値 (最大 6 回の繰り返し): 名前	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*SAME, *YES, *NO	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-254, *SAME	オプション
CLOCK	刻時	*SAME, *MODEM, *LOOP, *INVERT	オプション
LINESPEED	回線速度	*SAME, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000, 768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000, 2048000	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*SAME, *NORMAL, *V54, *IBMWRAP, *IBMLPDA1, *IBMLPDA2	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	*SAME, *FULL, *HALF	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*SAME, *BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*SAME, *YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*SAME, *YES, *NO	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *SAME, *NONE	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*SAME, *NONE, *V25BIS	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前, *SAME	オプション
SHMCALLTMR	SHM呼び出しタイマー	1-60, *SAME, *NONE	オプション
SHMMAXCNN	SHM最大接続タイマー	1-254, *NOMAX, *SAME	オプション
SHMANSDLY	SHM返答遅延タイマー	1-254, *NOMAX, *SAME	オプション
SHMCALLFMT	SHM呼び出し形式	0-15, *SAME, *DNIC, *DCC	オプション
SHMACC	SHMアクセス・コード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *SAME, *NONE	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE, *SAME	オプション
CNPOLLRTY	ポーリング接続再試行	0-64, *SAME	オプション
CNNTMR	接続タイマー	1-32767, *SAME, *NOMAX	オプション
SHORTTMR	短時間タイマー	10-600, *SAME	オプション
LONGTMR	長時間タイマー	100-6000, *SAME	オプション
SHORTRTY	短時間再試行	0-254, *SAME	オプション
LONGRTY	長時間再試行	0-254, *SAME	オプション
CPSRTY	呼び出し進行中信号再試行	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 11 回の繰り返し): *CPS41, *CPS42, *CPS43, *CPS44, *CPS45, *CPS46, *CPS47, *CPS48, *CPS49, *CPS71, *CPS72	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	*SAME, 265, 521, 1033, 2057	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	*SAME, *OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
DUPLEX	二重	*SAME, *HALF, *FULL	オプション
MODULUS	モジュラス	*SAME, 8, 128	オプション
MAXOUT	最大未処理フレーム数	1-28, *SAME	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, *SAME, *NOMAX	オプション
POLLRSPDLY	ポーリング応答遅延	0-2048, *SAME	オプション
NPRDRCVTMR	非生産受信タイマー	160-4200, *SAME	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	5-300, *SAME	オプション
CNPOLLTMR	接続ポーリング・タイマー	2-300, *SAME	オプション
POLLPAUSE	ポーリング・サイクル休止	0-2048, *SAME	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	0-64, *SAME	オプション
FAIRPLLTM	フェア・ポーリング・タイマー	5-60, *SAME	オプション
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, *SAME	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	*SAME, *DTR, *CDSTL	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>*SAME</u>	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	<u>*SAME</u> , 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
LINKSPEED	リンク速度	<u>*SAME</u> , *INTERFACE, *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u> , *CNN	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u> , *CNN	オプション
SECURITY	回線の機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は、回線記述の作成でコマンドのこのパラメーターまたはSNBUパラメーターのいずれかに以前に指定した値から変わりません。

***NO** SNBU機能は使用されません。

***YES** SNBU機能が活動化されます。制御装置の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESの値も指定する必要があります。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG) コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰反転(NRZI)データ・コーディングを使用するかどうかを指定します。これによって、信号が長時間の間同じまま残っていないようにします。

注: 回線上のすべてのデータ通信装置は同じ伝送方式を使用しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** NRZIデータ・コーディングが使用されます。

***NO** NRZIデータ・コーディングは使用されません。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

1 1つの制御装置が使用されます。次の場合には省略時の値(1)を使用します。

- 非交換POINT-TO-POINTおよび交換POINT-TO-POINTの接続タイプ

- 二重双方向同時データ転送を使用するホスト・システムとの通信で非交換POINT-TO-POINT およびマルチポイント接続タイプ。(ホスト・システムは、LINEマクロ命令でLINE ADDRESS=(NNN,FULL)を指定することによって、そのNCP生成に二重データ転送を指定します。)
- ROLE(*SEC)およびSHMNODE(*T20)を指定した短期保留モード回線

ROLE(*PRI)またはROLE(*NEG)を指定した短期保留モード回線は、最大64の制御装置をサポートすることができます。

制御装置の最大数

1から254の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。

上

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*MODEM

回線の刻時機能はモデムによって提供されます。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時のDCEモデムにループバックされます。モデムDCEがこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を提供することができます。

*LOOPで有効なインターフェースは*V35、*X21BISV35、および*RS449V36です。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されません。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERTで有効なインターフェースは*V35、*X21、*X21BISV35、および*RS449V36です。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

9600 9600 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な値は600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000,

768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000,または2048000ビット/秒です。

上

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

***NORMAL**

ユーザー・モデムに対する診断テストを実行する試みは行われません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3(ローカル折り返し)およびループ2(これはリモート折り返し)をサポートします。

***IBMWRAP**

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

***IBMLPDA1**

リンク問題判別援助機能-1(LPDA-1)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

***IBMLPDA2**

リンク問題判別援助機能-2(LPDA-2)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

上

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FULL**

回線はそのモデムの全速度で作動します。

***HALF**

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換(非同期, BSC, SDLC, またはIDLC)回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ(非同期, BSC, またはSDLC)回線を使用するかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期，BSC，SDLC，またはX.25回線）の場合に，接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか，あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注：*YESは，モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

***NO** 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

上

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に，接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか，あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 回線接続は，X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

***YES** 回線接続は，X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

上

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注：有効であるのは，INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンパーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロンの
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは, 'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

***V25BIS**

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

値は変更されません。

上

SHM呼び出しタイマー (SHMCALLTMR)

指定された間隔でSHM再接続が行なわれない場合には、リモート・システムの状態を検査するために、X.21短期保留モード(SHM)回線で接続が再確立される間隔を指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

接続を検査するための呼び出しは行われません。

短期保留モード呼び出しタイマー

接続を検査するための呼び出しを行う1から60分の間隔を指定します。

上

SHM最大接続タイマー (SHMMAXCNN)

使用可能なポートより制御装置の方が多い場合にシステムが接続の存続を許す時間の長さを指定します。システムは指定時間の経過後に接続を解消し、**SHM返答遅延タイマー (SHMANSDLY)**パラメーターで指定された時間だけその後の呼び出しを遅らせて、中断されていた制御装置を再呼び出しする前に、待機している呼び出しを行います。

注: このパラメーターが有効なのは、**データ・リンクの役割 (ROLE)**パラメーターで*PRIまたは*NEGが指定されている場合、および**接続タイプ (CNN)**パラメーターで*SHMが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

8 システムは、他の制御装置を検査する前に8秒待ちます。

*NOMAX

タイマーは活動化されません。

最大接続タイムアウト

1から254秒の範囲の値を指定します。

上

SHM返答遅延タイマー (SHMANSDLY)

システムが発信呼び出しを行う前に、制御装置の呼び出しを待機する時間の長さを指定します。SHM応答遅延タイマーは次の1つが真になった時に開始されます。

- SHM最大接続タイマー(SHMMAXCNNパラメーター) で指定された時間が満了した。
- 着信呼び出しを受け取る間もなく、SHMMAXCNNパラメーターの値の2倍に等しい時間が経過した。

注: このパラメーターが有効なのは、**データ・リンクの役割 (ROLE)**パラメーターで*PRIまたは*NEGが指定されている場合、および**接続タイプ (CNN)**パラメーターで*SHMが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

11 システムは、発信呼び出しを行う前に1.1秒待ちます。

*NOMAX

タイマーは活動化されません。

ANS遅延タイムアウト

1秒の10分の1から254秒の範囲の値を指定します。例えば、10秒は10分の100秒と等しくなります。

上

SHM呼び出し形式 (SHMCALLFMT)

X.21短期保留モードの回線呼び出し番号の形式を指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*DNIC

データ・ネットワークID (DNIC)が使用されます。

*DCC データ国別コード(DCC)が使用されます。

呼び出し形式

SHM呼び出し元番号の市外局番または国別または地域コードの長さです。0から15の範囲の値を指定します。

上

SHMアクセス・コード (SHMACC)

X.21短期保留モード回線のアクセス・コードを指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された(接続)番号(CNNNBRパラメータ)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

上

端末アドレス (STNADR)

交換2次または折衝可能な回線の場合に、リモート・システムが呼び出しに応答する場合、これがリモート・システムによってポーリングされた時、ローカル・システムが応答する宛先の16進数の端末アドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

端末アドレス

01からFEの16進数値を指定してください。

上

ポーリング接続再試行 (CNNPOLLRTY)

交換1次回線または折衝可能回線の場合には、エラーを指示して端末を作動不良にする前に、ポーリング接続の再試行を行う回数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

ポーリング接続再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

上

接続タイマー (CNNTMR)

X.21回線交換インターフェースの場合に、自動応答接続要求が着信呼び出しの受け入れを待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

接続タイマー

1から32767の値を0.1秒間隔で指定します。

上

短時間タイマー (SHORTTMR)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行操作のバースト時に使用される短時間タイマーを指定します。システムは次の接続試行までこのタイムアウト時間の間待機します。

1. SHORTTMRパラメーターを使用するのは、X.21回線交換または短期保留モード回線の場合だけです。
2. この省略時の値は、呼び出し再試行回数および呼び出し遅延に関してほとんどの国または地域の要件を満たしています。この省略時の値がユーザーの国または地域の要件を満たしていない場合には、この値はその国または地域の要件に従って構成する必要があります。この値を変更する前に、新規の値がユーザーの国または地域の要件に従っていることを確認してください。

ユーザーの国または地域の要件が不明な場合には、IBMの貴社担当者またはIBM代理店がこの情報を提供することができます。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを経由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試行呼び出しの試みには再試行の「バースト」による特徴があります。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

*SAME

値は変更されません。

50 システムは5秒間待機します。

短時間タイマー

10から600の範囲の値を0.1秒間隔で指定します。

上

長時間タイマー (LONGTMR)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行操作のバースト間で使用される長時間タイマーを指定します。再試行のバーストの後で、システムは次の試行までこのタイムアウト期間の間待機します。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを經由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試みは再試行の「バースト」によって特徴づけられます。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

***SAME**

値は変更されません。

600 システムは60秒間待機します。

長時間タイマー

100から6000の範囲の値を0.1秒間隔で指定します。

上

短時間再試行 (SHORTRTY)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行のバースト時に行なわれる再試行の回数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

短時間再試行

再試行回数に対して0から254の値を指定します。

上

長時間再試行 (LONGRTY)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、接続要求の処理時のバースト再試行の試行回数を指定します。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを經由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試みは再試行の「バースト」によって特徴づけられます。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

***SAME**

値は変更されません。

1 1回の再試行が試みられます。

長時間再試行

再試行回数に対して0から254の値を指定します。

上

呼び出し進行中信号再試行 (CPSRTY)

X.21回線交換インターフェースまたはX.21短期保留モード回線でどの呼び出し進行中信号が再試行されるかを指定します。最大11個の値を指定することができます。重複した値は無視されます。

有効な値は、*CPS41, *CPS42, *CPS43, *CPS44, *CPS45, *CPS46, *CPS47, *CPS48, *CPS49, *CPS71, および*CPS72です。

このパラメーターを指定できるのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMまたは*SWTPPが指定され、**物理インターフェース (INTERFACE)**パラメーターで*X21が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

*SAME

値は変更されません。

フレーム・サイズ

標準フレーム・サイズは次の通りです。

- 265 (すべての回線タイプ)
- 521 (すべての回線タイプ)
- 1033 (すべての回線タイプ)
- 1994 (トークンリングのみ)
- 2057 (SDLCまたはトークンリング)
- 4105 (TDLCまたはトークンリング)
- 4060 (トークンリングのみ)
- 8156 (トークンリングのみ)
- 16393 (トークンリングのみ)

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

*SAME

値は変更されません。

***OFF** しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

***MAX** エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

上

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン (全二重モデムの場合) であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる (半二重モデムの場合) かどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***HALF**

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

***FULL**

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

上

モジュラス (MODULUS)

拡張順序番号を使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

8 拡張順序番号は使用されません (モジュラス8)。

128 拡張順序番号が使用されます (モジュラス128)。

上

最大未処理フレーム数 (MAXOUT)

リモート・システムが応答を返す前にリモート・システムに送ることのできるフレームの最大数を指定します。モジュラス8の場合には、フレームの最大数は1から7まででなければなりません。モジュラス128の場合には、8から28まででなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

最大未処理フレーム数

未処理フレーム数に対して1から28の値を指定します。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

2次または折衝可能回線の場合に、エラーを報告して回線を切断する前に、システムが有効なフレームの流れのを待機する時間(1/10秒単位)を指定します。このタイマーは、接続時に開始されてフレームが送られた時に再始動され、その後で有効なフレーム検査文字列をもつフレームが受け取られた時にリセットされます。

*SAME

値は変更されません。

300 システムは有効なフレームに対して30秒(10分の300秒)待機します。

非活動タイマー

150から4200の値を0.1秒間隔で指定します。

上

ポーリング応答遅延 (POLLRSPDLY)

2次回線または折衝可能回線の場合で、送信するフレームがない時にシステムがデータ・ポーリングに応答する前に、待機しなければならない最小時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

ポーリング応答遅延

1から2048の値を0.0001秒間隔で指定するか、あるいは遅延なしを示す0を指定します。

上

非生産受信タイマー (NPRDRCVTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合で、2次端末が連続して送信している時に、システムが最終フレームまたはアイドル信号のいずれかを待つ時間を指定します。このタイマーが満了した場合には、非生産受信条件が報告されます。

*SAME

値は変更されません。

非生産受信タイマー

160から4200の値を0.1秒間隔で指定します。

上

アイドル・タイマー (IDLTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合には、アイドル信号用の回線のサンプリングの前にシステムが待機する時間(0.1秒間隔で)を指定します。アイドル信号が検出された時に、エラー回復手順が開始されます。

*SAME

値は変更されません。

遊休タイマー

5から300の値を0.1秒間隔で指定します。

接続ポーリング・タイマー (CNNPOLLTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合で、ポーリングを再送信する前に、システムが接続ポーリングへの応答を待つ時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

接続ポーリング・タイマー

2から300の値を0.1秒間隔で指定します。

ポーリング・サイクル休止 (POLLPAUSE)

1次回線または折衝可能回線の場合で、ポーリング・リスト中の最後のリモート・システムがポーリングされた後で、システムが休止する時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

ポーリング・サイクル休止

1から2048の値を0.0001秒間隔で指定するか、あるいは休止なしを示す0を指定します。

フレーム再試行 (FRAMERTY)

1次回線、協定可能回線またはX.25回線の場合には、エラーを表示する前の、応答されなかったコマンド・フレームまたは肯定応答されなかった情報フレームの再試行回数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

フレーム再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

フェア・ポーリング・タイマー (FAIRPLLTMR)

マルチポイント回線の場合に、システムがデータ転送要求を保留しないで端末のポーリングを再開する前に待機する秒数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

公平ポーリング・タイマー

5から60の値を1秒間隔で指定します。

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*INTERFACE (SDLCおよびX.25のみ)

リンク速度は物理インターフェースのタイプが基になっています。すなわち、RS-232/V.24およびX.21 BIS/V.24では9600 BPSとなり、V.35およびX.21 BIS/V.35では48000 BPSとなり、X.21およびRS-449V.36では64000 BPSです。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効なリンク速度は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10Mおよび16Mビット/秒です。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

接続時間当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

1バイト当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

*MAX 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

***SAME**

値は変更されません。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

***TELEPHONE**

電話回線を使用する伝搬遅延

***PKTSWTNET**

パケット交換網を使用する伝搬遅延

***SATELLITE**

衛星通信を使用する伝搬遅延

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLNSDLC LIND(TUESDAY) RSRNAME(LIN031)
```

このコマンドは、回線記述TUESDAYの資源名をLIN031に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(TDLC) (CHGLINTDLC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TDLC回線記述の変更(CHGLINTDLC)コマンドにより、平衡型データ・リンク制御回線の回線記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINTDLC LIND(W$FLIN1) TEXT('VIRTUAL LINE FOR WSF')
```

このコマンドは、回線記述WSFLIN1のテキストを変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(トークンリング) (CHGLINTRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トークンリング・ネットワーク回線記述の変更(CHGLINTRN)コマンドにより、トークンリング・ネットワーク回線の回線記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NWID, *NWSD	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, *SAME	オプション
LINESPEED	回線速度	*SAME, 4M, 16M, 100M, *AUTO, *NWI	オプション
DUPLEX	二重	文字値, *SAME, *HALF, *FULL, *AUTO	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, *SAME, 265, 521, 1033, 1466, 1600, 1994, 4060, 8156, 16393	オプション
LECFRAME	LECフレーム・サイズ	*SAME, 1516, 4544, 9234, 18190	オプション
ACTLANMGR	LAN管理機能の活動化	*SAME, *YES, *NO	オプション
TRNLOGLVL	TRLAN管理機能ロギング・レベル	*SAME, *OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
TRNMGRMODE	TRLAN管理機能モード	*SAME, *OBSERVING, *CONTROLLING	オプション
LOGCFGCHG	構成変更ログ	*SAME, *LOG, *NOLOG	オプション
TRNINFCN	ビーコンのトークンリング通知	*SAME, *YES, *NO	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	文字値, *SAME, *ADPT	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
FCNADR	機能分野アドレス	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 31 回の繰り返し): C00000000001, C00000000002, C00000000004, C00000000008, C00000000010, C00000000020, C00000000040, C00000000080, C00000000100, C00000000200, C00000000400, C00000000800, C00000001000, C00000002000, C00000004000, C00000008000, C00000010000, C00000020000, C00000040000, C00000080000, C00000100000, C00000200000, C00000400000, C00000800000, C00001000000, C00002000000, C00004000000, C00008000000, C00010000000, C00020000000, C00040000000	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-16393, <u>*MAXFRAME</u> , 265, 521, 1033, 1466, 1994, 4060, 8156, 16393	
	要素 3: SSAPタイプ	<u>*CALC</u> , *NONSNA, *SNA, *HPR	
ELYTKNRLS	トークン早期解放	*YES, *NO, <u>*SAME</u> , *LINESPEED	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*SAME</u> , *OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
PVCID	PVC識別コード	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 仮想経路識別コード	0-7	
	要素 2: 仮想回線識別コード	32-4095	
USELECSADR	LECSアドレスの使用	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
LESATMADR	LES ATMアドレス	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク接頭部	16 進値	
	要素 2: 末端システム識別コード	16 進値	
	要素 3: セレクター・バイト	16 進値	
EMLLANNAME	エミュレートLAN名	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
LECDSTIMO	LEC切断タイムアウト	1-30, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200-603979776000, <u>*SAME</u> , 4M, 10M, 16M, 100M, *MIN, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SECURITY	回線の機密保護	*SAME, *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*SAME, *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *SAME	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *SAME	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *SAME	オプション
AUTOCTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, *NO, *SAME	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, *NONE, *SAME	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

その記述が表す、ハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCTYPEパラメーターで指定された値は、*NWSDCから別の値に、あるいは別の値から*NWSDCに変更することはできません。

*SAME

値は変更されません。

*NWID

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

*NWSID

資源名は使用されるネットワーク・サーバー記述によって判別されます。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。

- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

制御装置の最大数

1から256の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合には、このパラメーターに*NWIを指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

4M 回線速度は4M BPSです。

16M 回線速度は16M BPSです。

100M 回線速度は100M BPSです。

*AUTO

回線速度の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

***NWI** 使用される回線速度はネットワーク・インターフェース用です。

注: LINESPEED(*NWI)が有効となるのは、RSRCTYPE(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合だけです。

二重(DUPLEX)パラメーターに省略時の値があり、回線速度(LINESPEED)パラメーターが100Mまたは*NWIの場合には、このパラメーターは*NWIに設定されます。

上

二重 (DUPLEX)

ハードウェアがデータの送信と受信を同時に行うことができるかどうかを指定します。半二重モードでは、ハードウェアがデータの送信と受信を交互に切り替えなければなりません。全二重モードでは、データの送信と受信を同時に行うことができます。

*SAME

値は変更されません。

*HALF

回線は半二重モードを使用して通信します。

*FULL

回線は全二重モードを使用して通信します。

*AUTO

二重の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

注: 二重(DUPLEX)パラメーターに省略時の値があり、回線速度(LINESPEED)パラメーターが100Mまたは *AUTOの場合には、このパラメーターは *AUTOに設定されます。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

*SAME

値は変更されません。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。ネットワーク・インターフェースがフレーム・リレーの時には、有効なフレーム・サイズ (バイト数) の範囲は265 から8148バイトです。そうでない場合には、有効なフレーム・サイズ (バイト数) は265から16393バイトの範囲です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECフレーム・サイズ (LECFRAME)

この回線記述で送信および受信することができるLANエミュレーション・クライアント(LEC)フレーム・サイズを指定します。

注: MAXFRAMEは、常にこのフィールドより20は少なくなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

4544 LECフレーム・サイズは4544バイトです。

1516 LECフレーム・サイズは1516バイトです。

9234 LECフレーム・サイズは9234バイトです。

550 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

18190 LECフレーム・サイズは18190バイトです。

上

LAN管理機能の活動化 (ACTLANMGR)

この回線用にローカル・エリア・ネットワーク(LAN)マネージャーが活動化されるかどうかを指定します。

注:

1. RSRCTYPE(*NWID)が指定されている時には、ACTLANMGR(*YES)を指定しなければなりません。
2. ACTLANMGR(*NO)では、TRNLOGLVL, TRNMGRMODE, LOGCFGCHG,およびTRNINFBCNの値は無視されます。

*SAME

値は変更されません。

***YES** LANマネージャー・サポートがこの回線で活動化されます。

***NO** LANマネージャー・サポートはこの回線で活動化されません。

上

TRLAN管理機能ロギング・レベル (TRNLOGLVL)

TRLAN管理プログラムによって使用されるエラー・ログ・レベルを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)が指定された時には、TRNLOGLVL(*OFF)を指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

***OFF** 指定された回線でのエラーの報告はすべて停止されます。

***MIN** 性能低下を示す条件だけを報告する最小報告レベルが使用されます。

***MED** 最小報告レベルに加えて、潜在的な性能低下を示す条件を報告する中間報告レベルが使用されます。

***MAX** *MINおよび*MED報告レベルについて報告される情報を含む、すべてのエラー条件を報告する最大報告レベルが使用されます。

上

TRLAN管理機能モード (TRNMGRMODE)

この回線でどちらのモードのネットワーク管理機能を活動状態にするかを指定します。制御管理機能は、端末の除去および経路テストの実行など、監視管理機能では実行できない機能を実行することができます。

ただし、活動状態にできる制御管理機能は任意の1つのリングで1つだけです。

注: RSRCTYPE(*NWID)が指定された時には、TRNMGRMODE(*OBSERVING)を指定しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***OBSERVING**

この回線のマネージャーは、監視のネットワーク・マネージャーとして機能します。

***CONTROLLING**

この回線のマネージャーは、制御のネットワーク・マネージャーとして機能します。

上

構成変更ログ (LOGCFGCHG)

この回線のネットワーク管理機能が最も近い活動アップストリーム隣接(NAUN)に起こる変更を記録するかどうかを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)が指定された時には、LOGCFGCHG(*LOG)を指定しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***LOG** 回線マネージャーは変更をログに記録します。

***NOLOG**

回線マネージャーは変更をログに記録しません。

上

ビーコンのトークンリング通知 (TRNINFBCN)

ビーコン条件が起こった時にこの回線のネットワーク管理機能がメッセージをQSYSOPRメッセージ待ち行列に送るかどうかを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)を指定した場合には、TRNINFBCN(*YES)を指定する必要があります。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ビーコン状態が起こった場合には、この回線のマネージャーがQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送信します。

***NO** ビーコン状態が起こった場合に、この回線のマネージャーはQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送信しませんが、代わりに、QHSTログに項目をログに記録します。

上

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

ローカル・システムのトークンリング・アダプター・アドレスを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***ADPT**

この値はユーザーに対してこのトークンリング・アダプター・カードの事前設定のトークンリン

グ・アドレスを提供します。このアドレスは、正常にオンに構成変更した後この回線記述で回線記述表示(DSPIND)コマンドを実行することによって表示することができます。

注: RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合、あるいはRSRCNAME(*NWSD)が指定された場合には、この値は有効となりません。

ローカル・アダプター・アドレス

トークンリング・ネットワーク中のこのシステムを記述するためのユーザー選択のアダプター・アドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数の400000000000 から7FFFFFFFFFFFです。

上

機能分野アドレス (FCNADR)

トークンリング機能分野アドレスが使用されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

機能アドレスは使用されません。

機能アドレス

ビット有効値の形式でエンコードされる16進数の機能アドレスのグループを指定します。有効な値の範囲は16進数のC00000000001からC00040000000です。最初の桁はCでなければなりません。機能アドレスは固有なものでなければなりません。

活動状態のモニター

C00000000001

リング・パラメーター・サーバー

C00000000002

ネットワーク・サーバー・ハートビート

C00000000004

リング・エラー・モニター

C00000000008

構成報告書サーバー

C00000000010

同期帯域幅マネージャー

C00000000020

位置指定ディレクトリー・サーバー

C00000000040

NETBIOS

C00000000080

ブリッジ

C00000000100

IMPLサーバー

C00000000200

リング許可サーバー
C00000000400

LANゲートウェイ
C00000000800

リング集線接続
C00000001000

LANマネージャー
C00000002000

ユーザー定義
C00000004000からC00040000000

上

SSAPリスト (SSAP)

SSAP値、最大フレーム・サイズ、およびSSAPタイプが入っているソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)情報を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なソース・サービス・アクセス・ポイント値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSGEN

システムはソース・サービス・アクセス・ポイント04, 06またはAAを生成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- 伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。
- システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。
- ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。
- ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)印刷装置アプリケーションでは、SSAP 値に対しては16進数の12を、SSAPタイプには*NONSNAを指定します。

可能なSSAP最大フレーム・サイズの値は次の通りです。

*MAXFRAME

システムは、SSAP最大フレーム・サイズについてこのコマンドのMAXFRAMEパラメーターに指定された値を使用します。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ（送受信できるデータ・フィールドの最大サイズ）を指定します。RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合には、このパラメーターの有効な値の範囲は265から8148バイトです。その他の場合は、このパラメーターの有効な値の範囲は265から16393バイトです。

注：この値は、MAXFRAMEパラメーターに指定された値より大きくすることはできません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

*SNA 使用されるSSAPがSNA通信に使用されます。有効な値の範囲は4の倍数の16進数の04から9C（04, 08, 0Cなど）です。

*NONSNA

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は2の倍数の16進数の02からFE（02, 04, 06など）です。

*HPR SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

上

トークン早期解放 (ELYTKNRLS)

この回線でトークン早期解放オプションを使用するかどうかを指定します。

注：RSRCNAME(*NWID)を指定した場合には、ELYTKNRLS(*LINESPEED)を指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*LINESPEED

早期トークン解放オプションを使用するか否かについては、この回線のLINESPEEDパラメーターが選択します。

*YES この回線は早期トークン解放オプションを選択します。

*NO この回線は早期トークン解放オプションを選択しません。

上

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

このパラメーターおよびその値*SAME, *OFF, *MIN, *MED,および*MAXを指定することができますが、リリースV2R3M0で開始するシステムでは使用されません。このパラメーターは以降のリリースでは除去されます。

*SAME

値は変更されません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

PVC識別コード (PVCID)

このパーマネント・バーチャル・サーキットと関連した仮想パスIDと仮想回線IDの対を指定します。

*SAME

値は変更されません。

可能な仮想パスID値は次の通りです。

仮想パスID

仮想パスIDを表す番号を指定します。この番号は0から7の範囲内でなければなりません。

可能なバーチャル・サーキットIDの値は次の通りです。

バーチャル・サーキットID

バーチャル・サーキットIDを表す番号を指定します。この番号は32から4095の範囲内でなければなりません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECSアドレスの使用 (USELECSADR)

LANエミュレーション構成サーバー(LECS)を接続するリモートLANエミュレーション・サーバー(LES)アドレスを要求するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES LECSアドレスが使用されます。

*NO LECSアドレスは使用されません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LES ATMアドレス (LESATMADR)

リモートLANエミュレーション・サーバーのATMネットワーク・アドレスを指定します。

注: USELECSADR(*NO)を指定した場合には、このパラメーターを*NONEにすることはできません。

*SAME

値は変更されません。

可能な単一値は次の通りです。

***NONE**

ATMネットワーク・アドレスは使用されません。

可能なネットワーク接頭部の値は次の通りです。

ネットワーク接頭部

リモート・サーバーのATMアドレスのネットワーク接頭部を指定します。これは26桁の16進数値です。

可能な末端システムIDの値は次の通りです。

末端システムID

リモート・サーバーの末端システムIDを指定します。これは12桁の16進数値です。

可能なセクター・バイト値は次の通りです。

セクター・バイト

リモート・サーバーのセクター・バイトを指定します。これは2桁の16進数値です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)

エミュレートされたLAN名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

エミュレートされたLAN名は使用されません。

エミュレートされたLAN名

エミュレートされたLAN名を指定します。最大32文字まで指定できます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)

LANエミュレーション(LE)クライアントが別のクライアントへの遊休仮想回線接続を切断する前に待機する時間の長さ(分数)を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

LEクライアントは無制限に待機します。

LEC切断タイムアウト

別のクライアントとの遊休仮想回線接続を切り離す前に、LEクライアントが待機する分数を指定します。この値は1から30分の範囲内でなければなりません。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

値は変更されません。

4M リンク速度は秒当たり400万ビットです。

10M リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

16M リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M リンク速度は秒当たり1億ビットです。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は1200から603979776000 BPSです。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

*SAME

値は変更されません。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

*SAME

値は変更されません。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

*MAX 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

*SAME

値は変更されません。

*LAN ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

*TELEPHONE

電話回線を使用する伝搬遅延

*PKTSWTNET

パケット交換網を使用する伝搬遅延

*SATELLITE

衛星通信を使用する伝搬遅延

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

制御装置記述の自動作成 (AUTOCTRL)

着信の拡張対等通信ネットワーク(APPN)呼び出しをローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の周辺システムから受信する時に、システムが拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述を自動的に作成するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** この回線の制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** この回線の制御装置記述を自動的に作成します。

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

構成変更が自動的にオフになり、アイドル状態になっていた、自動的に作成された拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述(この回線と関連した)を削除する前に、システムが待機する分数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この回線の制御装置記述は自動的に削除されません。

制御装置の自動削除

1から10000分の範囲の値を指定します。 値1440は24時間です。

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔）です。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINTRN LIND(TRLAN1) MAXCTL(50)
```

このコマンドは、回線記述TRLAN1の制御装置の最大数を50に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

562 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更（無線）(CHGLINWLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の変更（無線）(CHGLINWLS)コマンドは、無線ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)回線の回線記述を変更します。

注: 拡張無線回線構成データは、それぞれINZFILEおよびINZMBRパラメーターで指定されたソース・ファイルおよびメンバーに入っています。この回線をオンに構成変更すると、この構成データが無線アダプターにダウンロードされます。INZPGM(QZXCINZ) およびINZFILE(QEWSRC)を使用し、INZMBRパラメーターに構成初期設定データが入っているソース・メンバーを指定することをお勧めします。拡張無線回線構成データのダウンロードの詳細については、AS/400 LAN,フレームおよびATMサポート (SD88-5012)を参照してください。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT, *SAME	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	020000000000-FEFFFFFFFF, *SAME, *ADPT	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 010000000000-FDFFFFFFFF	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, *SAME	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SAME, *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-1496, *MAXFRAME, 265, 521, 1033, 1466, 1493, 1496	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA	

キーワード	記述	選択項目	ノート
LINKSPEED	リンク速度	*SAME, *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, *SAME	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, *SAME	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*SAME, *NONSECURE, *ENCRYPTED	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*SAME, *LAN, *MIN, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *SAME	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *SAME	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *SAME	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, *NO, *SAME	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, *NONE, *SAME	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, *SAME, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前, *SAME, *NONE	オプション
INZPGM	初期設定プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定プログラム	名前, *SAME, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

自動呼び出し装置ポートを記述する資源名を指定します。資源名は入出力アダプター(IOA)の資源名とIOAのポート番号から構成されています。例えば、IOAの資源名がLIN01で、IOA上のポートが1の場合には、その資源名はLIN011となります。

*SAME

値は変更されません。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

- ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
- 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する

- 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*ADPT

事前設定の無線アダプター・アドレスがローカル・アダプター・アドレスとして使用されます。アダプター・アドレスは、正常にオンに構成変更した後に回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して表示することができます。

ローカル・アダプター・アドレス

ローカル無線アダプター・アドレスを指定して、事前設定のローカル・アドレスを上書きします。ローカル・アダプター・アドレスは個別アドレスでなければなりません（これはグループ・アドレスとすることはできません）。有効な値の範囲は020000000000からFFFFFFFFFFFFの16進数形式です。このアドレスの2桁目（左から）は2, 6, A,またはEでなければなりません。

上

グループ・アドレス (GRPADR)

アダプターを無線グループ・アドレスの一部として組み込むかどうかを指定します。このアドレスは、同じグループ・アドレスの無線ネットワーク上のすべてのアダプターを識別するために使用されます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

グループ・アドレスは使用されません。

グループ・アドレス

ローカル・アダプターを追加する宛先のアダプター・グループのアドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数形式の010000000000からFDFFFFFFFです。2桁目（左から）は奇数でなければなりません。すべてのグループ・アドレスは固有としなければなりません。

上

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

制御装置の最大数

1から256の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。

上

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ETHERNETバスから適切なユーザーに着信データを経路指定するために使用される16進数の論理アドレスです。各SSAPに、最大フレーム・サイズを指定することができます。

注: ETHERNETバージョン2 (ETHSTDパラメーターに*ETHV2として指定されている) では、06およびAAのSSAPの値を使用することはできません。

リモート制御装置で指定される宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)は、通信のために指定されたSSAPの1つと一致しなければなりません。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSGEN**

ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)の場合には、オペレーティング・システムは3つのSSAPを作成します。すなわち、SNAアプリケーションにSSAP 04、TCP/IPアプリケーションにAAおよび06です。ETHSTD(*ETHV2)では、システムはSNA用の16進数の04を作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

最大24のSSAPを指定し(TCP/IPの場合の16進数AAおよび06も含む)、SNAアプリケーションでは4で割りきれぬ16進数の04から9Cです。

SSAP値に可能なフレーム・サイズは次の通りです。

***MAXFRAME**

システムが送受信できる最大フレーム・サイズ(データ・フィールド・サイズ)を判別します。ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)を指定した場合には、*CALCがTCP/IPおよびSNA SSAP用に1496のフレーム・サイズを作成します。ETHSTD(*ETHV2)を指定した場合には、*CALCがSNA SSAP用に1493のフレーム・サイズを作成します。

SSAP最大フレーム

それぞれのSSAPの最大フレーム・サイズを指定します。最大フレーム・サイズの有効な値の範囲は265から1496です。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

***CALC**

システムが使用する値を判別します。

***SNA** SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は04から9Cで、4で割りきれれる値でなければなりません。

***NONSNA**

SNA通信以外の通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は02からFEで、2で割りきれれる値でなければなりません。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

4M 400万BPSのリンク速度が使用されます。

***MIN** 4M以下のリンク速度が使用されます。

***MAX** 4M以上のリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, および4Mです。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

***SAME**

値は変更されません。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

***SAME**

値は変更されません。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

回線の機密保護レベルを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターが有効なのは、システムで拡張対等通信ネットワーク(APPN)が使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上の隣接システムから呼び出しを受け取った時にシステムが自動的に制御装置記述を作成するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 着信呼び出しを受信した時に、システムは制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** 着信呼び出しを受信した時に、システムが制御装置記述を自動的に作成します。

上

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

自動的に作成された制御装置がアイドル状態（オンに構成変更された状態からオンへの構成変更保留状態に切り替えられた状態）のままでいられる時間（分数）を指定します。この時間が過ぎると、回線記述および接続されている装置記述がオフに構成変更されて削除されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

システムは、自動構成した遊休制御装置記述を自動的に削除またはオンに構成変更しません。

待機時間

この回線の自動的に構成された遊休制御装置記述を削除する前に待機する分数を指定します。有効な値の範囲は1から10,000分です。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

***SAME**

値は変更されません。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合、値0は時間無制限の回復を指定します。

可能な単一値の値は次の通りです。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

構成初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

注: このコマンド記述の始めに記述されている通り、拡張された無線回線構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

初期設定ファイル名は指定されません。

初期設定ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

名前 初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この回線記述をオンに構成変更する前に、ソース・ファイル名が追加されていない場合には、初期設定に現行IOPの省略時の値が使用されます。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

構成の初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

注: このコマンド記述の始めに記述されている通り、拡張された無線回線構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ソース・ファイル・メンバー名は指定されません。

名前 初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。この回線記述をオンに構成変更する前にソース・メンバー名が追加されていない場合には、初期設定に現行IOPの省略時の値が使用されます。

上

初期設定プログラム (INZPGM)

構成の初期設定データを管理するプログラムの名前を指定します。

注: 2663無線アダプターの場合は、INZPGM(QZXCINZ)を指定されるようお奨めします。INZFILEおよびINZMBRの値のこの結果は、回線がオンに構成変更された時に、拡張無線回線メンバーの変更(CHGEWLM)コマンドに渡されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

初期設定プログラム名は指定されません。

初期設定プログラム名は次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

名前 構成初期設定データを管理するプログラムの名前を指定してください。プログラム名を指定した場合には、この回線記述が作成される時にそれが呼び出されます。ソース・ファイルの名前および構成初期設定データを含むメンバーがパラメーターとしてこのプログラムに渡されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINWLS LIND(MYLINE) INZFILE(*LIBL/MYFILE) INZMBR(MBR1)
```

このコマンドは、MYLINEという名前の無線回線記述の構成初期設定データが入っているソース・ファイルおよびソース・メンバーを追加します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

回線記述の変更(X.25) (CHGLINX25)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

X.25回線記述の変更(CHGLINX25)コマンドにより、X.25回線の回線記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
LGLCHLE	論理チャネル項目	単一値: *SAME, *PROMPT その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 論理チャネル識別コード	文字値	
	要素 2: 論理チャネルのタイプ	*PVC, *SVCIN, *SVCBOTH, *SVCOUT	
NETADR	ローカル・ネットワーク・アドレス	文字値, *SAME	オプション
CNNINIT	接続開始	*SAME, *LOCAL, *REMOTE, *WAIT, *CALLER	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
SWTNWILST	交換NWIリスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: NWI記述	名前	
	要素 2: NWIチャネル・タイプ	*B	
	要素 3: NWIチャネル番号	1-30, *CALC	
X25DCE	X.25 DCEサポート	*SAME, *YES, *NO, *NEG	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LINESPEED	回線速度	<u>*SAME</u> , *CALC, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 12000, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 512000, 576000, 640000, 704000, 768000, 832000, 896000, 960000, 1024000, 1088000, 1152000, 1216000, 1280000, 1344000, 1408000, 1472000, 1536000, 1600000, 1664000, 1728000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000, 2048000	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *ALL その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
PKTMODE	パケット・モード	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
INFTRFTYPE	情報転送タイプ	文字値, <u>*SAME</u> , *UNRESTRICTED, *V110, *DOV, *SYNCMODEM	オプション
EXNNETADR	拡張ネットワーク・アドレス指定	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	<u>*SAME</u> , 1024, 2048, 4096	オプション
DFTPFSIZE	省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
MAXPKFSIZE	最大パケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *DFTPFSIZE, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *DFTPFSIZE, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
MODULUS	モジュラス	<u>*SAME</u> , 8, 128	オプション
DFTWDSIZE	省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *TRANSMIT	
ADRINSERT	パケットへネットワーク・アドレスの挿入	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
NETUSRID	ネットワーク・ユーザー識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	3-600, <u>*SAME</u>	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	0-64, <u>*SAME</u>	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*SAME</u> , *OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
CNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	<u>*SAME</u> , *NORMAL, *V54, *IBMWRAP	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	<u>*SAME</u> , *FULL, *HALF	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	<u>*SAME</u> , *BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTIN	着信接続リスト	名前, <u>*SAME</u> , *NETATR	オプション
AUTOANS	自動返答	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	<u>*SAME</u> , *NONE, *V25BIS	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CALLIMMED	即時呼び出し	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前, <u>*SAME</u>	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTDSCTMR	切断タイマー	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535, 170	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, 0	
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	1-60, <u>*SAME</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	<u>*SAME</u> , *DTR, *CDSTL	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>*SAME</u>	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	<u>*SAME</u> , 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
CLOCK	刻時	<u>*SAME</u> , *MODEM, *LOOP, *INVERT	オプション
LINKSPEED	リンク速度	<u>*SAME</u> , *INTERFACE, *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション
SWTNWISLCT	交換NWI選択	<u>*SAME</u> , *FIRST, *CALC	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SECURITY	回線の機密保護	*SAME, *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*SAME, *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *SAME	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *SAME	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *SAME	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。例えば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

その記述が表す、ハードウェアを識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

上

論理チャネル項目 (LGLCHLE)

X.25回線記述作成(CRTLINX25)またはX.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用する時に、論理チャネル・テーブルで最大256個までの項目が追加、除去、または変更されることを指定します。チャネル項目は、チャネルID、論理チャネルのタイプ、およびPVC制御装置から成っています。

注: パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)制御装置のある論理チャネル項目は追加、除去、または変更することはできません。

可能な論理チャネルIDの値は次の通りです。

*SAME

論理チャネル識別子用に001からFFFの範囲の3文字の16進数を指定します。最初の桁（左から右へ）は論理チャネル・グループ番号です。2番目と3番目の桁は論理チャネル番号を構成します。

可能なチャネルIDの値は次の通りです。

*PROMPT

*PROMPTを指定すると、現行の論理チャネル項目の処理に使用できる対話式表示が示されます。

チャネルID

論理チャネル識別子用に001からFFFの範囲の3文字の16進数を指定します。最初の桁（左から右へ）は論理チャネル・グループ番号です。2番目と3番目の桁は論理チャネル番号を構成します。論理チャネル識別子を指定します。有効な値の範囲は16進数の001からFFFです。

可能なチャネル・タイプ値は次の通りです。

***PVC** 論理チャネルはパーマネント・バーチャル・サーキットです。

*SVCIN

論理チャネルは着信呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

*SVCBOTH

論理チャネルは着信と発信の両方の呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

*SVCOUT

論理チャネルは発信呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

上

ローカル・ネットワーク・アドレス (NETADR)

このシステムのローカル・ネットワーク・アドレスを指定します。EXNNETADRパラメーターに*YESを指定した場合には、最大17桁までを指定することができます。そうでない場合には、最大15桁までを指定することができます。

*SAME

値は変更されません。

ローカル・ネットワーク・アドレス

ローカル・ネットワーク・アドレスを指定します。

上

接続開始 (CNNINIT)

X.25データ・リンク接続の確立のために使用される方法を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*LOCAL

ローカル・システムは、接続を確立するために非同期平衡モード設定(SABM)通信コマンドを出して接続を開始します。

*REMOTE

リモート・システムはSABM通信コマンドを出して接続を開始します。ローカル・システムは接続が確立されるのを待機します。

*WAIT

ローカル・システムは、リンクの活動化を試みる前に、DCEからの切断(DISC) または切断モード(DM)を待機します。

*CALLER

接続は、呼び出しの方向に基づいてローカル・システムまたはリモート・システムのいずれかから開始されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWIリスト (SWTNWILST)

ISDN/T1交換接続では、この回線を接続できるネットワーク・インターフェース記述のリストを指定します。ネットワーク・インターフェース記述は、着信または発信の呼び出しの処理の時に交換NWI選択パラメーター(SWTNWISLCT)によって指定された値に基づいてリストから選択されます。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

可能なネットワーク・インターフェース記述名値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク・インターフェース記述は指定されません。

名前 交換接続では、この回線を接続する先のネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル・タイプ値は次の通りです。

***B** Bチャンネルが使用されます。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル番号の値は次の通りです。

***CALC**

システムは、着信または発信呼び出しを処理する時に、ネットワーク・インターフェース記述に定義された30のチャンネル番号の1つを（可用性に基づいて）選択します。

NWIチャンネル番号

回線記述を制限するチャンネル番号(1から30)を指定します。

上

X.25 DCEサポート (X25DCE)

システムがX.25回線終端装置(DCE)サポートを通じて通信するかどうかを指定します。これによって、システムはX.25ネットワークを通さずに別のシステムと通信することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** システムはX.25 DCEサポートを介して通信しません。

***YES** システムはX.25 DCEサポートを介して通信します。

***NEG** オペレーティング・システムは、X.25 DCEサポートを介して通信するかどうかを、別のシステムと折衝します。この値を指定できるのは、交換回線の場合だけです。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメータは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

回線速度

回線速度に次の値(BPSで) の1つを指定します。

600	57600	576000	1152000	1728000
1200	64000	640000	1216000	1792000
2400	128000	704000	1280000	1856000
4800	192000	768000	1344000	1920000
7200	256000	832000	1408000	1984000
14400	320000	896000	1472000	2048000
19200	384000	960000	1536000	
48000	448000	1024000	1600000	
56000	512000	1088000	1664000	

上

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

最大64の交換非同期制御装置の名前を指定するか、あるいはX.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)との接続を確立できる交換非同期X.25制御装置の無制限数に対して*ALLを指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効となるのは、制御装置記述の作成(非同期)(CRTCTLASC)コマンドで作成した交換非同期X.25制御装置を接続するために回線を使用する場合だけです。CANNBR(*ANY)またはANSNBR(*ANY)を指定した制御装置を接続することによって、このリストの順序が変更される場合があります。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

値は変更されません。

*ALL 制御装置記述の作成(非同期)(CRTCTLASC)コマンドを使用して作成したすべてのX.25交換制御

装置、および交換回線リスト(SWTLINLST)パラメーターのこの回線記述のリストを使用して、X.25 交換制御装置(SVC)との接続を確立することができます。

***NONE**

交換非同期制御装置は指定されません。

名前 交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

パケット・モード (PKTMODE)

ISDNまたはT1仮想回線サービスをアクセスするかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ISDN/T1ネットワークを使用して、ISDN/T1に対しては外部のX.25パケット交換網への透過アクセスを提供します (ケースA)。

***YES** ISDN/T1バーチャル・サーキットサービスをアクセスします (ケースB)。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

情報転送タイプ (INFTRFTYPE)

情報転送タイプを指定します。情報転送タイプは層1プロトコルを判別します。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

***UNRESTRICTED**

データ・チャネル・トラフィックはデジタル情報として示されます。すなわち、物理変換は不要です。Bチャネルはそれぞれ64K BPSの容量で作動します。

***V110** 転送タイプはVシリーズの推奨事項110です。各Bチャネルは56K BPSで作動します。

***DOV** DATA OVER VOICE (DOV) デジタル・データをISDN/T1音声呼び出しを介して転送することができます。また、これは、DATA OVER VOICE BEARER SERVICE (DOVBS), DATA OVER SPEECH BEARER SERVICE (DOSBS), TOLLSAVER,またはTOLLMIZERとも呼ばれます。このオプションは、ISDN音声呼び出しがISDNデータ呼び出しより安価の場合、またはデータのベアラ・サービスが使用可能でない場合にだけ使用してください。また、リモート・ロケーションもこの機能をサポートしている必要があります。データは、各方向で56KBPSで転送されます。

***SYNCMODEM**

統合非同期モデムからのデータをISDN/T1音声呼び出しを介して転送することができます。アナログ電話回線で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するためには、このオプ

ションを使用する必要があります。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

上

拡張ネットワーク・アドレス指定 (EXNNETADR)

アドレス名で17桁使用できるように、ネットワークのアドレッシングを拡張するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ネットワーク・アドレスは最大15文字とすることができます。

***YES** ネットワーク・アドレスは最大17文字とすることができます。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

*SAME

値は変更されません。

最大フレーム

次の値の1つを指定します。すなわち、1024、2048、4096、8192、または16384 です。

上

省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

この回線で送信および受信用に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。指定する値はX.25ネットワークで使用される省略時の値と一致しなければなりません。

指定できる送信の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

128 省略時のパケット・サイズは128です。

送信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の送信用の省略時のパケット・サイズを指定します。制御装置コマンドは、この省略時の値を制御装置コマンドのDFTPKTSIZEパラメーターによって上書きします。パケット・サイズの有効な値は64、128、256、512、1024、2048、および4096です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

586 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

受信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の受信用の省略時のパケット・サイズを指定します。制御装置コマンドは、この省略時の値を制御装置コマンドのDFTPFSIZEパラメーターによって上書きします。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

上

最大パケット・サイズ (MAXPKTSIZE)

この回線での送信および受信用の最大パケット・サイズを指定します。この値はX.25ネットワークで送信および受信用にサポートされている最大パケット・サイズと一致しなければなりません。指定する値は、指定された省略時のパケット・サイズより小さくはなりません。

指定できる送信の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*DFTPFSIZE

送信用の最大パケット・サイズは送信用の省略時のパケット・サイズと同じです。

最大送信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の送信用のパケット・サイズを指定します。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*TRANSMIT

受信用の最大パケット・サイズは送信用の省略時のパケット・サイズと同じです。

*DFTPFSIZE

受信用の最大パケット・サイズは受信用の省略時のパケット・サイズと同じです。

最大受信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の受信用の省略時のパケット・サイズを指定します。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096です。

上

モジュラス (MODULUS)

拡張順序番号を使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

8 拡張順序番号は使用されません (モジュラス8)。

128 拡張順序番号が使用されます (モジュラス128)。

上

省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

この回線に接続される制御装置との送信および受信用の省略時のパケット・ウィンドウ・サイズを指定します。制御装置は、制御装置コマンドで **X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)**パラメーターを指定して、この省略時値を指定変更できます。

指定できる送信の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

2 省略時のパケット・ウィンドウ・サイズは2です。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されません。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

パケットへネットワーク・アドレスの挿入 (ADRINSERT)

システムが呼び出し要求パケットにローカル・ネットワーク・アドレスを挿入するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ローカル・ネットワーク・アドレスがパケットに挿入されます。

***NO** ローカル・ネットワーク・アドレスがパケットに挿入されません。

上

ネットワーク・ユーザー識別コード (NETUSRID)

交換回線の場合には、このパラメーターによって、ネットワーク加入者は、この回線のローカル・システムが送信したすべての呼び出し要求パケットに対してネットワーク・ユーザー識別(NUI)情報をNUI選択項目機能にエンコードすることを要求することができます。

*SAME

値は変更されません。

ネットワーク・ユーザーID

NUIを最大長214文字の16進数を指定します。

アイドル・タイマー (IDLTMR)

再送信前に送られた各フレームに対してネットワークからの肯定応答をシステムが待機する最大時間数(0.1秒間隔で)を指定します。

*SAME

値は変更されません。

遊休タイマー

3から600の範囲の値を指定します。それぞれの単位は0.1秒を表し、0.3から60秒の範囲のタイムアウト値を提供します。

フレーム再試行 (FRAMERTY)

1次回線、協定可能回線またはX.25回線の場合には、エラーを表示する前の、応答されなかったコマンド・フレームまたは肯定応答されなかった情報フレームの再試行回数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

フレーム再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

*SAME

値は変更されません。

***OFF** しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

***MAX** エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

接続番号 (C>NNNBR)

この回線と接続するために使用する番号を指定します。これはモデムによってダイヤル呼び出しされる電話番号です。最大32文字まで指定できます。

*SAME

値は変更されません。

接続番号

接続番号を指定します。

上

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された(接続)番号(C>NNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

上

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*SAME

値は変更されません。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストの実行は試みられません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された通り)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3(ローカル折り返し)およびループ2(リモート折り返し)をサポートします。

***IBMWRAP**

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

上

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FULL**

回線はそのモデムの全速度で作動します。

***HALF**

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

上

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換（非同期，BSC，SDLC，またはIDLC）回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ（非同期，BSC，またはSDLC）回線を使用するかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

上

注：このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続では、ISDNに対するダイヤルアウト操作のためにそのISDN割り当て番号を含む接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ダイヤルアウト操作のためにユーザー指定の接続リストは使用されません。OSI 通信サブシステムが導入されている場合には、接続リストは自動的に構成されます。

名前 ダイヤルアウト操作のための接続リストの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続では、ISDNに対してを呼び出しを行うために使用する接続リストから項目名を指定します。接続リストはCNLSTOUTパラメーターに指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

名前 接続リストから項目名を指定します。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

着信接続リスト (CNLSTIN)

ISDN交換接続では、許可された着信呼び出しの識別用の呼び出し情報（または接続）の検索に使用される接続リストの名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

この回線記述で使用される接続リストは、IPL（初期プログラム・ロード）時に識別したシステムの省略時ネットワーク属性のリストから取り出されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用して、接続リストの名前を調べることができます。

名前 この回線記述に使用される接続リストの名前を指定してください。

上

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

*SAME

値は変更されません。

***YES** 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

***NO** 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

***YES** 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

***V25BIS**

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: 有効であるのは、INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のaからz,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンバーサンド

アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロンの
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

上

即時呼び出し (CALLIMMED)

交換回線の場合に、回線がオンに構成変更された直後に(CNNBRパラメーターに指定された番号を使用している) 呼び出しが行なわれるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO システムはオンへの構成変更の後にただちに呼び出しを試みません。

*YES システムはオンへの構成変更の後にただちに呼び出しを試みます。

上

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。 ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

値は変更されません。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号のダイヤル呼び出しの前に待機する時間間隔を指定します。

*SAME

値は変更されません。

6 6の省略時の値は3秒の遅延を提供します。

ダイヤル前遅延

0から254単位の範囲の値を指定します。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254単位の範囲の値を指定します。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

0から254の範囲の値を指定します。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後のスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が削除されて交換回線切断タイマー(SWTDSCCTMR)が満了した時に、回線を除去するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 交換接続が除去されます。

***NO** 交換接続は除去されません。

上

切断タイマー (SWTDSCTMR)

交換X.25回線をネットワークまたはリモート・システムから切り離すために使用されるタイマーを指定します。最小接続タイマーは、システムが接続を活動状態のままにしておく最小の長さの時間を指定します。このタイマーは接続が確立された時に開始されます。切断遅延タイマーは、回線上に活動中のSVCがない時、あるいは最後のSVCが完了して**最小接続タイマー**が満了した時に、交換接続の切断を試みる前にシステムが待機する時間の長さを指定します。

可能な**最小接続タイマー**値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

最小接続タイマー

0から65535秒の範囲の値を指定します。

可能な**切断遅延タイマー**値は次の通りです。

切断遅延タイマー

0から65535秒の範囲の値を指定します。

上

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

切断タイマー

1から60秒の範囲の値を指定します。

上

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

上

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

上

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

*SAME

値は変更されません。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

上

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*MODEM

モデムが刻時機能を提供します。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時のDCEモデムにループバックされます。モデムDCEがこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を改善することができます。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されます。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERTで有効なインターフェースは*X21、*X21BISV35,および*RS449V36です。

上

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

***INTERFACE (SDLCおよびX.25のみ)**

リンク速度は物理インターフェース・タイプに基づいたものになります。すなわち、RS-232/V.24およびX.21 BIS/V.24では9600 BPSとなり、V.35およびX.21 BIS/V.35では48000 BPSとなり、また、X.21では64000 BPSとなります。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値は次の通りです。すなわち、1200,2400,4800,7200,9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M,および16Mです。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWI選択 (SWTNWISLCT)

交換網インターフェース・リストからネットワーク・インターフェースを選択するために使用される方式を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FIRST**

選択は、交換網インターフェース・リストに指定された最初のネットワーク・インターフェースから開始します。

***CALC**

選択されるネットワーク・インターフェースをシステムが計算します。

上

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***CNN (SDLCおよびIDLCのみ)**

接続時間当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合のみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

1バイト当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

*MAX 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

上

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

*SAME

値は変更されません。

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

*LAN ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

*TELEPHONE

電話回線を使用する伝搬遅延

*PKTSWTNET

パケット交換網を使用する伝搬遅延

*SATELLITE

衛星通信を使用する伝搬遅延

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

上

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔）です。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGLINX25 LIND(X251) LGLCHLE(*PROMPT) MAXPKTSIZE(512)
```

このコマンドは、すべての現行論理チャネル項目をリストする対話式画面を表示し、これらの項目を変更できるようにします。最大パケット・サイズは512バイトに変更されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF261E

回線記述&1は変更されなかった。

上

管理コレクションの変更 (CHGMGTCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

管理収集変更(CHGMGTCOL)コマンドは、指定された管理収集オブジェクトの属性を変更します。

制約事項:

- 管理収集オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- 管理収集オブジェクトには、*PFR, *PFRHST,または*PFRDTLのいずれかの属性が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MGTCOL	管理コレクション	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 管理コレクション	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	
EXPDATE	満了日	日付, *SAME, *PERM	オプション

上

管理コレクション (MGTCOL)

変更される管理収集オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 管理コレクション

オブジェクト名

管理収集オブジェクトの名前を指定します。管理収集オブジェクトには、*PFR, *PFRHST,または*PFRDTLのいずれかの属性が必要です。

修飾子2: ライブラリー

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、管理収集オブジェクトを見つけるのに使用されます。

名前 管理収集オブジェクトのライブラリーの名前を指定してください。

上

満了日 (EXPDATE)

管理収集オブジェクトの新規有効期限を指定します。

*SAME

管理収集オブジェクトの満了日は変更されません。

*PERM

管理収集オブジェクトは満了となりません。

日付 管理収集オブジェクトが削除される日付を指定してください。値に日付区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲む必要があります。

上

例

```
CHGMGTCOL  MGTCOL(MYLIB/Q099365001) EXPDATE('053006')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のQ099365001という名前の管理収集オブジェクトの満了日を2006年5月30日に変更します（ジョブ日付の形式が*MDYであると想定）。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF0AAB

管理収集の変更(CHGMGTCOL)コマンドでエラーが発生しました。

CPF0AAC

管理収集の変更(CHGMGTCOL)コマンドでエラーが発生しました。

上

メニュー変更 (CHGMNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー変更(CHGMNU)コマンドは、次のものを変更するために使用することができます。

- 現行ライブラリーおよびメニューのプロダクト・ライブラリー
- 表示装置ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- メッセージ・ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- 長いコマンド入力行, 短いコマンド入力行, またはコマンド入力行以外 (オプション行) のいずれかが表示装置ファイル・メニューに表示されるかどうか
- 表示装置ファイル・メニューに, 活動状態の機能キーの説明を表示するかどうか
- プログラム・メニューのプログラム名およびライブラリー
- メニューのテキスト記述

制約事項:

- メニュー・オブジェクトに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限と, メニュー・オブジェクトが入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DSPF	表示装置ファイル	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 表示装置ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGF	メッセージ・ファイル	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CMDLIN	コマンド入力行	*SAME, *LONG, *SHORT, *NONE	オプション
DSPKEY	機能キーの表示	*SAME, *NO, *YES	オプション
PGM	プログラム	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME, *NOCHG, *MNULIB, *CRTDFT	オプション
PRDLIB	実行ライブラリー	名前, *SAME, *NOCHG, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

メニュー (MENU)

変更するメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

名前 メニュー・オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メニューを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メニューが入っているライブラリーを指定してください。

上

表示装置ファイル (DSPF)

メニューに使用する表示装置ファイルを指定します。この表示装置ファイルには、メニュー様式と呼ばれる、表示装置ファイル自体と同じ名前の1つのレコード様式が含まれていなければなりません。ファイルにはヘルプ様式も含めることができます。

ヘルプ様式は、命名規則#HXXYYに従っています。ここで、XXはヘルプ様式が適用される最初のメニュー・オプションであり、YYはその最後のメニュー・オプションです。(例えば、#H0306はメニュー・オプションの3から6までに適用されます。) #H0000は、メニューの一般ヘルプを指定します。

このパラメーターを指定できるのは、メニュー作成(CRTMNU)コマンドのメニュー・タイプ (TYPE)パラメーターに*DSPFを指定してメニューが作成された場合だけです。

単一値

*SAME

表示装置ファイル名およびライブラリーは変更されません。

修飾子1: 表示装置ファイル

名前 使用する表示装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

表示装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリー使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 表示装置ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

メニュー・オプションの選択時に実行するコマンドの入ったメッセージ・ファイルを指定します。このファイル中のメッセージのMSGIDはUSRXXXXの書式になります。ここで、XXXXはコマンド入力行に入力されたメニュー・オプションの番号です。

このパラメーターを指定できるのは、メニュー作成(CRTMNU)コマンドの**メニュー・タイプ (TYPE)**パラメーターに*DSPFを指定してメニューが作成された場合だけです。

単一値

SAME

メッセージ・ファイル名およびライブラリーは変更されません。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 使用するメッセージ・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリー使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

コマンド入力行 (CMDLIN)

長いコマンド入力行を使用するか、短いコマンド入力行を使用するか、それともコマンド入力行（オプション行）を使用しないかを指定します。

このパラメーターを指定できるのは、メニュー作成(CRTMNU)コマンドの**メニュー・タイプ (TYPE)**パラメーターに*DSPFを指定してメニューが作成された場合だけです。

SAME

コマンド入力行またはオプション行が同じままです。

***LONG**

153バイトの長さのコマンド入力行が使用されます。

***SHORT**

73バイトの長さのコマンド入力行が使用されます。

***NONE**

コマンド入力行は使用されません。 4バイトのオプション行が使用されます。

上

機能キーの表示 (DSPKEY)

メニューを表示する時に、機能キーの凡例をメニューの下部に表示するかどうかを指定します。

このパラメーターを指定できるのは、メニュー作成(CRTMNU)コマンドの**メニュー・タイプ (TYPE)**パラメーターに***DSPF**を指定してメニューが作成された場合だけです。

***SAME**

機能キーの凡例は変更されません。

***NO** 機能キーの凡例は画面の下部に表示されません。

***YES** 機能キーの凡例が画面の下部に表示されます。

上

プログラム (PGM)

メニューの表示時に呼び出すプログラムを指定します。

このパラメーターを指定できるのは、メニュー作成(CRTMNU)コマンドの**メニュー・タイプ (TYPE)**パラメーターに***PGM**を指定してメニューが作成された場合だけです。

単一値

***SAME**

プログラムおよびライブラリーは変更されません。

修飾子1: プログラム

名前 呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**が使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

上

現行ライブラリー (CURLIB)

メニューの実行時に現行ライブラリーとして使用されるライブラリーを指定します。

***SAME**

メニューの現行ライブラリーは変更されません。

***NOCHG**

このメニューの処理によって現行ライブラリーが変更されることはありません。

***MNULIB**

現行ライブラリーは、メニューの表示中にはそのメニューが入っているライブラリーに変更されません。

***CRTDFT**

メニューの表示中に、現行ライブラリーがありません。メニューが表示される前に活動状態であった現行ライブラリー（それがあった場合）は、そのメニューの終了後に復元されます。

名前 メニューの表示時に現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

上

実行ライブラリー (PRDLIB)

メニューの実行時にプロダクト・ライブラリーとして使用されるライブラリーを指定します。

注: コマンドまたはメニューのプロダクト・ライブラリーは、コマンドまたはメニューが活動状態の間、別のコマンドまたはメニューでそのプロダクト・ライブラリーが変更されない限り、ライブラリー・リスト内に残されます。プロダクト・ライブラリーを変更したコマンドまたはメニューが終了すると、プロダクト・ライブラリーはそのコマンドまたはライブラリーを開始した時のものに復元されます。

***SAME**

メニューのプロダクト・ライブラリーは変更されません。

***NOCHG**

プロダクト・ライブラリーは、メニューの表示時に変更されず、メニューの終了後も復元されません。

***NONE**

メニューの表示中に、ライブラリー・リストのプロダクト・ライブラリー項目は使用されません。

名前 メニューの表示中にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

記述テキストは変更されません。

***BLANK**

メニューにはテキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

CHGMNU MENU(ARLIB/ARPER) PGM(ARLIB/PERSLIST)

このコマンドは、ライブラリーARLIBに入っている名前ARPERというメニューが実行される時に呼び出されるプログラムを変更します。メニューは、これもライブラリーARLIBに入っている名前PERSLISTというプログラムを呼び出すこととなります。

ここでPGMパラメーター指定するためには、メニュー作成(CRTMNU)コマンドにTYPE(*PGM)を指定してメニュー(ARPER)が作成されていなければならないことに注意してください。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6ACD

&2のメニュー&1がシステムのバージョンと違っている。

CPF6AC2

ライブラリー&2のメニュー&1は変更されなかった。

上

モジュールの変更 (CHGMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュールの変更(CHGMOD)コマンドは、モジュールのコンパイルをし直す必要なく、モジュール・オブジェクトの属性を変更します。

制約事項:

- モジュールがあるライブラリーに対して使用(*USE)権限が必要です。
- 変更するモジュールに対する*USEおよびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
- 最適化属性、パフォーマンス収集属性、またはプロファイル・データ属性を変更するか、あるいはモジュールの再作成を強制するためには、そのライブラリーに対する*USE,追加(*ADD),および削除(*DLT)権限が必要です。
- ライブラリーQSYSのモジュールは変更することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *USRLIBL, *LIBL	
OPTIMIZE	モジュールの最適化	*SAME, *FULL, *BASIC, *NONE, 40, 30, 20, 10	オプション
RMVOBS	識別情報の除去	単一値: *SAME, *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *CRTDTA, *DBGDTA, *ILDTA	オプション
PRFDTA	プロファイリング・データ	*SAME, *NOCOL, *COL	オプション
FRC CRT	モジュールの強制再作成	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
LICOPT	LICオプション	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オプション	文字値	
	要素 2: 処置	*REPLACE, *ADD	
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能	単一値: *SAME, *NONE, *PEP その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 収集レベル	*FULL, *ENTRYEXIT	
	要素 2: プロシージャー	*ALLPRC, *NONLEAF	

上

モジュール (MODULE)

属性を変更するモジュールを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

***ALL** 指定したライブラリーで、ユーザーに特定の権限があるすべてのモジュールが変更のために選択されます。

総称名 変更するモジュールの総称名を指定してください。総称名は1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて複数のライブラリーが検索される場合に、複数のオブジェクトを変更できるのは、名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を指定できる場合だけです。

名前 変更するモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 モジュールが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

モジュールの最適化 (OPTIMIZE)

モジュール内に生成されるコードに対して最適化レベルを指定します。モジュールの最適化レベルを変更すると、モジュールはシステムによって新しい最適化レベルで再作成されます。

*SAME

モジュール最適化レベル属性は変更されません。

***NONE**または**10**

生成されたコードに追加の最適化は実行されません。デバッグ時に変数を表示して変更することができます。

***BASIC**または**20**

コードに一部の最適化が実行されます。デバッグ時に変数を表示することはできますが、変更することはできません。

***FULL**または**30**

生成されたコードに、最適化レベル20で実行されるものほかに、さらに最適化が実行されます。デバッグ時に変数を表示することはできますが、変更することはできません。

注: デバッグ中に表示される変数の値は、その変数の現在の値でないことがあります。

- 40 このレベルには、最適化レベル30で実行されるすべての最適化が含まれます。さらに、呼び出しおよび命令のトレースを使用不能にする最適化も含まれます。最適化レベル40を指定してモジュールのトレースを実行することはできません。

上

識別情報の除去 (RMVOBS)

モジュールと関連した識別情報を除去するかどうか指定します。

*SAME

値は変更されません。

- *ALL デバッグ・データ(*DBGDTA), CHGMODを使用してモジュールを再作成するために必要な情報(*CRTDTA),および中間言語データ(*ILDTA)を除去します。

注: モジュールがプロファイル・データを収集できる場合には、*ALLを指定できません。

*DBGDTA

モジュールのデバッグを可能にするために必要な情報が除去されます。モジュールがプログラム内またはサービス・プログラム・オブジェクト内に入っている時には、そのモジュールを除去することはできません。

*CRTDTA

CHGMODを使用したモジュールの再作成を許可するか、最適化レベルを変更するか、パフォーマンス収集属性を変更するか、あるいはプロファイル・データ属性を変更するために必要な情報が除去されます。注:

- モジュールがプロファイル・データを収集できる場合には、*CRTDTAを指定できません。
- 作成データ（識別可能または識別不能）は、たとえば、CISC（複合命令セット・コンピューター）テクノロジーとRISC（縮小命令セット・コンピューター）テクノロジーの間など、モジュールを別のハードウェア・テクノロジーに変換するために必要です。
- リリースV5R1M0以降用に作成されたモジュール（モジュール作成時のTGTRLSパラメーター）には、*ALLまたは*CRTDTA識別情報が除去されていたとしても識別不能作成データが含まれません。

*ILDTA

中間言語データが除去されます。

*NONE

モジュールと関連した識別情報は除去されません。

上

プロファイリング・データ (PRFDTA)

モジュールのプログラム・プロファイル・データ属性を指定します。プログラム・プロファイルは、統計データ（プロファイル・データ）に基づいてプロシージャーとプロシージャー内のコードを再順序付けする拡張最適化手法です。

*SAME

値は変更されません。

***NOCOL**

このモジュールは、プロファイル・データを収集できません。

***COL** このモジュールは、プロファイル・データを収集できます。

注: モジュールの最適化レベルが*FULL (30)以上の時には、*COLを指定することができます。

上

モジュールの強制再作成 (FRCCRT)

モジュールの再作成を強制するかどうかを指定します。

***NO** 最適化レベル(OPTIMIZE),可能なパフォーマンス収集(ENBPFCOL),またはプロファイル・データ (PRFDTA)パラメーターが変更されないかぎり、モジュールの再作成は強制されません。これによって、変更が必要かどうかをシステムで判別することができます。

***YES** モジュールの再作成が強制されます。 識別可能作成データが除去されてしまうと、再作成 (強制または非強制) は許可されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

モジュールおよびその機能を簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

モジュールのテキスト記述は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

LICオプション (LICOPT)

ライセンス内部コードの個々のコンパイル時オプションが選択されることを指定するのものです。選択されたそれぞれのコンパイラ・オプションの潜在的な利点と欠点を理解した上級プログラマーを対象にしています。 統合言語環境(ILE)モジュールのライセンス内部コード・オプションを*SAME以外の値に変更すると、システムはILEモジュールを再作成します。注: LICOPTオプションについての詳細は、ILE概念 (SD88-5033)にあります。

要素1: オプション

***SAME**

モジュール・オブジェクトが再作成される場合には、既存のライセンス内部コード・コンパイル時オプションがオブジェクト再作成のための入力となります。そうでない場合には、ライセンス内部コードのコンパイル時オプションは変更されません。

***NONE**

モジュールの再作成が強制され、ライセンス内部コード・オプションは使用されません。

文字値 1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定してください。統合言語環境(ILE)モジュールのライセンス内部コード・オプションを変更すると、システムはILEモジュールを再作成します。

要素2: 処置

*REPLACE

モジュールの既存のライセンス内部コード・オプションは、指定した値で置き換えられます。

***ADD** 指定したライセンス内部コード・オプションは、モジュールの既存のライセンス内部コード・オプション・ストリングの終わりに追加されます。ライセンス内部コード・オプション値の間の矛盾は、最後に指定した値が優先されることで解決されます。

上

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)

このパラメーターは廃止されました。

上

例

例1:最大パフォーマンスの最適化

```
CHGMOD  MODULE(XYZ/PERFMOD)  OPTIMIZE(40)
```

このコマンドは、ライブラリーXYZ内のモジュールPERFMODを最適化して、最適パフォーマンスを保証します。

例2:プログラム識別情報のすべてを除去

```
CHGMOD  MODULE(XYZ/NOOBSERV)  RMVOBS(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのプログラム識別情報をライブラリーXYZ内のモジュールNOOBSERVから除去します。プログラムまたはプログラム・オブジェクトに含まれている場合は、再作成することができず、さらにデバッグすることができません。

例3:プロファイル作成データの収集の使用可能化

```
CHGMOD  MODULE(XYZ/PROFMODE)  OPTIMIZE(30)  PRFDTA(*COL)
```

このコマンドは、プログラムまたはサービス・プログラム・オブジェクトに含まれている場合は、ライブラリーXYZ内のモジュールPROFMODEがプロファイル・データを収集できるようにします。モジュールがプロファイル・データを収集できるようにするには、最適化レベルは30以上にする必要があります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5CFA

ライブラリーQSYSのモジュールを変更することはできない。

CPF5CFB

モジュールは変更されない。

CPF5CFC

&1が変更された。&2は変更が不要です。&3は変更されていません。

CPF5CFE

ライブラリー&2のモジュール&1は変更されない。

CPF5CFF

ライブラリー&2のモジュール&1は変更されない。

CPF5CF7

*USRLIBLまたは*LIBLを総称モジュール名または*ALLと一緒に使用することはできない。

CPF5CF8

ライブラリー&2のモジュール&1は変更されない。

CPF5CF9

ライブラリー&2のモジュール&1は変更されない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9818

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9819

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9828

ライブラリー&2のモジュール&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

モード記述変更 (CHGMODD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述変更(CHGMODD)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置のモード記述を変更します。APPCサポートには、システム・ネットワーク体系(SNA) が使用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODD	モード記述	名前	必須, キー, 定位置 1
COS	サービス・クラス	通信名, *SAME, #CONNECT, #BATCH, #INTER, #BATCHSC, #INTERSC	オプション
MAXSSN	最大セッション	1-512, *SAME	オプション
MAXCNV	会話の最大数	1-512, *SAME	オプション
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション数	0-512, *SAME	オプション
PREESTSSN	事前結合セッション数	0-512, *SAME	オプション
MAXINPAC	最大インバウンド・ペーシング値	1-32767, *SAME, *CALC	オプション
INPACING	インバウンド・ペーシング値	0-63, *SAME	オプション
OUTPACING	アウトバウンド・ペーシング値	0-63, *SAME	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	241-32767, *SAME, *CALC	オプション
DTACPR	データ圧縮	1-2147483647, *SAME, *NETATR, *NONE, *ALLOW, *REQUEST, *REQUIRE	オプション
INDTACPR	インバウンド・データの圧縮	*SAME, *RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
OUTDTACPR	アウトバウンド・データの圧縮	*SAME, *RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
SLE	セッション・レベル暗号	*ALL, *NONE, *SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

モード記述 (MODD)

モード記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

これは必須パラメーターです。

サービス・クラス (COS)

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)によって使用される経路制御ネットワーク特性（サービス・クラス記述によって表される）を指定します。

- #CONNECT
- #BATCH
- #INTER
- #BATCHSC
- #INTERSC

サービス・クラス名

サービス・クラス名を指定します。

注: APPCのモードを使用している場合には、サービス・クラス名は無視されます。

*SAME

値は変更されません。

最大セッション (MAXSSN)

このモードに対して確立される活動セッションの最大数を指定します。この数は、**ローカル制御セッション数**プロンプト(LCLCTLSSN)で指定されるローカル制御セッション数と、リモート・ロケーションで指定されるローカル制御セッション数との合計より大きいか等しくなければなりません。

セッションの最大数

セッションの最大数を指定してください。

有効な値の範囲は1から512です。

*SAME

値は変更されません。

会話の最大数 (MAXCNV)

リモート・システムと同時に確立できる会話の最大数を指定します。会話の最大数は、同期会話と非同期会話の合計です。この値は、**最大セッション**プロンプト (MAXSSNパラメーター) で指定された値より大きいか等しくなければなりません。同期会話は、ソース・プログラムとターゲット・プログラムの両方が通信を行なっている会話です。非同期会話は、ソース・プログラムは会話から切り離されたが、ターゲット・プログラムはまだデータを読み取っている会話です。

会話の最大数

会話の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1から512です。

*SAME

値は変更されません。

ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)

このモードを確立するために活動状態でなければならないローカル制御セッションの最小数を指定します。この値は、**最大セッションプロンプト**(MAXSSNパラメーター)に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

ローカル制御セッション

ソース・セッションとして使用されるローカル制御セッションの数を指定してください。有効な値の範囲は0から512です。

*SAME

値は変更されません。

事前結合セッション数 (PREESTSSN)

モードが開始された時に確立されるローカル制御セッションの最大数を指定します。追加のセッションは、必要に応じて、**最大セッションプロンプト**(MAXSSNパラメーター)に指定されたローカル制御セッションの最大数まで確立されます。この値は、**ローカル制御セッション数プロンプト**(LCLCTLSSNパラメーター)に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

確立セッションの数

モードが開始された時に確立される並行ローカル制御セッションの最大数を指定してください。有効な値の範囲は0から512です。

*SAME

値は変更されません。

最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用される最大SNAペーシング値を指定します。**ペーシング**は、送信システムの伝送速度を制御してデータの消失を防止するために、受信システムで設定されます。

注: 最適な速度が得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*SAME

値は変更されません。

*CALC

システムが使用する値を判別します。この値は、INPACINGパラメーターに指定された値の2倍である2*INPACINGとなるように計算されます。

最大インバウンド・ペーシング

最大インバウンド・ペーシング値として、1から32767 RUの範囲の値を指定してください。

インバウンド・ペーシング値 (INPACING)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用されるシステム・ネットワーク体系(SNA)ペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

インバウンド・ペーシング

限定値として使用される0から63の値を指定してください。

*SAME

値は変更されません。

上

アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)

発信要求単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

アウトバウンド・ペーシング

限定値として使用される0から63の値を指定してください。

*SAME

値は変更されません。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

注: 最適な長さが得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

要求単位の最大長

着信要求単位に、241から32767バイトの範囲内の、最大長の値を指定してください。

その他の共通の値は、次の通りです。

- SDLC回線 : 256, 512, 1024, 2048
- トークンリング・ネットワーク回線: 256, 512, 1024, 1985
- X.25 (QLLC)回線 : 247, 503, 1015
- X.25 (ELLC)回線 : 241, 497, 1009

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

*SAME

値は変更されません。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

DTACPRネットワーク属性からの値が使用されます。

*NONE

セッションで圧縮を使用することはできません。

*ALLOW

リモート・システムによって要求された場合には、データ圧縮をローカル・システムによるセッションで使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合、セッションで使用されるデータ圧縮レベルはより低い要求レベルになり、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)で指定されたレベルになります。

*REQUEST

データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、この要求は、リモート・システムによって拒否されるか、あるいはより低い圧縮レベルに変更される場合があります。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。インバウンドおよびアウトバウンド・データ用に要求される圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

*REQUIRE

データ圧縮がセッションに必要です。リモート・システムがローカル・システムに必要な正確なレベルの圧縮を受け入れない場合には、セッションは確立されません。

ローカル・システムが必要とするデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されているレベルです。

回線速度

データが圧縮される最高回線速度を指定してください。セッションで使用されるリンクの回線速度が指定したこの回線速度より小さいか等しい場合には、*REQUESTが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。そうでない場合には、*ALLOWが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。有効な値の範囲は1から2147483647ビット/秒(BPS)です。

上

インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)

インバウンド・データに所要の圧縮レベルを指定します。データ圧縮プロンプト(DTACPRパラメーター)に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

注: 最適のディクショナリー基本圧縮は動的圧縮アルゴリズムであり、LEMPERL-ZIVと類似していて、前に表示されたストリングを9ビット、10ビット、および12ビット・コードに圧縮します。このアルゴリズムは次のパラメーターでLZとして参照されます。

***SAME**

値は変更されません。

***RLE** ラン・レンジス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。

***LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。

***LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく圧縮します。

***LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。

***NONE**

圧縮は起こりません。

上

アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)

アウトバウンド・データに所要の圧縮レベルを指定します。データ圧縮プロンプト(DTACPRパラメーター)に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

***SAME**

値は変更されません。

***RLE** ラン・レンジス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。

***LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。

***LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用

されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。 LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。 LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なく済みます。 LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく圧縮します。

***LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。 LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。 LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。

***NONE**

圧縮は起こりません。

上

セッション・レベル暗号 (SLE)

セッション暗号化の所要のレベルを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

データの暗号化または暗号解読は行われません。

***ALL** すべてのデータは、ネットワークに送信される前に暗号化され、ネットワークから受信された時に復号化されます。

注: セッション・レベルで暗号化を使用するためには、IBM共通のI5/OS暗号化アーキテクチャー・サービスが、暗号化プロセッサ機構または暗号化プロセッサ商用機構とともに導入されていない必要があります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

***SAME**

値は変更されません。

上

例

CHGMODD MODD(MODE1) PREESTSSN(3)

このコマンドは、MODE1の事前確立セッションの数を3に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF262D

モード記述&1は変更されなかった。

上

メッセージ記述変更 (CHGMSGD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ記述変更(CHGMSGD)コマンドは、メッセージ・ファイルに保管されている既存のメッセージ記述を変更し、後からの使用に備えてそれらの変更をそのメッセージ・ファイルに保管します。ファイルが削除されるか、メッセージ記述除去(RMVMSGD)コマンドを使用してファイルからメッセージを除去するか、メッセージ記述変更(CHGMSGD)コマンドによってメッセージに対する別の変更が行われるまで、メッセージ記述はメッセージ・ファイルの中に残ります。

メッセージが照会メッセージまたは通知メッセージとして送られ、応答が必要である場合は、次の妥当性検査パラメーターを使用して、受け取った応答を検査するいくつかの要件を指定することができます。

- 応答タイプ (TYPE)パラメーター。
- 最大応答の長さ (LEN)パラメーター。
- 有効な応答値 (VALUES)パラメーター。
- 特殊応答値 (SPCV)パラメーター。
- 応答値の範囲 (RANGE)パラメーター。
- 有効な応答の関係 (REL)パラメーター。
- 省略時応答値 (DFT)パラメーター。

これらのパラメーターは、メッセージが応答を許容するのに必要ではありませんが、メッセージに対して行う有効な応答を定義するのに使用できます。

注意：CPX7B00からCPX7BFFの範囲（警報処理から送られたメッセージ）の警報オプションを指定すると、予測できない結果を生じる恐れがあります。

制約事項:メッセージ・ファイルの中のメッセージ記述を変更するには、メッセージ・ファイルに対する変更(*CHANGE)権限、およびそのファイルが入っているライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, 定位置 1
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSG	第1 レベル・メッセージ・テキスト	文字値, *SAME	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノート
SECLVL	第2 レベル・メッセージ・テキスト	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE, X''	オプション, 定位置 4
SEV	重大度コード	0-99, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 5
FMT	メッセージ・データ・フィールド形式	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 99 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: データ・タイプ	*QTDCHAR, *CHAR, *HEX, *SPP, *DEC, *BIN, *UBIN, *CCHAR, *UTC, *UTCD, *UTCT, *DTS, *SYP, *ITV	
	要素 2: 長さ	整数, <u>*VARY</u>	
	要素 3: *VARYバイト数か小数部分の桁数	整数, <u>0</u>	
TYPE	応答タイプ	<u>*SAME</u> , *NONE, *CHAR, *DEC, *ALPHA, *NAME	オプション
LEN	最大応答の長さ	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *TYPE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 長さ	整数	
	要素 2: 小数点以下の桁数	整数	
VALUES	有効な応答値	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 文字値	オプション
SPCVL	特殊応答値	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 元の開始値	文字値	
	要素 2: 置き換え終了値	文字値	
RANGE	応答値の範囲	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 下限値	文字値	
	要素 2: 上限値	文字値	
REL	有効な応答の関係	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 比較演算子	*EQ, *LE, *GE, *GT, *LT, *NE, *NL, *NG	
	要素 2: 値	文字値	
DFT	省略時応答値	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
DFTPGM	呼び出す省略時プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 呼び出す省略時プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
DMPLST	ダンプするデータ	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 102 回の繰り返し): 1-99, *JOB, *JOBINT, *JOBDMPL	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ALROPT	警報オプション	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 警報タイプ	文字値, *IMMED, *DEFER, *UNATTEND, *NO	
	要素 2: 資源名変数	1-99, *NONE	
LOGPRB	問題ログ	*SAME , *NO, *YES	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *SAME, *HEX, *JOB	オプション

上

メッセージ識別コード (MSGID)

変更中のメッセージのメッセージIDを指定します。メッセージIDは、7文字の長さで、次の形式でなければなりません。PPPNNNN

最初の3文字(PPP)は、1桁の英字とその後に続く2桁の英数字（英字または数字）文字から構成されるコードでなければなりません。最後の4文字(NNNN)は、0から9の10進数とAからFの文字で構成しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

変更するメッセージ記述が保管されているメッセージ・ファイルを指定します。このコマンドは、ジョブに関して有効となっているメッセージ・ファイル一時変更を無視します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 メッセージ記述が保管されているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

第1 レベル・メッセージ・テキスト (MSG)

メッセージの新しいテキストを指定します。

*SAME

メッセージ・テキストは変更されません。

メッセージ・テキスト

最初に表示、印刷、あるいはプログラムまたはログに送られるメッセージのテキストを指定します。最大132文字（アポストロフィで囲まれた）を指定することができますが、表示装置の画面サイズによって制限される場合があります。

注: メッセージ・テキストが変更中の場合には、**全体**のメッセージ・テキストは、指定された変更で置き換えられます。

1個以上の置換変数をメッセージ・テキスト・ストリングに組み込んで、メッセージが送られる前にプログラムがメッセージ中の変数データを置き換えできるようにする定位置置き換えフィールドを指示することができます。

2バイト文字セットに関する考慮事項

このパラメーターに漢字を入力すると、いくつかの文字の組み合わせによって、このコマンドでエラーが起る原因になることがあります。漢字にストリングX'50FN'（この場合のNは0から9の1桁の数値）を入れてください。この例としては、X'50F0'、X'50F4'、X'50F9'などです。

コード化文字セットID (CCSID)に関する考慮事項

MSGパラメーターに指定されたテキストは、CCSIDパラメーターがコーディングされない限り、このコマンドを呼び出しているジョブのCCSIDに入っているとみなされます。CCSIDパラメーターがコーディングされた場合には、このテキストは指定されたCCSIDに入っているとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「i5/OSのグローバリゼーション」トピック・コレクションを参照してください。

上

第2 レベル・メッセージ・テキスト (SECLVL)

任意のメッセージ・ヘルプの変更を指定します。ジョブ・コマンドの**サービス・ログ中のログ (LOG)**パラメーターに*SECLVLが指定された場合には、メッセージ・ヘルプをジョブ・ログに書き込むこともできます。

*SAME

メッセージ・ヘルプは変更されません。

*NONE

このメッセージ記述のメッセージ・ヘルプはなくなります。メッセージ記述中のメッセージ・ヘルプはすべて除去されます。

第2レベル・テキスト

メッセージ・ヘルプとして表示するテキストを入力してください。3000文字（アポストロフィで囲む）までを指定することができますが、画面の制約を考慮しなければなりません。**第1レベル・メッセージ・テキスト (MSG)**パラメーターで記述した通りに、1つ以上の置換変数をメッセージ・ヘルプに組み込むことができます。メッセージ・ヘルプを変更している場合には、メッセージ・ヘルプ全体を指定した変更で置き換えることができます。

メッセージ・ヘルプは、3つの形式制御文字を使用することにより、ワークステーション用に形式設定することができます。各制御文字の後には1桁の空白が続いていなければなりません。

- **&N** メッセージ・ヘルプを強制的に新しい行(2桁目)に表示します。ヘルプが複数の行にまたがる場合には、ヘルプの終わりまで、あるいは別の形式制御文字が見つかるまで、次の行以下は4桁目に字下げされます。
- **&P** メッセージ・ヘルプを強制的に新しい行の6桁目に字下げして表示します。ヘルプが1行より長い場合には、ヘルプの終わりまで、あるいは別の形式制御文字が見つかるまで、次の行以下は4桁目から始まります。
- **&B**メッセージ・ヘルプを強制的に新しい行の4桁目から表示します。ヘルプが1行より長い場合には、ヘルプの終わりまで、あるいは別の形式制御文字が見つかるまで、次の行以下は6桁目に字下げして表示されます。

2バイト文字セットに関する考慮事項

このパラメーターに漢字を入力すると、いくつかの文字の組み合わせによって、このコマンドでエラーが起こる原因になることがあります。漢字にストリングX'50FN'（この場合のNは0から9の1桁の数値）を入れなくてください。この例としては、X'50F0'、X'50F4'、X'50F9'などです。

コード化文字セットID (CCSID)に関する考慮事項

SECLVLパラメーターに指定されたテキストは、CCSIDパラメーターがコーディングされない限り、このコマンドを呼び出しているジョブのCCSIDに入っているとみなされます。CCSIDパラメーターがコーディングされた場合には、このテキストは指定されたCCSIDに入っているとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバル化」トピック・コレクションを参照してください。

上

重大度コード (SEV)

変更中のメッセージの重大度コードを指定します。重大度コードは、メッセージが送られる原因となった状態の重大度レベルを示します。

*SAME

このメッセージの重大度コードは変更されません。

重大度コード

このメッセージの重大度レベルを表すために、00から99の範囲の値を指定してください(99は最高の重大度レベルです)。メッセージに対して割り当てられたコードは、弊社事前定義重大度コードに対応していなければなりません。任意の2桁の数値に対して、重大度コードが(事前定義またはユーザー定義のいずれかにより)定義されていなくても、それを指定することができます。

上

メッセージ・データ・フィールド形式 (FMT)

変更する1から99個のメッセージ・データ・フィールドの形式を指定します。各フィールドは、属性のリスト別にこのパラメーターに記述されます。このメッセージ記述に定義されたメッセージおよびメッセージ・ヘルプの中の置き換え値として、99個すべてのメッセージ・データ・フィールドを使用することができます。また、これらは、このコマンドの**ダンプするデータ (DMPLST)**パラメーターに指定することができます。

ます。プログラム・メッセージ送信(SNDPGMMSG)またはユーザー・メッセージ送信(SNDUSRMSG)コマンドの **メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)**パラメーターに指定する場合には、データ・フィールドを連結して512文字までの文字の1つの文字ストリングを形成しなければならず、その形式と順序はここで指定したものと一致しなければなりません。

注: 前に定義した形式のいずれかが変更中の場合は、既存形式はすべてこのパラメーターに含まれなければなりません。

単一値

*SAME

メッセージの形式は変更されません。

*NONE

メッセージ・フィールドに形式が記述されていないか、あるいは既存の形式が除去されています。
*NONEが指定された場合には、**第1 レベル・メッセージ・テキスト (MSG)**パラメーター、**第2 レベル・メッセージ・テキスト (SECLVL)**パラメーター、または**ダンプするデータ (DMPLST)**パラメーターでメッセージ・データ・フィールドを参照することはできません。

注: 形式が最初から指定されているのに、*NONEが指定された場合には、これらの形式に対するすべての参照をメッセージとメッセージ・ヘルプから、およびダンプ・リストから除去しなければなりません。

要素1: データ・タイプ

最初の要素は、置き換えフィールドに入っているデータのタイプ、およびメッセージ・テキストの中でのデータの形式設定の方法を指定します。2番目と3番目の要素の内容は、指定されたタイプによって異なります。このパラメーターによって記述された各フィールドに関しては、次のタイプの1つが指定できます。

*QTDCHAR

アポストロフィ付きで形式設定される文字ストリング('MONDAY, THE 1ST')が指定できます。

*CHAR

アポストロフィで囲まないで形式設定される文字ストリングが指定できます。これは、例えばOTAのように名前を指定するために使用できる英数字ストリングです。末尾ブランクは切り捨てられます。

***HEX** 16進値として形式設定のバイトのストリング(X'C0F4')が指定できます。

***DEC** メッセージの中で小数点を持つ符号付き10進数値(5.8)として形式設定されるパック10進数(X'058C')を指定することができます。*DECが指定された場合には、長さ(必須)および小数部分の桁数(任意指定)の値は、10進桁数および小数点の右側桁数を指示します。小数部分の桁数が指定されない場合は、ゼロとみなされます。

***BIN** 長さが2, 4,または8バイト(B'000000000111010')で、メッセージの中で符号付き10進数値(58)として形式化される2進数値を指定することができます。

***UBIN** 長さが2, 4,または8バイト(B'000000000111010')で、メッセージの中で符号なし10進数値(58)として形式化される2進数値を指定することができます。

*CCHAR

変換できる文字ストリング。65535または65534以外のCCSIDタグを持つメッセージ待ち行列にこのタイプのデータが送られた場合には、データは送信機能に指定されたCCSIDからメッセージ待ち行列のCCSIDに変換されます。受信または表示機能を使用してデータがメッセージ待ち行列から入手される時にも、このタイプのデータを変換することができます。CCSIDの変換の詳細について

ては、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバルゼーション」トピック・コレクションを参照のこと。のメッセージ・ハンドラーの項を参照してください。

***UTC** 協定世界時(UTC)のシステム日付タイム・スタンプが入る8バイトのフィールドが指定されます。日付タイム・スタンプの出力形式には、日付とそれに続く1つのブランク区切り記号および時刻が入ります。出力メッセージの日付および時刻は、ジョブに指定された時間帯を使用してUTCで調整されます。日付は、ジョブに定義された日付の形式および日付区切り記号の属性を使用して様式化されます。時刻は、ジョブに定義された時刻区切り記号の属性を使用して様式化されます。16進のゼロで8バイト・フィールド(X'0000000000000000')が渡された場合、値は*Nとして様式化されます。

***UTCD**

協定世界時(UTC)のシステム日付タイム・スタンプが入る8バイトのフィールドが指定されます。出力メッセージの日付は、ジョブに指定された時間帯を使用してUTCで調整されます。日付は、ジョブに定義された日付の形式および日付区切り記号の属性を使用して様式化されます。16進のゼロで8バイト・フィールド(X'0000000000000000')が渡された場合、値は*Nとして様式化されます。

***UTCT**

協定世界時(UTC)のシステム日付タイム・スタンプが入る8バイトのフィールドが指定されます。出力メッセージの時刻は、ジョブに指定された時間帯を使用してUTCで調整され、ジョブに定義された時刻区切り記号の属性を使用して様式化されます。16進のゼロで8バイト・フィールド(X'0000000000000000')が渡された場合、値は*Nとして様式化されます。

***DTS** システム日付タイム・スタンプが入る8バイトのフィールドが指定されます。日付タイム・スタンプには、日付とそれに続く1つのブランク区切り記号および時刻が入ります。日付は、ジョブに定義された日付の形式および日付区切り記号の属性を使用して、出力メッセージで様式化されます。時刻は、ジョブに定義された時刻区切り記号の属性を使用して様式化されます。

***ITV** 待機タイムアウト条件のための時間間隔(秒数)が入る8バイトの2進数フィールドが指定されます。時間間隔は、メッセージ中で待機秒数を表しているゼロ抑止ゾーン10進数値(15 0)として形式化されます。

次の形式が有効なのは、弊社提供のメッセージ記述の中だけに限られますから、それ以外のメッセージに関しては使用してはなりません。

***SPP** スペース・オブジェクトの中のデータに対する16バイトのスペース・ポインターが指定できます。
*SPPは、メッセージ・テキストの置き換えフィールドとしては使用できません。

***SYP** システム・オブジェクトに対する16バイトのシステム・ポインターが指定できます。メッセージ・テキストの中で参照された時は、システム・オブジェクトの単純名が名前タイプ*CHARで記述されているように形式設定されます。

要素2: 長さ

タイプ指定に続いて、2番目の要素を指定して、メッセージ・データの中で渡される文字または桁の数を指示することができます。2番目の要素の使用法は、最初の要素で指定されたタイプに依存します。

• *QTDCHAR, *CHAR, *HEX,または*SPPに関して長さが指定されていない場合は、長さに関しては*VARYが想定されます。*VARYが想定された場合は、SNDPGMMMSGまたはSNDUSRMSGコマンドによって渡されたメッセージ・データ・フィールドには、渡されているデータの実際のバイト数を示す2バイトまたは4バイトの2進数フィールドが先行しなければなりません。しかし、*SPPが指定されると、長さフィールドは、スペース・ポインターが指す最初のバイトに含まれます。したがって、2バイトまたは4バイトのフィールドはスペース・ポインターが指すデータに先行しなければならず、メッセージ・データの一部として渡されるスペース・ポインターに先行してはなりません。

- タイプ*DECが指定された場合は、(小数部を含む)合計の10進桁数が2番目の要素として指定されなければならない、小数部分の桁数は3番目の要素として任意指定できます。
- タイプ*BINまたは*UBINが指定された場合は、メッセージ・データ・フィールドは2, 4,または8バイトの長さのみにすることができ、省略時の値は2バイトです。
- タイプ*CCHARが指定された場合には、メッセージ・データ長フィールドには*VARYのみが可能です。このフィールドのデータが異なるコード化文字セットID (CCSID)に変換されるとその長さが変わることがあるので、可変長フィールドが必要です。

要素3: *VARYバイト数か小数部分の桁数

3番目の要素は、最初の要素で指定されたタイプに応じて次の2つのうちの1つの方法で使用されます。(1) *QTDCHAR, *CHAR, *CCHAR, *HEX,または*SPPが指定されている場合、および2番目の要素に*VARYが指定または想定されている場合には、3番目の要素は*VARYで使用され、実際に渡された長さフィールドのサイズを指示します。3番目の要素は、渡された値の長さ(2進数)を指定するバイト数の2または4とすることができます。(2) *DECが指定されている場合には、3番目の要素は10進数値の小数部分の桁数を指示します。10進数の置き換え値について指定がない場合には、省略時の値は小数点以下の桁数0です。

注: オブジェクトが損傷しているか削除されている場合は、置換変数は、表示される時、オブジェクト名によって置き換えられることはなく、&N (Nは数値)として現れます。

上

応答タイプ (TYPE)

メッセージが照会または通知メッセージとして送られる場合だけに限り、このメッセージに対する有効な応答のタイプを指定します。

*SAME

応答タイプは変更されません。

*NONE

応答妥当性検査はありません。既存の応答タイプがあれば除去されます。*NONEは最大応答の長さ (LEN)パラメーターにも指定する必要があります。

*CHAR

任意の文字ストリングが使用できます。引用符付き文字ストリングである場合は、アポストロフイは文字ストリングの一部として渡されます。

*DEC 10進数だけが有効な応答です。

*ALPHA

英字ストリングだけが使用できます。ブランクは使用できません。

*NAME

単純名だけが有効な応答です。名前はオブジェクト名でなくても構いませんが、英字で始まっていなければなりません。残りの文字は英数字でなければなりません。

上

最大応答の長さ (LEN)

メッセージが照会または通知メッセージとして送られた場合に限り、最大応答の長さを指定します。

単一値

*SAME

応答の長さは変更されません。

*NONE

応答妥当性検査はありません。既存の応答タイプは、もしあれば、除去されます。*NONEは**応答タイプ (TYPE)**パラメーターにも指定する必要があります。

*TYPE

最大長は、**応答タイプ (TYPE)**パラメーターに指定された応答のタイプによって決まります。各応答のタイプの最大長は次の通りです。

- タイプ*CHARおよび*ALPHAの場合は、132文字まで指定できます。追加の妥当性検査が実行される (VALUES, RANGE, REL, SPCVAL,またはDFTが指定される) 場合は、*CHARおよび*ALPHAに許容される最大長は32文字です。
- *DECには最大15桁で指定することができますが、そのうち最大9桁までを小数点の右側にすることができます。
- *NAMEの場合には、最高10桁の英数字を指定することができます。

要素1: 長さ

長さ 最大応答の長さを指定してください。ここで指定された長さは、上に示した最大長を超えることはできません。

要素2: 小数点以下の桁数

桁数 応答タイプが10進数値の場合は、小数部分の桁数を任意指定できます。値が指定されない場合には、小数部分の桁数はゼロとみなされます。

上

有効な応答値 (VALUES)

メッセージが照会または通知メッセージとして送信される場合に限り、有効な応答として受け取られる値のリストを指定します。リスト中に指定できる値は20個までです。リスト中のそれぞれの値は、**応答タイプ (TYPE)**パラメーターおよび**最大応答の長さ (LEN)**パラメーターでメッセージ応答に指定された要件を満たしていなければなりません。このパラメーターを指定した場合には、**応答値の範囲 (RANGE)**パラメーターおよび**有効な応答の関係 (REL)**パラメーターを指定することはできません。

単一値

*SAME

既存値リストは変更されません。

*NONE

応答値のリストは指定されません。応答は、他の妥当性検査パラメーターと矛盾しない任意の値を持つことができます。既存の値があれば除去されます。

その他の値

値 値の数を1から20まで指定してください。これらの値が、有効であるためには、このメッセージ記述に定義されているメッセージに対する応答として送られた応答値に一致しなければなりません。各値の最大長は32文字です。

上

特殊応答値 (SPCVL)

メッセージが照会または通知メッセージとして送られた場合だけ、その中の1セット（比較値が送られた応答によって突き合される場合）が応答として使用される最大20セットの特殊値のリストを指定します。これらの値が特殊なのは、他の応答用パラメーターの中で与えられている妥当性検査使用のすべてには適合しないことがあるからです。送られた応答は、各セット内の比較値と比較されます。一致が見つかり、そのセットで応答値が指定された場合は、その応答値が応答として送られます。応答値が指定されなかった場合は、比較値が応答として送られます。送られた応答がどの比較値にも一致しない場合は、その応答は、他の応答用パラメーターの中の仕様によって妥当性検査されます。

単一値

*SAME

特殊値リストは変更されません。

*NONE

特殊値は、このメッセージに対する応答に関して指定されません。既存の特殊値があれば、メッセージ記述から除去されます。

要素1: 元の開始値

比較値 メッセージ応答値と比較する比較値を指定します。

要素2: 置き換え終了値

応答値 応答が送られる前に比較値のマップ先となる応答値を指定します。

上

応答値の範囲 (RANGE)

メッセージが照会または通知メッセージとして送られる場合に限り、このメッセージに対する有効な応答の上限値および下限値を指定します。これらの値は、応答に関してTYPEおよびLENパラメーターによって指定された要件に適合しなければならず、両方の値が同じタイプでなければなりません。両方の値が同じタイプでない場合は、短い方の値は右側にブランクを埋め込まれます。タイプ*CHARおよび*ALPHA応答の場合は、応答は、値の範囲が妥当性検査される前に、（指定された値の長さに合わせて）右側にブランクを埋め込まれるかまたは右側が切り捨てられます。このパラメーターを指定した場合には、**有効な応答値 (VALUES)**パラメーターおよび**有効な応答の関係 (REL)**パラメーターを指定することはできません。

単一値

*SAME

上限値および下限値は変更されません。

*NONE

このメッセージに対する応答に関して、範囲値は指定されません。既存の範囲値があれば、いずれもメッセージ記述から除去されます。

要素1: 下限値

下限値 このメッセージに対する有効な応答の下限値を指定します。

要素2: 上限値

上限値 このメッセージに対する有効な応答の上限値を指定します。

上

有効な応答の関係 (REL)

メッセージが照会または通知メッセージとして送信される場合に限り、応答が有効であるためには存在していなければならない関係を指定します。指定された値は、**応答タイプ (TYPE)**パラメーターおよび**最大応答の長さ (LEN)**パラメーターで応答に指定された要件を満たしていなければなりません。タイプ*CHARおよび*ALPHAで応答した場合には、システムが送信されてきた応答値のテストを実行する前に、この応答は、指定された値の長さと同じになるように、その右側にブランクが埋め込まれるか、あるいは右側を切り捨てられます。

単一値

*SAME

関係は変更されません。

*NONE

このメッセージに対する応答に関して関係は指定されません。既存の関係指定があれば、いずれもメッセージ記述から除去されます。

要素1: 比較演算子

演算子 次の比較演算子の1つを指定してください。

- *LT:より小さい
- *LE:小さいか等しい
- *GT:より大きい
- *GE:大きいか等しい
- *EQ:等しい
- *NL:小さくない
- *NG:大きくない
- *NE:等しくない

要素2: 値

値 メッセージ応答と比較する値を指定してください。応答が比較テストで有効である場合は、メッセージの送信元に送られます。

上

省略時応答値 (DFT)

メッセージが照会または通知メッセージとして送られる場合にだけ、メッセージの受信者が自分に対するすべてのメッセージには省略時の応答を使用することを示している時、あるいはメッセージがメッセージ待ち行列から削除され、応答が指定されなかった時に使用される（特殊文字が入っている場合には、アポストロフィで囲まれた）省略時の応答を指定します。また、省略時の応答を使用してモニターしていない通知メッセージに回答することもできます。省略時の応答は、妥当性検査パラメーターによって応答に関して指定された要件に適合していなければなりません。

*SAME

省略時の応答は変更されません。

*NONE

省略時の応答は指定されません。既存の省略時の応答があれば除去されます。

省略時の応答

特殊文字が入っている場合はアポストロフィで囲まれた応答を指定して、省略時の応答として使用してください。

上

呼び出す省略時プログラム (DFTPGM)

このメッセージがモニターしていないプログラムに対するエスケープ・メッセージとして送られる時に、省略時の処置を取る省略時のプログラム（ある場合）の名前を指定します。

単一値

*SAME

省略時のプログラムは変更されません。

*NONE

省略時のプログラムはこのメッセージに関して指定されません。既存の省略時のプログラムがあれば、いずれもメッセージ記述から除去されます。

修飾子1: 呼び出す省略時プログラム

名前 エスケープ・メッセージが送られた時に呼び出される省略時のプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

上

ダンプするデータ (DMPLST)

このメッセージがこのメッセージをモニターしていないプログラムにエスケープ・メッセージとして送られた時にダンプされるデータを指定します。このパラメーターは、ジョブに関連したデータをダンプするか、メッセージ・データ・フィールドからのデータをダンプするか、あるいはこれらの組み合わせをダンプするかを指定することができます。メッセージ・データ・フィールドからのデータをダンプする時には、このパラメーターは、ダンプされるデータ・フィールドを位置的に識別する1つまたは複数の番号を指定します。

システム・ポインターによって指示されたシステム・オブジェクトがダンプされます。空間ポインターによって指示されたスペース・オブジェクトの中のデータは、フィールド記述の中で指示された長さに関して空間ポインターで示されたオフセットから開始してダンプされます。標準ジョブ・ダンプも要求できます。

単一値

***SAME**

ダンプ・リストは変更されません。

***NONE**

このメッセージに関するダンプ・リストはありません。既存のダンプ・リストがあれば、メッセージ記述から除去されます。

その他の値

***JOB** この値は、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドの**ジョブ名 (JOB)**パラメーターでの*の指定、および出力(OUTPUT)パラメーターでの*PRINTの指定と同じです。

***JOBDMF**

ジョブのデータ域は、ジョブ・ダンプ(DMPJOB)コマンドによって指定されたようにダンプされます。***JOBDMF**はそれだけを単独で、または***JOB**、***JOBINT**、またはメッセージ・データ・フィールド番号のリストと共に指定することができます。

***JOBINT**

ジョブ処理に関連した内部マシン・データ構造は、ジョブ内部事象ダンプ(DMPJOBINT) コマンドによって指定されたように、エラー・ログにダンプされます。***JOBINT**はそれだけ単独で、あるいは***JOBDMF**、***JOB**、またはメッセージ・データ・フィールド番号のリストと一緒に指定することができます。

メッセージ・データ・フィールド番号

このエスケープ・メッセージが送られてもモニターされない時にダンプされるデータを識別するメッセージ・データ・フィールドの番号を指定します。データ・フィールドの番号は最大99までリストに指定することができます。さらに、リストには値***JOB**、***JOBDMF**、および***JOBINT**を含めることができます。

上

警報オプション (ALROPT)

QHSTログおよびシステム操作員メッセージ待ち行列に送られたメッセージに関連する警報オプションを指定します。

単一値

*SAME

警報オプションは変更されません。

要素1: 警報タイプ

***NO** 警報は送られません。

***IMMED**

警報は、メッセージをQHSTに送ると同時に、ただちに送られます。

***UNATTEND**

警報は、ネットワーク属性変更(CHGNETA)コマンドの**警報状況 (ALRSTS)**パラメーターに***UNATTEND**が指定されている時にだけただちに送られます。

***DEFER**

警報は内部問題分析後に送られます。***DEFER**を指定しなければならないのは、問題分析が実行できる対象のメッセージの場合だけです。警報は、メッセージによって参照された問題に関する問題分析からの最初の出口に送られます。次の場合は、***DEFER**にセットされた警報はすべて***IMMED**として取り扱われます。

- ネットワーク属性変更(CHGNETA)コマンドの**警報状況 (ALRSTS)**パラメーターに***UNATTEND**が指定されている場合。
- 問題分析を使用して解決できる問題に対してエラー・ログIDが使用不能の場合。
- **問題ログ (LOGPRB)**パラメーターに***NO**が指定されている場合（メッセージによって報告された条件について問題分析を行うことができません）。

要素2: 資源名変数

*NONE

メッセージ・データ・フィールド形式番号は、警報IDと共に渡されません。

1から99

警報IDと共に渡されるメッセージ・データ・フィールド形式番号を指定してください。

上

問題ログ (LOGPRB)

弊社提供メッセージの場合に、問題ログに項目を入れることができるかどうかを指定します。このメッセージに対するエラー・ログIDがあり、このパラメーターに***YES**が指定されている場合には、ユーザーは、システム操作員メッセージ待ち行列画面でF14キーを押す(DSPMSG *SYSOPRコマンドを実行する) ことにより、問題分析を要求することができます。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 項目は問題ログに入れられません。

***YES** メッセージと関連したエラー・ログIDがある場合には、項目は問題ログに入れられます。

上

コード化文字セットID (CCSID)

MSGおよびSECLVLパラメーターに指定されたテキストが入っているコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

MSGおよびSECLVLパラメーターがコーディングされていない場合には、メッセージ記述と関連付けられているCCSIDタグを変更するために、CCSIDパラメーターに指定された値が使用されます。この場合には、テキスト変換は行われません。このようにCCSIDパラメーターを使用して、間違っただCCSIDタグを持つメッセージ記述を訂正してください。

CCSIDパラメーターとともにMSGまたはSECLVLパラメーターのいずれかがコーディングされた場合には、MSGおよびSECLVLパラメーターに指定されたテキストは指定されたCCSIDにあるとみなされます。MSGまたはSECLVLパラメーターのいずれか一方のみ（両方ではない）がコーディングされた場合には、すべてのテキストが同じCCSIDに入っているように、コーディングされていない方のパラメーターと関連付けられている既存のテキストも指定されたCCSIDに変換されます。

メッセージ・ファイルが65535または65534以外のものである場合には、テキストは指定されたCCSIDからメッセージ・ファイルのCCSIDに変換されます。そうでない場合には、検索または表示機能の実行時に変換が必要になった時に備えて、指定されたCCSIDがMSG記述と一緒に保管されます。

指定されたCCSIDがメッセージ記述の文字コード化と合わない場合には、予測できない結果となることがあります。

メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを使用するためには、メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDが65534でなければなりません。メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDの変更方法の詳細については、メッセージ・ファイルの変更(CHGMSGF)コマンドを参照してください。

CCSIDは、メッセージ記述の第1レベル・メッセージ・テキストおよび第2レベル・メッセージ・テキストのみに適用されます。

***JOB** メッセージ記述のCCSIDタグは、このコマンドを実行するジョブのCCSIDに変更されます。MSGおよびSECLVLパラメーターが指定されている場合には、これらのパラメーターに指定されたテキストは指定されたCCSIDにあるとみなされます。MSGおよびSECLVLパラメーターがコーディングされていない場合には、メッセージ記述のCCSIDは変更されません。

***SAME**

メッセージ記述のCCSIDタグは変更されません。MSGまたはSECLVLパラメーターが指定されている場合には、テキストはこれが取って代わるテキストと同じCCSIDに入っているとみなされます。

***HEX** メッセージ記述のCCSIDタグは、このメッセージ記述が使用時に変換されないことを意味する特殊CCSID値65535に変更されます。

コード化文字セットID

テキストが入っていると考えられるCCSIDを指定してください。有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバル化」情報を参照してください。受け入れられるのは、ジョブの変更先とすることができるCCSIDだけです。

MSGおよびSECLVLパラメーターが指定されている場合には、これらのパラメーターに指定されたテキストは指定されたCCSIDにあるとみなされます。メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバル化」トピック・コレクションを参照してください。

例

例1:第1レベル・メッセージおよび重大度の変更

```
CHGMSGD  MSGID(UIN0115) MSGF(INV)  MSG('ENTER YOUR NAME')
          SEV(55)
```

このコマンドは、メッセージ・ファイルINVに保管されているメッセージUIN0115の第1レベル・メッセージおよび重大度を変更します。メッセージ記述の残りの部分は、最初にADDMSGDコマンドに指定されたままです。

例2:有効な応答の範囲への変更

ユーザーは次のようなメッセージUPY0047を作成したとします:

```
ADDMSGD  MSGID(UPY0047) MSGF(PAYLIB/TIMECARD)
          MSG('ENTER DEPARTMENT NUMBER:')
          TYPE(*DEC)  LEN(4)  VALUES(0816 0727 0319 8774)
```

有効な応答の範囲(RANGEパラメーター)に変更するには、(VALUEパラメーターで指定されるように)特定の応答値ではなく、次のコマンドを使用することができます:

```
CHGMSGD  MSGID(UPY0047) MSGF(PAYLIB/TIMECARD)  VALUES(*NONE)
          RANGE(0300 8900)
```

最初に定義されているVALUESは除去されて、RANGEパラメーターがメッセージ記述に追加されます。応答値のタイプおよび長さは変更されません。

注:既存のメッセージ記述に対して行われたすべての変更には、既存のメッセージ記述との互換性がなければなりません。例えば、次の変更は、RANGE値に最初のADDMSGDコマンドに定義された応答の長さとの互換性がないために、無効であると診断されます。

例3:長さパラメーターの変更

```
ADDMSGD  MSGID(XYZ0202) MSGF(XYZMSGF)
          MSG('ENTER ROUTING CODE:')
          TYPE(*CHAR)  LEN(2)  VALUES(AA BB CC DD EE)
CHGMSGD  MSGID(XYZ0202) MSGF(XYZMSGF)  VALUES(*NONE)
          RANGE(AAA ZZZ)
```

有効な応答値の範囲になるように変更するには、長さ(LENパラメーター)も変更しなければなりません。正しいコマンドのコーディングは次のようになります:

```
CHGMSGD  MSGID(XYZ0202) MSGF(XYZMSGF)  LEN(3)
          VALUES(*NONE)  RANGE(AAA ZZZ)
```

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2419

メッセージ識別コード&1が&3のメッセージ・ファイル&2に見つからない。

CPF2461

メッセージ・ファイル&1を拡張することができなかった。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2499

メッセージ識別コード&1が正しくない。

CPF2510

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

CPF2542

&1のメッセージ記述は変更されなかった。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

メッセージ・ファイルの変更 (CHGMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル変更(CHGMSGF)コマンドは、指定されたメッセージ・ファイルまたはメッセージ・ファイルのリストの属性を変更します。

制約事項

1. 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
2. メッセージ・ファイルに対する*USEおよび削除(*DLT)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *SAME, *HEX, *MSGD, *JOB	オプション, 定位置 2

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

属性を変更するメッセージ・ファイル（複数の場合もある）を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリー中のすべてのメッセージ・ファイルが変更されます。

総称*メッセージ・ファイル名

属性を変更するメッセージ・ファイルの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりをするものです。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名を指定して、ライブラリー修飾子が*USRLIBL, *ALL,または*ALLUSRである場合には、指定した名前のすべてのメッセージ・ファイルが変更されます。

名前 属性を変更するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

スレッドのライブラリー・リストのユーザー一部分のライブラリーだけが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

メッセージ・ファイルについて説明するテキストを指定します。前のテキストは指定されたテキストで置き換えられます。

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されていません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

コード化文字セットID (CCSID)

メッセージ・ファイルと関連付けられるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。すでにメッセージ・ファイルに存在しているメッセージ記述に対しては、テキスト変換は行われません。その後このメッセージ・ファイルに追加されたメッセージ記述は、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドで指定されたCCSIDからメッセージ・ファイルのCCSIDに変換されます。メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDはメッセージ記述と関連付けられているCCSIDより優先して使用されます。メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを使用するためには、メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDを*MSGDに変更してください。

***SAME**

メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは変更されません。

***HEX** メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは65535に変更されます。65535は、メッセージ・ファイルにメッセージ記述を追加したりメッセージ・ファイル中のメッセージ記述を変更したりする時に変換が行われず、またメッセージ・ファイルからメッセージ記述を検索する時に変換が行われないことを意味します。ADDMSGD またはCHGMSGDコマンドで指定されたCCSIDは、いつかこのメッセージ・ファイルが*MSGDに変更された場合に備えて保管されます。

***MSGD**

メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは65534に変更されます。65534は、メッセージ・ファイルからメッセージ記述を検索する時に、メッセージ記述と関連付けられているCCSIDを使用することを意味します。メッセージ・ファイルにメッセージ記述を追加したりメッセージ・ファイル中のメッセージ記述を変更したりする時には、変換が行われず、メッセージ記述にはADDMSGDまたはCHGMSGDコマンドで指定されたCCSIDのタグが付けられます。

***JOB** メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDは、このコマンドを呼び出すジョブのCCSIDに変更されます。

コード化文字セットID

メッセージ・ファイルと関連付けるコード化文字セットID (CCSID)を指定してください。有効な値の範囲は1から65535です。受け入れられるのは、ジョブの変更先とすることができるCCSIDだけです。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバル化セッション」情報を参照してください。

注: メッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDを変更しても、メッセージ記述と関連付けられているCCSIDは変更されません。メッセージ・ファイルのCCSIDが後で*MSGDに変更し直されると、メッセージ記述と関連付けられている元のCCSIDがセットされます。

メッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルと関連付けられているCCSIDを変更すると、予測できない結果が起こることがあります。これは、メッセージ記述の文字コード化が指定されたCCSIDと合わない時に起こる可能性があります。メッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルのCCSIDを変更するのは、メッセージ・ファイルのCCSIDを訂正する場合だけにしてください。このような変更は、メッセージ・ファイルのCCSIDがそこに入っているメッセージ記述のエンコードと合わない時に行われます。

メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバリゼーション」トピック・コレクションを参照してください。

上

例

```
CHGMSGF MSGF(*ALL/*ALL) CCSID(65534)
```

このコマンドは、システム上のすべてのメッセージ・ファイルについてCCSIDを65534に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

メッセージ待ち行列変更 (CHGMSGQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ待ち行列変更(CHGMSGQ)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列の属性を変更します。転送モードが*BREAKまたは*NOTIFYに変更されているところで、メッセージ待ち行列がすでに*BREAKまたは*NOTIFYモードになっていないか、別のジョブに明確に割り振られたりしていない場合は、このコマンドによって暗黙に割り振られます。DLVRY, PGM,およびSEVパラメーターはメッセージ待ち行列作成(CRTMSGQ)コマンドには含まれていませんが、メッセージ待ち行列の作成時にシステムによってこれらのパラメーターに省略時の値が割り当てられます。このコマンドはまた、古いメッセージの状況を新しいメッセージの状況にリセットして、メッセージ参照キーを使わなくても再びメッセージを受け取れるようにするために使用することもできます。

制約事項:

- 待ち行列に対する使用(*USE)および削除(*DLT)権限が必要です。
- 変更されるメッセージ待ち行列は、別のジョブによる*SHRRDまたは*EXCLロックで割り振ることはできません。CHGMSGQコマンドが試みられた時に別のジョブによってこの待ち行列が割り振られた場合には、エラー・メッセージが送られます。これに対する1つの例外は、ワークステーション・メッセージ待ち行列のCCSIDを変更する時にはロックが不要であるということです。
- 総称サポートを使用して複数のメッセージ待ち行列を変更している場合には、DLVRYパラメーターの値を*BREAKまたは*NOTIFYに変更することは許可されません。
- QHSTメッセージ待ち行列のメッセージ待ち行列満杯時の処置は*SNDMSGであり、この値を変更することはできません。QHSTのメッセージ待ち行列満杯時の処置が変更されると、CPF2433メッセージ（機能はシステム・ログ・メッセージ待ち行列QHSTに使用できない）が出されます。
- メッセージ待ち行列QSYSOPRは、「メッセージ待ち行列満杯時の処置」が*WRAPとして出荷されます。値を*SNDMSGに変更した後で、損傷したために待ち行列を再作成する必要がある場合には、その値は出荷時の値の*WRAPにリセットされます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *USRPRF, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: MSG 待ち行列	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
DLVRY	配布	*SAME, *HOLD, *BREAK, *NOTIFY, *DFT	オプション, 定位置 2
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, *SAME	オプション, 定位置 4
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	ハンドル属性の中断	単一値: *SAME, *DSPMSG その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 中断処理プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 中断処理プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 他のジョブが応答可能	*NOALWRPY, *ALWRPY	
RESET	古いメッセージのリセット	*NO, *YES	オプション
FORCE	補助記憶域への強制書き込み	*SAME, *NO, *YES	オプション
ALWALR	警報可能	*SAME, *NO, *YES	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *SAME, *MSG, *HEX, *JOB	オプション
MSGQFULL	メッセージ待ち行列満杯時処置	*SAME, *SNDMSG, *WRAP	オプション

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

属性を変更するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*WRKSTN

ワークステーションのメッセージ待ち行列の属性が変更されます (このパラメーターは、バッチ・ジョブの場合は使用できません)。

*USRPRF

現行のユーザー・プロファイルに関連したメッセージ待ち行列の属性が変更されます。

修飾子1: MSG 待ち行列

*ALL ライブラリー修飾子で識別されるライブラリー中のすべてのメッセージ待ち行列が変更されます。

総称*メッセージ待ち行列名

属性を変更するメッセージ待ち行列の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (例えば, ABC*など) です。アスタリスク(*)は任意の有効な文字の代わりをするものです。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名を指定して、ライブラリー修飾子が*USRLIBL, *ALL,または*ALLUSRである場合には、指定した名前のすべてのメッセージ待ち行列が変更されます。

名前 属性を変更するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーだけが検索されます。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL       QSRVAGT   QUSRISJS   QUSRVRxMx
QGGL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

配布 (DLVRY)

このメッセージ待ち行列に送られるメッセージを転送する方法を指定します。メッセージ待ち行列がジョブに割り振られている限り、この転送方法が有効となります。待ち行列がもはや割り振られていない時には、ワークステーション、システム操作員、およびユーザー・メッセージ待ち行列に対して転送モードは*HOLDに変更されます。

*SAME

メッセージの転送方法は変更されません。このパラメーターが前のコマンドで変更されていない場合には、*SAMEは、*HOLDが転送方法であることを意味します。しかし、指定されたメッセージ待ち行列が表示装置メッセージ待ち行列である場合には、システムによってサインオン時に自動的に*NOTIFYに変更されます。

*HOLD

メッセージは、ユーザーまたはプログラムによって要求されるまで、メッセージ待ち行列の中に保留されます。

*BREAK

メッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、そのメッセージ待ち行列が割り振られているジョ

ブは中断され、**中断処理プログラム (PGM)**パラメーターに指定されたプログラムが呼び出されるか、あるいはメッセージ表示(DSPMSG)コマンドが処理されます。***BREAK**モードに変わると、プログラム名が指定されていない場合、またはPGM(***SAME**)が指定されている場合には、PGMパラメーターは、省略時の値として、中断プログラムに対して***DSPMSG**が使用され、他のジョブの応答を許可属性に対して***ALWRPY**が使用されます。

***NOTIFY**

メッセージがメッセージ待ち行列に到着した時に、メッセージ待ち行列が割り振られる対話式ジョブに、メッセージ・ライトがオンにかわるか、またはブザーの音（その機能がある場合）によって通知されます。

***DFT** 応答を必要とするメッセージには、省略時の応答によって応答されます。メッセージ待ち行列がQSYSOPRでない限り、メッセージ待ち行列にメッセージは追加されません。

上

重大度コード・フィルター (SEV)

中断または通知モードでユーザーに転送することができる最低のメッセージの重大度レベルを指定します。ここに指定されているよりも低い重大度でメッセージ待ち行列に到着するメッセージは、ジョブを中断させませんし、メッセージ待機ライトを点灯もさせません。メッセージ表示(DSPMSG)コマンドによって表示されるまで、待ち行列に保留されています。

***SAME**

重大度コードは変更されません。

重大度コード

メッセージを持つことができ、メッセージ待ち行列が中断または通知転送モードの場合には、ユーザーに転送される最低の重大度コードを0から99の値で指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

メッセージ待ち行列を記述するユーザー定義のテキストを指定します。前のテキストがあれば、ここで指定されたテキストがそれに置き換わります。

***SAME**

テキストは変更されていません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'**記述**' 50文字以下をアポストロフィで囲んで指定します。

上

ハンドル属性の中断 (PGM)

プログラム・パラメーターを指定するために2つの要素が使用されます。最初の要素は、メッセージがメッセージ待ち行列に到着し、中断転送が指定されていた場合に呼び出されるプログラムを指定します。2番目の要素は、メッセージ待ち行列が*BREAK転送モードになり、*DSPMSG以外の中断処理プログラムが指定されていた場合に、他のジョブがそのメッセージ待ち行列上のメッセージに応答できるかどうかを指示します。

QSYSOPRメッセージ待ち行列は操作員の手動処置を必要とするメッセージを受け取るので、変更されるメッセージ待ち行列がQSYSOPRの場合には、*DSPMSGのみが指定または想定されるようにしなければなりません。

次のパラメーターがプログラムに渡されます。

- メッセージ待ち行列名(10桁)。メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前です。
- ライブラリー名(10桁)。メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前です。
- メッセージ参照キー(4文字)。メッセージ待ち行列に送られるメッセージの参照キーです。

単一値

*SAME

同じプログラムが、もしあれば、呼び出されます（このパラメーターが別のメッセージ待ち行列変更(CHGMSGQ)コマンドで前に変更されていない場合は、*SAMEは、*DSPMSGおよび*ALWRPYが想定されることを意味します）。*BREAKモードに変更すると、このパラメーターが指定されていない場合、または*SAMEが指定されている場合は、中断プログラムは、省略時の値として*DSPMSGが使用され、他のジョブの応答を許可の値は*ALWRPYに設定されます。

*DSPMSG

メッセージが中断転送中に到着し、他のジョブの応答を許可の値が*ALWRPYに設定されていると、メッセージ表示(DSPMSGコマンド)が処理されます。対話式ジョブの場合には、メッセージは画面に表示されます。バッチ・ジョブの場合には、メッセージはスプール印刷装置ファイルに送られます。

要素1: 中断処理プログラム

中断転送の場合にメッセージが到着した時に呼び出されるプログラムを指定します。

修飾子1: 中断処理プログラム

名前 呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

要素2: 他のジョブが応答可能

メッセージ待ち行列が*BREAK転送モードになり、*DSPMSG以外の中断処理プログラムが指定されていた場合に、他のジョブがそのメッセージ待ち行列上の照会メッセージに応答できるかどうかを指定します。中断処理プログラムに*DSPMSGが指定されていると、この属性には*ALWRPYが想定されます。QSYS以外のライブラリーで中断処理プログラムにQMHDMSMSが指定されている場合にも、*NOALWRPYが明示的に指定されていない限り、この属性には*ALWRPYが想定されます。

注:この要素に値を指定する場合には、このパラメーターの要素1にも中断処理プログラムを指定しなければなりません。

***NOALWRPY**

*DSPMSGが指定されたもの以外の中断処理プログラムによってメッセージ待ち行列が*BREAK転送モードになっている時に、他のジョブは、メッセージ待ち行列上を表示できますが、メッセージ待ち行列上の照会メッセージに応答することはできません。

***ALWRPY**

*DSPMSGが指定されたもの以外の中断処理プログラムによってメッセージ待ち行列が*BREAK転送モードになっている時に、他のジョブは、メッセージ待ち行列上の照会メッセージに応答することができます。

上

古いメッセージのリセット (RESET)

メッセージ待ち行列に保留中の古いメッセージ（一度受け取ってその後メッセージ待ち行列から除去されなかったメッセージ）を新しいメッセージ状況にリセットするかどうかを指定します。

***NO** メッセージ待ち行列の中の古いメッセージは、新しいメッセージ状況にリセットされません。古いメッセージを受け取ったり、それに応答したり、それを除去したりするためには、メッセージ参照キーを入力しなければなりません。

***YES** メッセージ待ち行列の中のすべてのメッセージは、すでに応答が送られている照会メッセージを除いて新しいメッセージ状況にリセットされます。

上

補助記憶域への強制書き込み (FORCE)

メッセージ待ち行列記述に施された変更、または待ち行列に追加または待ち行列から除去されたメッセージをただちに補助記憶装置に強制記憶するかどうかを指定します。これによって、たとえシステム障害が起っても、待ち行列に対する変更または送受したメッセージが失われないようにすることができます。

***SAME**

参照されたメッセージ待ち行列の中で指定された値は変更されません。

***NO** メッセージ待ち行列およびその中のメッセージに対して施された変更は、すぐには補助記憶装置に強制記憶されません。

***YES** メッセージ待ち行列記述および待ち行列の中のメッセージに対する変更は、すべてただちに補助記憶装置に強制記憶されます。警告: この結果、パフォーマンス上の問題となる可能性があります。

警報可能 (ALWALR)

変更する待ち行列がそこに送られる警報メッセージから警報が生成されることを許可するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** このメッセージ待ち行列から警報が生成されることを許可しません。

***YES** このメッセージ待ち行列から警報が生成されることを許可します。

コード化文字セットID (CCSID)

このメッセージ待ち行列と関連付けられているコード化文字セットID (CCSID)を指定します。これは、即時メッセージと、変換可能な文字フィールド(*CCHAR)として定義されているメッセージ・データにのみ、適用されます。

*SAME

値は変更されません。

***HEX** このメッセージ待ち行列に送られたり、このメッセージ待ち行列から受け取ったり、このメッセージ待ち行列から表示されるメッセージは、変換されません。このメッセージ待ち行列のCCSIDは65535です。

***MSG** このメッセージ待ち行列に送られたメッセージは変換されません。表示または受信機能で変換が必要になる場合に備えて、送信元ジョブによって指定されたCCSIDが保管されます。このメッセージ待ち行列のCCSIDは65534です。

***JOB** メッセージ待ち行列のCCSIDは、このコマンドを実行するジョブのCCSIDに変更されます。

コード化文字セットID

このメッセージ待ち行列と関連付けられたCCSIDを指定してください。このメッセージ待ち行列に送られたメッセージは、このCCSIDに変換されます。有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバル化」トピック・コレクションを参照してください。

注: メッセージ待ち行列のCCSIDを変更しても、その待ち行列に入っているメッセージは変換されず、個々のメッセージと関連付けられているCCSIDは変更されません。メッセージ待ち行列が*MSGに変更し直された場合には、各メッセージの元のCCSIDが使用されます。

すでにメッセージが入っているメッセージ待ち行列のCCSIDを変更すると、予測できない結果が起こることがあります。これは、メッセージのエンコードが指定されたCCSIDと一致しない時に起こる可能性があります。メッセージ待ち行列のCCSIDを変更するのは、メッセージ待ち行列のCCSIDがそこに入っているメッセージのエンコードと合わない時だけにしてください。

メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバル化」トピック・コレクションを参照してください。

メッセージ待ち行列満杯時処置 (MSGQFULL)

メッセージ待ち行列がいっぱいの時に取る処置を指定してください。

*SAME

値は変更されません。

***SNDMSG**

メッセージ待ち行列が満杯の時に、CPF2460（メッセージ待ち行列を拡張することはできない。）が、満杯のメッセージ待ち行列にメッセージを送信しているプログラムまたはユーザーに対して送信されます。

***WRAP**

メッセージ待ち行列が満杯の場合には、最も古い通知および回答済みメッセージから順にメッセージ待ち行列から除去され、新しいメッセージを追加するスペースが使用できるようになります。通知メッセージと応答済みメッセージを除去しても要求されたメッセージを追加する十分なスペースが得られない場合には、要求されたメッセージを追加するスペースができるまで、未応答の照会メッセージが除去されます。未応答の照会メッセージが除去される前に、省略時の応答が送られます。メッセージ待ち行列が折り返されると、CPI2420またはCPI2421がいっぱいだった待ち行列に送られ、折り返されたことを示します。これらのメッセージを送るのに待ち行列に空きがない場合には、待ち行列にメッセージを送ったユーザーのジョブ・ログに送られ、待ち行列QSYSOPRがいっぱいの時にはQHSTに送られます。

注:待ち行列が*WRAPを使用しており、ジョブがメッセージを送ると待ち行列が折り返される時には、折り返しを実行するために次の条件の場合にメッセージが除去されます。

- 待ち行列がジョブの中断モードまたは通知モードである。
- 待ち行列が待ち時間を指定された受け取り機能であったため、ジョブがメッセージ待機状態である。
- 待ち行列がALCOBJコマンドを経由してジョブにより割り振られる。

システム折り返し機能だけが、これらの条件の時に待ち行列からメッセージを除去できます。その他のジョブはまだ、これらの条件の時でも待ち行列からメッセージを除去することができません。*SNDMSGでは、これらの条件で他のジョブが待ち行列からメッセージを除去することはできません。

また、待ち行列が*WRAPを指定し、中断モードの時には、折り返し機能は中断処理プログラムが受け取ったメッセージだけを除去します。例えば、中断処理プログラムが待ち行列からすべてのメッセージを受け取らないうちにいっぱいになるような場合には、折り返しを実行するためにメッセージを除去することができないので、CPF2460が出される場合があります。

例

例1:通知モードへの転送方法の変更

```
CHGMSGQ MSGQ(JONES) DLVRY(*NOTIFY)
```

このコマンドは、JONESという名前のメッセージ待ち行列の転送方法を通知モードに変更します。メッセージがユーザーの待ち行列に送られると、ユーザーにはただちにアテンション・ライトと音響警報によって通知されます（導入されている場合）。

例2:中断モードへの転送方法の変更

```
CHGMSGQ MSGQ(INV) DLVRY(*BREAK) PGM(INVUPDT)
```

このコマンドは、INVという名前のメッセージ待ち行列の転送モードを*BREAKに変更し、メッセージがINVに到着した時にINVUPDTという名前のプログラムを呼び出します。他のジョブがメッセージ待ち行列INVの照会メッセージに応答することはできません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2406

&4のメッセージ待ち行列&3の&2の中断プログラム&1の呼び出しで権限エラーが起こった。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2437

MSGQ(*WRKSTN)は対話式以外には使用することができない。

CPF244E

総称メッセージ待ち行列の場合に指定した転送が正しくない。

CPF2446

システム・ログ・メッセージ待ち行列に指定した転送モードが正しくない。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2485

&4の&2メッセージ待ち行列&3の中断プログラム&1のパラメーターの数が正しくない。

CPF2507

バッチ・モードでMODE(*NOTIFY)を使用することはできない。

CPF2522

&4のメッセージ待ち行列&3のための&2の中断プログラム&1を呼び出すことができない。

CPF2534

MSGQ(*USRPRF)が指定されたが、ユーザー・プロファイルのメッセージ待ち行列がない。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

上

ニックネームの変更 (CHGNCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム変更(CHGNCK)コマンドは、システム配布ディレクトリー中の既存のニックネームを変更するために使用されます。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない共用ニックネームを変更するためには、機密保護管理者(*SECADM または*ALLOBJ)権限が必要です。所有している共用または私用ニックネームを変更するためには、特殊権限は不要です。
2. 私用ニックネームを変更できるのは所有者だけです。特殊権限は不要です。ただし、所有しているニックネームの所有権を変更するためには、新しい所有者として指定するユーザーのユーザー・プロファイルに対して少なくとも変更(*CHANGE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NCK	ニックネーム	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ニックネーム	文字値	
	要素 2: アクセス	<u>*PRIVATE</u> , *PUBLIC	
OWNER	所有者	名前, <u>*SAME</u>	オプション
NEWACCESS	新しいアクセス	*PRIVATE, *PUBLIC, <u>*SAME</u>	オプション
TEXT	ニックネームの記述	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
USRID	ユーザー識別コード	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値, <u>*SAME</u>	
	要素 2: アドレス	文字値	
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	オプション
	要素 1: リスト識別コード	文字値, <u>*SAME</u>	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	

上

ニックネーム (NCK)

変更される既存のニックネームおよびそのニックネームのアクセスを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

ニックネーム

変更するニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

*PRIVATE

私用ニックネームが変更されます。私用ニックネームを変更できるのは所有者だけです。

*PUBLIC

共用ニックネームが変更されます。共用ニックネームを変更できるのは、機密保護管理者(*SECADM)権限をもっているユーザーか所有者だけです。

これは必須パラメーターです。

上

所有者 (OWNER)

ニックネームを所有するユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。指定されたユーザー・プロファイルはシステムに存在していなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

ユーザー・プロファイル名

ニックネームの割り当て先のユーザーのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

新しいアクセス (NEWACCESS)

ニックネームの新しいアクセスを指定します。

*SAME

値は変更されません。この値はACCESSパラメーター上の値です。

*PRIVATE

このニックネームを他のユーザーと共用することはできません。このニックネームにアクセスして変更できるのは所有者だけです。

*PUBLIC

このニックネームは他のユーザーと共用することができます。ローカル・システムのユーザーなら誰でもこのニックネームにアクセスできますが、このニックネームを変更できるのは所有者か機密保護管理者(*SECADM)権限をもつユーザーだけです。

上

ニックネームの記述 (TEXT)

ニックネームの新しい記述を指定します。

*SAME

値は変更されません。

☒ニックネーム記述☒

ニックネームをさらに詳しく識別する記述を指定してください。最大50桁を指定できますが、アポストロフィで囲まなければなりません。

上

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザー・ニックネームが変更されるユーザーの新しいIDを指定してください。ユーザーIDおよびアドレスの指定の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

注: LSTIDパラメーターを指定した時には、このパラメーターを指定することはできません。

*SAMEが指定されない限り、ユーザーIDとアドレスの両要素を指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

このニックネームのユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。

指定できるユーザー・アドレスの値は次の通りです。

ユーザー・アドレス

このニックネームのアドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。

上

リスト識別コード (LSTID)

変更されるリスト・ニックネームの配布リストの新しいリストIDを指定します。

注: USRIDパラメーターを指定した時には、このパラメーターを指定することはできません。

*SAMEが指定されない限り、リストIDと修飾子の両要素を指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

上

例

```
CHGNCK NCK(SEC44A *PRIVATE) NEWACCESS(*PUBLIC)
        TEXT('エリア44Aの秘書') USRID(XZWS44A RCHVMP2)
```

このコマンドは、アクセス、ニックネーム記述、およびニックネームSEC44AのユーザーIDを変更します。ニックネームがユーザーのニックネームであり、そのユーザーがニックネームに対する正しい権限をもっていると、そのニックネームは変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF8AA1

ライブラリーQUSRSYSの導入が完全でない。

CPF9A80

共通ニックネーム&1は使用中である。

CPF9A89

ニックネーム機能が正常に実行されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

ネットワーク属性変更 (CHGNETA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク属性変更 (CHGNETA)コマンドは、システムのネットワーク属性を変更します。ネットワーク属性は通信環境についての制御情報です。ネットワーク属性には、ネットワーク活動および通信に使用することのできる仕様が含まれています。

制約事項:

1. このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)付きで出荷されます。このコマンドの出荷時には、権限が機密保護担当者にだけ与えられます。機密保護担当者は、このコマンドの使用を他のユーザーに認可することができます。
2. ネットワーク属性ネットワーク・ジョブの処置 (JOBACN), DDM/DRDA 要求のアクセス (DDMACC), およびクライアント要求アクセス (PCSACC)を変更するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限と入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限の両方がユーザーに必要です。
3. ネットワーク属性クラスターへの追加可能 (ALWADDCLU)を変更するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要が必要です。

注:

1. 通信名の指定については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションにあります。
2. 拡張プログラム間通信機能(APPC),拡張対等ネットワーク機能(APPN),およびHIGH-PERFORMANCE ROUTING (HPR) については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーク・カテゴリを参照してください。
3. このコマンドの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。またはCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406) にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SYSNAME	システム名	文字値, *SAME	オプション
LCLNETID	ローカル・ネットワークID	通信名, *SAME	オプション
LCLCPNAME	ローカル制御点名	通信名, *SAME	オプション
LCLLOCNAME	省略時ローカル・ロケーション名	通信名, *SAME	オプション
DFTMODE	省略時モード	通信名, *SAME	オプション
NODETYPE	ノード・タイプ	*SAME, *ENDNODE, *NETNODE, *BEXNODE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
DTACPR	データ圧縮	1-2147483647, *SAME, *NONE, *REQUEST, *ALLOW, *REQUEST	オプション
DTACPRNM	中間データ圧縮	1-2147483647, *SAME, *NONE, *REQUEST	オプション
MAXINTSSN	中間セッションの最大数	0-9999, *SAME	オプション
RAR	経路追加抵抗	0-255, *SAME	オプション
NETSERVER	ネットワーク・ノード・サーバー	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー・ネットワークID	通信名, *LCLNETID	
	要素 2: 制御点名	通信名, *ANY	
ALRSTS	警報状況	*SAME, *ON, *OFF, *UNATTEND	オプション
ALRLOGSTS	警報ログ状況	*SAME, *NONE, *LOCAL, *RCV, *ALL	オプション
ALRPRIFP	警報 1 次フォーカル・ポイント	*SAME, *NO, *YES	オプション
ALRDFTFP	省略時の警報フォーカル・ポイント	*SAME, *NO, *YES	オプション
ALRBCKFP	警報バックアップ・フォーカル・ポイント	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *LCLNETID	
	要素 2: 制御点名	通信名	
ALRRQSF	要求する警報フォーカル・ポイント	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *LCLNETID	
	要素 2: 制御点名	通信名	
ALRCTLD	警報制御装置記述	名前, *SAME, *NONE	オプション
ALRHLCNT	警報保留カウント	0-32767, *SAME, *NOMAX	オプション
ALRFTR	警報フィルター	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 警報フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBACN	ネットワーク・ジョブの処置	*SAME, *REJECT, *FILE, *SEARCH	オプション
MAXHOP	最大HOPカウント	1-255, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DDMACC	DDM/DRDA 要求のアクセス	単一値: <u>*SAME</u> , *REJECT, *OBJAUT その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: DDM/DRDA 要求のアクセス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
PCSACC	クライアント要求アクセス	単一値: <u>*SAME</u> , *REJECT, *OBJAUT, *REGFAC その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: クライアント要求アクセス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
DFTNETTYPE	省略時のISDN ネットワーク・タイプ	文字値, <u>*SAME</u> , *ATT, *DBP1TR6, *ETSI, *JAPAN, *NISDN, *NORTEL, *NORTHAMT1	オプション
DFTCNNLST	省略時のISDN接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
ALWANYNET	ANYNET可能サポート	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
NWSDOMAIN	ネットワーク・サーバー・ドメイン	文字値, <u>*SAME</u> , *SYSNAME	オプション
ALWVRTAPPN	APPN仮想サポート使用可能	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
ALWHPRTW	HPR トランスポート・タワー使用可能	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
VRTAUTODEV	仮想制御装置自動作成装置	1-254, <u>*SAME</u>	オプション
HPRPTHMTR	HPRパス・スイッチ・タイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク優先順位	1-10000, <u>*SAME</u> , *NONE	
	要素 2: 高優先順位	1-10000, <u>*SAME</u> , *NONE	
	要素 3: 中優先順位	1-10000, <u>*SAME</u> , *NONE	
	要素 4: 低優先順位	1-10000, <u>*SAME</u> , *NONE	
ALWADDCLU	クラスターへの追加可能	<u>*SAME</u> , *NONE, *ANY, *RQAUT	オプション
MDMCNTRYID	モデムの国別または地域ID	文字値, <u>*SAME</u>	オプション

上

システム名 (SYSNAME)

システムに割り当てられた名前を指定します。名前は、最大8文字の英数字にすることができます。システム名が設定されない場合には、初期プログラム・ロード(IPL)で省略時の値としてマシン製造番号が使用されます(必要な場合には、最初の文字が英字に変更されます)。

*SAME

システム名は変更されません。

文字値 システムを識別する名前を指定してください。システム名を変更する要求が出された時には(IPL時に入力された場合は除きます)、保留中のシステム名が変更されます。保留中のシステム名は、次のシステムのIPL時に現行システム名となります。

ローカル・ネットワークID (LCLNETID)

システムに割り当てられたローカル・ネットワークIDを指定します。

*SAME

ローカル・ネットワークIDは変更されません。

通信名 システムのローカル・ネットワークIDを指定してください。

ローカル制御点名 (LCLCPNAME)

システムのローカル制御点の名前を指定します。ローカル制御点名がセットされていない場合には、初期プログラム・ロード (IPL)で省略時の値としてマシン製造番号が使用されます（必要な場合には、最初の文字が英字に変更されます）。

*SAME

ローカル制御点名は変更されません。

通信名 システムのローカル制御点の名前を指定してください。

省略時ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)

システムの省略時ローカル・ロケーション名を指定します。省略時ローカル・ロケーション名がセットされない場合には、初期プログラム・ロード(IPL)で省略時の値としてマシン製造番号が使用されます（必要な場合には、最初の文字が英字に変更されます）。

*SAME

ローカル・ロケーション名は変更されません。

通信名 システムの省略時ローカル・ロケーションの名前を指定してください。

省略時モード (DFTMODE)

APPCおよびAPPNロケーションの省略時モードを指定します。

*SAME

省略時のモードは変更されません。

通信名 省略時のモードを指定してください。モード名SNASVCMGおよびCPSVCMGを使用することはできません。省略時のモードにブランクを指定することは、すべてブランクのモードを指定することと同じです。

ノード・タイプ (NODETYPE)

APPNノードのタイプを指定します。

*SAME

ノード・タイプは変更されません。

***ENDNODE**

ノードは、他のノードにネットワーク・サービスを提供しませんが、接続されたネットワーク・サーバーのサービスを使用してAPPNネットワークに加入するか、あるいは下位入り口ネットワーク・ノードと同様に対等環境で作動することができます。 **警報 1 次フォーカル・ポイント (ALRPRIFP)**パラメーターか**省略時の警報フォーカル・ポイント (ALRDFTFP)**パラメーターのいずれかに*YESを指定した場合には、*ENDNODEを指定することはできません。

***NETNODE**

ノードは、ローカル・ユーザーおよびサービス中のエンド・ノードと下位入り口ネットワーク・ノード用に中間ルーティング、経路選択サービス、および配布ディレクトリー・サービスを提供します。

***BEXNODE**

このノードは分岐拡張ノードとして機能します。このノードはバックボーンAPPN ネットワーク内ではエンド・ノードとして機能し、そのローカル・ドメインではエンド・ノードに対するネットワーク・ノード・サーバーとして機能します。

上

データ圧縮 (DTACPR)

システムがSNAエンド・ノードである場合に使用されるデータ圧縮のレベルを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

データ圧縮は、セッションで使用することができません。

***ALLOW**

リモート・システムによって要求された場合には、ローカル・システムでセッション時にデータ圧縮を使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。

データ圧縮がリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用されるデータ圧縮レベルは、要求されたレベルと構成されたレベルのどちらか低い方になります。

***REQUEST**

データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、リモート・システムでは、要求を拒否したり、あるいはその要求をより低い圧縮レベルに折衝することができます。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。

ローカル・システムが要求することになるデータ圧縮レベルは、構成されたレベルです。折衝されたデータ圧縮レベルが構成された値を超えることはできません。

データ圧縮がリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用されるデータ圧縮レベルは、要求されたレベルと構成されたレベルのどちらか低い方になります。

***REQUIRE**

セッションでデータ圧縮が必要です。 リモート・システムがローカル・システムの正確な必要レベルの圧縮を折衝しない場合には、セッションは確立されません。

ローカル・システムが必要とするデータ圧縮レベルは、構成されたレベルです。

1から2147483647

データが圧縮される最大回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。 セッションによって使用されるリンクの回線速度がこの指定された回線速度より低いか等しい場合には、*REQUESTが指定されたかのように、セッションのためにデータ圧縮が折衝されます。そうでない場合には、*ALLOWが指定されたかのように、セッションのために圧縮が折衝されます。

上

中間データ圧縮 (DTACPRINM)

システムがSNA中間ノードである場合に要求するデータ圧縮のレベルを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

システムがSNA中間ノードである時に、データの圧縮が必要であることはリモート・システムに通知されません。

***REQUEST**

システムがSNA中間ノードである時に、データ圧縮がリモート・システムに要求されます。

1から2147483647

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。受信または送信のいずれかのリンクの回線速度がこの指定された回線速度より低いか等しい場合には、データ圧縮はリモート・システムから要求されます。そうでない場合には、データを圧縮するようにリモート・システムには要求されません。

上

中間セッションの最大数 (MAXINTSSN)

APPN中間セッションの最大数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**ノード・タイプ (NODETYPE)**パラメーターに*NETNODEまたは*BEXNODEが指定されている場合だけです。

***SAME**

APPN中間セッションの最大数は変更されません。

0から9999

中間セッションの最大数を指定してください。

上

経路追加抵抗 (RAR)

APPN経路追加負荷係数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**ノード・タイプ (NODETYPE)**パラメーターに*NETNODEまたは*BEXNODEが指定されている場合だけです。

*SAME

経路追加負荷係数は変更されません。

0から255

経路負荷係数を指定します。

上

ネットワーク・ノード・サーバー (NETSERVER)

APPNネットワーク・ノード・サーバーを指定します。このパラメーターが使用されるのは、**ノード・タイプ (NODETYPE)**パラメーターに*ENDNODEまたは*BEXNODEが指定されている場合だけです。

ネットワーク・ノード・サーバーは、制御点名によって修飾されたネットワークID (ID)です。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

現行のネットワーク・ノード・サーバーのリストは消去されます。

その他の値 (最大5個指定可能)

要素1: サーバー・ネットワークID

*LCLNETID

使用される値は、ノード・サーバーが参照された時点の**ローカル・ネットワークID (LCLNETID)**パラメーターの現行値です。

通信名 ネットワーク・ノード・サーバーとなるローカル・ネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点名

***ANY** サービスを提供する最初のネットワーク・ノードがネットワーク・ノード・サーバーとなります。**ローカル・ネットワークID (LCLNETID)**パラメーターに指定されたものと同じネットワークIDを持つ任意のネットワーク・ノードを潜在的なネットワーク・ノード・サーバーとすることができません。

通信名 ネットワーク・ノード・サーバーの制御点名を指定してください。

上

警報状況 (ALRSTS)

ローカル警報が作成されるかどうかを指定します。警報状況が活動状態の場合には、警報可能として定義されているすべてのメッセージ、およびネットワーク回線、ローカル装置、または制御装置の永続エラーあるいはプログラミングおよび操作員エラーを報告するすべてのメッセージに警報が作成されます。

*SAME

値は変更されません。

***ON** 不在時状態を除くすべての警報状態についてシステムによって警報が作成されます。

***OFF** 警報はシステムによって作成されません。

*UNATTEND

メッセージ記述追加 (ADDMSGD)またはメッセージ記述変更 (CHGMSGD)コマンドの**警報オプション (ALROPT)**パラメーターに*UNATTENDが指定されているメッセージを含めて、すべての警報条件に対し、システムによって警報が作成されます。

上

警報ログ状況 (ALRLOGSTS)

記録される警報を指定します。

*SAME

警報ロギングは変更されません。

*NONE

警報は記録されません。

*LOCAL

ローカルで作成された警報だけが記録されます。

*RCV 他のノードから受信した警報だけが記録されます。

*ALL ローカルに作成された警報と他のノードから受け取られた警報の両方が記録されます。

上

警報1次フォーカル・ポイント (ALRPRIFP)

システムが警報1次フォーカル・ポイントであるかどうかを指定します。システムが警報1次フォーカル・ポイントとして定義されている場合には、制御の範囲内に明示的に定義されているすべてのネットワーク・ノードから警報が受け取られます。

*SAME

警報1次フォーカル・ポイントは変更されません。

*NO このシステムは警報1次フォーカル・ポイントではありません。制御の範囲の中に「活動状態—制御範囲内」または「追加保留中—制御範囲内」の状況になっているノードが1つでもあれば、このパラメーターは*YESから*NOに変更できません。制御の範囲内にあるすべてのノードの状況を参照するには、制御範囲状況表示 (DSPSOCSTS)コマンドを使用してください。

*YES システムは、警報1次フォーカル・ポイントとして定義されていて、制御の範囲内に明示的に定義されているネットワーク中のすべてのノードにフォーカル・ポイント・サービスを提供します。システムがフォーカル・ポイントとして定義されている場合には、制御の範囲内にあるノードから送られてくる警報を確実に記録するために、**警報ログ状況 (ALRLOGSTS)**パラメーターに*ALLまたは*RCVを指定する必要があります。

上

省略時の警報フォーカル・ポイント (ALRDFTFP)

システムが省略時の警報フォーカル・ポイントとなるかどうかを指定します。このシステムが省略時のフォーカル・ポイントとして定義されている場合には、ネットワーク中の他のフォーカル・ポイントの制御の範囲内に明示的に定義されていないネットワーク中のすべてのノードから警報が受け取られます。

*SAME

省略時の警報フォーカル・ポイントは変更されません。

***NO** このシステムは省略時の警報フォーカル・ポイントではありません。制御の範囲内に活動状態－制御範囲内または追加保留中－制御範囲内の状況のノードがある場合には、このパラメーターを*YESから*NOに変更することはできません。制御の範囲内にあるすべてのノードの状況を参照するには、制御範囲状況表示 (DSPSOCSTS)コマンドを使用してください。

***YES** システムは、省略時の警報フォーカル・ポイントとなり、警報1次フォーカル・ポイントまたは別の省略時の警報フォーカル・ポイントによってサービスされないネットワーク中のすべてのノードにフォーカル・ポイント・サービスを提供します。システムがフォーカル・ポイントとして定義されている場合には、制御の範囲内にあるノードから送られてくる警報を確実に記録するために、警報ログ状況 (ALRLOGSTS)パラメーターに*ALLまたは*RCVを指定する必要があります。システムがフォーカル・ポイントとして定義されている場合には、APPNノードのタイプの値は*NETNODEでなければなりません。

上

警報バックアップ・フォーカル・ポイント (ALRBCKFP)

1次フォーカル・ポイントが使用できない場合に、警報フォーカル・ポイント・サービスを提供するシステムの名前を指定します。

単一値

*SAME

この値は変更されません。

***NONE**

バックアップ・フォーカル・ポイントは定義されません。

要素1: ネットワークID

***LCLNETID**

バックアップ・フォーカル・ポイントのネットワークIDはローカル・システムのものと同じです。

通信名 警報用のバックアップ・フォーカル・ポイント・サービスを提供するシステムのネットワークIDを指定します。

要素2: 制御点名

通信名 警報用のバックアップ・フォーカル・ポイント・サービスを提供するシステムの制御点名を指定します。

上

要求する警報フォーカル・ポイント (ALRRQSFP)

警報フォーカル・ポイント・サービスを提供するために要求されたシステムの名前を指定します。

単一値

*SAME

この値は変更されません。

***NONE**

フォーカル・ポイントは要求されず、現行のフォーカル・ポイントが取り消されます。

要素1: ネットワークID

***LCLNETID**

要求されたフォーカル・ポイントのネットワークIDはローカル・システムのものと同じです。

通信名 警報用のバックアップ・フォーカル・ポイント・サービスを提供するために要求されたシステムのネットワークIDを指定します。

要素2: 制御点名

通信名 警報用のバックアップ・フォーカル・ポイント・サービスを提供するために要求されたシステムの制御点名を指定します。

上

警報制御装置記述 (ALRCTL D)

制御装置警報セッションで警報を送信するために使用する制御装置の名前を指定します。指定できるのは、HOSTタイプまたはAPPCタイプの制御装置だけです。このコマンドを使用する時には、制御装置をオンに構成変更する必要はありませんが、制御装置警報セッションで警報処理を行うためには制御装置をオンに構成変更しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

警報制御装置記述はありません。制御装置記述を*NONEとして、**警報状況 (ALRSTS)**パラメータに*ONを指定し、**警報1次フォーカル・ポイント (ALRPRIFP)**パラメータに*YESを指定すると、ローカル警報だけが作成され、記録されることを意味します。

名前 警報制御装置セッションで警報に使用される制御装置の名前を指定してください。システムにフォーカル・ポイントがある（例えば、ノードが別のシステムの制御の範囲にある）場合には、この制御装置は無視されます。

上

警報保留カウント (ALRHLCNT)

警報が警報制御装置セッション(ALRCTL Dネットワーク属性)を介して送信される前に作成される警報の最大数を指定します。指定された数の警報が作成されるまで、警報はシステムによって保留されます（待ち行列に入れられる）。このパラメータは、警報が送信される回数を減らすことによって、制限された資源を介して送信される警報を管理するために使用することができます。

注: ALRHLCNTネットワーク属性は、ALRCTL Dネットワーク属性が使用される時にだけ適用されます。管理サービス・セッションAPPNおよび制御の範囲サポートが使用される時には、ALRHLCNT値は無視されます。

***SAME**

警報保留カウント・ネットワーク属性は変更されません。

***NOMAX**

警報は無制限に保留されます。 現行の警報保留カウントが最大値です。 ALRHLDCNT 値を低い値に変更することによって、後で警報を送信することができます。

0から32767

送信する前に作成できる警報の最大数を指定してください。 この最大数に達するまで、警報は「保留」状況になっています。 値0を指定した場合には、警報は作成されると同時に送信されません。

上

警報フィルター (ALRFTR)

警報を処理する時に警報管理機能によって使用される警報フィルターの修飾名を指定します。 警報フィルターは、システム補助記憶域プール(ASP)または基本ユーザーASPに常駐します。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

警報フィルターは使用されません。

修飾子1: 警報フィルター

名前 警報フィルターの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。 スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 警報フィルターが入っているライブラリーを指定します。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

SNADSネットワークを介して受け取られたメッセージを、ユーザー・プロファイルにメッセージ待ち行列が指定されていないユーザーまたは自身のメッセージ待ち行列が使用可能でないユーザーに送るために使用するメッセージ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。 メッセージ待ち行列は、システム補助記憶域プール(ASP)または基本ユーザーASP中に存在しなければなりません。

単一値

***SAME**

メッセージ待ち行列は変更されません。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 メッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

注: ライブラリー名として*LIBLが使用されている時には、指定されたオブジェクト名を持つメッセージ待ち行列を見つけるために、このコマンドを呼び出すスレッドのライブラリー・リストが検索されます。メッセージ待ち行列が見つかった場合には、それが見つかったライブラリーの名前が、記憶される名前として使用されます。メッセージ待ち行列が見つからない場合には、例外信号が出され、ネットワーク属性は変更されません。ライブラリー名または*CURLIBが指定された時に、このコマンドはメッセージ待ち行列の検索を試みます。指定したライブラリーにメッセージ待ち行列が見つからない場合には、診断メッセージが送られます。コマンド上の他のすべてのパラメーターが正しく指定されている場合には、指定されたライブラリー中でこのコマンドがメッセージ待ち行列を見つけることができてもできなくても、MSGQネットワーク属性が修飾されたメッセージ待ち行列名に変更されます。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

SNADSネットワークを介して受け取られたスプール・ファイルが自身の出力待ち行列を使用できないユーザーのために、送られる出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

単一値

***SAME**

出力待ち行列は変更されません。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

注: ライブラリー名として*LIBLが使用されている時には、指定されたオブジェクト名を持つ出力待ち行列を見つけるために、このコマンドを呼び出すスレッドのライブラリー・リストが検索されます。出力待ち行列が見つかった場合には、それが見つかったライブラリーの名前が、記憶される名前の中で使用されません。出力待ち行列が見つからない場合には、例外信号が出され、ネットワーク属性は変更されません。

ライブラリー名または*CURLIBを指定した時には、このコマンドはこの出力待ち行列を見つけようとしません。指定したライブラリーに出力待ち行列を見つけることができなかった場合には、診断メッセージが送られます。コマンドの他のすべてのパラメーターが正しく指定されていた場合には、このコマンドが指定されたライブラリー中にこの出力待ち行列を見つけることができなくても、OUTQネットワーク属性が出力待ち行列名に変更されます。

上

ネットワーク・ジョブの処置 (JOBACN)

SNADSネットワークを介してシステムによって受け取られた入力ストリームに対して取られる処置を指定します。

***SAME**

入力ストリームに対する処置は変更されません。

***REJECT**

入力ストリームはシステムによって拒否されます。この処置によって、システムはネットワークから受信されたジョブ・ストリームを保護することができます。

***FILE** 送り先のユーザーによって受け取られたネットワーク・ファイルの待ち行列で入力ストリームがファイルされます。ここでこのユーザーは、入力ストリームを表示、終了、または受け取るか、あるいはジョブ待ち行列に投入することができます。

***SEARCH**

入力ストリームに対して取られる処置を決定するためにネットワーク・ジョブ項目のテーブルが検索されます。

上

最大HOPカウント (MAXHOP)

SNADSネットワークでこのノードを起点とする配布待ち行列項目を受信し、経路上でその最終の宛先に経路指定できる最大回数を指定します。この数値を超えた場合には、配布待ち行列項目は終了し、送信側にフィードバック状況が送り戻されます。

***SAME**

配布待ち行列項目を受け取り、経路指定できる最大回数は変更されません。

1から255

終了までに配布待ち行列項目を受け取り、経路指定できる最大回数を指定してください。

上

DDM/DRDA 要求のアクセス (DDMACC)

システムが、このシステムのデータ資源をアクセスするためにリモート・システムから送られてくる分散データ管理機能(DDM)要求および分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー(DRDA)要求をどのように処理するのかを指定します。DDM またはDRDA接続はAPPCの会話、活動TCP/IPまたはOPTICONNECT接続を意味します。このパラメーターに対する変更は即時に効力を持ち、DRDA、DDM、またはDB2 マルチシステム・アプリケーションに適用されます。しかし、現在システム上で実行中のジョブは、新しい値を使用しません。DDMACC値はジョブが最初に開始された時にのみアクセスされます。

プログラム名が指定された場合には、そのプログラムはシステム補助記憶域プール(ASP)または基本ユーザーASP中に存在しなければなりません。

単一値

*SAME

リモート・システムからのDDM要求の処理方法は変更されません。

*REJECT

このシステムでは、リモート・システムからのDDM要求およびDRDA要求は許されません。しかし、このシステムでは、まだDDMまたはDRDAを使用してリモート・システムのファイルまたはSQLテーブルにアクセスすることができます。ソース(クライアント)システムは、*REJECTを指定した他のすべてのシステムのファイルまたはSQLテーブルにアクセスすることはできません。

*OBJAUT

DDMまたはDRDAジョブに関連するユーザー・プロファイルがファイルに対する権限を認可されている場合には、すべてのファイル要求またはリモートSQL要求が受け入れられます。ファイルに対する読み取り、書き出し、または更新などのオブジェクト権限も存在していなければなりません。

修飾子1: DDM/DRDA 要求のアクセス

名前 妥当性検査プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 妥当性検査プログラムが入っているライブラリーを指定します。

注: ライブラリー名として*LIBLが使用されている時には、プログラムを見つけるために、このコマンドを呼び出すスレッドのライブラリー・リストが検索されます。プログラムが見つかった場合には、それが入っているライブラリーが記憶される名前の中で使用されます。プログラムが見つからなかった場合には、例外が通知され、ネットワーク属性は変更されません。

ライブラリー名または*CURLIBを指定した場合には、コマンドはその中でプログラムを見つけようとしません。プログラムが見つかった場合には、コマンド上の他のすべてのパラメーターが正しく指定されていれば、DDMACCネットワーク属性が修飾プログラムに変更されます。プログラムが見つからなかった場合には、診断メッセージが送られます。

プログラム名は、システム・オブジェクト・レベルの機密保護を補足することのできるユーザー妥当性検査プログラムを識別します。 パーソナル・コンピュータのサポート/38アプリケーションでは、ユーザー機密保護出口プログラムのパラメーター・リストも使用されます。 ユーザー出口プログラムでは、共通(*PUBLIC)および専用権限ファイルに対するユーザーのアクセスを制限することができます。 ターゲット分散データ管理プログラムのサポートは、ファイルが参照されるたびにユーザー・プログラムを呼び出します。 ユーザー出口プログラムは、要求を続けるか終了するかをDDMに指示します。

上

クライアント要求アクセス (PCSACC)

IBM System i Access for Windows 要求の処理方法を指定します。要求がどのように処理されるかを指示する特殊値またはプログラム名を指定しなければなりません。これは、IBM System i Access for Windows アプリケーションに対する、より多くの制御を許可します。このパラメーターに対する変更は即値です。しかし、現在システム上で実行中のジョブは、新しい値を使用しません。PCSACC値がアクセスされるのは、ジョブが最初に開始された時だけです。

プログラム名が指定された場合には、そのプログラムはシステム補助記憶域プール(ASP)または基本ユーザーASP中に存在しなければなりません。

単一値

*SAME

この値は変更されません。

*REJECT

システムは、クライアントからの要求をすべて拒否します。

*OBJAUT

このクライアント要求の通常オブジェクト権限（例えば、転送機能要求のためにデータベース・ファイルからデータを検索する権限）が検査されます。

*REGFAC

システムはシステムの登録機能を使用して、実行する出口プログラム（ある場合）を判別します。出口点に出口プログラムが定義されていないで、この値が指定された場合には、*OBJAUTが使用されます。

修飾子1: クライアント要求アクセス

名前 プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

注: ライブラリー名として*LIBLが使用されている時には、プログラムを見つけるために、このコマンドを呼び出すスレッドのライブラリー・リストが検索されます。プログラムが見つかった場合には、それが入っているライブラリーが記憶される名前の中で使用されます。プログラムが見つからなかった場合には、例外が通知され、ネットワーク属性は変更されません。

ライブラリー名または*CURLIBを指定した場合には、コマンドはその中でプログラムを見つけようとし、プログラムが見つかった場合には、コマンドの他のパラメーターがすべて正しく指定されていれば、PCSACCネットワーク属性は修飾プログラム名に変更されます。プログラムが見つからなかった場合には、診断メッセージが送られます。

プログラム名は、システムのオブジェクト・レベルの機密保護を補足できるユーザー提供のIBM System i Access for Windows ホスト・システム・アプリケーション出口プログラムの名前です。このユーザー出口プログラムは、クライアントから処理される要求を制限することができます。各パーソナル・コンピューター・サポート・アプリケーション・プログラムは、クライアントからの要求のために出口プログラムを呼び出します。ユーザー出口プログラムには、次の2つのパラメーターが渡されます。最初のパラメーターは、クライアントの要求（アプリケーションの名前および要求のタイプ）を記述します。2番目のパラメーターは、このクライアント要求を処理するかどうかをクライアント・サポート・アプリケーションに指示するために、出口プログラムによって使用されます。

上

省略時のISDN ネットワーク・タイプ (DFTNETTYPE)

デジタル総合サービス網(ISDN)ネットワーク・タイプのシステム省略時の値を指定します。オペレーティング・システムは、もはやこのネットワーク属性を使用しません。このネットワーク属性に対して行われた変更は効力を持ちません。

上

省略時のISDN接続リスト (DFTCNLST)

デジタル総合サービス網(ISDN)接続リストのシステム省略時の値を指定します。オペレーティング・システムは、もはやこのネットワーク属性を使用しません。このネットワーク属性に対して行われた変更は効力を持ちません。

上

ANYNET可能サポート (ALWANYNET)

通信APIがそのAPIに固有でない他の通信トランスポートを使用できるようにするネットワーク属性を指定します。例にはICF OVER TCP/IPまたはSOCKETS OVER SNAが含まれています。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** SNAトランスポートは使用されません。

***YES** SNAトランスポートが使用されます。

上

ネットワーク・サーバー・ドメイン (NWSDOMAIN)

属しているシステム上の、すべてのファイル・サーバー入出力プロセッサ(FSIOP)としても知られるすべての統合PCサーバーに対するLANサーバー・ドメインを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSNAME

現行システム名が使用されます。

文字値 1から8文字のシステム名を指定します。

上

APPN仮想サポート使用可能 (ALWVRTAPPN)

APPNセッションおよび装置に仮想制御装置の使用を許可するネットワーク属性を識別します。

注: HPRトランスポート・タワー・サポートを使用しているセッションの場合には、このパラメーターの設定は影響しません。このパラメーターの影響を受けるのは、APPN (非HPR)セッションのトラフィックだけです。セッションにHPRトランスポート・タワー・サポートが使用されている場合には、このネットワーク属性の設定とは無関係に仮想制御装置が使用されます。

*SAME

値は変更されません。APPNセッションおよび装置に対する仮想制御装置の使用許可は、*NOの値として出荷されます。

***NO** 仮想APPN制御装置は使用されません。

***YES** 仮想APPN制御装置が使用されます。

上

HPR トランスポート・タワー使用可能 (ALWHPRTWR)

APPNセッションのトラフィックに対するHPRトランスポート・タワー・サポートの使用を許可するネットワーク属性を指定します。

*SAME

値は変更されません。APPNセッションのトラフィックに対するHPRトランスポート・タワー・サポートの使用は、*NOの値として出荷されます。

***NO** HPRトランスポート・タワーは使用されません。

***YES** HPRトランスポート・タワーが使用されます。

上

仮想制御装置自動作成装置 (VRTAUTODEV)

仮想制御装置上に自動的に作成されるAPPC装置の数の上限を指定します。

***SAME**

値は変更されません。仮想制御装置上に自動的に作成されるAPPC装置の数の限度の値は、100として出荷されます。

1から254

仮想制御装置上に自動的に作成されるAPPC装置の数の限度を指定してください。仮想制御装置に接続された装置の数が指定された値より大きいか等しい場合には、その仮想制御装置について追加のAPPC装置は自動的に作成されません。手操作であれば、この限度を超えて追加の装置を作成することができます。

上

HPRパス・スイッチ・タイマー (HPRPTHTMR)

RTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さ（分数）を指定します。次の4つの定位置の値を指定して、セッションのトラフィックのタイプを基礎として許可される時間を制御することができます。

- ネットワーク優先順位のトラフィック
- 高優先順位のトラフィック
- 中優先順位のトラフィック
- 低優先順位のトラフィック

要素1: ネットワーク優先順位

***SAME**

値は変更されません。ネットワーク伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さの値は、1分として出荷されます。

***NONE**

パス・スイッチは許可されません。

1から10000

ネットワーク伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さ（分数）を指定してください。

要素2: 高優先順位

***SAME**

値は変更されません。高伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さの値は、2分として出荷されます。

***NONE**

パス・スイッチは許可されません。

1から10000

高伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さ（分数）を指定してください。

要素3: 中優先順位

***SAME**

値は変更されません。中伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さの値は、4分として出荷されます。

***NONE**

パス・スイッチは許可されません。

1から10000

中伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さ（分数）を指定してください。

要素4: 低優先順位

***SAME**

値は変更されません。低伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さの値は、8分として出荷されます。

***NONE**

パス・スイッチは許可されません。

1から10000

低伝送優先順位を持つRTP接続のパス・スイッチの試みのために許可する時間の長さ（分数）を指定してください。

上

クラスターへの追加可能 (ALWADDCLU)

このシステムによって他のシステムをクラスター中のノードとして追加できるようにするかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。システムは値*NONEで出荷されています。

***NONE**

他のシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することはできません。

***ANY** 他のすべてのシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することができます。

***RQSAUT**

クラスターの追加要求が認証された後に限り、他のすべてのシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することができます。

上

モデムの国別または地域ID (MDMCNTRYID)

モデムと関連した国別または地域別IDを指定します。モデムの有効な国別または地域別IDのリストは、このパラメーターのプロンプトが出されている間にF4キーを押すと表示されます。

MDMCNTRYIDはシステム入出力アダプターの内部にあるモデムの各国特有または各地域特有の省略時特性を定義します。この値は、適切な操作を保証するために、また、一部の国または地域の法的要件を満たすように、正しく構成しなければなりません。モデムの国別または地域別IDが設定されていないと、アダプターは回線のオンへの変更を正常に実行できません。

***SAME**

値は変更されません。システムはブランクの値で出荷されています。

文字値 モデムによって使用される国別または地域別のIDを指定します。

例

例1: 保留中のシステム名の変更

```
CHGNETA  SYSNAME(SYSTEST) ALRSTS(*ON)
          ALRPRIFP(*YES)  ALRLOGSTS(*LOCAL)
```

このコマンドは、保留中のシステム名を変更します。現行システムは次回のIPL時に変更されます。ローカル警報が生成されて記録され、このシステムは1次フォーカル・ポイントになります。

例2: ノード・サーバーの変更

```
CHGNETA  LCLCPNAME(CPNAME) LCLNETID(NETNAME)
          NETSERVER((*LCLNETID BOSTON)
                   (MINN ROCHEST) (MAINE BANGOR))
```

このコマンドは、ネットワーク・ノード・サーバーのローカル制御点の名前、ネットワークID、およびリストを変更します。サーバーが使用されるのは、ノード・タイプが*ENDNODEまたは*BEXNODEである場合だけです。

例3: ノード・サーバーのリストの消去

```
CHGNETA  NETSERVER(*NONE) DDMACC(DDMLIB/DDMPGM)
```

このコマンドは、ネットワーク・ノード・サーバーのリストを消去して、DDMアクセス・プログラムの名前を設定します。

例4: APPN仮想オブジェクト・モデルの実装

```
CHGNETA  ALWVRTAPPN(*YES)
```

このコマンドによって、今後のAPPN装置およびセッションでは仮想制御装置が使用されます。

例5: APPNセッションでのHPRトランスポート・タワーの許可

```
CHGNETA  ALWHPRTWR(*YES) HPRPTHMR(1 2 4 8)
```

このコマンドは、可能な場合にAPPNセッション・トラフィックにHPRトランスポート・タワー・サポートを使用できるようにします。これは、また、HPRパス・スイッチ・タイマーを省略時の値にリセットします。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFE018

サブシステムQSYSWRKが非活動状態か終了中である。

CPFE033

IP OVER IPXが活動化されていません。

CPFE034

IP OVER IPXが活動化されましたが、エラーが起きました。

680 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

CPFE035

IP OVER IPXが非活動化されましたが、エラーが起きました。

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1007

値&1の文字が正しくない。

CPF1066

ネットワーク属性は変更されなかった。

CPF1097

一部のネットワーク属性の変更が認可されていない。

CPF1844

ネットワーク属性&1をアクセスすることができない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

ネットワーク・ジョブ項目変更 (CHGNETJOBE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ジョブ項目変更(CHGNETJOBE)コマンドは、システム中の既存のネットワーク・ジョブ項目を変更します。ネットワーク・ジョブ項目は、ネットワーク・ジョブ投入(SBMNETJOB)コマンドを使用して入力ストリームをユーザーに送信する時に取られる処置を決めるために使用されます。

この項目により、入力ストリームが自動的に投入されるか、ユーザーのネットワーク・ファイルの待ち行列に入れられるか、あるいは拒否されるかが決まります。また、この項目は、入力ストリームの中で参照されるジョブ記述に対する権限を検査するために使用されるユーザー・プロファイルを指定します。このシステムにジョブを投入する各ユーザーまたは配布グループごとに1つの項目がなければなりません。ネットワーク・ジョブ投入の全般的な制御を行うネットワーク属性には、JOBACN (ジョブ処置)があります。その値は、処置を見つけるためにネットワーク・ジョブ・テーブルが検索される前に、*SEARCHになっていなければなりません。ネットワーク属性が*REJECT の場合には、すべての着信ジョブが拒否されます。ネットワーク属性が*FILEの場合には、ネットワーク・ジョブ項目にかかわらず、すべての着信ネットワーク・ジョブがネットワーク・ファイルのユーザーの待ち行列に保管されます。

各ネットワーク・ジョブ項目は、送信側のユーザーID (2つの部分からなる) によって識別されます。入力ストリームが到着すると、ネットワーク・ジョブ項目を見つけるために送信側ユーザーのユーザーIDが使用されます。該当項目が見つからなければ、項目を見つけるためにユーザーIDの第2の部分が使用され、第1の部分には*ANYが使用されます。この検索がうまくいかなければ、ユーザーIDの両方の部分に*ANYを使用して検索が行われます。該当項目が見つからなければ、ジョブは拒否されます。

制約事項:

- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- ノードIDの内部値は、使用しているワークステーション (言語) のタイプにより、CHGNETJOBEコマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。FROMUSRIDパラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ノードID 値に関する規則に合っていない場合や、定義されたどのノードの内部値とも一致していない (大文字・小文字の違いは無視する) 場合には、エラーが報告されることがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMUSRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: ユーザーID修飾子	文字値	
ACTION	ネットワーク・ジョブの処置	*SAME, *FILE, *REJECT, *SUBMIT	オプション, 定位置 2
SBMUSER	ユーザー・プロファイル	名前, *SAME	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

ユーザー識別コード (FROMUSRID)

このシステムに入カストリームを投入するユーザーのユーザーID (2つの部分からなる) を指定します。ユーザーから受け取った入カストリームは、いずれもこのネットワーク・ジョブ項目に指定された通りに扱われます。ユーザーIDの両方の部分が必須です。ユーザーIDの第1の部分または両方の部分として特殊値 *ANYを入力することができます。

注: 使用しているワークステーションのタイプにより、ユーザーIDの内部値は、ネットワーク・ジョブ項目処理(WRKNETJOBE)コマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。FROMUSRIDパラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ユーザーID値に関する規則に合っていない場合や、登録されたどのユーザーの内部値とも一致していない場合には、エラーが報告されることがあります。

これは必須パラメーターです。

上

ネットワーク・ジョブの処置 (ACTION)

この項目によって制御されるジョブについてとられる処置を指定します。

*SAME

ジョブ項目のこのオプションは同じままです。

*REJECT

入カストリームは拒否されます。

***FILE** 入カストリームは、入カストリームの送信先のユーザーが受信するネットワーク・ファイルの待ち行列に入れられます。

*SUBMIT

入カストリームはバッチ・ジョブ待ち行列に投入されます。ネットワーク・ジョブ項目中に指定されているユーザー・プロファイルを使用して、ジョブ待ち行列に対する必要な権限がチェックされます。

上

ユーザー・プロファイル (SBMUSER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイル名を指定します。このユーザー・プロファイルは、入力ストリーム中に指定されているジョブ待ち行列およびジョブ記述に対する権限を検査するために使用されます。このパラメーターに指定された値は、このコマンドまたはネットワーク・ジョブ項目追加(ADDNETJOBE)コマンドにACTION(*SUBMIT)が指定された場合に有効となります。

*SAME

ジョブ項目内のジョブを投入するユーザー・プロファイルは変更されません。

ユーザー・プロファイル

ジョブの投入に使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

入力ストリームが到着した後でメッセージが送信されるメッセージ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。入力ストリームが到着すると、ヒストリー・ログにもメッセージが送信されます。

*SAME

ジョブ項目内のメッセージ待ち行列は変更されません。

*USRPRF

ジョブの送信先のユーザー・プロファイルのメッセージ待ち行列が使用されます。

*NONE

メッセージはユーザーに送信されません。ただし、メッセージはヒストリー・ログに送信されません。

メッセージ待ち行列名

メッセージ受け取りに使用するメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

ジョブ項目が入れられるジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。BCHJOBコマンドのジョブ待ち行列プロンプト (JOBQパラメーター) に*RDRが指定された、入力ストリーム中の各ジョブについて、ジョブ項目がこの待ち行列に入れられます。BCHJOBコマンドに*RDRが指定されていない場合には、BCHJOBコマンドまたはジョブ記述に指定されたジョブ待ち行列が使用されます。(入力ストリーム中の各ジョブでジョブ待ち行列が異なることがあります。) このパラメーターが有効であるのは、このコマン

ド、既存のネットワーク・ジョブ項目、または後続のネットワーク・ジョブ項目変更(CHGNETJOBE)コマンドにACTION(*SUBMIT)が指定された場合だけです。

***SAME**

ジョブ項目内のジョブ待ち行列は変更されません。

ジョブ待ち行列名

使用するジョブ待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ライブラリー・リストを使用してジョブ待ち行列を見つけます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ待ち行列が入っているライブラリーを指定します。

上

例

```
CHGNETJOBE FROMUSRID(JOHN SMITH) SBMUSER(ANDERSON)
```

このコマンドは、ユーザーJOHN SMITHから受け取った入力ストリームに対して実行される処置を判別するために使用されるネットワーク・ジョブ項目を変更します。既存項目中のオプションおよびメッセージ待ち行列は変更されません。入力ストリーム中に指定されたジョブ待ち行列およびジョブ記述に対する権限を調べるために使用されるユーザー・プロファイルはANDERSONに変更されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF8050

ネットワーク・ジョブ・テーブルをアクセスすることができなかった。

CPF8051

ユーザーIDの2番目の部分には*ANYは正しくない。

CPF8053

ネットワーク・ジョブ項目&1 &2は変更されなかった。

CPF9040

間違った文字がユーザーIDかアドレス、またはリスト識別コード&1 &2で使用された。

上

NFSエクスポートの変更 (CHGNFSEXP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル・システム・エクスポート変更(CHGNFSEXP)コマンドは、現在ネットワーク・ファイル・システム(NFS)クライアントにエクスポートされる（アンエクスポートの）ディレクトリーのリストから（エクスポートまたは除去する）ディレクトリー名にディレクトリー名を追加します。OPTIONSリストのフラグは、CHGNFSEXPコマンドが実行する処置を指示します。

ディレクトリーおよびディレクトリーとその内容をエクスポートするためのオプションのリストは、*/ETC/EXPORTS*ファイルに保管されます。CHGNFSEXPコマンドでは、*-A*フラグを使用して*/ETC/EXPORTS*ファイルに指定されているすべてのディレクトリー・ツリーをエクスポートするか、またはディレクトリー名を指定して単一のディレクトリー・ツリーをエクスポートすることができます。エクスポートするディレクトリー・ツリーが*/ETC/EXPORTS*ファイルに存在する場合には、そこで指定されたオプションでエクスポートするか、またはCHGNFSEXPコマンドで新規オプションを指定し、*-I*フラグを使用してオプションを指定変更することができます。

また、CHGNFSEXPコマンドでそのオプションを指定して、前に*/ETC/EXPORTS*ファイルで定義されていないディレクトリー・ツリーをエクスポートすることもできます。CHGNFSEXPコマンドで*-U*フラグを使用して、ディレクトリー・ツリーをアンエクスポートすることができます。

強制アンエクスポートは、ユーザーが*-U*フラグを指定し、NFSサーバーによって保留されているエクスポート・ファイル・システム上のNFSバージョン4のロックおよび状態を解除したい場合にのみ、指定可能です。このオプションは、通常の方法で状態を除去できない場合にのみ使用してください。

また、*-F*フラグを使用して、*/ETC/EXPORTS*ファイルのエクスポート項目を追加、変更、または除去することもできます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- EXPORTFS

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドに関する詳細については、*i5/OS Network File System Support Book (SC41-5714)*を参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- パス名接頭部の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- *-F*フラグが指定されていて、*/ETC/EXPORTS*ファイルが存在しない場合には、*/ETC*ディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
- *-F*フラグが指定されていて、*/ETC/EXPORTS*ファイルが存在する場合には、*/ETC/EXPORTS*ファイルに対する読み取り、書き込み(*RW)権限と*/ETC*ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
- 混合CCSIDエンコード・スキームはサポートされていません。指定されるCCSIDは、1バイト文字セット(SBCS)または全くの2バイト文字セット(DBCS)でなければなりません。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OPTIONS	NFSエクスポート・オプション	文字値, *DFT	オプションナル, 定位置 1
DIR	ディレクトリー	パス名	オプションナル, 定位置 2
HOSTOPT	ホスト・オプション	単一値: *DFT その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプションナル
	要素 1: ホスト名	文字値	
	要素 2: データ・ファイル CCSID	1-65533, *BINARY , *ASCII, *JOBCCSID	
	要素 3: パス名CCSID	1-65533, *ASCII , *JOBCCSID	
	要素 4: 強制同期書き出し	*SYNC , *ASYNC	

NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)

エクスポート・オプション・リストには、エクスポートするディレクトリーの特性の文字ストリングが入っているリストが任意選択で後に続くフラグが入っています。

各フラグはマイナス“-”に文字を続けた形式です。フラグはスペースで区切ります。特定の組み合わせのフラグだけを使用できます。無効な組み合わせが検出されると、エラーが戻されます。

注: OPTIONSまたはディレクトリー (**DIR**)パラメーターのいずれかに指定する必要がある(*NONE以外の)値。OPTIONSとDIRは、-AがOPTIONSパラメーターに指定されたオプション・リストの一部でない場合に指定することができます。

***DFT** オプション・ストリングの省略時の値は、次の通りです。

'-A'

オプション・フラグ

-A これは「全」フラグで、*/ETC/EXPORTS*ファイルのすべての項目が処理されることを示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Aであり**-U**でない

これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルのすべての項目をエクスポートします(NFSクライアントが使用できるようにします)。

-Aおよび**-U**

これは現在エクスポートされているすべての項目をアンエクスポートします(NFSクライアントに対して使用できなくする)。これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルの内容に対する参照にはなりません。

-Aおよび**DIR**パラメーター

この組み合わせは使用できません。

-Aおよび**(-Iまたは-Fまたは-O)**

これらの組み合わせは使用できません。

- I これは「無視」フラグであり、DIRパラメーターに指定されたディレクトリー・ツリーについてのエクスポート特性の判別方法を指示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Iおよび-O

-Oフラグで指定されたエクスポート特性が使用され、*/ETC/EXPORTS*にリストされた定義は（もしあれば）無視されます。

-Iでも-Oでもない

*/ETC/EXPORTS*ファイルにリストされたエクスポート特性が使用されるか、またはそのファイルにオプションがなければ省略時のオプションとみなされるかのいずれかです。省略時のオプションのリストについては、-Oフラグ記述を参照してください。

-Iおよび(-Aまたは-U)

これらの組み合わせは使用できません。

- U これは「アンエクスポート」フラグであり、DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがアンエクスポートされる(NFSクライアントに対して使用できなくなる)ことを指示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

FORCE

DIRパラメーターで参照される項目の強制アンエクスポートを指定します。このオプションは-Uフラグが指定された場合にのみ有効です。FORCEオプションは、エクスポートされているパスのすべてのNFSバージョン4のロックおよび状態を解放します。このオプションは、通常の方法でエクスポートされたパスのロックおよび状態を解除できない場合にのみ使用してください。

-Uおよび-A

これは現在エクスポートされているすべての項目をアンエクスポートします(NFSクライアントに対して使用できなくする)。これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルの内容に対する参照にはなりません。

-Uおよび-F

DIRパラメーターで参照された項目がアンエクスポートされ(NFSクライアントが使用できないようにし)さらに*/ETC/EXPORTS*ファイルから（もしあれば）除去されます。

-Uおよび(-Iまたは-O)

これらの組み合わせは使用できません。

- F これは「ファイル」フラグであり、DIRパラメーターを必要とします。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Fおよび-U

DIRパラメーターで参照された項目がアンエクスポートされ(NFSクライアントが使用できないようにし)さらに*/ETC/EXPORTS*ファイルから（もしあれば）除去されます。

-Fであり-Uでも-Oでもない

DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがエクスポートされま

す(NFSクライアントに対して使用可能にする)。さらに、DIRパラメーターに入力されたこのディレクトリー・ツリーの項目が/ETC/EXPORTSファイルに追加されます。ファイルにすでに項目が存在する場合には、この新しいエクスポート項目と置き換えられます。このファイルが存在しない場合には、ファイルが作成されて、エクスポート項目が追加されます。「ファイル」フラグ-Fが「アンエクスポート」フラグ-U なしで指定されると、「無視」フラグ-Iが暗黙指定となることに注意してください。「オプション」フラグ-Oが指定されていないので、省略時のオプションが想定されます。省略時のオプションのリストについては、-Oフラグ記述を参照してください。

-Fであり-Uでなく-Oである

DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがエクスポートされます(NFSクライアントに対して使用可能にする)。さらに、DIRパラメーターに入力されたこのディレクトリー・ツリーの項目が/ETC/EXPORTSファイルに追加されます。ファイルにすでに項目が存在する場合には、この新しいエクスポート項目と置き換えられます。このファイルが存在しない場合には、ファイルが作成されて、エクスポート項目が追加されます。「ファイル」フラグ-Fが「アンエクスポート」フラグ-U なしで指定されると、「無視」フラグ-Iが暗黙指定となることに注意してください。「オプション」フラグ-Oで指定されたすべてのエクスポート特性オプションは、子Mで指定された/ETC/EXPORTSファイルに保管されます。

-Fおよび-A

この組み合わせは使用できません。

注: -Fフラグを正常に使用すると、/ETC/EXPORTSファイルの内容が完全に置き換えられて、-Fフラグによって行われた変更、追加、または削除が反映されるようになります。関連のない既存の項目はコピーされますが、-Fフラグを使用した結果として/ETC/EXPORTSファイルのすべてのコメントは失われます。

- E これは「エスケープ・メッセージ」フラグであり、試みたエクスポートのいずれかについてコマンドが正常に実行されない場合にエスケープ・メッセージが出されることを指示します。
- O このフラグは、エクスポートする(NFSクライアントに対して使用可能にする)ディレクトリー・ツリーのエクスポート特性を指定します。-Oフラグ・リストの後のオプション・リストは、コンマで区切られたオプションから構成されています。一部のオプションの後には、等号 '=' および値 (またはコロン ':' で区切られた値のリスト) が続いています。オプション・リストには、スペースが含まれる場合があります。オプションを指定しないと、そのオプションの省略時の値が使用されます。-Oフラグが有効であるのは、「無視」フラグ-I または「ファイル」フラグ-Fが指定されている場合だけです。

オプションが必要で、-Oフラグが指定されていない場合には、以下が省略時のオプションです。

- 'RW=' すべてのホスト名はディレクトリー・ツリーへの読み取り/書き出しアクセス権をもちます。
- プロファイル *QNFSANON* と関連づけられた *ANON=UID*。
- 許可ビット以外のモードになっているビットに対する要求が許されます。
- 'ROOT=' すべてのホストでルート・アクセスは使用できません。
- 'ACCESS=' すべてのクライアントがディレクトリーをマウントすることが許されます。

- 'SEC=SYS' 機密保護はUNIX-like (NFSバージョン4での使用は推奨しません) です。
- 'VERS=3:2' NFSバージョン3およびNFSバージョン2が接続に使用可能です。

使用可能なオプションとその説明を以下に示します。

RO エクスポート済みディレクトリー・ツリーの保護を指定します。ROを指定した場合には、ディレクトリーとその内容への読み取り専用アクセスのみが認められるディレクトリー・ツリーがエクスポートされます。これを指定しない場合には、ディレクトリーとその内容への読み取り／書き出しアクセスが認められます。

RW= 「HOSTNAME」 「:HOSTNAME??(...)

エクスポート済みのディレクトリーおよびその内容への読み取り／書き出しアクセスが認められる1つまたは複数のホスト名を指定します。ホスト名が指定されていない場合には、読み取り専用アクセスのみが認められているディレクトリーとその内容がエクスポートされます。

ROおよびRWのいずれも指定されていない場合には、'RW='が前提とされ、すべてのホスト名がエクスポート済みのディレクトリーへの読み取り／書き出しアクセス権をもちます。

ANON=UID

不明ユーザーからの要求を行う場合には、このUIDを有効なユーザーIDとして使用してください。下のROOTオプションで指定されていない限り、ルート・ユーザーは不明とみなされることに注意してください。このオプションの省略時の値は、ユーザー・プロファイルQNFSPANONに関連づけられたUIDです。

不明のユーザーからの要求を許可したくない場合には、'ANON=-1'を使用してください。

NOSUID

クライアントによる、許可ビット以外のビットを使用可能にするいかなる試みも無視されます。このオプションが指定されていない場合には、許可ビット以外のビットをセットする試みが行われます。

ROOT= 「HOSTNAME」 「:HOSTNAME??(...)

エクスポートされたディレクトリー・ツリーへのルート・アクセスが認められる1つまたは複数のホスト名を指定します。ホストに対するルート・アクセスが許可されると、0の着信UIDがユーザー・プロファイルQSECOFRにマップされて、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーからの着信要求が許可されます。ホストに対するルート・アクセスが許可されない場合には、0の着信UIDおよび*ALLOBJ特殊権限を持つユーザーからの着信要求がANONオプションで指定されたUIDにマップされます。ROOTオプションが指定されないと、どのホストもルート・アクセスを認可されません。

ACCESS= 「CLIENT」 「:CLIENT??(...)

エクスポート済みディレクトリー・ツリーをマウントすることを認める1つまたは複数のクライアントを指定します。クライアントはホスト名またはネットグループとすることができます。クライアントを指定しない場合には、すべてのクライアントがディレクトリー・ツリーをマウントすることを認められます。

SEC= 「SEC」 「:SEC??(...)

この特定のエクスポート項目に対し、どの機密保護フレーバーがサポートされているかを指定します。使用可能なフレーバーは次の通りです。

sys UNIX-like (ユーザーID, グループID)。

krb5 Kerberos 5, 保全会性またはプライバシーなし。NFSバージョン4が指定された時のみ有効。

krb5i Kerberos 5, 保全会性付き。NFSバージョン4が指定された時のみ有効。

krb5p Kerberos 5, プライバシー付き。NFSバージョン4が指定された時のみ有効。

VERS= 「VERS」 「:VERS??(...)

このエクスポート項目をマウントできるNFSバージョンを指定します。使用可能なバージョンは2:3:4です。バージョンが指定されなかった場合、このパラメーターの省略時の値は3:2です。

EXNAME= 「EXPORTED_NAME?

クライアントのファイル・システムに表示される名前を指定します。エクスポート名は、"root" (/)から始まる絶対パス名でなければなりません。NFSバージョン4が指定された場合にのみ有効です。

PUBLIC

エクスポートされるディレクトリーがパブリック・ディレクトリーであることを指定します。これはNFSROOTパスのサブディレクトリーでなければなりません。省略時のオプションはパブリックではありません。NFSバージョン4が指定された場合にのみ有効です。

NFSROOT

NFSバージョン4のルート: "/"をマウントするバージョン4のクライアントは、指定されたディレクトリー(DIRパラメーター)をサーバーのルートとして参照できます。NFSバージョン4のエクスポートされるファイル・ツリーの省略時のルートは、システム・ルート"/"です。このオプションは、他にエクスポートされるディレクトリーがない場合にのみ使用可能です。NFSROOTパスが変更されると、その後のエクスポートは新しいルート・パスのサブディレクトリーに行われます。NFSバージョン4が指定された場合にのみ有効です。

上

ディレクトリー (DIR)

エクスポートする(NFSに対して使用可能にする) またはアンエクスポートする(NFSに対して使用できなくする) 既存ディレクトリーの絶対パス名を指定します。このディレクトリーを (別のファイル・システムに入っていない限り) すでにエクスポートされたディレクトリーのサブディレクトリーまたは親にすることはできません。**NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)**パラメーターで-Aフラグが指定されている場合には、このパラメーターは許可されません。OPTIONSパラメーターで-Fフラグを指定すると、このパラメーターが必要です。

注: OPTIONSまたはDIRパラメーターのいずれかに指定する必要がある(*NONE以外の) 値。

OPTIONSとDIRは、-AがOPTIONSパラメーターに指定されたオプション・リストの一部でない場合に指定することができます。

上

ホスト名 (HOSTOPT)

HOSTOPTパラメーターには、ディレクトリー・ツリーのエクスポート先のNFSクライアントに関する追加の情報を指定する4つの要素があります。ディレクトリー・ツリーのエクスポート先のホスト名にHOSTOPTパラメーターが指定されていない場合には、HOSTOPTパラメーターのそれぞれの要素の省略時の値がそのホストに使用されます。

***DFT** *DFTは、1つ以上のディレクトリー・ツリーがエクスポートされるすべてのクライアントに、HOSTOPTパラメーターの要素の省略時の値が使用されることを示します。ネットワーク・データ・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)は*BINARY,ネットワーク・パス名のコード化文字セットID (CCSID)は*ASCII, 強制同期書き出しは*SYNCです。

要素1:ホスト名

追加のオプションを指定するホストの名前。このホストは、エクスポートされたディレクトリー・ツリーに対するアクセス権をもつホストとして、OPTIONS -Oリスト中で上の方に指定する必要があります。単一ホストのアドレスの別名である単一ホスト名か、あるいはこれらのオプションと関連付けられるネットグループ名のいずれかを指定してください。

名前は、TCP/IP構成メニュー(CFGTCP)コマンドのTCP/IPホスト・テーブル項目の処理オプションによるか、あるいはSystem iナビゲーターを介してインターネット・アドレスに割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバーは、リモート・システム名をIPアドレスにマップするために使用することもできます。

要素2:ネットワーク・データ・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)

ネットワーク・データ・ファイルのCCSIDは、指定のホスト名（またはネットグループ名）から送受信されるファイルのデータに使用されます。HOSTOPTパラメーターで指定されていないホストの場合には、省略時のネットワーク・データ・ファイルCCSID (*BINARY)が使用されます。CCSIDは、以下の1つとすることができます。

***BINARY**

省略時のネットワーク・データ・ファイルのCCSID (2進, 変換なし) が使用されます。

***ASCII**

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからの取得されたCCSIDが使用されます。

1から65533

データ・ファイルのCCSIDを指定してください。

要素3:ネットワーク・パス名のコード化文字セットID (CCSID)

ネットワーク・パス名CCSIDは、指定のホスト名（またはネットグループ名）から送受信されるファイルのパス名構成要素に使用されます。HOSTOPTパラメーターで指定されていないホストの場合には、省略時のネットワーク・パス名CCSID (*ASCII)が使用されます。CCSIDは、以下の1つとすることができます。

***ASCII**

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからの取得されたCCSIDが使用されます。

1から65533

ファイルのパス名構成要素のCCSIDを指定してください。CCSIDをUCS-2レベル1 (1200)に変換でき

るコード・ページのみがサポートされます。サポートされる変換のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。

要素4:書き出しモード

このホスト名（またはネットグループ名）の書き出し要求を同期処理するか、または非同期処理するかを指定します。*SYNC（省略時の値）では、即時にデータがディスクに書き出されます。*ASYNCでは、即時にデータがディスクに書き出されることは保証されず、サーバーのパフォーマンスを向上するために使用できます。

注: ネットワーク・ファイル・システム(NFS)プロトコルは従来から同期書き出しを使用しています。

*SYNC

書き出し要求は同期実行されます。

*ASYNC

書き出し要求は非同期実行されます。

上

例

例1: /ETC/EXPORTSからのすべての項目のエクスポート

```
CHGNFSEXP  OPTIONS('-A')  
-または-  
CHGNFSEXP  '-A'
```

この両方のコマンドは、/ETC/EXPORTSファイルに存在するすべての項目をエクスポートします。

例2: オプションによる1つのディレクトリーのエクスポート

```
CHGNFSEXP  '-I -O RO,ANON=GUEST1,ACCESS=ROCH1:9.7.431.2'  
           '/PROGRAMS/PUBLIC' HOSTOPT((MIAMI1 850 850))
```

このコマンドは、パス名/PROGRAMS/PUBLICの下のディレクトリー・ツリーを読み取り専用としてエクスポートします。これは、2つのクライアントにこのディレクトリー・ツリーのマウントを許可するだけです。これは、定位置パラメーターOPTIONSおよびDIRを活用します。これは、HOSTOPT パラメーターを使用して、ホストMIAMI1のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

例3: オプションによる1つのディレクトリーのエクスポートおよび/ETC/EXPORTSファイルの更新。

```
CHGNFSEXP  '-I -F -O RO,ANON=GUEST1,ACCESS=ROCH1:9.7.431.2'  
           '/PROGRAMS/PUBLIC' HOSTOPT((MIAMI1 850 850))
```

このコマンドは、パス名/PROGRAMS/PUBLICの下のディレクトリー・ツリーを読み取り専用としてエクスポートします。これは、2つのクライアントにこのディレクトリー・ツリーのマウントを許可するだけです。OPTIONSパラメーターの値は定位置に指定されます。これは、HOSTOPTパラメーターを使用して、ホスト名MIAMI1のデータおよびパス名のコード化文字セットID (CCSID)として850を指定します。

さらに、これは/PROGRAMS/PUBLICのエクスポート項目も、OPTIONSおよびHOSTOPTパラメーターの値と一緒に/ETC/EXPORTSファイルに追加します。

例4: NFSバージョン4オプションによる1つのディレクトリーのエクスポート

```
CHGNFSEXP '-I -O RO,VERS=4,SEC=KRB5,ACCESS=9.7.431.2'  
'/programs/public'
```

このコマンドは、パス名/**programs/public**の下のディレクトリー・ツリーを読み取り専用としてエクスポートします。このディレクトリー・ツリーのマウントは、1つのクライアントのみに許可されます。アクセスはNFSバージョン4プロトコルを介してのみ許可され、少なくともKerberosバージョン5認証が必要です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA0CE

指定されたパス名パラメーターでエラーが起こった。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

CPF41C

&1項目がエクスポートされ、&2項目がエクスポートされなかった。

上

ノード・グループ属性の変更 (CHGNODGRPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・グループ属性の変更(CHGNODGRPA)コマンドは、ノード・グループのデータ区画属性を変更します。ノード・グループには、1024の区画をもつテーブルが入っています。各区画には、ノード番号が入っています。ノード番号は、そのノード・グループが作成された時に割り当てられていて、CRTNODGRP(ノード・グループの作成)コマンドのRDBパラメーターに指定されたリレーショナル・データベースと対応しています。DSPNODGRP(ノード・グループの表示)コマンドを使用して、有効なノード番号の値、およびそのノード番号とリレーショナル・データベース名との対応を表示することができます。

このコマンドは、指定されたノード・グループを使用して作成した既存の分散ファイルには影響しません。ノード・グループが変更された後に作成した分散ファイルは、変更された区画属性を使用します。

- CRTPF (物理ファイル作成) コマンドのNODGRPおよびPTNKEYパラメーターに値を指定することによって、データベース・ファイルを分散ファイルとして作成することができます。
- 分散ファイルでない既存のデータベース物理ファイルの場合には、CHGPF (物理ファイル変更) コマンドのNODGRPおよびPTNKEYパラメーターに値を指定することによって、分散ファイルを作成することができます。
- 既存の分散データベース・ファイルの場合には、CHGPF (物理ファイル変更) コマンドのNODGRPおよびPTNKEYパラメーターに値を指定することによって、データ区画属性を変更することができます。これによって、ノード・グループの区画テーブルに従って、データが再配布されることになります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PTNNBR	区画番号	0-1023	オプション, 定位置 2
CMPDTA	比較データ	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 3
NODNBR	ノード番号	1-32	オプション, 定位置 4

上

ノード・グループ(NODGRP)

属性が変更されるノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ノード・グループ

名前 変更しているノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

区画番号(PTNNBR)

変更する区画番号を指定します。

0から1023:

変更する区画番号を指定します。

注: PTNNBRまたはCMPDTAのいずれかを指定しなければなりません。変更したい区画番号が分かっている場合には、PTNNBRを使用しなければなりません。この情報を得るためには、OPNQRYF (QUERYファイル・オープン) コマンドで%PARTITION組み込み関数を使用することができます。分散ファイルおよびデータの区画で有用なその他の関数は%HASH, %NODENUMBER, および%NODENAMEです。

上

比較データ (CMPDTA)

変更する区画番号の判別に使用する値を指定します。指定される値は、変更する区画を判別するハッシュ・アルゴリズムへの入力として使用されます。

文字値 変更する区画の判別に使用するデータを指定します。複数欄(フィールド)をもつ区画キーと対応させるために、複数の値を入力することができます。文字データは先行または後書きブランクなしで入力しなければなりません。数字データは先行または後書きゼロなしで、小数点またはコンマのない文字表現を使用して入力しなければなりません。例えば、数値3.5は35として入力しなければなりません。最大300までの値を指定することができます。

注: PTNNBRまたはCMPDTAのいずれかを指定しなければなりません。区画キーに特定の値が入っている場合でも、分散ファイルのレコード(または行)を特定のノードに宛先指定したい場合には、CMPDTAを指定しなければなりません。

上

ノード番号(NODNBR)

変更している区画と関連させる新しいノード番号を指定します。

1から32

ノード・グループで有効なノード番号を指定します。ノード・グループ表示(DSPNODGRP)コマンドを使用して、ノード・グループで有効なノード番号を表示することができます。

上

例

例1:区画番号の指定

```
CHGNODGRPA  NODGRP(LIB1/GROUP1)  PTNNBR(1019)  NODNBR(2)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1中のGROUP1という名前のノード・グループの区画属性を変更します。区画1019はノード番号2を参照するように変更されます。ノード番号2は、ノード・グループが作成された(CRTNODG RPのコマンドのRDBパラメーター)時に指定された2番目のリレーショナル・データベースと対応しています。

例2:比較値の指定

```
CHGNODGRPA  NODGRP(GROUP2)  CMPDTA('CHICAGO')  NODNBR(3)
```

このコマンドは、GROUP2という名前のノード・グループの区画属性を変更します(GROUP2は、ライブラリー検索リスト*LIBLで見つかります)。CMPDTAパラメーターに指定された値はハッシュされ、結果の区画番号がその既存のノード番号からノード番号3に変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3166

ノード・グループ&1がライブラリー&2に見つからなかった。

CPF3167

ライブラリー&2のノード・グループ&1が変更されなかった。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

上

NETBIOS記述の変更 (CHGNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETBIOS記述変更(CHGNTBD)コマンドは、NETBIOS記述オブジェクトを変更します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

注: オンに構成変更されるネットワーク・サーバー記述などの構成オブジェクトの使用中のこのオブジェクトに対する変更は、オブジェクトがオフに構成変更されてからオンに戻されるまで、そのオブジェクトには影響しません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NTBD	NETBIOS記述	名前	必須, キー, 定位置 1
FULLBUFDTG	フル・バッファ・データグラム	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 2
ADPWDWITV	最適ウィンドウ間隔	0-65535, *SAME	オプション
MAXWDWERR	最大ウィンドウ・エラー	0-10, *SAME	オプション
MAXRCVDATA	最大受信データ・サイズ	512-16384, *SAME	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1000-65535, *SAME	オプション
RSPTMR	応答タイマー	50-65535, *SAME	オプション
ACKTMR	肯定応答タイマー	50-65535, *SAME	オプション
MAXIN	最大未処理受信	1-127, *SAME	オプション
MAXOUT	最大未処理送信	1-127, *SAME	オプション
QRYTMR	QUERYタイムアウト	500-10000, *SAME	オプション
NTBRTY	NETBIOS再試行	1-50, *SAME	オプション
ALWMULTACK	複数肯定応答可能	*SAME, *YES, *NO	オプション
PREBLTPKT	メッセージ・パケット事前作成	1-200, *SAME	オプション
PKTRESTART	パケット再始動の確認	0-9999, *SAME	オプション
DLCRTY	DLC再試行	1-65535, *SAME	オプション
ETHSTD	イーサネット標準	*SAME, *IEEE8023, *ETHV2	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

NETBIOS記述 (NTBD)

変更中のNETBIOS記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

フル・バッファ・データグラム (FULLBUFDTG)

データグラムの完全な送信バッファ・サイズを要求するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** 完全な送信バッファ・サイズが要求されます。

***NO** 完全な送信バッファ・サイズは要求されません。データグラムの長さは、送信バッファのサイズからオーバーヘッドを引いた値に等しくなります（最大512バイト）。大きなメッセージは切り捨てられます。

注: オーバーヘッドのサイズは、NETBIOSヘッダー(44バイト)、LANヘッダー（最大36バイト）、およびバッファ保留オーバーヘッド（最大6バイト）のサイズの合計です。

最適ウィンドウ間隔 (ADPWDWITV)

最適ウィンドウ・アルゴリズムの実行から実行までの間の時間（ミリ秒）を指定します。それぞれのリンクで、このアルゴリズムはMAXINおよびMAXOUTパラメーターの値を変更して、NETBIOSプロトコルを使用しているリモート・ワークステーションに設定された値と一致するように変更されます。このアルゴリズムは、値を変更する時にアダプター受信バッファおよび送信ロードを含むリンクの条件を考慮します。

*SAME

値は変更されません。

最適ウィンドウ間隔

アルゴリズムの実行間の時間（ミリ秒）を指定してください。有効な値の範囲は0から65535です。

注: 値0は、アルゴリズムを使用不能にします。

最大ウィンドウ・エラー (MAXWDWERR)

MAXOUTパラメーターの値を小さくする前に、最適ウィンドウ・アルゴリズムで許容される除去パケット数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

ウィンドウ・エラー

許容されるウィンドウ・エラーの数を指定してください。有効な値の範囲は0から10です。

最大受信データ・サイズ (MAXRCVDATA)

セッションで受信できるフレームの最大データ・サイズを指定します。送信のパートナーは、この指定サイズまたはパートナーの送信バッファで使用可能なサイズの小さい方に制限します。NETBIOSは、パスのブリッジによって転送される最大サイズを考慮に入れます。

*SAME

値は変更されません。

最大受信データ・サイズ

受信可能な最大データ・サイズ (バイト数) を指定してください。有効な値の範囲は512から16384です。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

リンクが使用可能であることをNETBIOSプロトコル・ドライバーが確認する前に、リンクを非活動化できる時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

非活動タイマー

活動待機時間 (ミリ秒) を指定してください。有効な値の範囲は1000から65535です。

上

応答タイマー (RSPTMR)

前の送信からの肯定応答が受信されない場合に、リンク・レベルのフレームを再送信するまでに待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

応答タイマー

待機時間 (ミリ秒) を指定してください。有効な値の範囲は50から65535です。

上

肯定応答タイマー (ACKTMR)

送信フレーム数がMAXINパラメーターに指定された最大値より小さい場合に、NETBIOSプロトコル・ドライバーが受信フレームの肯定応答を遅延する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

肯定応答タイマー

遅延時間 (ミリ秒) を指定してください。有効な値の範囲は50から65535です。

上

最大未処理受信 (MAXIN)

肯定応答を送信する前に受信できるNETBIOSメッセージ・パケットの最大数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

最大受信数

受信するパケット数を指定してください。有効な値の範囲は1から127です。

上

最大未処理送信 (MAXOUT)

肯定応答を必要とする前に送信できるNETBIOSメッセージ・パケットの最大数を指定します。

注: このパラメーターはADPWDWITV(0)が指定された時にだけ使用されます。

*SAME

値は変更されません。

最大伝送数

送信するパケット数を指定してください。有効な値の範囲は1から127です。

上

QUERYタイムアウト (QRYTMR)

送信再試行間で待機する時間（ミリ秒）を指定します。

*SAME

値は変更されません。

照会タイマー

500から10000ミリ秒の範囲内の値を指定してください。

上

NETBIOS再試行 (NTBRTY)

受信パーティーが存在しないと見なす前にNETBIOSレベルで試みられる送信再試行回数を指定します。

*SAME

値は変更されません。

NETBIOS再試行回数

1から50回の試行の範囲内の値を指定してください。

上

複数肯定応答可能 (ALWMULTACK)

受信データの肯定応答をデータ要求と結合できるかどうかを指定します。

注: NETBIOSプロトコル・ドライバが着信データと一緒に肯定応答を送信および受信すると、LANのパフォーマンスが改善されます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 肯定応答をデータ要求と結合することができます。

注: 両方の送信パーティーが肯定応答とデータ要求の結合をサポートしていなければなりません。そうでなければこの値は無視されます。

***NO** 肯定応答をデータ要求と結合することはできません。

上

メッセージ・パケット事前作成 (PREBLTPKT)

それぞれのセッションに対して事前構築されるNETBIOSメッセージ・パケットの数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

事前構築パケット

1から200の範囲内のメッセージ・パケットの値を指定してください。

上

パケット再始動の確認 (PKTRESTART)

資源不足条件が起こった時に、追加のパケットを送信する前に受信しなければならない送信確認の数を指定します。NETBIOSプロトコル・ドライバは、ポートから資源不足条件を受け取ると、パケットの送信を停止します。

***SAME**

値は変更されません。

パケット再開始

0から9999の範囲内で確認の値を指定してください。

上

DLC再試行 (DLCRTY)

受信データ・リンク制御(DLC)層が応答しないと見なすまでに行なわれる追加の送信の試行回数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

DLC再試行

1から65535の範囲内の値を指定してください。

上

イーサネット標準 (ETHSTD)

NETBIOS通信に使用されるETHERNET標準フレーム・タイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*IEEE8023

IEEE 802.3フレームが使用されます。

*ETHV2

ETHERNETバージョン2フレームが使用されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

NETBIOS記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGNTBD NTBD(MYNETBIOS) ACKTMR(3000)
```

このコマンドは、MYNETBIOSという名前のNETBIOS記述を変更し、受信パケットの数がMAXINパラメータに指定された値に満たないときに、受信されたフレームの確認応答を3000ミリ秒(3秒) 間遅らせます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF27A2

NETBIOS記述&1は変更されなかった。

上

SNTP属性の変更 (CHGNTPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL属性の変更(CHGNTPA)コマンドは、構成可能なSIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)サービス属性を変更するために使用します。TCP/IP開始(STRTCP)コマンドまたはTCP/IPサーバー開始(STRTCP SVR)コマンドのいずれかによってSNTPサービスを次回に開始した時に、この変更が有効になります。

大部分のSNTP属性には、初期値があります。次の図は、コマンド・キーワード・パラメーターについてIBM出荷時の初期値を示します。

表 1. 図: SNTP属性の出荷時初期値

AUTOSTART	*NO
POLLITV	60分
MINADJ	20ミリ秒
MAXADJ	20分
ADJTHLD	*MAXADJ
ACTLOG	*NONE
SVRAUTOSTR	*NO
SVRACTLOG	*NONE
SYNCRQD	*NO

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTSYS	リモート・システム	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 文字値	オプション
AUTOSTART	クライアント自動始動	*SAME, *NO, *YES	オプション
POLLITV	クライアント・ポーリング間隔	1-1440, *SAME	オプション
MINADJ	クライアント最小調整	0-300000, *SAME, *NONE	オプション
MAXADJ	クライアント最大調整	1-120, *SAME	オプション
ADJTHLD	クライアント調整しきい値	1-7200, *SAME, *MAXADJ	オプション
ACTLOG	クライアント活動ログ	*SAME, *NONE, *CHANGE, *POLL	オプション
SVRAUTOSTR	サーバー自動始動	*SAME, *NO, *YES	オプション
SVRACTLOG	サーバー活動ログ	*SAME, *NONE, *ALL, *ERROR	オプション
SYNCRQD	同期が必要	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

リモート・システム (RMTSYS)

SNTPクライアントがタイム・サービス用に接続できる1つ以上のリモート・システムを指定します。リスト中で、有効なタイム・サービスを提供できる最初のパラメーター値が選択されます。選択されたタイム・サーバーが失敗した時には、新しいタイム・サーバーが選択されることとなります。リモート・システム名は有効でなければならず、システムはローカル・システムと通信できなければなりません。TCP/IPメニューの構成(CFGTCPコマンド)でTCP/IPホスト・テーブル項目の処理オプションを使用して、名前をIPアドレスに割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバーは、リモート・システム名をIPアドレスにマップするために使用することもできます。

公開タイム・サーバーのリストは、インターネット上に維持されています。「NTPサーバー」の照会付きの検索エンジンを使用するか、あるいはINFORMATION CENTERでSNTPトピックのリソースを参照することができます。タイム・サーバーは、システムが導入されているロケーションで、最小のネットワーク応答時間遅延に基づいて選択する必要があります。ローカル・システムとタイム・サーバーの間にファイアウォールが導入されている場合には、ポート123でUDPパケットの通過を認めるよう、ファイアウォール構成の更新が必要となる場合があります。

単一値

*SAME

タイム・サービスに使用するリモート・システムは変更されません。

*NONE

タイム・サービスにリモート・システムを使用しません。

その他の値 (最大3個指定可能)

文字値 NTPまたはSNTPタイム・サーバー・システムのホスト名またはIPアドレスを指定します。

- インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。
- ホスト名は、短形式または全ドメイン・バージョンの名前のいずれかとすることができます。通常は、ユーザーのローカル・ネットワーク内の固有の1つの短縮名を定義し、またインターネット内の固有の全ドメイン・バージョンのホスト名を定義します。ドメイン名またはホスト名は、1-255個の文字をもつテキスト・ストリングとすることができます。ドメイン名はピリオドで区切られた1つまたは複数のラベルから構成されます。各ラベルには最大63文字までを入れることができます。

上

クライアント自動始動 (AUTOSTART)

TCP/IPをTCP/IPの開始(STRTCP)コマンドを使用して開始するか、あるいはTCP/IPサーバーの開始(STRTCP)コマンドにSERVER(*AUTOSTART)を指定することによって開始した時に、SNTPクライアントを自動始動するかどうかを指定します。

*SAME

クライアントの自動始動値が前に設定されていれば、変更されません。

***NO** SNTPクライアントを自動的に開始しません。AUTOSTART(*NO)が初期値です。

***YES** SNTPクライアントを自動始動します。

クライアント・ポーリング間隔 (POLLITV)

システム・クロックに修正が必要かどうかを判別するために、SNTPクライアントがNTPまたはSNTPタイム・サーバーと接続するまでの時間間隔 (分) を指定します。

*SAME

ポーリング間隔は、前に設定されている場合には変更されません。

1-1440 ポーリング間隔として使用する分数を指定します。

クライアント最小調整 (MINADJ)

NTPまたはSNTPサーバー時刻とローカル・クロック時刻との間のしきい値 (ミリ秒)。 差がこの値より小さい場合は、ローカル・クロックは調整されません。

*SAME

最小調整は、前に設定されている場合には変更されません。

*NONE

値はゼロに設定されます。

0-300000

クロック最小調整しきい値として使用するミリ秒数を指定します。

クライアント最大調整 (MAXADJ)

NTPまたはSNTPサーバー時刻とローカル・クロック時刻との間のしきい値 (分)。 差がこの値より大きい場合は、ローカル・クロックは設定/調整されません。

*SAME

最大調整は、前に設定されている場合には変更されません。

1-120 クロック最大調整しきい値として使用する分数を指定します。

クライアント調整しきい値 (ADJTHLD)

クロックの変更に、クロックの設定または調整が必要かどうかを判別するしきい値を指定します。

- クロックの設定は、現在の値を新しい値で置き換えることを意味します。例えば、12:47:56 (HHMMSS形式でHH=時間, MM=分, SS=秒) を値12:56:15または12:40:10で置き換えます。この方法によるクロックの設定では、順方向または逆方向へのクロックのジャンプが起り、プログラムがこのクロック設定の前後にクロック時刻値をアクセスしている場合にエラーおよび予期しない結果となることがあります。このクロックの設定には、システム環境に関する完全な知識が必要です。 そうでなければ、予測できない結果が起こることがあります。

- クロックの調整は、時刻が徐々にNTPまたはSNTPタイム・サーバーと同期するように、クロックの増減を加速または減速することを意味します。調整では、クロックの設定で起こるような時刻の大きいジャンプは起こりません。ただし、調整の完了には時間がかかります。例えば、クロックを1秒調整するには、その完了に壁時計時刻で10秒かかることがあります。この10秒の壁時計時刻間隔は、単なる1例であり、調整の完了に実際にかかる時間は、システムが判別することに注意してください。クロックの調整はクロックの設定のように即時には実行されませんが、プログラムがクロック時刻をアクセスする時に起こるクロックの設定と関連した問題を避けています。

***SAME**

しきい値が前に設定されていれば、変更されません。

***MAXADJ**

クライアント最大調整 (MAXADJ)パラメーターに指定した値までのすべての時刻差について、クロックの調整が実行されます。

- I-7200** しきい値として使用する、NTPまたはSNTPタイム・サーバーとSNTPクライアント・クロックとの間の秒数を指定します。この値と等しいか小さい時刻差の場合に、クロックの調整が実行されることとなります。そうでない場合には、クロックの設定が実行されることとなります。

上

クライアント活動ログ (ACTLOG)

クロックの更新でロギングを実行させる活動を指定します。ロギング項目はクライアントのディレクトリ—/QIBM/USERDATA/OS400/TCPIP/NTP中のファイルに書き込まれます。

***SAME**

活動記録ログ値は、前に設定された場合には変更されません。

***NONE**

ロギングは実行されません。ACTLOG(*NONE)が初期値です。

***CHANGE**

ロギングはクロック上で変更が行われたときだけ実行されます。

***POLL**

ロギングはNTPまたはSNTPサーバーが有効な時刻値をSNTPクライアントに送るたびに起こります。さらに、すべての*CHANGE活動が記録されることとなります。

上

サーバー自動始動 (SVRAUTOSTR)

TCP/IPをTCP/IPの開始(STRTCP)コマンドによって開始するか、あるいはTCP/IPサーバーの開始(STRTCP SVR)コマンドにSERVER(*AUTOSTART)を指定することによって開始した時に、SNTPサーバーを自動始動するかどうかを指定します。

***SAME**

サーバーの自動始動値が前に設定されていれば、変更されません。

***NO**

SNTPサーバーを自動的に開始しません。SVRAUTOSTR(*NO)が初期値です。

***YES**

SNTPサーバーを自動始動します。

サーバー活動ログ (SVRACTLOG)

SNTPサーバーにロギングを実行させる活動を指定します。ロギング項目は、ディレクトリ
ー/QIBM/USERDATA/OS400/TCPIP/NTP/SERVER中のファイルに書き込まれます。

*SAME

活動記録ログ値は、前に設定された場合には変更されません。

*NONE

ロギングは実行されません。SVRACTLOG(*NONE)が初期値です。

*ERROR

ロギングはサーバーによってエラー状況が戻された時にだけ実行されます。

***ALL** SNTPサーバーに対して要求が行われるたびに、ロギングが実行されます。

同期が必要 (SYNCRQD)

有効な時刻を役立てる前に、SNTPシステム・クライアントが外部のタイム・サーバーと同期する必要があるかどうかを指定します。

*SAME

同期必要値が前に設定されていれば、変更されません。

***NO** SNTPシステム・クライアントの外部タイム・サーバーとの同期は必要ありません。

***YES** 有効な時刻を役立てる前に、SNTPクライアントがシステム・クロックを同期する必要があり、システム・クロックの調整を完了していなければなりません。タイム・サーバーとシステム時刻との時刻差が、MINADJ値の2倍または100ミリ秒（のいずれか大きい方）よりも小さい場合には、クロックは同期済みとみなされます。

例

例1: SNTPクライアントを設定

```
CHGNTPA RMTSYS(AAAA.BBBBB.CCC)
```

このコマンドは、SNTPクライアント・リモート・サーバーのホスト名を設定します。AAAA.BBBBB.CCC

例2: クロック時刻調整しきい値を設定

```
CHGNTPA MINADJ(50) MAXADJ(10)
```

このコマンドは、クライアント最小調整しきい値を50ミリ秒に、最大調整しきい値を10分に設定します。NTPまたはSNTPサーバー・システムから戻された時刻値が、ローカル・クロックと50ミリ秒より大きい差で、10分より小さい差の場合には、ローカル・クロックが設定／調整されます。

例3: クロックの設定／調整しきい値を設定

CHGNTPA ADJTHLD(2)

このコマンドは、SNTPクライアントの設定／調整しきい値を2秒に設定します。NTPまたはSNTPサーバーとSNTPクロックとの時刻差が2秒以下の場合に、クロックが調整されます。時刻差が2秒より大きい場合には、クロックの設定が実行されます。

例4: SNTPサーバーを同期済みクライアント必要に設定

CHGNTPA SYNCRQD(*YES)

このコマンドは、SNTPクライアントによるシステム・クロックの同期化が必要となるようにSNTPサーバーを設定します。SNTPシステム・クロックが同期化されていない場合には、「未同期済み」応答コードがSNTPサーバーによって戻されます。未同期済み条件は、SNTPクライアントがSNTPサーバーに接続できないこと、エラー条件のためにSNTPクライアントがシステム・クロックを更新できないこと、またはシステム・クロックの調整が完了していないことによって起こることがあります。

例5:複数のサーバーを使用するSNTPクライアントを設定

CHGNTPA RMTSYS(AAAA.BBBBB.CCC DDD.EEE.FFF GGG.HHH.III)

このコマンドは、ホスト名AAAA.BBBBB.CCC, DDD.EEE.FFF,およびGGG.HHH.IIIとなるようにSNTPクライアント・クロック・サーバーを設定します。サーバーAAAA.BBBBB.CCCから有効な時刻が取得できなかった場合には、SNTPクライアントはサーバーDDD.EEE.FFF,続いてGGG.HHH.IIIと接続しようとします。

例6:設定／調整しきい値を設定

CHGNTPA SVRAUTOSTR(*YES)

このコマンドは、コマンドSTRTCPが出された時に自動始動するようにSNTPサーバーを設定します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

TCP15A5

メンバー&3のアクセス中にエラーが起こった。

TCP15A6

属性ファイルのキーワード&4が見つからない。

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP1903

指定されたホスト名が正しくない。

TCP264D

ファイルの処理中にエラーが起こった。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9133

NTP属性は変更されていません。

TCP9155

システム・クロック調整はサポートされていません。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

ネットワーク・インターフェース変更(FR) (CHGNWIFR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース (フレーム・リレー・ネットワーク) 変更(CHGNWIFR)コマンドは、フレーム・リレー・ネットワーク(FR)インターフェースのネットワーク・インターフェースを変更します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *SAME, *NOWAIT	オプション
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*SAME, *YES, *NO	オプション
CLOCK	刻時	*SAME, *MODEM, *LOOP, *INVERT	オプション
LINESPEED	回線速度	56000-2048000, *SAME, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 512000, 1024000, 1536000, 2048000	オプション
LMIMODE	LMIモード	*SAME, *TE, *FH, *NONE, *ANNEXA	オプション
POLLITV	ポーリング間隔	5-30, *SAME	オプション
FULLINQITV	全面照会間隔	1-255, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	

上

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

ネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

ネットワーク・インターフェース記述名

ネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

上

資源名 (RSRCNAME)

これは必須パラメーターです。

記述が表しているハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立つために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。通信ポートの資源名を指定してください。資源名は入出力アダプター(IOA)の資源名とIOAのポート番号から構成されています。たとえば、IOAの資源名がLIN01で、IOA上のポートが1である場合には、資源名はLIN011となります。

*SAME

値は変更されません。

資源名 資源名を指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ネットワーク・インターフェースは初期プログラム・ロード(IPL)時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** このネットワーク・インターフェースは、IPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

ネットワーク・インターフェースのオンへの構成変更が非同期で行われるか同期で行われるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。ネットワーク・インターフェースは非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、構成

変更(VRYCFG)コマンドを完了する前に、ネットワーク・インターフェースがオンに構成変更されるまで、あるいは指定された時間が過ぎるまで、待機します。

注:

1. ネットワーク・インターフェース記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響し、ONLINE(*YES)が使用される場合には、ネットワーク・インターフェースを同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. ネットワーク・インターフェースをオンに構成変更するのに要する時間は、ネットワーク・インターフェースを管理するようにタスクを準備し、通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化し(IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードを含む)、データ回線終端装置(DCE)との通信を確立するのにかかる時間です。オンへの構成変更にかかる時間の範囲は通常5から45秒ですが、これより長くかかることもあり、システム、ネットワーク・インターフェース・プロトコル、およびその他の要因によって決まります。

上

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰逆転記録方式(NRZI)データ・エンコードを使用するかどうかを指定します。これにより、信号が長時間同じ状態にとどまることはなくなります。

注: 回線上のすべてのデータ通信装置は同じ伝送方式を使用しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*YES NRZIデータ・エンコードが使用されます。

*NO NRZIデータ・エンコードは使用されません。

上

刻時 (CLOCK)

ネットワーク・インターフェースに刻時機能が提供される方式を指定します。

*MODEM

モデムが刻時を提供します。

*LOOP

システムがモデムからの刻時を逆転し、それを回線上で送信刻時として使用します。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されません。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

56000 回線速度は56000 BPSです。

64000 回線速度は64000 BPSです。

128000 回線速度は128000 BPSです。

192000 回線速度は192000 BPSです。

256000 回線速度は256000 BPSです。

320000 回線速度は320000 BPSです。

384000 回線速度は384000 BPSです。

448000 回線速度は448000 BPSです。

512000 回線速度は512000 BPSです。

1024000

回線速度は1024000 BPSです。

1536000

回線速度は1536000 BPSです。

2048000

回線速度は2048000 BPSです。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値の範囲は56000 BPSから2048000 BPSまでです。

上

LMIモード (LMIMODE)

このアダプターのローカル管理インターフェース(LMI)が端末装置として構成されるかあるいはフレーム・ハンドラーとして構成されるかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***TE** ローカル・システムは、端末装置としてフレーム・リレー・ネットワークとインターフェースするように構成されます。フレーム・リレー・ネットワークは、システム・リンク管理フレームとの互換性を持つために、ANSI T1.617 ANNEX Dで作動するように設定されていなければなりません。

***FH** ローカル・システムは、フレーム・ハンドラーとして別のシステムとインターフェースするように構成されます。この構成では、ローカル・システムはフレーム・リレー・ネットワークとして働くこととなります。

*ANNEXA

ローカル・システムは、端末装置としてフレーム・リレー・ネットワークとインターフェースするように構成されます。フレーム・リレー・ネットワークは、システム・リンク管理フレームとの互換性を持つために、ITU (以前はCCITT) Q.933 ANNEX Aとして動作しなければなりません。

***NONE**

ローカル・システムは、LMI機能を実行することなしにフレーム・リレー・ネットワークまたは別のシステムとインターフェースするように構成されます。

上

ポーリング間隔 (POLLITV)

ポーリング・サイクルの率を指定します。ポーリング・サイクルは状況照会メッセージと状況メッセージ交換から構成されます。状況メッセージはDLCIの状況を含みます。

***SAME**

値は変更されません。

10 10秒のポーリング間隔が使用されます。

ポーリング間隔

5から30秒の範囲内で、使用するポーリング間隔を指定してください。

上

全面照会間隔 (FULLINQITV)

満杯状況照会が要求される前に行なわれるポーリング・サイクルの数を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

6 6ポーリング・サイクルの満杯照会間隔が使用されます。

満杯照会間隔

要求する満杯状況サイクルのポーリング・サイクルの数を指定してください。有効な値の範囲は1から255です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・インターフェースを簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

5 15秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

上

例

```
CHGNWIFR  NWID(THISONE)  ONLINE(*YES)  VRYWAIT(*NOWAIT)
           CLOCK(*MODEM)  POLLINTV(*SAME)
```

このコマンドは、ネットワーク・インターフェースTHISONEを、初期プログラム・ロード(IPL)時に待ち時間なしで自動的にオンに構成変更されるように変更します。ネットワーク・インターフェースの刻時機能は、モデムが刻時を提供するように変更されます。ポーリング間隔は、このCHGNWIFRコマンドが出される前の状態のままです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF27A7

エラーのためにネットワーク・インターフェース記述&1は変更されなかった。

上

NWS属性の変更 (CHGNWSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー属性変更(CHGNWSA)コマンドは、システムのネットワーク・サーバー属性を変更します。これらの属性の多くは、CHGNWSUSRAコマンドを使用して個々のユーザー・プロファイルごとに設定することができます。DSPNWSUSRおよびWRKNWSSTSなどの多くのネットワーク・サーバー・コマンドでは、ネットワーク・サーバー属性からの情報はパラメーターに対して*NWSAを指定することによって使用するよう指定できます。

ネットワーク・サーバー属性はシステム保管(SAVSYS)コマンドによって保管されます。ネットワーク・サーバー属性は、オペレーティング・システムが導入される時にシステムに復元されます。

制約事項:

- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。このコマンドの出荷時には、権限が機密保護担当者だけに与えられます。機密保護担当者は、このコマンドの使用を他のユーザーに認可することができます。
- WNTDMNLST, WNTLCLSVRLパラメーターに対して変更を行うには、*SECADM特殊権限が必要です。
- WNTDMNLSTおよびWNTLCLSVRLパラメーターに指定されたWINDOWSドメイン名およびサーバー名はWINDOWSの命名規則に従わなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PMTCTL	プロンプト制御	*ALL, *WINDOWS, *WINDOWSNT	オプション、キー、定位置 1
DFTSVRTYPE	省略時のサーバー・タイプ	*SAME, *WINDOWS, *WINDOWSNT	オプション
WNTDMNLST	WINDOWS サーバー・ドメイン・リスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ドメイン	文字値	
	要素 2: ユーザー・テンプレート	文字値, *NONE	
	要素 3: グループ・タイプ	*GLOBAL, *LOCAL	
WNTLCLSVRL	WINDOWS ローカル・サーバー・リスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー	文字値	
	要素 2: ユーザー・テンプレート	文字値, *NONE	

上

プロンプト制御 (PMTCTL)

コマンド上のどのネットワーク・サーバー属性に対してプロンプトを出すかを指定します。

***ALL** すべてのパラメーターのプロンプトが出されます。

WINDOWS**またはWINDOWSNT**

WINDOWSサーバーに適用されるパラメーターだけのプロンプトが出されます。

注: *WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

上

省略時のサーバー・タイプ (DFTSVRTYPE)

システムの省略時サーバー・タイプを指定します。この属性は、主に、複数のネットワーク・タイプをサポートするI5/OSコマンドの省略時の値として使用されます。

省略時のサーバー・タイプが設定されていない場合には、省略時の値として*WINDOWSが使用されます。

***SAME**

省略時のサーバー・タイプは変更されません。

WINDOWS**またはWINDOWSNT**

システムの省略時のサーバー・タイプは*WINDOWSに設定されます。

注: *WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

上

WINDOWS サーバー・ドメイン・リスト (WNTDMNLST)

I5/OSプロファイルの登録先にするWINDOWSドメインを決定するために、I5/OSユーザー登録サポートによって使用されるWINDOWSドメインの省略時リストを指定します。

リスト中の各項目には、ドメイン、ユーザー・アカウント・テンプレート名、およびグループ・タイプが入ることになります。ユーザー・アカウント・テンプレート名とは、新しいWINDOWSユーザーの作成時に使用されるWINDOWSユーザー識別のことです。

このパラメーターには64項目まで指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。ドメイン名は各項目に入力する必要があり、リスト内で固有としなければなりません。

WNTDMNLSTパラメーターがセットされていない場合には、省略時の値として*NONEが使用されます。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

*NONEを指定した時には、I5/OSプロファイルをWINDOWSドメインに登録しないことが省略時の値となります。

要素1: ドメイン

'ドメイン名'

I5/OSユーザー登録サポートがこのI5/OSプロファイルに登録するWINDOWSドメインの名前を指定してください。

要素2: ユーザー・テンプレート

WINDOWSドメインでの新規WINDOWSユーザーの作成時に、テンプレートとして使用できるWINDOWSユーザーの名前を指定します。

注: この値を変更しても、すでにドメイン内に登録済みのWINDOWSユーザーに影響を与えることはありません。

*NONE

WINDOWSドメイン内に新規のユーザー識別を作成する時に、WINDOWSユーザー・アカウント・テンプレートは使用されません。

'ユーザー・アカウント・テンプレート名'

ドメイン内に新規のWINDOWSユーザー識別を作成する時に使用されるWINDOWSユーザー・アカウントの名前を指定してください。

要素3: グループ・タイプ

WINDOWSドメインで作成するグループのタイプを指定します。この要素が使用されるのは、グループ・プロファイルに登録する場合だけです。

*GLOBAL

グローバル・グループがWINDOWSドメイン内に作成されます。

*LOCAL

ローカル・グループがWINDOWSドメイン内に作成されます。

上

WINDOWS ローカル・サーバー・リスト (WNTLCLSVRL)

I5/OSプロファイルの登録先にするローカルWINDOWSサーバーを決定するために、I5/OSユーザー登録サポートによって使用されるWINDOWSサーバーの省略時リストを指定します。このリストに指定できるのは、ローカルに構成された統合XSERIESサーバーと関連したサーバー名だけです。

リスト中の各項目には、サーバー名および関連したユーザー・アカウント・テンプレート名が入ることになります。このユーザー・アカウント・テンプレート名は、サーバー上に新規のWINDOWSユーザー識別を作成する時に使用されるWINDOWSユーザー・アカウントです。

このパラメーターには64項目まで指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。サーバー名は各項目に入力する必要があり、リスト内で固有としなければなりません。

WNTLCLSVRLパラメーターがセットされていない場合には、省略時の値として*NONEが使用されます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

*NONEを指定した時には、I5/OSプロファイルをWINDOWSサーバーに登録しないことが省略時の値となります。

要素1: サーバー

'サーバー名'

I5/OSユーザー登録サポートがI5/OSプロファイルに登録するWINDOWSローカル・サーバーの名前を指定してください。このサーバーはローカルに構成された統合XSERIESサーバーでなければなりません。

要素2: ユーザー・テンプレート

ローカル・サーバーでの新規WINDOWSユーザーIDの作成時に、テンプレートとして使用できるWINDOWSユーザーの名前を指定します。

*NONE

WINDOWSサーバー上に新規のユーザー識別を作成する時に、WINDOWSユーザー・アカウント・テンプレートは使用されません。

'ユーザー・アカウント・テンプレート名'

ローカル・サーバー上に新規のWINDOWSユーザー識別を作成する時に使用されるWINDOWSユーザー・アカウントの名前を指定してください。

上

例

例1: WINDOWS用ネットワーク・サーバー属性の設定

```
CHGNWSA  DFTSVRTYPE(*WINDOWS)
          WNTDMNLST((DMN01 USRTMP1) (DMN02))
          WNTLCLSVRL((LCLSVR1 TEMPL1) (LCLSRV2 *NONE))
```

省略時サーバー・タイプは*WINDOWSに設定されています。省略時WINDOWSドメイン・リストは、ユーザー・アカウントUSRTMP1を使用するドメインDMN01およびドメインDMN02にプロファイルを登録するように設定されます。ドメインで作成されるWINDOWSグループは、グローバル・グループとして作成されます。

WINDOWSローカル・サーバー省略時リストは、ユーザー・アカウント・テンプレートTEMPL1を使用するローカル・サーバーLCLSVR1およびローカル・サーバーLCLSRV2にプロファイルを登録するように設定されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA44F

ネットワーク・サーバー属性が変更されない。前のメッセージを参照してください。

上

NWS構成の変更 (CHGNWSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NWS構成の変更 (CHGNWSCFG)コマンドは、ネットワーク・サーバー構成を変更します。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)付きで出荷されます。このコマンドの出荷時には、権限が機密保護担当者だけに与えられます。機密保護担当者は、このコマンドの使用を他のユーザーに認可することができます。
- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- IPSECRULE, CHAPAUT, INRCHAPAUT, またはSPCERTIDパラメーターに対して変更を行うためには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- 活動ネットワーク・サーバー記述がこのネットワーク・サーバー構成と関連付けられている場合には、このコマンドを実行することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	通信名	必須, キー, 定位置 1
IPSECRULE	IPセキュリティ規則	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 文字値, *GEN, *REGEN	オプション
INZSP	サービス・プロセッサの初期設定	<u>*SAME</u> , *MANUAL, *AUTO, *NONE	オプション
ENBUNICAST	ユニキャストの使用可能化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SPNAME	サービス・プロセッサ名	文字値, <u>*SAME</u> , *SPINTNETA	オプション
SPINTNETA	SP IP アドレス	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
SPCERTID	SP証明書ID	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 構成要素	*COMMONNAME, *EMAIL, *ORGUNIT	
	要素 2: 比較値	文字値	
EID	格納装置ID	単一値: <u>*SAME</u> , *AUTO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 製造番号	文字値	
	要素 2: 製造タイプおよび型式	文字値	
SPNWSCFG	SP構成名	通信名, <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTSYSID	リモート・システムID	単一値: <u>*SAME</u> , *SPNWSCFG その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 製造番号	文字値	
	要素 2: 製造タイプおよび型式	文字値	
DELIVERY	配布方式	文字値, <u>*SAME</u> , *DYNAMIC, *MANUAL	オプション
CHAPAUT	ターゲットCHAP認証	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: CHAP名	文字値, <u>*NWSCFG</u>	
	要素 2: CHAP機密事項	文字値, <u>*GEN</u>	
INRCHAPAUT	開始プログラムCHAP認証	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: CHAP名	文字値, <u>*NWSCFG</u>	
	要素 2: CHAP機密事項	文字値, <u>*GEN</u>	
BOOTDEVID	ブート装置ID	単一値: <u>*SAME</u> , *SINGLE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: バス	0-255	
	要素 2: 装置	0-31	
	要素 3: 機能	0-7	
DYNBOOTOPT	動的ブート・オプション	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ベンダー ID	文字値, <u>*DFT</u>	
	要素 2: 代替クライアントID	文字値, <u>*ADPT</u>	
RMTIFC	リモート(開始プログラム)インターフェース	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: SCSIインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター アドレス	16 進値, *NONE	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
	要素 5: ISCSI修飾名	文字値, <u>*GEN</u>	
	要素 2: LANインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター アドレス	16 進値, *NONE	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

名前 変更するネットワーク・サーバー構成の名前を指定してください。

IPセキュリティ規則 (IPSECRULE)

ホスティング・システムとリモート・システムの間で使用される構成IPセキュリティ(IPSEC)規則を指定します。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*CNNSEC)が指定されている場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

IPセキュリティ(IPSEC)プロトコルのセキュリティ設定は構成されません。

その他の値 (最大16個指定可能)

***GEN** ランダム事前共用キーを生成します。

***REGEN**

システムがオンに構成変更されるたびに、自動的にランダム事前共用キーを生成します。

文字値 長さが最大32文字までの有効な事前共用キーを指定します。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

サービス・プロセッサの初期設定 (INZSP)

リモート・システムのサービス・プロセッサを保護する方法を指定します。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***MANUAL**

セキュリティー・パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサ上に手動で構成されます。***MANUAL**は最高のセキュリティーを提供します。

このオプションを使用するためには、リモート・システムのサービス・プロセッサがユーザー名、パスワードおよび証明書によって事前に構成されていることが必要です。証明書管理が必須です。公衆ネットワークを介してサービス・プロセッサに接続する場合は、パスワードを保護するためにこの方式が最適です。

***AUTO**

パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサ上に自動的に構成されます。

***AUTO**は、リモート・システムのサービス・プロセッサの事前構成を必要としないセキュリティーを提供します。リモート・システムのサービス・プロセッサでは、証明書が有効期限に近づいた時に、証明書が自動的に再生成されます。このオプションは、相互接続ネットワークが物理的に安全であるか、あるいはファイアウォールによって保護される場合に最適です。

注: 管理者は、サービス・プロセッサ証明書が失効した場合、あるいは証明書の有効期限前に新規証明書またはパスワードが必要になった場合に、NWS構成の初期設定 (INZNWSCFG) コマンドを使用して証明書を再生成することが必要になります。

***NONE**

セキュリティーは提供されません。

これは、相互接続ネットワークが物理的に安全である場合にのみ使用してください。

注: 一部のサービス・プロセッサはセキュア接続をサポートしていません。これらのサービス・プロセッサには***NONE**を使用してください。詳細は、BladeCenterおよびSystem xとのSystem iの統合(<http://www.ibm.com/systems/i/bladecenter/>)にあります。

上

ユニキャストの使用可能化 (ENBUNICAST)

ユニキャスト・パケット配布を使用するかどうかを指定します。ユニキャストとは、パケットが指定されたサービス・プロセッサ名 (SPNAME) または SP IP アドレス (SPINTNETA) パラメーターに直接送られる伝送方式です。

ユニキャスト・パケット配布を使用する場合は、サービス・プロセッサ名 (SPNAME) または SP IP アドレス (SPINTNETA) パラメーターを指定する必要があります。

***AUTO**が指定され、システム・ハードウェアがそれをサポートしている場合には、格納装置ID (EID) パラメーターのシステム識別は自動的に検索されます。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ユニキャストを使用可能にします。

*NO ユニキャストを使用不可にします。

上

サービス・プロセッサ名 (SPNAME)

リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定します。

注:

1. ENBUNICAST(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターが必須です。
2. ENBUNICAST(*NO)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*SPINTNETA

リモート・システムは、**SP IP アドレス (SPINTNETA)**パラメーターに指定された値によって識別されます。

文字値 リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定してください。

上

SP IP アドレス (SPINTNETA)

リモート・システムのサービス・プロセッサIPアドレスを指定します。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*SRVPRC)が指定されている場合だけです。

このパラメーターが有効なのは、SPNAME(*SPINTNETA)が指定されている場合だけです。

注: ENBUNICAST(*NO)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

値は変更されません。

文字値 サービス・プロセッサのIPアドレスを指定してください。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

SP証明書ID (SPCERTID)

SP証明書IDは、サービス・プロセッサの証明書を識別する3つの可能なフィールドの1つを指定します。

このパラメーターは、証明書がサービス・プロセッサからのものであることの追加の検証を行うために指定されます。選択されたフィールドの内容は、証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に入力されたフィールドの値と正確に一致していなければなりません。

このパラメーターが有効なのは、対応する**CRTNWSCFG**コマンドに**TYPE(*SRVPRC)**が指定されている場合だけです。

INZSP(*MANUAL)が指定されている場合には、このパラメーターが必須です。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

サービス・プロセッサ証明書は構成されません。

要素1: 構成要素

***COMMONNAME**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の共通名を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「ASMドメイン・ネーム」フィールドと相互に関連します。

***EMAIL**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の電子メール・アドレスを選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「電子メール・アドレス」フィールドと相互に関連します。

***ORGUNIT**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の組織単位を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「組織単位」フィールドと相互に関連します。

要素2: 比較値

文字値 証明書コンポーネントの比較値を指定してください。255文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで入力します。

上

格納装置ID (EID)

サービス・プロセッサを収容する格納装置を識別する製造番号、機種および型式を指定します。

指定された場合は、ネットワーク上のシステムを見つけるために使用されます。

これらの値をシステムのラベルで探します。

このパラメーターが有効なのは、対応する**CRTNWSCFG**コマンドに**TYPE(*SRVPRC)**が指定されている場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***AUTO**

ENBUNICAST(*YES)が指定されている場合に、自動的にIDを検索します。

要素1: 製造番号

文字値 マシンの製造番号を指定してください。

要素2: 製造タイプおよび型式

文字値 マシンの機種および型式を指定してください。

値は TTTTMMM の形式で入力されます。ここで、TTTT はマシンの機種、MMM はマシンの型式番号です。

上

SP構成名 (SPNWSCFG)

リモート・システムの管理に使用するサービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

名前 サービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

上

リモート・システムID (RMTSYSID)

リモート・システムを識別する製造番号、機種および型式を指定します。指定された場合は、ネットワーク上のリモート・システムを見つけるために使用されます。

これらの値をシステムのラベルで探します。

注: システムの製造番号がネットワーク上で固有のものである場合には、マシンの機種および型式は省略することができます。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***SPNWSCFG**

サービス・プロセッサ(*SRVPRC)のネットワーク・サーバー構成の格納装置ID(EID)パラメーターに指定された製造番号および機種/型式を使用します。

要素1: 製造番号

文字値 マシンの製造番号を指定してください。

要素2: 製造タイプおよび型式

文字値 マシンの機種および型式を指定してください。

値は TTTTMMM の形式で入力されます。ここで、TTTT はマシンの機種、MMM はマシンの型式番号です。

上

配布方式 (DELIVERY)

リモート・システムを構成するために必要なパラメーターを配布する方法を指定します。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*DYNAMIC

パラメーターは、動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を使用して、リモート・システムに動的に配布されます。

*MANUAL

パラメーターは、BIOSユーティリティー (システムBIOSまたはアダプターBIOS - CTRL-Q)を使用して、リモート・システムに手動で構成されます。

上

ターゲットCHAP認証 (CHAPAUT)

System iのiSCSIターゲットがリモート・システムのiSCSIイニシエーターを認証するためのChallenge Handshake Authentication Protocol (CHAP)を指定します。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

CHAP認証は使用可能になりません。

要素1: CHAP名

*NWSCFG

システムは、ネットワーク・サーバー構成名を使用して、CHAPの名前を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい名前を指定してください。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

要素2: CHAP機密事項

***GEN** システムはランダムCHAP機密事項を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい機密事項を指定してください。

注: ターゲットとイニシエーターのCHAP機密事項は同じであってはなりません。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

上

開始プログラムCHAP認証 (INRCHAPAUT)

リモート・システムのiSCSIイニシエーターがSystem iのiSCSIターゲットを認証するためのChallenge Handshake Authentication Protocol (CHAP)を指定します。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

CHAP認証は使用可能になりません。

要素1: CHAP名

*NWSCFG

システムは、ネットワーク・サーバー構成名を使用して、CHAPの名前を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい名前を指定してください。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

要素2: CHAP機密事項

*GEN システムはランダムCHAP機密事項を自動的に生成します。

文字値 CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい機密事項を指定してください。

注: ターゲットとイニシエーターのCHAP機密事項は同じではありません。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド

- コロン
- セミコロン

上

ブート装置ID (BOOTDEVID)

ブート元に使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのPCI機能アドレス（バス／装置／機能）を指定します。

注：複数のiSCSIイニシエーター・ポートが導入済みのリモート・システムでは、ブート元に使用するポートを指定する必要があります。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*SINGLE

単一のiSCSIイニシエーター・ポートがリモート・システム上で使用されます。

要素1: バス

0から255

ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのバス番号を指定します。

要素2: 装置

0-31 ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートの装置番号を指定します。

要素3: 機能

0-7 ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートの機能番号を指定します。

上

動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)

内部動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバー構成を指定します。

注：これは拡張構成機能です。

このパラメーターは、iSCSIターゲット・ホスト・バス・アダプター(HBA)ファームウェアの一部である内部DHCPサーバーを構成するために使用されます。これは、リモートiSCSIイニシエーター・ポートのIPアドレスおよびディスクレス・ブート・パラメーターを指定するために使用されます。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

このパラメーターが有効なのは、DELIVERY(*DYNAMIC)が指定されている場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

要素1: ベンダー ID

クライアントおよびサーバーは、省略時のベンダーIDに事前構成されます。ネットワーク管理者は、クライアントがハードウェア、オペレーティング・システムまたはその他の識別情報を伝えるために、その固有の識別値を定義するようにクライアントを構成することができます。この機能には、IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション60が使用されます。

*DFT 省略時のベンダーIDが使用されます。

文字値 使用されるリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのベンダーID。

要素2: 代替クライアントID

サーバーに対して固有のIDを指定するためにクライアントによって使用されます。それぞれのクライアントのIDは、クライアントの接続先である有効なDHCPネットワーク（すなわち、クライアントのローカル・サブネットおよびDHCPリレーを使用して到達可能なリモート・サブネット）で使用されるその他すべてのクライアントIDの間で固有のものでなければなりません。この固有性の要件を満たすクライアントIDを選択する責任は、ベンダーおよびシステム管理者にあります。この機能には、IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション61が使用されます。

*ADPT

省略時のクライアントIDは、リモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのアダプター・アドレスで構成されます。この値はリモート・システムを識別するために使用されます。

文字値 ブートに使用するリモート・システムのiSCSIイニシエーター・ポートのクライアントIDを指定します。

上

リモート(開始プログラム)インターフェース (RMTIFC)

リモート・システムのiSCSIイニシエーター・ホスト・バス・アダプター(HBA)構成を指定します。各iSCSIイニシエーター・ポートには、SCSIインターフェースとLANまたはTCP Offload Engine (TOE)インターフェースをサポートする2つの機能があります。

このパラメーターが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにTYPE(*RMTSYS)が指定されている場合だけです。

注: 少なくとも1つのSCSIインターフェースと1つのLANインターフェースが必要ですが、それらはリモート・システムの別々のイニシエーター・ポート上にあっても構いません。

単一値

*SAME

値は変更されません。

このパラメーターは最大4回繰り返し指定することができます。

要素1: SCSIインターフェース

SCSIインターフェースを指定します。

***NONE**

このイニシエーター・ポートにSCSIインターフェースは構成されません。

要素1: アダプターアドレス

16進値 イニシエーター・ポートの12文字の16進アダプター・アドレスを指定します。

要素2: IPアドレス

文字値 イニシエーター・ポートのIPアドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

文字値 イニシエーター・ポートのサブネット・マスクを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

***NONE**

このイニシエーター・ポートにゲートウェイ・アドレスは構成されません。

文字値 イニシエーター・ポートのゲートウェイ・アドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素5: iSCSI修飾名

***GEN** システムはiSCSI修飾名を自動的に生成します。

文字値 イニシエーター・ポートのiSCSI修飾名を指定します。

iSCSI修飾名には次の文字を使用できます。

- 小文字に変換される英字の大文字のAからZ (RFC 3722を参照)
- 英字の小文字のAからZ
- 数字0から9
- ピリオド(.)
- ダッシュ(-)
- コロン(:)

要素2: LANインターフェース

LANインターフェースを指定します。

***NONE**

このイニシエーター・ポートにLANインターフェースは構成されません。

要素1: アダプターアドレス

16進値 イニシエーター・ポートの12文字の16進アダプター・アドレスを指定します。

要素2: IPアドレス

文字値 イニシエーター・ポートのIPアドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

文字値 イニシエーター・ポートのサブネット・マスクを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

***NONE**

このイニシエーター・ポートにゲートウェイ・アドレスは構成されません。

文字値 イニシエーター・ポートのゲートウェイ・アドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・サーバー構成を簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

ネットワーク・サーバー構成を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1: サービス・プロセッサ・アドレスの変更

```
CHGNWSCFG NWSCFG(CAT4SP)
          SPINTNETA('1.5.6.7')
```

このコマンドは、サービス・プロセッサのIPアドレスを変更します。

例2: 記述の変更

```
CHGNWSCFG NWSCFG(MYSEC)
          TEXT('ユーザー接続セキュリティ')
```


このコマンドは、ネットワーク・サーバー構成の記述を変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF96CA

ネットワーク・サーバー構成&1が変更されませんでした。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

ネットワーク・サーバー記述の変更 (CHGNWSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記述変更(CHGNWSD)コマンドは、ネットワーク・サーバー記述を変更します。変更することができるパラメーターには、サーバー・ソフトウェア・パラメーターおよびネットワーク・プロトコル記述があります。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

CRTNWSDコマンドのネットワーク・サーバー記述の使用に関する詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「System iの統合」カテゴリーを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NWSD	ネットワーク・サーバー 記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE, *AUTO	オプション
STGPTH	記憶域パス	単一値: *SAME その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	名前, *NONE	
	要素 2: IPセキュリティ規則	要素リスト	
	要素 1: リモート・インターフェース 1規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 2: リモート・インターフェース 2規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 3: リモート・インターフェース 3規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
要素 4: リモート・インターフェース 4規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE		
DFTSECRULE	省略時IP セキュリティ規則	1-16, *SAME, *NONE	オプション
MLTPHGRP	マルチパス・グループ	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 1-4	オプション
DFTSTGPTH	省略時記憶域パス	1-4, *SAME, *MLTPHGRP	オプション
RMVMEDPTH	取り外し可能媒体パス	1-4, *SAME	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	30-1800, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	1-15, <u>*SAME</u> , *NOWAIT	オプション
SHUTDTIMO	シャットダウン・タイムアウト	2-45, <u>*SAME</u> , *TYPE	オプション
PARTITION	区画	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
PTNNBR	区画番号	1-65535, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
PRPDMNUSR	ドメイン・ユーザーの伝搬	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
CODEPAGE	コード・ページ	整数, <u>*SAME</u> , *LNGVER	オプション
MSGQ	サーバー・メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *JOBLOG, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サーバー・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
EVTLOG	イベント・ログ	単一値: <u>*SAME</u> , *ALL, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *SYS, *SEC, *APP	オプション
CMNMSGQ	通信メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 通信メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CFGFILE	構成ファイル	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 構成ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
POOL	プール識別コード	* SAME , *BASE, *SHRPOOL1, *SHRPOOL2, *SHRPOOL3, *SHRPOOL4, *SHRPOOL5, *SHRPOOL6, *SHRPOOL7, *SHRPOOL8, *SHRPOOL9, *SHRPOOL10, *SHRPOOL11, *SHRPOOL12, *SHRPOOL13, *SHRPOOL14, *SHRPOOL15, *SHRPOOL16, *SHRPOOL17, *SHRPOOL18, *SHRPOOL19, *SHRPOOL20, *SHRPOOL21, *SHRPOOL22, *SHRPOOL23, *SHRPOOL24, *SHRPOOL25, *SHRPOOL26, *SHRPOOL27, *SHRPOOL28, *SHRPOOL29, *SHRPOOL30, *SHRPOOL31, *SHRPOOL32, *SHRPOOL33, *SHRPOOL34, *SHRPOOL35, *SHRPOOL36, *SHRPOOL37, *SHRPOOL38, *SHRPOOL39, *SHRPOOL40, *SHRPOOL41, *SHRPOOL42, *SHRPOOL43, *SHRPOOL44, *SHRPOOL45, *SHRPOOL46, *SHRPOOL47, *SHRPOOL48, *SHRPOOL49, *SHRPOOL50, *SHRPOOL51, *SHRPOOL52, *SHRPOOL53, *SHRPOOL54, *SHRPOOL55, *SHRPOOL56, *SHRPOOL57, *SHRPOOL58, *SHRPOOL59, *SHRPOOL60	オプション
TCPPORTCFG	TCP/IPポート構成	単一値: * SAME , *NONE その他の値 (最大 9 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	1, 2, 3, 4, *INTERNAL, *VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: 最大伝送 単位	整数, 1500	
	要素 5: ゲートウェイ・アドレス	文字値, * NONE	
TCPRTE	TCP/IP経路構成	単一値: * SAME , *NONE その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 経路宛先	文字値, *DFTRROUTE	
	要素 2: サブネット・マスク	文字値, *NONE, *HOST	
	要素 3: ネクスト・ホップ	文字値	
TCPHOSTNAM	TCP/IPローカル・ホスト名	文字値, * SAME , *NWS	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TCPDMNNAME	TCP/IPローカル・ドメイン名	文字値, <u>*SAME</u> , *SYS	オプション
TCPNAMSVR	TCP/IP ネーム・サーバー・システム	単一値: <u>*SAME</u> , *SYS, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 文字値	オプション
VRTETHPTH	仮想イーサネット・パス	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート番号	*VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	名前	
	要素 3: IPセキュリティ規則	要素リスト	
	要素 1: リモート・インターフェース 1規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 2: リモート・インターフェース 2規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 3: リモート・インターフェース 3規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
	要素 4: リモート・インターフェース 4規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	
RSTDDEVRSC	制約された装置資源	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前, *ALLTAPE, *ALLOPT	オプション
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート・システム名	名前, *DFT	
	要素 2: 接続セキュリティ名	名前, *DFT	
VRTETHCTLP	仮想イーサネット制御ポート	1024-65535, <u>*SAME</u>	オプション
SYNCTIME	日付および時刻の同期化	<u>*SAME</u> , *TYPE, *YES, *NO, *NONE	オプション
DSBUSRPRF	ユーザー・プロファイル無効	<u>*SAME</u> , *AUTO, *NO	オプション
IPLSRC	IPLソース	<u>*SAME</u> , *NWSSTG, *PANEL, *STMF, A, B, D	オプション
IPLSTMF	IPLストリーム・ファイル	パス名, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
IPLPARM	IPLパラメーター	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
PWRCTL	電源制御	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SRVOPT	保守容易性オプション	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

ネットワーク・サーバー 記述 (NWS D)

変更されるネットワーク・サーバー記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

上

資源名 (R SRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注:

1. 資源名の判別に役立つために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。ファイル・サーバーの入出力プロセッサ(IOP)または入出力アダプター(IOA)の資源名を指定してください。資源名の判別に関する詳細については、IBM Systems Hardware Information Centerで参照できます。
2. このパラメーターを変更できるのは、ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更されている間だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ハードウェア資源はネットワーク・サーバー記述と関連していません。

1. この値が有効となるのは、対応するCRTNWS Dコマンドの ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTまたは*ISCSIを指定した時だけです。
2. *NONEが有効となるのは、対応するCRTNWS Dコマンドの ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーター上で*ISCSIがサーバー接続に指定されている時だけです。
3. *NONEは、対応するCRTNWS Dコマンドの ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定し、サーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した場合には無効になります。
4. *NONEは、対応するCRTNWS Dコマンドの ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定し、さらにハードウェアがPOWER 5より前のものである場合のみ有効な値となります。

*AUTO

ハードウェア資源は、区画に基づいて決定されます。この値が有効となるのは、対応するCRTNWS Dコマンドの ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定した時だけです。

名前 資源名を指定してください。

上

記憶域パス (STGPTH)

記憶域スペースが使用できる記憶域パスを指定します。この情報は、ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター記述およびこのパスのIPセキュリティー規則を含む2つの部分から構成されています。記憶域パスは、少なくとも1つ入力しなければなりません。このパラメーターの最初の記憶域パスは、記憶域パス1となります。このパラメーターには最大4つの値を入力できます。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSコマンドのネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

要素1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

名前 ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)の装置記述の名前を指定します。

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター名は、このNWS上での記憶域パス (STGPTH)パラメーターで固有でなければなりません。

*NONE

この記憶域パスは、このネットワーク・サーバー記述によって構成されません。

要素2: IPセキュリティー規則

タイプ*CNNSECのNWS構成(NWSCFG)で定義されたIPセキュリティー規則(IPSECRULE)パラメーターの相対項目を指定します。これは、各リモート・インターフェース機密保護に使用されます。

要素1: リモート・インターフェース 1規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース1が省略時IPセキュリティー規則 (DFTSECRULE)パラメーターで指定されたIPセキュリティー規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース1はIPセキュリティー規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース1は指定したIPセキュリティー規則を使用します。

要素2: リモート・インターフェース 2規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース2はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティー規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース2はIPセキュリティー規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース2は指定したIPセキュリティー規則を使用します。

要素3: リモート・インターフェース 3規則

***DFTSECRULE**

リモート・インターフェース3はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

***NONE**

リモート・インターフェース3はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース3は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素4: リモート・インターフェース 4規則

***DFTSECRULE**

リモート・インターフェース4はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

***NONE**

リモート・インターフェース4はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース4は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

上

省略時IP セキュリティ規則 (DFTSECRULE)

タイプ接続セキュリティ(*CNNSEC)のネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)で定義されているIPセキュリティ規則 (IPSECRULE)パラメーターの定義済み項目を指定します。これは、省略時の機密保護規則を使うよう構成されている記憶域および仮想イーサネット接続に使用されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

リモート・インターフェースはIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェースは指定したIPセキュリティ規則を使用します。

上

マルチパス・グループ (MLTPHGRP)

記憶域パス (STGPTH)パラメーターで定義された記憶域パスを指定します。

1. どの記憶域パスが有効であるかを判別するには、記憶域パス (STGPTH)パラメーターを参照してください。
2. このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

マルチパス・グループは定義されません。

その他の値 (最大4個指定可能)

1から4 相対記憶域パスを少なくとも1つ指定します。

上

省略時記憶域パス (DFTSTGPTH)

記憶域パス (STGPTH)パラメーターで定義された記憶域パスを指定するか、あるいはマルチパス・グループ (MLTPTHGRP)パラメーターで定義されたマルチパス・グループを指定します。

1. どの記憶域パスが有効であるかを判別するには、記憶域パス (STGPTH)パラメーターを参照してください。
2. このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

1から4 省略時記憶域パスは記憶域パス1, 2, 3,または4を使用します。

***MLTPTHGRP**

省略時記憶域パスは、マルチパス・グループ記憶域パスを使用します。

上

取り外し可能媒体パス (RMVMEDPTH)

記憶域パス (STGPTH)パラメーターに定義された記憶域パスを指定します。

1. どの記憶域パスが有効であるかを判別するには、記憶域パス (STGPTH)パラメーターを参照してください。
2. このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

1から4 取り外し可能媒体は記憶域パス1, 2, 3,または4を使用します。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

リモート・サーバーのサービス・プロセッサへの接続の確立、あるいはリモート・サーバーのパワーオンでシステムが待機する時間 (秒数) を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

整数 30から1800 (秒数) の範囲の値を指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

注:

1. ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIを指定している時には、このパラメーターは無視されます。統合サーバーをオンに構成変更するには、CHGTCPIFCコマンドを使用し、AUTOSTARTパラメーターをサーバーの専用LAN回線記述用に*YESに設定してください。そうしない場合には、IPL処理が完了した後にサーバーをオンに変更するため始動プログラムを呼び出すことができます。
2. 対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定している時には、*NOの構成をお勧めします。これで、IPL処理が完了すると、サーバーをオンに構成変更するために、始動プログラムが呼び出されることになります。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** このサーバーは、IPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** このサーバーは、IPL時に自動的にオンに構成変更されることはありません。

上

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

ネットワーク・サーバー記述を非同期または同期のどちらでオンに構成変更するかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、オペレーティング・システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

注: TYPEが*WINDOWSNTまたは*IXSVRの場合、ネットワーク・サーバー記述をオンに構成変更するとIOPがリセットされます。

***SAME**

値は変更されません。

***NOWAIT**

オペレーティング・システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。ネットワーク・サーバー記述は、非同期にオンに構成変更されます。

1から15

待機する時間 (分数) を指定してください。オペレーティング・システムは、構成変更(VRYCFG) コマンドを完了する前に、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されるまで、または指定された時間が経過するまで待機します。

上

シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)

シャットダウン・タイムアウト値を分数で指定します。これは、ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更される前に、統合サーバーのオペレーティング・システムがシャットダウンのために消費できる時間を制限する場合に使用されます。

*SAME

値は変更されません。

*TYPE

このシャットダウン・タイムアウト値は、ネットワーク・サーバー記述のタイプに基づきます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定し、サーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した場合、シャットダウン・タイムアウト値は31になります。それ以外のすべてのNWSDについては、シャットダウン・タイムアウト値は15になります。

2から45

待機する分数を指定してください。統合サーバーのオペレーティング・システムが正常にシャットダウンされるまで、あるいはネットワーク・サーバー記述をオフに構成変更する前に指定の時間が経過するまで、i5/OSは待機します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定し、サーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した場合、範囲は31-45分になります。

上

区画 (PARTITION)

この統合サーバーによって使用される論理区画の名前を指定します。最大48文字を指定することができます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定している時には、区画 (PARTITION)または区画番号 (PTNNBR)パラメーターを指定することができますが、両方のパラメーターを指定することはできません。ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定し、RSRCNAMEを指定した時には、区画 (PARTITION)および区画番号 (PTNNBR)パラメーターを*NONEに設定できます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

区画名は、この統合サーバーによって使用されません。

名前 この統合サーバーによって使用される区画の名前を指定します。区画名PRIMARYを指定することはできません。

区画番号 (PTNNBR)

この統合サーバーによって使用される論理区画の番号を指定します。

注:

1. ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定している時には、区画 (PARTITION)または区画番号 (PTNNBR)パラメーターを指定することができますが、両方のパラメーターを指定することはできません。
2. ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定し、RSRCNAMEを指定した時には、区画 (PARTITION)および区画番号 (PTNNBR)パラメーターを*NONEに設定できます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

区画番号は、この統合サーバーによって使用されません。

番号 この統合サーバーによって使用される区画の番号を指定します。

ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)

このネットワーク・サーバー記述でドメイン・ユーザー登録を許可するかどうかを指定します。

注: 対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定されている時、あるいはサーバー・オペレーティング・システムに*LINUX32または*LINUX64 を指定している時には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ドメイン・ユーザー登録の伝搬がこのネットワーク・サーバー記述に許可されます。

***NO** ドメイン・ユーザー登録の伝搬がこのネットワーク・サーバー記述に許可されません。

コード・ページ (CODEPAGE)

この統合サーバーによって使用される文字セットを表すASCIIコード・ページを指定します。指定の国別または地域コードには、特定のコード・ページだけを使用することができます。

注:

1. このパラメーターを変更できるのは、ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更されている間だけです。

2. 対応するCRTNWSDCOMMANDの **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*GUESTを指定されている時、あるいは**サーバー・オペレーティング・システム**に*LINUX32または*LINUX64 を指定している時には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***LNGVER**

選択した言語バージョン(LNGVER)と対応する省略時のコード・ページを使用することを指定します。

整数 統合サーバーによって使用される文字セットを表すASCIIコード・ページを指定してください。各国別または地域コードで利用できるコード・ページ値は、次の通りです。

437	米国
850	多国語
852	ラテン語2 (チェコスロバキア, ハンガリー, ポーランド, 旧ユーゴスラビアの各国)
857	トルコ語
860	ポルトガル語
861	アイスランド
862	ヘブライ語圏
863	カナダ (フランス語圏)
864	アラビア語圏
865	北欧ゲルマン系言語
866	ロシア語
932	日本語
934	韓国語
938	中国語
942	日本語SAA
944	韓国語SAA
948	中国語SAA
950	中国語 (繁体字) (DBCS)
1381	中国語 (簡体字) (DBCS)

上

サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

統合サーバー・メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定します。

このメッセージ待ち行列に送られるメッセージのタイプの詳細については、統合サーバーのタイプに関連した適切な資料を参照してください。

注: *NONE以外の値が指定されている場合には、すべての統合サーバー活動はモニター・ジョブ・ログまたは指定されたメッセージ待ち行列に記録されます。適切な手順でi5/OSシステムでこの情報を保護してください。

i5/OSで統合サーバー情報に対するアクセスを制限する1つの方法として、サーバー活動を収めるメッセージ待ち行列を作成できます。このメッセージ待ち行列をAUT(*EXCLUDE)で作成してください。その結果、統合サーバー活動にアクセスすることができるユーザーにはすべて、GRTOBJAUTコマンドによってそのメッセージ待ち行列に対する明示権限を与えることができます。このパラメーターにはこのメッセージ待ち行列を指定してください。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*JOBLOG

メッセージは、モニター・ジョブのジョブ・ログに入れられます。

*NONE

メッセージは、どのメッセージ待ち行列にも入れられません。

修飾子1: サーバー・メッセージ待ち行列

名前 統合サーバーによって出されたメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

イベント・ログ (EVTLOG)

イベント・ログのメッセージがサーバーから受け取られるかどうかを指定します。

注:

- イベント・ログ・メッセージは、**サーバー・メッセージ待ち行列(MSGQ)**パラメーターに指定されたメッセージ待ち行列に入れられます。このパラメーターに*NONE以外の値を指定した場合には、MSGQ値を*NONEとすることはできません。詳細については、MSGQパラメーターの説明を参照してください。
- ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*GUESTを指定した時、あるいは**サーバー・オペレーティング・システム**で*LINUX32または*LINUX64を指定した時には、このパラメーターは無効です。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** すべてのイベント・ログ・メッセージが受け取られます。

***NONE**

イベント・ログ・メッセージは受け取られません。

その他の値 (最大3個指定可能)

注: それぞれの値は、一度しか指定することができません。

***SYS** システム・イベント・ログ・メッセージが受け取られます。

***SEC** 機密保護イベント・ログ・メッセージが受け取られます。

***APP** アプリケーション・イベント・ログ・メッセージが受け取られます。

上

通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続**で***ISCSI**を指定した時だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***SYSOPR**

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの通信状況メッセージは、システム操作員のメッセージ待ち行列に入れられます。

修飾子1: 通信メッセージ待ち行列

名前 ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

構成ファイル (CFGFILE)

統合サーバーの活動化または詳細定義に使用する構成データが入っているソース・ファイルを指定します。

注: 対応するCRTNWSDCOMMANDの **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*GUESTを指定した時には、このパラメーターは無効です。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

構成ファイルは指定されません。

修飾子1: 構成ファイル

名前 サーバーの構成データ・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。サーバーが活動化される時点で、ファイル内のすべてのメンバーが処理されます。このファイルは、サーバーが活動化される時点までにシステム上に存在していなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

プール識別コード (POOL)

この統合サーバーが使用する共用データの記憶域プールを指定します。

注: **ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*IXSVRまたは*WINDOWSNTを指定した時には、このパラメーターは無効です。

***SAME**

値は変更されません。

***BASE**

基本プールは、この統合サーバーで使用されるものです。

***SHRPOOLNN**

この統合サーバーで使用される共用プールを指定します。60個の汎用共用プールがあり、特殊値*SHRPOOL1から*SHRPOOL60によって識別されます。

上

TCP/IPポート構成 (TCPPOORTCFG)

統合サーバーのポートに固有のTCP/IP構成値を指定します。

この情報には、統合サーバー・ポートの識別、そのポートに割り当てられているIPアドレス、サブネット・マスク、MTU、および省略時のゲートウェイを含む5つの部分があります。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIを指定している時には、*NONEを指定することができません。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

TCP/IPポート構成がありません。

その他の値 (最大5個指定可能)

要素1: ポート

注: それぞれの値は、一度しか指定することができません。

- 1 統合サーバーのポート番号1が構成されます。
- 2 統合サーバーのポート番号2が構成されます。
- 3 統合サーバーのポート番号3が構成されます。
- 4 統合サーバーのポート番号4が構成されます。

*INTERNAL

統合サーバー内部トークンリング・ポートが構成されます。

注: 対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIまたは*GUESTを指定した時には、*INTERNALは無効です。

*VRTETHPTP

統合サーバー仮想イーサネットのPOINT-TO-POINTポートが構成されます。

*VRTETHN

仮想イーサネット・ポート'N'が構成されます。ここで'N'は0から9の数字です。

要素2: IPアドレス

文字値 統合サーバー・ポートと関連したインターネット・アドレスを指定してください。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。

注: 選択するIPアドレスは、すべてのネットワーク・サーバー記述およびI5/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。

要素3: サブネット・マスク

文字値 統合サーバー・ポートと関連したサブネット・マスクを指定してください。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

要素4: 最大伝送単位

1500 最大伝送単位(MTU)値は1500バイトです。

整数 インターフェースのMTU値を指定します。

要素5: ゲートウェイ・アドレス

*NONE

ゲートウェイ・アドレスはありません。

文字値 統合サーバー・ポートに関連したゲートウェイ・アドレスを指定します。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

TCP/IP経路構成 (TCP RTE)

統合サーバーの伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成に対してリモート宛先システムまたはネットワークへの経路を指定します。経路指定は3つの要素(経路宛先、サブネット・マスク、およびネクスト・ホップ・サブネット・マスク)から成っています。最大24個の経路指定を指定することができます。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIを指定している時には、このパラメーターは無視されます。

2つの値で経路が固有なものとして識別されます。これらは経路宛先フィールドとサブネット・マスクです。*DFTRROUTEの場合には、ネクスト・ホップ要素で経路が固有なものとして識別されます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

統合サーバーに必要な経路指定がありません。TCPROUTECFG(*NONE)が指定されているときは、*NONEを指定する必要があります。*NONEを指定することができるのは、経路の指定の必要がない場合です。

要素1: 経路宛先

追加されるリモート・ネットワークまたはホストを指定します。IPアドレスを構成する4つのバイトはすべて指定しなければなりません。一部は0にできます。例えば、9.5.11サブネット上のすべてのホストへの経路は、経路宛先に9.5.11.0を入力することによって識別されます。サブネット・マスクと組み合わせて使用すると、経路宛先はネットワークまたはシステムへの経路を識別します。

*DFTRROUTE

TCP/IPの省略時の経路が使用されます。省略時の経路項目は、未定義のネットワークまたはシステムに送られるデータを経路指定するためにシステムによって使用されます。複数の*DFTRROUTE項目を指定することができます。各*DFTRROUTE項目は指定された順序で使用されます。

*DFTRROUTE項目上の一定のネクスト・ホップ・ゲートウェイが使用可能でない場合には、指定された後続の*DFTRROUTE項目のネクスト・ホップ・ゲートウェイが使用されます。これは、活動状態の*DFTRROUTE項目のゲートウェイが見つかるか、あるいはネクスト・ホップ・ゲートウェイ値のリストが使い果たされるまで続きます。

文字値 追加する経路宛先を指定してください。経路宛先は次のように指定できます。クラスAの場合 *NNN.0.0.0*、クラスBの場合 *NNN.NNN.0.0*、クラスCの場合 *NNN.NNN.NNN.0*、組み合わせの場合 *NNN.NNN.NNN.NNN*。*NNN*は0から255の範囲の10進数です。

注: その組合わせとは、すべての9.5.X.XアドレスはクラスAネットワーク・アドレスですが、9.5サブネット上のホストへの9.5.0.0といった経路を指定できることを意味します。

例外:

- 最初のバイト (オクテット) は0より大きく、255より小さくなければなりません。
- 最後のバイト (オクテット) は255であってはなりません。
- SUBNETMASK値に*HOSTが指定されている場合には、最後のバイト (オクテット) は0であってはなりません。
- ブロードキャスト・アドレスへの経路は使用できません。

要素2: サブネット・マスク

経路宛先要素に*DFTRROUTEまたは経路宛先を入力した場合には、サブネット・マスク値を指定しなければなりません。サブネット・マスクは、TCP/IP に対して経路宛先に指定された値のどのビットがIPアドレスのネットワーク部分およびサブネット部分を構成するかを識別するビット・マスクを指定します。サブネットは、経路宛先IPアドレスとサブネット・マスクを結合することによって識別されます。

*NONE

サブネット・マスクはありません。経路宛先要素に*DFTRROUTEを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。*NONEは*DFTRROUTEの経路宛先値にしか有効でありません。

*HOST

経路宛先フィールドに指定されたIPアドレス値はホスト・アドレスです。サブネット・マスクの値は、255.255.255.255となるように計算されます。

文字値 サブネット・フィールドのマスクを指定してください。IPアドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*の形式です。この場合、*nnn*は0から255の範囲の10進数です。例えば、129.35.11.0という宛先経路のIPアドレス値はクラスBのサブネットです。そのアドレスのネットワークID部分は129.35です。サブネット・マスクの始め2バイトは255を示さなければなりません。例えばサブネット・マスクは、255.255.X.Xのようにないなければなりません。Xはユーザーが決定します。特定のクラスのアドレスのネットワーク部分に関連するサブネット・マスクの部分は255になっていなければなりません。

要素3: ネクスト・ホップ

ネクスト・ホップ値は、経路上の次のシステム (ゲートウェイ) のIPアドレスを指定します。ネクスト・ホップ要素で指定されたIPアドレスが統合サーバー・ポートの1つに関連したネットワークを経由して直接に到達できないかぎり、経路を追加することはできません。

IPアドレスの概要については、*FASTPATH FOR TCP/IP*ブックを参照してください。

文字値 経路上の次のシステムのIPアドレスを*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定してください。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ただし、IPアドレスのホストID部分およびネットワークID部分は全桁0または全桁1とすることはできません。IPアドレスのネットワークID部分およびホストID部分がすべて2進0または1となっているIPアドレスは正しくありません。

上

TCP/IPローカル・ホスト名 (TCPHOSTNAM)

統合サーバーと関連付けるホスト名を短い形式で指定します。

ホスト名は1から63文字のテキスト・ストリングにすることができます。

ホスト名には次の文字を使用できます。

- 英字AからZ
- 数字0から9
- マイナス符号(-)
- ピリオド(.)
- 下線(_)

*SAME

値は変更されません。

*NWS

統合サーバーのホスト名がネットワーク・サーバー記述の名前と同じであることを指定します。

TCP/IPポート構成(TCPPORTCFG)パラメーターに***NONE**を指定した場合には、***NWS**を指定しなければなりません。

名前 統合サーバーと関連付けるホスト名を指定してください。

上

TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)

統合サーバーに関連したローカル・ドメイン名を指定します。

ドメイン名は、1文字から255文字までのテキスト・ストリングとすることができます。ドメイン名はピリオドで区切られた1つまたは複数のラベルから構成されます。各ラベルには、最大63文字まで入れることができます。ドメイン名では、次の文字を使用できます。

- 英字AからZ
- 数字0から9
- マイナス符号(-)
- 下線(_)
- ピリオド(.)。ピリオドは、ドメイン・スタイル名のラベルを区切る場合にのみ使用することができます (RFC 1034を参照)。

大文字と小文字を使用することができますが、その区別は重要ではありません。大文字と小文字は入力されたそのままになります。ホスト名の最初と最後の文字は英字または数字でなければなりません。

注: **TCPPORTCFG(*NONE)**が指定されている場合には、***SYS**を指定する必要があります。また、**TCPPORTCFG**パラメーターで***INTERNAL**ポートしか指定しない場合には、***SYS**も指定する必要があります。

*SAME

値は変更されません。

***SYS** 統合サーバーのローカル・ドメイン名は、i5/OSシステム用に構成されているのと同じ値であることを指定します。

文字値 統合サーバーに関連付けるTCPドメイン名を指定します。

上

TCP/IP ネーム・サーバー・システム (TCPNAMSVR)

統合サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定します。一般に、これはi5/OSシステムの場合と同じ値です。

注: TCPPORTCFG(*NONE)が指定されている場合には、*SYSを指定する必要があります。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***SYS** 統合サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムは、i5/OSの場合と同じにする必要があります。

***NONE**

統合サーバーによって使用されるネーム・サーバーがありません。

その他の値 (最大3個指定可能)

文字値 統合サーバーによって使用されるネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定してください。リモート・ネーム・サーバー・システムは3個まで指定できます。ネーム・サーバー・システムは指定されている順序にしたがって使用されます。

値は nnn.nnn.nnn.nnn の形式で指定されます。ここで nnn は0から255の範囲の10進数です。

上

仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)

イーサネット回線記述が使用できる仮想イーサネット・パスを指定します。この情報は、仮想イーサネット・ポート、ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター記述、およびこのパスのIPセキュリティー規則を含む3つの部分から構成されています。このパラメーターには最大5つの値を入力できます。

*VRTETHPTP回線記述が使用するパスである仮想イーサネット・パスを少なくとも1つ入力しなければなりません。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDのネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

要素1: ポート番号

***VRTETHPTP**

統合サーバー仮想イーサネットのPOINT-TO-POINTポートが構成されます。

***VRTETHN**

仮想イーサネット・ポート'N'が構成されます。ここで'N'は0から9の数字です。

要素2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

名前 既存のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)記述の名前を指定してください。ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター名は、このNWS上での各VRTETHPTHパラメーターで固有である必要はありません。

要素3: IPセキュリティ規則

タイプ*CNNSECのNWS構成(NWSCFG)で定義されたIPセキュリティ規則(IPSECRULE)パラメーターの相対項目を指定します。これは、各リモート・ポート機密保護に使用されます。

要素1: リモート・インターフェース 1規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース1が省略時**IP セキュリティ規則 (DFTSECRULE)**パラメーターで指定されたIPセキュリティ規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース1はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース1は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素2: リモート・インターフェース 2規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース2はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース2はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース2は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素3: リモート・インターフェース 3規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース3はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース3はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース3は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

要素4: リモート・インターフェース 4規則

*DFTSECRULE

リモート・インターフェース4はDFTSECRULEパラメーターで指定したIPセキュリティ規則を使用します。

*NONE

リモート・インターフェース4はIPセキュリティ規則を使用しません。

1から16

リモート・インターフェース4は指定したIPセキュリティ規則を使用します。

制約された装置資源 (RSTDDEVRSRSC)

制限されていて、統合サーバーによって使用できないテープおよび光ディスク装置の資源名を指定します。

統合サーバーが活動状態であり、要求がアプリケーションを実行中のクライアントから出された時に、この資源が使用されます。クライアント・アプリケーションとi5/OSベースのアプリケーションが同時にこの装置資源を使用することはできません。装置資源をアプリケーションによって使用する予定の場合には、アプリケーションが使用準備のできている時に使用可能にする必要があります。

注:

1. テープ装置資源および光ディスク装置資源だけが制約できます。
2. 有効でないかまたは検出されないその他の装置資源を指定する場合には、ネットワーク・サーバー記述をオンに構成変更できません。
3. このパラメーターを変更できるのは、ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更されている間だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

装置資源は統合サーバーから制約されません。したがって、システムに存在するテープ装置資源または光ディスク装置資源を使用できます。

***ALL** すべてのテープ装置および光ディスク装置資源が統合サーバーによる使用から制約されます。

その他の値 (最大10個指定可能)

***ALLOPT**

すべての光ディスク装置資源が統合サーバーによる使用から制約されます。

注: この値は、一度しか指定することができません。

***ALLTAPE**

すべてのテープ資源が、統合サーバーによる使用から制約されます。

注: この値は、一度しか指定することができません。

名前 統合サーバーによって使用できない制限された装置の資源名を指定してください。最大10個の制限された装置資源名を指定することができます。

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

このNWSDで使用するネットワーク・サーバー構成記述を指定します。この情報は、リモート・システム名および接続セキュリティ名を含む2つの部分から構成されています。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

要素1: リモート・システム名

***DFT** システム生成された省略時リモート・システム・ネットワーク・サーバー構成名、
'NWSDNAMERM'を使用します。ここでNWSDDNAMEは、このネットワーク・サーバー記述の名前
です。

名前 既存のリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成記述の名前を指定してください。

要素2: 接続セキュリティー名

***DFT** システム生成された省略時接続セキュリティー・ネットワーク・サーバー構成名である
'nwsdnameCN'を使用します。ここでnwsdnameは、このネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存の接続セキュリティー・ネットワーク・サーバー構成記述の名前を指定してください。

上

仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)

仮想イーサネット制御に使用するTCPポートを指定します。

このポートは、仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)パラメーター上のネットワーク・サーバー記述 (NWSDD)オブジェクトと関連したネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)装置で構成されたローカル・エリア・ネットワーク(LAN)インターフェースを通してLISTENします。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*ISCSIを指定した時だけです。

*SAME

値は変更されません。

整数 仮想イーサネット制御に使用されるポートを識別するポート番号を指定します。有効な値の範囲は1024から65,535です。省略時値は8800です。

上

日付および時刻の同期化 (SYNCTIME)

i5/OSが統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と同期化するかどうかを指定します。

時刻の同期化が正しく働くようにするためには、QTIMZONシステム値を正しい値に設定しなければなりません。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに*GUESTが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE**

i5/OSはネットワーク・サーバー記述タイプに基づいて同期を実行します。ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*IXSVR, *ISCSI,または*WINDOWSNTを指定した場合、同期は、SYNCTIME(*YES)が指定されたものとして実行されることになります。

***YES** i5/OSは、統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と同期化します。

ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIを指定した場合、次のことが行われます。

- ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更された場合には、このリセットがただちに実行され、それ以降は少なくとも30分ごとに実行されます。
- ネットワーク・サーバー記述がオフに構成変更されている場合には、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更された時にこのリセットが実行され、それ以降は少なくとも30分ごとに実行されます。

***NO** i5/OSは、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されると、統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と一度だけ同期化します。

***NONE**

i5/OSは、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されると、統合サーバーの日付および時刻をi5/OSの日付および時刻と同期化することはしません。

上

ユーザー・プロファイル無効 (DSBUSRPRF)

対応するi5/OSユーザー・プロファイルが使用不可の場合に、統合サーバーのユーザー・プロファイルを使用不可にするかどうかを指定します。

注: ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定されている時、あるいはサーバー・オペレーティング・システムに*LINUX32または*LINUX64を指定している時には、このパラメーターは無効です。

***SAME**

値は変更されません。

***AUTO**

対応するi5/OSユーザー・プロファイルが使用不可の場合、統合サーバーのユーザー・プロファイルは使用不可になります。

***NO** 対応するi5/OSユーザー・プロファイルが使用不可の場合、統合サーバーのユーザー・プロファイルは使用不可になりません。

上

IPLソース (IPLSRC)

区画を開始するロード・イメージのソースを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定した時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NWSSTG**

この区画は、このネットワーク・サーバー記述に接続された最初のネットワーク・サーバー記憶スペースのロード・イメージを使用して開始されます。

***STMF**

この区画は、IPLストリーム・ファイル(IPLSTMF)パラメーターによって指定されたストリーム・ファイルのロード・イメージを使用して開始されます。

注: 対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー・オペレーティング・システムで*OPSYSを指定した時には、この値は無効です。

***PANEL**

この区画は、操作員パネルで指示されたソースから開始されます。

- A この区画はAソースから開始されます。
- B この区画はBソースから開始されます。
- D この区画はDソースから開始されます。

上

IPLストリーム・ファイル (IPLSTMF)

この区画をロードするイメージが入っているストリーム・ファイルのパスを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*GUESTを指定し、IPLソース(IPLSRC)パラメーターに*STMFを指定している時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ストリーム・ファイルは指定されません。

パス名 ロード・イメージが入っているストリーム・ファイルのパスを指定します。最大5000文字を指定することができます。

上

IPLパラメーター (IPLPARM)

IPL時にロード・イメージに渡す文字のストリングを指定します。これはゲスト・オペレーティング・システムのコマンドおよび構成情報から構成されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの ネットワーク・サーバー・タイプ(TYPE)パラメーターに対して、サーバー接続で*GUESTを指定した時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

IPLパラメーターはロード・イメージへ渡されません。

注: *NONEは、対応するCRTNWSDCOMMANDの **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー・オペレーティング・システム**で*OPSYSを指定した場合のみ有効な値となります。

文字値 ロード・イメージに渡すための、IPLパラメーターを含む最大256文字のストリングを指定します。

上

電源制御 (PWRCTL)

統合サーバー区画が、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されたときに電源遮断されるかどうか、また、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されたときに電源投入されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、対応するCRTNWSDCOMMANDの **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して、**サーバー接続**で*GUESTを指定した時だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 統合サーバー区画は、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されたときに電源遮断され、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されたときに電源投入されます。

***NO** 統合サーバー区画は、ネットワーク・サーバー記述がオフラインに変更されても電源遮断されず、ネットワーク・サーバー記述がオンラインに変更されても電源投入されません。

上

保守容易性オプション (SRVOPT)

保守容易性オプションを指定します。このパラメーターを使用すると、保守容易性オプションが、サービス・プロバイダーの指示の下で使用するものとして提供されるようになります。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

保守容易性オプションは提供されません。

文字値 サービス・プロバイダーによって指示された値を指定します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・サーバー記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1:TCP/IP経路構成の変更

```
CHGNWSD NWS(REMODEL2) TCPRTE((*DFTRROUTE *NONE '9.5.5.1'))
```

このコマンドは、REMODEL2という名前のネットワーク・サーバー記述を変更します。TCP/IP経路の省略時のネクスト・ホップ・アドレスは9.5.5.1に変更されます。

例2:制限された装置資源の変更

```
CHGNWSD NWS(WNTSVR4) RSTDDEVRS(OPT02 *ALLTAPE)
```

このコマンドは、WNTSVR4という名前のネットワーク・サーバー記述を変更します。装置資源OPT02およびすべてのテープ資源(*ALLTAPE)は、ネットワーク・サーバー記述からのそれらのアクセスを制限されるように変更されます。

例3:記憶域パス、マルチパス・グループ、ネットワーク・サーバー構成、およびシャットダウンTCPポートの変更

```
CHGNWSD NWS(WINISCSI) STGPTH((NWSH3) (NWSH4 (5 3 8 9)))  
MLTPHGRP(1 2)  
NWSCFG(YOURREMOTE YOURSECURITY)  
VRTETHCTLP(8950)
```

このコマンドは、WINISCSIという名前のネットワーク・サーバー記述を変更します。ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターNWSH3とNWSH4,および関連したIPセキュリティー規則を使用するよう、記憶域パス1および2が変更されます。マルチパス・グループは、記憶域パス1および2を使用するよう変更されています。ネットワーク・サーバー記述は、リモート・システム名にYOURREMOTEを使用し、接続セキュリティー名にYOURSECURITYを使用するよう変更され、また仮想イーサネット制御ポートは8950に変更されています。

例4:プールIDの変更およびユーザー・プロファイル使用不可の設定の変更

```
CHGNWSD NWS(WINISCSI) POOL(*SHRPOOL55) DSBUSRPRF(*NO)
```

このコマンドは、WINISCSIという名前のネットワーク・サーバー記述を変更します。共用ストレージ・プール55が使用され、ユーザー・プロファイルは使用不可に設定されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26AD

ネットワーク・サーバー記述&1は変更されなかった。

NWS記憶スペースの変更 (CHGNWSSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶スペース変更(CHGNWSSTG)コマンドは、ネットワーク・サーバーによって使用される記憶スペースを変更します。ネットワーク記憶スペースは、ネットワーク・サーバー記述にリンクされていなければ使用することができません。詳細については、ネットワーク・サーバー記憶リンク追加(ADDNWSSTGL)コマンドを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, キー, 定位置 1
NWSSIZE	サイズ	整数, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

変更するネットワーク・サーバー記憶スペースの名前を指定します。

上

サイズ (NWSSIZE)

ネットワーク・サーバー記憶スペースのための新規サイズを指定します。指定するサイズは、ネットワーク・サーバー記憶スペースの現行サイズより大きくなければなりません。

*SAME

サイズは変更されません。

1から1024000

ネットワーク・サーバー記憶スペースの新規サイズをメガバイトで指定してください。

- FORMAT(*NTFS)の範囲は2から1024000 MBです。
- FORMATタイプが*FAT, *FAT32,および*OPENの範囲は1から1024000 MBです。
- FORMAT(*NTFSQR)の範囲は500から1024000 MBです。

上

テキスト'記述' (TEXT)

記憶スペースを説明するテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGNWSSTG NWSSTG(STGSPACE3) NWSSIZE(200)
```

このコマンドは、ネットワーク・サーバー記憶スペースSTGSPACE3を200 MBのサイズに増やします。STGSPACE3の現行の最大サイズが200 MBより大きい場合には、コマンドは失敗します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA489

記憶域スペース&2が変更されませんでした。

CPFA48A

記憶域スペース&2に正しくないNWSSIZE値が指定されました。

上

NWSユーザー属性の変更 (CHGNWSUSRA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー・ユーザー属性の変更(CHGNWSUSRA)コマンドは、ネットワーキング環境で作動するI5/OSユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルのネットワーク・サーバー属性を変更するために使用されます。このコマンドは以下を実行するために使用できます。

1. ネットワーク・サーバー属性を特定のユーザーまたはグループ・プロファイル用に設定する。
2. WINDOWSネットワークの場合には、ユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルが1つまたは複数のWINDOWSドメインまたはローカル・サーバーに登録されるように、ネットワーク・サーバー属性を設定することができます。WINDOWSローカル・サーバーに登録する時には、サーバーがローカルに接続された統合XSERIESサーバーと関連していなければなりません。プロファイルが登録される場所は、WNTDMNLSTおよびWNTLCLSVRLパラメーターで指定された値によって異なります。

I5/OSユーザーが登録されると、対応するWINDOWSユーザー識別がWINDOWSドメインまたはWINDOWSローカル・サーバーに作成されます。

I5/OSグループ・プロファイルがWINDOWSドメインまたはローカル・サーバーに登録されると、対応するWINDOWSグループがドメインまたはローカル・サーバーに作成されます。グループに定義されたすべてのI5/OSユーザー・プロファイルがドメインまたはローカル・サーバーに登録され、現在ユーザー・アカウント・テンプレートによって定義されているWINDOWSグループに追加されます。

ネットワーク・サーバー・ユーザー属性はシステム保管(SAVSYS)および機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管します。ネットワーク・サーバー・ユーザー属性は、ユーザー・プロファイルが復元される時にシステムに復元されます。ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドを使用すると、ユーザー・プロファイルおよびそれに関連したネットワーク・サーバー・ユーザー属性を復元することができます。

制約事項:

1. 変更されるユーザー・プロファイルに対する*OBJMGTおよび*USE権限をもつユーザーだけが、このコマンドを指定することができます。
2. WNTDMNLST,またはWNTLCLSVRLパラメーターに対して変更を行うには、*SECADM特殊権限が必要です。
3. WNTDMNLSTおよびWNTLCLSVRLパラメーターに指定されたWINDOWSドメイン名およびサーバー名はWINDOWSの命名規則に従わなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名、*CURRENT	オプション、キー、定位置 1

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRFTYPE	プロファイル・タイプ	*USER, *GROUP	オプション, キー, 定位置 2
PMTCTL	プロンプト制御	*ALL, *WINDOWS, *WINDOWSNT	オプション, キー, 定位置 3
PRPGRPMBR	グループ・メンバーの伝搬	*SAME, *NONE, *ALL, *MBRONLY	オプション
DFTSVRTYPE	省略時のサーバー・タイプ	*SAME, *WINDOWS, *NWSA, *WINDOWSNT	オプション
WNTDMNLST	WINDOWS サーバー・ドメイン・リスト	単一値: *SAME, *NWSA, *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ドメイン	文字値	
	要素 2: ユーザー・テンプレート	文字値, *NONE	
	要素 3: グループ・タイプ	*GLOBAL, *LOCAL	
WNTLCLSVRL	WINDOWS ローカル・サーバー・リスト	単一値: *SAME, *NWSA, *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー	文字値	
	要素 2: ユーザー・テンプレート	文字値, *NONE	

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

ネットワーク・サーバー属性を設定するi5/OSユーザー・プロファイルの名前を指定します。

次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターでは正しくありません。

QAUTPRF	QNFSANON	QYCMCIMOM
QCOLSRV	QRJE	QEJBSVR
QDBSHR	QSNADS	QSRVAGT
QDBSHRDO	QSPL	QANZAGENT
QDFTOWN	QSPLJOB	QIBMHELP
QDOC	QSYS	
QDSNX	QTCP	
QEJB	QTFTP	
QFNC	QTSTRQS	
QGATE	QCLUMGT	
QLPAUTO	QTCM	
QLPINSTALL	QIPP	
QMSF	QPM400	
QNETSPLF	QNTP	
QYPSJSVR	QCLUSTER	
	QMGTC	

WINDOWSドメインまたはサーバーに登録する時は、次のプロファイル名はこのパラメーターでは無効です。

GUEST
GUESTS
REPLICATOR
USERS

QAUTPRFおよびQNFSANONはV4R1より前のバージョンでは使用できなかったことに注意してください。また、プロファイルQPRJOWN, QSRV, QSRVBAS, QSVSM, QTMLPD,およびQUMBもV4R1より前のバージョン

ジョンでは使用できませんでしたが、現在では適正に登録されます。I5/OS機密保護が一部のコマンドに使用するオブジェクトのリストとの同期を維持するために、変更が行われました。

***CURRENT**

現在のユーザー・プロファイルのユーザー・プロファイル属性が変更されます。

ユーザー名

I5/OSユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルの名前を指定してください。

上

プロファイル・タイプ (PRFTYPE)

プロファイルのユーザーまたはグループ属性のどちらを変更するかを指定します。

***USER**

ユーザー・プロファイル属性が変更されます。

***GROUP**

グループ・プロファイル属性が変更されます。

上

プロンプト制御 (PMTCTL)

コマンド上のどのネットワーク・サーバー属性に対してプロンプトを出すかを指定します。

***ALL** すべてのパラメーターのプロンプトが出されます。

***WINDOWSまたは*WINDOWSNT**

WINDOWSドメインおよびサーバーに適用されるパラメーターだけのプロンプトが出されます。

注: *WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

上

グループ・メンバーの伝搬 (PRPGRPMBR)

I5/OSグループおよびそのユーザーの登録方法を指定します。I5/OSグループおよびそのユーザーを登録できる方法には、以下の異なる2つがあります。

1. I5/OSグループがネットワークに登録されます。グループのすべてのメンバーもネットワークに登録され、新規に作成されたグループに追加されます。
2. I5/OSグループのメンバーだけがネットワークに登録されます。グループ自体はネットワークに登録されません。

***SAME**

PRPGRPMBR値は変更されません。PRPGRPMBRパラメーターがセットされていない場合には、省略時の値として*ALLが使用されます。

***ALL** I5/OSグループおよびそのグループのすべてのメンバーが登録されます。後でこのグループに追加されるユーザー・プロファイルもすべてネットワークに登録されます。

***MBRONLY**

グループのメンバーだけが登録されます。グループそれ自体は登録されません。後でこのグループに追加されるユーザー・プロファイルもすべてネットワークに登録されます。

上

省略時のサーバー・タイプ (DFTSVRTYPE)

このユーザーの省略時サーバー・タイプを指定します。この属性は、主に、複数のネットワーク・タイプをサポートするI5/OSコマンドの省略時の値として使用されます。

***SAME**

省略時のサーバー・タイプは変更されません。

***NWSA**

システム・ネットワーク・サーバー属性からの省略時のサーバー・タイプが使用されます。

***WINDOWSまたは*WINDOWSNT**

ユーザーの省略時のサーバー・タイプは*WINDOWSにセットされます。

注: *WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

上

WINDOWS サーバー・ドメイン・リスト (WNTDMNLST)

このI5/OSプロファイルの登録先にするWINDOWSドメインを決定するために、I5/OSユーザー登録サポートによって使用されるWINDOWSドメインのリストを指定します。

リスト中の各項目には、ドメイン、ユーザー・アカウント・テンプレート名、およびグループ・タイプが入ることになります。ユーザー・アカウント・テンプレート名とは、新しいWINDOWSユーザーの作成時に使用されるWINDOWSユーザー識別のことです。

このパラメーターには64項目まで指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。ドメイン名は各項目に入力する必要がある、リスト内で固有としなければなりません。

WNTDMNLSTパラメーターがセットされていない場合には、省略時の値として*NONEが使用されます。

単一値

***SAME**

WINDOWSドメイン・リスト項目は変更されません。

***NWSA**

*NWSAが指定されている時は、システム・ネットワーク・サーバー属性からのWINDOWSドメイン・リストが使用されます。

***NONE**

*NONEが指定されている時は、このプロファイルはどのWINDOWSドメインにも登録されません。

要素1: ドメイン

'ドメイン名'

I5/OSユーザー登録サポートがこのI5/OSプロファイルに登録するWINDOWSドメインの名前を指定してください。

要素2: ユーザー・テンプレート

WINDOWSドメインでの新規WINDOWSユーザーの作成時に、テンプレートとして使用できるWINDOWSユーザーの名前を指定します。

注: この値を変更しても、すでにドメイン内に登録済みのWINDOWSユーザーに影響を与えることはありません。

***NONE**

WINDOWSドメイン内に新規のユーザー識別を作成する時に、WINDOWSユーザー・アカウント・テンプレートは使用されません。

'ユーザー・アカウント・テンプレート名'

ドメイン内に新規のWINDOWSユーザー識別を作成する時に使用されるWINDOWSユーザー・アカウントの名前を指定します。

要素3: グループ・タイプ

WINDOWSドメインで作成するグループのタイプを指定します。PRFTYPE(*USER)が指定されている場合には、この要素は無視されます。

***GLOBAL**

グローバル・グループがWINDOWSドメイン内に作成されます。

***LOCAL**

ローカル・グループがWINDOWSドメイン内に作成されます。

上

WINDOWS ローカル・サーバー・リスト (WNTLCLSVRL)

I5/OSプロファイルの登録先にするWINDOWSローカル・サーバーを決定するために、I5/OSユーザー登録サポートによって使用されるWINDOWSローカル・サーバーのリストを指定します。このリストに指定できるのは、ローカルに構成された統合XSERIESサーバーと関連したサーバー名だけです。

リスト中の各項目には、サーバー名および関連したユーザー・アカウント・テンプレート名が入ることになります。このユーザー・アカウント・テンプレート名は、サーバー上に新規のWINDOWSユーザー識別を作成する時に使用されるWINDOWSユーザー・アカウントです。

このパラメーターには64項目まで指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。サーバー名は各項目に入力する必要があり、リスト内で固有としなければなりません。

WNTLCLSVRLパラメーターがセットされていない場合には、省略時の値として*NONEが使用されます。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

*NWSA

*NWSAが指定されている時は、システム・ネットワーク・サーバー属性からのWINDOWS ローカル・サーバー・リストが使用されます。

*NONE

*NONEが指定されている時は、このプロファイルはどのWINDOWSローカル・サーバーにも登録されません。

要素1: サーバー

'サーバー名'

I5/OSユーザー登録サポートがこのI5/OSプロファイルを登録するWINDOWSローカル・サーバーの名前を指定してください。このサーバーはローカルに構成された統合XSERIESサーバーでなければなりません。

要素2: ユーザー・テンプレート

ローカル・サーバーでの新規WINDOWSユーザーの作成時に、テンプレートとして使用できるWINDOWSユーザーの名前を指定します。

注: この値を変更しても、すでにサーバーで登録済みのWINDOWSユーザーに影響を与えることはありません。

*NONE

WINDOWSローカル・サーバー上に新規のユーザー識別を作成する時に、WINDOWSユーザー・アカウント・テンプレートは使用されません。

'ユーザー・アカウント・テンプレート名'

ローカル・サーバー上に新規のWINDOWSユーザー識別を作成する時に使用されるWINDOWSユーザー・アカウントの名前を指定します。

上

例

例1: WINDOWSネットワークへのユーザーの登録

```
CHGNWSUSRA  USRPRF(BOB)  DFTSVRTYPE(*WINDOWS)
              WNTDMNLST((DMN01 USRTMP1) (DMN02 *NONE))
              WNTLCLSVRL((LCLSVR1 TEMPL1) (LCLSRV2 *NONE))
```

上記コマンドは、ユーザー・プロファイルBOBのネットワーク・サーバー・ユーザー属性を変更します。BOBの省略時サーバー・タイプは、*WINDOWSに設定されています。

I5/OSユーザー登録サポートは、ユーザー・アカウント・テンプレートUSRTMP1を使用するドメインDMN01およびドメインDMN02にユーザーBOBを登録します。

I5/OSユーザー登録サポートは、また、ユーザー・アカウント・テンプレートTEMPL1を使用するローカル・サーバーLCLSVR1およびローカル・サーバーLCLSRV2にもユーザーBOBを登録します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA450

ユーザー・プロファイル&1に対するネットワーク・サーバー・ユーザー属性が変更されない。前のメッセージを参照してください。

上

オブジェクト監査の変更 (CHGOBJAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト監査の変更(CHGOBJAUD)コマンドによって、*AUDIT特殊権限をもつユーザーは、オブジェクトに対する監査をセットアップまたは変更することができます。*AUDIT特殊権限をもつユーザーは、そのオブジェクトに対する権限の有無に関係なく、監査をオンまたはオフにすることができます。システム値QAUDCTL制御で監査をオンおよびオフに変更できます。オブジェクトの監査属性は、オブジェクト記述の表示(DSPOBJD)コマンドで表示することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *ALLAVL, *ALLUSRAVL	

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *AUTHLR, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DSTMF, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCTBL, *IGCSRT, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWSO, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQRV, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
OBJAUD	オブジェクト監査値	*NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	必須, 定位置 3

上

オブジェクト (OBJ)

監査値を変更するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 指定のオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが変更されます。

総称名 監査値が変更されるオブジェクトの総称名を指定します。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。例えば, ABC* など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は, ユーザーが権限をもち,

総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 監査値が変更されるオブジェクトの名前を指定します。複数のライブラリーを検索する場合、複数のオブジェクトを変更できるのは、*ALL, *ALLUSR, *ALLAVL,または*ALLUSRAVLがライブラリー修飾子に指定されている場合だけです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字Qで始まる名前をもつ次のライブラリーはIBMによって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALLAVL**

使用可能なすべてのASPのすべてのライブラリーが検索されます。

***ALLUSRAVL**

使用可能なすべてのASPのすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。ユーザー・ライブラリーの定義については、*ALLUSRを参照してください。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「一般に使用されるパラメーター：拡張説明」にあるOBJTYPEパラメーターの説明を参照してください。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定されたオブジェクト名のすべてのオブジェクト・タイプが変更されます。

オブジェクト・タイプ

監査値が変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

上

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター) を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32)、さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

上

オブジェクト監査値 (OBJAUD)

オブジェクトと関連付けるオブジェクト監査値を指定します。

これは必須パラメーターです。

*NONE

このオブジェクトを使用しても、変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

*USRPRF

このアクセスに対して監査レコードを送るかどうかを決定するために、このオブジェクトをアクセスしているユーザーのユーザー・プロファイルが使用されます。特定のユーザーに対して監査をオンにするためには、CHGUSRAUDコマンドのOBJAUDキーワードが使用されます。

*CHANGE

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

上

例

```
CHGOBJAUD  OBJ(PAYROLL/PAYFILE) OBJTYPE(*FILE)
           OBJAUD(*CHANGE)
```

このコマンドは、PAYROLLライブラリー内の、オブジェクト・タイプが*FILEになっているPAYFILEファイルのオブジェクト監査値を変更します。すべてのユーザーによるPAYFILEファイルへの変更がQSYS内の監査ジャーナルQAUDJRNに記録されるように、そのファイルの監査値は変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF22B0

監査値の変更は認可されていない。

CPF22CB

一部のオブジェクトの監査値が変更されていない。

CPF22FE

&3内のオブジェクト&1,タイプ*&2の監査値が変更されていない場合がある。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF980B

ライブラリー&2のオブジェクト&1を使用できない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF98A1

指定した名前と一致するオブジェクトを見つけることができない。

上

オブジェクト記述変更 (CHGOBJD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト記述変更(CHGOBJD)コマンドでは、オブジェクトのテキスト記述を変更したり、指定したオブジェクトの使用日数カウントを0（ゼロ）にリセットしたりできます。

変更しているオブジェクトを現在ジャーナル処理している場合には、変更を記録するジャーナルに項目が書き込まれます。オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して、オブジェクトのジャーナル情報を表示してください。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

1. ファイル・オブジェクトの場合、変更されるオブジェクトに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
2. ファイル・オブジェクト以外の場合、変更されるオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
3. オブジェクトが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

注: テキスト'記述'(TEXT)または使用日数カウント(USECOUNT)のパラメーターのうち最低1つを指定しない場合には、オブジェクトが変更されなかったことを示す完了メッセージCPC2105が送られます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR	

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, キー, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション, 定位置 3
USECOUNT	使用日数カウント	<u>*NORESET</u> , *RESET	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

記述が変更されるオブジェクトを指定します。修飾子2を指定しない場合には、指定されたオブジェクトを見つけるために*LIBLが使用されます。修飾子2にライブラリー名を指定して、確実に正しいオブジェクトが変更されるようにすることができます。

注: タイプ*DEVDのオブジェクトのオブジェクト記述を変更するには、まずオブジェクト割り振り (ALCOBJ)コマンドを使用して、装置記述に対する*EXCLRDロック状態を獲得する必要があります。これが行なわれなければ、そのオブジェクト記述がロックされていることを示すCPF2114メッセージが送られます。記述が変更される表示装置にすでにサインオンしている場合には、ALCOBJコマンドを使用する必要はありません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーにあり、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターに指定されたタイプのすべてのオブジェクトが変更されます。

総称名 変更されるオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名は、総称オブジェクト名と同じ接頭部の名前をもち、適切な権限のあるすべてのオブジェクトを指定します。

名前 変更されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、**QGPL**ライブラリーが検索されます。

***ALL** スレッドのライブラリー名スペースにあるすべてのライブラリー(**QSYS**を含む)が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次の**QXXX**ライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースの**CL**プログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用に**QUSRVVXRXXMX**の形式の別のライブラリー名を作成することができます。**QUSRVVXRXXMX**ユーザー・ライブラリーの**VXRXXMX**は弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

変更されるオブジェクトのタイプを指定してください。

***ALL** オブジェクト(OBJ)パラメーターに指定された名前およびライブラリーをもち、権限のあるすべてのタイプのオブジェクトが変更されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

***BLANK**

テキストはブランクに設定されます。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで指定します。

上

使用日数カウント (USECOUNT)

オブジェクトの使用日数カウントがリセットされるかどうかを指定します。情報の使用法の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトとライブラリー」を参照してください。

*NORESET

オブジェクトの使用日数カウントはリセットされません。

***RESET**

オブジェクトの使用日数カウントはゼロ(0)にリセットされます。リセット日付は現在のシステム日付に更新されます。

すべてのオブジェクト・タイプに対してオブジェクト使用状況情報が更新されません。指定したオブジェクト・タイプの使用状況情報が更新されていなくて***RESET**が指定された場合には、使用日数カウントは更新されず、エラー・メッセージも送信されません。オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して、変更されるオブジェクトの使用状況情報が収集されているかどうかを判別してください。

注: データベース・ファイルの場合、ファイル中のすべてのメンバーの使用日数カウントおよびリセット日付が更新されます。

上

例

```
CHGOBJD  OBJ(LIB1/DA1)  OBJTYPE(*DTAARA)
          TEXT('NEW TEXT FOR DA1')
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1にあるDA1という名前のデータ域のテキスト記述をTEXTパラメーターによって指定された値に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2123

指定した名前またはタイプのオブジェクトはライブラリー&2に存在していない。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF2195

テキスト値は*SAMEでなければならない。

CPF2196

ライブラリー値を特殊値とすることはできない。

CPF2198

使用日数カウント・フィールドが一部のオブジェクトで0にリセットされなかった。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF36F7

メッセージ待ち行列QSYSOPRは別のジョブに割り振られている。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

上

オブジェクト所有者変更 (CHGOBJOWN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト所有者変更(CHGOBJOWN)コマンドは、オブジェクト所有権をあるユーザーから別のユーザーに移します。他のユーザーがオブジェクトに対して持っている権限は変更されません。

オブジェクトの所有者は、明示的に取り消されないうえ、そのオブジェクトに適用できるすべての権限を常にもっています。オブジェクトの所有者は、そのオブジェクトに対する権限を、他のユーザーに認可する権限があります。また、所有者は、前に取り消された権限を所有者自身に認可することもできます。例えば、所有者は、所有者固有のある権限を予防措置として除去してから、必要がある場合に、その同じ権限を自身に再び認可することができます。

*ALLOBJ特殊権限をもつユーザーは、すべてのオブジェクトに対して完全な権限を持ち、任意のオブジェクトの所有権を移すことができます。すべてのユーザーは自身のユーザー・プロファイルに対して追加および削除権限を持ちます。すなわち、ユーザーはオブジェクトの所有権を移動して、自身のユーザー・プロファイルへオブジェクトを追加するか、またはオブジェクト（ユーザーが作成した）を削除することができます。

制約事項:

- 所有権を移すためには、ユーザー（オブジェクトの現在の所有者を含む）は次の権限を持っていないかならなりません。
 - オブジェクト（権限リストを除く）のオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限
 - オブジェクトがファイル、ライブラリー、またはサブシステム記述である場合には、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限および*OBJEXIST権限
 - このオブジェクトが権限リストの場合には、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限または所有権
 - 新しい所有者のユーザー・プロファイルに対する追加(*ADD)権限
 - 現在の所有者のユーザー・プロファイルに対する削除(*DLT)権限
 - プログラムのオブジェクト所有者またはその所有者の権限を借用するプログラム SQL（構造化照会言語）パッケージを変更するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限。
 - 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する使用(*USE)権限。
- 表示装置の場合で、所有権が変更されるかまたはメッセージ待ち行列の所有権が変更される装置からこのコマンドが実行されていない場合には、このコマンドがオブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドとオブジェクト割り振り解除(DLCOBJ)コマンドの間にならなりません。
- オブジェクト・タイプ*DOCまたは*FLRを指定することはできません。DLO（文書交換）サポートを使用することが必要です。
- また、これと関連した権限ホルダーのオブジェクトの所有権を変更すると、その権限ホルダーの所有権も変更します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
NEWOWN	新しい所有者	名前	必須, 定位置 3
CUROWNAUT	現行の所有者権限	*REVOKE, *SAME	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

新規所有者に割り当てられるオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: ライブラリー名を指定して、正しいオブジェクトが所有権を変更していることを確認することができません。

修飾子1: オブジェクト

名前 所有者を変更するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

所有者を変更するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「一般に使用されるパラメーター：拡張説明」にあるOBJTYPEパラメーターの説明を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

所有権が変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター) を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1),定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

上

新しい所有者 (NEWOWN)

オブジェクトの新規所有者のユーザー・プロファイルを指定します。このコマンドが実行される時には、ユーザー・プロファイルが存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。

上

現行の所有者権限 (CUROWNAUT)

所有権を変更した場合に、現行所有者の権限を取り消すかどうかを指定します。

***REVOKE**

オブジェクト所有権を新しい所有者に変更した時に、現行所有者の権限を取り消します。

***SAME**

現行所有者の権限は、オブジェクトに対する専用権限として保持されます。

上

例

```
CHGOBJOWN OBJ(USERLIB/PROGRAM1) OBJTYPE(*PGM) NEWOWN(ANN)
```

このコマンドは、USERLIBという名前のユーザー・ライブラリー内にある、PROGRAM1という名前のプログラムの所有権をANNという名前のユーザーに割り当てます。権限は、現行所有者から取り消されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF0609

指定されたユーザー・プロファイルの使用は許されていない。

CPF22BD

&3のオブジェクト&1タイプ*&2の所有権が変更されなかった可能性がある。

CPF22BE

ユーザー・プロファイル&1に対して機能が実行されなかった。

CPF22DA

&2のファイル&1の操作は許可されていない。

CPF220A

新しい所有者&1にユーザーIDがない。

CPF220C

所有者と1次グループを同じにすることはできない。

- CPF2204**
ユーザー・プロファイル&1が見つからない。
- CPF2207**
ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。
- CPF2208**
ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。
- CPF2209**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF2210**
オブジェクト・タイプ*&1に対する操作は許されていない。
- CPF2211**
&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。
- CPF2213**
ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。
- CPF2216**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF2217**
ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。
- CPF2222**
記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。
- CPF2226**
ユーザー・プロファイル&1に対して機能が実行されなかった。
- CPF2230**
ライブラリー&3のオブジェクト&1は認可されていない。
- CPF2231**
プログラム&1の所有権の変更は認可されていない。
- CPF2232**
ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。
- CPF2233**
ユーザー・プロファイル&1に対する削除権限をもっていない。
- CPF2298**
ユーザー&1から&3のオブジェクト&2の権限は取り消されなかった。

上

オブジェクト1次グループの変更 (CHGOBJPGP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト1次グループ変更(CHGOBJPGP)コマンドは、オブジェクトの1次グループをあるユーザーから他のユーザーに変更します。所有者の専用権限およびそのオブジェクトに対するその他のユーザーの専用権限は変更されません。

制約事項:

- 1次グループを変更するためには、次が必要です。
 - オブジェクトのオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限
 - オブジェクトがファイル、ライブラリー、またはサブシステム記述である場合には、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限および*OBJEXIST権限
 - オブジェクトが権限リストの場合には、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限または所有権
 - 旧1次グループの権限の取り消しの場合には、そのオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限
 - オブジェクトに対する*OBJMGT権限、およびPGPAUTパラメーターに*PRIVATE以外の値が指定された場合に与えられる権限
 - 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する使用(*USE)権限。
- オブジェクト・タイプ*DOCまたは*FLRを指定することはできません。ユーザーはDLOサポートを使用しなければなりません。
- 新しい1次グループ・ユーザーはオブジェクトの所有者にはなれません。
- 新しい1次グループ・ユーザーはグループID番号(GID)をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *NWS, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
NEWPGP	新しい1次グループ	名前, *NONE	必須, 定位置 3
PGPAUT	新しい1次グループ権限	* OLDPGP , *PRIVATE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
RVKOLDAUT	古い権限の取り消し	* YES , *NO	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

1次グループが変更されるオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: ライブラリー名を指定して、正しいオブジェクトで1次グループが変更されることを確認することができます。

名前 その1次グループを他のユーザーに変更されるオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

1次グループが変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「一般に使用されるパラメーター：拡張説明」にあるOBJTYPEパラメーターの説明を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

- * 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1),定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

上

新しい1次グループ (NEWPGP)

オブジェクトの新しい1次グループになるユーザーの名前を指定します。このコマンドが実行される時にこのユーザー・プロファイルがすでに存在し、それにグループID (またはGID)が割り当てられていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***NONE**

オブジェクトは1次グループをもちません。

名前 オブジェクトの新しい1次グループになるユーザー・プロファイルの名前を指定します。

上

新しい1次グループ権限 (PGPAUT)

そのオブジェクトに対して新しい1次グループがもつ権限を指定します。

***OLDPGP**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して旧1次グループがもっていた権限をすべてもちます。

***PRIVATE**

新しい1次グループは、オブジェクトに対するのと同じの専用権限を持っています。新しい1次グループがオブジェクトに対する専用権限を持っていない場合には、それが1次グループになりますが、オブジェクトに対するどんな権限も持ちません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される以外のすべての操作を実行することができます。すなわち、オブジェクトの存在を制御したり、オブジェクトの機密保護を指定したり、オブジェクトを変更したり、オブジェクトに対して基本的な機能を実行したりすることができます。ユーザーはオブジェクトの所有権も変更することができます。

***CHANGE**

新しい1次グループには、オブジェクトに対する変更権限が与えられます。

USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。USE**権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることはできません。

上

古い権限の取り消し (RVKOLDAUT)

1次グループが、新しい1次グループ (NEWPGP)パラメーターに指定されたユーザーに変更される時に、現行の1次グループの権限を取り消すかどうかを指定します。

***YES** 1次グループを他のユーザーに変更する時に、現行の1次グループの権限を取り消します。

***NO** 1次グループを他のユーザーに変更する時に、現行の1次グループの権限は専用権限になります。

上

例

```
CHGOBJPGP OBJ(USERLIB/PROGRAM1) OBJTYPE(*PGM) NEWPGP(ANN)
PGPAUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、ユーザー・ライブラリーUSERLIB内にある、PROGRAM1という名前のプログラムの1次グループをANNという名前のグループに変更します。新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して*CHANGE権限を持ちます。権限は、現行1次グループから取り消されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF22BE

ユーザー・プロファイル&1に対して機能が実行されなかった。

CPF22DA

&2のファイル&1の操作は許可されていない。

CPF220B

新しい1次グループ&1にグループIDがない。

CPF220C

所有者と1次グループを同じにすることはできない。

CPF220D

&3のオブジェクト&1タイプ&2の1次グループを変更することができない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF221D

&3内のオブジェクト&1タイプ*&2の1次グループが変更されていない。

CPF2210

オブジェクト・タイプ*&1に対する操作は許されていない。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF2226

ユーザー・プロファイル&1に対して機能が実行されなかった。

CPF2230

ライブラリー&3のオブジェクト&1は認可されていない。

CPF2232

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2233

ユーザー・プロファイル&1に対する削除権限をもっていない。

上

光ディスク属性変更 (CHGOPTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク属性変更(CHGOPTA)コマンドは、光ディスク・ファイル・システムを使用するすべてのジョブに影響を与える光ディスク構成を変更します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CPYATR	属性コピー	*SAME, *YES, *NO	オプションナル, 定位置 1
HLD FATR	保留中のファイル属性	*SAME, *YES, *NO	オプションナル
ALWVRNT	差異文字許可	*SAME, *YES, *NO	オプションナル
EXTMEDFMT	拡張媒体形式のサポート	*SAME, *YES, *NO	オプションナル

上

属性コピー (CPYATR)

HFSコピーまたは移動ストリーム・ファイルAPIを使用してQDLSおよびQOPTファイル・システムの間でファイルをコピーまたは移動する時に、ソース・ファイルのファイル属性をコピーするかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、光ディスク・ファイル・システム内でファイルをコピーまたは移動する時には無視され、またLAN接続の光ディスク・ライブラリーには無効です。

*SAME

CPYATR値が以前に設定されているとその値は変更されません。そうでない場合には、*YESが使用されます。

***YES** ファイル属性（ユーザー定義の拡張属性を含む）がコピーされます。これはオペレーティング・システムの出荷時の省略時の値です。

***NO** ファイル属性はコピーされません。コピーまたは移動されるファイルは、たとえすでに存在していてQHFCPYSF要求に置き換えが指定されていても、そのファイルは省略時のファイル属性を使用して作成されます。

----- パフォーマンス上のヒント -----

-
- この値は、QOPTおよびQDLSファイル・シス
- テム間でのコピー中にファイル属性を保守する
- ようアプリケーションが要求しない時には
- *NOに設定しなければなりません。
- このオプションを使用することによって、
- 移動およびコピー操作のパフォーマンスが改
- 良され、光ディスクへの書き込み時の光
-

-ディスク記憶域所要量は減少します。 -
- -

上

保留中のファイル属性 (HLDFATR)

保留光ディスク・ファイル・サポートが/QOPTファイル・システムに対して使用可能であるかまたは使用不能であるかを指定します。 保留光ディスク・ファイル・サポートが使用不能になっている時には、ファイル・クローズ・エラー条件が起こった時に正しい回復手順に従うようにするのは、ユーザーの責任です。 保留光ディスク・ファイルの詳細については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

*SAME

HLDFATR値が以前に設定されているとその値は変更されません。そうでない場合には、*YESが使用されます。

***YES** 保留光ディスク・ファイル・サポートは、光ディスク・ファイル・システムに対して使用可能になっています。

***NO** 保留光ディスク・ファイル・サポートは、光ディスク・ファイル・システムに対して使用不能になっています。

上

差異文字許可 (ALWVRNT)

階層ファイル・システム(HFS)インターフェース経由でUDF (UNIVERSAL DISK FORMAT)の光ディスク・ボリューム上のファイルへのアクセス時に、可変長文字をパス名に指定できるかできないかを指示します。このパラメーターは、ハイパフォーマンス光ディスク・ファイル・システム(HPOFS)またはISO9660形式でフォーマットされた光ディスク・ボリュームへのアクセスには影響を与えません。また、すべての光ディスク媒体形式の統合ファイル・システム・インターフェースに対して何の影響もありません。

*SAME

ALWVRNT値が以前に設定されているとその値は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***YES** HFS経由のUDFボリュームへのアクセス時に、可変長文字をパス名に使用することができます。使用できる文字の詳細については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)ブックを参照してください。この値が指定されている場合には、別のオペレーティング・システムからアクセスすると、パス名が正しく交換される保証はありません。また、パス名がHFSと統合ファイル・システム・インターフェースの間で一貫性があるという保証はありません。

***NO** HFS経由のUDFボリュームへのアクセス時に、可変長文字をパス名に使用することはできません。HFSインターフェース経由のパス名は次の固定文字に制限されます。すなわち、AからZ 0から9 + = % & () , _ - . : ;がそれです。: ; 媒体が別のオペレーティング・システムからアクセスされる場合にパス名を正しく交換できるようにするには、この値を使用してください。また、これでHFSと統合ファイル・システム・インターフェースの間のパス名の整合性も向上します。

上

拡張媒体形式のサポート (EXTMEDFMT)

媒体を光ディスク装置に追加するときに使用する媒体形式を指示します。一部の媒体には拡張形式があります。例えば、UDFブリッジ・ディスクには基本形式としてISO9660があり、拡張形式として汎用ディスク形式(UDF)があります。このパラメーターによって、ユーザーは媒体を装置に追加するときに使用する形式を選択することができます。

***SAME**

EXTMEDFMT値は、以前に設定されていた場合は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***YES** 拡張形式サポートが光ディスク・ファイル・システムに使用可能です。

***NO** 基本形式サポートが光ディスク・ファイル・システムに使用可能です。

上

例

CHGOPTA CPYATR(*NO)

このコマンドは、光ディスクファイル・システム間コピー属性値を変更するので、QDLSおよびQOPTファイル・システム間でHFSストリーム・ファイルのコピーまたは移動APIを使用して、いずれかの方向にファイルをコピーまたは移動するときには、ファイル属性はコピーされません。

上

エラー・メッセージ

なし

上

光ディスク・ボリューム変更 (CHGOPTVOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ボリューム変更(CHGOPTVOL)コマンドは、光ディスク・ボリュームのボリューム全体のしきい値、権限リスト、または記述を変更します。ボリュームの初期設定時にTYPE(*BACKUP)が指定されている場合には、ボリューム全体のしきい値を変更することはできません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、変更中のボリュームに対する*CHANGE権限がユーザーに必要です。
2. このコマンドがボリュームの権限リストを変更するために使用されている場合には、現在ボリュームを保護している権限リストに対する*AUTLMGT権限が必要となります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
VOL	ボリューム識別コード	文字値	必須, キー, 定位置 1
THRESHOLD	ボリューム満杯しきい値	1-100, *SAME	オプション, 定位置 2
AUTL	権限リスト	名前, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK, *SAME	オプション

上

ボリューム識別コード (VOL)

変更される光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

上

ボリューム満杯しきい値 (THRESHOLD)

ボリューム全体のしきい値パーセントを指定します。

*SAME

値は変更されません。

ボリューム全体のしきい値

しきい値のパーセントを指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

上

権限リスト (AUTL)

このIBM System i5上の光ディスク・ボリュームへのアクセスを確認するために使用する権限リスト。この値は、ボリュームには保管されず、光ディスクがシステム間で移動された時には保守されません。

媒体ライブラリー装置中のボリュームの場合には、光ディスクが装置から除去された時に、権限リストをこのIBM System i5で維持することができます。これは、光ディスク・カートリッジ除去(RMVOPTCTG) CLコマンドにVOLOPT(*KEEP)を指定することによって、行うことができます。その後で権限リストは、光ディスク・カートリッジ追加(ADDOPTCTG) CLコマンドにAUTL(*PRV)を指定することによって、復元することができます。

ボリュームがCD-ROMやDVD装置などの独立型光ディスク装置内にある場合には、光ディスクが装置内にある間は、権限リストがボリュームを保護します。光ディスクが装置から除去された時には、権限リストは維持できません。光ディスクが装置から排出されて再び挿入されると、権限リストは省略時の値QOPTSECにリセットされます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

光ディスク・ボリュームを保護するために、権限リストは使用されません。

権限リスト名

光ディスク・ボリュームを保護するために使用する権限リストの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

光ディスク・ボリュームについて簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

'記述' 光ディスク・ボリュームについて説明するテキストを最大50文字までアポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGOPTVOL VOL(VOL01) THRESHOLD(99)
```

このコマンドは、光ディスク・ボリュームVOL01のボリューム・フルしきい値を99パーセントに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT1305

光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。

OPT1315

光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1341

THRESHOLDまたはTEXTを指定することができない。

OPT1345

媒体上に使用可能なフリー・スペースがありません。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗しました。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1463

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームが基本ボリュームではありません。

OPT1485

光ディスク・ボリュームの初期設定または名前変更が正常に実行されなかった。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

- OPT1810**
光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。
- OPT1815**
内部プログラム・エラーが起きました。
- OPT1820**
光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。
- OPT1821**
光ディスク装置&1でエラーが起こった。
- OPT1825**
光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。
- OPT1860**
光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。
- OPT1861**
装置&1に構成された装置記述がない。
- OPT1862**
資源&1に活動状態の装置記述がない。
- OPT1863**
光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。
- OPT1872**
光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。
- OPT2301**
内部システム・オブジェクトが使用中である。
- OPT2410**
ボリューム&2の権限リスト&1が見つからなかった。
- OPT2420**
光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。
- OPT7740**
ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

上

OSPF属性の変更 (CHGOSPFA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPF属性の変更コマンド(CHGOSPFA)で、ルーターIDまたは比較タイプなどのOSPF (Open Shortest Path First)グローバル情報を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROUTER	ルーターID	文字値, *SAME, *DFT	オプションル, 定位置 1
CMPTYPE	比較タイプ	*SAME, *TYPE1, *TYPE2	オプションル
BDYRTG	境界ルーティング	*SAME, *NO, *YES	オプションル
AUTOSTART	サーバーの自動開始	*SAME, *NO, *YES	オプションル
SUBAGTMON	サブエージェント・モニター	*SAME, *YES, *NO	オプションル

上

ルーターID (ROUTER)

OSPFネットワークがルーティング・ドメインに関与しているとみなされる固有IDを指定してください。ルーターIDは、ドット10進形式で表現されていなければなりません。

*SAME

前に設定されているシステムのルーターIDは変更されません。そうでない場合には、*DFTが使用されます。

文字値 ドット10進形式の値をルーターIDとして指定します。ルーターIDは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式のIPv4インターネット・アドレスとして指定される必要があります。この場合、*nnn*は0から255の範囲の10進数です。

***DFT** OMPROUTEDは、ルーターIDを獲得するためにシステム名/ドメイン名をとります。

上

比較タイプ (CMPTYPE)

OMPROUTEDサーバーが外部メトリックまたはコストを処理するように指定してください。

***SAME**

前に設定された比較タイプの値は変更されません。そうでない場合は、*TYPE2が使用されます。

***TYPE2**

タイプ2の外部コストは、自律システムの外付けの内部リンク・コストより高くなります。タイプ2の外部コストは、外部メトリックを内部リンク・コストに変換する必要性を回避します。

***TYPE1**

タイプ1の外部メトリックはリンク・コストと類似しています。

上

境界ルーティング (BDYRTG)

自律システム境界ルーティング機能が使用可能かどうかを指定してください。使用可能な場合は、この機能で、OMPROUTEDサーバーは、他のメソッド(RIPや静的に構成された)から学習した経路をOSPFドメインにインポートできます。

***SAME**

前に設定されている境界ルーチン・オプション値は変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***NO** 境界ルーティング機能が使用不可です。

***YES** 境界ルーティング機能が使用可能です。

上

サーバーの自動開始 (AUTOSTART)

TCP/IPをTCP/IPの開始(STRTCP)コマンドによって開始するか、あるいはTCP/IPサーバーの開始(STRTCP SVR)コマンドにSERVER(*AUTOSTART)を指定することによって開始した時に、OMPROUTEDサーバーを自動始動するかどうかを指定します。STRTCP SVRコマンドにSERVER(*OMPROUTED)を指定してOMPROUTEDが始動されると、このパラメーターは無視されます。OMPROUTEDサーバーは、このパラメーターの値に関係なく始動されます。

***SAME**

前に設定された自動始動の値は変更されません。そうでない場合は、*YESが使用されます。

***YES** OMPROUTEDサーバーを自動始動します。

***NO** OMPROUTEDサーバーを自動的に始動しません。

上

サブエージェント・モニター (SUBAGTMON)

OSPF SNMP (Simple Network Manager Protocol) サブエージェントが、OMPROUTEDサーバーからIPv4 OSPF状態構成情報を収集できるかどうかを指定してください。

***SAME**

前に設定されたサブエージェント・モニターの値は変更されません。そうでない場合は、*YESが使用されます。

***YES** サブエージェント・モニターは使用可能です。

***NO** サブエージェント・モニターは使用不可です。

上

例

CHGOSPFA ROUTER('1.1.1.1')

このコマンドは、OSPF経路指定ドメインで識別されるシステムのOSPFルーターを変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6522

OSPF属性は、理由コード&1のために正常に変更されませんでした。

上

OSPF域変更 (CHGOSPFARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPF域変更(CHGOSPFARA)コマンドは、ルーティング・ドメインで既存のOSPF領域の属性を変更できます。OSPF領域は、OSPFインターフェースが接続しているサブネット・ネットワークの集合です。各OSPF領域には、固有の32ビットIDがあります。OSPF領域の主な目的は、経路指定トラフィックを削減することであり、他の領域から隠すことです。これにより、リンク状態データベースのサイズが削減されます。

このコマンドは、IPv4またはIPv6ルーティング・ドメインでOSPF領域の属性を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AREA	領域ID	文字値	必須, キー, 定位置 1
AUTHTYPE	認証タイプ	*SAME, *NONE, *MD5, *PASSWORD	オプション
STUB	スタブ領域	*SAME, *NO, *YES	オプション
STUBCOST	スタブ・コスト	1-65535, *SAME	オプション
IMPORT	インポート	*SAME, *NO, *YES	オプション
IPVERSION	IPバージョン	*SAME, *IPV4, *IPV6	オプション

上

領域ID (AREA)

変更するOSPF領域IDを指定してください。

これは必須パラメーターです。

文字値 OSPF領域のインターネット・アドレスをa.a.a.a形式で指定してください。ここで、aは1から255の10進数です。

上

認証タイプ (AUTHTYPE)

この領域で使用される省略時のセキュリティー・スキーマを指定してください。このパラメーターは、OSPF IPv4でのみ有効です。

***SAME**

現行のセキュリティー・スキーマ・タイプが使用されます。

***NONE**

パケットを渡すのに必要な認証がありません。

***MD5** MD5暗号認証が使用されます。

***PASSWORD**

単一パスワード認証が使用されます。

上

スタブ領域 (STUB)

この領域はスタブ領域であるかどうかを指定してください。スタブ領域は、自律システムの外部リンク・アドバタイズメントをインポートしない小さなOSPF領域です。

***SAME**

現行のスタブ領域オプションが使用されます。

***NO** この領域はスタブ領域ではありません。

***YES** この領域はスタブ領域です。この領域は、自律システムの外部リンク・アドバタイズメントを受信しません。データベースのサイズを削減し、スタブ領域のルーターのメモリー使用を減らします。スタブ領域では仮想リンクを構成することはできません。自律システム境界ルーターとしてスタブ領域内にルーターを構成することはできません。

上

スタブ・コスト (STUBCOST)

領域がスタブ領域として構成され、システムが領域粋ルーターとして関与している場合、システムが領域にアドバタイズする省略時のsummary_LSAのコストを指定してください。

***SAME**

現行のスタブ・コストが使用されます。

1から65535

スタブの省略時コスト値を指定します。値1が、スタブ・コストの最低値です。

上

インポート (IMPORT)

このスタブ領域が、ルーティング要約(IPv4)または接頭部(IPv6)を近隣領域からインポートするかを指定してください。

***SAME**

現行のインポート・オプションが使用されます。

***NO** この領域がルーティング情報をインポートしないように指定してください。

***YES** この領域がルーティング情報をインポートするように指定してください。

IPバージョン (IPVERSION)

領域がIPv4またはIPv6ルーティング・ドメインの一部であるかどうかを指定してください。

*SAME

現在のIPバージョンが使用されます。

***IPV4** この領域はOSPF IPv4ルーティング・ドメインの一部です。

***IPV6** この領域はOSPF IPv6ルーティング・ドメインの一部です。

例

例1: OSPF IPv4エリアの変更

```
CHGOSPFARA AREA('1.1.1.1') AUTHTYPE(*PASSWORD)
```

このコマンドは、パスワード認証を使用するように、エリアID 1.1.1.1 のOSPF IPv4エリアを変更します。

例2: OSPF IPv6エリアの変更

```
CHGOSPFARA AREA('67.67.67.67') STUB(*YES) IPVERSION(*IPV6)
```

このコマンドは、エリアID 67.67.67.67のOSPF IPv6エリアをスタブ・エリアとなるように変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6517

OSPF領域&1が、構成ファイル内で変更されていません。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

OSPFインターフェースの変更 (CHGOSPFIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPFインターフェースの変更(CHGOSPFIFC)コマンドは、OMPROUTEDサーバーがOSPF (Open Shortest Path First)ルーティング・プロトコル実装をサポートするために使用している既存のOSPFインターフェースの属性を変更します。

IPv4およびIPv6 OSPFの両方のインターフェースを変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IFC	インターフェースID	文字値, *PPPCNNPRF	必須, キー, 定位置 1
PPPCNNPRF	接続プロファイル	文字値, *SAME, *NONE	オプション, キー
AREA	領域ID	文字値, *SAME, *BACKBONE	オプション
RETMSITV	再伝送間隔	1-65535, *SAME	オプション
TMSDLY	伝送遅延	1-65535, *SAME	オプション
RTRPTY	ルーター優先順位	1-255, *SAME	オプション
ITVHELLO	helloの間隔	1-255, *SAME	オプション
DBEXCHTIMO	データベース交換タイムアウト	2-65535, *SAME	オプション
INACTTIMO	活動状態にないルーター・タイムアウト	2-65535, *SAME	オプション
COST	コスト	1-65535, *SAME	オプション
IFCUSG	インターフェース使用法	*SAME, *PRIMARY, *BACKUP	オプション
SUBNET	サブネット	*SAME, *NO, *YES	オプション
AUTHTYPE	認証タイプ	*SAME, *AREA, *NONE, *MD5, *PASSWORD	オプション
AUTHVAL	認証値	要素リスト	オプション
	要素 1: 認証キーID	1-255, *SAME	
	要素 2: 認証キー	文字値, *SAME	
DMDCCCT	回路の要求	*SAME, *NO, *YES	オプション
SUPHELLO	Helloの抑制	*SAME, *DISABLE, *ALLOW, *REQUEST	オプション
PTPPOLLITV	Point-to-Pointポーリング間隔	0-65535, *SAME	オプション
NBCLNK	非ブロードキャスト・リンク	*SAME, *DFT, *NO, *YES	オプション
NBCPOLLITV	非ブロードキャスト間隔	1-65535, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NGHRTRL	近隣ルーター・リスト	値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: IPアドレス	文字値, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 適格	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	
INSTANCE	インスタンス	整数, <u>*SAME</u>	オプション

上

インターフェースID (IFC)

システム内に構成されたOSPF論理インターフェースのインターネット・アドレスを指定してください。インターフェースIDは、IPv4またはIPv6アドレスになります。

*PPCENPRF

接続プロファイル (PPCENPRF)パラメーターで指定されたPoint-to-Point 接続プロファイルは、Point-to-PointリンクでOSPF経路指定トラフィックを送受信するのに使用されます。

文字値 変更するOSPFインターフェースのインターネット・アドレスまたは別名を指定してください。IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式で指定され、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。IPv6インターネット・アドレスは、*n:n:n:n:n:n:n:n*形式で指定されました。ここで、*n*は0からX'ffff'の範囲の16進数です。値"*::*"は、1つ以上のグループの16ビットがゼロであることを示しています。

上

接続プロファイル (PPCENPRF)

リモート・エンドのホストへのPP接続用に作成されたプロファイルを指定してください。このプロファイルは、PPリンクがアクティブになった後で使用されます。このパラメーターは、OSPF IPv4でのみ有効です。

*SAME

現行の接続プロファイルが使用されます。

*NONE

このインターフェースはPoint-to-Pointリンクでは作動しません。

文字値 使用する接続プロファイルを指定してください。このプロファイルは、リモート・アクセス・サービスを使用してすでに構成されている必要があります。

上

領域ID (AREA)

このインターフェースの接続先のOSPF領域を指定します。バックボーン領域(インターネット・アドレス0.0.0.0)またはOSPF領域の追加(ADDOSPFARA)コマンドを実行してすでに定義された領域を指定することができます。

*SAME

現行の接続された領域が使用されます。

***BACKBONE**

'0.0.0.0'を指定する同一のバックボーン領域が使用されます。

文字値 使用するOSPFのインターネット・アドレスを指定してください。

上

再伝送間隔 (RETRMSITV)

リンク状態更新パケット，リンク状態要求パケット，およびデータベース記述パケットの頻度を指定してください。

注: このパラメーターが非常に低く設定されている場合，パフォーマンスに影響を与え，近隣の隣接設定を干渉する可能性がある不必要な再送信が起こります。処理の遅いマシンには高い値を設定してください。

***SAME**

現行の再送信間隔が使用されます。

1から65535

再送信の間隔値に使用する秒数を指定してください。

上

伝送遅延 (TMSDLY)

インターフェースを介してリンク状態情報を送信するのにかかる見積秒数を指定してください。

***SAME**

現行の送信遅延が使用されます。

1から65535

送信遅延値に使用する秒数を指定してください。

上

ルーター優先順位 (RTRPTY)

指定されたルーターを選択するために，ブロードキャストおよび非ブロードキャストのマルチアクセス・ネットワークの値を指定します。高優先順位の値を持つルーターが選択されます。

***SAME**

現行のルーター優先順位が使用されます。

1から255

使用するルーター優先順位の値を指定してください。

上

helloの間隔 (ITVHELLO)

このインターフェース上で送信されるOSPF HELLOパケットの秒数を指定してください。この値は，共通ネットワークに接続されているすべてのルーターで同じでなければなりません。

***SAME**

HELLOの現行間隔が使用されます。

1から65535

HELLO間隔値に使用する秒数を指定してください。

上

データベース交換タイムアウト (DBEXCHTIMO)

データベースの交換プロセスが超過できない時間の長さを指定してください。間隔が経過すると、手順が再始動されます。この値は、HELLOの間隔より大きくなければなりません。

***SAME**

現行のデータベース交換プロセスのタイムアウト値が使用されます。

2から65535

データベース交換プロセスのタイムアウト値に使用する秒数を指定してください。

上

活動状態にないルーター・タイムアウト (INACTTIMO)

OSPF HELLOパケットを受信しなくなって、OSPF近隣がダウンすると宣言される時間の長さを指定してください。

***SAME**

現行の非活動状態ルーターのタイムアウトが使用されます。

2から65535

非活動状態ルーターのタイムアウト値に使用する秒数を指定してください。

上

コスト (COST)

インターフェースでデータ・パケットを送信するコストをリンク状態メトリックで表して指定します。これは、ルーターLSAでこのインターフェースのリンク・コストとしてアドバタイズされます。インターフェースのコストはゼロより大きくなければなりません。

***SAME**

現行のコストが使用されます。

2から65535

使用するコスト値を指定してください。

上

インターフェース使用法 (IFCUSG)

このインターフェースを1次またはバックアップのインターフェースとしてOSPFによって指定されるよう指定してください。複数のローカル・インターフェースが、同じIPv4サブネット、IPv6サブネットまたはリンクに定義された場合、OSPFは、指定した1次インターフェースですべての経路指定トラフィックを送信します。

*SAME

現行のインターフェース使用法が使用されます。

***BACKUP**

このOSPFインターフェースが、バックアップ・インターフェースとして定義されます。1次インターフェースが指定されない場合、OSPFは経路指定トラフィックを実行するためにバックアップ・インターフェースの1つを選択します。

***PRIMARY**

このOSPFインターフェースは、1次インターフェースとして定義されます。OSPFは、このインターフェースですべての経路指定トラフィックを送信します。

上

サブネット (SUBNET)

Point-to-Point リンクの場合、このインターフェースがネットワーク/サブネットまたはホストへ接続できるかどうかを指定してください。このパラメーターは、IPv4のみに適用します。

*SAME

現行のサブネット・オプションが使用されます。

***NO** このインターフェースは、ネットワーク/サブネットまたはホストへ接続できません。RFC 2328のセクション12.4.1.1のオプション1を実装します。これは、近隣ルーターのIP アドレスを把握していることを前提にしています。

***YES** このインターフェースは、ネットワーク/サブネットまたはホストへ接続できます。サブネットがPoint-to-Pointリンクに割り当てられている場合は、RFC 2328のセクション12.4.1.1のオプション2を実装します。

上

認証タイプ (AUTHTYPE)

このインターフェースの接続先のネットワークで使用されるセキュリティー・スキーマを指定してください。このパラメーターが指定されていない場合は、セキュリティー・スキーマはその領域のセキュリティー・スキーマから取られます。このパラメーターは、OSPF IPv6インターフェースでは無視されます。

*SAME

現行の認証タイプが使用されます。

***AREA**

このインターフェースの接続先のOSPF領域で定義されているセキュリティー・スキーマを使用してください。

***NONE**

パケットを渡すのに必要な認証がありません。

*MD5 MD5暗号認証が使用されます。

*PASSWORD

単一パスワード認証が使用されます。

上

認証値 (AUTHVAL)

暗号認証に必要なパラメーターの組み合わせを指定します。

要素1: 認証キーID

*SAME

現行の認証キーIDが使用されます。

0から255

キーIDとして使用する定数値を指定してください。この値は、認証タイプ*MD5が指定された場合のみ有効で、認証タイプのIDを必要とする他のルーターと共に使用されます。

要素2: 認証キー

*SAME

現行の認証キーIDが使用されます。

文字値 このインターフェースの認証キーを指定します。この値は、共通ネットワークに接続されているすべてのルーターで同じでなければなりません。この値は、このインターフェースで使用される認証タイプによって異なります。このパラメーターはOSPF IPv6では無視されます。

*NONE認証タイプの場合、このパラメーター要素は必要ではなく、指定されても無視されます。

認証タイプ*PASSWORDの場合、このパラメーター要素は、このサブネットに接続されるOSPFルーターのパスワードを指定する必要があります。有効値は、単一引用符間のコード長さが最大8文字であるか、最大8バイトの16進数ストリング(16進数文字)でXで始まり、その後単一引用符に囲まれる16進数値が続きます。

認証タイプ*MD5の場合、このパラメーターは、このサブネットに接続されたOSPFルーターに16バイトのMD5認証キーを指定する必要があります。標準方式は、16バイトの16進数ストリングで、Xで始まり、その後単一引用符で囲まれる16進数値が続きます。

上

回路の要求 (DMDCCCT)

このインターフェース上でリンク状態アドバタイズメント(LSA)が定期的に最新表示されるかどうかを指定してください。

実際に変更されたLSAのみがアドバタイズされます。このパラメーターは、IPv6インターフェースによって無視されます。

*SAME

現行の回路の要求オプションが使用されます。

*NO リンク状態アドバタイズメントが定期的に最新表示されます。

*YES リンク状態アドバタイズメントが定期的に最新表示されません。

824 System i: プログラミング i5/OS コマンド CHGDNSA (DNS サーバー属性変更) ~

Helloの抑制 (SUPHELLO)

HELLOパケットの抑制を許可するかどうかを指定してください。このサポートは、要求回路にある POINT-TO-POINT インターフェースおよび POINT-TO-MULTIPOINT インターフェース・タイプでのみ使用されます。このパラメーターは、IPv4のみに適用します。

*SAME

HELLO オプションの現行の抑制が使用されます。

*ALLOW

両サイドがこのオプションを指定する場合、HELLO 抑制は使用不可です。

*DISABLE

どちらか、あるいは両方のサイドがこのオプションを指定する場合、HELLO 抑制は使用不可です。

*REQUEST

両サイドがこのオプションを指定する場合、HELLO 抑制は使用可能です。

上

Point-to-Pointポーリング間隔 (PTPPOLLITV)

OMPROUTEDが、失敗したがインターフェースはまだ活動状態である近隣ルーターとの関係を再構築しようとする間隔時間を指定してください。このパラメーターは、インターフェースがPoint-to-Pointタイプであり、HELLOの抑制が使用可能である場合のみ使用されます。このパラメーターは、OSPF IPv6インターフェースでは無視されます。

*SAME

現行のPoint-to-Pointポーリング間隔が使用されます。

0から65535

Point-to-Pointポーリング間隔値に使用する秒数を指定してください。

上

非ブロードキャスト・リンク (NBCLNK)

ルーターが、非ブロードキャストまたはマルチアクセス(NBMA)ネットワークに接続するかを指定してください。

*SAME

現行の非ブロードキャスト・リンク・オプションが使用されます。

***DFT** インターフェース・タイプによって判別されます。

***NO** ルーターがNBMAネットワークに接続されていません。

***YES** インターフェースが、非ブロードキャスト・ネットワークに接続されています。このオプションでは、その近隣状況を発見することができます。

上

非ブロードキャスト間隔 (NBCPOLLITV)

このインターフェースから非活動状態の近隣に送信されるHELLOパケットの時間間隔を指定してください。非ブロードキャスト・リンク (NBCLNK)パラメーターに*YESを指定した場合のみ、無効です。

*SAME

現行の非ブロードキャスト・ポーリング間隔が使用されます。

1から65535

非ブロードキャストのポーリング間隔値で 사용되는秒数を指定してください。

上

近隣ルーター・リスト (NGHRTRL)

このインターフェースでこのシステムの近隣として処理するのに適格なルーターのリストを指定してください。

最大10個の近隣ルーターを定義することができます。

注: 非ブロードキャストまたはマルチキャストが可能なメディアで近隣を定義することは推奨しません (必要ありません)。これらのメディアで近隣を定義する場合、OMPROUTEDは、定義される近隣とのみOSPF情報を通信することができます (他の近隣との隣接を形成しません)。

要素1: IPアドレス

近隣ルーターのインターネット・アドレスを指定してください。

*SAME

現行の近隣ルーターのインターネット・アドレスが使用されます。

文字値 近隣ルーターに適格であるルーターのインターネット・アドレスを指定してください。IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式で指定され、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。IPv6インターネット・アドレスは、*n:n:n:n:n:n:n:n*形式で指定されました。ここで、*n*は0からX'ffff'の範囲の16進数です。値"*::*"は、1つ以上のグループの16ビットがゼロであることを示しています。

要素2: 適格

近隣ルーターが指定したルーターに適格であるかどうかを指定してください。

*SAME

現行の適格値が使用されます。

***NO** ルーターは、指定したルーターにすることができません。

***YES** ルーターは、指定したルーターとして選択することができます。

上

インスタンス (INSTANCE)

このインターフェースのIPv6プロトコル・インスタンス番号を指定します。この値は、OMPROUTEDがリンク上で通信する他のIPv6 OSPFホストまたはルーターのインスタンス値と同じにしてください。この値は、すべての発信IPv6 OSPFパケットで設定されます。インスタンス値がこのインターフェースのインスタンス値と一致しない着信OSPFパケットは、すべて無視されます。この特性により、IPv6 OSPFの複数のインスタンスがこのリンクで実行されます。しかし、このパラメーターがリンク上で複数のIPv6 OSPFインスタンスをサポートできるルーターと対話するように構成されている場合は、OM PROUTEDは、1つのリンクにつき1つのインスタンスのみをサポートします。

*SAME

インスタンス値は変更されません。

0から255

使用するインスタンス値を指定してください。

上

例

例1: OSPF IPv4インターフェースの変更

```
CHGOSPFIFC IFC('9.67.107.7') ITVHELLO(15)
```

このコマンドは、IPアドレス9.67.107.7をもつ既存のOSPF IPv4インターフェースを変更します。Hello間隔が15秒に変更されます。

例2: OSPF IPv6インターフェースの変更

```
CHGOSPFIFC IFC('1000::5678:9abc:def') COST(3)
```

このコマンドは、OSPF IPv6インターフェースを変更します。コスト値が3に変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6525

インターネット・アドレス&1が正しくない

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP6527

OSPFインターフェース&1が、構成ファイル内で変更されていません。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

OSPF仮想リンクの変更 (CHGOSPFLNK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPF仮想リンクの変更(CHGOSPFLNK)コマンドは、既存の仮想リンクの現行値を変更することができません。

IPv4およびIPv6 OSPF仮想リンクを変更できます。リンク伝送領域(LNKTMSARA)パラメーター値は、仮想リンクがIPv4またはIPv6 OSPFの仮想リンクであるか判別します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NGHRTR	近隣ルーター	文字値	必須, キー, 定位置 1
LNKTMSARA	リンク伝送領域	文字値	必須, キー, 定位置 2
RETMSITV	再伝送間隔	1-65535, *SAME	オプション
TMSDLY	伝送遅延	1-65535, *SAME	オプション
ITVHELLO	helloの間隔	1-255, *SAME	オプション
DBEXCHTIMO	データベース交換タイムアウト	2-65535, *SAME	オプション
INACTTIMO	活動状態にないルーター・タイムアウト	2-65535, *SAME	オプション
AUTHTYPE	認証タイプ	*SAME, *BACKBONE, *NONE, *MD5, *PASSWORD	オプション
AUTHVAL	認証値	要素リスト	オプション
	要素 1: 認証キーID	1-255, *SAME	
	要素 2: 認証キー	文字値, *SAME	

上

近隣ルーター (NGHRTR)

隣接（他のエンドポイント）のルーターIDを指定してください。

これは必須パラメーターです。

文字値 ルーターのインターネット・アドレスをa.a.a.a形式で指定してください。ここで、aは1から255の10進数です。

上

リンク伝送領域 (LNKTMSARA)

仮想リンクが構成されている非バックボーン、非スタブ領域を指定してください。仮想リンクは、共通の非バックボーンおよび非スタブ領域へのインターフェースを持つ2つの領域枠ルーター間で構成されます。仮想リンクは、リンクの2つのエンドポイントのそれぞれで構成されている必要があります。

これは必須パラメーターです。

文字値 領域のインターネット・アドレスを形式で指定してください。ここで、*a*は1から255の10進数です。

上

再伝送間隔 (RETMSITV)

リンク状態更新パケット、リンク状態要求パケット、およびデータベース記述パケットの頻度（秒）を指定してください。

注: このパラメーターが非常に低く設定されている場合、パフォーマンスに影響を与え、近隣の隣接設定を干渉する可能性がある不必要な再送信が起きます。処理の遅いマシンには高い値を設定してください。

*SAME

現行の再送信間隔値が使用されます。

1から65535

再送信の間隔値に使用する秒数を指定してください。

上

伝送遅延 (TMSDLY)

仮想リンクを介してリンク状態情報を送信するのにかかる見積秒数を指定してください。各リンク状態アドバタイズメントの存続時間は、1時間と制限されています。各リンク状態アドバタイズメントはこの仮想リンクから送信されるので、この構成された伝送遅延によって時間が経過されます。

*SAME

現行の送信遅延が使用されます。

1から65535

送信遅延値に使用する秒数を指定してください。

上

helloの間隔 (ITVHELLO)

この仮想リンクから送信されるOSPF HELLOパケットの秒数を指定してください。HELLOの間隔は、介入するOSPFインターフェースで使用される同じ値より高く設定してください。

*SAME

HELLOの現行間隔が使用されます。

1から65535

HELLO間隔値に使用する秒数を指定してください。

データベース交換タイムアウト (DBEXCHTIMO)

データベースの交換プロセスが超過できない時間の長さを指定してください。間隔が経過すると、手順が再始動されます。この値は、HELLOの間隔より大きくなければなりません。

*SAME

現行のデータベース交換プロセスのタイムアウト値が使用されます。

2から65535

データベース交換プロセスのタイムアウト値に使用する秒数を指定してください。

活動状態にないルーター・タイムアウト (INACTTIMO)

OSPF HELLOを受信しなくなって、近隣がダウンすると宣言される間隔（秒）を指定してください。この値は、HELLOの間隔より大きくなければなりません。非活動状態のルーター・タイムアウトは、介入するOSPFインターフェースで使用される同じ値より高く設定してください。

*SAME

現行の非活動状態ルーターの間隔値が使用されます。

2から65535

非活動状態ルーターのタイムアウト値に使用する秒数を指定してください。

認証タイプ (AUTHTYPE)

仮想リンクで使用されるセキュリティ・スキームを指定してください。このパラメーターは、OSPF IPv6仮想リンクでは無視されます。

*SAME

現行の認証タイプが使用されます。

*BACKBONE

OSPFバックボーン領域で定義されたセキュリティ・スキームを使用してください。

*NONE

OSPFパケットを渡すのに必要な認証がありません。

*MD5 MD5暗号認証が使用されます。

*PASSWORD

単一パスワード認証が使用されます。

認証値 (AUTHVAL)

暗号認証に必要なパラメーターの組み合わせを指定します。

要素1: 認証キーID

*SAME

現行の認証キーIDが使用されます。

0から255

キーIDとして使用する定数値を指定してください。この値は、認証タイプ*MD5が指定された場合のみ有効で、認証タイプのIDを必要とする他のルーターと共に使用されます。

要素2: 認証キー

*SAME

現行の認証キーIDが使用されます。

文字値 この仮想リンクの認証キーを指定します。この値は、共通ネットワークに接続されているすべてのルーターで同じでなければなりません。この値は、このインターフェースで使用される認証タイプによって異なります。このパラメーターはOSPF IPv6では無視されます。

*NONE認証タイプの場合、このパラメーター要素は必要ではなく、指定されても無視されます。

認証タイプ*PASSWORDの場合、このパラメーター要素は、このサブネットに接続されるOSPFルーターのパスワードを指定する必要があります。有効値は、単一引用符間のコード長さが最大8文字であるか、最大8バイトの16進数ストリング(16進数文字)でXで始まり、その後に単一引用符に囲まれる16進数値が続きます。

認証タイプ*MD5の場合、このパラメーターは、このサブネットに接続されたOSPFルーターに16バイトのMD5認証キーを指定する必要があります。標準方式は、16バイトの16進数ストリングで、Xで始まり、その後に単一引用符で囲まれる16進数値が続きます。

上

例

例1: OSPF IPv4仮想リンクの変更

```
CHGOSPFLNK  NGRTR('2.2.2.2') LNKMSARA('3.3.3.3')
             TMSDLY(200)
```

このコマンドは、リンク伝送エリア3.3.3.3をもつ隣接ルーター2.2.2.2の伝送遅延を200秒に変更します。OSPF仮想リンクの属性を変更する場合、リンクが確立されているルーターIDおよびリンク伝送エリアのエリアIDを指定する必要があります。システムは、エリア境界ルーターでなければなりません。リンク伝送エリアは、事前にIPv4用に構成されている必要があります。

例2: OSPF IPv6仮想リンクへのパラメーター値の変更

```
CHGOSPFLNK  NGRTR('62.62.62.62') LNKMSARA('63.63.63.63')
             ITVHELLO(50)
```

このコマンドは、リンク伝送エリア63.63.63.63をもつ隣接ルーター62.62.62.62のHello間隔を50秒に変更します。OSPF仮想リンクの属性を変更する場合、リンクが確立されているルーターIDおよびリンク伝送エリアのエリアIDを指定する必要があります。システムは、エリア境界ルーターでなければなりません。リンク伝送エリアは、IPv6用に事前に構成されている必要があります。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6533

OSPF仮想リンク&1は、構成ファイルから変更されていません。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

OSPF範囲の変更 (CHGOSPFRNG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPF範囲の変更(CHGOSPFRNG)コマンドは、OSPF範囲の追加(ADDOSPFRNG)コマンドを使用して前に構成されたOSPF領域の範囲を変更します。OSPF領域は、アドレス範囲で定義されます。領域に外部的な単一の経路は、各アドレス範囲でアドバタイズされます。範囲は、どの経路が領域に対して外部的であるかをアドバタイズするのを制御するために定義することができます。OSPFが範囲をアドバタイズしないよう構成されている場合は、内部領域経路は範囲内にある経路ではアドバタイズされません。仮想リンクの経路領域として機能する領域で範囲を使用することはできません。このコマンドは既存の範囲のアドバタイズ・オプションを変更するために使用することもできます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AREA	領域ID	文字値	必須, キー, 定位置 1
IPADRRNG	IPアドレスの範囲	文字値, <u>*SAME</u>	オプション, キー
ADVERTISE	公示	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション

上

領域ID (AREA)

変更する範囲の領域IDを指定してください。OSPF領域の追加(ADDOSPFARA)コマンドを実行することによって、領域が定義される必要があります。

これは必須パラメーターです。

文字値 OSPF領域のインターネット・アドレスをa.a.a.a形式で指定してください。ここで、aは1から255の10進数です。

上

IPアドレスの範囲 (IPADRRNG)

この範囲のインターネット・アドレスの共通サブネット部分を指定してください。

*SAME

現行のIPアドレスの範囲が使用されます。

文字値 IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式で指定され、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。

IPv6インターネット・アドレスは、*n:n:n:n:n:n:n*形式で指定されました。ここで、*n*は0からX'ffff'の範囲の16進数です。値 "::" は、1つ以上のグループの16ビットがゼロであることを示しています。

上

公示 (ADVERTISE)

この範囲が他の領域にアドバタイズされるかどうかを指定してください。

*SAME

現行のアドバタイズ値が使用されます。

***YES** この範囲は、他の領域にアドバタイズされます。

***NO** この範囲は、他の領域にアドバタイズされません。

上

例

例1: OSPF IPv4エリアの範囲でのアドバタイズ・オプションの変更

```
CHGOSPFRRNG AREA('1.1.1.1') IPADRRNG('128.185.0.0')
ADVERTISE(*NO)
```

このコマンドは、この範囲が他のエリアにアドバタイズされないように、アドバタイズ・オプションを*NOに変更します。

例2: OSPF IPv6エリアの範囲でのアドバタイズ・オプションの変更

```
CHGOSPFRRNG AREA('67.67.67.67') IPADRRNG('2001:0db8:1:2::')
ADVERTISE(*NO)
```

このコマンドは、この範囲が他のエリアにアドバタイズされないように、アドバタイズ・オプションを*NOに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6525

インターネット・アドレス&1が正しくない

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP652D

OSPF範囲&1は、構成ファイル内で変更していません。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

出力待ち行列変更 (CHGOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列変更(CHGOUTQ)コマンドによって、ユーザーは指定した出力待ち行列の属性を変更することができます。書き出しプログラムが出力待ち行列を活動状態にしている時には、出力待ち行列の次の属性を変更することができます。

- この出力待ち行列からデータを表示する権限
- この出力待ち行列を制御する操作員の権限
- この出力待ち行列上のスプール・ファイルの順序
- この出力待ち行列を制御するために必要なオブジェクト権限
- 出力待ち行列のデータ待ち行列

次の属性を変更できるのは、指定した出力待ち行列に対して書き出しプログラムが非活動状態にある間だけです。

- ジョブ1つ当たりの分離ページの数
- 印刷するスプール・ファイルの最大サイズ
- リモート書き出しプログラムのためにファイルを送るリモート・システム
- ファイルを送るリモート・システム上の印刷装置待ち行列
- 出力待ち行列に自動始動する書き出しプログラムの数
- リモート書き出しプログラムによって使用されるメッセージ待ち行列
- リモート・システムの接続タイプ
- リモート・システムのタイプ
- VM/MVS/VSEシステムに送られるファイルのクラス
- VM/MVS/VSEシステムに送られるファイルの用紙制御バッファ
- 接続タイプTCP/IPによって使用される変換オプション
- 変換によって使用されるメーカーのタイプおよび型式
- 変換によって使用されるWSCSTオブジェクト
- 接続タイプTCP/IPによって使用されるIPアドレス
- イメージ構成

出力待ち行列にスプール・ファイルが入っている場合には、その待ち行列のSEQパラメーターを変更することはできません。出力待ち行列にスプール・ファイルが入っていても、他のDSPDTA、JOBSEP、OPRCTLなどのCHGOUTQパラメーターは正常に変更することができます。出力待ち行列にスプール・ファイルが入っている時にSEQパラメーターを変更しようとしても、指定したパラメーターはどれも変更されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXPAGES	スプール・ファイル最大サイズ	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ページ数	整数	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
	要素 3: 終了時刻	時刻	
SEQ	待ち行列上のファイルの順序	*SAME, *JOBNBR, *FIFO	オプション
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *SAME, *INTNETADR, *NONE, *PASTHR, *NWSA	オプション
RMTprtQ	リモート印刷装置待ち行列	文字値, *SAME, *USER, *SYSTEM	オプション
AUTOSTRWTR	自動開始する書出プログラム	1-10, *SAME, *NONE	オプション
MSGQ	書出プログラムMSG用待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 書出プログラムMSG用待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CNNTYPE	接続タイプ	文字値, *SAME, *SNA, *IP, *IPX, *USRDFN	オプション
DESTTYPE	宛先タイプ	文字値, *SAME, *OS400, *OS400V2, *PSF2, *S390, *NETWARE3, *NDS, *OTHER	オプション
TRANSFORM	ホスト印刷の変換	*SAME, *YES, *NO	オプション
USRDTATFM	ユーザー・データ変換	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・データ変換	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MFRTPMDL	製造タイプおよび型式	文字値, *SAME, *WSCST	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
IMGCFG	イメージ構成	文字値, *SAME, *NONE	オプション
INTNETADR	IPアドレス	文字値, *SAME	オプション
CLASS	VM/MVSクラス	*SAME, A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
FCB	用紙制御バッファ	文字値, *NONE, *USRDTA, *PRTF, *SAME	オプション
DESTOPT	宛先オプション	文字値, *SAME, *NONE, *USRDFNTXT, *NOWAIT	オプション
SEPPAGE	区切りページの印刷	*SAME, *YES, *NO	オプション
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USRDRVPGM	ユーザー・ドライバー・プログラム	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ドライバー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SPLFASP	スプール・ファイルASP	*SAME, *SYSTEM, *OUTQASP	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
DSPDTA	ファイルの表示	*SAME, *NO, *YES, *OWNER	オプション, 定位置 2
JOBSEP	ジョブ区切り	0-9, *SAME, *MSG	オプション, 定位置 3
OPRCTL	操作員制御	*SAME, *YES, *NO	オプション, 定位置 4
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
AUTCHK	検査権限	*SAME, *OWNER, *DTAAUT	オプション

上

出力待ち行列 (OUTQ)

属性を変更したい出力待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 変更する出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

スプール・ファイル最大サイズ (MAXPAGES)

開始時刻と終了時刻の間で印刷が許可されるスプール・ファイルの最大サイズをページ数で指定します。スプール・ファイルがページの制限を超える場合には、終了時刻になるまで印刷が据え置かれます (DFR状況)。正確なページ数が不明のファイルの場合には、見積ページ数が使用されます。(見積ページ数を見つけるためには、スプール・ファイル属性処理(WRKSPLFA)コマンドを使用することができます。)時刻は24時間時計でHHMMSSの形式で指定しなければなりません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この出力待ち行列から印刷可能なスプール・ファイルのサイズに制限はありません。

その他の値 (最大5個指定可能)

要素1: ページ数

整数 印刷可能な最大スプール・ファイルをページ数で指定してください。

要素2: 開始時刻

時刻 スプール・ファイルの最大サイズの制限が始まる時刻を指定してください。

要素3: 終了時刻

時刻 最大スプール・ファイル・サイズの制限が終る時刻を指定してください。

上

待ち行列上のファイルの順序 (SEQ)

出力待ち行列上のスプール・ファイルの順序を指定します。

***SAME**

待ち行列上のスプール・ファイルの順序は変わりません。

***JOBNBR**

スプール・ファイルの待ち行列項目は、スプール・ファイルを作成したジョブのジョブ番号 (実際には、ジョブを入力したシステムが使用した日付および時刻) を使用して、優先順位にしたがって分類されます。

SEQパラメーターで*JOBNBRを指定した場合は、同じ出力優先順位および状況を持つジョブのプール・ファイルがグループ化されます。

また、SEQパラメーターで*JOBNBRを指定した場合には、最初のジョブは常に優先順位が等しいジョブで最初に作成されたプール・ファイルを持ちます。

- *FIFO** 待ち行列は、各ファイルの優先順位内で先入れ先出しになっています。これは、同じ優先順位の他のすべての項目の後に、新しいプール・ファイルが待ち行列に入れられることを意味します。次の変更は、待ち行列で優先順位が等しい他のすべての後に待ち行列項目が入れられます。
- ジョブ変更(CHGJOB)コマンドによる出力優先順位の変更
 - 保留(HLD),保管済み(SAV),クローズ(CLO),またはオープン(OPN)から使用可能(RDY)への状況変更
 - 使用可能(RDY)から使用不能(HLD, SAV, CLO, OPN)への状況変更
 - ファイルがオープンされている場合に待ち行列に追加されたプール・ファイル
 - プール・ファイル属性変更(CHGSPLFA)コマンドを使用したプール・ファイルのSEQ(*FIFO)が指定された出力待ち行列への移動

上

リモート・システム (RMTSYS)

出力待ち行列に対して(STRRMTWTRコマンドを使用して) リモート書き出しプログラムが開始された時にファイルが送られるリモート・システムを指定します。これは、SNADSによって「アドレス」として、またTCP/IPによって「ホスト」として参照されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

出力待ち行列はローカル印刷にのみ使用されます。OUTQパラメーターにこの出力待ち行列が指定されている時には、STRRMTWTRコマンドを使用することはできません。

***NWSA**

RMTprtQパラメーターは、出力待ち行列へのリモート書き出しプログラムが開始される時に、システムを識別するために使用されます。この値が有効なのは、*NDSがDESTTYPEパラメーターに指定されている場合だけです。

***PASTHR**

ユーザー・ジョブによって作成されたプール・ファイルを送る時には、ユーザーが(STRPASTHRコマンドを使用して) バススルーを行ったシステムが使用されます。別のシステムからバススルーされたジョブによって作成されたプール・ファイルでなかった場合には、そのプール・ファイルは保留されます (HLD状況)。

***INTNETADR**

INTNETADRパラメーターは、リモート書き出しプログラムが出力待ち行列に対して開始される時にシステムを識別するために使用されます。

ホスト・テーブルまたはドメイン・ネーム・サーバーがTCP/IPネットワークにある場合には、このパラメーターの代わりにリモート・システム名を使用できます。

注: この値はCNNTYPEパラメーターに*IPが指定されている場合にのみ有効です。

名前 リモート・システムの名前を指定してください。接続タイプ (CNNTYPEパラメーター) が*SNAとして指定されている時には最初の8文字だけが使用されます。リモート・システムの名前を小文

字にする必要がある場合には、その名前をアポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィを使用しなければ、オペレーティング・システムはその名前を大文字に変更します。

上

リモート印刷装置待ち行列 (RMTPRQTQ)

リモート書き出しプログラムがスプール・ファイルを送るリモート・システム(RMTSYSパラメーター) の印刷装置待ち行列を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***USER**

スプール・ファイルを作成したユーザー・プロファイルによって、リモート・システムでのユーザーIDが決定されます。ファイルは、このユーザーの省略時の出力待ち行列でスプールされます。

注: この値が有効なのは、接続タイプ(CNNTYPE パラメーター) が*SNAとして指定された場合だけです。

***SYSTEM**

リモート・システムの省略時のシステム印刷装置を使用して、印刷装置待ち行列が決定されます。リモートIBM System iの場合には、QPRTDEVシステム値に指定された印刷装置と関連する出力待ち行列が印刷装置待ち行列として使用されます。

注: この値が有効なのは、接続タイプ(CNNTYPEパラメーター) が*SNAとして指定され、宛先タイプ(DESTTYPE)が*OS400または*S390の場合だけです。

名前 リモート・システムの印刷装置待ち行列の名前を指定してください。リモートIBM System iの場合には、これはスプール・ファイルが作成される出力待ち行列の名前となります。

リモート・システムの名前を小文字にする必要がある場合には、その名前をアポストロフィで囲まなければなりません。アポストロフィを使用しなければ、オペレーティング・システムはその名前を大文字に変更します。

IBM System iではない宛先システムの場合には、この名前はシステムに依存し、装置の実際の名前とするか、あるいは印刷待ち行列の名前とすることができます。

この出力待ち行列は、通常、ライブラリー名/出力待ち行列名として指定されます。ライブラリー名修飾子が指定されていない場合には、省略時の値として*LIBLが使用されます。

上

自動開始する書出プログラム (AUTOSTRWTR)

システムによってこの出力待ち行列に対して自動始動される書き出しプログラムの数を指定します。リモート・システムが*NONE以外の値として指定された場合には、このパラメーターの値によって、この出力待ち行列に対して開始されるリモート書き出しプログラムの数が決定されます。リモート・システムが*NONEとして指定され、これがシステム作成の印刷装置の省略時の待ち行列である場合には、このパラメーターの値によって、印刷装置書出プログラム開始 (STRPRTWTR)コマンドがDEV(*ALL)を指定して実行された時に出力待ち行列に対して単一の印刷装置書出プログラムが開始されるかどうか決定されます。

システム作成の省略時出力待ち行列の場合には、このパラメーターを*NONEまた1として指定することができます。リモート・システムが*NONEとして指定されているユーザー作成の出力待ち行列の場合には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この出力待ち行列に対してシステムによって自動始動される書き出しプログラムはありません。

1から10

システムによってこの出力待ち行列に対して自動始動される書き出しプログラムの数を指定してください。

上

書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)

この出力待ち行列に開始されたりリモート書き出しプログラムによってメッセージが作成された時にメッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

修飾子1: 書出プログラムMSG用待ち行列

名前 リモート書き出しプログラムによって作成されたメッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

接続タイプ (CNNTYPE)

リモート・システムとの接続のタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SNA** スプール・ファイルはSNADSを使用して送られます。これは、ネットワーク・スプール・ファイル送信(SNDNETSPLF)コマンドと類似しており、SNADSの構成を必要とします。

***IP** スプール・ファイルはTCP/IPを使用して送られます。これは、TCP/IPスプール・ファイル送信(SNDTCPSPLF)コマンドと類似しており、TCP/IPプロダクトの導入を必要とします。

***IPX** スプール・ファイルはIPXを使用して送信されます。

注: オペレーティング・システムはIPXをもうサポートしていないので、この値は無視されます。

***USRDFN**

スプール・ファイルはユーザー定義の接続を使用して送信されます。

上

宛先タイプ (DESTTYPE)

リモート・システム(RMTSYSパラメーター)のタイプを指定します。このパラメーターは、スプール・ファイルを送るために使用される形式を決定するために、スプール・ファイルに入っているデータのタイプ(CRTPRTFコマンドのDEVTYPEパラメーター)とともにリモート書き出しプログラムによって使用されます。スプール・ファイル中のデータのタイプがシステムによってサポートされていない場合には、スプール・ファイルはリモート書き出しプログラムによって保留されます。

***SAME**

値は変更されません。

***OS400**

接続タイプ(CNNTYPE)が*SNAとして指定されている時には、スプール・ファイルは別のIBM System iに送られます。CNNTYPEが*IPである時には、この値はTCP/IP (V2R3以降)をサポートするすべてのリリースで指定することができます。

注: 他のパラメーター値を選択する時に最大の柔軟性を許可する場合には、この値を指定してください (可能な場合)。

***OS400V2**

スプール・ファイルはi5/OS (OS/400) V2R3以前を実行しているシステムに送られます。この値が有効であるのは、CNNTYPEが*SNAの場合だけです。

***S390** スプール・ファイルはSystem zに送られます。この値が有効なのは、CNNTYPEが*SNAまたは*USRDFNである場合だけです。

***PSF2** スプール・ファイルはPSF*2プロダクトを実行しているパーソナル・コンピューターに送られます。

注: この値が有効であるのは、CNNTYPEが*IPまたは*USRDFNである場合だけです。

***NDS** スプール・ファイルはNETWARE4に送信するためのものです。この値が有効なのは、CNNTYPEが*USRDFNである場合だけです。

***OTHER**

スプール・ファイルは他のどの特殊値とも対応しないシステムに送られます。これには、i5/OS (OS/400) V1R3以前を実行しているシステム、System/36システム、およびSystem/38システムが含まれます。

注: CNNTYPE(*IPX)が指定されていると、この値が正しくありません。

上

SCSからASCIIへの変換 (TRANSFORM)

ファイルがリモート印刷装置待ち行列に送られる時に、ホスト印刷変換機能を使用して装置タイプ*SCSのスパール・ファイルをASCIIデータに変換するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPEが*SNAまたは*NONEとして指定されている時には無効です。

*SAME

値は変更されません。

***YES** SCSデータ・ストリームが変換されます。

***NO** SCSデータ・ストリームは変換されません。

上

データ変換プログラム (USRDTATFM)

スパール・ファイル・データの変換に使用されるユーザー定義データ・プログラムを指定します。

注: このパラメーターは、RMTSYSが*NONEでない時にだけ有効です。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義データ変換プログラム名は指定されません。

修飾子1: ユーザー・データ変換

名前 ユーザー定義データ変換プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

製造タイプおよび型式 (MFRTPMDL)

ホスト印刷変換機能またはユーザー・データ変換プログラムを使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定します。

MFRTPMDLに*WSCSTXXXが指定された場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定しなければなりません。

このパラメーターのプロンプトが出されるのは、TRANSFORM(*YES)が指定された場合、またはユーザー・データ変換プログラムを使用した場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*WSCST

WSCSTパラメーターの値が使用されます。

メーカータイプ型式

ホスト印刷変換機またはユーザー・データ変換プログラムを使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定してください。

メーカー、タイプ、および型式テーブル

*IBM2380	IBM 2380パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2380プラス・プリンター
*IBM2381	IBM 2381パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2381プラス・プリンター
*IBM2390	IBM 2390パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2390プラス・プリンター
*IBM2391	IBM 2391パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2391プラス・プリンター
*IBM3112	IBM 3112ページ印刷装置
*IBM3116	IBM 3116ページ印刷装置
*IBM3130	IBM 3130拡張印刷装置
*IBM3812	IBM 3812ページ印刷装置
*IBM3816	IBM 3816ページ印刷装置
*IBM3912HP	IBM 3912ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM3916HP	IBM 3916ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM39302	IBM 39302 IBM 3930-02Sページ印刷装置 IBM 39302 IBM 3930-02Dページ印刷装置
*IBM39303	IBM 39303 IBM 3930-03Sページ印刷装置 IBM 39303 IBM 3930-03Dページ印刷装置
*IBM4019	IBM 4019レーザー・プリンター IBM 4019Eレーザー・プリンターE
*IBM4019HP	IBM 4019レーザー・プリンター (HPモード) IBM 4019Eレーザー・プリンターE (HPモード)
*IBM4029	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E IBM 4029-020レーザー・プリンター6 IBM 4029-030レーザー・プリンター10 IBM 4029-040レーザー・プリンター10L
*IBM4029HP	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E (HPモード) IBM 4029-020レーザー・プリンター6 (HPモード) IBM 4029-030レーザー・プリンター10 (HPモード) IBM 4029-040レーザー・プリンター10L (HPモード)
*IBM4037	IBM 4037 5E印刷装置
*IBM4039HP	IBM 4039レーザー・プリンター10D (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Dプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Rプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Rプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Lプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16Lプラス (HPモード)
*IBM4070	IBM 4070 IJ (IBMモード)
*IBM4070EP	IBM 4070 IJ (EPSONモード)

*IBM4072	IBM 4072 EXECJET
*IBM4076	IBM 4076 EXECJET II印刷装置(HPモード)
*IBM42011	IBM 4201-1 PROPRINTER
*IBM42012	IBM 4201-2 PROPRINTER II
*IBM42013	IBM 4201-3 PROPRINTER III
*IBM42021	IBM 4202-1 PROPRINTER XL
*IBM42022	IBM 4202-2 PROPRINTER II XL
*IBM42023	IBM 4202-3 PROPRINTER III XL
*IBM42071	IBM 4207-1 PROPRINTER X24
*IBM42072	IBM 4207-2 PROPRINTER X24E
*IBM42081	IBM 4208-1 PROPRINTER XL24
*IBM42082	IBM 4208-2 PROPRINTER XL24E
*IBM4212	IBM 4212 PROPRINTER 24P
*IBM4216	IBM 4216-10パーソナル・ページ・プリンター
*IBM4226	IBM 4226-302印刷装置
*IBM4230	IBM 4230-4S3印刷装置(IBMモード)
	IBM 4230-4I3印刷装置(IBMモード)
*IBM4232	IBM 4232-302印刷装置(IBMモード)
*IBM4244ASF	IBM 4244印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
*IBM4244DUAL	IBM 4244印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
*IBM4244MAN	IBM 4244印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
*IBM4247ASF	IBM 4247印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
*IBM4247DUAL	IBM 4247印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
*IBM4247MAN	IBM 4247印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
*IBM4308	IBM INFOPRINTカラー8
*IBM4312	IBMネットワーク印刷装置12
*IBM4317	IBMネットワーク印刷装置17
*IBM4320	IBM INFOPRINT 20
*IBM4322	IBM INFOPRINT 21
*IBM4324	IBM ネットワーク印刷装置24
*IBM4332	IBM INFOPRINT 32
*IBM4340	IBM INFOPRINT 40
*IBM47121	IBM 4712-1トランザクション印刷装置
*IBM47122	IBM 4712-2トランザクション印刷装置
*IBM47221	IBM 4722-1文書印刷装置
*IBM47222	IBM 4722-2文書印刷装置
*IBM4770	IBM 4770インクジェット・トランザクション印刷装置
*IBM4912	IBM INFOPRINT 12
*IBM5152	IBM 5152グラフィック印刷装置
*IBM5201	IBM 5201-2 QUIETWRITER
*IBM5202	IBM 5202-1 QUIETWRITER III
*IBM5204	IBM 5204-1 QUICKWRITER
*IBM5216	IBM 5216 WHEELPRINTER
*IBM5575	IBM 5579-H02型印刷装置
	IBM 5579-K02型印刷装置
	IBM 5577-T02型印刷装置
	IBM 5579-S02型印刷装置
	IBM 5577-K02型印刷装置
	IBM 5577-J02型印刷装置
	IBM 5577-G02型印刷装置
	IBM 5577-H02型印刷装置
	IBM 5577-F02型印刷装置
	IBM 5577-B02型印刷装置
	IBM 5575-H02型印刷装置
	IBM 5575-F02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5575-B02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5573-K02型印刷装置
	IBM 5573-J02型印刷装置
	IBM 5573-H02型印刷装置
	IBM 5573-G02型印刷装置
	IBM 5572-B02型印刷装置
	IBM 5417-011型印刷装置
	IBM 5407-011型印刷装置
	IBM 5327-011型印刷装置
	IBM 4208-502型印刷装置
*IBM6400	IBM 6400印刷装置(IBMモード)
*IBM6400EP	IBM 6400印刷装置(EPSONモード)

*IBM6404	IBM 6404印刷装置(IBMモード)
*IBM6404EP	IBM 6404印刷装置(EPSONモード)
*IBM6408	IBM 6408-A00印刷装置(IBMモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6408EP	IBM 6408-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBM6412	IBM 6412-A00印刷装置(IBMモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6412EP	IBM 6412-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBMPAGES	IBM 5589-H01印刷装置
	IBM 5588-H02印刷装置
	IBM 5587-H01印刷装置
	IBM 5586-H02印刷装置
	IBM 5585-H01印刷装置
	IBM 5584-K02型印刷装置
	IBM 5584-H02印刷装置
	IBM 5584-G02印刷装置
*IBMPAGESNPB	*IBMPAGESと同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*IBMPAGES300	IBMネットワーク・プリンター12 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター17 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター24 (PAGESフィーチャー付き)
	IBM INFOPRINT 20 (PAGESフィーチャーなし)
	IBM INFOPRINT 32 (PAGESフィーチャーあり)
	IBM INFOPRINT 40 (PAGESフィーチャーあり)
*IBMPAGES300NPB	*IBMPAGES300と同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*INFOPRINT8C	IBM INFOPRINTカラー8
*INFOPRINT12	IBM INFOPRINT 12
*INFOPRINT20	IBM INFOPRINT 20
*INFOPRINT21	IBM INFOPRINT 21
*INFOPRINT32	IBM INFOPRINT 32
*INFOPRINT40	IBM INFOPRINT 40
*INFOPRINT70	IBM INFOPRINT 70
*INFOPRINT85	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT1116	IBM INFOPRINT 1116
*INFOPRINT1120	IBM INFOPRINT 1120
*INFOPRINT1125	IBM INFOPRINT 1125
*INFOPRINT1130	IBM INFOPRINT 1130
*INFOPRINT1140	IBM INFOPRINT 1140
*INFOPRINT1145	IBM INFOPRINT 1145
*INFOPRINT1220C	IBM INFOPRINTカラー1220
*INFOPRINT1222	IBM INFOPRINT 1222
*INFOPRINT1226	IBM INFOPRINT 1226
*INFOPRINT1228C	IBM INFOPRINTカラー1228
*INFOPRINT1312	IBM INFOPRINT 1312
*INFOPRINT1332	IBM INFOPRINT 1332
*INFOPRINT1334C	IBM INFOPRINTカラー1334
*INFOPRINT1352	IBM INFOPRINT 1352
*INFOPRINT1354C	IBM INFOPRINTカラー1354
*INFOPRINT1357C	IBM INFOPRINTカラー1357
*INFOPRINT1372	IBM INFOPRINT 1372
*INFOPRINT1400C	IBM INFOPRINTカラー14xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1410	IBM INFOPRINT 1410 MFP
*INFOPRINT1412	IBM INFOPRINT 1412
*INFOPRINT1422	IBM INFOPRINT 1422
*INFOPRINT1500	IBM INFOPRINT 15xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1500C	IBM INFOPRINTカラー15xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1600	IBM INFOPRINT 16xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1600C	IBM INFOPRINTカラー16xxシリーズ印刷装置
*INFOPRINT2000	IBM INFOPRINT 2000
*INFOPRINT2085	IBM INFOPRINT 2085

*INFOPRINT2105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2190	IBM INFOPRINT 2190
*INFOPRINT2210	IBM INFOPRINT 2210
*INFOPRINT2235	IBM INFOPRINT 2235
*INFOPRINT2705	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2706	IBM INFOPRINT 2105ES
*INFOPRINT2761	IBM INFOPRINT 2060ES
*INFOPRINT2775	IBM INFOPRINT 2075ES
*INFOPRINT2785	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2790	IBM INFOPRINT 2090ES
*INFOPRINT6500	IBM INFOPRINT 6500 (Epsonモード)
*CANLIPS3	CANON LIPS3 DBCS印刷装置
*CANLIPS3NPB	*CANLIPS3と同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*CPQPM15	COMPAQ PAGEMARK 15 (HPモード)
*CPQPM20	COMPAQ PAGEMARK 20 (HPモード)
*EPAP2250	EPSON ACTIONPRINTER 2250
*EPAP3250	EPSON ACTIONPRINTER 3250
*EPAP5000	EPSON ACTIONPRINTER 5000
*EPAP5500	EPSON ACTIONPRINTER 5500
*EPDFX5000	EPSON DFX-5000
*EPDFX8000	EPSON DFX-8000
*EPEPL7000	EPSON EPL-7000
*EPEPL8000	EPSON EPL-8000
*EPFX850	EPSON FX-850
*EPFX870	EPSON FX-870
*EPFX1170	EPSON FX-1170
*EPLQ510	EPSON LQ-510
*EPLQ570	EPSON LQ-570
*EPLQ860	EPSON LQ-860
*EPLQ870	EPSON LQ-870
*EPLQ1070	EPSON LQ-1070
*EPLQ1170	EPSON LQ-1170
*EPLQ2550	EPSON LQ-2550
*EPLX810	EPSON LX-810
*EPSQ870	EPSON SQ-870
*EPSQ1170	EPSON SQ-1170
*ESCPDBCS	EPSON ESC/P DBCS印刷装置
*HP11	HP LASERJETシリーズII
*HP11D	HP LASERJET IID
*HP11P	HP LASERJET IIP
*HP11I	HP LASERJET III
*HP11ID	HP LASERJET IIID
*HP11IP	HP LASERJET IIIP
*HP11ISI	HP LASERJET IIISI
*HP4	HP LASERJET 4
*HP5	HP LASERJET 5シリーズ
*HP5SI	HP LASERJET 5SI
*HP6	HP LASERJET 6シリーズ
*HP310	HP DESKJET 310
*HP320	HP DESKJET 320
*HP500	HP DESKJET 500
*HP520	HP DESKJET 520
*HP540	HP DESKJET 540
*HP550C	HP DESKJET 550C
*HP560C	HP DESKJET 560C
*HP1100	HP LASERJET 1100シリーズ
*HP1200C	HP DESKJET 1200C
*HP1600C	HP DESKJET 1600C
*HP4000	HP LASERJET 4000シリーズ
*HP5000	HP LASERJET 5000シリーズ
*HP8000	HP LASERJET 8000シリーズ
*HPCOLORLJ	HP COLOR LASERJET 5
*HPDBCS	HP LASERJET互換印刷装置DBCS入力用
*HPPAINT	HP PAINTJET HP PAINTJET XL HP PAINTJET XL300

*LEX2380	LEXMARK用紙印刷装置2380プラス
*LEX2381	LEXMARK用紙印刷装置2381プラス
*LEX2390	LEXMARK用紙印刷装置2390プラス
*LEX2391	LEXMARK用紙印刷装置2391プラス
*LEX4227	LEXMARK 4227用紙印刷装置
*LEXMARKC	LEXMARK Cシリーズ印刷装置
*LEXMARKC510	LEXMARK C510カラー印刷装置
*LEXMARKC750	LEXMARK C750カラー印刷装置
*LEXMARKC752	LEXMARK C752カラー印刷装置
*LEXMARKC910	LEXMARK C910カラー印刷装置
*LEXMARKC912	LEXMARK C912カラー印刷装置
*LEXMARKE	LEXMARK Eシリーズ印刷装置
*LEXMARKE322	LEXMARK E322印刷装置
*LEXMARKE323	LEXMARK E323印刷装置
*LEXMARKE330	LEXMARK E330印刷装置
	LEXMARK E332N印刷装置
*LEXMARKT	LEXMARK Tシリーズ印刷装置
*LEXMARKT420	LEXMARK T420印刷装置
*LEXMARKT520	LEXMARK T520印刷装置
*LEXMARKT522	LEXMARK T522印刷装置
*LEXMARKT620	LEXMARK T620印刷装置
*LEXMARKT622	LEXMARK T622印刷装置
*LEXMARKT630	LEXMARK T630印刷装置
*LEXMARKT632	LEXMARK T632印刷装置
*LEXMARKT634	LEXMARK T634印刷装置
*LEXMARKW	LEXMARK Wシリーズ印刷装置
*LEXMARKW812	LEXMARK W812印刷装置
*LEXMARKW820	LEXMARK W820印刷装置
*LEXMARKX422	LEXMARK X422 MFP
*LEXOPTRA	LEXMARK OPTRA FAMILY (HPモード)
*LEXOPTRAC	LEXMARK OPTRA Cカラー印刷装置
*LEXOPTRAN	LEXMARK OPTRA N印刷装置
*LEXOPTRAS	LEXMARK OPTRA S印刷装置ファミリー
*LEXOPTRASC	LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置
	LEXMARK OPTRAカラー1200印刷装置
*LEXOPTRAT	LEXMARK OPTRA T印刷装置シリーズ
*LEXOPTRAW	LEXMARK OPTRA W印刷装置シリーズ
*NECP2	NEC P2 PINWRITER
*NECP2200	NEC P2200 PINWRITER
*NECP2200XE	NEC P2200 XE PINWRITER
*NECP5200	NEC P5200 PINWRITER
*NECP5300	NEC P5300 PINWRITER
*NECP6200	NEC P6200 PINWRITER
*NECP6300	NEC P6300 PINWRITER
*NECPCPR201	NEC PC-PR101 DBCS印刷装置
	NEC PC-PR201 DBCS印刷装置
*NONE	印刷装置は、CVTIMG APIによって生成された ページ記述子言語をサポートします。 注: 装置タイプが*SCSまたは*AFPDSの スプール・ファイルは、これらの印刷装置 のホスト印刷変換機能では処理できま せん。
*OKI184IBM	OKIDATA MICROLINE 184 TURBO (IBMモード)
*OKI320IBM	OKIDATA MICROLINE 320 (IBMモード)
*OKI321IBM	OKIDATA MICROLINE 321 (IBMモード)
*OKI390IBM	OKIDATA MICROLINE 390 PLUS (IBMモード)
*OKI391IBM	OKIDATA MICROLINE 391 PLUS (IBMモード)
*OKI393IBM	OKIDATA MICROLINE 393 PLUS (IBMモード)
*OKI590IBM	OKIDATA MICROLINE 590 (IBMモード)
*OKI591IBM	OKIDATA MICROLINE 591 (IBMモード)
*OKI400	OKIDATA 0L400 LEDページ印刷装置
*OKI800	OKIDATA 0L800 LEDページ印刷装置
*OKI810	OKIDATA 0L810 LEDページ印刷装置
*OKI820	OKIDATA 0L820 LEDページ印刷装置
*OKI3410	OKIDATA PACEMARK 3410
*PAN1123EP	PANASONIC KX-P1123 (EPSONモード)
*PAN1124EP	PANASONIC KX-P1124 (EPSONモード)

*PAN1124IEP	PANASONIC KX-P1124I (EPSONモード)
*PAN1180EP	PANASONIC KX-P1180 (EPSONモード)
*PAN1180IEP	PANASONIC KX-P1180I (EPSONモード)
*PAN1191EP	PANASONIC KX-P1191 (EPSONモード)
*PAN1624EP	PANASONIC KX-P1624 (EPSONモード)
*PAN1654EP	PANASONIC KX-P1654 (EPSONモード)
*PAN1695EP	PANASONIC KX-P1695 (EPSONモード)
*PAN2123EP	PANASONIC KX-P2123 (EPSONモード)
*PAN2124EP	PANASONIC KX-P2124 (EPSONモード)
*PAN2180EP	PANASONIC KX-P2180 (EPSONモード)
*PAN2624EP	PANASONIC KX-P2624 (EPSONモード)
*PAN4410HP	PANASONIC KX-P4410 (HPモード)
*PAN4420HP	PANASONIC KX-P4420 (HPモード)
*PAN4430HP	PANASONIC KX-P4430 (HPモード)
*PAN4450IHP	PANASONIC KX-P4450I (HPモード)
*PAN4451HP	PANASONIC KX-P4451 (HPモード)
*PANASONIC2310	PANASONIC DP-2310印刷装置
*PANASONIC3010	PANASONIC DP-3010印刷装置
*PANASONIC3510	PANASONIC DP-3510印刷装置
*PANASONIC3520	PANASONIC DP-3520印刷装置
*PANASONIC4510	PANASONIC DP-4510印刷装置
*PANASONIC4520	PANASONIC DP-4520印刷装置
*PANASONIC6010	PANASONIC DP-6010印刷装置
*PANASONIC6020	PANASONIC DP-6020印刷装置
*PDF	Portable Document Format
*PDFEMBDDT	Portable Document Format。すべてのTrueType フォント参照が出力文書に組み込まれます。
*PDFIBMWT	Portable Document Format。システムに付属の IBM WorldTypeフォントが標準PDFフォント参照 にマップされます。
*RICOH1515	RICOH AFICIO 1515印刷装置シリーズ
*RICOH2015	RICOH AFICIO 2015印刷装置シリーズ
*RICOH2018	RICOH AFICIO 2018印刷装置シリーズ
*RICOH2022	RICOH AFICIO 2022印刷装置シリーズ
*RICOH2027	RICOH AFICIO 2027印刷装置シリーズ
*RICOH2032	RICOH AFICIO 2032印刷装置シリーズ
*RICOH2035	RICOH AFICIO 2035印刷装置シリーズ
*RICOH2045	RICOH AFICIO 2045印刷装置シリーズ
*RICOHAP400	RICOH AFICIO AP400印刷装置シリーズ
*RICOHAP600N	RICOH AFICIO AP600N印刷装置シリーズ
*RICOHAP900	RICOH AFICIO AP900印刷装置シリーズ
*RICOHAP3200	RICOH AFICIO AP3200印刷装置シリーズ
*RICOHAP4510	RICOH AFICIO AP4510印刷装置シリーズ
*RICOHCL2000	RICOH AFICIO CL2000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL3100	RICOH AFICIO CL3000Eカラー印刷装置シリーズ RICOH AFICIO CL3100Nカラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL4000	RICOH AFICIO CL4000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL5000	RICOH AFICIO CL5000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7000	RICOH AFICIO CL7000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7100	RICOH AFICIO CL7100カラー印刷装置シリーズ
*RICOHMP1100	RICOH AFICIO MP1100印刷装置シリーズ
*RICOHMP1350	RICOH AFICIO MP1350印刷装置シリーズ
*RICOHMP9000	RICOH AFICIO MP9000印刷装置シリーズ
*RICOHSP4100N	RICOH AFICIO SP4100N印刷装置シリーズ RICOH AFICIO SP4110N印刷装置シリーズ
*RICOHSP9100DN	RICOH AFICIO SP9100DN印刷装置シリーズ
*RICOHSPC811DN	RICOH AFICIO SPC811DNカラー印刷装置シリーズ
*WORKIO_BL	PANASONIC WORKiO DP-23xxシリーズ印刷装置 PANASONIC WORKiO DP-30xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_BM	PANASONIC WORKiO DP-35xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_CR	PANASONIC WORKiO DP-Cxxxシリーズ・カラー印刷装置
*XR4215MRP	XEROX 4215/MRP (HPモード)
*XR4219MRP	XEROX 4219/MRP (HPモード)
*XR4220MRP	XEROX 4220/MRP (HPモード)
*XR4230MRP	XEROX 4230/MRP (HPモード)
*XR4235	XEROX 4235 LASERPRINTING (HPモード)
*XR4700II	XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置

	(HPモード)
*WSCSTA3	印刷装置はリストされていない(A3サイズ用紙)
*WSCSTA4	印刷装置はリストされていない(A4サイズ用紙)
*WSCSTA5	印刷装置はリストされていない(A5サイズ用紙)
*WSCSTB4	印刷装置はリストされていない(B4サイズ用紙)
*WSCSTB5	印刷装置はリストされていない(B5サイズ用紙)
*WSCSTCONT80	印刷装置はリストされていない(8インチ連続用紙)
*WSCSTCONT132	印刷装置はリストされていない(13.2インチ連続用紙)
*WSCSTEXECUTIVE	印刷装置はリストされていない(エグゼクティブ・サイズ用紙)
*WSCSTLEDGER	印刷装置はリストされていない(レジャー・サイズ用紙)
*WSCSTLEGAL	印刷装置はリストされていない(リーガル・サイズ用紙)
*WSCSTLETTER	印刷装置はリストされていない(レターサイズ用紙)
*WSCSTNONE	印刷装置はリストされていない(用紙サイズ未指定)
*WSCST	印刷装置はリストされていない

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーションや印刷装置などの指定のASCII装置をカスタマイズするために使用される属性テーブルからなるオブジェクトを指定します。カスタマイズできる特性の例として、文字表示、フォント仕様、および制御キー順序があります。

このパラメーターのプロンプトが出されるのは、TRANSFORM(*YES)が指定された場合、またはユーザー・データ変換プログラムを使用した場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

修飾子1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

名前 ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト作成(CRTWSCST)コマンドによって作成されたワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

イメージ構成 (IMGCFG)

この出力待ち行列のイメージ構成を指定します。イメージ構成オブジェクトは、さまざまなイメージおよび印刷データ・ストリーム形式の変換サービスを提供します。このパラメーターが使用されるのは、リモート書き出しプログラムの場合だけです。

提供されるイメージ構成オブジェクトのリストについては、以下のイメージ構成オブジェクト(IMGCFG パラメーター) テーブルを参照してください。

普及している多くの印刷装置について推奨されるIMGCFGについては、以下の印刷装置別推奨イメージ構成オブジェクト・テーブルを参照してください。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

イメージ構成は指定されません。

文字値 出力待ち行列で使用するイメージ構成を指定してください。

イメージ構成オブジェクト・テーブル

----- HP PCLデータ・ストリーム-----	
*IMGA01	PCL 300-DPI印刷装置
*IMGA02	PCL 600-DPI印刷装置
*IMGA03	PCL 1200-DPI印刷装置
*IMGA04	PCL 300-DPIカラー印刷装置
*IMGA05	PCL 600-DPIカラー印刷装置
*IMGA06	PCL 1200-DPIカラー印刷装置
*IMGA07	PCL 75-DPI印刷装置 (圧縮なし)
*IMGA08	PCL 600-DPI カラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGA09	PCL 300-DPI印刷装置 (圧縮なし)
-----ポストスクリプト・データ・ストリーム-----	
*IMGB01	ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGB02	ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGB03	ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGB04	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGB05	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
*IMGB06	ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
*IMGB07	ポストスクリプト600X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB08	ポストスクリプト1200X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB09	ポストスクリプト360-DPIカラー印刷装置
*IMGB10	ポストスクリプト720-DPIカラー印刷装置
*IMGB11	ポストスクリプト1440X720-DPIカラー印刷装置
*IMGB12	ポストスクリプト400-DPI印刷装置
*IMGB13	ポストスクリプト800-DPIカラー印刷装置
*IMGB14	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGB15	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
----- IPDSデータ・ストリーム-----	
*IMGC01	IPDS 240-DPI印刷装置
*IMGC02	IPDS 300-DPI印刷装置
*IMGC03	IPDS 600-DPI印刷装置
*IMGC04	IPDS 1200-DPI印刷装置
*IMGC05	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC06	IPDS 300-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC07	IPDS 600-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC08	IPDS 1200-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC09	IPDS 240-DPI印刷装置(IM/1イメージのみ)
*IMGC10	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き) (IM/1イメージのみ)
*IMGC11	IPDS 240-DPI印刷装置(CCITT G4圧縮)
----- PCLおよびポストスクリプト・データ・ストリーム-----	
*IMGD01	PCL/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGD02	PCL/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGD03	PCL/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD04	PCL/ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGD05	PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
*IMGD06	PCL/ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置

*IMGD07 PCL 300-DPI/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
 *IMGD08 PCL 300-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
 *IMGD09 PCL 600-DPI/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
 *IMGD10 PCL 600-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
 *IMGD11 PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
 (より大きな印刷余白付き)

印刷装置テーブルによる、推奨されるイメージ構成オブジェクト

COMPAQ PAGEMARC 20	*IMGD01
EPSON EPCL-4印刷装置	*IMGA01
EPSON EPCL-5印刷装置	*IMGA02
EPSON STYLUS PHOTO (ポストスクリプト付き)	*IMGB10
EPSON STYLUS COLOR 600, 800 (ポストスクリプト付き)	*IMGB11
HP COLOR LASERJET 5	*IMGA04
HP COLOR LASERJET 5M	*IMGD04
HP DESKJET 560C, 820C, 1200C	*IMGA04
HP DESKJET 500, 600, 1200	*IMGA01
HP DESKJET 1600C, 1600CN	*IMGA04
HP DESKJET 1600CM	*IMGD04
HP LASERJET II, IID, IIP	*IMGA09
HP LASERJET II, IID, IIP (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L	*IMGA01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
HP LASERJET 4, 4P, 4V, 4SI, 4 PLUS	*IMGA02
HP LASERJET 4M, 4MP, 4MV, 4SI MX, 4M PLUS	*IMGD02
HP LASERJET 5, 5P, 5SI	*IMGA02
HP LASERJET 5M, 5MP, 5SI MX	*IMGD02
HP LASERJET 6, 6P, 6L	*IMGA02
HP LASERJET 6M, 6MP	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(IPDS機構付き)	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 3130, 3160-1 AF印刷装置(240画素モード)	*IMGC01
IBM 3130 AF印刷装置(300画素モード)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 32 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 32 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 60	*IMGC03
IBM INFOPRINT 62モデル2	*IMGC05
IBM INFOPRINT 62モデル3	*IMGC06
IBM INFOCOLOR 70	*IMGB05
IBM INFOPRINT 4000	*IMGC05
IBM INFOPRINT 4000 (高解像度)	*IMGC06
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置	*IMGC09
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC01
IBM 3829 AF印刷装置	*IMGC01
IBM 3835-001 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3835-001 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC05
IBM 3835-002, 3900 AF印刷装置	*IMGC05
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA01
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 3930-02ページ印刷装置(IPDSディスク)	*IMGC01
IBM 3930-03ページ印刷装置	*IMGA01
IBM 3930-03ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
IBM 3935 AF印刷装置	*IMGC02
IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)	*IMGA09
IBM 4019レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
IBM 4028レーザー・プリンター	*IMGC06
IBM 4029レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4029レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB02
IBM 4039レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4039レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD07
IBM 4049レーザー・プリンター	*IMGA02
IBM 4049レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 4079カラー・ジェット・プリンターPS	*IMGB09

IBM 4303ネットワーク・カラー・プリンター	*IMGB05
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (LAN)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ポストスクリプト付き) (ASCII/LAN)	*IMGD02
LEXMARK 4039PLUS	*IMGB02
LEXMARK OPTRA Cカラー・プリンター	*IMGD11
LEXMARK OPTRA E, E+	*IMGA02
LEXMARK OPTRA N	*IMGD02
LEXMARK OPTRA R+, RX+, LX+, LXN+	*IMGD02
LEXMARK OPTRA S印刷装置	*IMGD02
LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置	*IMGD05
OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置	*IMGA01
OKIDATA OL800, OL810 LEDページ印刷装置	*IMGA02
QMS 2025, 3225	*IMGB12
QMS MAGICOLOR CX	*IMGD04
TEKTRONIX PHASER 140	*IMGB09
TEKTRONIX PHASER 300	*IMGB04
TEKTRONIX PHASER 400	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 540, 550	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 560	*IMGB06
XEROX 4219/MRP	*IMGA01
XEROX 4220/MRP	*IMGA02
XEROX 4230 DOCUPRINTER	*IMGA02
XEROX 4512, 4517ネットワーク・プリンター	*IMGA02
XEROX 4520MP印刷装置	*IMGB13
XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置	*IMGD04
XEROX 4915カラー・レーザー・プリンター	*IMGB08
XEROX 4920, 4925カラー・レーザー・プリンター	*IMGB05

上

IPアドレス (INTNETADR)

印刷要求が送られる先のリモート・システムのIPアドレスを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、RMTSYS(*INTNETADR)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

IPアドレス

IPアドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分のビットがすべて2進数の1または0であるIPアドレスは無効です。

コマンド入力行から入力する場合には、値をアポストロフィ(')で囲まなければなりません。

上

VM/MVSクラス (CLASS)

VM/MVSホスト・システムに送られるファイルのVM/MVS SYSOUTクラスを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPE(*SNA)およびDESTTYPE(*S390)が指定された時にのみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

文字値 配布クラス値を指定してください。有効な値の範囲は、AからZおよび0から9です。

用紙制御バッファ (FCB)

VM/MVSホスト・システムに送られるファイルの用紙制御バッファを指定します。

注: このパラメーターは、CNNTYPE(*SNA)およびDESTTYPE(*S390)が指定された時にのみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

用紙制御バッファは使用されません。

*USRDTA

ユーザー・データ(USRDTA)スプール・ファイル属性の最初の8文字が用紙制御バッファの名前になります。ユーザー・データがブランクの場合には、用紙制御バッファは使用されません。

*PRTF

ファイルをスプールするために使用される印刷装置ファイルの最初の8文字が用紙制御バッファの名前になります。

名前 使用される用紙制御バッファの名前を指定してください。

宛先オプション (DESTOPT)

宛先従属オプションを指定します。CNNTYPE(*IP)が指定された場合には、宛先従属オプションが制御ファイル(リモートLPDサーバーに送信される)に追加されます。CNNTYPE(*SNA)が指定されると、スプール・ファイルがリモート・システムに送信された後の処理方法を判別するのにこのフィールドが使用されます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

宛先オプションは指定されません。

*USRDFNTXT

スプール・ファイルが作成された時点のユーザー・プロファイルのユーザー定義テキストが使用されます。CNNTYPE(*SNA)が指定されている場合には、この値は無視されます。

*NOWAIT

CNNTYPE(*SNA)が指定された場合に、*NOWAITの値はオペレーティング・システムがスプール・ファイルを送信した後はそれを記憶しないことを指示します。

'宛先オプション'

アポストロフィで囲まれた128文字を超えない文字を指定してください。

区切りページの印刷 (SEPPAGE)

リモート・システムで印刷する時に、分離ページを要求するかしないかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、CNNTYPE(*IP)が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***YES** 分離ページが要求されます。

***NO** 分離ページは要求されません。

上

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイル进行处理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義のオプションは指定しません。

その他の値 (最大4個指定可能)

文字値 スプール・ファイル进行处理するユーザー・アプリケーションで使用されるユーザー定義のオプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

上

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイル进行处理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義オブジェクト名は指定されません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 ユーザー定義オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

- *DTAARA (データ域)
- *DTAQ (データ待ち行列)
- *FILE (ファイル)
- *PSFCFG (PSF構成)
- *USRIDX (ユーザー索引)
- *USRQ (ユーザー待ち行列)
- *USRSPC (ユーザー・スペース)

上

ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)

ユーザー定義のドライバー・プログラムを指定します。

注: このパラメーターは、RMTSYSが*NONEでない時にだけ有効です。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義のドライバー・プログラムは指定しません。

修飾子1: ユーザー・ドライバー・プログラム

名前 スプール・ファイルを処理するためのユーザー指定のドライバー・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

スプール・ファイルASP (SPLFASP)

スプール・ファイルが物理的に存在する補助記憶域プール(ASP)を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*OUTQASP

スプール・ファイルは出力待ち行列が入っているのと同じASPにあります。

*SYSTEM

スプール・ファイルはシステムASPにあります。出力待ち行列が1次または2次ASP上のライブラリーにある場合には、この値は許可されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストが指定されている場合、変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

ファイルの表示 (DSPDTA)

出力待ち行列の読み取り権限を持っているユーザーが、待ち行列上のすべてのスプール・ファイルのデータを表示することができるか、あるいはユーザー自身のファイルのデータしか表示することができないかを指定します。

*SAME

出力待ち行列に指定されたデータ表示属性の現在の値は変更されません。

***NO** 待ち行列の使用を認可されたユーザーは、ある種の特殊権限を持っていない限り、ユーザー自身のファイルのデータしか表示、コピー、または送信することができません。

***YES** 出力待ち行列の読み取り権限を持っているどのユーザーも、待ち行列上のどのファイルからのデータでも表示、コピー、または送信することができます。

***OWNER**

ファイルの所有者またはスプール制御(*SPLCTL)特殊権限を持つユーザーは、待ち行列上のスプール・ファイルを表示、コピー、または送信することができます。

上

ジョブ区切り (JOBSEP)

この出力待ち行列上にスプール・ファイルを持つ各ジョブについて、各ジョブの印刷出力の始めに入れる区切りの数を指定します。各区切りには、ジョブ名、ジョブ・ユーザーの名前、ジョブ番号、およびジョブが実行された時刻および日付など、ジョブを識別する情報が入っています。区切りの数は0から9の範囲とすることができます。

このパラメーターは、印刷装置書出プログラムによってのみ使用されます。他のすべてのタイプの書き出しプログラムは、このパラメーターに指定された値を無視します。

***SAME**

ジョブ区切りの数は変更されません。

***MSG** 各ジョブの出力の前にジョブ区切りを置きません。その代わりに、操作員に各ジョブの終わりを知らせるメッセージを書き出しプログラムのメッセージ待ち行列に送ります。

0から9 各ジョブの出力の前に置く区切りの新しい数を指定します。

上

操作員制御 (OPRCTL)

ジョブ制御権限を持つユーザーが、この出力待ち行列上に項目のあるスプール・ファイルを制御および変更することができるかどうかを指定します。

***SAME**

出力待ち行列の操作員制御属性に指定された現在の値は変更されません。

***YES** ジョブ制御権限を持つユーザーは待ち行列を制御することができ、その待ち行列上の項目に変更を加えることができます。

***NO** ジョブ制御権限を持つユーザーは、他にも特殊権限を持っている場合を除いて、この待ち行列およびその項目を操作したり変更したりすることはできません。

上

データ待ち行列名 (DTAQ)

出力待ち行列に関連したデータ待ち行列を指定します。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

出力待ち行列に関連したデータ待ち行列はありません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 出力待ち行列と関連したデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 データ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

検査権限 (AUTCHK)

出力待ち行列に対してどのタイプの権限を持っているユーザーが待ち行列上のすべてのファイルを制御することができるかを指定します。ある種の特殊権限を持つユーザーもスプール・ファイルを制御できる場合があります。

***SAME**

出力待ち行列に指定されている検査権限属性の現行の値は変更されません。

***OWNER**

出力待ち行列権限テストを通過するためには、要求元は出力待ち行列に対する所有権限を必要とします。要求元は、出力待ち行列の所有者となるか、グループ・プロファイルを待ち行列の所有者と共用するか、あるいは所有者の権限に合うプログラムを実行することで所有権限を持つことができます。

***DTAAUT**

出力待ち行列に対して追加、読み取り、および削除の権限を持っているユーザーが、待ち行列上のすべてのスプール・ファイルを制御することができます。

上

例

```
CHGOUTQ  OUTQ(QPRINT4)  JOBSEP(4)
          TEXT('DEFAULT QUEUE FOR FILES USING 4-PART FORMS')
```

このコマンドは、ジョブ分離ページの数およびQPRINT4という名前の出力待ち行列を記述するテキストを変更します。QPRINT4出力待ち行列から作成されたそれぞれのジョブのスプール・ファイルの前に、4つのジョブ分離ページが挿入されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF0002

コマンドは実行されなかった。妥当性検査プログラムによってエラーが検出されました。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF33F1

ライブラリー&2のデータ待ち行列&1が見つからない。

CPF3319

指定したパラメーターを変更することはできない。出力待ち行列&1に対して書き出しプログラムが活動状態になっています。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3361

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は変更されなかった。出力待ち行列は使用中です。

CPF34D7

エラーのために&2中の出力待ち行列&1が変更されなかった。

上

所有者の変更 (CHGOWN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

所有者変更(CHGOWN)コマンドは、オブジェクトの所有権を、あるユーザーから別のユーザーに移動します。オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループの権限を変更することができます。そのオブジェクトに対して他のユーザーがもっている権限は変更されません。

また、CHGOWNコマンドを使用して、ディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容が所有者を変更されることになるディレクトリー・ツリーの所有者を変更することもできます。SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、このコマンドは、サブツリー内のすべてのオブジェクトの所有者を変更しようとしています。診断メッセージが、所有者を変更できなかった各オブジェクトに送信され、すべてのオブジェクトが試行されると、エスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトでエラーなしで所有者が変更された場合には、完了メッセージが送信されます。

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたか、あるいはサブツリーの処理中に見つかったシンボリック・リンク・オブジェクトを見つけた場合には、**シンボリック・リンク (SYMLNK)**パラメーターに指定した値がそのシンボリック・リンク・オブジェクトに適用されます。サブツリーの処理中の場合には、シンボリック・リンク・オブジェクト自身がサブツリーをもつことはできないので、サブツリーのその枝の処理が停止します。

オブジェクトの所有者は、明示的に取り消されないかぎり、そのオブジェクトに適用できるすべての権限を常にもっています。オブジェクトの所有者は、そのオブジェクトに対する権限を、他のユーザーに認可する権限があります。また、所有者は、前に取り消された権限を所有者自身に認可することもできます。例えば、所有者は、所有者固有のある権限を予防措置として除去してから、必要がある場合に、その同じ権限を自身に再び認可することができます。

全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーは、すべてのオブジェクトに対して完全な権限を持ち、任意のオブジェクトの所有権を移すことができます。すべてのユーザーは自身のユーザー・プロファイルに対して追加(*ADD)および削除(*DLT)権限を持ちます。すなわち、ユーザーはオブジェクトの所有権を移動して、自身のユーザー・プロファイルへオブジェクトを追加するか、またはオブジェクト（ユーザーが作成した）を削除することができます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内のオブジェクトの所有権を移動するためには、以下のすべてが必要です。
 - オブジェクトのオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限
 - オブジェクトがファイル、ライブラリー、またはサブシステム記述である場合には、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限および*OBJEXIST権限
 - このオブジェクトが権限リストの場合には、*ALLOBJ特殊権限または所有権
 - 新しい所有者のユーザー・プロファイルに対する*ADD権限

- 現在の所有者のユーザー・プロファイルに対する*DLT権限
- 権限を借用するプログラムのオブジェクト所有者を変更するためには、*ALLOBJおよび機密保護管理者(*SECADM)特殊権限。
- また、これと関連した権限ホルダーのオブジェクトの所有権を変更すると、その権限ホルダーの所有権も変更します。
- サブツリー処理の実行時には、パス名およびそのパス内のすべてのサブディレクトリーに対する読み取り(*R)および実行(*X)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
NEWOWN	新しい所有者	名前	必須, 定位置 2
RVKOLDAUT	現行権限の取り消し	*NO, *YES	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO, *YES	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

所有権が変更されるオブジェクト, あるいは複数オブジェクトと一致するパターンを指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの名前規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

パス名 所有権が変更されるオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

上

新しい所有者 (NEWOWN)

オブジェクトの新規所有者のユーザー・プロファイルを指定します。このコマンドが実行される時には、ユーザー・プロファイルが存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。

上

現行権限の取り消し (RVKOLDAUT)

所有権を新しい所有者 (NEWOWN)パラメーターに指定された新しい所有者に移す時に、現行所有者の権限を取り消すかどうかを指定します。

***YES** オブジェクトを新しい所有者に移動する時に、現行の所有者の権限を取り消します。

***NO** オブジェクトを新しい所有者に移動する時に、現行の所有者の権限は変更されません。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合に、サブツリー内のオブジェクトを変更するかどうかを指定します。

***NONE**

OBJパラメーターで指定されたオブジェクトが変更されます。オブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、これは変更されますが、そのディレクトリーまたはライブラリー内容は変更されません。

***ALL** OBJパラメーターで指定されたオブジェクトが変更されます。オブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、これはそのディレクトリーまたはライブラリーの内容およびすべてのサブディレクトリーの内容と同様に検査されます。

注: OBJパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、そのパターン・マッチングは、そのディレクトリーまたはライブラリーの内容またはそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

注: 処理するサブディレクトリーがたくさんある場合には、SUBTREE(*ALL)を指定するとこのコマンドの実行に長時間かかることがあります。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内のオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

で、SUBTREEパラメーターは無視されます。次に、SYMLNKパラメーターによってシンボリック・リンク・オブジェクトが変更されないことが指定されているので、シンボリック・リンクSYM1によって示されたオブジェクト(DIR1)が変更されます。

この例では、DIR1の所有者がSAMに変更され、現行所有者から権限が取り消されます。シンボリック・リンク・オブジェクト(SYM1)の所有者は変更されず、またDIR1の内容の所有者も変更されません。

例3: SYMLNK(*YES)の場合のシンボリック・リンクの所有者の変更

```
CHGOWN OBJ('/SYM1') NEWOWN(JOE) SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*YES)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクであり、シンボリック・リンク・オブジェクトはサブツリーを持たないので、SUBTREEパラメーターは無視されます。次に、SYMLNKパラメーターによってシンボリック・リンク・オブジェクトが変更されることが指定されているので、シンボリック・リンク・オブジェクト(SYM1)が変更されます。

この例では、SYM1の所有者がJOEに変更され、現行所有者から権限が取り消されます。このシンボリック・リンクによって示されたオブジェクト(DIR1)の所有者は変更されず、DIR1の内容の所有者も変更されません。

例4: SUBTREE(*ALL)およびSYMLNK(*NO)の場合のディレクトリーの所有者の変更

```
CHGOWN OBJ('/DIR1') NEWOWN(PETE) SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*NO)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがディレクトリーであるため、サブツリーが処理されます。ツリーの処理で*SYMLNKオブジェクトが見つかり、SYMLNKパラメーターの値がその*SYMLNKオブジェクトに適用されます。SYMLNKパラメーターが*NOであると、シンボリック・リンクで示されるオブジェクトが変更されます。*SYMLNKオブジェクト自体はサブツリーを持たないので、ツリーの枝の処理はここで停止します。

この例では、DIR1, DIR2.1, DIR2.2, DIR2.3, DIR3.1, DIR3.2, DIRAの所有者がPETEに変更され、これらのディレクトリーに対する権限が現行所有者から取り消されます。SYM3.3, DIRB.1, DIRB.2, DIRB.3の所有者は変更されません。

例5: SUBTREE(*ALL)およびSYMLNK(*YES)の場合のディレクトリーの所有者の変更

```
CHGOWN OBJ('/DIR1') NEWOWN(GEORGE) SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*YES)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがディレクトリーであるため、サブツリーが処理されます。ツリーの処理で*SYMLNKオブジェクトが見つかり、SYMLNKパラメーターの値がその*SYMLNKオブジェクトに適用されます。SYMLNKパラメーターが*YESであると、シンボリック・リンク・オブジェクトが変更されます。*SYMLNKオブジェクト自体はサブツリーを持たないので、ツリーの枝の処理はここで停止します。

この例では、DIR1, DIR2.1, DIR2.2, DIR2.3, DIR3.1, DIR3.2, SYM3.3の所有者がGEORGEに変更され、現行所有者から権限が取り消されます。DIRA, DIRB.1, DIRB.2, DIRB.3の所有者は変更されません。

例6: SUBTREE(*NONE)およびSYMLNK(*NO)の場合のディレクトリーの所有者の変更

```
CHGOWN OBJ('/DIR1') NEWOWN(BETTY) SUBTREE(*NONE) SYMLNK(*NO)
```

このコマンドは、サブツリーを処理しません。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクでないので、SYMLNKパラメーターは無視されます。

DIR1の所有者がBETTYに変更され、現行所有者から権限が取り消されます。

注:

DIRB.1, DIRB.2,およびDIRB.3を変更する唯一の方法は、変更コマンドのOBJパラメーターに個別にそれらを指定するか、OBJ(DIRA)およびSUBTREE(*ALL)のある変更コマンドを指定することです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPE3101

回復可能でない入出力エラーが起こった。

CPE3408

引き数に使用されたアドレスが正しくない。

CPE3418

考えられるAPAR条件またはハードウェア障害。

CPE3474

不明なシステム状態。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0C1

CCSID &1は正しくない。

CPFA0CE

指定されたパス名パラメーターでエラーが起こった。

CPFA0DD

機能が中断した。

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPFBC50

1つまたは複数のパス名が見つからない。

CPF220A

新しい所有者&1にユーザーIDがない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF223A

&1個のオブジェクトが変更され、&2個のオブジェクトが変更されていません。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起きました。

CPF3BF6

パス・タイプの値が正しくない。

上

オーガナイザー・プロファイルの変更 (CHGPCOPRF)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

System i Accessオーガナイザー・プロファイル変更(CHGPCOPRF)コマンドにより、OfficeVision/400, DW 4, DW 4/2, DW 5,またはDW 5/2をテキスト・エディターとして使用したいかどうかを指定することができます。

DW 4, DW 4/2, DW 5,またはDW 5/2を選択した場合には、使用したいディスプレイライター・プロファイル、ディスプレイライター・プログラム・ファイルの所在、およびディスプレイライター・ファイルの保管方法についての質問があります。

パーソナル・コンピューターでOS/2オペレーティング・システムを使用している場合には、OFFICEVISION/400またはDW 5/2だけをエディターとして選択することができます。

パーソナル・コンピューターでDOSオペレーティング・システムを使用している場合には、OFFICEVISION/400, DW 4, DW 4/2,またはDW 5だけをエディターとして選択することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

エラー・メッセージ: CHGPCOPRF

なし

上

パラメーター

なし

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

なし

PDGプロファイル変更 (CHGPDGPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ・プロファイル変更(CHGPDGPRF)コマンドは、特定のユーザーについて印刷記述子グループ(PDG)プロファイル情報を変更します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	必須, キー, 定位置 1
PDG	記述子グループの印刷	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 記述子グループの印刷	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PRTD	印刷記述子	文字値, *SAME	必須, 定位置 3

上

ユーザー (USER)

変更するPDGプロファイルをもっているユーザーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

現行ユーザーのPDGプロファイルが変更されます。

ユーザー名

PDGプロファイルを変更するユーザーの名前を指定してください。

上

記述子グループの印刷 (PDG)

このユーザーと関連付ける印刷記述子グループ(PDG)の名前およびライブラリーを指定します。

使用できるPDG値は次の通りです。

印刷記述子グループ名

変更するPDGの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

PDGを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

変更するPDGが入っているライブラリーの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

印刷記述子 (PRTD)

印刷記述子グループ(PDG)内の印刷記述子名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

印刷記述子名は変更されません。

印刷記述子名

印刷記述子名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
CHGPDGPRF USER(JPSMITH) PDG(*LIBL/LETTERS) PRTD(DRAFT_QUALITY)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルJPSMITHの印刷記述子を変更します。印刷記述子は、印刷記述子グループLETTERS内のドラフト品質に変更されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2247

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

CPF6D82

ユーザー&1のPDGプロファイルは変更されなかった。

PEX定義の変更 (CHGPEXDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORER定義変更(CHGPEXDFN)コマンドは、既存のPERFORMANCE EXPLORER定義を変更します。CHGPEXDFNコマンドのプロンプトが出される時には、既存の定義に記憶されている現在値が挿入されます。各定義は、ライブラリーQUSRSYS中のQAPEXDFNファイルのメンバーとして記憶されています。PERFORMANCE EXPLORER定義は、PERFORMANCE EXPLORERセッション中に収集されるパフォーマンス・データを識別します。セッションは、STRPEX (PERFORMANCE EXPLORER 開始) コマンドを使用して開始することができます。新しいセッションを開始する場合には、PERFORMANCE EXPLORER定義名を指定しなければなりません。

PERFORMANCE EXPLORERツールの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. PGMパラメーターで指定されている各プログラムのライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
3. このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限を持っているか、iSeriesナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してi5/OSのサービス・トレース機能の使用を許可されている必要があります。機能IDをQIBM_SERVICE_TRACEに指定した機能使用法の変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、トレース操作の実行を許可されるユーザーのリストを変更することもできます。
4. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用権限を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
5. CHGPEXDFNを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にCHGPEXDFNを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のCHGPEXDFNが待機します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFN	定義	名前	必須, キー, 定位置 1
TYPE	タイプ	*SAME, *STATS, *TRACE, *PROFILE	オプション
PRFTYPE	プロファイル・タイプ	*SAME, *PGM, *JOB	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ	単一値: <u>*SAME</u> , *, *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	修飾子 3: 番号	000001-999999, <u>*ALL</u>	
	要素 2: スレッドID	単一値: <u>*ALL</u> , *SELECT その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 0000001-FFFFFFFF, *INITIAL	
要素 3: サブシステム	総称名, 名前, <u>*ALLSBS</u>		
TASK	タスク名	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE, *ALL その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
PGM	監視するプログラム	値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前, <u>*SAME</u> , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*SAME</u> , *LIBL	
	要素 2: モジュール	名前, <u>*SAME</u> , *ALL	
	要素 3: プロシージャ	文字値, <u>*SAME</u> , *ALL	
	要素 4: タイプ	<u>*SAME</u> , *PGM, *SRVPGM	
要素 5: 区画サイズ	<u>*SAME</u> , 4, 8, 16, 32, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096		
DTAORG	データ編成	*SAME, <u>*FLAT</u> , *HIER	オプション
MAXSTG	使用最大記憶域	1024-250000000, <u>*SAME</u>	オプション
TRCFULL	トレース・データ満杯時の処理	<u>*SAME</u> , *STOPTRC, *WRAP	オプション
MRGJOB	ジョブ・データの組み合わせ	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ADDTHDOPT	スレッド/タスク・オプションの追加	<u>*SAME</u> , *ALL, *NEW, *CURRENT	オプション
LSTALLJOB	全ジョブ/タスクのリスト	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
INTERVAL	サンプリング間隔	要素リスト	オプション
	要素 1: ミリ秒	0.1-200.0, <u>*SAME</u> , *NONE	
	要素 2: ランダム化	<u>*SAME</u> , *FIXED, *VARY	
PGMBKTEVT	PGMブラケット・イベント	単一値: <u>*SAME</u> , *DFT その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *MISTREND, *MIENTRYEXIT, *JVA, *PRC	オプション
TRCTYPE	トレース・タイプ	単一値: <u>*SAME</u> , *SLTEVT その他の値 (最大 12 回の繰り返し): *CALLRTN, *BASIC, *DSKIO1, *DSKIO2, *DSKSVR, *DSKSTG, *VRTADR, *PGMACT, *FILEOPEN, *PRFDTA, *TASKSWT, *HEAP	オプション
SLTEVT	特定イベント	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MCHINST	機械語命令	単一値: <u>*SAME</u> , *ALL, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
PGMEVT	プログラム・イベント	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *MIENTRY, *MIEXIT, *MISTR, *MIEND, *JVAENTRY, *JVAEXIT, *PRCENTRY, *PRCEXIT, *PASEPRCENTRY, *PASEPRCEXIT	
	要素 2: イベント・カウンター	<u>*NONE</u> , 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	<u>*FORMAT1</u> , *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
BASEVT	基本イベント	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 27 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *PRCCRT, *PRCDLT, *TASKCRT, *TASKDLT, *TASKSWTIN, *TASKSWTOUT, *TASKSWTOUTQ, *TASKSWTOUTINT, *TASKAVAIL, *PMCO, *PGMDBG, *ACTGRPACTPGM, *ACTGRPCRT, *ACTGRPDLT, *EXCP, *MIEXCP, *DCRINTSTR, *DCRINTEND, *CPUVRON, *CPUVRYOFF, *CPUSWTIN, *CPUSWTOUTY, *CPUSWTOUTP, *CPUAVAIL, *CPUSWT, *SETPRF, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	<u>*NONE</u> , 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	<u>*FORMAT1</u> , *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
STGEVT	記憶域イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *CRTSEG, *DLTSEG, *EXDSEG, *FNDSEGSIZ, *TRUNCSEG, *SYSHEAP, *RESHEAP, *LCLHEAP, *USRHEAP, *ACTGRPHEAP, *HDLHEAP, *CLEHEAP, *STGPTC, *TSADRFALSETRAP, *SPCADRFALSETRAP, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
DSKEVT	ディスク・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 14 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *ALLSTR, *READSTR, *READEND, *WRTSTR, *WRTEND, *PGREADSTR, *PGREADEND, *PGWRTSTR, *PGWRTEND, *RMTWRTSTR, *RMTWRTEND, *RMTPGWRTSTR, *RMTPGWRTEND, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
FAULTEVT	不在イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *STR, *ENDOK, *ENDERR, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
JOBEVT	ジョブ・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *LWSTR, *LWEND, *INELIGIBLE, *ACTIVE, *INTERRUPT, *MPLPOOLCHG, *TOBCHMPLPOOL, *TSLEND, *MPLLEAVE, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LCKEVT	ロック・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *LWEND, *OBJLOCK, *SPCLOCK, *DBLOCK, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
SAREVT	SARイベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 18 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *ALLSTR, *CLR, *CLRPIN, *EXCHCLR, *READ, *READASYNC, *READASYNCCALL, *READPIN, *EXCHREAD, *EXCHREADASYNC, *WRT, *WRTASYNC, *WRTRMV, *WRTPGOUT, *RMV, *UNPINRMV, *ENDOK, *ENDERR, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
EXPCCHEVT	エキスパート・キャッシュ・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *TUNE, *TUNEDB, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
DSKSVREVT	ディスク・サーバー・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 11 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *CTLEND, *RQSACP, *RQSRJT, *SVRTASKSTR, *SVRTASKEND, *RQSRCV, *RQSENDOK, *RQSENDERR, *TAPSNDCMD, *TAPDONE, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OSEVT	オペレーティング・システム・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 54 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *DBIO, *DBOPEN, *DBSVRCNN, *DBSVRREQ, *DIRSRV, *DTAARA, *DTAQ, *HOSTSVRCNN, *IFSCOMP, *IFSIO, *IFSOPEN, *MIEV8, *MGTC, *TRCCOMP, *TRCDTA, *USRTRS, *SAVRST, *ADDTHD1, *ARMTRC, *MIEV25, *MIEV26, *MIEV27, *MIEV28, *MIEV29, *MIEV30, *MIEV35, *MIEV36, *MIEV37, *MIEV38, *MIEV39, *MIEV40, *MIEV41, *MIEV42, *MIEV43, *MIEV44, *MIEV45, *MIEV46, *MIEV47, *MIEV48, *MIEV49, *MIEV50, *MIEV51, *MIEV52, *MIEV53, *MIEV54, *MIEV55, *MIEV56, *MIEV57, *MIEV58, *MIEV59, *MIEV60, *MIEV61, *MIEV62	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
JVAEVT	JAVAイベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *OBJCRT, *GBGCOL, *GBGCOLSWEAP, *THDCRT, *THDDL, *THDWAIT, *THDNFY, *THDNFYALL, *CLSLOAD, *CLSUNLOAD, *LIBOPR, *TFMSTR, *LCKSTR, *UNLCK, *JVAEXCP, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
CMNEVT	通信イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 6 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *SOCKETSAPI, *SOCKETS, *IP, *TCP, *TCPIN, *TCPOUT, *UDP, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
APPEVT	アプリケーション・イベント	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *DOMTRCDTA, *WAS, *CONNECT, *APPEVT1, *APPEVT2, *APPEVT3, *APPEVT4	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE , 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1 , *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
PASEEVT	PASEイベント	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 22 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *SYSCALLSTR, *SYSCALLEND, *FORKPARENTSTR, *FORKCHILDSTR, *FORKEND, *PRCINITSTR, *PRCINITEND, *EXECSTR, *EXECEND, *EXIT, *THDINITSTR, *THDINITEND, *THDEND, *LOADSTR, *LOADEND, *UNLOADSTR, *UNLOADEND, *SIGPRCSND, *SIGTHDSND, *SIGRCV, *TRCHOOK, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE , 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1 , *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
FILSVREVT	ファイル・サーバー・イベント	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 9 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *IFSBSF, *IFSDIR, *IFSLFS, *LIC, *NETSVR, *NFS, *OS, *VNODMGMT, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE , 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1 , *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYNCEVT	同期化イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *CONDSET, *CONDWAIT, *HDLMTXRLS, *HDLMTXWAIT, *PTRMTXLOCK, *PTRMTXUNLOCK, *PTRSEMPOST, *PTRSEMWAIT, *NAMSEMPOST, *NAMSEMWAIT, *TKNLOCK, *TKNUNLOCK, *MTXCLEANUP, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
JRNEVT	ジャーナル・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *STRCOMMIT, *ENDCOMMIT, *STROBJFORCE, *ENDOBJFORCE, *STRROLLBACK, *ENDROLLBACK, *STRCYCLE, *STREVAL, *ENDEVAL, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
DBEVT	データベース・イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 9 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
RSCAFNEVT	資源の類縁性イベント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 9 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *CHGTASK, *CHGGRP, *CHGCFG, *BALCFG, *CHKBAL, *VFYBAL, *ANZBAL, *CHGBALSTT, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	*NONE, 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	*FORMAT1, *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
VRTIOEVT	仮想入出力イベント	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: イベントID	*ALL, *SCSICLIENT, *SCSISERVER, *ISCSI, *SCSICMD, *SCSITSKMGMT, *DISKSTR, *DISKEND, *OPTSTR, *OPTEND, *TAPSTR, *TAPEND, *ETHADPT, *SERVICE	
	要素 2: イベント・カウンター	<u>*NONE</u> , 1, 2, 3, 4	
	要素 3: イベント・フォーマット	<u>*FORMAT1</u> , *FORMAT2, *FORMAT3, *FORMAT4	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

定義 (DFN)

変更するPERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変更するPERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定してください。

上

タイプ (TYPE)

収集されるパフォーマンス・データのタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*STATS

問題の区域の識別に役立つ一般的なパフォーマンス問題の統計が収集されます。このモードは、詳細な情報を収集して分析しなければならないかどうか、またどこでそれを行なうかを判断するためのマップとして主に使用されます。

上で指定した情報の収集の他に、TYPE(*STATS)では、特定タイプのイベントのオカレンスをカウントするオプションも提供されます。これらは、提供される4つのカウンターのいずれかでカウントすることができます。

特定タイプのイベントのオカレンスをカウントするには、SLTEVT(*YES)を指定してから、各種のイベント・カテゴリーからカウントするイベントIDを選択してください。

例えば、TYPE(*STATS) SLTEVT(*YES) JOBEVT((*ALL 1))はカウンター1のすべてのジョブ・イベントをカウントします。

*TRACE

詳細なトレース情報が収集されます。これは、収集可能な最も詳しいタイプのパフォーマンス・データです。

*PROFILE

より多くの資源を使用しているコードのセクションを識別するために、特定のプログラムがサンプル化されます。この情報は、ユーザーが特定のプログラムまたはアプリケーションのパフォーマンスを改善したい時に非常に役立ちます。

上

プロファイル・タイプ (PRFTYPE)

収集するプロファイルのタイプを指定します。このパラメーターは、TYPE(*PROFILE)が指定されている場合のみ有効です。

***PGM** より多くの資源を使用しているコードのセクションを識別するために、特定のプログラムがサンプルリングされます。この情報は、ユーザーが特定のプログラムまたはアプリケーションのパフォーマンスを改善したい場合に有用です。

***JOB** 多数の資源を使用しているプログラムおよびプロシージャーを識別するために、特定のジョブがサンプル化されます。このモードは、システム全体のすべてのプログラムおよびプロシージャーの表示を提供することができ、これは、指定された間隔での*PMCO イベントの*TRACEモードと同じです。

上

ジョブ名 (JOB)

PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションに含められるジョブを指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

* STRPEX (PERFORMANCE EXPLORER開始) コマンドを出したジョブだけが含められます。

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

***ALL** システム上のすべてのジョブが含められます。

名前 PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションに含めるジョブの名前を指定してください。

総称名 含まれるジョブの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていない場合、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。総称オブジェクト名について詳しくは、Webサイト(<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>)のiSeries Information Centerで、「プログラミング」->「制御言語(CL)」の下にある「i5/OSオブジェクト」トピックを参照してください。

修飾子2: ユーザー

***ALL** 指定したジョブ名と一致するジョブがすべて含まれます。

名前 含まれるジョブのユーザーの名前を指定してください。

総称名 含まれるジョブの総称ユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名に一致するすべてのジョブが含まれます。

ジョブ番号

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。

要素2: スレッドID

***ALL** 指定されたジョブのすべてのスレッドが含まれます。

***INITIAL**

指定されたジョブの初期スレッドだけが含まれます。

***SELECT**

指定されたジョブのスレッドのリストからスレッドを選択します。この値は、コマンドが対話式ジョブで実行される場合にのみ有効です。

スレッドID

含まれるジョブのスレッドIDを指定します。これは、WRKJOB コマンドで表示されるスレッドIDです。

要素3: サブシステム

***ALLSBS**

すべてのサブシステムが検索されて、指定されたジョブ名、ユーザー、および番号に一致するジョブが検出されます。

名前 含まれるジョブのサブシステム名を指定してください。

総称名 含まれるジョブの総称サブシステム名を指定してください。

上

タスク名 (TASK)

PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションに含まれるライセンス内部コード(LIC)タスクを指定します。最大8つのタスク名を指定することができます。

注: LICタスクはパフォーマンス測定ツールの報告書およびWRKSYSACTコマンドから取り出すことができます。LICタスク名が同じままか、システム相互間またはリリース相互間に存在するかどうかは、保証の限りではありません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

システム上のLICタスクは組み込まれません。

***ALL** システム上のすべてのLICタスクが組み込まれます。

その他の値 (最大8個指定可能)

名前 PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションに含めるタスクの名前を指定してください。

総称名 組み込むタスクの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていない場合、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

上

監視するプログラム (PGM)

収集されるパフォーマンス・プロファイル・データをもつプログラムを指定します。このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PROFILE)を指定した場合だけです。最大16のプログラムを指定することができます。

要素1: プログラム

修飾子1: プログラム

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** 指定されたライブラリー内のすべてのプログラムがサンプリングされます。

名前 サンプル化されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***SAME**

値は変更されません。

***LIBL** 指定したプログラムまたはサービス・プログラムを見つけるために、STRPEXコマンドを出したジョブのライブラリー・リストが検索されます。

名前 プログラムまたはサービス・プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

要素2: モジュール

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** プログラムまたはサービス・プログラム中のすべてのモジュールがサンプル化されます。OPM（オリジナル・プログラム・モデル）プログラムをサンプリングする場合には、この要素に*ALLを指定してください。

名前 プログラムまたはサービス・プログラム内のサンプル化されるモジュールの名前を指定してください。

要素3: プロシージャ

*SAME

値は変更されません。

***ALL** 指定したモジュール内のすべてのプロシージャがサンプル化されます。

名前 サンプリングする指定されたモジュール内のプロシージャの名前を指定してください。プロシージャ名に小文字が含まれている場合には、そのプロシージャ名を単一引用符で囲んで指定してください。

要素4: タイプ

*SAME

値は変更されません。

***PGM** 指定するプログラムはプログラム(*PGM)オブジェクトです。

***SRVPGM**

指定するプログラムはサービス・プログラム(*SRVPGM)オブジェクトです。

要素5: 区画サイズ

区画サイズは、各カウンターに割り当てられた連続プログラム命令アドレスの数です。区画のサイズが小さくなれば、それだけプログラム・プロファイル情報が細かくなります。

*SAME

値は変更されません。

数値 プログラムに使用する区画サイズを指定してください。有効な値は、4, 8, 16, 32, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

データ編成 (DTAORG)

データの編成方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*STATS)を指定した場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***FLAT**

PERFORMANCE EXPLORERツールは、親子関係のデータは収集しません。

***HIER**

PERFORMANCE EXPLORERツールは、親子関係のデータを収集します。

上

使用最大記憶域 (MAXSTG)

PERFORMANCE EXPLORERツールがトレース・データの収集に使用する記憶域の最大容量をキロバイト (K)単位で指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*TRACE)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

最大キロバイト数

収集されたトレース・レコードに使用する記憶域の要求された最大キロバイト数(K)を指定します。システムは、トレースに必要な記憶域の最小容量を計算します。この最小記憶域サイズの計算は、そのシステムのプロセッサ構成によって異なります。記憶域の最小容量はMAXSTGパラメーター上に指定されたサイズよりかなり大きくなる場合があります。システムは2つの値の大きい方を使用します。

上

トレース・データ満杯時の処理 (TRCFULL)

MAXSTGパラメーターで指定した記憶域がすべて使用された時に、トレース・レコードを折り返す（最も古いレコードを新しいレコードで置き換える）か、あるいはトレースを停止するかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*TRACE)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*STOPTRC

トレース・ファイルがトレース・レコードでいっぱいになった場合に、トレースを停止します。

*WRAP

トレース・ファイルがいっぱいになると、トレースは始めに折り返します。新しいレコードが収集されるにつれて、最も古いトレース・レコードが新しいレコードによって書き換えられます。

上

ジョブ・データの組み合わせ (MRGJOB)

別のジョブからのデータを一緒にマージするか、別個に保存するかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DTAORG(*FLAT)を指定した場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***YES** 個別のジョブからのデータが組み合わせられます。

***NO** 個別のジョブからのデータは別個に保持されます。

上

スレッド/タスク・オプションの追加 (ADDTHDOPT)

PERFORMANCE EXPLORERセッションの開始時に関連したスレッドおよびタスクの作成時刻に基づいて、PERFORMANCE EXPLORERセッションにどのタイプのスレッドおよびタスクを含めるかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***ALL** 収集には、JOBおよびTASKパラメーターで指定された基準を満たすすべてのスレッドおよびタスクが含まれます。

***NEW** 収集には、JOBおよびTASKパラメーターで指定された基準を満たす、PERFORMANCE EXPLORERセッションの開始後に作成された新しいスレッドおよびタスクだけが含まれます。PERFORMANCE EXPLORERセッションの開始時に活動状態になっているスレッドまたはタスクは含まれません。

*CURRENT

収集には、JOBおよびTASKパラメーターで指定された基準を満たす、PERFORMANCE EXPLORERセッションの開始時に活動状態になっているスレッドおよびタスクだけが含まれます。PERFORMANCE EXPLORERセッションの開始後に作成されたスレッドまたはタスクは含まれません。

上

全ジョブ/タスクのリスト (LSTALLJOB)

要約データを、システムのすべてのジョブおよびタスクについてリストするか、またはJOBまたはTASKパラメーターで指定されたジョブおよびタスクだけをリストするかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ジョブまたはタスクのデータがタスク情報ファイルにリストされるのは、JOBまたはTASKパラメーターでそのジョブまたはタスクが指定されている場合だけです。

***YES** すべてのジョブおよびタスクのデータは、そのジョブまたはタスクがJOBまたはTASKパラメーターで指定されていない場合でも、タスク情報ファイルにリストされます。

上

サンプリング間隔 (INTERVAL)

プログラムのサンプルが取られる間隔を指定します。間隔が小さいと、多数のサンプルが取られますが、オーバーヘッドも大きくなります。サンプリング間隔が小さければ小さいほど、収集されるトレース・データ量は大きくなります。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PROFILE)またはTYPE(*TRACE)を指定した場合だけです。

要素1: ミリ秒

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

間隔は使用されません。

0.1から200.0

プログラムのサンプルが取られる間隔を指定してください。有効な値の範囲は0.1 - 200.0ミリ秒です。

要素2: ランダム化

***SAME**

値は変更されません。

***FIXED**

サンプリング間隔は、常にこのパラメーターの要素1に指定された値になります。

***VARY**

サンプリング間隔は、ほぼこのパラメーターの要素1に指定された値になります。指定される間隔は、間隔の少量のランダム・パーセンテージを引いたり加えたりして、毎回変更されます。これは、収集におけるスレッド/タスクのセットが収集中に順序や長さの変動しない定常状態のマシン・サイクル・シーケンスに安定させたときの調和を除くために必要です。

上

PGMブラケット・イベント (PGMBKTEVT)

どのプログラム呼び出しフロー・イベントがTYPE(*STATS)定義に組み込まれるかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*STATS)を指定した場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***DFT** *MISTRENDイベント、*MIENTRYEXITイベント（プログラムおよびサービス・プログラムの場合）、および*JVAイベントについて統計が収集されます。

その他の値（最大3個指定可能）

***MISTREND**

すべてのマシン語命令についての統計が収集されます。

***MIENTRYEXIT**

プログラムとプロシージャについて統計が収集されます。これには、最適化レベル30またはこれ以下でコンパイルされたどのプログラムも含まれます。最適化レベル40のプログラムも使用可能にされますが、呼び出されたときに呼び出しスタックにフレームをスタックするプロシージャ（非リーフ・プロシージャ）の場合のみです。

***JVA** Javaメソッドについて統計が収集されます。これには、プロパティー'os400.enbpfrcol=1'が設定されたJITモードで実行しているインタープリット済みJavaおよびJavaプログラムが含まれます。これは、クラシックVMの場合のみで、IBM Technology for Javaの場合は当てはまりません。

***PRC** V5R5では、*PRCは、*MIENTRYEXITとまったく同じように動作します。

上

トレース・タイプ (TRCTYPE)

収集されるトレース・パフォーマンス・データのタイプを指定します。TRCTYPEオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*TRACE)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*SLTEVT

選択した個別イベント(XXXEVTパラメーター) およびマシン語命令(MCHINSTパラメーター) だけがトレース定義に組み込まれます。

注: TRCTYPE(*SLTEVT)が指定された場合には、SLTEVT(*YES)も指定しなければなりません。

その他の値 (最大12個指定可能)

*CALLRTN

呼び出し戻りイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。呼び出し戻りイベントは、あるプログラムに入って、そこから出たときに発生し、また、一定のマシン命令が開始して完了したときにも発生します。

*BASIC

一般パフォーマンス分析と関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。どのタイプのパフォーマンス問題判別が必要であるかが不明な時には、このオプションを使用しなければなりません。

*DSKIO1

ディスク入出力操作と関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

*DSKIO2

ディスク入出力操作と、さらに入出力操作を実行するための高レベル要求と関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

*DSKSVR

ディスク・サーバー操作と関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

*DSKSTG

ディスク記憶域の消費と関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

*VRTADR

仮想アドレス割り当てと関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

*PGMACT

プログラムの活動化および非活動化と関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

*FILEOPEN

ファイル(*FILE)オープンと関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

*PRFDTA

CPU命令プロファイルと関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

***TASKSWT**

タスキングと関連したイベントがトレース定義に組み込まれることを指定します。

上

特定イベント (SLTEVT)

トレース・モード(TYPE(*TRACE))収集では、SLTEVTによって、TRCTYPEパラメーターで使用可能なイベントのカテゴリの他に、個別のマシン語命令およびイベントを指定することができます。統計モード(TYPE(*STATS))収集では、SLTEVTによって個別のイベントをカウントすることができます。

注: このパラメーターが有効となるのは、TYPE(*TRACE)またはTYPE(*STATS)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 特定イベントを選択することはできません。

***YES** 特定イベントを選択することができます。

上

機械語命令 (MCHINST)

PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションに含まれるマシン語命令を指定します。このパラメーターはPGMEVTパラメーターと一緒に使用してください。MCHINSTは、使用可能なマシン語命令のいずれかを収集に含めるかを制御します。PGMEVT(*MISTRおよび *MIEND)は、マシン語命令を収集に含めるかどうかを制御します。

注: このパラメーターが有効となるのは、TYPE(*TRACE)およびSLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***ALL** 収集で使用可能なすべてのマシン語命令が組み込まれます。

***NONE**

収集に使用可能なマシン語命令は含められません。

その他の値 (最大50個指定可能)

名前 PERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションに含めるマシン語命令の名前を指定してください。

注: マシン語命令の指定は、ISERIESサービス担当者の指示に従って行ってください。

上

プログラム・イベント (PGMEVT)

トレース定義に組み込まれるプログラム呼び出しフロー・イベントを指定します。PGMEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、TYPE(*TRACE)およびSLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

プログラム呼び出しフロー・イベントはトレース定義に組み込まれません。

*ALL すべてのプログラム呼び出しフロー・イベントがトレース定義に組み込まれます。

要素1: イベントID

イベントID

トレース定義に含める呼び出しフロー・イベントIDを指定してください。

注: *MIENTRY, *MIEXIT, *PRCENTRYおよび*PRCEXITイベントは、最適化レベル30以下でコンパイルされたプログラムでは常に有効です。最適化レベル40の場合、これらのイベントは、呼び出されたときに呼び出しスタックにフレームをスタックするプロシージャ（非リーフ・プロシージャ）の場合のみ有効です。

*JVAENTRYおよび*JVAEXITは、プロパティ'os400.enbpfrcol=1'が設定されたJITモードで実行しているインタープリット済みJavaおよびJavaプログラムで有効です。これは、クラシックVMの場合のみで、IBM Technology for Javaの場合は当てはまりません。

要素2: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

基本イベント (BASEVT)

定義に組み込まれる基本イベントを指定します。BASEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

基本イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべての基本イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。TYPE(*STATS)の場合には、カウントするイベントIDを指定することができます。一部の基本イベントのイベントIDはカウントされることがあります。ある定義ですべての基本イベントのカウントを試みると、通知メッセージが表示されます。

要素1: イベントID

イベントID

トレースまたはカウントする基本イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

基本イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。*FORMAT1以外の値が有効なのは、*PMCOおよび*SWOQイベントの場合だけです。他のすべてのイベントでは、指定されている形式に関係なく*FORMAT1が使用されます。

*PMCOイベントの*FORMAT2では、*FORMAT1と同じデータのほかに、さらに呼び出しスタックの16個のレベルが収集されます。

*PMCOイベントの*FORMAT3では、*FORMAT1と同じデータのほかに、さらに4個のPMCレジスターが収集されます。

*SWOQイベントの*FORMAT2では、*FORMAT1と同じデータのほかに、さらに呼び出しスタックの16個のレベルが収集されます。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT3**

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

記憶域イベント (STGEVT)

定義に組み込まれる補助記憶域管理イベントを指定します。STGEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserries/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

補助記憶域管理イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべての補助記憶域管理イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含める補助記憶域管理イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

***NONE**

補助記憶域管理イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

***FORMAT1**

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

***FORMAT2**

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT3**

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

ディスク・イベント (DSKEVT)

定義に組み込まれるディスク・イベントを指定します。DSKEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ディスク・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのディスク・イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

***ALLSTR**

すべてのディスク開始イベントがTYPE(*TRACE)の場合にはトレースされ、TYPE(*STATS)の場合にはカウントされます。

イベントID

含めるディスク・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

***NONE**

ディスク・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

***FORMAT1**

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

***FORMAT2**

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT3**

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

不在イベント (FAULTEVT)

定義に組み込まれるページ不在イベントを指定します。FAULTEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ページ不在イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのページ不在イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるページ不在イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

***NONE**

ページ不在イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

***FORMAT1**

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

***FORMAT2**

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT3**

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

ジョブ・イベント (JOBEVT)

定義に組み込まれるジョブまたは処理関連イベントを指定します。JOBEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserries/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ジョブまたは処理関連イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのジョブまたはプロセス関連イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるジョブまたはプロセス関連イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

***NONE**

ジョブまたはプロセス関連イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

***FORMAT1**

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

***FORMAT2**

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT3**

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

ロック・イベント (LCKEVT)

定義に組み込まれるロックまたは占有イベントを指定します。LCKEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserics/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ロックまたは占有イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのロックまたは占有イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるロックまたは占有イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

ロックまたは占有イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

SARイベント (SAREVT)

定義に組み込まれるセグメント・アドレス・レジスター・イベントを指定します。SAREVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

セグメント・アドレス・レジスター・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのセグメント・アドレス・レジスター・イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるセグメント・アドレス・レジスター・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

セグメント・アドレス・レジスター・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

エキスパート・キャッシュ・イベント (EXPCCHEVT)

定義に組み込まれるエキスパート・キャッシュ・イベントを指定します。EXPCCHEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

エキスパート・キャッシュ・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのエキスパート・キャッシュ・イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるエキスパート・キャッシュ・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

エキスパート・キャッシュ・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

ディスク・サーバー・イベント (DSKSVREVT)

定義に組み込まれるディスク・サーバー・イベントを指定します。DSKSVREVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ディスク・サーバー・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのディスク・サーバー・イベントがトレース・モード定義に含まれるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるディスク・サーバー・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

ディスク・サーバー・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

オペレーティング・システム・イベント (OSEVT)

定義に組み込まれるオペレーティング・システム・イベントを指定します。OSEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

オペレーティング・システム・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのオペレーティング・システム・イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるオペレーティング・システム・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

オペレーティング・システム・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

JAVAイベント (JVAEVT)

定義に組み込まれるJAVAイベントを指定します。これらのイベントは、クラシックVMの場合のみで、IBM Technology for Javaの場合は当てはまりません。JVAEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

JAVAイベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのJAVAイベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるJAVAイベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

JAVAイベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*OBJCRT, *LCKSTR,および*UNLCKイベントの*FORMAT2では、*FORMAT1と同じデータのほかに、さらに呼び出しスタックの16個のレベルが収集されます。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

通信イベント (CMNEVT)

定義に組み込まれる通信イベントを指定します。CMNEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

通信イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべての通信イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含める通信イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

通信イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。*FORMAT1以外の値が有効なのは、*SOCKETSイベントの場合だけです。他のすべてのイベントでは、指定されている形式に関係なく*FORMAT1が使用されます。

*SOCKETSイベントの*FORMAT2では、アプリケーション・データが64バイトではなく128バイトのデータを含むことを除けば、*FORMAT1と同じデータが収集されます。

*SOCKETSイベントの*FORMAT3では、アプリケーション・データが64バイトではなく256バイトのデータを含むことを除けば、*FORMAT1と同じデータが収集されます。

*SOCKETSイベントの*FORMAT4では、アプリケーション・データが64バイトではなく500バイトのデータを含むことを除けば、*FORMAT1と同じデータが収集されます。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

アプリケーション・イベント (APPEVT)

定義に組み込まれるアプリケーション・イベントを指定します。APPEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>)を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

アプリケーション・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのアプリケーション・イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるアプリケーション・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

***NONE**

アプリケーション・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

***FORMAT1**

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

***FORMAT2**

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT3**

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

PASEイベント (PASEEVT)

定義に組み込まれるポータブル・アプリケーション・ソリューション環境(PASE)イベントを指定します。PASEEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

PASEイベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのPASEイベントがトレース・モード定義に含まれるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるPASEイベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

***NONE**

PASEイベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

***FORMAT1**

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

***FORMAT2**

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT3**

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

***FORMAT4**

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

ファイル・サーバー・イベント (FILSVREVT)

ISERIES NETSERVER, ファイル・サーバー, およびネットワーク・ファイル・システム・サーバーおよびクライアントのイベントが定義に組み込まれます。FILSVREVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserier/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

定義に組み込まれるISERIES NETSERVER, ファイル・サーバー, およびネットワーク・ファイル・システム・サーバーおよびクライアントのイベントが定義に組み込まれます。

***ALL** すべてのISERIES NETSERVER, ファイル・サーバーおよびネットワーク・ファイル・システム・サーバー, およびクライアント・イベントがトレース・モード定義に含まれるか, または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるISERIES NETSERVER, ファイル・サーバーおよびネットワーク・ファイル・システム・サーバー, およびクライアント・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

ISERIES NETSERVER, ファイル・サーバーおよびネットワーク・ファイル・システム・サーバー, およびクライアント・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には, 4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には, イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は, このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は, ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では, これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には, 最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には, 2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には, 3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には, 4番目のイベント形式が使用されます。

上

同期化イベント (SYNCEVT)

定義に組み込まれる同期イベントを指定します。SYNCEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

同期イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべての同期化イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含める同期化イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

同期化イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

ジャーナル・イベント (JRNEVT)

定義に組み込まれるジャーナル・イベントを指定します。JRNEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ジャーナル・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのジャーナル・イベントがトレース・モード定義に含められるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるジャーナル・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

ジャーナル・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

データベース・イベント (DBEVT)

定義に組み込まれるデータベース・イベントを指定します。DBEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserries/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

データベース・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのデータベース・イベントがトレース・モード定義に組み込まれるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

含めるデータベース・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

データベース・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

資源の類縁性イベント (RSCAFNEVT)

定義に組み込まれる資源アフィニティー・イベントを指定します。RSCAFNEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

資源アフィニティー・イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべてのアフィニティー・イベントがトレース・モード定義に組み込まれるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

組み込むアフィニティー・イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

アフィニティー・イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

仮想入出イベント (VRTIOEVT)

定義に組み込まれる仮想入出イベントを指定します。VRTIOEVTオプションの詳細については、「パフォーマンス管理」情報(<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/perfmgmt/resource.html>) を参照してください。

注: このパラメーターが有効となるのは、SLTEVT(*YES)が指定された場合だけです。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

仮想入出イベントは定義に組み込まれません。

***ALL** すべての仮想入出イベントがトレース・モード定義に組み込まれるか、または統計モード定義でカウントされます。

要素1: イベントID

イベントID

組み込む仮想入出イベントIDを指定してください。

要素2: イベント・カウンター

*NONE

仮想入出イベントはカウントされません。

イベント・カウンター

TYPE(*STATS)の場合には、4つのカウンターの1つ (1,2,3または4)でイベントをカウントすることができます。TYPE(*TRACE)の場合には、イベント・カウンターの値は無視されます。

要素3: イベント・フォーマット

イベント形式は、このイベントで収集されるデータを記述します。*FORMAT1 は、ほとんどのデータ分析に使用されるデータを指定します。その他の形式では、これらのイベントに関連した他のデータの収集が可能です。

*FORMAT1

このイベントのデータ収集には、最初のイベント形式が使用されます。

*FORMAT2

このイベントのデータ収集には、2番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT3

このイベントのデータ収集には、3番目のイベント形式が使用されます。

*FORMAT4

このイベントのデータ収集には、4番目のイベント形式が使用されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

PERFORMANCE EXPLORER定義を簡単に説明するテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1: TYPE(*TRACE)の使用法

```
CHGPEXDFN  DFN(TEST1) TYPE(*TRACE) JOB(*) MAXSTG(5000)
```

このコマンドは、TEST1という名前のパフォーマンス定義を変更します。PERFORMANCE EXPLORER セッションの開始(STRPEXコマンド)にこの定義が使用されると、STRPEXコマンドを呼び出したジョブの詳細なトレース情報が収集されます。最大5000キロバイトのトレース・データが収集されます。トレース・レコードの記憶域がいっぱいになると、それ以上トレース・レコードは収集されません。

例2: TYPE(*PROFILE)の使用

```
CHGPEXDFN  DFN(TEST2) TYPE(*PROFILE)
            PGM((MYLIB/MYSRVPGM1 *ALL *ALL *SRVPGM))
```

このコマンドは、TEST2という名前のPERFORMANCE EXPLORER 定義を変更します。PERFORMANCE EXPLORERセッションの開始(STRPEXコマンド)にこの定義が使用されると、ライブラリーMYLIB のサービス・プログラムMYSRVPGM1のパフォーマンス・プロファイル情報が収集されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPFAF0E

定義が見つからない。

上

物理ファイル変更 (CHGPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル変更(CHGPF)コマンドは、物理ファイルおよびそのすべてのメンバーの属性を変更します。追加操作にその他の値が指定されるか省略時値に設定されない限り、それ以後にファイルに追加されたすべてのメンバーに対して、変更された属性が使用されます。特定のメンバーの属性を変更するためには、物理ファイル変更(CHGPFM)コマンドを指定してください。

制約事項:

- ファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限またはオブジェクト変更(*OBJALTER)権限とライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。排他的読み取り不可ロックが必要です。これは、いかなる目的であっても誰もこのファイルを使用できないことを意味します。
- 既存のファイルに削除済みのレコードを再利用させる要求が出された場合で、重複キーに対して"_FIFO"または" _LIFO"順序付けが指定されている物理ファイルの上に論理ファイルがある場合には、この変更は実行できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション, キー
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, キー
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, <u>20</u>	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, <u>0</u>	オプション
DLTDEPLF	従属論理ファイル削除	*NO, *YES	オプション
RMVCST	制約の除去	*RESTRICT, *REMOVE	オプション
EXPDATE	メンバーの満了日	日付, *SAME, *NONE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, *SAME, *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	<u>*SAME</u> , *MAX4GB, *MAX1TB	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	<u>*SAME</u> , *IMMED, *REBLD, *DLY	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	<u>*SAME</u> , *NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACPTH	強制キー順アクセス・パス	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
SIZE	メンバー・サイズ	単一値: *NOMAX その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 初期レコード数	1-2147483646, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 増分レコード数	0-32767, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大増分値	0-32767, <u>*SAME</u>	
ALLOCATE	記憶域割り振り	*NO, *YES, <u>*SAME</u>	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, <u>*SAME</u> , *ANY	オプション
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, <u>*SAME</u> , *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, <u>*SAME</u> , *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
DLTPCT	許される削除レコードの最大%	1-100, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
REUSEDLT	削除済みレコードの再使用	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: <u>*SAME</u> , *SRC, *JOB, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB, <u>*SAME</u>	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
NODGRP	ノード・グループ	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
PTNKEY	区画キー	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 名前	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, <u>*SAME</u> , *HEX	オプション

上

物理ファイル (FILE)

変更される物理ファイルを指定します。

注: 分散データ管理機能(DDM)ファイルが指定されている場合には、変更する物理ファイルの名前およびそのファイルを変更するリモート・システムの名前がそのDDMファイルに入っています。詳細については、このコマンドのシステム(SYSTEM)パラメーターを参照してください。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

システム (SYSTEM)

物理ファイルをローカル・システムで変更するかあるいはリモート・システムで変更するか、そのいずれかを指定します。

***LCL** 物理ファイルはローカル・システムで変更されます。

***RMT** 物理ファイルは、分散データ管理機能(DDM)を使用するリモート・システム上で変更されます。**物理ファイル(FILE)**パラメーターに指定する物理ファイル名は、変更される物理ファイルの名前およびファイルの変更が行われるリモート・システムの名前を識別するDDMファイルの名前でなければなりません。

***FILETYPE**

FILEパラメーターで指定された名前がDDMファイルである場合には、そのDDMファイルの**リモート・ロケーション(RMTLOCNAME)**パラメーターで指定されたリモート・システムで物理ファイルの変更が行われます。FILEパラメーターで指定された名前がDDMファイルでない場合には、ローカル・システムでその名前の物理ファイルの変更が行われます。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

物理ファイルの変更に使用されるソース・ファイルを指定します。ソース・ファイルには、レコード様式とそのフィールド、およびファイルとそのメンバーのアクセス・パスを記述する仕様が入っています。作成されるデータ記述仕様(DDS)については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリーを参照してください。およびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるDDSトピック・コレクションを参照してください。

形式属性を変更すると、既存のファイルのデータは新しい属性に変換されます。

重要:

- 既存のファイルのデータは、フィールド名に基づいて新しい形式に変換されます。フィールドの名前を変更すると、その既存のデータが失われます。

- データが変換されるので、このコマンドを出す前にファイルを保管することをお奨めします。

アクセス・パスの属性を変更するか、あるいはこの形式のキー・フィールドのいずれかの属性を変更すると、新しいアクセス・パスを構築しなければならない場合があります。

注: データまたはアクセス・パスの属性を変更する場合には、ファイル変更操作が完了するまでに長時間を要することがあります。対話ユーザーに操作の進行状況を知らせるために状況メッセージが送られます。

単一値

***NONE**

ソース・ファイルが指定されていません。このファイルの形式もアクセス・パスの属性も変更されません。

修飾子1: ソース・ファイル

QDDSSRC

物理ファイルの変更に使用するDDSはソース・ファイルQDDSSRCに入っています。

名前 物理ファイルの変更に使用するDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

変更される物理ファイルのDDSが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターにソース・ファイルが指定されたときだけです。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、変更する物理ファイルの名前と同じです。

名前 物理ファイルの変更に使用するソース・ファイルのメンバーの名前を指定してください。

上

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの変更時に作成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、最初の値が使用されます。

注:

- このパラメーターが有効となるのは、ソース・ファイル(SRCFILE)パラメーターにソース・ファイルが指定されたときだけです。
- このオプションの最初の値は省略時値と同じですが、実際には省略時値ではないので、コマンドの省略時値の変更(CHGCMDDFT)コマンドで変更することはできません。
- このパラメーターには最大3つの値を指定できます。

ソース・リスト・オプション

***SRCまたは*SOURCE**

ファイルの変更に使用するソース・ステートメント、および起こったエラーについて印刷出力が作成されます。

***NOSRCまたは*NOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ソース・ステートメントおよび他のフィールド記述の参照から得られるファイル仕様の詳細リストを示す展開ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

DDSの印刷出力のメッセージのセクションには、DDSの処理時に見つかったエラーの第2レベル・メッセージは入っていません。

***SECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストがソース・リストに組み込まれます。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、CoOperative Development Environment for i5/OS (CODE for i5/OS)プロダクトのイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE for i5/OSプロダクトで使用できるイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE for i5/OSプロダクトは、このファイルを使用して、CODE for i5/OSエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、この値はユーザーのためにCODE for i5/OSプロダクトによって指定されます。

上

生成重大度レベル (GENLVL)

変更操作が正常に実行されないエラーの重大度レベルを指定します。重大度レベルがこの値に等しいかまたはそれより大きいエラーが起こると、操作は終了します。

注:

- このパラメーターが有効となるのは、ソース・ファイル(SRCFILE)パラメーターにソース・ファイルが指定されたときだけです。
- このパラメーターは、DDSソースの処理時に作成されたメッセージに適用されるだけです。ファイル変更処理の中で作成されたメッセージは、このパラメーターによる影響を受けません。
- このパラメーターの値は、フラグづけ重大度レベル(FLAG)パラメーターに指定した値より大きいかその値に等しくなければなりません。

20 20以上のエラー重大度レベルは、変更操作を終了します。

0から30

使用可能な最大の重大度レベルを指定してください。指定した重大度レベルが0の場合には、ファイルは変更されません。

上

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、ソース・ファイル(SRCFILE)パラメーターにソース・ファイルが指定されたときだけです。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、生成重大度レベル (GENLVL)パラメーターで指定する値以上でなければなりません。

上

従属論理ファイル削除 (DLTDEPLF)

変更操作の一部としてフィールドがファイルから除去された場合に、そのフィールドに従属する論理ファイルおよび実体化されたQUERYテーブルが削除されるかどうかを指定します。フィールドは、その定義がソース・ファイルに示されたDDSに組み込まれていないとファイルから除去されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、ソース・ファイル(SRCFILE)パラメーターにソース・ファイルが指定されたときだけです。

***NO** 従属ファイルは削除されません。アクセス・パスが従属するフィールドは除去されず、ファイルは変更されません。コマンドは終了します。

***YES** ファイルから除去されるフィールドに従属するファイルは削除されます。

上

制約の除去 (RMVCST)

参照制約の親ファイルが削除される時に、関連する一連の従属ファイルで制約関係が除去されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**従属論理ファイル削除(DLTDEPLF)**パラメーターに*YESが指定された時だけです。

***RESTRICT**

制約関係は除去されません。親ファイルは除去されず、ファイルは変更されません。コマンドは終了します。

***REMOVE**

ファイルから除去されるフィールドに従属する制約は除去されます。固有の制約が除去されると、その固有の制約に従属する参照制約も除去されます。

上

メンバーの満了日 (EXPDATE)

ファイルの全メンバーの満了日を指定します。満了日を指定した場合には、ファイルのすべてのメンバーが変更されます。このパラメーターを変更することにより、満了日を過ぎたメンバーに新しい満了日を指定することができます。満了日は、現在の日付と等しいかまたはそれより後でなければなりません。

***SAME**

ファイルの満了日は変更されません。

***NONE**

満了日が指定されていません。

日付 以後ファイル・メンバーが使用できなくなる日付を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

一時点で物理ファイルに入れることができるメンバーの最大数を指定します。指定するメンバーの最大数は、ファイルのメンバーの現在数より大きいか等しくなければなりません。

***SAME**

ファイル中のメンバーの最大数は変更されません。

***NOMAX**

メンバーの数については最大数は指定されません。システムの最大数である1ファイルあたり32,767メンバーが使用されます。

整数 物理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

上

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

次の種類のアクセス・パスで占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。

- キー順アクセス・パスをもつデータベース・ファイルと対応したアクセス・パス。
- 参照制約または固有限制のために作成され、物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドによってこのファイルに追加できるアクセス・パス。

このファイルの値を変更すると、そのファイルによって所有されているアクセス・パスが再作成されることとなります。

注: このパラメーターは、ファイル中のデータを参照する照会用に作成されているアクセス・パスには適用されません。

パフォーマンスのヒント

最適なパフォーマンスのためには、このパラメーターを選択する時に、アクセス・パスのキーの競合が頻発するかどうかを考慮してください。

- キーの競合が少ない、または起きない場合には、*MAX4GBを指定すると良好なパフォーマンスが得られます。
- キーの競合が頻発する場合には、一般には*MAX1TB値を指定すると良好なパフォーマンスが得られません。

*SAME

値は変更されません。

*MAX4GB

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。この値はオペレーティング・システムのバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を提供します。

*MAX1TB

このファイルと関連づけられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

上

アクセス・パスの保守 (MAINT)

物理ファイルのすべてのメンバーに使用するアクセス・パスの保守のタイプを指定します。このパラメーターが有効になるのは、ファイルがキー順アクセス・パスを備えている場合だけです。

*SAME

ファイルのアクセス・パスのメンテナンスは変更されません。

*IMMED

各物理ファイル・メンバーについて、アクセス・パスの保守が継続的に(ただちに)行われます。レコードの変更、追加、または削除がメンバーで行なわれるたびに、パスが変更されます。挿入および変更が行なわれるたびに必ず固有性が確保できるようにするために、固有キーを必要とするすべてのファイルについて、*IMMEDを指定してください。

*REBLD

ファイル・メンバーがオープンされる時に、アクセス・パスが再作成されます。アクセス・パス

は、メンバーがクローズされ、結果的にアクセス・パスワードのメンテナンスが終了するまで継続的にメンテナンスされます。*REBLDは、固有キー値を含むアクセス・パスには有効ではありません。

***DLY** アクセス・パスの保守は、使用するためにメンバーがオープンされるまで遅延されます。ファイルが最後にクローズされてから追加、削除、または変更されたレコードのアクセス・パスだけが変更されます。(ファイルがオープンされている間は、基礎になっているメンバーに対して行なったすべての変更は、**アクセス・パスの保守(MAINT)**パラメーターに何が指定されていても、ただちに、オープンされたファイルのメンバーのアクセス・パスに反映されます。) ファイルのオープン時に時間のかかる再作成を行わないようにするためには、クローズ操作と次のオープン操作の間のアクセス・パスに対する変更の数が少ない場合(このアクセス・パスのレコードの中のキー・フィールドがほとんど変更されない場合)にのみ*DLYを指定しなければなりません。*DLYは固有のキー値が必要なアクセス・パスには正しくありません。

クローズ操作と次のオープン操作の間に行なわれた変更の数がアクセス・パスのサイズの約10%になった場合には、システムは変更の保管を停止し、アクセス・パスは次回にファイルがオープンされる時に完全に再作成されます。

上

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パスに即時メンテナンスまたは遅延メンテナンスをもつファイルについて、アクセス・パスの変更中にシステム障害が起こった場合にファイルの回復処理がいつ行われるかを指定します。このパラメーターは、キー順アクセス・パスが使用される場合にだけ有効です。

*SAME

ファイルの回復属性は変更されません。

***NO** ファイルのアクセス・パスは再作成されません。ファイルのアクセス・パスが正しくない場合には、ファイルのオープン時に再作成されます。

***AFTIPL**

IPL操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションにより、このファイルを使用しない他のジョブはIPLの完了後直ちに処理を開始することができます。

***IPL** IPL操作時にファイルのアクセス・パスが再作成されます。これにより、最初のユーザー・プログラムがこのファイルのアクセス・パスの使用を試みる前にこのファイルのアクセス・パスが再作成されますが、*IPLを指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでジョブは開始されません。

上

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

キー順アクセス・パスをもつファイルの場合のみ、アクセス・パスの変更がファイル中の関連レコードとともに補助記憶域に強制的に書き出されるかどうかを指定します。*YESを指定すると、異常終了によってアクセス・パスが損傷し、そのためにその後でアクセス・パスを再作成しなければならない公算が最小限に抑えられます(ただし、除去はされません)。

*SAME

ファイルの強制アクセス・パス属性は変更されません。

***NO** アクセス・パスが変更されても、変更済みアクセス・パスおよび変更済みレコードは補助記憶装置には強制書き出しされません。

***YES** アクセス・パスが変更されるたびに、変更済みアクセス・パスおよび変更済みレコードが補助記憶装置に強制書き出しされます。この値が指定された場合には、アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターで*REBLDを指定してはなりません。

上

メンバー・サイズ (SIZE)

ファイルの各メンバーの初期レコード数、メンバーに追加される各増分のレコード数、および増分が自動的に適用される回数を指定します。各ファイル・メンバーのレコード数は、メンバーに入れることができるレコード数として指定します（この数には削除済みレコードが含まれます）。

メンバーの最大レコード数（初期レコード数+増分レコード数x最大増分値）は、メンバーの現行レコード数より大きくなければなりません。メンバーの現行レコード数より小さい場合には、エラー・メッセージが送られ、そのメンバーの最大レコード数は変更されません。

単一値

***NOMAX**

ファイルの各メンバーに追加できるレコード数は、ユーザーによって制限されません。各メンバーの最大レコード数は、システムによって決定されます。物理ファイルのALLOCATE属性に*YESが効力をもっている場合には、このオプションを指定することはできません。

要素1: 初期レコード数

***SAME**

値は変更されません。

1から2147483646

自動拡張が起こる前に挿入可能なレコード数を指定してください。自動拡張が必要でない場合には、リストの2番目および3番目の値にゼロを入力してください。

要素2: 増分レコード数

***SAME**

値は変更されません。

0から32767

メンバーのレコード数が初期レコード数を超えるか、あるいは現行の増分レコード数を超える場合は、そのメンバーに追加される追加レコード数の値を指定します。

自動拡張しないようにするには、0値を入力してください。最大増分値が0の場合は、この値も0でなければなりません。

要素3: 最大増分値

***SAME**

値は変更されません。

0から32767

メンバーに自動的に追加することのできる最大増分回数を指定します。自動拡張しないようにするには、0値を入力してください。増分レコード数の値が0の場合は、この値も0でなければなりません。

上

記憶域割り振り (ALLOCATE)

ファイルに各物理ファイル・メンバーが追加される時に、そのメンバーに初期記憶スペースを割り振るかどうかを指定します。この変更は、次回にファイルに新しいメンバーが追加される時、あるいは現行メンバーが消去、復元、または再編成される時に効力をもちます。

*SAME

割り振り方式は変更されません。

***NO** 新しいメンバーが追加されるか、あるいは既存のメンバーが消去または再編成される時には、システムが必要なスペースを決定して、その量を割り振ります。

***YES** 新しいメンバーが追加されるたび、あるいは既存のメンバーが消去または再編成されるたびに、**メンバー・サイズ(SIZE)**パラメーターの最初の値に指定された容量の記憶域スペースが割り振られます。この容量の記憶スペースが使用可能でない場合には、メンバーは追加されず、メッセージがユーザーに送られます。このパラメーター値を使用した場合には、SIZEパラメーターには*NOMAXは有効となりません。

上

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン3リリース6モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用法については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

上

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助（永続）記憶域に強制書き出しする前に処理する挿入、変更、または削除済みレコードの数を指定します。物理ファイルをジャーナルに記録しようとしている場合には、より大きい強制書き出し率または*NONEを指定するようお奨めします。ジャーナル管理の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

*SAME

ファイルの強制書き出し率は変更されません。

***NONE**

強制書き出し率はありません。レコードが補助記憶装置にいつ書き出されるかは、システムが決定します。

整数 補助記憶装置に強制的に書き出される前に処理される新しいレコードまたは変更されたレコードの数を指定してください。

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源およびセッション資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源が割り振られなかった場合には、プログラムにエラー・メッセージが送られます。

注: ファイルに対する獲得操作の実行時には、装置資源による装置の即時割り振りが必要です。

*SAME

ファイルの待機属性は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** クラス記述に指定された省略時の待機時間が、割り振られるファイル資源の待機時間として使用されます。

1から32767

プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムが変更または削除されるレコードを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内に当該レコードが割り振られない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*SAME

ファイルのレコード待機属性は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。レコードがロックされた時には、レコードの即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムによって許容された最大値(32,767秒)です。

1から32767

プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

*SAME

メンバーのODP共用値は変更されません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共有されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

YES** ファイルをオープンする時にYES**も指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

許される削除レコードの最大% (DLTPCT)

物理ファイルのすべてのメンバーに入れることができる削除済みレコードの最大パーセントを指定します。このパーセントは、メンバー中の削除済みレコードと合計レコード数の比率に基づいています。この変更は、次回にファイルがオープンされ、クローズされる時に効力をもちます。

*SAME

削除済みレコードのパーセントは変更されません。

***NONE**

パーセントは指定されません。メンバーのクローズ時にファイル・メンバー中の削除済みレコードの数はチェックされません。

1から100

物理ファイルのすべてのメンバーに入れることができる削除済みレコードの最大パーセントを指定してください。この割合よりも値の方が大きい場合には、ファイルがクローズされる時にシステム・ヒストリー・ログ(QHST)にメッセージが送られます。

上

削除済みレコードの再使用 (REUSEDLT)

削除したデータ項目が使用していたスペースを将来の挿入要求で再利用するかどうかを指定します。

*SAME

設定値は変更されません。

***NO** ファイルは、削除したデータ項目が使用していたスペースを再利用しません。

***YES** ファイルは、削除したデータ項目が使用していたスペースを再利用します。削除したデータの再利用に使用されるアルゴリズムの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリーを参照してください。

注: 到着順序は、削除されたレコード・スペースを再使用するファイルにとって無意味になります。レコードはファイルの終わりに追加されない可能性があります。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このファイルに使用する分類順序を指定します。分類順序の値は、LANGIDパラメーターと一緒に使用されて、どの分類順序テーブルを使用するかが判別されます。

注: このファイルの値を変更すると、そのファイルによって所有されているアクセス・パスが再作成されることとなります。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***SRC** データ記述仕様(DDS)のALTSEQキーワードに指定されたテーブルが使用されます。DDSにALTSEQキーワードが使用されていない場合には、この値の省略時の値としてこのパラメーターの*JOB値が使用されます。

***JOB** 使用する分類順序値は、物理ファイルを変更するためにこのコマンドを出しているジョブの値です。

***LANGIDSHR**

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターで指定した言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

***LANGIDUNQ**

分類順序テーブルには、コード・ページのそれぞれの文字に対して固有の重みが入っていません。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 使用する分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

分類順序 (SRTSEQ)パラメーターに*LANGIDSHRまたは*LANGIDUNQが指定された時に使用される言語IDを指定します。この言語IDとSRTSEQおよびコード化文字セットID (CCSID)パラメーターと一緒に使用されて、ファイルで使用される分類順序テーブルが決められます。

注: このファイルの値を変更すると、SRTSEQ属性が*HEXでない限り、ファイルが所有するアクセス・パスが再構築されます。

*SAME

値は変更されません。

***JOB** ジョブ記述に指定された言語IDが使用されます。

文字値 言語IDを指定してください。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

レコード様式IDのレベルを検査して、現行レコード様式IDが物理ファイルをオープンするプログラムに指定されているものと同じであることを確認するかどうかを指定します。

*SAME

メンバーのレベル検査の値は変更されません。

***YES** ファイルのオープン時にレコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDが一致しない場合には、オープンを要求したプログラムにエラー・メッセージが送られ、ファイルはオープンされません。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

上

ノード・グループ (NODGRP)

ファイルの配布に使用されるノード・グループの名前を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

ファイルは分散ファイルではありません。ファイルに関連したすべてのデータは、ローカル・システムにあります。

修飾子1: ノード・グループ

名前 このファイルに関連したノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

区画キー (PTNKEY)

データ配布のための区分キーとして使用されるフィールドまたはフィールドのセットを指定します。

注: NODGRP(*NONE)が指定されていると、このパラメーターは無効です。 ノード・グループ名 (NODGRPパラメーター) が指定されている場合には、1つまたは複数のフィールド名を指定しなければなりません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

名前 区分キーを定義するために使用されるフィールドの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

ファイルを記述するテキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

コード化文字セットID (CCSID)

ファイルのフィールドに文字データを記述するために使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

注:

- このパラメーターを指定した場合にはSRCFILE(*NONE)も指定しなければなりません。
- 次の場合には、CCSIDを変更することはできません。
 - 物理ファイル、IDDU、またはSQLのフィールドで、DDSのCCSIDキーワードに明示的なフィールド・レベルまたはファイル・レベルのCCSIDが指定されている場合。
 - 物理ファイルがプログラム記述ファイルの場合。
 - 物理ファイルの形式に連結フィールドが入っている場合。

***SAME**

CCSIDは変更されません。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。これは、フィールドの文字データがビット・データとして扱われ、変換されないことを示します。

1から65535

使用するCCSIDを指定してください。

DBCSフィールドが物理ファイルの中にある場合には、指定するCCSIDには対応する混合CCSIDが入っていない必要があります。有効なCCSIDの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバリゼーション」情報にあります。

上

例

例1:すべてのメンバーの満了日の変更

```
CHGPF FILE(QGPL/INV) EXPDATE('10/31/89')
```

このコマンドは、物理ファイルINV中のすべてのメンバーの満了日を1989年10月31日に変更します。

例2:ファイル・サイズの変更

```
CHGPF FILE(QGPL/DDMF) SIZE(*NOMAX) SYSTEM(*RMT)
```

このコマンドは、リモート・システム上のQGPLライブラリーにあるファイルINVのサイズを変更します。上記のコマンドを指定する場合には、その前にこのユーザーがコマンドCRTDDMF FILE(QGPL/DDMF) RMTFILE(QGPL/IN V) RMTLOCNAME(AS400)を指定してDDMファイルを作成しています。

例3:フィールドの追加, 除去, および変更

```
CHGPF FILE(QGPL/T1) SRCFILE(QDDSSRC)
```

このコマンドは、ソース・ファイルQDDSSRC中のソース・ファイル・メンバーT1のDDSに基づいてフィールドを追加, フィールドを除去, およびフィールド属性を変更します。上記のコマンドを指定する前に、ユーザーはソース・メンバーを編集しています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF326A

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF327F

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

CPF7305

&2のファイル&1は変更されたが、分散要求は正しく実行されなかった。

上

PF制約の変更 (CHGPFCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル制約変更(CHGPFCST)コマンドは、ファイルに対する1つまたは複数の検査制約またはローカル・データベース・ファイル間の参照制約の状態を変更します。参照制約では、制約のローカル・データベース・ファイルは、SQLインターフェースまたは物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドによって親と従属の関係で定義されている物理ファイルです。検査制約では、検査条件式のファイルは、SQLインターフェースまたは物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドによって制約で定義されているファイルです。

参照制約の状態は、使用不可（参照保全提供の停止）に変更するか、あるいは使用不可にされている場合には使用可能（再び参照保全提供）に変更することができます。検査制約の状態は、使用不可（妥当性検査提供の停止）に変更するか、あるいは使用不可にされている場合には使用可能（再び妥当性検査提供）に変更することができます。制約の状態を変更するもう1つの方法は、使用したくない時にそれを除去して、必要な時に再び追加することです。

制約事項:

- 物理ファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)またはオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が必要です。
- 物理ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CST	制約名	単一値: *ALL, *CHKPND その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 2
STATE	制約状態	*SAME, *ENABLED, *DISABLED	オプション

上

ファイル (FILE)

変更される制約に係るファイルまたは従属ファイルおよびファイルまたは従属ファイルのライブラリーを指定します。ファイルは物理ファイルでなければならず、そのメンバーの最大数は1 (MAXMBRS(1))でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

制約名 (CST)

変更される制約関係の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** ファイルまたは従属ファイルのすべての制約関係が変更されます。

***CHKPND**

制約の違反と考えられるレコードがあり、検査保留中である制約関係が変更されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

文字値 制約関係の名前を指定してください。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

上

制約状態 (STATE)

制約が変更される状態を指定します。このパラメーターを使用して、定義または確立されている制約を参照保全(*REFCST)またはデータ妥当性検査(*CHKCST)の提供から一時的に停止する(使用不可にする)か、あるいは前に使用不可にされた制約を再度その働きを開始する(使用可能にする)ことができます。

***SAME**

値は変更されません。

***ENABLED**

使用不可になっていた制約が、参照保全(*REFCST)または妥当性検査(*CHKCST)の提供を再び開始します。

***DISABLED**

制約が、参照保全または妥当性検査の提供を停止します。

上

例

```
CHGPF CST FILE (ADMN/PERSONNEL) CST(*CHKPND)
STATE(*DISABLED)
```

このコマンドは、ADMNライブラリーのPERSONNELファイル中のレコードを検査保留状況にした参照制約を使用不可にします。参照保全は使用不可になりますが、ユーザーは検査保留の原因となっているレコードを訂正できます。

レコードが訂正されたら、以下のコマンドを実行して、もう一度参照保全を提供します。

```
CHGPF CST FILE (ADMN/PERSONNEL) CST(*CHKPND)
STATE(*ENABLED)
```

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF32B2

ファイル&1の制約を変更することができない。

上

物理ファイル・メンバー変更 (CHGPFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドは、物理ファイル・メンバーの属性を変更します。

制約事項:

- 物理メンバーを変更するには、メンバーが入っている物理ファイルに対するオブジェクト管理 (*OBJMGT)またはオブジェクト変更(*OBJALTER)権限とそのファイルのライブラリーに対する実行 (*EXECUTE)権限が必要です。
- 他のユーザーはそのメンバーを消去または初期設定することはできないばかりか、どのユーザーも独占的に使用するためにそのファイルを保持することはできません。他のユーザーはメンバーをオープンすることはできますが、メンバーに対して行なった変更はオープンされたメンバーに反映されません。オープンしたメンバーに対する変更を有効にするためには、最初にそのメンバーをクローズ（メンバーが SHARE(*YES)としてオープンされている場合は、全クローズしなければならない）してから再びオープンしなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	必須, キー, 定位置 2
SRCTYPE	ソース仕様タイプ	単純名, *SAME, *NONE	オプション
EXPDATE	メンバーの満了日	日付, *SAME, *NONE	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

物理ファイル (FILE)

変更されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

メンバー (MBR)

変更されるメンバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 変更する物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

ソース仕様タイプ (SRCTYPE)

これがソース・ファイルである場合には、メンバーのソース・タイプを指定します。ソース・タイプ・オプションは、名前を表わす10文字以下の文字ストリングです。最初の文字は英字（文字¥, @,または#を含む）でなければならず、残りの文字は英数字または下線でなければなりません。

注: このコマンドのユーザーは、ソース仕様タイプ・オプションの妥当性を保証しなければなりません。

ソース仕様タイプ・オプションは、ソース・ファイル・メンバーのソース仕様タイプの属性の使用のためにこのコマンドでだけ使用することができます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ソース・タイプは指定されません。

単純名 メンバーのソース・タイプを指定してください。

上

メンバーの満了日 (EXPDATE)

満了日を指定します。ファイルは満了日まで上書きすることはできません。満了日は、現在日付と等しいかまたはそれより後でなければなりません。

*SAME

メンバーの満了日は変更されません。

***NONE**

メンバーには満了日が設定されません。

日付 その日を過ぎるとメンバーが使用できなくなる日の日付を指定してください。日付の指定はジョブ日付の形式で行ないます。

上

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***SAME**

メンバーのODP共用値は変更されません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

メンバーを記述したテキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGPFM FILE(QGPL/INV) MBR(FEB) EXPDATE('10/31/90')
```

このコマンドは、QGPLライブラリー中の物理ファイルINVのFEBという名前のメンバーを、メンバーの満了日がここで1990年10月31日（ジョブ日付形式がMM/DD/YYであると想定）となるように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3288

&2のファイル&1のメンバー&3は変更されなかった。

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan